

甲府城下町遺跡XX

—都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴う発掘調査（Ⅰ・Ⅱ・相生工区）—

2020

甲 府 市
甲府市教育委員会
昭和測量株式会社

序

甲府市は、500年前の中世から現代まで山梨県の政治、経済、文化の中心として築いてまいりましたが、その礎を築いたのは、まさに武田信虎が永正十六年（1519）甲府市街地北側の相川扇状地に武田氏館を築いたことにはじまります。

武田氏滅亡後の16世紀末には、豊臣家の五奉行の一人である浅野長政と幸長親子により、東国では数少ない総石垣の甲府城と、三重の堀と土塁に囲まれた甲府城下町が築かれ、現代に続く街のアウトラインが整備されます。

17世紀以降甲府は、徳川一門、柳沢氏、甲府勤番が治める幕府の要害の地でした。江戸から歌川広重などの文人墨客や、歌舞伎役者の市川団十郎も訪づれ、江戸文化が流入し栄えました。

本報告書は、平成29年度から30年度にかけて都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴い本調査が行われた、甲府市中央4丁目の本調査の結果です。特に調査区は三の堀内の「上連雀町」として、近くには五街道の一つの甲州道中が通る本陣・旅籠がおかれていた柳町に近接する町人地でした。

調査では商家の建物跡、甲府上水、火災の痕跡や、大量の陶磁器、木製品、金属製品が検出されています。また、甲州金も2点出土するなど、甲府城下町の経済力と文化水準を物語る重要な遺構・遺物であります。

今回の調査成果が、甲府城下町の調査研究の重要な資料となるとともに、今後のまちづくりの一助となるものと考えられます。

末筆となりましたが、このような貴重な遺跡発掘調査が実施できましたのも、ひとえに地域住人のご理解、ご協力の賜物であるとともに、発掘調査及び整理作業に従事された皆様方のご努力の結果であります。ここに感謝申し上げる次第であります。今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。

令和2年2月

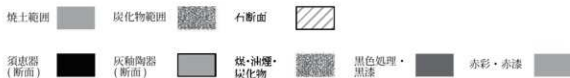
甲府市教育委員会
教育長 小林 仁

例言

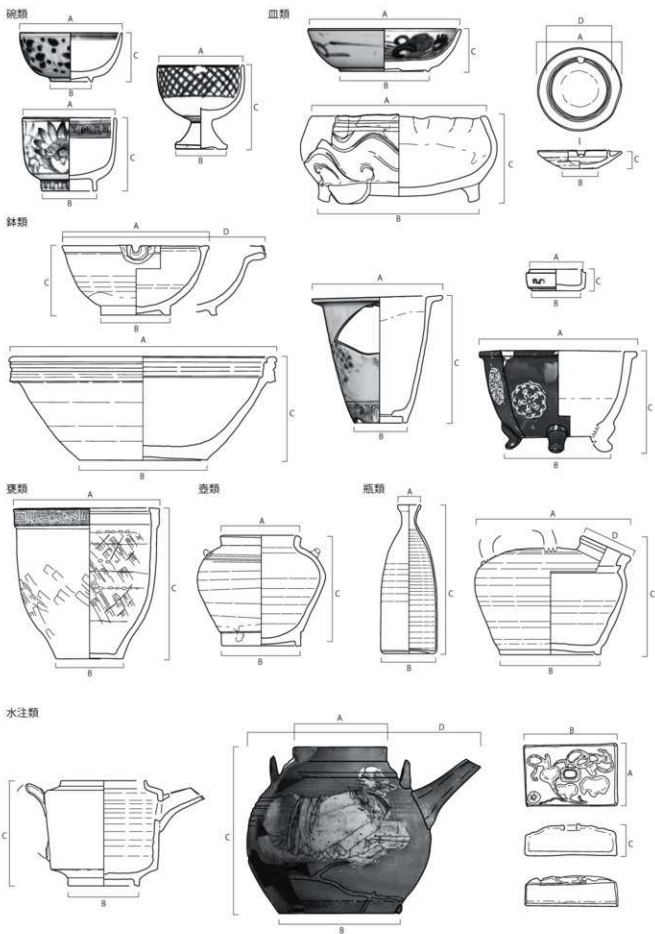
1. 本報告書は、山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
 2. 調査は都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴う発掘調査であり、甲府市教育委員会が主体となり、業務委託を受けた昭和測量株式会社が実施した。
 3. 各発掘調査及び整理・報告書刊行業務の業務委託契約期間は以下の通りである。
甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅰ区)発掘調査及び整理作業業務
平成29年1月30日～平成30年3月20日
甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区)発掘調査及び整理作業業務
平成30年3月13日～平成31年3月25日
甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅰ区①～⑧、Ⅱ区②-2、③～⑦、相生工区地点)整理報告業務
平成31年3月6日～令和2年2月28日
 4. 本書の執筆は、第1章第1節を志村憲一(甲府市教育委員会)、第7章2節を新津健(昭和測量株式会社顧問)、その他の章及び編集作業を萩野谷主税(昭和測量株式会社)が行った。第6章には自然科学分析の成果を掲載した。
 5. 木製品保存処理・金属製品保存処理は公益財団法人山梨文化財研究所に委託した。自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託した。
 6. 陶磁器類については東京大学埋蔵文化財調査室堀内秀樹氏の指導を受けた。木製品の墨書については甲府市教育委員会金子誠司氏が判読を行った。
 7. 遺構平面図のXY座標値は平面直角座標系(世界測地系)第Ⅷ系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
 8. 発掘調査および遺物の整理においては以下の諸機関、諸氏よりご教示、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げます。
- 公益財団法人山梨文化財研究所 株式会社パレオ・ラボ 山梨県立博物館 多治見市教育委員会文化財保護センター 北川洋 堀内秀樹 金子誠司 中村賢太郎 佐々木由香 山本華 黒沼保子 野口真利江 バンダリスダルシャン 畑大介 望月秀和 西海真紀 福田恵子 岩井美和 各務嘉洋(順不同、敬称略)
9. 本調査における図面・写真・遺物はすべて甲府市教育委員会で保管している。

凡例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、原則として各図に表示した。
2. 遺構平面図の方位は、原則として各図に表示した。方位記号は方眼北を示している。
3. 遺構全体図および遺構平面図のX・Y数値は、世界測地系の平面直角座標系第Ⅷ系に基づく座標数値で、単位はメートルである。
4. 断面図・土層図中の数値は、海拔高度（T.P.）を示す。
5. 土層・遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
6. 遺物番号は報告書を通して連番で付した。挿図・写真図版・遺物分布図・観察表および本文中の番号はそれぞれ対応している。
7. 遺構平面図における一点鎖線は攪乱、破線はサブレンチ・試掘坑・推定線である。
8. 遺構挿図・遺物挿図で使用したトーンの凡例は以下の通りである。

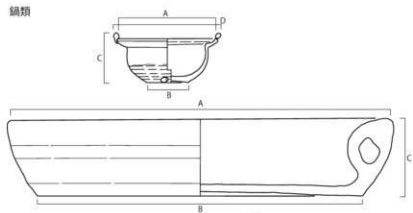


9. 陶磁器類の分類等については、『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会ほか 1992）・『甲府城下町遺跡（甲府駅周辺土地区画整理事業地内43街区）』（山梨県埋蔵文化財センター 2004）を基準としている。また遺物の年代については下記の文献を参考とした。
江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
大橋康二 1989『考古学ライブラリー 55 肥前陶磁』ニュー・サイエンス社
瀬戸市歴史民俗資料館編 1987『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要VI』
瀬戸市歴史民俗資料館編 1988『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要VII』
瀬戸市歴史民俗資料館編 1989『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要VIII』
長佐古信也 1993『「受付き灯明皿」にみる生産と流通—受皿の型式分類と量的把握を通して—』
『東京都埋蔵文化財センター 研究論集XII』東京都埋蔵文化財センター
畑中英二 2006『近世の信楽焼』『江戸時代のやきもの—生産と流通—』
瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
服部郁 1994『近世瀬戸窯における磁器生産の開始と展開』『研究紀要 第2輯』
瀬戸市埋蔵文化財センター
藤澤良祐 2006『瀬戸・美濃登窯製品の生産と流通』『江戸時代のやきもの—生産と流通—』
瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
森村健一 2006『江戸時代のやきもの—17・18・19世紀にみる大阪・京・堺の生産・流通・消費形態—』
『江戸時代のやきもの—生産と流通—』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
10. 各遺物の計測値は計測部位A～Dを必要に応じて定め、遺物計測位置の凡例(1)・(2)に示した。



遺物計測位置の凡例(1)

銅類



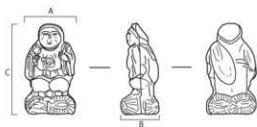
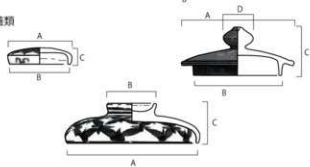
乗堀類



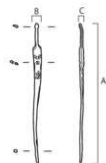
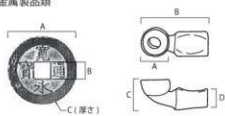
土製品類



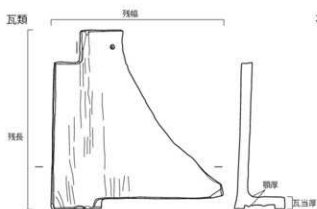
蓋類



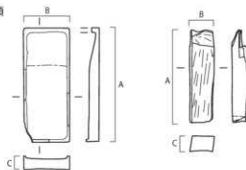
金属製品類



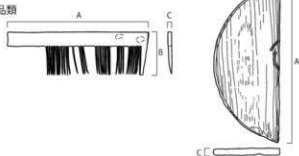
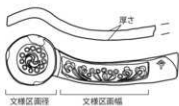
瓦類



石製品類



木製品類



遺物計測位置の凡例 (2)

本文目次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3節 調査地点の歴史的環境	5
第3章 調査の方法と基本層序	9
第1節 調査の方法	9
第2節 基本層序	11
第4章 I工区の調査	14
第1節 遺構と遺物	14
第1項 I-①区	14
第2項 I-②区	17
第3項 I-③区	19
第4項 I-④区	21
第5項 I-⑤区	22
第6項 I-⑥区	25
第7項 I-⑦区	30
第8項 I-⑧区	34
第5章 II工区及び相生工区の調査	167
第1節 遺構と遺物	167
第1項 II-A地点	167
第2項 II-B地点	177
第3項 II-C地点	180
第4項 II-D地点	186
第5項 相生工区	188
第6章 自然科学分析	455
第1節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)出土木製品と樹皮素材の樹種同定	455
第2節 甲府城下町遺跡(中央4丁目地点)の花粉分析	459
第3節 甲府城下町遺跡(中央4丁目地点)の寄生虫卵分析	462
第4節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)から出土した大型植物遺体	464
第5節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)から出土した昆虫化石	473
第6節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)出土の動物遺体	489
第7節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)より出土した金属製品の蛍光X線分析	494
第8節 放射性炭素年代測定	496

第9節	甲府城下町遺跡出土木製品の樹種同定	505
第10節	甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ工区)出土の動物遺体	508
第11節	甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ・相生工区)から出土した大型植物遺体	513
第12節	甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ・相生工区)から出土した昆虫化石	523
第7章	総括	529
第1節	遺構の変遷	529
第2節	甲府城下町遺跡:遺構・遺物における二三の所見	534

写真図版

表目次

表1	周辺の遺跡	7	表9	Ⅱ・相生工区遺構観察表(SP)	195
表2	I工区遺構観察表(SP)	37	表10	Ⅱ・相生工区遺構一覧表	196
表3	I工区遺構一覧表	38	表11	Ⅱ・相生工区遺物観察表(陶磁器・土器・他)	408
表4	I工区遺物観察表(陶磁器・土器・他)	150	表12	Ⅱ・相生工区遺物観察表(瓦)	451
表5	I工区遺物観察表(木製品)	164	表13	Ⅱ・相生工区遺物観察表(木製品)	452
表6	I工区遺物観察表(石製品)	165	表14	Ⅱ・相生工区遺物観察表(石製品)	453
表7	I工区遺物観察表(金属製品)	165	表15	Ⅱ・相生工区遺物観察表(金属製品)	454
表8	I工区遺物観察表(銭貨)	166	表16	Ⅱ・相生工区遺物観察表(銭貨)	454

挿図目次

第1図	遺跡の位置・周辺の遺跡分布図	6	第21図	I-③区(2)	58
第2図	調査区位置図	8	第22図	I-③区(3)	59
第3図	グリッド配置図	12	第23図	I-③区(4)	60
第4図	基本層序(1)	12	第24図	I-③区(5)	61
第5図	基本層序(2)	13	第25図	I-④区(1)	62
第6図	I-①・②区 全体図	41・42	第26図	I-④区(2)	63
第7図	I-③・④・⑤区 全体図	43・44	第27図	I-④区(3)	64
第8図	I-⑥区 全体図	45	第28図	I-⑤区(1)	65
第9図	I-⑦区 全体図	46	第29図	I-⑤区(2)	66
第10図	I-⑧・A・B・C区 全体図	47	第30図	I-⑤区(3)	67
第11図	I-①区(1)	48	第31図	I-⑤区(4)	68
第12図	I-①区(2)	49	第32図	I-⑤区(5)	69
第13図	I-①区(3)	50	第33図	I-⑥区(1)	70
第14図	I-①区(4)	51	第34図	I-⑥区(2)	71
第15図	I-①区(5)	52	第35図	I-⑥区(3)	72
第16図	I-②区(1)	53	第36図	I-⑥区(4)	73
第17図	I-②区(2)	54	第37図	I-⑥区(5)	74
第18図	I-②区(3)	55	第38図	I-⑥区(6)	75
第19図	I-②区(4)	56	第39図	I-⑥区(7)	76
第20図	I-③区(1)	57	第40図	I-⑥区(8)	77

第 41 图	I - ⑥区 (9)	78	第 82 图	⑥区出土遗物 (1)	119
第 42 图	I - ⑥区 (10)	79	第 83 图	⑥区出土遗物 (2)	120
第 43 图	I - ⑥区 (11)	80	第 84 图	⑥区出土遗物 (3)	121
第 44 图	I - ⑦区 (1)	81	第 85 图	⑥区出土遗物 (4)	122
第 45 图	I - ⑦区 (2)	82	第 86 图	⑥区出土遗物 (5)	123
第 46 图	I - ⑦区 (3)	83	第 87 图	⑥区出土遗物 (6)	124
第 47 图	I - ⑦区 (4)	84	第 88 图	⑥区出土遗物 (7)	125
第 48 图	I - ⑦区 (5)	85	第 89 图	⑦区出土遗物 (1)	126
第 49 图	I - ⑦区 (6)	86	第 90 图	⑦区出土遗物 (2)	127
第 50 图	I - ⑦区 (7)	87	第 91 图	⑦区出土遗物 (3)	128
第 51 图	I - ⑦区 (8)	88	第 92 图	⑦区出土遗物 (4)	129
第 52 图	I - ⑦区 (9)	89	第 93 图	⑦区出土遗物 (5)	130
第 53 图	I - ⑧区 (1)	90	第 94 图	⑦区出土遗物 (6)	131
第 54 图	I - ⑧区 (2)	91	第 95 图	⑦区出土遗物 (7)	132
第 55 图	I - ⑧区 (3)	92	第 96 图	⑦区出土遗物 (8)	133
第 56 图	I - ⑧区 (4)	93	第 97 图	⑦区出土遗物 (9)	134
第 57 图	①区出土遗物 (1)	94	第 98 图	⑦区出土遗物 (10)	135
第 58 图	①区出土遗物 (2)	95	第 99 图	⑦区出土遗物 (11)	136
第 59 图	①区出土遗物 (3)	96	第 100 图	⑦区出土遗物 (12)	137
第 60 图	①区出土遗物 (4)	97	第 101 图	⑦区出土遗物 (13)	138
第 61 图	①区出土遗物 (5)	98	第 102 图	⑦区出土遗物 (14)	139
第 62 图	②区出土遗物 (1)	99	第 103 图	⑦区出土遗物 (15)	140
第 63 图	②区出土遗物 (2)	100	第 104 图	⑦区出土遗物 (16)	141
第 64 图	②区出土遗物 (3)	101	第 105 图	⑦区出土遗物 (17)	142
第 65 图	②区出土遗物 (4)	102	第 106 图	⑦区出土遗物 (18)	143
第 66 图	③区出土遗物 (1)	103	第 107 图	⑦区出土遗物 (19)	144
第 67 图	③区出土遗物 (2)	104	第 108 图	⑧区出土遗物 (1)	145
第 68 图	③区出土遗物 (3)	105	第 109 图	⑧区出土遗物 (2)	146
第 69 图	③区出土遗物 (4)	106	第 110 图	⑧区出土遗物 (3)	147
第 70 图	③区出土遗物 (5)	107	第 111 图	⑧区出土遗物 (4)	148
第 71 图	③区出土遗物 (6)	108	第 112 图	⑧区出土遗物 (5)	149
第 72 图	④区出土遗物 (1)	109	第 113 图	II - A · B 地点 全体图 (上層)	199 · 200
第 73 图	④区出土遗物 (2)	110	第 114 图	II - A · B 地点 全体图 (下層)	201 · 202
第 74 图	⑤区出土遗物 (1)	111	第 115 图	II - C 地点 全体图 (上層)	203 · 204
第 75 图	⑤区出土遗物 (2)	112	第 116 图	II - C 地点 全体图 (下層)	205 · 206
第 76 图	⑤区出土遗物 (3)	113	第 117 图	II - D 地点 全体图 (上層)	207
第 77 图	⑤区出土遗物 (4)	114	第 118 图	II - D 地点 全体图 (下層)	208
第 78 图	⑤区出土遗物 (5)	115	第 119 图	相生工区 全体图 (上層)	209 · 210
第 79 图	⑤区出土遗物 (6)	116	第 120 图	相生工区 全体图 (中層)	211 · 212
第 80 图	⑤区出土遗物 (7)	117	第 121 图	相生工区 全体图 (下層)	213 · 214
第 81 图	⑤区出土遗物 (8)	118	第 122 图	A 地点 (1)	215

第 123 图	A 地点 (2)	216	第 164 图	相生工区 (1)	257
第 124 图	A 地点 (3)	217	第 165 图	相生工区 (2)	258
第 125 图	A 地点 (4)	218	第 166 图	相生工区 (3)	259
第 126 图	A 地点 (5)	219	第 167 图	相生工区 (4)	260
第 127 图	A 地点 (6)	220	第 168 图	相生工区 (5)	261
第 128 图	A 地点 (7)	221	第 169 图	相生工区 (6)	262
第 129 图	A 地点 (8)	222	第 170 图	相生工区 (7)	263
第 130 图	A 地点 (9)	223	第 171 图	相生工区 (8)	264
第 131 图	A 地点 (10)	224	第 172 图	相生工区 (9)	265
第 132 图	A 地点 (11)	225	第 173 图	相生工区 (10)	266
第 133 图	A 地点 (12)	226	第 174 图	相生工区 (11)	267
第 134 图	A 地点 (13)	227	第 175 图	相生工区 (12)	268
第 135 图	A 地点 (14)	228	第 176 图	相生工区 (13)	269
第 136 图	A 地点 (15)	229	第 177 图	相生工区 (14)	270
第 137 图	A 地点 (16)	230	第 178 图	A 地点出土遺物 (1)	271
第 138 图	A 地点 (17)	231	第 179 图	A 地点出土遺物 (2)	272
第 139 图	A 地点 (18)	232	第 180 图	A 地点出土遺物 (3)	273
第 140 图	A 地点 (19)	233	第 181 图	A 地点出土遺物 (4)	274
第 141 图	A 地点 (20)	234	第 182 图	A 地点出土遺物 (5)	275
第 142 图	A 地点 (21)	235	第 183 图	A 地点出土遺物 (6)	276
第 143 图	A 地点 (22)	236	第 184 图	A 地点出土遺物 (7)	277
第 144 图	B 地点 (1)	237	第 185 图	A 地点出土遺物 (8)	278
第 145 图	B 地点 (2)	238	第 186 图	A 地点出土遺物 (9)	279
第 146 图	B 地点 (3)	239	第 187 图	A 地点出土遺物 (10)	280
第 147 图	B 地点 (4)	240	第 188 图	A 地点出土遺物 (11)	281
第 148 图	B 地点 (5)	241	第 189 图	A 地点出土遺物 (12)	282
第 149 图	B 地点 (6)	242	第 190 图	A 地点出土遺物 (13)	283
第 150 图	C 地点 (1)	243	第 191 图	A 地点出土遺物 (14)	284
第 151 图	C 地点 (2)	244	第 192 图	A 地点出土遺物 (15)	285
第 152 图	C 地点 (3)	245	第 193 图	A 地点出土遺物 (16)	286
第 153 图	C 地点 (4)	246	第 194 图	A 地点出土遺物 (17)	287
第 154 图	C 地点 (5)	247	第 195 图	A 地点出土遺物 (18)	288
第 155 图	C 地点 (6)	248	第 196 图	A 地点出土遺物 (19)	289
第 156 图	C 地点 (7)	249	第 197 图	A 地点出土遺物 (20)	290
第 157 图	C 地点 (8)	250	第 198 图	A 地点出土遺物 (21)	291
第 158 图	C 地点 (9)	251	第 199 图	A 地点出土遺物 (22)	292
第 159 图	C 地点 (10)	252	第 200 图	A 地点出土遺物 (23)	293
第 160 图	C 地点 (11)	253	第 201 图	A 地点出土遺物 (24)	294
第 161 图	D 地点 (1)	254	第 202 图	A 地点出土遺物 (25)	295
第 162 图	D 地点 (2)	255	第 203 图	A 地点出土遺物 (26)	296
第 163 图	D 地点 (3)	256	第 204 图	A 地点出土遺物 (27)	297

第 205 图	A 地点出土遗物 (28)	298	第 246 图	D 地点出土遗物 (2)	339
第 206 图	A 地点出土遗物 (29)	299	第 247 图	D 地点出土遗物 (3)	340
第 207 图	A 地点出土遗物 (30)	300	第 248 图	D 地点出土遗物 (4)	341
第 208 图	A 地点出土遗物 (31)	301	第 249 图	D 地点出土遗物 (5)	342
第 209 图	A 地点出土遗物 (32)	302	第 250 图	D 地点出土遗物 (6)	343
第 210 图	A 地点出土遗物 (33)	303	第 251 图	D 地点出土遗物 (7)	344
第 211 图	B 地点出土遗物 (1)	304	第 252 图	D 地点出土遗物 (8)	345
第 212 图	B 地点出土遗物 (2)	305	第 253 图	D 地点出土遗物 (9)	346
第 213 图	B 地点出土遗物 (3)	306	第 254 图	D 地点出土遗物 (10)	347
第 214 图	B 地点出土遗物 (4)	307	第 255 图	D 地点出土遗物 (11)	348
第 215 图	B 地点出土遗物 (5)	308	第 256 图	D 地点出土遗物 (12)	349
第 216 图	B 地点出土遗物 (6)	309	第 257 图	D 地点出土遗物 (13)	350
第 217 图	C 地点出土遗物 (1)	310	第 258 图	D 地点出土遗物 (14)	351
第 218 图	C 地点出土遗物 (2)	311	第 259 图	D 地点出土遗物 (15)	352
第 219 图	C 地点出土遗物 (3)	312	第 260 图	D 地点出土遗物 (16)	353
第 220 图	C 地点出土遗物 (4)	313	第 261 图	D 地点出土遗物 (17)	354
第 221 图	C 地点出土遗物 (5)	314	第 262 图	相生工区出土遗物 (1)	355
第 222 图	C 地点出土遗物 (6)	315	第 263 图	相生工区出土遗物 (2)	356
第 223 图	C 地点出土遗物 (7)	316	第 264 图	相生工区出土遗物 (3)	357
第 224 图	C 地点出土遗物 (8)	317	第 265 图	相生工区出土遗物 (4)	358
第 225 图	C 地点出土遗物 (9)	318	第 266 图	相生工区出土遗物 (5)	359
第 226 图	C 地点出土遗物 (10)	319	第 267 图	相生工区出土遗物 (6)	360
第 227 图	C 地点出土遗物 (11)	320	第 268 图	相生工区出土遗物 (7)	361
第 228 图	C 地点出土遗物 (12)	321	第 269 图	相生工区出土遗物 (8)	362
第 229 图	C 地点出土遗物 (13)	322	第 270 图	相生工区出土遗物 (9)	363
第 230 图	C 地点出土遗物 (14)	323	第 271 图	相生工区出土遗物 (10)	364
第 231 图	C 地点出土遗物 (15)	324	第 272 图	相生工区出土遗物 (11)	365
第 232 图	C 地点出土遗物 (16)	325	第 273 图	相生工区出土遗物 (12)	366
第 233 图	C 地点出土遗物 (17)	326	第 274 图	相生工区出土遗物 (13)	367
第 234 图	C 地点出土遗物 (18)	327	第 275 图	相生工区出土遗物 (14)	368
第 235 图	C 地点出土遗物 (19)	328	第 276 图	相生工区出土遗物 (15)	369
第 236 图	C 地点出土遗物 (20)	329	第 277 图	相生工区出土遗物 (16)	370
第 237 图	C 地点出土遗物 (21)	330	第 278 图	相生工区出土遗物 (17)	371
第 238 图	C 地点出土遗物 (22)	331	第 279 图	相生工区出土遗物 (18)	372
第 239 图	C 地点出土遗物 (23)	332	第 280 图	相生工区出土遗物 (19)	373
第 240 图	C 地点出土遗物 (24)	333	第 281 图	相生工区出土遗物 (20)	374
第 241 图	C 地点出土遗物 (25)	334	第 282 图	相生工区出土遗物 (21)	375
第 242 图	C 地点出土遗物 (26)	335	第 283 图	相生工区出土遗物 (22)	376
第 243 图	C 地点出土遗物 (27)	336	第 284 图	相生工区出土遗物 (23)	377
第 244 图	C 地点出土遗物 (28)	337	第 285 图	相生工区出土遗物 (24)	378
第 245 图	D 地点出土遗物 (1)	338	第 286 图	相生工区出土遗物 (25)	379

第 287 图	相生工区出土遗物 (26)	·····	380
第 288 图	相生工区出土遗物 (27)	·····	381
第 289 图	相生工区出土遗物 (28)	·····	382
第 290 图	相生工区出土遗物 (29)	·····	383
第 291 图	相生工区出土遗物 (30)	·····	384
第 292 图	相生工区出土遗物 (31)	·····	385
第 293 图	相生工区出土遗物 (32)	·····	386
第 294 图	相生工区出土遗物 (33)	·····	387
第 295 图	相生工区出土遗物 (34)	·····	388
第 296 图	相生工区出土遗物 (35)	·····	389
第 297 图	相生工区出土遗物 (36)	·····	390
第 298 图	相生工区出土遗物 (37)	·····	391
第 299 图	相生工区出土遗物 (38)	·····	392
第 300 图	相生工区出土遗物 (39)	·····	393
第 301 图	相生工区出土遗物 (40)	·····	394
第 302 图	相生工区出土遗物 (41)	·····	395
第 303 图	相生工区出土遗物 (42)	·····	396
第 304 图	相生工区出土遗物 (43)	·····	397
第 305 图	相生工区出土遗物 (44)	·····	398
第 306 图	相生工区出土遗物 (45)	·····	399
第 307 图	相生工区出土遗物 (46)	·····	400
第 308 图	相生工区出土遗物 (47)	·····	401
第 309 图	相生工区出土遗物 (48)	·····	402
第 310 图	相生工区出土遗物 (49)	·····	403
第 311 图	相生工区出土遗物 (50)	·····	404
第 312 图	相生工区出土遗物 (51)	·····	405
第 313 图	相生工区出土遗物 (52)	·····	406
第 314 图	相生工区出土遗物 (53)	·····	407

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴い、平成28年2月22日付け建発第2608号で甲府市長から文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘通知が山梨県教育委員会宛に提出された。それに対して、山梨県教育委員会から平成28年3月2日付け教学文第3664号で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等についての通知に基づき、試掘・確認調査が実施することとなった。

試掘調査は平成28年3月15日から17日、同年4月18日から20日にかけて、道路建設予定地の甲府市中央4丁目地内の6,700㎡を対象として、16箇所約132㎡を実施した。

調査の結果、近世から近代にかけての遺構・遺物が確認された。関係部局と協議を行い、Ⅰ工区8地点、Ⅱ工区8地点、相生工区を対象に本調査を実施することとなり、本調査は、甲府市教育委員会が事業の執行委任を受け、発掘調査予算の執行にあたった。調査に関しては、甲府市教育委員会生涯学習文化課が主体となって、指名競争入札により昭和測量株式会社に業務委託し、Ⅰ工区8地点は平成29年1月30日から平成30年3月20日の期間実施した。Ⅱ工区4地点及び相生工区は平成30年3月13日から平成31年3月25日の期間実施した。また整理作業及び報告書作成業務に関しては、平成31年3月6日から令和2年2月28日まで上記業者に業務委託を行い実施した。

第2節 調査の経過

〈Ⅰ工区の調査〉

調査地点は①～⑧区の計8カ所、調査面積は計975㎡を測る。本調査は都市計画道路和戸町竜王線整備事業に伴う調査であり、甲府市教育委員会と甲府市都市整備課の協議により、調査対象地の東側から調査を進め、発掘作業終了後に順次工事作業を行うこととなった。以下に調査経過の概略を記す。

発掘作業

平成29年

- 1月30日(月) 本調査業務委託契約
- 2月20日(月) 0.25㎡バックホウによる①・②区の表土掘削を開始。
- 2月22日(水) 発掘作業員による①・②区の掘削調査を開始。
- 4月4日(火) ①区の調査完了。
- 4月12日(水) ①区の埋戻し及び0.45㎡バックホウによる④・⑤区の表土掘削を開始。
- 4月13日(木) ②区の調査完了。
- 4月14日(金) ②区の埋戻し及びバックホウによる③区の表土掘削を開始。
発掘作業員による④・⑤区の掘削作業を開始。
- 4月17日(月) 発掘作業員による③区の掘削作業を開始。
- 5月9日(火) ④区の調査完了。
- 5月12日(金) ③区の調査完了。
- 5月15日(月) ③区の埋戻し及び⑧区アスファルト舗装部分のカッター入れを行う。
- 5月16日(火) 0.25㎡バックホウによる⑧区の表土掘削を開始。
- 5月23日(火) 発掘作業員による⑧区の掘削作業を開始。
- 6月16日(金) ⑧区の調査完了。⑧区の埋戻しを行う。
- 6月19日(月) 0.25㎡バックホウによる⑦区の表土掘削を開始。
- 6月23日(金) ⑤区の調査完了。⑤区の埋戻し及び⑥区の表土掘削を開始。

- 6月27日(火) 発掘作業員による⑥・⑦区の掘削作業を開始。
- 8月19日(土) ⑥区の調査完了。
- 8月21日(月) ⑥区の埋戻しを行う。
- 8月30日(水) ⑦区の調査完了。
- 8月31日(木) ⑦区の埋戻し及び撤収作業を行う。

整理作業

遺物の水洗・注記作業を平成29年4月26日から10月30日まで行う。並行して、接合・復元と作業を進め、遺物実測とトレース作業を平成29年10月26日から平成30年2月22日まで行った。遺物写真撮影は平成29年12月4日から平成30年2月13日まで行った。現場の調査写真や遺構図に関しても並行して作業を進め、平成30年2月22日までに整理やパソコンによるトレース作業を終了した。自然科学分析については、土壌分析及び出土動植物の同定を株式会社パレオ・ラボに依頼した。その後、遺物観察表及び本文、挿図、図版の編集を3月20日までに整理作業を完了した。

Ⅱ工区及び相生工区の調査

調査面積は計932.91㎡を測る。調査地点をA～D及び相生工区の5地点に設定し、調査を進めた。I工区と同様に、甲府市教育委員会と甲府市都市整備課の協議により、調査対象地の東側から調査を進め、発掘作業終了後に順次工事作業を行うこととなった。以下に調査経過の概略を記す。

平成30年

- 3月13日(火) 本調査業務委託契約
- 4月18日(水) 仮設ハウス・仮設トイレの搬入を行う。
- 4月19日(木) 0.45㎡バックホウによるA地点の表土掘削を開始。
- 4月20日(金) 発掘作業員による掘削作業を開始。
- 7月21日(土) 0.25㎡バックホウによるB地点の表土掘削を開始。
- 7月23日(月) 発掘作業員によるB地点の掘削作業を開始。
- 8月31日(金) A地点の調査完了。埋戻しを開始。
- 9月3日(月) II工区西側及び南側の道路沿いにフェンスを設置した。
- 9月5日(水) 台風の影響によりA地点が完全に水没したため、埋戻しを一時中断する。
0.25㎡バックホウによるC地点の表土掘削を開始。
- 9月7日(金) A地点の排水作業と並行して、一部埋戻しを再開する。
作業員によるC地点の掘削作業を開始。
- 9月19日(水) A地点の埋戻し完了。
- 9月28日(金) 山梨県立大学の吉田均氏ほか学生2名が現場見学に来場する。
B地点で出土した上水の木樋を中心に出土状況及び構造の説明を行った。
- 10月3日(水) B地点の調査完了。B地点の埋戻しを行う。
- 11月19日(月) C地点の調査完了。C地点の埋戻しを行う。
- 11月20日(火) 0.25㎡バックホウによるD地点の表土掘削を開始。
- 11月21日(水) 発掘作業員によるD地点の掘削作業を開始。
- 12月7日(金) D地点の調査完了。埋戻しを行う。
- 12月19日(水) II工区のフェンスの撤去及び相生工区へのフェンスの設置を行なった。
- 12月25日(火) 0.18㎡バックホウによる相生工区の表土掘削を開始。
- 12月26日(水) 発掘作業員による相生工区の掘削作業を開始。

平成 31 年

3月 5日(火) 相生工区の調査完了。

3月 6日(水) 相生工区の埋戻し開始。

3月12日(火) フェンスの撤去及び撤収作業を行う。

3月13日(水) 出土した巨石及び木材の搬出及び処分を行う。

3月14日(木) 仮設ハウス・仮設トイレの回送を行う。

3月15日(金) 出土したコンクリートガラをの搬出及び処分、バックホウの回送を行う。

現場における作業はすべて完了した。

基礎整理作業として、遺物の水洗・注記作業を発掘調査と並行して、平成 31 年 3 月 23 日まで行った。

〈整理・報告書刊行〉

Ⅱ・相生工区の整理及び報告書刊行業務は、平成 31 年 3 月 13 日から令和 2 年 2 月 28 日の期間で行った。遺物の接合・復元と作業を及び、遺物実測とトレース作業を令和元年 12 月 20 日まで行った。遺物写真撮影は平成 31 年 4 月 22 日から令和元年 12 月 2 日まで行った。現場の調査写真や遺構図に関しても並行して作業を進め、令和 2 年 1 月 11 日までに整理やパソコンによるトレース作業を終了した。出土した陶磁器類については、堀内秀樹氏（東京大学埋蔵文化財調査室）の指導を受けた。出土木製品・金属製品の保存処理については、公益財団法人山梨文化財研究所に依頼した。自然科学分析については、土壌分析及び出土動植物の同定を株式会社パレオ・ラボに依頼した。その後、遺物観察表及び本文、挿図、図版の編集を令和 2 年 2 月 28 日までに報告書を刊行した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境（第1図）

甲府城下町遺跡は、甲府盆地北縁部に位置し、甲府市北部の山地から南流する相川によって形成された扇状地の扇端部にあたる。相川は奥秩父山塊に続く太良峠に水源を持ち、荒川と合流して甲府盆地をさらに南流し、秩父山地甲武信ヶ岳（標高2,475m）を水源とする笛吹川と合流する。城下町は西側に相川、南側に荒川、北東側に愛宕山縁辺部を東流する藤川に囲まれた範囲に立地している。愛宕山（標高423m）から西南方向には、甲府城が築かれた一条小山（標高304m）が連なっている。調査地点は甲府市中央四丁目に所在する。甲府城下町遺跡の扇状地斜面は、標高260～300mを測るが、調査地点の標高は現況高260.8m～262.5mである。

第2節 歴史的環境（第1・2図、第1表）

〈原始・古代〉

この時期の遺跡については、散布地と位置付けられている遺跡が多く、不明な点が多い。扇状地及び沖積地という自然地形のため集落遺跡が発見されにくいことや、周辺河川の流路の変移、中近世における様々な土地改変が要因として挙げられる。縄文時代では、諸磯a式土器が出土した宝町遺跡（第1図32）や、縄文土器とともに大量の黒曜石の剥片が出土した大手下遺跡（第1図16）、荒川南岸に位置する上石田遺跡（第1図43）がある。埴部遺跡（第1図30）や朝気遺跡（第1図55）では弥生時代から平安時代の住居跡が検出されている。特に埴部遺跡では古墳時代前期の方形周溝墓も検出されている。またウマ・ウシの歯、多数の木製品が出土している。

〈中世〉

武田信虎が永正16年（1519）に、それまで武田氏が拠点としていた石和から躑躅ヶ崎へ居館を移し、城下町を整備した。これが武田氏館跡及び武田城下町遺跡（第1図15）である。城下町の整備は館の建設と並行して進められ、永正16年から大永末年までに八幡宮・御崎明神・南宮明神・大神宮・大泉寺・誓願寺・清水寺・信立寺・尊休寺・上条の地藏堂・荒神堂等の多数の社寺が創建・移設されている。武田城下町の北半は武家屋敷地が広がり、南半には商職人が職掌別に居住していた。武田城下町の南縁部は近世の甲府城下町と重なっている。

甲府城築城以前の一条小山には、平安時代後期に存在を確認できる一条郷と、その領主であった一条忠頼の居館があった。元暦元年（1184）に、源頼朝により謀殺された一条忠頼の菩提を弔うため、その夫人が居館を尼寺とした。さらに正和元年（1312）に、曾孫の一条時信が遊行上人二世他阿真教に帰依し、稲久山一条道場一蓮寺に改めた。その後一条小山には、大永4年（1524）に武田氏館防備のための砦が建設されたと『高白斎記』にある。武田氏滅亡後、甲府城築城に伴い、一蓮寺は現在の甲府市太田町に移転した。

〈近世〉

天正10年（1582）の武田氏滅亡後、甲斐は織田信長領となり城代に河尻秀隆を配したが、同年6月には本能寺の変が起き、天正18年（1590）まで徳川家康の支配となり、城代に平岩親吉を配した。この頃に甲府城の築城を家康が計画し、親吉に命じたと考えられている。天正18年の小田原の役を境に、家康が関東に移封とされ、その後、羽柴秀勝、加藤光泰、浅野長政・幸長ら豊臣系大名が治めた。甲府城跡の発掘調査では、多量の浅野家家紋瓦とともに豊臣家の家紋瓦が出土し、また豊臣系城郭の特徴である野面積み石垣から、浅野時代には建物に瓦を葺くまで築城が進んでいたとみられ、関東の徳川牽制の為に築城が大きく進んだとみられる。関ヶ原の戦いの後、徳川が甲斐を再領し、慶長6年（1601）に城代として再度平岩親吉が配され、甲府城の築城を受け継ぎ完成させたといわれる。

慶長8年(1603)に家康の九男徳川義直の領地となるが城代として平岩親吉がそのまま在国した。慶長12年(1607)に義直は尾張清洲、親吉は尾張犬山へ移封となり、その後は幕府直轄領として武川十二騎が城番としておかれた。元和2年(1616)から寛永9年(1632)まで、二代將軍徳川秀忠の三男徳川忠長の支配となるが、引き続き武川十二騎が城番としておかれた。忠長の改易後、寛永10年(1633)に武田氏の遺臣である伊丹康勝が城番となり、寛永13年(1636)から1年交代の旗本による城番制となる。寛文元年(1661)に三代將軍徳川家光の三男で甲府宰相と呼ばれた徳川綱重が甲府藩を立藩し、初代甲府藩主となった。延宝6年(1678)に綱重の子徳川綱豊が跡を継ぎ、後に綱豊は六代將軍家宣となった。宝永元年(1704)、五代將軍徳川綱吉の側用人を務めた柳沢吉保が甲府藩主となり、甲府城の大改修や城下町の再整備を行っている。宝永6年(1709)に吉保の子の吉里が跡を継ぎ、翌年には甲府城に入り、歴代甲府藩主の中で唯一の在城藩主となった。

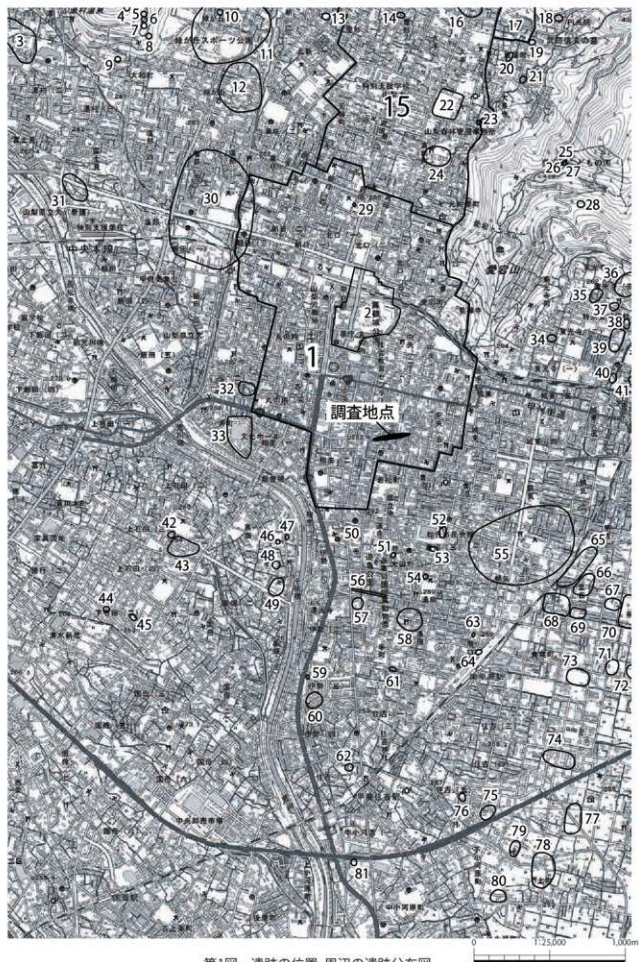
享保9年(1724)に八代將軍徳川吉宗が行った享保の改革により、吉里は大和郡山に移封となる。甲斐国は幕府直轄領となり、幕末まで甲府勤番が設置される。甲府勤番制は甲府城の警護と城下の行政を目的とし、甲府勤番支配2名を任命し、それぞれの配下に勤番士100名、与力10騎、同心50名が配属する。これにより江戸から甲府に勤番とその家族が一斉に移住することとなった。

〈幕末・近代〉

慶応2年(1866)、甲府勤番支配が廃止され、甲府城代が設置されたが、慶応3年(1867)に徳川慶喜による大政奉還後、翌年の3月に新政府軍が甲府城に入り開城となった。同年6月甲斐鎮撫府が置かれ、甲斐府、甲府県を経て、明治4年に山梨県が成立した。甲府城は明治7年(1874)に廃城となり、山梨県令藤村紫朗の施策により内城のみを残し、二の堀、三の堀を埋め立て払い下げとなって、都市整備が進み市街地化した。また国の施策である殖産興業の一環として、明治7年(1874)に勤業製糸場、明治9年(1876)には勤業試験場が設置され、葡萄栽培やワインの醸造が実施された。明治36年(1903)に甲府停車場が開業し、東京から甲府までの道のりを汽車で約6時間の速さで結んだ。

第3節 調査地点の歴史的環境

調査が行われた地点は、甲府城下町下府中23町のうち上連雀町(連雀町一丁目)と柳町四丁目にあたる。下府中は甲府城の二の堀と三の堀に囲まれた町人地で、東西6条、南北4条の街路が走り、碁盤目状街区が規則的に並ぶ都市構造を有している。この街区の中に柳町、八日町、三日町、魚町、連雀町、伊勢町、近習町、鍛冶町、桶町、工町、穴山町が開かれた。五街道の一つである甲州道中が下府中の中心を通り、街道沿いの八日町には各種商店が並び、一丁目と二丁目の境には高札場があった。甲州街道は八日町から柳町を通り、柳町三・四丁目と上連雀町の交差点を西に曲がり、二の堀の南側に沿って、片羽町に入る。柳町は甲州街道の宿駅として多くの旅籠の他、問屋場があった。連雀町は上連雀町と下連雀町に分かれており、調査地点は上連雀町にあたる。『裏見寒話』(1752年)には「柳町とともに旅籠屋多し」と記載されている。『諸国道中商人鏡』(1827年)によると柳町四丁目は荒物問屋、萬塗師、瀬戸物問屋が、上連雀町では茶問屋、瀬戸物・紙問屋が紹介されている。

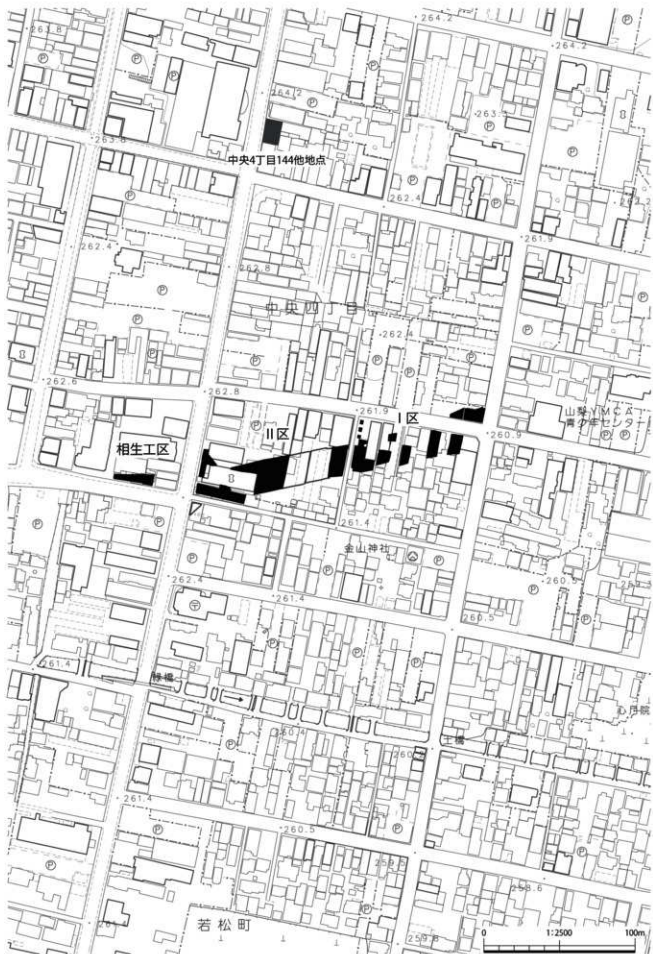


第1図 遺跡の位置・周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代	種別
1	甲府城下町遺跡	近世	集落跡
2	甲府城跡	近世	城館跡
3	八幡東遺跡	弥生・古墳	散布地
4	湯村山5号墳	古墳時代	古墳
5	湯村山4号墳	古墳時代	古墳
6	湯村山3号墳	古墳時代	古墳
7	湯村山2号墳	古墳時代	古墳
8	湯村山1号墳	古墳時代	古墳
9	万寿森古墳	古墳時代	古墳
10	和田無名墳	古墳時代	古墳
11	緑ヶ丘二丁目遺跡	古墳～平安	古墳
12	緑ヶ丘一丁目遺跡	古墳時代	散布地
13	向田B遺跡		散布地
14	長閑遺跡	中世	包蔵地
15	武田城下町遺跡	中世	集落跡
16	大手下遺跡	縄文時代	散布地
17	永慶寺跡	中世	寺院跡
18	岩窪C遺跡	古墳時代	散布地
19	中道東遺跡	近世	散布地
20	中道西遺跡	古墳時代	散布地
21	岩窪遺跡	奈良・平安・中世	包蔵地
22	山梨大学遺跡	奈良・平安	包蔵地
23	コッ塚古墳	古墳時代	古墳
24	八幡神社遺跡	縄文時代	散布地
25	二ッ塚2号墳	古墳時代	古墳
26	二ッ塚1号墳	古墳時代	古墳
27	二ッ塚3号墳	古墳時代	古墳
28	大笠山水の元遺跡	古墳時代～	散布地
29	新紺屋小学校遺跡	近世	散布地
30	塩部遺跡	弥生～平安	包蔵地
31	富士見遺跡	古墳・平安	散布地
32	宝町遺跡	縄文・平安	包蔵地
33	寿町遺跡	古墳時代～	包蔵地
34	御崎山遺跡	平安時代	散布地
35	亥ノ兔遺跡	平安時代～	散布地
36	地蔵北遺跡	古墳～平安	散布地
37	大六天遺跡	平安時代～	散布地
38	宮裏遺跡	平安時代～	散布地
39	銀杏之本遺跡	平安～近世	散布地
40	東光寺遺跡	平安時代～	散布地
41	宮の前遺跡	縄文時代	散布地
42	上石田B遺跡	平安時代	散布地
43	上石田遺跡	縄文時代	集落跡
44	上河原遺跡	平安時代～	散布地
45	渋沢遺跡	平安時代～	散布地
46	大北河原遺跡	平安時代	散布地

番号	遺跡名	時代	種別
47	久保北河原遺跡	平安時代	散布地
48	渋沢遺跡	平安時代～	散布地
49	秋山氏館跡	中世	城館跡
50	千松院遺跡	中世～	散布地
51	太田町遺跡	古墳時代～	散布地
52	青沼遺跡	古墳時代	包蔵地
53	青沼三丁目遺跡	中世～	散布地
54	湯田一丁目遺跡	古墳時代	散布地
55	朝氣遺跡	縄文～平安	集落跡
56	伊勢町遺跡	古墳時代	包蔵地
57	食糧工場遺跡	縄文・弥生	包蔵地
58	幸町A遺跡	弥生時代	包蔵地
59	木俣遺跡	近世	散布地
60	般若院跡	中世	寺院跡
61	幸町B遺跡	古墳時代	散布地
62	住吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
63	南口町A遺跡	平安時代	散布地
64	南口町B遺跡	平安時代	散布地
65	里吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
66	家之前遺跡	平安時代	散布地
67	字前A遺跡	古墳時代	散布地
68	十丁遺跡	古墳時代	散布地
69	十丁B遺跡	古墳時代	散布地
70	字前B遺跡	古墳時代	散布地
71	北極遺跡	平安時代	散布地
72	野村遺跡	古墳～平安	散布地
73	青葉町遺跡	平安時代	散布地
74	二又遺跡	古墳時代	包蔵地
75	宮田遺跡	弥生・平安	散布地
76	上ノ木遺跡	古墳～平安	散布地
77	明石西河原遺跡	平安時代	散布地
78	上町天神遺跡	古墳～平安	散布地
79	大土井遺跡	平安時代	散布地
80	土尻遺跡	中世	散布地
81	小宮氏館跡	中世	城館跡



第2図 調査区位置図

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法

平成29年度にⅠ区、平成30年度にⅡ区及び相生工区の調査を行った。Ⅰ区の調査は平成29年1月30日から8月31日まで発掘作業を行い、整理作業を平成30年3月20日まで行った。Ⅱ区の調査は平成30年3月13日から平成31年3月18日まで発掘作業を行い、基礎整理作業を平成31年3月25日まで行った。調査報告書の作成は平成31年3月6日から令和2年2月28日まで行った。

現地発掘作業は、重機による表土除去後、人力による遺構の精査、掘削を行い、発見した遺構遺物の記録を行った。遺構の計測および土層断面・遺物出土状況図の写真測量は、CUBIC社製トータルステーションシステム電子平板「遺構くん」およびAgisoft社製「PhotoScan Professional」を使用した。写真測量ではボール撮影による写真を使用した。「遺構くん」、「PhotoScan Professional」により作成した図面および補正した写真測量写真からadobe社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」を使用して全体図、個別図、土層断面図を作成した。遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションシステムを使用して位置を計測し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。遺構・遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は手実測と写真実測を併用し、手実測の図面はデジタルトレースを行った。トレースから調査報告書の版下データ作成まではadobe社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」を使用してデジタルデータで行った。遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

使用システム

トータルステーション：TOPCON SOKKIA CX-105
電子平板 Panasonic TOUGHBOOK CF-19
遺構実測支援ソフト CUBIC社「遺構くん」電子平板対応
写真測量ソフト Agisoft社「PhotoScan Professional」
デザインソフト adobe社「illustratorCC」
写真ソフト adobe社「PhotoshopCC」
編集ソフト adobe社「InDesignCC」

【調査体制】

平成29年度発掘調査

〈調査担当者〉

志村憲一（甲府市教育委員会）
萩野谷主税・山路恭之助（昭和測量株式会社 文化財調査課）

〈発掘調査参加〉

浅川兎一 岩崎誠至 小野修一 奥平義久 影山三亀次 河西元彦 河西町男 岸本美苗 小池幹子
河野次雄 齊藤里美 阪本國廣 菅沼芳治 武井みち子 筒井聡 広瀬ありさ 箭本公幸 渡辺智之
渡辺三男

〈整理作業参加者〉

今福ともみ 上島光子 尾川正美 小澤美幸 小宮山みや子 齊藤里美 佐野香織 牧野麻里
三木一恵

平成 30 年度発掘調査

<調査担当者>

志村憲一・平塚洋一(甲府市教育委員会)
萩野谷主税(昭和測量株式会社 文化財調査課)

<調査補助員>

浅川晃一(昭和測量株式会社 文化財調査課)

<発掘調査参加者>

青柳正史 長田秋文 小澤美幸 影山三亀次 北野礼子 土屋常子 筒井聡 出井光 内藤敏夫
中澤保 原田隆邦 藤巻浩太郎 松本榮一 望月一正 横内光夫

<整理作業参加者>

青柳正史 浅川悠起子 朝倉仁恵 尾川正美 長田秋文 小澤美幸 垣内律子 北野礼子
栗田かず子 小宮山みや子 齊藤里美 佐野香織 千葉美奈 土屋常子 内藤敏夫 中澤保
原田隆邦 広瀬ありさ 藤原由香 藤巻浩太郎 松本榮一 渡辺麗子

平成 31 年度整理報告業務

<調査担当者>

志村憲一・平塚洋一(甲府市教育委員会)
萩野谷主税(昭和測量株式会社 文化財調査課)

<調査補助員>

浅川晃一(昭和測量株式会社 文化財調査課)

<整理作業参加者>

浅川悠起子 朝倉仁恵 今福ともみ 尾川正美 小澤美幸 垣内律子 栗田かず子 小宮山みや子
齊藤里美 佐野香織 千葉美奈 広瀬ありさ 藤原由香 藤巻浩太郎 三木一恵 渡辺麗子

第2節 基本層序(第3・4・5図)

基本層序はI-②区(E44グリット北壁)、I-⑤区(I36グリット西壁)、I-⑦区(I30グリット西壁)、II-A地点(I23グリット北壁)、II-C地点(N13グリット南壁)、相生工区(L4・5グリット南壁)の5地点で観察を行った。

I区及びII区の現況地盤は西側から東側に向かって標高が高くなり、I-①区東端の標高は約260.8m、II区C地点西端の標高は約262.5mを測り、約1.7mの標高差がある。遊亀通りを挟み西側はやや低くなり、相生工区西端の標高は約262.3mを測り、II-C地点と相生工区では約0.2mの標高差がある。

I-②区では標高約260.7mで甲府空襲による戦災焼土層が確認された(3層)。5層が甲府空襲以前の生活面、6層及び7層が近世の堆積土と考えられる。8層はオリブ黒色シルト層の地山層である。

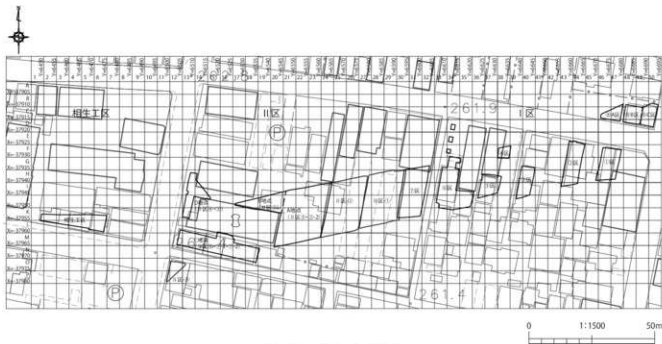
I-⑤区では2層から戦災に伴う焼土を廃棄した攪乱が検出されており、近代の造成土と考えられる。3層から5層は近世の堆積土と考えられる。3層は多量の焼土ブロック・炭化物が混じり、5層からは近世の遺物を含む焼土廃棄土坑が検出されている。近世段階の火災被害毎に整地し造成した層と考えられる。6層は黒色シルトの地山層である。

I-⑦区では標高約261.6mで甲府空襲による戦災焼土層が確認された(2層)。4層が甲府空襲以前の生活面、5層が近世の堆積土、6層が黒褐色シルトの地山層である。

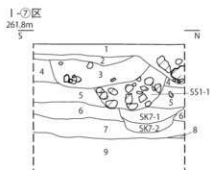
II-A地点では標高約262.0mで甲府空襲による戦災焼土層が確認された(2層)。3層が甲府空襲以前の生活面と考えられる。4層には陶製の土管が埋設されており、5層は近代の生活面と考えられる。6層は近世の堆積土である。7層から9層まで黒褐色砂質シルトが堆積しているが、8、9層では遺構・遺物は確認されなかった。10層は黒褐色シルトの地山層である。

II-C地点では標高約262.4mで甲府空襲による戦災焼土層が確認された(2層)。6層では炭化物が帯状に堆積し、11層、12層、14層では焼土ブロック、炭化物ブロックが多量に混じる層が見られ、近世段階に複数回の火災及び災害後の整地が行われたと考えられる。26層は暗褐色シルトが堆積し、この層から下層からは遺構・遺物は確認されなかった。29層はオリブ黒色シルトの地山層である。

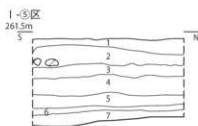
相生工区では標高約262.3mで甲府空襲による戦災層が確認された(2層)。4層の直下では近代の陶磁器や瓦を廃棄した土坑(相生-SK1)が検出されている。11層の下層から江戸時代後期の陶磁器を廃棄した土坑(相生-SK11)が検出されており、5層から11層は幕末から近代の遺物包含層である。12層及び13層は黒褐色シルトが堆積し、下層より暗灰黄色粗粒砂が厚く堆積し、調査区の南北を横断する蛇行した溝(相生-NR1)が検出された。甲府城下町の北東に流れる藤川は、甲府城下建設以前は真直ぐに南流し、その一部が甲府城二の堀の一部に利用されていたことが分かっている。相生工区は柳町四丁目の西側の街区、二の堀の東側に位置しており、旧藤川の流路の一部である可能性が考えられる。



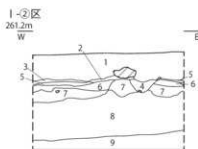
第3図 グリッド配置図



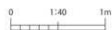
- 1 表土・砂石層
- 2 戦国焼土層
- 3 黒褐色(10YR3/2)砂 径4～7cmの礫
黒色(10YR2/1)シルトブロック・焼土粒・
炭化物ブロック・白色粒が混じる 締まりあり
- 4 黒褐色(10YR3/2)砂 径4～7cmの礫
黒色(10YR2/1)シルトブロック・焼土粒・
炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 5 暗褐色(10YR3/4)砂質シルト 焼土粒・
炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 6 黒褐色(10YR3/2)シルト 炭化物・泥岩粒・
白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 7 6層に似るが泥岩粒を6層より多く含む
- 8 黒褐色(10YR3/1)シルト 炭化物・泥岩粒・
白色粒が微量に混じる
- 9 黒色(7.5Y/2/1)シルト 炭化物が極微量に混じる
- SK7-1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
黄褐色砂・焼土粒・炭化物・径1cmの礫が混じる
締まりゆるい
- SK7-2 黒色(10YR2/1)シルト 黄褐色砂が混じる
炭化物が混じる 締まりゆるい
- SSI-1 黒褐色(10YR3/2)シルト
径4～5cmの河原石・径8～10cmの卵石を詰め



- 1 表土・砂石層
- 2 濃い黄褐色(10YR5/3)砂
焼土粒・炭化物が微量に混じる
締まりあり
- 3 黒褐色(10YR2/2)砂
焼土ブロック・炭化物が多量に混じる
締まりあり
- 4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土粒・炭化物が多量に混じる
締まりあり
- 5 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト
焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる
締まりあり
- 6 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる
締まりあり
- 7 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト
炭化物・泥岩粒が極微量に混じる



- 1 表土・砂石層
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が混じる
締まりあり 現代の造成土
- 3 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる
下部に炭化物が帯状に堆積する 締まりあり 戦国焼土層
- 4 黒褐色(10YR3/2)砂に褐色(10YR4/4)砂が混じる
焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 5 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 締まりあり
白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 6 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が混じる
白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 7 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる
白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 8 オリーブ黒色(10Y3/1)シルト
炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる
- 9 黒色(10Y2/1)シルト 泥岩粒・白色粒が極微量に混じる



第4図 基本層序(1)

第4章 I工区の調査

第1節 遺構と遺物

第1項 1-①区(第6図)

土坑

①-SK1(第11図)

F46グリッドに位置する。平面形は方形で長軸2.42m、短軸2.34m、深さ24cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。切り合いでは①-SP1より古く、時期は近世と考えられる。

①-SK2(第12図)

G46グリッドに位置する。56cm×52cmの範囲に焙烙の破片が散乱しており、焙烙を据え置いていた状況が考えられる。時期は近世と推測される。

①-SK3(第12図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.49m、短軸0.39m、深さ42cmを測る。瀬戸美濃系の猪口が出土している。時期は出土遺物より19世紀と考えられる。

①-SK4(第12図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.7m、短軸0.63m、深さ42cmを測る。桶が埋設されており、桶の内部から漆碗が出土した。切り合いでは①-SS1により古い。便槽遺構の可能性はある。時期は近世と推測される。

①-SK5(第12図)

G46グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.07m、短軸0.9m、深さ14cmを測る。西側に開く弧状に石が配置され、内面は被熱し、灰、焼土粒、炭化物が堆積している。カマドあるいは炉跡と考えられる。切り合いでは①-SK6より新しい。時期は不明である。

①-SK6(第12図)

G46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.75m、短軸0.71m、深さ5cmを測る。被熱し、灰、炭化物が堆積している。切り合いでは①-SK5より古い。時期は不明である。

①-SK7(第12図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.72m、短軸0.64m、深さ9cmを測る。切り合いでは①-SP12より古い。時期は不明である。

①-SK8(第11図)

F47グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸1.09m、短軸0.46m、深さ22cmを測る。桶の底板、側板が出土し、桶が埋設されていた可能性がある。肥前系の半球形碗が出土している。切り合いでは①-SS1より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀中葉～19世紀初頭と考えられる。

①-SK9(第11図)

F46グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.68m、短軸0.34m、深さ17cmを測る。西側の大半にカクランを受けている。時期は不明である。

①-SK10(第12図)

H45グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.57m、短軸0.5m、深さ25cmを測る。磁器の碗・陶器の瘦瓶が出土している。時期は出土遺物より近世と考えられる。

①-SK11(第13図)

G46グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸2.62m、短軸0.42m、深さ22cmを測る。西側の大半にカクランを受けている。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑

であると考えられる。切り合いでは①-SS1より古い。時期は近世と推測される。

①-SK12(第13図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.35m、短軸0.32m、深さ20cmを測る。多量の焼土粒、炭化物が堆積している。時期は不明である。

①-SK13(第12図)

H46グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.86m、短軸0.84m、深さ27cmを測る。桶が埋設されており、桶の内部より肥前系の磁器碗が出土している。便槽遺構の可能性ある。時期は出土遺物より近世と考えられる。

①-SK14(第13図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.59m、短軸0.23m、深さ22cmを測る。桶が埋設されている。便槽遺構の可能性ある。時期は近世と推測される。

①-SK16(第13図)

G46グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.95m、短軸0.44m、深さ70cmを測る。内面は被熱し、灰、焼土が多量に堆積する。カマドあるいは炉跡と考えられる。時期は不明である。

①-SK19(第13図)

G・H46グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.96m、短軸0.88m、深さ11cmを測る。内面は被熱し、焼土、炭化物を含む土が堆積しており、カマド跡と考えられる。時期は不明である。

①-SX1(第12図)

H45・46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.57m、短軸0.55m、深さ34cmを測る。甕が埋設されており、便槽遺構の可能性ある。時期は近代と推測される。

石列

①-SS1(第15図)

F47～H46・47グリッドに位置する石列で、①区を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。軸方向はN-11°-Eを指す。カクランにより上層の石積みが崩れている。北側と南側で石の積み方が異なる。北側は径12～14cmの木杭を打ち込み、その上に枕木を渡した後、胴木を架ける。その後68×48×34cmの四角錐状の石を積む。石の平面は東を向いている。南側は直接胴木を設置し、その上に石を積んでいる。②区②-SS1と同様の構造をしている。周辺からは幕末から明治にかけての遺物が出土しており、近代まで使用されていた土地境の石列であると考えられる。

①-SS2(第15図)

F47グリッドに位置する石列で、南北方向に35×32×23cm程度の石が並ぶ。軸方向はN-9°-Eを指す。

①-SS4(第15図)

H45・46グリッドに位置する。東西方向に延びる石列で、両端は調査区外へと延びる。軸方向はN-169°-Wを指す。径6cmの胴木の上に52×20×26cmの四角錐状の石を積む。石の平面は南に向ける。切り合いは①-SS5より新しい。近代の土地境の石列であると考えられる。

礎石・柱列

①-SK17・①-SP1・①-SP3・①-SP5・①-SS3(第13・14・15図)

①区中央部で検出した。北から①-SP1・①-SS3・①-SP3・①-SP5・①-SK17の5基が並ぶ。軸方向はN-8°-Eで①-SP2・①-SP8・①-SP6・①-SK15とほぼ平行に並ぶ。それぞれの間隔は約3.2～4.6mを測る。切り合いから時期は近代と推測される。

①-SK17(第13図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.53m、短軸0.5mを測る。32×16×13cmの扁平な石が埋設されており、礎石の可能性はある。石の下層では植物繊維が多量に混じった土が続き、腐食した打ち込み杭の痕跡であると考えらえる。

①-SP1(第14図)

F46グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.78m、短軸0.79m、深さ46cmを測る。径12cmの木杭を3本打ち込み、その上に40×32×17cmの平らな石を置いて礎石としている。礎石の周囲には径10～20cmの根石を充填している。切り合いでは①-SK1より新しい。

①-SP3(第14図)

G46グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.74m、短軸0.71m、深さ10cmを測る。径13cmの木杭を3本打ち込み、その上に40×32×17cmの平らな石を置いて礎石としている。礎石の周囲に径10～20cm大の根石を充填している。

①-SP5(第14図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.68m、短軸0.66m、深さ22cmを測る。42×22×24cmの平らな石を置き、礎石としている。周囲に径8～16cmの根石を充填する。

①-SS3(第15図)

G46グリッドに位置する石列で、①-SP3を挟んで南北方向に35×32×23cm程度の方形の石が並んでいる。

①-SK15・①-SP2・①-SP8・①-SP6(第12・14図)

①区西側で検出した。北から①-SP2、①-SP8、①-SP6、①-SK15の4基が並ぶ。軸方向はN-9°-Eで①-SP2・①-SP8・①-SP6・①-SK15とはほぼ平行に並ぶ。それぞれの間隔は約1.8～3.2mを測り、平行に並ぶ①-SP3・①-SP5・①-SK17との間隔は約1.8～1.9mを測る。時期は近代と推測される。

①-SK15(第12図)

H46グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.53m、短軸0.5m、深さ20cmを測る。40×28×12cmの平らな石が埋設されており、礎石の可能性はある。

①-SP2(第14図)

G46グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.71m、短軸0.7m、深さ40cmを測る。径13cmの木杭を3本打ち込み、周囲に径10～16cmの根石を充填する。礎石は検出されなかった。

①-SP6(第14図)

G・H46グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.61m、短軸0.56m、深さ22cmを測る。46×22×21cmの平らな石を置いて礎石としている。礎石の周囲に径8～10cmの根石を充填している。

①-SP8(第14図)

G46グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.48m、短軸0.45m、深さ6cmを測る。径14cmの木杭が3本打ち込まれている。

集石土坑

①-SP7(第12図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.71m、短軸0.81m、深さ35cmを測る。径10～16cmの礫が充填されている。時期は不明である。

①-SS5(第12図)

H46グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.62m、短軸0.57m、深さ38cmを測る。径5～10cmの礫が充填されている。切り合いは①-SS4より古い。時期は不明である。

第2項 Ⅰ-②区(第6図)

土坑

②-SK1(第16図)

F43・44～G43・44グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸2.08m、短軸1.25m、深さ20cmを測る。南側はカクランを受けている。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。19世紀中葉から後葉にかけての磁器、陶器が出土している。切り合いは②-SK10、②-SK11より新しい。時期は出土遺物より19世紀中葉から後葉と考えられる。

②-SK2(第16図)

G44グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.84m、短軸0.66m、深さ15cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積している。時期は不明である。

②-SK3(第16図)

H44グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.8m、短軸0.72m、深さ18cmを測る。磁器の蓋が出土している。時期は出土遺物より近世と考えられる。

②-SK4(第16図)

H43グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.96m、短軸0.42m、深さ14cmを測る。南側はカクランを受けている。時期は不明である。

②-SK8(第16図)

H43・44グリッドに位置する。平面形は円形で、長軸0.86m、短軸0.79m、深さ14cmを測る。切り合いは②-SK9より新しい。時期は不明である。

②-SK9(第16図)

H43グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.09m、短軸0.84m、深さ14cmを測る。切り合いは②-SK8より古い。時期は不明である。

②-SK10(第16図)

F・G44グリッドに位置する。平面形は方形で長軸1.92m、短軸0.79m、深さ22cmを測る。径19cmの木杭を6本打ち込み、北側に46×44×10cm、南側に52×46×14cmの平らな石を置き礎石としている。礎石の周囲には径12～18cmの根石を充填している。瀬戸美濃系の磁器碗が出土しているが構築時の混入と考えられる。切り合いは②-SK1より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より19世紀と考えられる。

②-SK11(第16図)

G43グリッドに位置する。平面形は方形と考えられ、長軸1.58m、短軸0.52m、深さ30cmを測る。径10～23cmの木杭を6本打ち込み、北側に51×49×14cmの板石を置き、その上に58×44×10cmの板石をのせる。南側には42×40×12cmの板石を置き、その上に56×46×10cm、44×38×10cmの板石をのせて礎石としている。礎石の周囲には径10～14cmの根石を充填した痕跡が認められ、②-SK10と同様の構造をしている。切り合いは②-SK1・②-SS1より古い。時期は19世紀と推測される。

②-SK13(第17図)

H・I43グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.86m、短軸0.79m、深さ12cmを測る。桶の底板が出土し、桶が埋設されていたと考えられる。西側の大部分を②-SS1により切られており、切り合いは②-SS1・②-SK1より古い。時期は近世のものとして推測される。

②-SX1(第17図)

I43グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.75m、短軸0.6m、深さ42cmを測る。裏が埋設されており、便槽遺構の可能性が有る。切り合いは②-SK12・②-SK13より新しい。時期は近代と推測される。

木組み遺構

②-SK12(第18図)

H・143グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.51m、短軸1.48m、深さ56cmを測る。中心には径20cmの柱が据えられており、柱の上下2か所に直行するホゾ穴をあけ、それぞれに角材を貫通させている。角材の上には井桁状に複数本の角材を配置している。何らかの建造物の基礎と推測される。切り合いは②-SX1・②-SP6・②-SP7より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

石列

②-SS1(第19図)

E43～143グリッドに位置する石列で、②区を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。N-12°-Eを指す。北側と南側で石の積み方が異なる。北側は径12～14cmの木杭を打ち込み、その上に枕木を渡した後、胴木を架ける。その上に83×44×32cmの四角錐状の石を積む。南側は直接胴木を3本並べ、その上に62×44×28cmの四角錐状の石を積んでいる。石の平面は西を向いている。①区①-SS1と同様の構造をしている。幕末から明治の磁器、陶器、ガラス製品が出土しており、近代まで使用されていた土地境の石列であると考えられる。

礎石・柱列

②-SP2・②-SP3・②-SP5(第17図)

②区東側で検出した。北から②-SP2・②-SP3・②-SP5の3基が並ぶ。軸方向はN-9°-Eを指す。それぞれの間隔は約2.7～2.8mを測る。②-SK11・②-SP4とほぼ平行に並ぶ。時代は近代と推測される。

②-SP2(第17図)

G44グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.73m、短軸0.66m、深さ34cmを測る。径14cmの木杭を3本打ち込み、その上に49×49×16cmの平らな石を置き、礎石としている。礎石の周囲には径10～12cmの根石を充填している。西側には②-SK10・②-SK11の礎石がE-10°-Sの軸線上に位置している。それぞれの間隔は約1.8mを測る。古い礎石(柱)を再利用している可能性がある。

②-SP3(第17図)

G44グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.71m、短軸0.62mを測る。径14cmの木杭を3本打ち込み、その上に51×50×19cmの平らな石を置き、礎石としている。礎石の周囲には径10～12cmの根石を充填している。

②-SP5(第17図)

H44グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.46m、短軸0.44mを測る。径12cmの木杭を3本打ち込み、その上に52×36×13cmの平らな石を置き、礎石としている。礎石の周囲には10～14cmの根石を充填している。北側はカクランを受けている。

②-SK11・②-SP4(第16・17図)

②区西側で検出した。②-SK11・②-SP4の2基が並ぶ。②-SK11が1つの土坑内に2か所の礎石を据えており、②-SP4と形態に差異が認められる。軸方向はN-9°-Eを指す。②-SK11の南側の礎石と②-SP4の礎石との間隔は約3.7mを測る。

②-SP4(第17図)

G・H43グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.76m、短軸0.76m、深さ21cmを測る。径14cmの木杭を3本打ち込み、その上に56×42×13cmの平らな石を置き、礎石とする。礎石の周囲に径10～12cmの根石を充填している。

集石土坑

②-SS2(第17図)

H43グリッドに位置する。平面は円形で長軸0.49m、短軸0.45m、深さ16cmを測る。径8～9cmの礫が充填されている。時期は不明である。

第3項 I-③区(第7図)

土坑

③-SK1(第20図)

H・I40グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.6m、短軸0.8m、深さ14cmを測る。北側の大部分が試掘トレンチにより切られている。キセルの吸口が出土している。切り合いは③-SK4より新しく、③-SD1より古い。時期は不明である。

③-SK2(第20図)

H40グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.75m、短軸0.3m、深さ26cmを測る。切り合いは③-SD3より新しい。時期は不明である。

③-SK3(第20図)

H40グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.0m、短軸0.96m、深さ44cmを測る。時期は不明である。

③-SK4(第20図)

H40グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長0.8m、短軸残存長0.7m、深さ5cmを測る。木片が散乱し、19世紀中葉頃の陶磁器・土製品が出土している。切り合い関係は③-SK1より古く、③-SK13より新しい。時期は出土遺物より19世紀中葉と考えられる。

③-SK5(第21図)

I39・40グリッドに位置する。平面形は円形と考えられ長軸3.09m、短軸2.56m、深さ9cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積していた。土器の灯明皿が出土している。切り合いは③-SK12・③-SK15・③-SE1より新しく、③-SK4・③-SD1より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より近世と考えられる。

③-SK6(第21図)

H40グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.48m、短軸0.29m、深さ14cmを測る。時期は不明である。

③-SK7(第21図)

G40グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.65m、短軸0.25m、深さ23cmを測る。底には幅10cmのホゾ穴の開いた長方形の部材が置かれ、20～30cmの石に囲まれていた。遺構の時期・性格は不明である。

③-SK8(第22図)

J39グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.4m、短軸0.31m、深さ30cmを測る。時期は不明である。

③-SK9(第21図)

G・H40グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸2.07m、短軸1.31m、深さ30cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。19世紀中葉から後葉にかけての磁器、陶器が出土している。切り合いは③-SS2・③-SX1より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より19世紀中葉から後葉と考えられる。

③-SK12(第21図)

I40グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.5m、短軸0.8m、深さ10cmを測る。瀬戸美濃系の柳茶碗が出土している。切り合いは③-SK5より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より近世と考えられる。

③-SK13(第20図)

I40グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸2.88m、短軸残存長1.73m、深さ20cmを測る。桶の底板

などが散乱している。切り合いは③-SK5より新しく、③-SK4より古い。木杭が4本打ち込まれているが、桶の底板を切る。木杭の周辺はカクランを受けており、木杭は現代のものと考えられる。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

③-SK14(第22図)

I39グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.42m、短軸0.3m、深さ22cmを測る。径8cmの木杭が打ち込まれている。時期は不明である。

③-SK15(第21図)

I40グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.46m、短軸0.3m、深さ13cmを測る。切り合いは③-SK5より古い。時期は近世と推測される。

③-SX1(第22図)

G・H40グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸2.55m、短軸2.04m、深さ2.8mを測る。暗灰黄色シルトが斑に混ざった黒色シルトが堆積していた。磁器の皿が出土している。切り合いは③-SD3より新しく、③-SK9・③-SS1より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より近世と考えられる。

礎石・柱列

③-SS1・③-SS2(第23図)

③区北側で検出した。西から③-SS1・③-SS2の2基が並ぶ。軸方向はE-5°-Sを指す。約1.8mの間隔を測る。時期は切り合い関係より近代と推測される。

③-SS1(第23図)

G・H40グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.69m、短軸0.66m、深さ39cmを測る。径12cmの木杭を2本打ち込み、木杭の径12～16cmの根石を充填する。礎石は検出されなかった。切り合いでは③-SX1より新しい。

③-SS2(第23図)

G・H40グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.82m、短軸0.66m、深さ39cmを測る。径13～21cmの木杭を3本打ち込み、木杭の周囲に径12～18cmの根石を充填する。礎石は検出されなかった。切り合いでは③-SK9より古い。

集石土坑(SK)

③-SK10(第22図)

I39グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.62m、短軸0.43m、深さ21cmを測る。径10～20cmの礫が充填されている。時期は不明である。

③-SK11(第22図)

I39グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.66m、短軸0.43m、深さ21cmを測る。径10～16cmの礫が充填されている。時期は不明である。

井戸

③-SE1(第23図)

I・J40グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸1.44m、短軸0.88m、深さ2.6mを測る。石組の井戸で開口部の径は44cmを測る。構築材の一部に石臼を転用していた。切り合いは③-SK5より古い。時期は近世と考えられる。

③-SE2(第23図)

H39・40グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.3m、短軸1.28m、深さ1.4mを測る。桶が埋設さ

れ、北西と南に竹製の管が接続されている。桶内部より近代の磁器、ビール瓶、歯ブラシ等が出土している。近代に廃絶されたと考えられる。

溝

③-SD1(第24図)

H39・40～J39グリッドに位置する。③区の南北方向に走る。北側は③-SE2と接続し、南側は調査区外へと延びる。幅24cm、深さ45cmを測る。軸方向はN-9°-Eを指す。竹樋が埋設されており、③-SE2の埋桶に接続していた。上水施設と考えられる。切り合いは③-SD4より新しい。時期は近代と考えられる。

③-SD2(第24図)

H39・40グリッドに位置する。3区の東西方向に走る。西側は調査区外へと延びる。幅40cm、深さ4cmを測る。切り合いは③-SD3より新しい。軸方向はE-9°-Sを指す。時期は近代と推測される。

③-SD3(第24図)

H40グリッドに位置する。③区の北西から南東方向に走る。北側は③-SX1により切れ、南側は調査区外へと延びる。幅31cm、深さ38cmを測る。軸方向はE-44°-Sを指す。竹樋を埋設した痕跡が残り、木製の土台が出土している。切り合いは③-SK2・③-SX1・③-SD2より古い。時期は切り合い関係より近世と推測される。

③-SD4(第24図)

I39・40グリッドに位置する。3区の東西方向に走り、両端は調査区外へと延びる。幅19cm、深さ11cmを測る。軸方向はE-3°-Sを指す。竹樋が埋設されており、上水施設と考えられる。切り合いは③-SK4・③-SD2より古い。時期は切り合い関係より近世と推測される。

第4項 I-④区(第7図)

土坑

④-SK1(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.62m、短軸0.24m、深さ15cmを測る。32×22×15cmの平らな石を埋設する。礎石と考えられる。寛永通宝が出土している。切り合いは④-SD1より新しい。時期は不明である。

④-SK3(第27図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長1.3m、短軸残存長1.1m、深さ22cmを測る。切り合いは④-SP1より古い。時期は不明である。

④-SK4(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.55m、短軸0.54m、深さ16cmを測る。肥前系京焼風陶器が出土している。切り合いは④-SK8より古い。時期は出土遺物より17世紀中葉から18世紀後葉と考えられる。

④-SK5(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.55m、短軸0.54m、深さ16cmを測る。桶が埋設されており、桶内部から陶磁器が出土している。切り合いは④-SD1より新しい。時期は出土遺物より近世と考えられる。

④-SK7(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.33m、短軸0.24m、深さ21cmを測る。切り合いは④-SS1より古い。時期は不明である。

④-SK8(第25図)

F38グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.12m、短軸0.77m、深さ28cmを測る。青灰色シルトが混じる黒色シルトが堆積している。切り合いは④-SK4より新しい。時期は不明である。

石列

④ -SS1(第27図)

④区中央部で検出した。③区を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。軸方向はN-11°-Eを指す。径8cmの胴木の上に26×25×20cmの方形の石を積む。石の平面は西に向けている。石積の下層から17世紀～明治初頭にかけての磁器、陶器が散乱していた。切り合いは④-SK7・④-SP3・④-SP4・④-SD1より古い。近世から明治に至るまで使用されていた土地境の石列であると考えられる。

礎石・柱列

④-SP1・④-SP2・④-SS3(第25・27図)

④区中央部で検出した。北から④-SP1・④-SS3・④-SP2の3基が並ぶ。軸方向はN-11°-Eを指す。時期は不明である。

④-SP1(第25・27図)

F38グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.89m、短軸0.78m、深さ57cmを測る。径20～40cmの方形の石を埋設する。

④-SP2(第25・27図)

F38グリッドに位置する。平面は円形で長軸0.68m、短軸0.67m、深さ20cmを測る。径14～40cmの平たい石を埋設する。

④-SS3(第27図)

F38グリッドに位置する。径20～40cmの石が据えられている。礎石の可能性はある。

集石土坑

④-SS2(第27図)

F38グリッドに位置する。長軸1m、短軸0.7mの円形の範囲に径4～20cmの礫が密集して広がっている。時期・性格は不明である。

溝

④-SD1(第26図)

F38グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸2.2m、短軸1.72m、深さ39cmを測る。切り合いは④-SK1・④-SK5・④-SP1・④-SS1・④-SS2より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

第5項 I-⑤区(第7図)

土坑

⑤-SK1(第28図)

H36・37～I36・37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸3.3m、短軸2.54m、深さ27cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。近世の陶磁器が出土している。切り合いは⑤-SK8・⑤-SP2より新しく、⑤-SD1より古い。時期は近世と考えられる。

⑤-SK2(第29図)

I36グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.57m、短軸0.42m、深さ18cmを測る。切り合いは⑤-SK3より新しく、⑤-SP1・⑤-SD1より古い。時期は不明である。

⑤-SK3(第29図)

I36・37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸3.62m、短軸2.32m、深さ50cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。18世紀の陶磁器が出土

している。切り合いは⑤-SK2・⑤-SK6・⑤-SP1・⑤-SD1・⑤-SD3より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀中葉から後葉と考えられる。

⑤-SK4(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.65m、短軸0.5m、深さ57cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK5(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.52m、短軸0.5m、深さ19cmを測る。下層に炭化物が堆積している。時期は不明である。

⑤-SK6(第29図)

I・J36グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.43m、短軸0.25m、深さ12cmを測る。切り合いは⑤-SK3より新しい。時期は不明である。

⑤-SK7(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.3m、短軸0.29m、深さ3cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK8(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.4m、短軸0.36m、深さ10cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK9(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.39m、短軸0.3m、深さ14cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK12(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.56m、短軸0.44mを測る。土坑内に桶の底板が残存していた。桶を埋設していた可能性がある。志野の小皿が出土している。切り合いは⑤-SS1より古い。時期は17世紀と考えられる。

⑤-SK13(第30図)

H・I37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.42m、短軸0.25m、深さ30cmを測る。時期は不明である。

⑤-SK14(第30図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.67m、短軸0.6m、深さ1cmを測る。切り合いは⑤-SD4より新しい。時期は不明である。

⑤-SK15(第29図)

I37グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.66m、短軸0.78m、深さ25cmを測る。桶が埋設されている。便槽遺構の可能性がある。切り合いは⑤-SS1より古い。時期は近世と考えられる。

⑤-SK16(第31図)

I37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長1.3m、短軸残存長0.85m、深さ35cmを測る。切り合いは④-SS1より古く、④-SD1より新しい。時期は近世と考えられる。

⑤-SK17(第30図)

H37グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.71m、短軸0.66m、深さ12cmを測る。切り合いは⑤-SS1より古い。時期は不明である。

⑤-SK18(第30図)

H37グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.53m、短軸0.4m、深さ21cmを測る。切り合いは⑤-SD1・⑤-SS1より古い。時期は不明である。

木組み遺構

⑤-SX1(第31図)

I37・38グリッドに位置する。上下2か所に直行するホゾ穴をあげ、角材を貫通させる。上段の角材の上に家屋の転用材及び円柱状の木材を密に並べている。何らかの構造物の基礎である可能性が考えられる。切り

合いは⑤-SP6・⑤-SS1より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

石列

⑤-SS1・⑤-SS2(第32図)

⑤区東側より検出した。⑤区を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。⑤-SS1と⑤-SS2は石積み
の平面を向け合い、間に溝を形成している。軸方向は⑤-SS1がN-13°-E、⑤-SS2がN-12°-Eを指す。
④区の石列④-SS1とは軸方向がややずれる。⑤-SS1は径12cmの胴木を2本並べ、その上に70×40×26
cmの四角錐状の石を積む。隙間に径9～12cmの根石を充填している。⑤-SS2は径14cmの胴木を据え、その
上に32×28×22cmの四角錐状の石を積む。隙間に径10～12cmの根石を充填している。幕末から明治に
かけての磁器、陶器、石製品が出土しており、近世から近代に至るまで使用されていた土地境の石列であると
考えられる。

礎石・柱列

⑤-SP5・⑤-SP6(第30図)

⑤区東側より検出した。北から⑤-SP5・⑤-SP6の2基が並ぶ。軸方向はN-11°-Eを指す。約3.5mの間
隔を測る。④区の柱列④-SP1・④-SP2と同軸上に位置している。時期は不明である。

⑤-SP5(第30図)

H38グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.84m、短軸0.65m、深さ60cmを測る。径10～20cm
の礎を充填し、その上に52×42×19cmの平らな石を置き礎石としている。切り合いは⑤-SS2より古い。

⑤-SP6(第30図)

I37グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.77m、短軸0.69m、深さ52cmを測る。径10～30cmの
礎を充填し、その上に51×48×19cmの平らな石を置き礎石としている。切り合いは⑤-SS2・⑤-SX1より古い。

建物基礎

⑤-SD1(第32図)

⑤区をL字状に囲っている。南端は調査区外へと延び、東端は⑤-SS1により切られている。北側はカクラン
を受ける。幅0.92m、深さ1.0mを測る。径14cmの胴木を3本並べ、土の層と礎層が互層状に堆積している。
複数回作り替えを行っていた可能性がある。肥前系の猪口、京・信楽系の灯明受皿が下層より出土している。
切り合いは⑤-SK1・⑤-SK2・⑤-SK3・⑤-SS1より古い。西の辺の軸方向はN-12°-Eを指す。時期は出
土遺物と切り合い関係から近世から近代まで、作り変えを繰り返しながら使用されていた建物の基礎である可
能性が考えられる。

溝

⑤-SD3(第29図)

I36・37グリッドに位置する。幅40cm、深さ12cmを測る。軸方向はほぼ北を向き、わずかに西に振れる。切
り合いは⑤-SK3より新しい。時期は不明である。

⑤-SD4(第31図)

I37・38グリッドに位置する。竹樋を埋設しており、木製の土台を通り、くの字に曲がっている。南端と東
端は調査区外へと延びる。上水施設と考えられ、③区の③-SD4と接続する可能性がある。切り合いは⑤
-SK14・⑤-SS1・⑤-SS2より古い。西側の辺の軸方向はN-17°-Eを指す。

第6項 Ⅰ-⑥区(第8図)

土坑

⑥-SK2(第33図)

I33 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.23 m、短軸 0.76 m、深さ 40cmを測る。多量の焼土、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。磁器の碗、皿、蓋などが出土している。切り合いは⑥-SK38 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉から後葉と考えられる。

⑥-SK3(第33図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.78 m、短軸 0.7 m、深さ 13cmを測る。切り合いは⑥-SK40 より新しく、⑥-SP1 より古い。時期は不明である。

⑥-SK4(第33図)

J35 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 1.03 m、短軸 0.25 m、深さ 28cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK5(第33図)

J35 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.48 m、短軸 0.47 m、深さは 37cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK6(第33図)

I34・35、J34・35 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.32 m、短軸 1.25 m、深さ 37cmを測る。肥前系の磁器の碗、蓋が出土している。下層より柱材や板材の残骸が多量に出土しているが、下層の⑥-SK17 に投棄されたものが出土していると推測される。切り合いは⑥-SK17 より新しい。時期は出土遺物から 18 世紀中葉から 19 世紀初頭と考えられる。

⑥-SK7(第33図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1 m、短軸 0.93 m、深さ 23cmを測る。土坑の中央からやや東よりに木杭が打ち込まれており、樹皮が散乱していた。切り合いは⑥-SS7 より古い。時期は不明である。

⑥-SK10(第33図)

J35 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.17 m、短軸 1.03 m、深さ 29cmを測る。切り合いは⑥-SS6 より古い。時期は不明である。

⑥-SK11(第33図)

I・J35 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.73 m、短軸 0.7 m、深さ 37cmを測る。坑底に 37 × 30 × 14cmの平らな石を埋設している。礎石の可能性はある。時期は不明である。

⑥-SK12(第33図)

J35 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.98 m、短軸 0.96 m、深さ 14cmを測る。切り合いは⑥-SS9 より古い。時期は不明である。

⑥-SK13(第34図)

J33 グリッドに位置する。平面形は方形と思われ、長軸 2.29 m、短軸 1.89 m、深さ 46cmを測る。多量の柱材、板材の残骸、礫が投棄されており、ゴミ処理用の土坑と考えられる。肥前系の磁器碗、土器の灯明皿が出土している。切り合いは⑥-SK39 より古く、⑥-SK9・⑥-SK18・⑥-SS2 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

⑥-SK14(第34図)

H・I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.82 m、短軸 0.76 m、深さ 27cmを測る。裏が埋設されており、便槽遺構の可能性はある。切り合いは⑥-SK52・⑥-SS1 より新しい。時期は近代と考えられる。

⑥-SK15(第34図)

J33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.77 m、短軸 0.73 m、深さ 22cmを測る。切り合いは⑥-SE1 より古い。時期は不明である。

⑥-SK16(第34図)

J33グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.04m、短軸0.64m、深さ40cmを測る。切り合いは⑥-SE1より古い。時期は不明である。

⑥-SK17(第35図)

J34・35～J34・35グリッドに位置する。平面形は方形で長軸3.29m、短軸1.88m、深さ81cmを測る。多量の柱材、板材の残骸が投棄されており、ゴミ処理用の土坑と考えられる。肥前系の磁器碗が出土している。切り合いは⑥-SK6・⑥-SS1より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀と考えられる。

⑥-SK18(第42・43図)

J33グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.32m、短軸残存長0.26m、深さ10cmを測る。土坑内には多量の磁器片が堆積していた。切り合い関係は⑥-SS2より古く、⑥-SK13より新しい。時期は出土遺物より19世紀中葉から後葉と考えられる。

⑥-SK19(第35図)

J34グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.89m、短軸0.73m、深さ42cmを測る。桶が入れ子状に埋設されている。桶内には多量の焼土、炭化物が堆積していた。⑥-SK20・⑥-SK21・⑥-SK48と同軸上(N-12°-E)に位置する。便槽遺構の可能性ある。切り合いは⑥-SS1・⑥-SS2より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK20(第35図)

J34グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.99m、短軸0.7m、深さ27cmを測る。桶が埋設されており、桶内には多量の焼土、炭化物が堆積していた。便槽遺構の可能性ある。切り合いは⑥-SK34より新しく、⑥-SK21・⑥-SS1・⑥-SS2より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK21(第35図)

J34グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.63m、短軸0.33m、深さ28cmを測る。桶が埋設されており、桶内には小石、炭化物が堆積していた。便槽遺構の可能性ある。切り合いは⑥-SK34・⑥-SK20より新しく、⑥-SS1・⑥-SS2より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK23(第36図)

I33グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.42m、短軸0.35m、深さ13cmを測る。切り合いは⑥-SK31より新しい。時期は不明である。

⑥-SK24(第36図)

I33グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.38m、短軸0.37m、深さ8cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK25(第36図)

H33グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.46m、短軸0.45m、深さ12cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK26(第36図)

G・H34グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.72m、短軸0.7m、深さ21cmを測る。切り合いは⑥-SS12より古い。時期は不明である。

⑥-SK27(第36図)

J33グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.29m、短軸0.29m、深さ9cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK28(第36図)

J34グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.59m、短軸0.56m、深さ8cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK29(第36図)

J33・34グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.45m、短軸0.33m、深さ28cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK30(第36図)

H34グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.44 m、短軸0.43 m、深さ15cmを測る。切り合いは⑥-SK45より新しい。時期は不明である。

⑥-SK31(第36図)

I33グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.38 m、短軸0.28 m、深さ7cmを測る。切り合いは⑥-SK23より古い。時期は不明である。

⑥-SK32(第36図)

I33グリッドに位置する。平面形は方形で長軸1.5 m、短軸0.85 m、深さ26cmを測る。切り合いは⑥-SK36・⑥-SS2より古い。時期不明である。

⑥-SK33(第37図)

K34グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.1 m、短軸0.49 m、深さ15cmを測る。切り合いは⑥-SS2・⑥-SS3より古い。時期は不明である。

⑥-SK34(第37図)

J34グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸2.09 m、短軸1.79 m、深さ29cmを測る。多量の木片、小礫が投棄され、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。切り合いは⑥-SK20・⑥-SK21・⑥-SP2・⑥-SP23・⑥-SS1・⑥-SS2より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK35(第37図)

J33グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸0.87 m、短軸0.33 m、深さ33cmを測る。切り合いは⑥-SP4より古い。時期は不明である。

⑥-SK36(第36図)

I33グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.52 m、短軸0.72 m、深さ26cmを測る。柱材、板材の残骸が投棄されている。ゴミ処理用の土坑の可能性ある。切り合いは⑥-SK32より新しく、⑥-SP10・⑥-SP31・⑥-SS2より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK37(第37図)

J34グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.2 m、短軸1.15 m、深さ31cmを測る。多量の木片が投棄され、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。切り合いは⑥-SP1・⑥-SS1・⑥-SS2・⑥-SS3より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK38(第37図)

I33グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.42 m、短軸0.3 m、深さ2cmを測る。切り合いは⑥-SK2より古い。時期は不明である。

⑥-SK39(第37図)

J33グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.53 m、短軸0.47 m、深さ18cmを測る。径6～8cmの礫を充填し、その上に30×30×15cmの平らな石を置いている。礎石の可能性ある。切り合いは⑥-SK13・⑥-SS2より古い。時期は不明である。

⑥-SK40(第37図)

J34グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.49 m、短軸0.48 m、深さ19cmを測る。切り合いは⑥-SK3・⑥-SP1より古い。時期は不明である。

⑥-SK41(第37図)

I34グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.36 m、短軸0.32 m、深さ38cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK42(第38図)

I34グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.23 m、短軸0.19 m、深さ11cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK43(第38図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.18 m、短軸 0.17 m、深さ 6cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK44(第38図)

H33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.52 m、短軸 0.5 m、深さ 9cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK45(第38図)

H34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.31 m、短軸 1.28 m、深さ 62cmを測る。下層に植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑であった可能性がある。陶器の掃鉢が出土している。切り合いは⑥-SK30より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK46(第38図)

H33 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.98 m、短軸 0.8 m、深さ 95cmを測る。切り合いは⑥-SS10より新しい。時期は近代と考えられる。

⑥-SK47(第37図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.62 m、短軸 0.6 m、深さ 17cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK48(第38図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.76 m、短軸 0.74 m、深さ 23cmを測る。桶が埋設されている。便槽遺構の可能性がある。切り合いは⑥-SS1より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK49(第37図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.34 m、短軸 0.32 m、深さ 27cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK50(第38図)

H33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.3 m、短軸 0.28 m、深さ 30cmを測る。切り合いは⑥-SP32より古い。時期は不明である。

⑥-SK51(第38図)

I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.46 m、短軸 0.44 m、深さ 10cmを測る。時期は不明である。

⑥-SK52(第38図)

H・I34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.82 m、短軸 0.78 m、深さ 36cmを測る。覆土に礫、木片が混じる。埋め桶の痕跡と推測される。切り合いは⑥-SK53より新しく、⑥-SK14・⑥-SS1より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK53(第38図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.52 m、短軸 0.5 m、深さ 23cmを測る。覆土に礫、木片が混じる。埋め桶の痕跡と推測される。土器の灯明皿が出土している。切り合いは⑥-SK52・⑥-SS1より古い。時期は近世と推測される。

⑥-SK54(第38図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.66 m、短軸 0.64 m、深さ 23cmを測る。覆土に多量の礫、木片が混じる。埋め桶の痕跡と推測される。切り合いは⑥-SS1より古い。時期は近世と考えられる。

⑥-SK55(第39図)

H34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.33 m、短軸 0.8 m、深さ 8cmを測る。切り合いは⑥-SK56より新しい。時期は不明である。

⑥-SK56(第39図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 2.29 m、短軸 2.28 m、深さ 1.14 mを測る。多量の植物繊維が堆積していた。ゴミ処理用の土坑であったと推測される。肥前系京焼風陶器、土器の灯明皿が出土している。切り合いは⑥-SK55・⑥-SS1より古い。時期は出土遺物から 17 世紀中葉から 18 世紀後葉と考えられる。

⑥-SK57 (第 39 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.52 m、短軸 0.5 m、深さ 14cmを測る。切り合いはSS1より古い。時期は近世と考えられる。

⑥-SK58 (第 39 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.32 m、短軸 0.28 m、深さ 7cmを測る。切り合いは⑥-SS1より古い。時期は不明である。

⑥-SK59 (第 39 図)

H34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.52 m、短軸 0.52 m、深さ 7cmを測る。切り合いは⑥-SS1より古い。時期は不明である。

⑥-SX3 (第 39 図)

H33 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.48 m、短軸 0.79 m、深さ 73cmを測る。時期は不明である。

⑥-SX4 (第 39 図)

H33・34 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.32 m、短軸 0.44 m、深さ 98cmを測る。時期は不明である。

石列

⑥-SS1 (第 42・43 図)

⑥区中央部より検出した。⑥区の中央部を南北方向に横断し、両端は調査区外へと延びる。2列の石積が石の平面を向け合い、間に溝を形成している。軸方向はN-11°-Eを指す。この軸方向は現在の土地区画とも合致している。胴木 3本並べているが、両側の2本は径10～12cmの丸太で、中央の1本は建物の梁材を転用している。胴木の上には40×30×28cmの四角錐状の石を積む。隙間には径10～12cmの根石を充填している。西側の列は小形の石を積んでいる。明治期の磁器の碗、陶器、土器が出土している。切り合いは⑥-SK19・⑥-SK20・⑥-SK21・⑥-SK37・⑥-SK48・⑥-SK52・⑥-DK53・⑥-SK54・⑥-SK56・⑥-SK57・⑥-SK58・⑥-SK59・⑥-SS3より新しく、⑥-SK14より古い。近代から現代に至るまで使用されていた土地境の石列であると考えられる。

礎石・柱列

⑥-SS4・⑥-SS5・⑥-SS6・⑥-SS7・⑥-SS8・⑥-SS9 (第 42・43 図)

J34・35 グリッドで検出した。径10～20cmの石を集めて置いている。簡易的な礎石の可能性がある。切り合いは⑥-SK7・⑥-SK10・⑥-SK12・⑥-SK17より新しい。時期は近代と推測される。

⑥-SS11・⑥-SS12 (第 42・43 図)

G33・34、H34 グリッドで検出した。幅24～26cmの方形の石を置き、周囲を径10cm前後の石で囲っている。切り合いは⑥-SK26・⑥-SD2より新しい。時期は近代と推測される。

建物基礎

⑥-SS2 (第 42・43 図)

I33・34～J33・34 グリッドで検出した。コの字状に⑥区の南側を囲う。南端は調査区外へと延び、東端は⑥-SS1により切られている。幅62cm、深さ60cmを測る。径12～20cmの胴木を2本並べ、その上に径15～20cmの礎を敷き詰める。また1～1.3m前後の間隔で板石を配置している。建物の基礎か。径12～20cmの胴木を2本並べ、その上に径15～20cmの礎を敷き詰める。また1～1.3m前後の間隔で板石を配置している。建物の基礎と考えられる。西の辺の軸方向はN-12°-Eを指す。18世紀中葉から後葉の磁器の碗・段重・蓋・仏飯器が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いは⑥-SK13・⑥-SK18・⑥-SK19・⑥-SK20・⑥-SK21・⑥-SK32・⑥-SK33・⑥-SK36・⑥-SK37・⑥-SK39・⑥-SS3より新しく、⑥-SS1より古い。

時期は近代と推測される。

⑥-SS3(第42・43図)

J33・34 グリッドで検出した。L字状に曲がり、南端は調査区外へと延び、東端は⑥-SS1・⑥-SS2により切られている。西側はカクランを受ける。幅100cm、深さ34cmを測る。底に幅20～30cmの板石を敷き、礫、土を充填しその上にもう一段、板石を積んでいる。建物の基礎と考えられる。切り合いは⑥-SK21・⑥-SK33より新しく、⑥-SS1・⑥-SS2より古い。時期は近代と推測される。

⑥-SS10(第42・43図)

H・I33 グリッドで検出した。コの字状に曲がり、西端は調査区外へと延びる。幅62cm、深さ32cmを測る。径10～16cmの礫を充填している。建物の基礎と考えられる。土器の灯明皿、石臼が出土している。切り合いは⑥-SK44より新しく、⑥-SK46より古い。西の辺の軸方向はN-11°-Eを指す。時期は近代と推測される。

⑥-SD2(第42・43図)

G33 グリッドに位置する。L字状に曲り、西端と北端は調査区外へと延びる。幅47cm、深さ7cmを測る。切り合いは⑥-SP36より新しく、⑥-SS11より古い。建物の基礎の痕跡と考えられる。東の辺の軸方向はN-12°-Eを指す。時期は不明である。

集石土坑

⑥-SP1(第40図)

J34 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.47m、短軸0.47m、深さ9cmを測る。径8～10cmの礫を充填する。切り合いは⑥-SK3・⑥-SK37・⑥-SK40より新しい。時期は不明である。

⑥-SP2(第40図)

J34 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.56m、短軸0.54m、深さ14cmを測る。径10～20cmの礫を充填する。切り合いは⑥-SK34・⑥-SP23より新しい。時期は不明である。

⑥-SE1(第34図)

J33 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.22m、短軸1.17mを測る。上層は径10cmの石が詰められており、下層には88×74cmの巨石が埋設されていた。当初井戸として掘削を進めたが、用途不明の集積土坑であった。切り合いは⑥-SK15・⑥-SK16より新しい。時期は不明である。

溝

⑥-SD1(第42・43図)

J33 グリッドに位置する。幅0.46m、深さ17cmを測る。切り合いは⑥-SK9より新しく、⑥-SE1より古い。時期は不明である。

第7項 Ⅰ-⑦区(第9図)

土坑

⑦-SK1(第44図)

H32 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸2.06m、短軸1.12m、深さ1.66mを測る。多量の木片、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑の可能性ある。肥前系の磁器、堺・明石系の播鉢が出土している。切り合いは⑦-SK21より新しい。時期は出土遺物より18世紀中葉から19世紀初頭と考えられる。

⑦-SK2(第45図)

K31 グリッドに位置する。トレンチ内で検出したため、平面形は不明である。桶が埋設されている。時期は不明である。

⑦-SK3(第45図)

K31 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.0 m、短軸 0.5 m、深さ 1.2 m を測る。桶が埋設されていた。時期は不明である。

⑦-SK4(第44図)

H30 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.32 m、短軸 0.3 m、深さ 19cm を測る。桶が埋設されていた。時期は不明である。

⑦-SK5(第44図)

H30 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.22 m、短軸 0.19 m、深さ 72cm を測る。時期は不明である。

⑦-SK6(第44図)

I32 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.42 m、短軸 0.37 m、深さ 56cm を測る。底に径 19cm の平たい石が置かれていた。簡易的な礎石の可能性ある。近代の磁器碗が出土している。時期は出土遺物から近代と考えられる。

⑦-SK7(第46図)

I30 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.92 m、短軸 0.67 m、深さ 40cm を測る。切り合いは⑦-SS1 より古い。時期は出土遺物から近世と考えられる。

⑦-SK8(第46図)

I30 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.94 m、短軸 0.76 m、深さ 28cm を測る。桶が埋設されている。桶内部には小石、焼土、炭化物が堆積していた。便槽遺構の可能性ある。切り合いは⑦-SS1 より古い。時期は近世と推測される。

⑦-SK9(第46図)

I31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.0 m、短軸 0.78 m、深さ 18cm を測る。切り合いは⑦-SK13 を切る。時期は不明である。

⑦-SK10(第46図)

I31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.34 m、短軸 1.02 m、深さ 9cm を測る。切り合いは⑦-SK11・⑦-SK34・⑦-SK35 より古い。時期は近世と考えられる。

⑦-SK11(第46図)

I31・32 グリッドに位置している。平面形は不整形で長軸 1.06 m、短軸 0.73 m、深さ 14cm を測る。肥前系の青磁染付碗、京・信楽系の灰軸灯明受皿が出土している。切り合いは⑦-SK10・⑦-SK35 より新しい。時期は出土遺物から 18 世紀中葉から 19 世紀初頭と考えられる。

⑦-SK12(第46図)

H32 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.34m、短軸 1.12m、深さ 35cm を測る。覆土には多量の樹皮が混ざっていた。ゴミ処理用の土坑の可能性ある。肥前系の磁器皿が出土している。時期は 18 世紀と考えられる。

⑦-SK13(第46図)

I31 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.39 m、短軸 0.28 m、深さ 19cm を測る。切り合いは⑦-SK9 より古い。時期は不明である。

⑦-SK14(第47図)

I32 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.44 m、短軸 0.39 m、深さ 52cm を測る。時期は不明である。

⑦-SK15(第47図)

H31・32 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.84 m、短軸 1.39 m、深さ 58cm を測る。小石、木片、植物繊維が多量に堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。肥前系の磁器とともに瀬戸美濃系の磁器が出土している。切り合いは⑦-SK17 より新しい。時期は出土遺物から 19 世紀前葉と考えられる。

⑦-SK16(第47図)

H31 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.34 m、短軸 0.74 m、深さ 22cmを測る。礫、木片、炭化物が堆積している。ゴミ処理用の土坑の可能性ある。陶器の碗、蓋が出土している。時期は近世と推測される。

⑦-SK17(第47図)

H・I32 グリッドに位置している。平面形は不整形で長軸 2.04 m、短軸 1.46 m、深さ 98cmを測る。大量の木片、板材が投棄されている。ゴミ処理用の土坑と考えられる肥前系の磁器、瀬戸美濃系の陶器が出土している。切り合いは⑦-SK15より古い。時期は出土遺物より 18 世紀と考えられる。

⑦-SK18(第47図)

I31 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.6 m、短軸 0.54 m、深さ 9cmを測る。時期は不明である。

⑦-SK19(第48図)

I31 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.56 m、短軸 1.24 m、深さ 42cmを測る。下層に礫、炭化物、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑の可能性ある。漆碗、土器の灯明皿が出土している。切り合いは⑦-SK20より古い。時期は近世と考えられる。

⑦-SK20(第48図)

I31 グリッドに位置する。平面形は不整形で、長軸 1.02 m、短軸 0.88 m、深さ 26cmを測る。切り合いは⑦-SK19より新しい。時期は不明である。

⑦-SK21(第44図)

H32 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.15 m、短軸 0.74 m、深さ 57cmを測る。石臼が出土している。切り合いは⑦-SK1より古い。時期は不明である。

⑦-SK22・⑦-SK37(第49図)

J・K30 グリッドに位置する。平面形は不整形で北側の⑦-SK37と繋がり、L字状となる。西側は調査区外へと延びる。深さ 1.24 mを測り、多量の礫、炭化物、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。19 世紀中葉から後葉の陶磁器が出土している。継続的なゴミ捨て場として使用されていた可能性がある。

⑦-SK23(第49図)

K30 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。深さ 1.28 mを測る。多量の植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。19 世紀中葉から後葉の陶磁器が出土している。

⑦-SK24(第45図)

J・K31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 5.84 m、短軸 3.32 m、深さ 24cmを測る。多量の焼土ブロック、炭化物が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した土坑と考えられる。19 世紀中葉から後葉の陶磁器が出土している。切り合いは⑦-SK38・⑦-SK40・⑦-SP22・⑦-SP23より新しく、⑦-SK25・⑦-SK33・⑦-SK40より古い。

⑦-SK25(第48図)

J31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.86 m、短軸 0.64 m、深さ 8cmを測る。切り合いは⑦-SK24・⑦-SK40・⑦-SP22より新しい。時期は不明である。

⑦-SK31(第48図)

J31 グリッドに位置し、平面形は方形で長軸 0.79 m、短軸 0.46 m、深さ 14cmを測る。時期は不明である。

⑦-SK32(第49図)

J30 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 2.42 m、短軸 0.92 m、深さ 1.36 mを測る。多量の礫、植物繊維が堆積している。ゴミ処理用の土坑と考えられる。19 世紀前葉から中葉の陶磁器が出土している。継続的なゴミ捨て場として使用されていた可能性がある。

⑦-SK33(第48図)

J31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.78 m、短軸 0.74 m、深さ 12cmを測る。切り合いは⑦

-SK24 より新しい。時期は不明である。

⑦-SK34(第46図)

I31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.42 m、短軸 0.39 m、深さ 40cmを測る。径 14cmの木杭が打ち込まれている。切り合いは⑦-SK10 より新しい。時期は不明である。

⑦-SK35(第46図)

I32 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.56 m、短軸 0.41 m、深さ 42cmを測る。切り合いは⑦-SK10・⑦-SK39 より新しく、⑦-SK11 より古い。時期は不明である。

⑦-SK36(第49図)

I・J30 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.68 m、短軸 2.4 m、深さ 1.44 mを測る。多量の植物繊維が堆積している。切り合いは⑦-SK27・⑦-SK28・⑦-SK30・⑦-SK37 より新しい。19世紀中葉から後葉の陶磁器が出土している。継続的なゴミ捨て場として使用されていた可能性がある。

⑦-SK38(第45図)

J31 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 3 m、短軸 0.56 m、深さ 40cmを測る。切り合いは⑦-SK24 より古い。時期は不明である。

⑦-SK39(第46図)

I32 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.4 m、短軸 0.38 mを測る。切り合いは⑦-SK35 より古い。時期は不明である。

⑦-SK40(第45図)

J・K31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.36 m、短軸 0.88 m、深さ 40cmを測る。桶が埋設されている。切り合いは⑦-SK24・⑦-SK25・⑦-SP22 より古い。時期は近世と推測される。

礎石・柱列

⑦-SK27・⑦-SK28・⑦-SK29・⑦-SK30(第48図)

⑦区西側より検出した。北西から時計回りに⑦-SK27・⑦-SK28・⑦-SK29・⑦-SK30の4基が方形に並ぶ。軸方向はN-11°-Eを指す。東西、南北の間隔は約 1.8 mを測る。切り合いは⑦-SK36・⑦-SK37 より新しい。時期は近代と推測される。

⑦-SK27(第48図)

I30 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.63 m、短軸 0.58 m、深さ 14cmを測る。中心に径 12～14cmの木杭を3本打ち込み、径 10～14cmの礎を充填する。切り合いは⑦-SK36 より新しい。

⑦-SK28(第48図)

I31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.55 m、短軸 0.49 m、深さ 28cmを測る。中心に径 10～14cmの木杭を3本打ち込む。径 6～12cmの礎を充填する。

⑦-SK29(第48図)

J30 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.57 m、短軸 0.52 m、深さ 31cmを測る。中心に径 10～12cmの木杭を3本打ち込み、その上に 50×45×20cmの平らな石を置く。周囲に径 8～12cmの礎を充填する。切り合いは⑦-SK29 より新しい。

⑦-SK30(第48図)

J30 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.7 m、短軸 0.52 m、深さ 19cmを測る。中心に径 10～14cmの木杭を3本打ち込み、その上に 40×32×24cmの平らな石を置く。周囲に径 2～8cmの礎を充填する。切り合いは⑦-SK36・⑦-SK37 より新しい。

建物基礎

⑦-SS1(第51図)

H30・31～J30・31 グリッドに位置する。幅約70cm、深さ約60cmの溝がコの字状に曲がる。西端は調査区外へと延びる。溝の内部には径4～10cmの礫を充填している。南と東の2辺には径12～16cmの木杭が3本1組となって、4か所に打ち込まれている。建物の基礎と考えられる。東の辺の軸方向はN-11°-Eを指す。切り合いは⑦-SK7・⑦-SK8より新しい。時期は近代と推測される。

⑦-SS2(第51図)

H30・31 グリッドに位置する。幅約80cm、深さ約76cmの溝がL字状に曲がる。北端と西端は調査区外へと延びる。溝の内部には径4～1cmの礫が充填されている。建物の基礎と考えられる。東の辺の軸方向はN-12°-Eを指す。切り合いは戦災焼土層を切っている。時期は近代と推測される。

⑦-SS5(第52図)

J31 グリッドに位置する。1.5m×0.8mの範囲に径6～20cmの礫が密に広がる。建物の基礎の可能性はある。時期は不明である。

⑦-SS6(第52図)

I・J31 グリッドに位置する。2.6×1mの範囲に径6～20cmの礫が密に広がる。建物の基礎の可能性はある。時期は不明である。

⑦-SS7(第52図)

J30・31 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸1.15m、短軸5.6m、深さ26cmを測る。径10～40cmの石を並べて埋設する。建物の基礎の可能性はある。時期不明である。

集石土坑

⑦-SK26(第48図)

J30 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.38m、短軸0.36m、深さ12cmを測る。径6～16cmの礫を充填する。切り合いは⑦-SK32より新しい。時期は不明である。

⑦-SS8(第52図)

J31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.34m、短軸0.28m、深さ10cmを測る。径10～16cmの礫が充填されている。時期・性格は不明である。

⑦-SS9(第52図)

J31 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.16m、短軸0.13m、深さ8cmを測る。径10～16cmの礫が充填されている。時期・性格は不明である。

⑦-SS10(第52図)

J31 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.34m、短軸0.26m、深さ4cmを測る。径8～16cmの礫が充填されている。時期・性格は不明である。

第8項 I・⑧区(第10図)

⑧-A区

土坑

⑧-A-SK1(第53図)

C46 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.43m、短軸0.31m、深さ14cmを測る。土坑内は被熱し、灰・焼土・炭化物が堆積する。土坑の南側には焼土・炭化物が広がる。カマドもしくは炉跡の可能性はある。時期は不明である。

⑧-A-SK2(第54図)

C47 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.5 m、短軸 0.49 m、深さ 16cmを測る。東側はカクランを受けている。径 10～18cmの礫が充填されている。時期は不明である。

石列

⑧-A-SS1(第 54 図)

C47 グリッドに位置する。⑧-A区を南北に横断し、両端は調査区外へと延びる。2列の石列が石の平面を向け合い、間に溝を形成している。軸方向はN-10°-Eを指す。①区の石列①-SS1 とほぼ同軸状に位置する。東側の石列は径 12～14cmの木杭を打ち込み、その上に枕木を渡した後、径 11～14cmの胴木を架ける。その上に 50×38×30cmの四角錐状の石を積み、隙間に径 10～15cmの根石を充填している。対して西側は胴木を置かず、直接石を積んでいる。石の形も様々で整っていない。近代の磁器の紅皿、瓶が出土している。時期は出土遺物より近代と考えられる。

礎石

⑧-A-SK3(第 53 図)

C46 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 0.9 m、短軸 0.52 m、深さ 64cmを測る。上層はカクランを受けている。径 14～26cmの石を埋設している。礎石と考えられる。切り合いは⑧-A-SD1より新しい。時期は不明である。

溝

⑧-A-SD1(第 53 図)

C46 グリッドに位置する。⑧-A区を南北方向に横断する。幅 29cm、深さ 9cmを測る。軸方向はN-10°-Eを測る。切り合いは⑧-A-SK3より古い。時期は不明である。

⑧-B区

土坑

⑧-B-SK7(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.64 m、短軸 0.6 m、深さ 8cmを測る。焼土、炭化物が堆積していた。土器の灯明皿が出土している。時期は近世と推測される。

⑧-B-SK9(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.64 m、短軸 0.56 m、深さ 12cmを測る。径 6～12cmの礫を充填している。時期は不明である。

石列

⑧-B-SS1(第 55 図)

⑧-B区と⑧-C区の境より検出した。⑧区を南北方向に横断する。軸方向はN-12°-Eを指す。幅 5cmの溝に径 14～20cmの礫を並べる。時期は不明である。

礎石・柱列

⑧-B-SK1・⑧-B-SK2・⑧-B-SK3・⑧-B-SK4(第 55 図)

⑧-B区より検出した。北から⑧-B-SK4・⑧-B-SK3・⑧-B-SK2・⑧-B-SK1の4基が並ぶ。軸方向はN-9°-Eを測る。西側に並ぶ⑧-B-SK5・⑧-B-SK6と並行に並ぶ。間隔は約 1.8 mを測る。時期は不明である。

⑧-B-SK1(第 55 図)

D48 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられ、長軸 0.84 m、短軸 0.56 m を測る。⑧-B-SK5 との間隔は約 1.8m を測る。

⑧-B-SK2(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.84 m、短軸 0.8 m、深さ 22cm を測る。中心に径 12 ~ 13 cm の木杭を 3 本打ち込み、その上に 30 × 28 × 10cm の平らな石を乗せる。周囲に径 10 ~ 12cm の礫を充填する。

⑧-B-SK3(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.8 m、短軸 0.68 m、深さ 18cm を測る。中心に径 12 ~ 14 cm の木杭を 3 本打ち込み、その上に 46 × 28 × 12cm の平らな石を乗せる。周囲に径 8 ~ 16cm の礫を充填する。

⑧-B-SK6 との間隔は約 1.8 m を測る。

⑧-B-SK4(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.76 m、短軸 0.68 m、深さ 18cm を測る。中心に径 12 ~ 13 cm の木杭を 3 本打ち込み、周囲に径 12 ~ 15cm の礫を充填する。

⑧-B-SK5・⑧-B-SK6(第 55 図)

⑧-B 区より検出した。北から⑧-B-SK6・⑧-B-SK5 の 2 基が並ぶ。軸方向は N-9°-E を測る。東側に並ぶ⑧-B-SK1・⑧-B-SK2・⑧-B-SK3・⑧-B-SK4 と並行に並ぶ。間隔は約 3.6 m を測る。時期は不明である。

⑧-B-SK5(第 55 図)

D48 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.6 m、短軸 0.4 m、深さ 64cm を測る。径 10cm の木杭を打ち込み、その上に幅 30cm の平らな石を乗せる。周囲に径 8 ~ 14cm の礫を充填する。⑧-B-SK1 との間隔は約 1.8 m を測る。

⑧-B-SK6(第 55 図)

C48 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.8 m、短軸 0.74 m、深さ 30cm を測る。中心に径 12 ~ 13 cm の木杭を 3 本打ち込み、その上に 40 × 34 × 14cm の平らな石を乗せる。周囲に径 10 ~ 16cm の礫を充填する。⑧-B-SK3 との間隔は約 1.8 m を測る。

⑧-C 区

土坑

⑧-C-SK1(第 56 図)

B50 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 0.8 m、短軸 0.42 m を測る。19 世紀中葉から後葉の磁器が出土している。

⑧-C-SK2(第 56 図)

C50 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.9 m、短軸 1.1 m、深さ 51cm を測る。砂が堆積していた。時期は不明である。

礎石

⑧-C-SS2 ~ 4・⑧-C-SS6・⑧-C-SS7(第 56 図)

⑧-C 区の中央部で検出した。北から⑧-C-SS4・⑧-C-SS3・⑧-C-SS2 の 3 基が並ぶ。幅 31 ~ 44cm の平らな石を置く。軸方向は N-11°-E を指す。間隔は約 1.8 ~ 3.7 m を測る。東側の石列⑧-C-SS6・⑧-C-SS7 と平行に並ぶ。間隔は約 1.6 m を測る。簡易的な礎石の可能性が有る。時期は近代と推測する。

⑧-C-SS5・⑧-C-SS8(第 56 図)

⑧-C 区の東側で検出した。西から⑧-C-SS5・⑧-C-SS8 の 2 基が並ぶ。軸方向は E-21°-S を指す。⑧-C-SS5 は幅 45cm の平らな石を置き、周囲を径 8 ~ 12cm の礫で固める。⑧-C-SS8 は幅 36cm の石を置く。間隔は

約 1.2 m を測る。簡易的な礎石の可能性がある。時期は近代と推測する。

集石土坑

⑧-C-SS1(第 56 図)

C・D49 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 3.3 m、短軸 0.8 m、深さ 51cm を測る。径 10～20cm の礫が充填されている。幕末から明治の陶磁器が出土している。

第 2 表 | 工区遺構観察表 (SP)

() は残存値である。

調査区	グリッド	遺構名	形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
①	F46	SP1	方形	78	79	46
①	G46	SP2	方形	71	70	40
①	G46	SP3	方形	74	71	29
①	F46	SP4	円形か	38	(11)	22
①	H46	SP5	円形	68	66	22
①	G・H46	SP6	方形	61	56	12
①	H46	SP 7	円形	71	81	35
①	G46	SP8	方形	48	45	6
①	欠番	SP9	—	—	—	—
①	H46	SP10	円形	20	20	19
①	H46	SP11	円形	(41)	40	24
①	G46	SP12	円形	19	16	12
①	H46	SP13	円形	41	36	43
①	H46	SP14	円形	16	16	12
①	欠番	SP15	—	—	—	—
①	H46	SP16	円形	34	33	15
②	G44	SP1	円形	53	49	11
②	G44	SP2	方形	73	(66)	34
②	G44	SP3	方形	71	62	—
②	G・H43	SP4	方形	76	76	21
②	H44	SP5	方形	(46)	(44)	—
②	H43	SP6	不整形	29	24	16
②	H43	SP7	円形	22	20	10
③	H40	SP1	円形	16	11	5
③	H40	SP2	円形	29	19	13
③	欠番	SP3	—	—	—	—
③	H40	SP4	円形	21	20	19
③	I・J39	SP5	円形	19	16	14
④	F38	SP1	方形	89	78	57
④	F38	SP2	円形	68	67	20
④	F38	SP3	円形	42	32	9
④	F38	SP4	不整形	28	20	14
⑤	I36	SP1	円形	17	16	7
⑤	H37	SP2	円形	24	21	8
⑤	欠番	SP3	—	—	—	—
⑤	欠番	SP4	—	—	—	—
⑤	H38	SP5	不整形	84	65	60
⑤	I37	SP6	不整形	77	69	52
⑤	I37	SP7	円形	18	16	6
⑤	I37	SP8	円形	28	24	7
⑤	欠番	SP9	—	—	—	—
⑤	欠番	SP10	—	—	—	—
⑤	I37	SP11	円形	15	11	18
⑤	I37	SP12	円形	16	14	10
⑤	I37	SP13	円形	22	22	30
⑤	I37	SP14	円形	20	17	4
⑤	欠番	SP15	—	—	—	—
⑤	欠番	SP16	—	—	—	—
⑤	欠番	SP17	—	—	—	—
⑤	I37	SP18	円形	22	13	6
⑤	欠番	SP19	—	—	—	—
⑤	欠番	SP20	—	—	—	—
⑤	欠番	SP21	—	—	—	—
⑤	欠番	SP22	—	—	—	—
⑤	I37	SP23	不整形	20	16	9
⑥	J34	SP1	円形	47	47	9
⑥	J34	SP2	不整形	56	54	14
⑥	J33	SP3	円形	20	18	51
⑥	J33	SP4	不整形	12	11	15
⑥	J33	SP5	円形	28	26	20
⑥	J35	SP6	円形	19	19	24
⑥	J33	SP7	円形	26	26	28

() は残存値である。

調査区	グリッド	遺構名	形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
⑥	J34	SP8	円形	27	23	30
⑥	J33	SP9	円形	18	17	15
⑥	I33	SP10	不整形	28	22	32
⑥	J33	SP11	円形	28	27	27
⑥	J33	SP12	円形	30	29	22
⑥	欠番	SP13	—	—	—	—
⑥	J33	SP14	不整形	38	30	44
⑥	J35	SP15	円形	25	21	10
⑥	J35	SP16	円形	16	14	12
⑥	欠番	SP17	—	—	—	—
⑥	J33	SP18	円形	39	33	52
⑥	J33	SP19	円形	24	24	20
⑥	J33・34	SP20	円形	27	26	21
⑥	J33・34	SP21	円形	26	24	6
⑥	欠番	SP22	—	—	—	—
⑥	J34	SP23	円形	29	28	8
⑥	H33	SP24	円形	23	19	14
⑥	H33	SP25	円形	20	18	12
⑥	H33	SP26	円形	18	16	6
⑥	H34	SP27	円形	18	17	5
⑥	H33	SP28	円形	14	13	15
⑥	I33	SP29	不整形	17	16	10
⑥	H33	SP30	円形	24	22	29
⑥	I33	SP31	不整形	22	21	12
⑥	H33	SP32	円形	22	19	7
⑥	J34	SP33	円形	26	25	18
⑥	I34	SP34	円形	21	20	37
⑥	欠番	SP35	—	—	—	—
⑥	G・H33	SP36	円形	18	18	13
⑥	欠番	SP37	—	—	—	—
⑥	H33	SP38	不整形	14	12	5
⑥	I34	SP39	円形	29	25	10
⑥	I34	SP40	円形	14	12	24
⑥	H34	SP41	不整形	22	18	9
⑥	H34	SP42	円形	22	21	26
⑦	H31	SP1	不整形	31	23	14
⑦	H31	SP2	円形	24	24	32
⑦	I31	SP3	円形	22	22	10
⑦	H31	SP4	円形	20	20	22
⑦	I30	SP5	方形	26	24	47
⑦	I31	SP6	円形	14	12	2
⑦	I31	SP7	円形	18	19	16
⑦	I30	SP8	円形	16	16	15
⑦	I31	SP9	円形	28	24	12
⑦	I31	SP10	円形	33	27	34
⑦	H31	SP11	不整形	20	18	16
⑦	I31	SP12	不整形	14	11	26
⑦	I31	SP13	不整形	20	18	17
⑦	I31	SP14	円形	22	22	20
⑦	H31	SP15	円形	18	16	40
⑦	H31	SP16	円形	11	11	8
⑦	I30	SP17	円形	22	20	3
⑦	I31	SP18	円形	34	32	40
⑦	I31	SP19	円形	26	24	46
⑦	K31	SP20	円形	32	28	16
⑦	K31	SP21	円形	22	20	15
⑦	J31	SP22	不整形	23	22	27
⑦	J31	SP23	不整形	24	20	10
⑧-A	C47	SP1	円形	54	36	12
⑧-A	C47	SP2	不整形	28	26	2
⑧-A	C47	SP3	円形	40	(12)	16
⑧-C	B50	SP1	円形	(36)	46	30

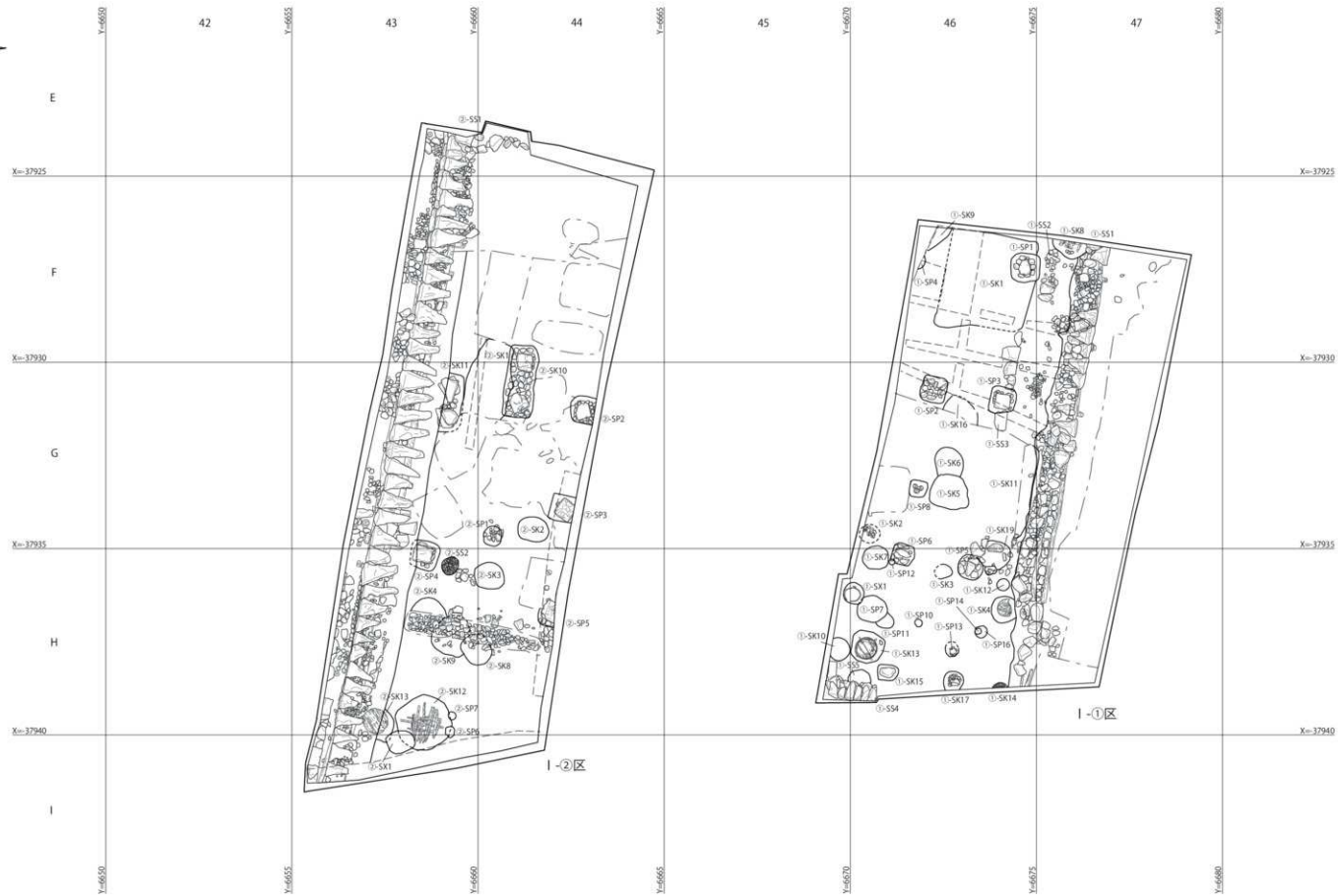
第3表 I区遺構一覧表

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
①	F46	SK1	方形	近世
①	G46	SK2	不整形	近世
①	H46	SK3	円形	19世紀
①	H46	SK4	円形	近世
①	G46	SK5	不整形	不明
①	G46	SK6	円形	不明
①	G・H46	SK7	円形	不明
①	F47	SK8	円形	18世紀中葉～19世紀初頭
①	F46	SK9	円形か	不明
①	H45	SK10	円形	近世
①	G46	SK11	方形か	近世
①	H46	SK12	円形	不明
①	H46	SK13	不整形	近世
①	H46	SK14	円形	近世
①	H46	SK15	礎石	近代
①	G46	SK16	円形	不明
①	H46	SK17	礎石	近代
①	欠番	SK18	—	—
①	G・H46	SK19	不整形	不明
①	H45・46	SK1	埋蔵	近代
①	F47～H46・47	SS1	石列	近代
①	F47	SS2	石列	不明
①	F・G46	SS3	建物の基礎か	近代
①	H45・46	SS4	石列	近代
①	H45・46	SS5	集石土坑	不明
②	F43・44～G43・44	SK1	不整形	19世紀中葉～後葉
②	G44	SK2	円形	不明
②	H43・44	SK3	円形	近世
②	H43	SK4	円形か	不明
②	欠番	SK5	—	—
②	欠番	SK6	—	—
②	欠番	SK7	—	—
②	H43・44	SK8	円形	不明
②	H43	SK9	円形	不明
②	F・G44	SK10	礎石	19世紀
②	G43	SK11	礎石	19世紀
②	H・I43	SK12	木組み遺構	近世
②	H・I43	SK13	不整形	近世
②	H・I43	SK1	埋蔵	近代
②	E43～I43	SS1	石列	近代
②	H43	SS2	集石土坑	不明
③	H・I40	SK1	不整形	不明
③	H40	SK2	不整形	不明
③	H40	SK3	円形	不明
③	H40	SK4	不整形	19世紀中葉
③	I39・40	SK5	円形か	近世
③	H40	SK6	不整形	不明
③	G40	SK7	円形か	不明
③	J39	SK8	円形	不明
③	G・H40	SK9	不整形	19世紀中葉～後葉
③	I39	SK10	集石土坑	不明
③	I39	SK11	集石土坑	不明
③	I39・40	SK12	不整形	近世
③	I40	SK13	不整形	近世
③	I39	SK14	円形	不明
③	I40	SK15	円形	近世
③	G・H40	SK1	円形か	近世
③	I・J40	SE1	井戸	近世
③	H39・40	SE2	上水井戸	近代
③	G・H40	SS1	根石・杭	近代
③	G・H40	SS2	根石・杭	近代
③	H39・40～J39	SD1	竹樋	近代
③	H39・40	SD2	溝	近代
③	H40	SD3	竹樋	近世
③	I39・40	SD4	竹樋	近世
④	F38	SK1	円形か	不明
④	欠番	SK2	—	—

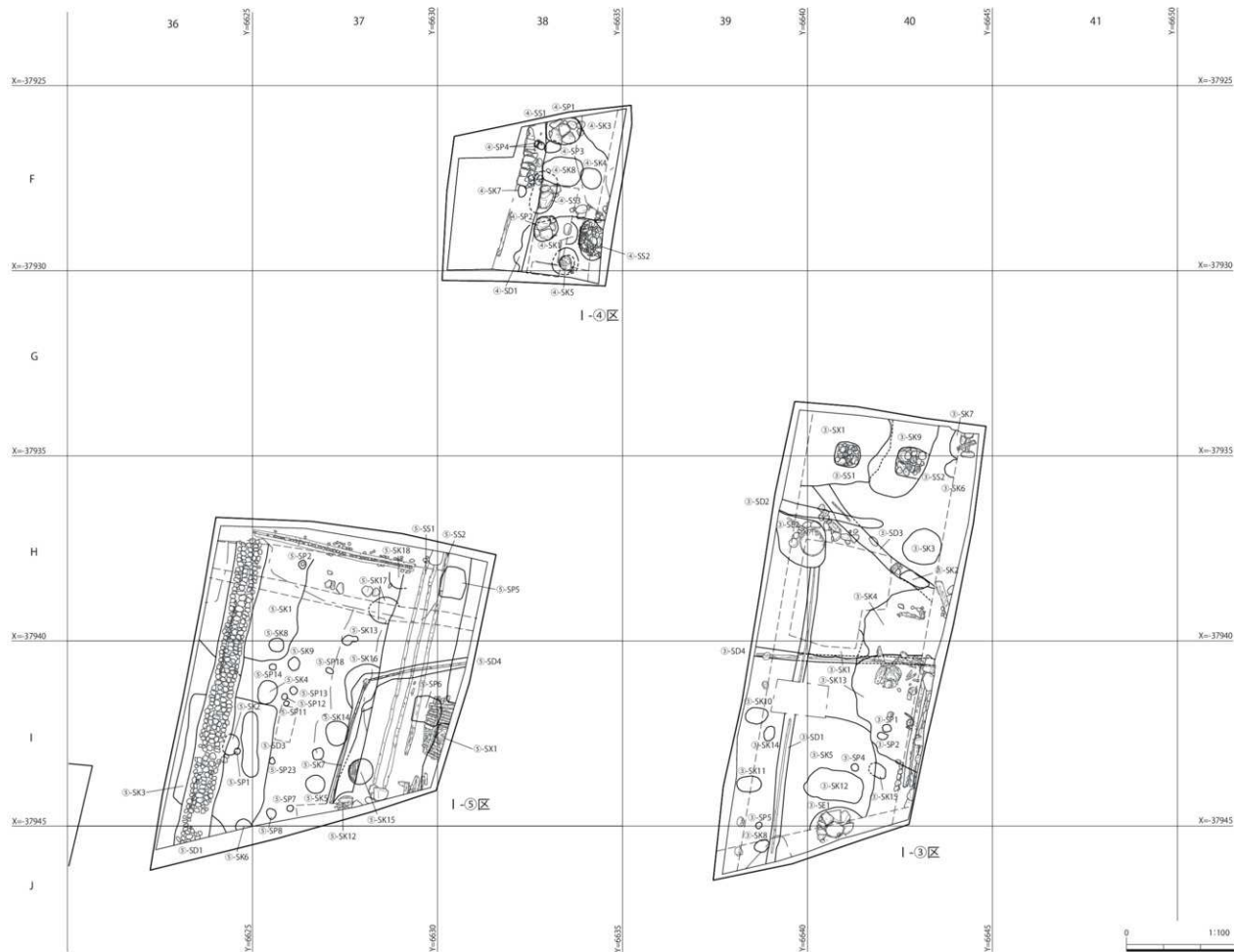
調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
④	F38	SK3	円形か	不明
④	F38	SK4	円形	17世紀中葉～18世紀後葉
④	F38	SK5	円形	近世
④	欠番	SK6	—	—
④	F38	SK7	円形	不明
④	F38	SK8	円形	不明
④	F38	SS1	石列	近代
④	F38	SS2	集石土坑	不明
④	F38	SS3	礎石	不明
④	F38	SD1	溝	近世
⑤	H36・37～I36・37	SK1	不整形	近世
⑤	I36	SK2	円形	不明
⑤	I36・37	SK3	不整形	18世紀中葉～後葉
⑤	I37	SK4	円形	不明
⑤	I37	SK5	円形	不明
⑤	I・J36	SK6	円形か	不明
⑤	I37	SK7	不整形	不明
⑤	H・I37	SK8	円形	不明
⑤	I37	SK9	円形	不明
⑤	欠番	SK10	—	—
⑤	—	SK11	—	—
⑤	I37	SK12	円形か	17世紀
⑤	H・I37	SK13	不整形	不明
⑤	I37	SK14	円形	不明
⑤	I37	SK15	円形か	近世
⑤	I37	SK16	不整形	近世
⑤	H37	SK17	円形	不明
⑤	H37	SK18	円形か	不明
⑤	I37・38	SK1	木組	近世
⑤	H・I37	SS1	石列	近代
⑤	H・I37～H38	SS2	石列	近代
⑤	H36・37～J36	SD1	建物の基礎	近代
⑤	欠番	SD2	—	—
⑤	I36・37	SD3	溝	不明
⑤	I37・38	SD4	竹樋	近世
⑤	欠番	SK1	—	—
⑥	I33	SK2	方形	19世紀中葉～後葉
⑥	J34	SK3	円形	不明
⑥	J35	SK4	方形か	不明
⑥	J35	SK5	円形	不明
⑥	I34・35～J34・35	SK6	方形	18世紀中葉～19世紀初頭
⑥	J34	SK7	円形	不明
⑥	欠番	SK8	—	—
⑥	欠番	SK9	—	—
⑥	J35	SK10	円形	不明
⑥	I・J35	SK11	礎石	不明
⑥	J35	SK12	不整形	不明
⑥	J33	SK13	方形か	18世紀
⑥	H・I34	SK14	埋蔵	近代
⑥	J33	SK15	円形	不明
⑥	J33	SK16	円形	不明
⑥	I34・35～J34・35	SK17	方形	18世紀
⑥	J33	SK18	円形か	19世紀中葉～後葉
⑥	J34	SK19	円形	近世
⑥	J34	SK20	円形	近世
⑥	J34	SK21	円形	近世
⑥	欠番	SK22	—	—
⑥	I33	SK23	円形	不明
⑥	I33	SK24	不整形	不明
⑥	H33	SK25	円形	不明
⑥	G・H34	SK26	不整形	不明
⑥	J33	SK27	円形	不明
⑥	J34	SK28	円形	不明
⑥	J33・34	SK29	不整形	不明
⑥	H34	SK30	円形	不明

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
⑤	I33	SK31	円形	不明
⑥	I33	SK32	方形	不明
⑥	K34	SK33	円形	不明
⑥	J34	SK34	不整形	近世
⑥	I33	SK35	方形か	不明
⑥	I33	SK36	不整形	近世
⑥	J34	SK37	円形	近世
⑥	I33	SK38	円形	不明
⑥	J33	SK39	円形	不明
⑥	J34	SK40	方形	不明
⑥	I34	SK41	円形	不明
⑥	I34	SK42	円形	不明
⑥	I34	SK43	円形	不明
⑥	H33	SK44	円形	不明
⑥	H34	SK45	不整形	近世
⑥	H33	SK46	不整形	近代
⑥	I34	SK47	円形	不明
⑥	I34	SK48	円形	近世
⑥	I34	SK49	円形	不明
⑥	H33	SK50	円形	不明
⑥	I34	SK51	円形	不明
⑥	H・I34	SK52	円形	近世
⑥	H34	SK53	円形	近世
⑥	H34	SK54	円形	近世
⑥	H34	SK55	不整形	不明
⑥	H34	SK56	円形	17世紀中葉～18世紀後葉
⑥	H34	SK57	円形	近世
⑥	H34	SK58	不整形	不明
⑥	H34	SK59	円形	不明
⑥	欠番	SK1	-	-
⑥	欠番	SK2	-	-
⑥	H33	SK3	方形	不明
⑥	H33・34	SK4	方形	不明
⑥	J33	SE1	集石土坑	不明
⑥	G34～K34・G34・H35	SS1	石列	近代
⑥	I33・34～J33・34	SS2	建物の基礎	近代
⑥	J33・34	SS3	建物の基礎	近代
⑥	J35	SS4	礎石	近代
⑥	J35	SS5	礎石	近代
⑥	J35	SS6	礎石	近代
⑥	J34	SS7	礎石	近代
⑥	J34	SS8	礎石	近代
⑥	J35	SS9	礎石	近代
⑥	H・I33	SS10	建物の基礎	近代
⑥	G33	SS11	礎石	近代
⑥	G・H34	SS12	礎石	近代
⑥	J33	SD1	溝	不明
⑥	G33	SD2	建物の基礎か	不明
⑦	H32	SK1	方形	18世紀中葉～19世紀初頭
⑦	K31	SK2	不明	不明
⑦	K31	SK3	円形	不明
⑦	H30	SK4	円形	不明
⑦	H30	SK5	円形	不明
⑦	I32	SK6	円形	近代
⑦	I30	SK7	円形	近世
⑦	I30	SK8	円形	近世
⑦	I31	SK9	不整形	不明
⑦	I31	SK10	不整形	近世
⑦	I31・32	SK11	不整形	18世紀中葉～19世紀初頭
⑦	H32	SK12	楕円形	18世紀
⑦	I31	SK13	円形	不明
⑦	I32	SK14	不整形	不明
⑦	H31・32～I31・32	SK15	方形	19世紀前葉
⑦	H31	SK16	円形	近世

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
⑦	H・I32	SK17	不整形	18世紀
⑦	I31	SK18	円形	不明
⑦	I31	SK19	方形	近世
⑦	I31	SK20	不整形	不明
⑦	H32	SK21	不整形	不明
⑦	J・K30	SK22	不整形	19世紀中葉～後葉
⑦	K30	SK23	方形	19世紀中葉～後葉
⑦	J・K31	SK24	不整形	19世紀中葉～後葉
⑦	J31	SK25	不整形	不明
⑦	J30	SK26	集石土坑	不明
⑦	I30	SK27	根石・杭	近代
⑦	I30・31	SK28	根石・杭	近代
⑦	J30	SK29	礎石	近代
⑦	J30	SK30	礎石	近・現代
⑦	J31	SK31	方形	不明
⑦	I・J30	SK32	方形	19世紀中葉
⑦	J31	SK33	不整形	不明
⑦	I31	SK34	不整形	不明
⑦	I32	SK35	不整形	不明
⑦	I・J30	SK36	方形	19世紀中葉～後葉
⑦	J30・31	SK37	不整形	19世紀中葉～後葉
⑦	J31	SK38	方形	不明
⑦	I32	SK39	不整形	不明
⑦	J・K31	SK40	不整形	近世
⑦	H30・31～I30・31	SS1	建物の基礎	近代
⑦	H30・31	SS2	建物の基礎	現代
⑦	欠番	SS3	-	-
⑦	欠番	SS4	-	-
⑦	J31	SS5	建物の基礎か	不明
⑦	I・J31	SS6	建物の基礎か	不明
⑦	J30・31	SS7	建物の基礎か	不明
⑦	J31	SS8	集石土坑	不明
⑦	J31	SS9	集石土坑	不明
⑦	J31	SS10	集石土坑	不明
⑧-A	C46	SK1	円形	不明
⑧-A	C47	SK2	不整形	不明
⑧-A	C46	SK3	礎石	不明
⑧-A	C47	SS1	石列	近代
⑧-A	C46	SD1	溝	不明
⑧-B	D48	SK1	礎石	不明
⑧-B	C48	SK2	礎石	不明
⑧-B	C48	SK3	礎石	不明
⑧-B	C48	SK4	根石・杭	不明
⑧-B	D48	SK5	根石・杭	不明
⑧-B	C19	SK6	礎石	不明
⑧-B	C48	SK7	不整形	近世
⑧-B	C48・49	SK9	不整形	不明
⑧-B	C48・49～D48・49	SS1	石列	不明
⑧-C	C21	SK1	方形	19世紀中葉～後葉
⑧-C	C50	SK2	方形	不明
⑧-C	C・D49	SS1	集石土坑	近代
⑧-C	D49	SS2	礎石	近代
⑧-C	C49・50	SS3	礎石	近代
⑧-C	C50	SS4	礎石	近代
⑧-C	C50	SS5	礎石	近代
⑧-C	C50	SS6	礎石	近代
⑧-C	C50	SS7	礎石	近代
⑧-C	C50	SS8	礎石	近代



第6图 I-①·②区 全体图



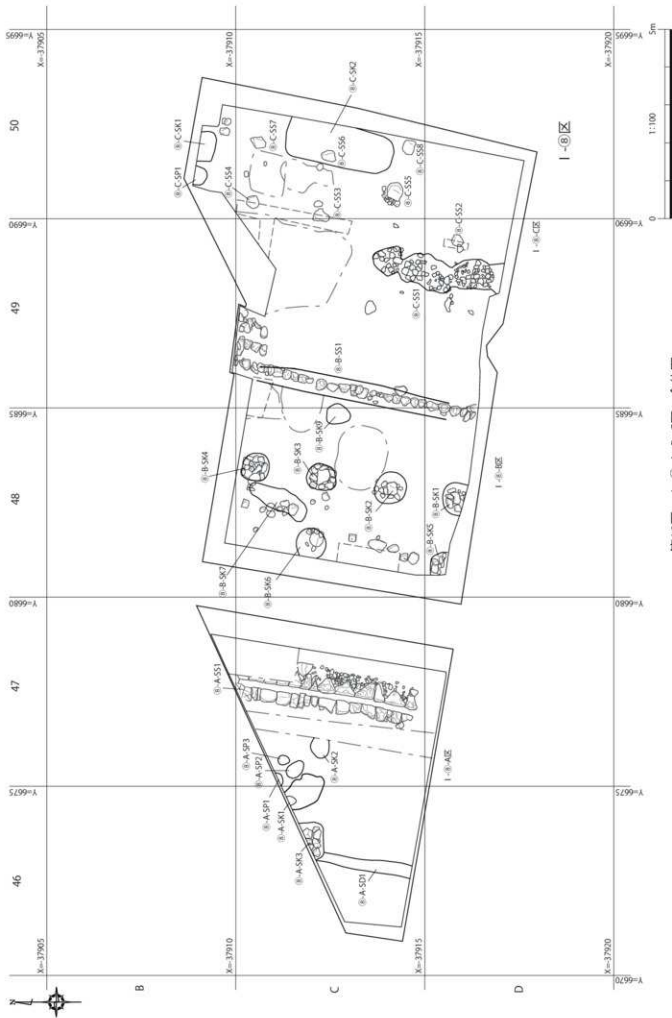
第7图 I-③·④·⑤区 全体图



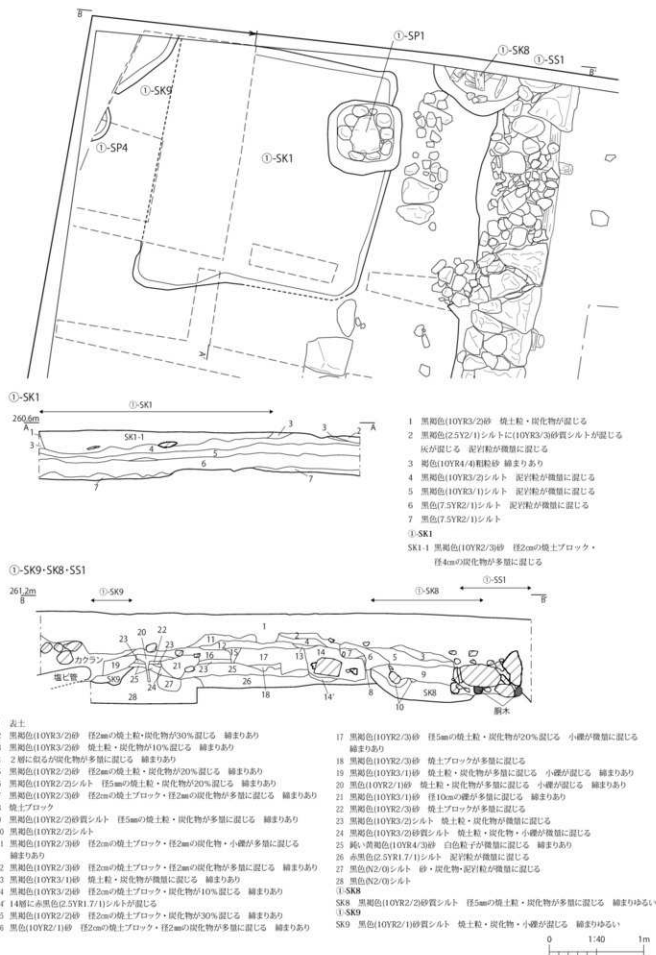
第8図 I-⑥区 全体図



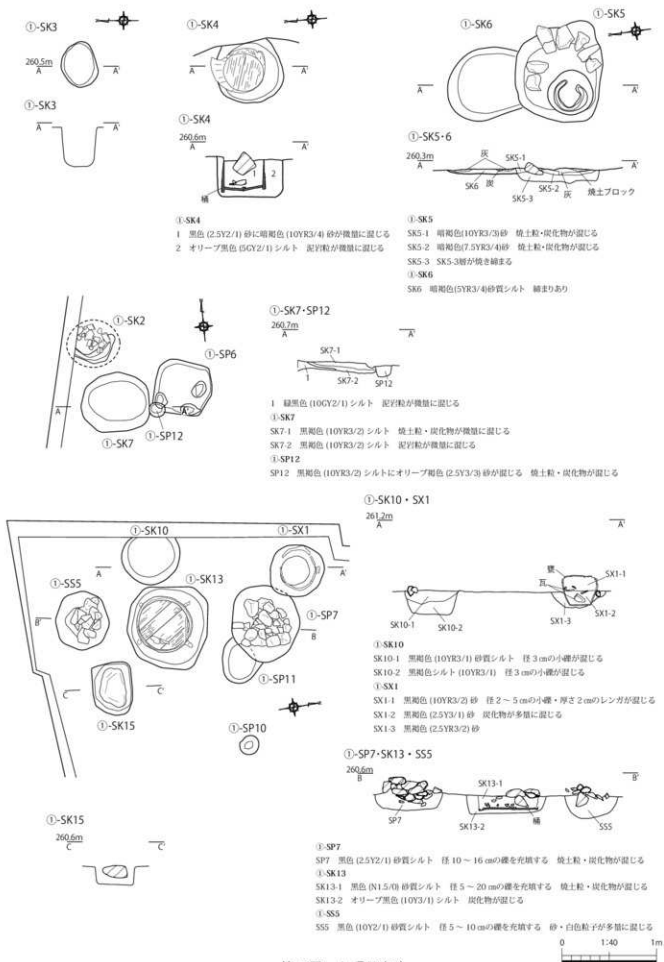
第9图 I-7区 全体图



第10图 I-6-A·B·C区 全体图

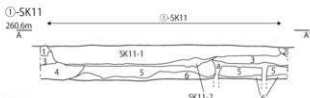
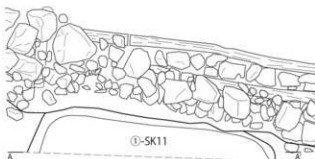


第11図 I-①区(1)



第12図 1-①区(2)

①-SK11



①-SK11

SK11-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径2～3cmのレンガブロック・焼土粒・炭化物が多量に混じる

SK11-2 暗褐色 (10YR3/4) 砂と黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる

a 噴砂 褐色 (7.5YR4/6) 粗粒砂 径1～2cmの小礫が混じる

1 暗褐色 (10YR3/4) 砂にオリブ褐色 (2.5Y4/6) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が混じる 下層に肥後粘が塊層に混じる

2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径1.5cmの礫・焼土粒・炭化物が混じる

3 暗褐色 (10YR3/4) シルトに褐色 (10YR4/6) 砂が塊層に混じる

炭化物・肥後粘が塊層に混じる

4 3層に亘るが見附粘が混じる

5 緑褐色 (10GY2/1) シルト 肥後粘が塊層に混じる

6 緑褐色 (10GY2/1) シルト

①-SK19



①-SK19

1 明黄褐色 (10YR3/4) 砂が混じる 締まりあり

2 黒色 (10YR3/2) 砂質シルトに明黄褐色 (10YR6/6) 砂が混じる 炭化物・焼土粒が混じる 締まりあり

3 2層に亘るが焼けた石を含む

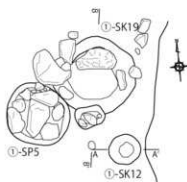
4 灰・焼土粒・炭化物が堆積する 焼き締まる

5 褐色 (7.5YR4/6) 砂 焼き締まる

6 濃い黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂 炭化物が塊層に混じる

7 オリブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルトに褐色 (6YR4/6) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が混じる

①-SK12・19



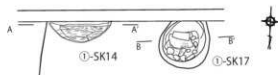
①-SK12



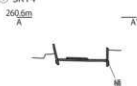
①-SK12

1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる

①-SK14・17



①-SK14



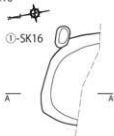
①-SK17



①-SK17

1 黒色 (10YR1.7/1) シルト 下層に植物繊維が多量に混じる (腐食した木杭か)

①-SK16



①-SK16

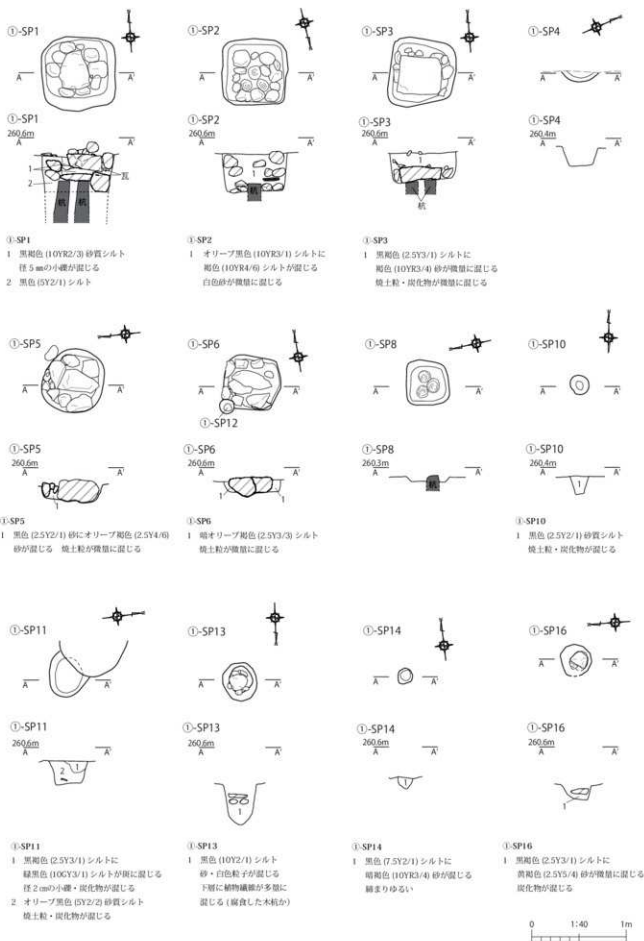


①-SK16

1 黒褐色 (2.5Y2/1) シルトに暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルトが混じる 焼土・灰が多量に混じる 焼き締まる

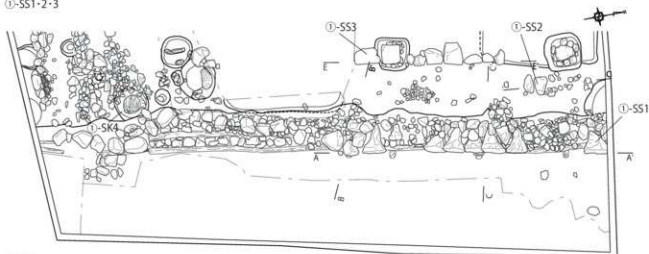


第13図 1-①区(3)



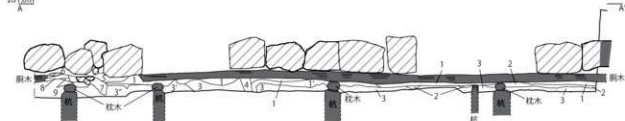
第14図 1-①区(4)

①-SS1・2・3



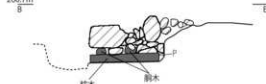
①-SS1

261.0m



- 1 黒色(10YR2/1)砂質シルト 径3cmの卵石・石を詰める 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 1' 黒褐色(10YR2/2)シルトに赤い黄褐色(10YR4/3)粗粒砂が塊に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 2 黒褐色(10YR3/2)粗粒砂に赤い黄褐色(10YR4/3)粗粒砂が塊に混じる
- 3 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 炭岩粒が微量に混じる 締まりあり
- 3' 3層に似るがやや炭岩粒が多い
- 3'' 黒色(10YR2/1)シルト
- 4 黒褐色(10YR3/1)粗粒砂
- 5 灰色(5Y4/1)粗粒砂
- 6 オリーブ黒色(5Y2/2)細粒砂
- 7 暗褐色(10YR3/3)粗粒砂
- 8 黒色(10YR2/1)シルトに褐色(10YR4/6)粗粒砂が40%混じる 径4cmの石が混じる
- 9 黒色(10YR2/2)砂質シルト

260.7m

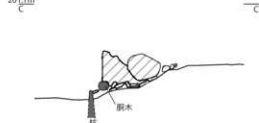


①-SS2

260.7m



261.1m

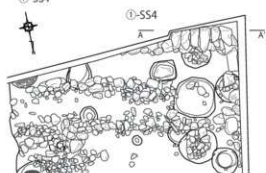


①-SS3

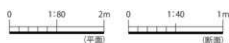
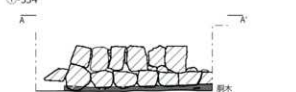
260.7m



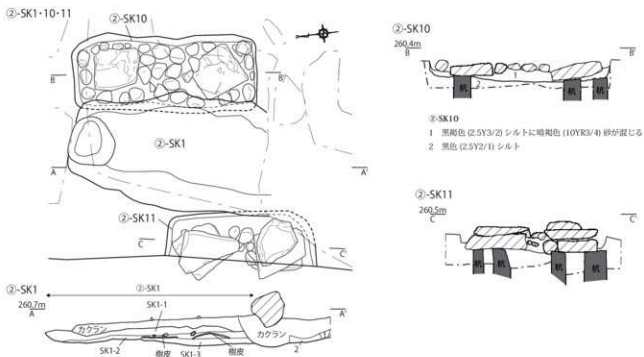
①-SS4



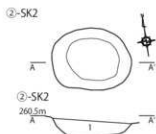
①-SS4



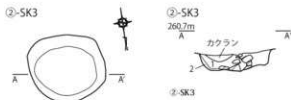
第15図 Ⅰ-①区(5)



- ②-SK1
- SK1-1 黒褐色(10YR2/3)砂 径2cmの小礫・径1cmの焼土ブロック・炭化物が混じる
- SK1-2 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径3cmの小礫が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- SK1-3 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径3cmの焼土ブロック・炭化物が多量に混じる
- 1 焼土ブロック
 - 2 黒色(10YR3/1)シルト 炭化粒が微量に混じる

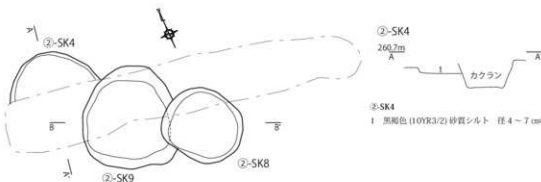


- ②-SK2
- 1 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり



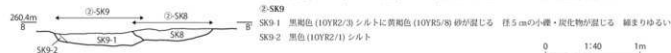
- ②-SK3
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径10~12cmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる
 - 2 黒褐色(2.5Y3/1)シルト

②-SK4・8・9

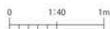


- ②-SK4
- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 径4~7cmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる

②-SK9-8

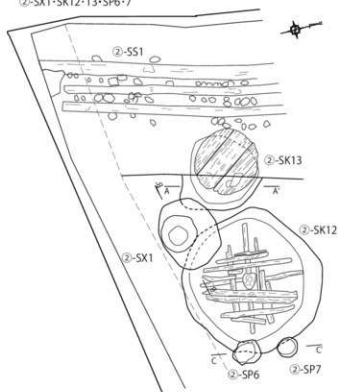


- ②-SK8
- SK8 黒褐色(10YR2/3)シルトに褐色(10YR4/6)砂が混じる 径5~10cmの小礫・炭化物が混じる
- ②-SK9
- SK9-1 黒褐色(10YR2/3)シルトに黄褐色(10YR5/8)砂が混じる 径5cmの小礫・炭化物が混じる 締まりゆるい
- SK9-2 黒色(10YR2/1)シルト



第16図 1-②区(1)

②-SX1-SK12-13-SP6-7



②-SK13



②-SK13

1 黒色 (2.5Y2/1) シルトに暗褐色 (10YR3/3) 砂・褐色 (10YR4/6) 砂が混じる炭化物が混じる

②-SX1



②-SX1

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 径3～4cmの礫が混じる 炭化物が微量に混じる
 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂が混じる
 3 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 径2cmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる
 4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルトに黒色 (N2/0) シルトが混じる 炭化物が微量に混じる
 5 緑褐色 (10GY2/1) シルト

②-SP6-7



②-SP6

SP6 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物が極微量に混じる
 下層に黄灰色 (2.5Y4/1) 粗粒砂が混る

②-SP7

SP7 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 上層に焼土粒・炭化物が堆積する

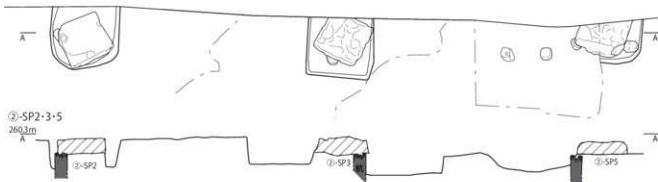
②-SP2-3-5



②-SP2

②-SP3

②-SP5



②-SP2-3-5

260.3m

②-SP1



②-SP1



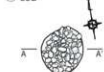
②-SP4



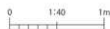
②-SP4



②-SS2

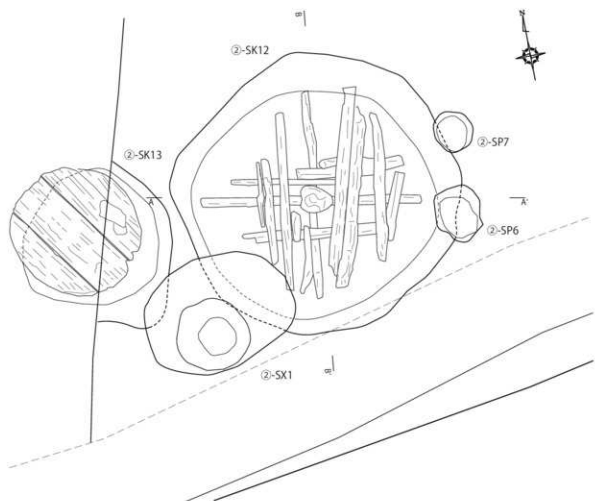


②-SS2

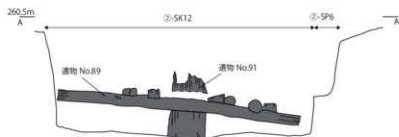


第17図 1-②区(2)

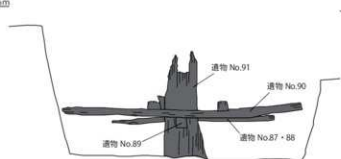
②-SX1-SK12-13-SP6-7



②-SK12-SP6

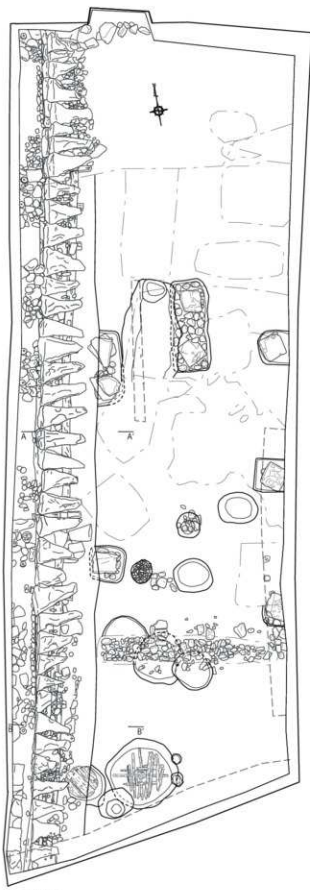


②-SK12
260.5m
B

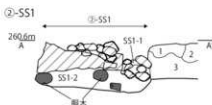


0 1:20 50m

第18図 1-②区(3)



②-SS1



②-SS1(北側)

SS1-1 暗オリーブ色(2.5Y3/3)砂質シルト 細粒砂が混じる

SS1-2 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 細粒砂が混じる

1 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト 径5mmの小礫が混じる

焼土粒・炭化物が微量に混じる

2 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり

3 黒色(2.5Y2/1)シルト 炭化物が極微量に混じる

26.0m



②-SS1(南側)

1 黒褐色(10YR2/2)砂 径5mmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる

2 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり

3 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土粒・炭化物が混じる

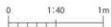
3' 3'層に黒褐色(2.5Y3/1)シルトが混じる

4 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂質シルト 細粒砂が混じる

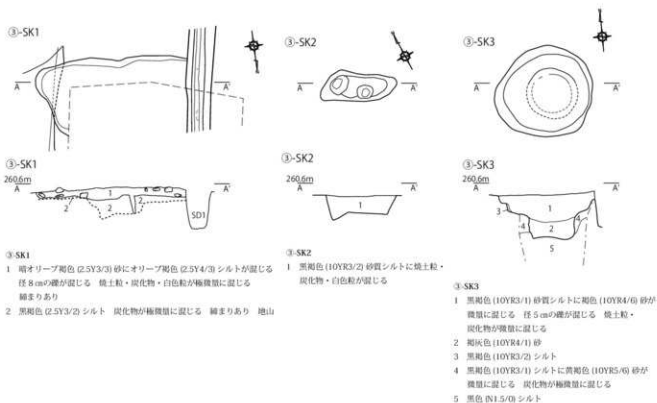
5 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 細粒砂が混じる

6 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりあり

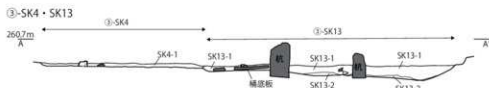
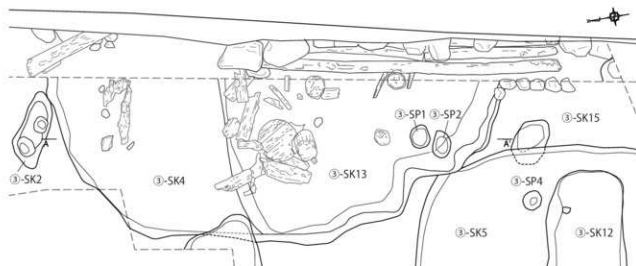
7 黒色(2.5Y2/1)シルト 炭化物が極微量に混じる



第19図 1-②区(4)



③-SK4・SK13



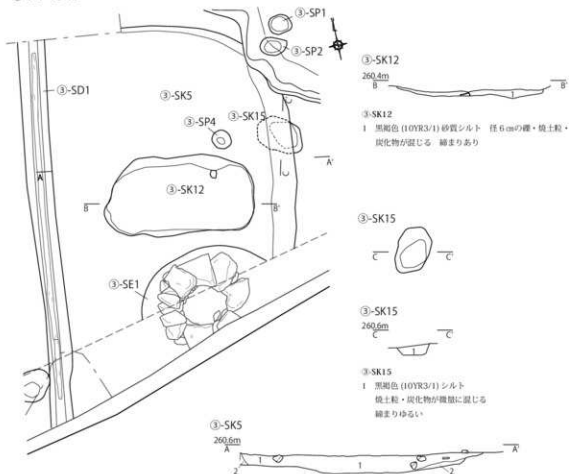
③-SK4・SK13

- SK4-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に黄褐色 (10YR5/0) 砂が混じる 径 3 cm の礫が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
SK13-1 黒色 (10YR2/1) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
SK13-2 黒色 (7.5Y2/1) シルト 白色粒が稀散に混じる

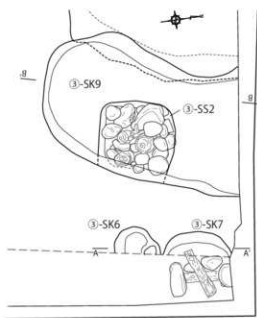


第20図 1-③区(1)

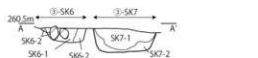
③-SKS-12-15



- ③-SK5
1 黒褐色 (7.5YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる
2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり

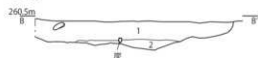


③-SK6・7

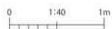


- ③-SK6
SK6-1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 径10cmの礫・砂が混じる
SK6-2 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト
- ③-SK7
SK7-1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる
SK7-2 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト

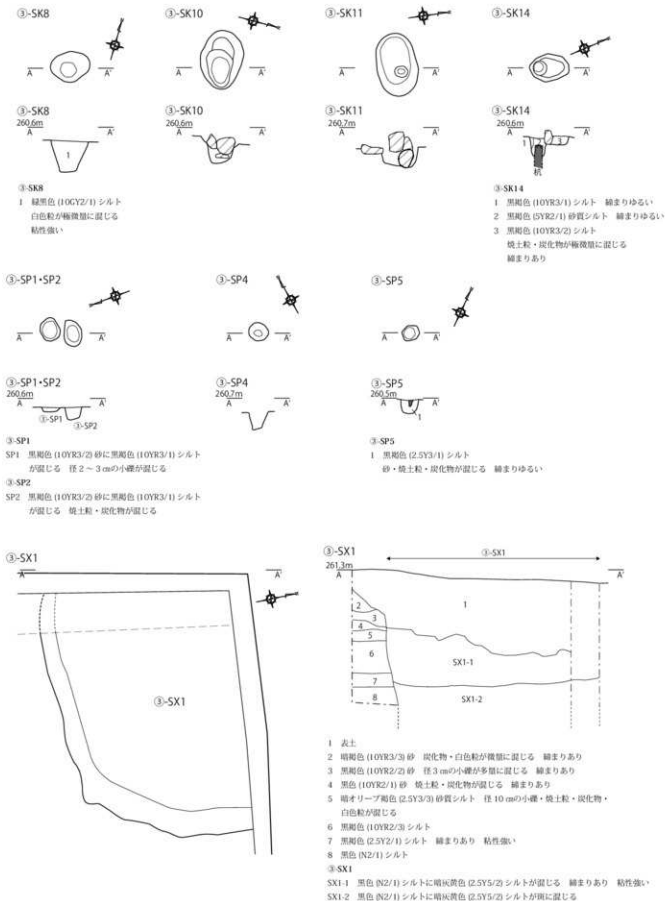
③-SK9



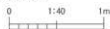
- ③-SK9
1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径2~3cmの焼土ブロック・炭化物を多量に含む
2 黒色 (10YR1.7/1) 砂 焼土粒・炭化物を多量に含む

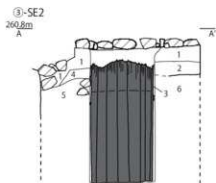
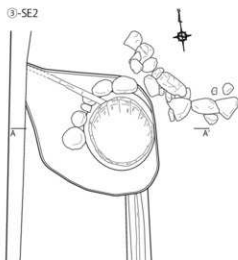
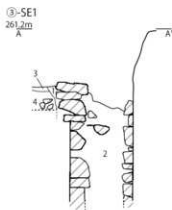
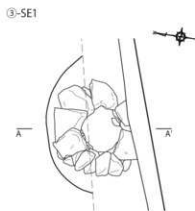
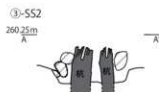
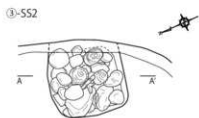
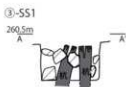
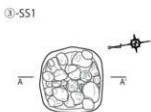


第21図 1-③区(2)



第22図 1-③区(3)





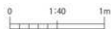
③-SE1

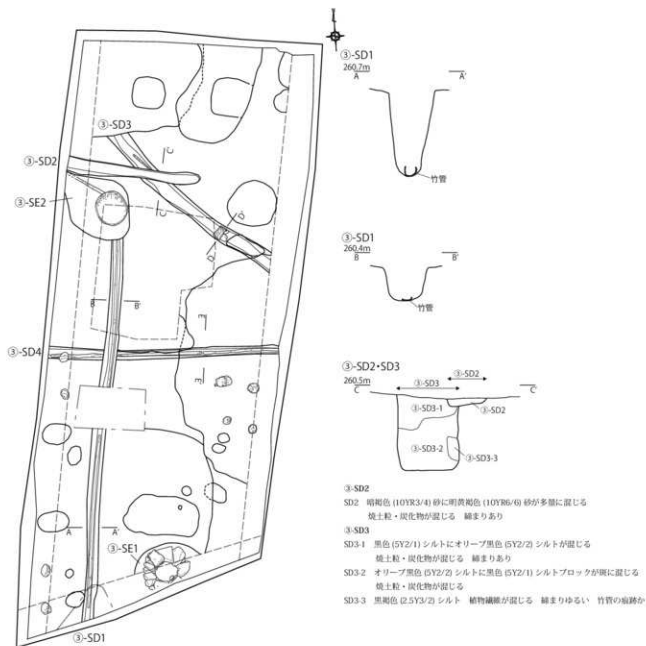
- 1 黒色 (2.5Y2/1) シルト 焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい
- 2 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 3 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる
- 4 3層より焼土粒・炭化物が多量に混じる

③-SR2

- 1 黒色 (N1.5/0) シルトに多い黒褐色 (10YR4/3) 砂が混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 白色粒が混じる
- 3 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 締まりゆるい
- 4 黒色 (5Y2/1) シルト
- 5 4層に似るが砂が微量に混じる
- 6 黒色 (7.5Y2/1) シルト

第23図 I-③区(4)





③-SD1
260.2m
A

③-SD1
260.4m
B

③-SD2-SD3
260.5m
C

③-SD3
260.3m
D

③-SD4
260.5m
E

- ③-SD2
SD2 暗褐色(10YR3/4)砂に明黄褐色(10YR6/6)砂が多量に混じる
焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- ③-SD3
SD3-1 黒色(5Y2/1)シルトにオリーブ黒色(5Y2/2)シルトが混じる
焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- SD3-2 オリーブ黒色(5Y2/2)シルトに黒色(5Y2/1)シルトブロックが混じる
焼土粒・炭化物が混じる
- SD3-3 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 植物繊維が混じる 締まりゆるい 竹管の痕跡が

- ③-SD3
1 黒色(2.5Y2/1)シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる
締まりゆるい 粘性強い

- ③-SD4
1 黒褐色(10YR3/1)シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる
締まりゆるい

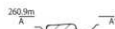


第24図 1-③区(5)

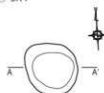
④-SK1



④-SK1



④-SK4



④-SK4



④-SK4

1 オリーブ黒色 (SY3/2) 砂質シルト
径6~10cmの礫が混じる
炭化物が輪痕盤に混じる
結まりあり

④-SK5



④-SK5



④-SK5

1 黒色 (Z5Y2/1) 砂 砂利・焼土粒・炭化物が混じる 結まりゆるい
2 黒色 (Z5Y2/1) 砂 焼土粒・炭化物が混じる 結まりゆるい

④-SK7



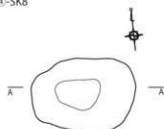
④-SK7



④-SK7

1 黒色 (10YR2/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が輪痕盤に混じる
2 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 焼土粒・白色粒が輪痕盤に混じる

④-SK8



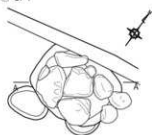
④-SK8



④-SK8

1 黒色 (5Y2/1) シルトに
青灰色 (5BG5/1) シルトが混じる
結まりゆるい

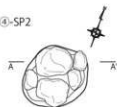
④-SP1



④-SP1



④-SP2



④-SP2



④-SP3



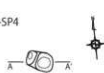
④-SP3



④-SP3

1 黒色 (Z5Y2/1) 砂に
暗褐色 (10YR3/4) 砂ブロックが混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる

④-SP4



④-SP4



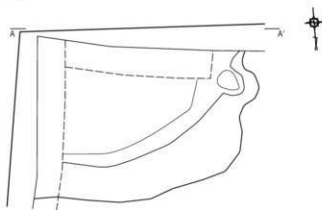
④-SP4

1 黒色 (Z5Y2/1) 砂
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる

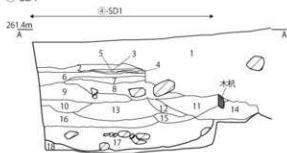


第25図 1-④区(1)

④-SD1



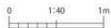
④-SD1

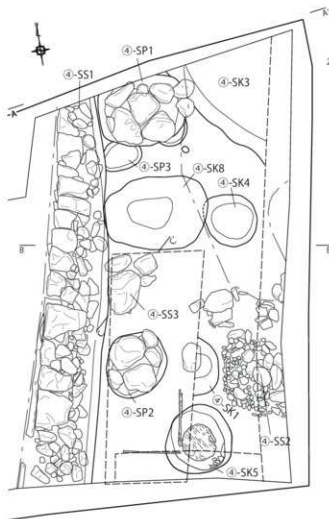


④-SD1

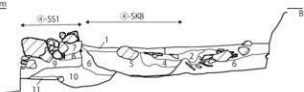
- 1 表土・砕石層
- 2 黒褐色(10YR2/2)シルト
- 3 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト 締まりあり
- 4 暗灰黄色(2.5Y4/2)砂 締まりあり
- 5 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂 コンクリート片・径3cmの小礫が混じる 締まりあり
- 6 黒褐色(10YR2/3)砂 礫が混じる 炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 7 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 8 黒褐色(10YR2/3)砂に黄褐色(10YR5/6)砂が混じる 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 9 黒褐色(10YR2/3)砂 径5～9cmの卵石が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 10 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 11 黒褐色(10YR2/3)砂 径5cmの礫・焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 12 黒褐色(10YR2/3)砂に褐色(10YR4/4)軽砂が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 13 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 14 黒褐色(10YR2/3)砂 径5cmの礫・焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 15 径5mmの砂利が溜まる
- 16 SD1 覆土 暗褐色(10YR3/3)砂 径5cmの礫が混じる 焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 17 SD1 覆土 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 18 黒色(5Y2/1)シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい

第26図 1-④区(2)





261.3m
B

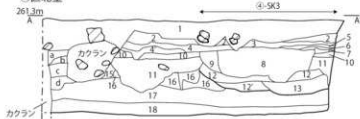


- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 径5cmの礫が混じる 締まりあり
- 2 黒色 (2.5Y2/1) シルト 砂が混じる
- 3 黒色 (2.5Y2/1) シルト 泥付粒が微量に混じる
- 4 SK8 覆土 黒色 (2.5Y2/1) シルトに青灰色 (5BG5/1) シルトが混じる 締まりゆるい
- 5 SK8 覆土 黒色 (5Y2/1) シルト 締まりゆるい
- 6 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 7 SS1 覆土 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 砂・焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる
- 8 SS1 覆土 黒褐色 (10YR2/2) 砂に褐色 (10YR4/6) 砂が混じる
- 9 SS1 覆土 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 径5cmの礫・砂が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 10 黒色 (2.5G2/1) シルト 砂が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる
- 11 黒色 (2.5G2/1) シルト

260.9m
C



④区北壁



④区北壁

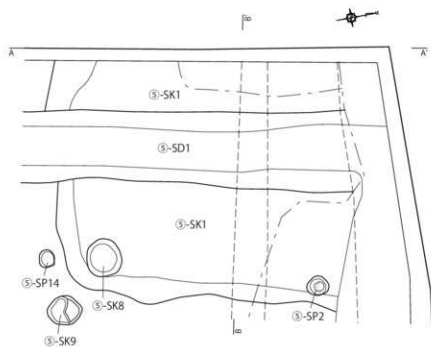
- 1 表土 砕石層
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 レンガ・径2cmの小礫・炭化物が混じる 締まりあり
- 3 黒色 (10Y1.7/1) 砂 コンクリート片・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂 径3cmの礫が混じる 締まりあり
- 4' オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂に暗褐色 (10YR3/3) 砂が混じる 炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 5 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化物・灰が多量に混じる
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂 礫が混じる 炭化物が極微量に混じる 締まりあり
- 7 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が極微量に混じる
- 8 割石の集積
- 9 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黒色 (10YR2/1) シルトが混じる 焼土粒・炭化物が混じる
- 10 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂・焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 11 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径3~4cmの礫が混じる 焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 12 SK3 覆土 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 12' SK3 覆土 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粗粒砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり

- 13 SK3 覆土 黒褐色 (10YR3/2) シルトに黒褐色 (10YR5/6) 砂が極微量に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 14 黒褐色 (10YR3/3) 粗粒砂に黒褐色 (10YR3/2) シルトが混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 下層に泥付粒が微量に混じる
- 15 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 16 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 砂・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 16' 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 17 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 砂・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 18 黒色 (5Y2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- a SS1 覆土 黒褐色 (10YR2/2) 砂 締まりあり
- b SS1 覆土 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂
- c SS1 覆土 黒褐色 (10YR3/1) 粗粒砂 径1cmの小礫が混じる
- d SS1 覆土 黒色 (10Y1.7/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる

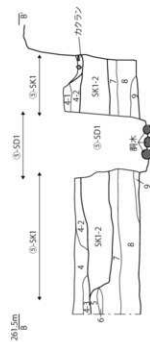
第27図 1-④区(3)



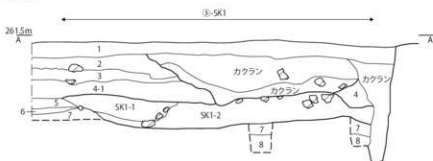
⑤-SK1・SD1



⑤-SK1・SD1



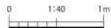
⑤-SK1

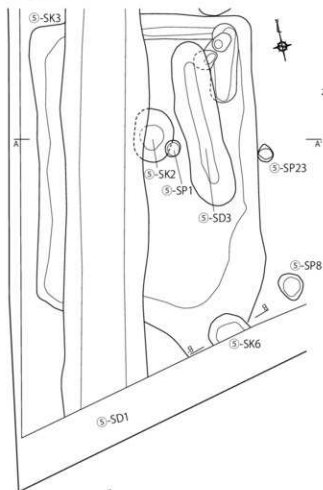


⑤-SK1・SD1

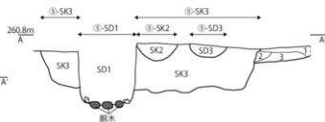
- 1 表土・砕石層
 - 2 灰色黄褐色 (10YR5/3) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり 現代の造成土
 - 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 2cm の焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 締まりあり 戦後層
 - 41 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
 - 42 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
 - 43 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる
 - 5 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
 - 6 黒色 (10YR2/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
 - 7 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 肥疇粒が微量に混じる 炭化物が極微量に混じる
 - 8 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 砂が混じる 7層より泥疇粒が多い 炭化物が極微量に混じる
 - 9 黒色 (2.5Y2/1) シルト 締まりゆるい
- SK1-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径 5cm の礫・焼土ブロック・炭化物が混じる
 SK1-2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 10cm の礫・焼土ブロック・炭化物が多量に混じる

第28図 I-⑤区(1)



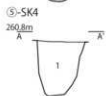
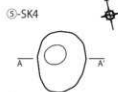


⑤-SK3・SD1・SK2・SD3

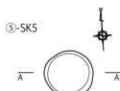


⑤-SK3・SD1・SK2・SD23

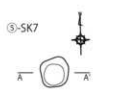
- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルト 砂・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 2 黒色 (10YR1.7/1) シルト 締まりゆるい
- 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト 炭化物が輪層に混じる 締まりゆるい
- SK2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が輪層に混じる 締まりあり
- SK3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土ブロック・炭化物が多量に混じる
下層に炭化物が増積する 締まりあり
- SD3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が輪層に混じる 締まりあり



- ⑤-SK4
1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 径2cmの礫・焼土粒・炭化物が混じる



- ⑤-SK5
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土ブロックが多量に混じる 下層に炭化物が増積する



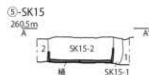
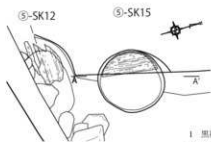
- ⑤-SK7
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が輪層に混じる



- ⑤-SK8
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径3~6cmの礫・焼土粒・炭化物が混じる

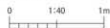


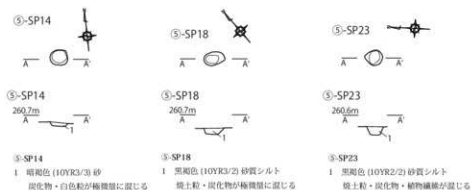
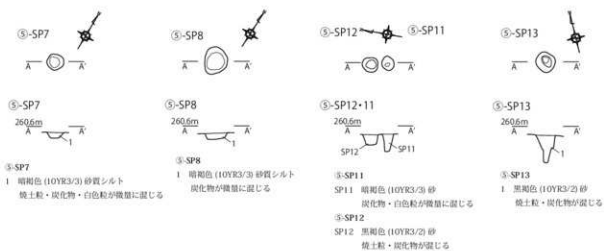
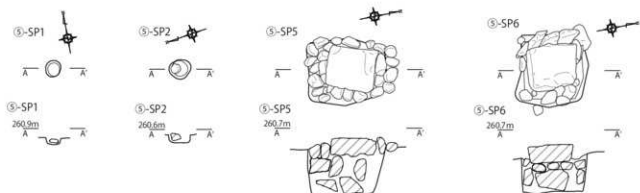
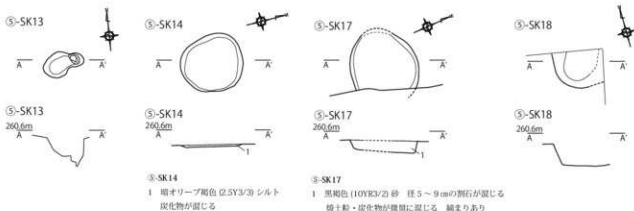
- ⑤-SK9
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が輪層に混じる



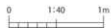
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が輪層に混じる
 - 2 黒色 (10YR1.7/1) シルト 白色粒が輪層に混じる 締まりあり
- ⑤-SK15
SK15-1 黒色 (10YR2/1) シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂が混じる 締まりゆるい
SK15-2 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 下層に炭化物が増積する

第29図 1-⑤区(2)

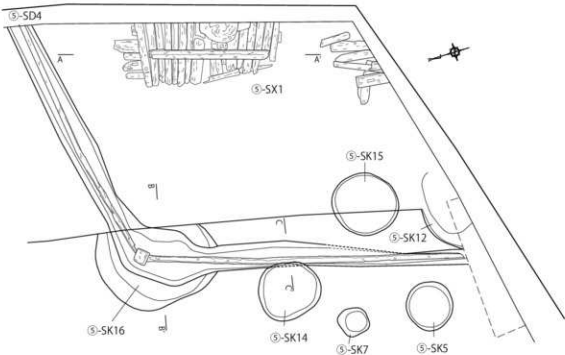




第30図 1-⑤区(3)

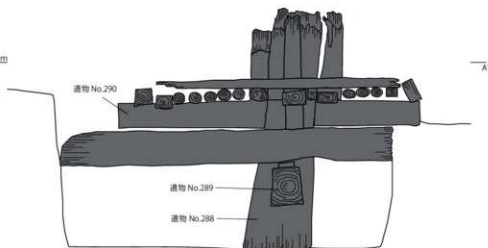


⑤-SX1・SD4



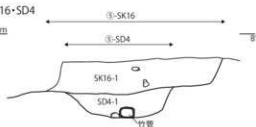
⑤-SX1

260.0m
A



⑤-SK16・SD4

260.6m
B



⑤-SD4

260.6m
C



⑤-SK16・SD4

SK16-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径 4 cm の石が混じる
焼土粒・炭化物が微量に混じる

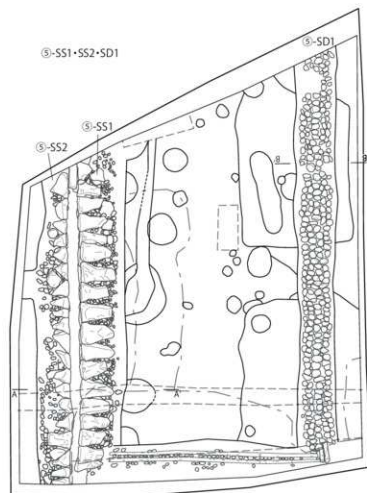
SD4-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 砂・炭化物が極微量に混じる
締まりゆるい

⑤-SD4

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
砂・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい

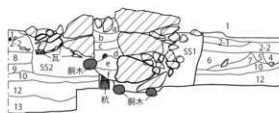


第31図 I-⑤区(4)



⑤-SS2・SS1

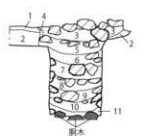
261.5m



- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 21 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 22 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒が多量に混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる
- 4 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 5～9mm の卵石が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 7 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 8 黒色 (2.5Y3/1) 色シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 9 黒色 (10YR2/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 10 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 泥岩粒が微量に混じる 炭化物が極微量に混じる
- 11 黒色 (2.5Y2/1) シルト 締まりゆるい
- SS1 黒色 (7.5Y2/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりゆるい
- SS2 黒色 (2.5Y2/1) シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる
- a 黒褐色 (10YR2/3) 粗粒砂 径 2cm の小径が混じる
- b 炭化物層
- c 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂 下部に径 5cm の卵石が混じる 締まりゆるい
- d 黒褐色 (10YR2/2) 砂 礫皮が混じる 締まりゆるい
- e 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- f 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい

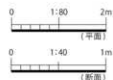
⑤-SD1

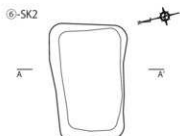
261.5m



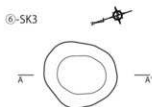
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 2cm の焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 締まりあり 炭化物層
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
- 3 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 4 SD1 覆土 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 締まりゆるい
- 5 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルトに黒褐色 (10YR2/3) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 6 SD1 覆土 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/2) 砂に黒色 (7.5Y2/1) シルトが混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 7 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂が微量に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 8 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルトに灰褐色 (10YR4/2) 砂が微量に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 9 SD1 覆土 黒色 (10YR1.7/1) シルト 砂・焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 10 SD1 覆土 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 11 SD1 覆土 黒褐色 (10YR3/1) シルト 焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい

第32図 ⑤-⑤区(5)

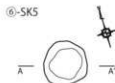
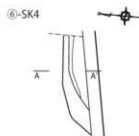




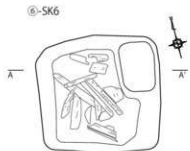
- ⑥-SK2
1 柿崎褐色 (7.5YR2/3) 粗粒砂
焼土粒・炭化物が多量に混じる
2 黒褐色 (10YR3/2) 粗粒砂 炭化物が混じる



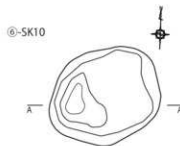
- ⑥-SK3
1 黒褐色 (10YR2/3) 細粒砂に赤い黄褐色 (10YR4/3) 砂
が混じる 焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい
2 に赤い黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂 炭化物が微量に混じる
締まりゆるい
3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい



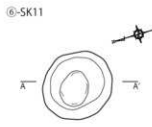
- ⑥-SK5
1 黒褐色 (10YR2/2) シルト
焼土粒・炭化物が微量に混じる



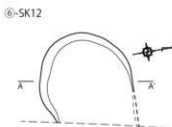
- ⑥-SK7
1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂 炭化物が微量に混じる
締まりゆるい
2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂 径 10 cm の礫・炭化物が混じる
締まりゆるい
3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が混じる
4 黒色 (10YR2/1) シルトブロック 締まりゆるい
5 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物が混じる
下層に植物繊維が広がる 締まりゆるい
6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物が混じる 締まりあり
7 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 白色粒が微量に混じる
締まりあり



- ⑥-SK10
1 黒色 (10YR2/1) 砂
径 10 cm の石・焼土粒・炭化物が混じる
締まりゆるい

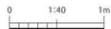


- ⑥-SK11
1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト
径 2 cm の焼土ブロックが多量に混じる
2 黒色 (10YR2/1) シルト 締まりゆるい

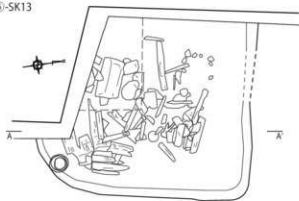


- ⑥-SK12
1 黒色 (10YR2/1) 砂質シルトに灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂
が混じる 炭化物が混じる 締まりゆるい

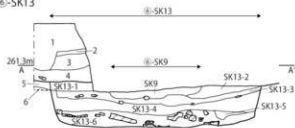
第33図 1-⑥区(1)



⑥-SK13



⑥-SK13



- 1 表土・砂石層
 - 2 暗褐色(10YR3/4)砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
 - 3 暗褐色(10YR3/3)砂 径2~5cmの焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 締まりあり
 - 4 黒褐色(10YR3/2)砂 径3cmの礫・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - 5 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土粒・炭化物が稀微量に混じる 締まりあり
 - 6 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 焼土粒・炭化物が稀微量に混じる 締まりあり
- ⑥-SK9
SK9 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- ⑥-SK13
SK13-1 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
SK13-2 黒褐色(10YR2/3)砂 径1cmの小礫・焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
SK13-3 黒褐色(10YR2/2)砂 径6cmの石・炭化物が微量に混じる 締まりあり
SK13-4 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土粒・炭化物が固に混じる 締まりゆるい
SK13-5 黒色(10YR2/1)砂質シルト 炭化物が稀微量に混じる 締まりゆるい
SK13-6 黒褐色(10YR2/2)砂 木片が多量に混じる 締まりゆるい

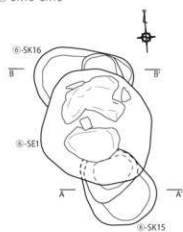
⑥-SK14



⑥-SK14



⑥-SK16・SK15



⑥-SK16



⑥-SK16

- 1 暗褐色(10YR3/3)砂に黄褐色(10YR5/6)砂が固に混じる 炭化物が微量に混じる

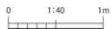
⑥-SK15



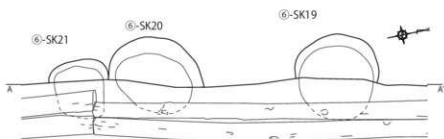
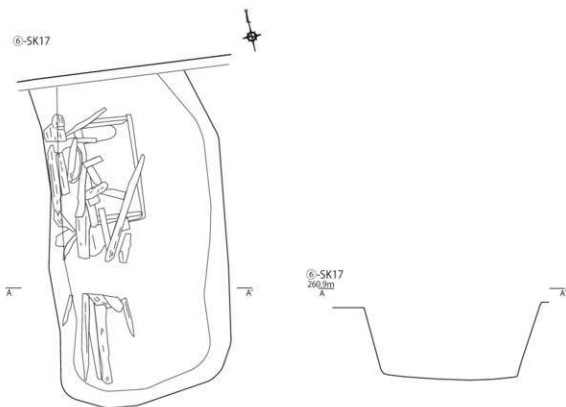
⑥-SK15

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が混じる
- 3 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物が混じる 締まりゆるい

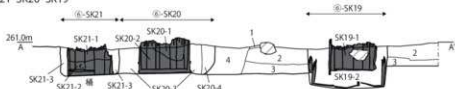
第34図 1-⑥区(2)



⑥-SK17



⑥-SK21-SK20-SK19



- 1 暗褐色(10YR3/3)砂 径5mmの石が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色(10YR2/2)砂質シルトに黒褐色(10YR3/1)シルトが混じる 径2mmの石・炭土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 径1cmの小礫・白色粒・砂が混じる 締まりゆるい
- 4 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルトに黒色(10YR1.7/1)シルトが混じる 径3mmの石・炭化物が混じる 締まりゆるい 粘性強い

⑥-SK19

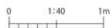
- SK19-1 黒褐色(10YR3/1)砂 炭土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
SK19-2 黒色(10YR2/1)砂質シルト 炭土粒・炭化物・漆喰が混じる 締まりゆるい

⑥-SK20

- SK20-1 黒褐色(10YR3/1)砂 径5mmの石・炭土粒・炭化物が混じる 締まりあり
SK20-2 黒褐色(10YR2/2)砂 炭土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
SK20-3 黒褐色(10YR3/1)砂 径5mmの石・炭化物・白色粒が混じる 締まりゆるい
SK20-4 黒色(10YR2/1)砂質シルト 径3mmの石・炭化物が混じる 締まりゆるい 粘性強い

⑥-SK21

- SK21-1 黒褐色(10YR3/1)砂 径5mmの石・炭化物が混じる 締まりあり
SK21-2 黒褐色(10YR3/2)砂 径5mmの石・炭化物が混じる 締まりゆるい 下層に灰黄褐色(10YR4/2)砂が堆積する
SK21-3 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径5mmの石・炭化物が混じる 締まりゆるい

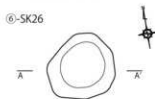


第35図 Ⅰ-⑥区(3)

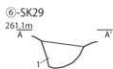


⑥-SK23
SK23 黒褐色 (10YR2/3) 砂
焼土粒・炭化物が混じる

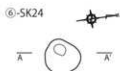
⑥-SK31
SK31 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
炭化物・白色粒が混じる



⑥-SK26
1 黒褐色 (10YR3/2) シルト
径 5 cm の礫・焼土粒・
径 1 cm の炭化物ブロックが混じる
締まりゆるい



⑥-SK29
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
焼土粒・炭化物が混じる
下部に褐色 (10YR4/4) 粗粒砂が埋積する



⑥-SK24
1 にぶい黒褐色 (10YR4/3) 砂に
黒褐色 (10YR2/3) 砂が混じる
炭化物が混じる



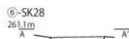
⑥-SK27
1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる
炭化物が微量に混じる 締まりゆるい



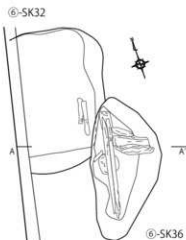
⑥-SK30
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
径 1 cm の礫・焼土粒・炭化物が混じる
締まりあり



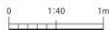
⑥-SK25
1 黒褐色 (10YR2/2) シルト
焼土粒・炭化物が混じる



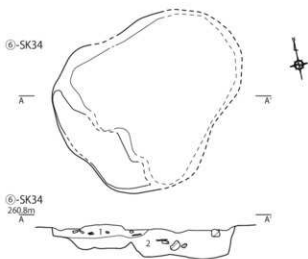
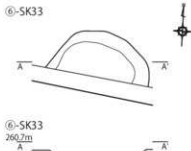
⑥-SK28
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
焼土粒・炭化物が微量に混じる
締まりゆるい



⑥-SK32-SK36
1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
炭化物が微量に混じる
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
径 2 mm の石・炭化物が混じる 締まりゆるい

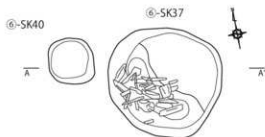
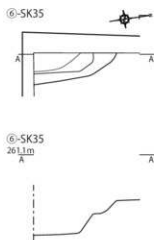


第36図 | ⑥区(4)



⑥-SK34

- 1 黒色(10YR1.7/1)砂質シルト 径2cmの小礫・植物繊維が混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルトにふい貴州色(10YR5/4)砂が混じる 締まりゆるい



⑥-SK40-SK37



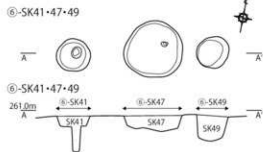
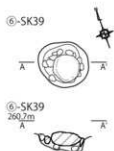
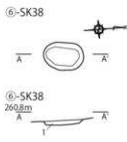
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 炭化物が稀散に混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色(7.5Y2/1)シルト

⑥-SK37

SK37 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 植物繊維が多量に混じる 締まりゆるい

⑥-SK40

SK40 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 径5cmの小礫・炭化物が混じる 締まりゆるい



⑥-SK38

- 1 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 径1cmの小礫が混じる 炭化物が頻りに混じる 締まりゆるい

⑥-SK41

SK41 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 径1cmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい

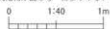
⑥-SK47

SK47 暗褐色(10YR3/1)砂質シルトにふい貴州色(2.5Y6/4)粗粒砂が混じる 径1cmの小礫・炭化物が混じる

⑥-SK49

SK49 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい

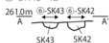
第37図 I-⑥区(5)



⑥-SK43・42



⑥-SK43・42



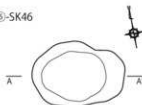
※SK43

SK43 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
径 1 cmの小礫・焼土粒・
炭化物が混じる 締まりゆるい。

※SK42

SK42 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
径 1 cmの小礫・焼土粒・
炭化物が混じる 締まりゆるい。

⑥-SK46



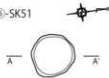
⑥-SK46



※SK46

1 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
径 1 cmの小礫・炭化物が混じる
締まりゆるい。

⑥-SK51



⑥-SK51



※SK51

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂にふい・黄褐色 (2.5Y6/1) 砂が混じる
径 1 cmの小礫・焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい。

⑥-SK44



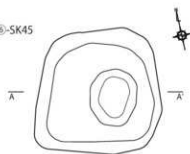
⑥-SK44



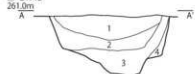
※SK44

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物が混じる 締まりゆるい。

⑥-SK45



⑥-SK45



※SK45

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 5 cmの礫・焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい。
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト
径 1 cmの小礫・砂が混じる 締まりゆるい。
- 3 黒褐色 (10YR3/1) シルト
炭化物・植物繊維・砂が混じる 締まりゆるい。
- 4 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 締まりゆるい。

⑥-SK50



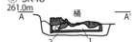
⑥-SK50



⑥-SK48



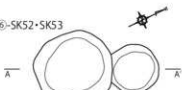
⑥-SK48



※SK48

- 1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルトに
ふい・黄褐色 (10YR4/3) 砂が混じる
炭化物が微量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトに
ふい・黄褐色 (10YR4/3) 砂が混じる
締まりゆるい。

⑥-SK52・SK53



⑥-SK52・SK53



※SK52

SK52 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂にオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂が混じる
径 5 cmの礫・木片が混じる 締まりゆるい。

※SK53

SK53 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
径 4 cmの礫・木片が混じる 締まりゆるい。

⑥-SK54



⑥-SK54



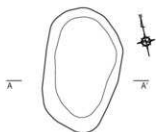
※SK54

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
径 5 cmの礫・木片が多数に混じる
締まりゆるい 粘性強い。

第38図 1-⑥区(6)



⑥-SK55

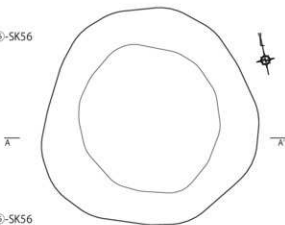


⑥-SK55

260.9m
A



⑥-SK56



⑥-SK56

260.0m
A



⑥-SK57



⑥-SK57

260.0m
A



⑥-SK57

1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
粘りゆるい・粘性強い

⑥-SK58



⑥-SK58

260.0m
A



⑥-SK58

1 黒色 (7.5Y2/1) シルトに黒色 (N2/1) シルトが
斑に混じる 粘りゆるい

⑥-SK59



⑥-SK59

260.8m
A



⑥-SK59

1 黒色 (7.5Y2/1) シルトに黒色 (N2/1) シルトが
斑に混じる 粘りゆるい

⑥-SX3



⑥-SX3

261.3m
A

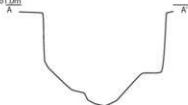


⑥-SX4

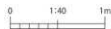


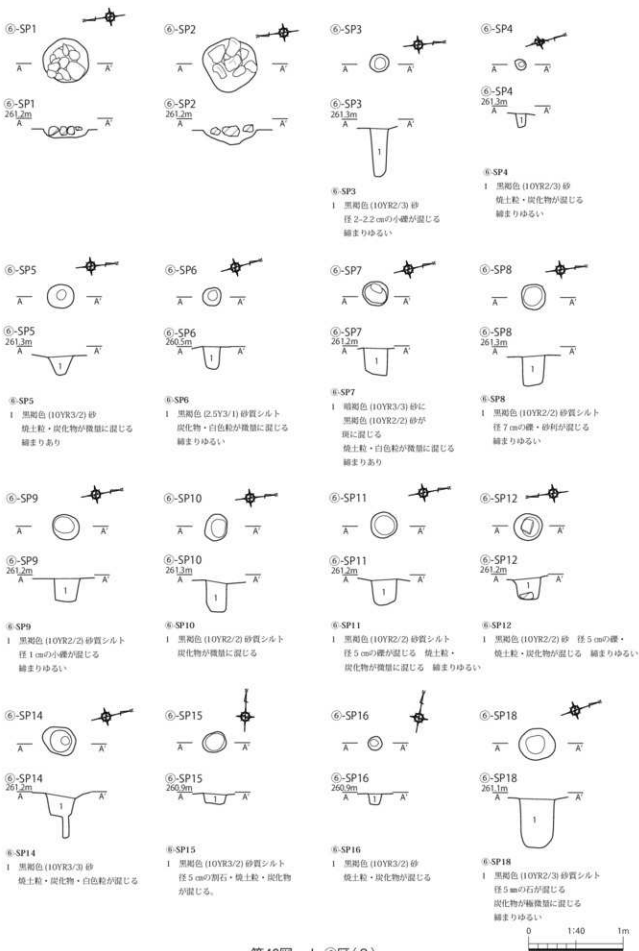
⑥-SX4

261.0m
A

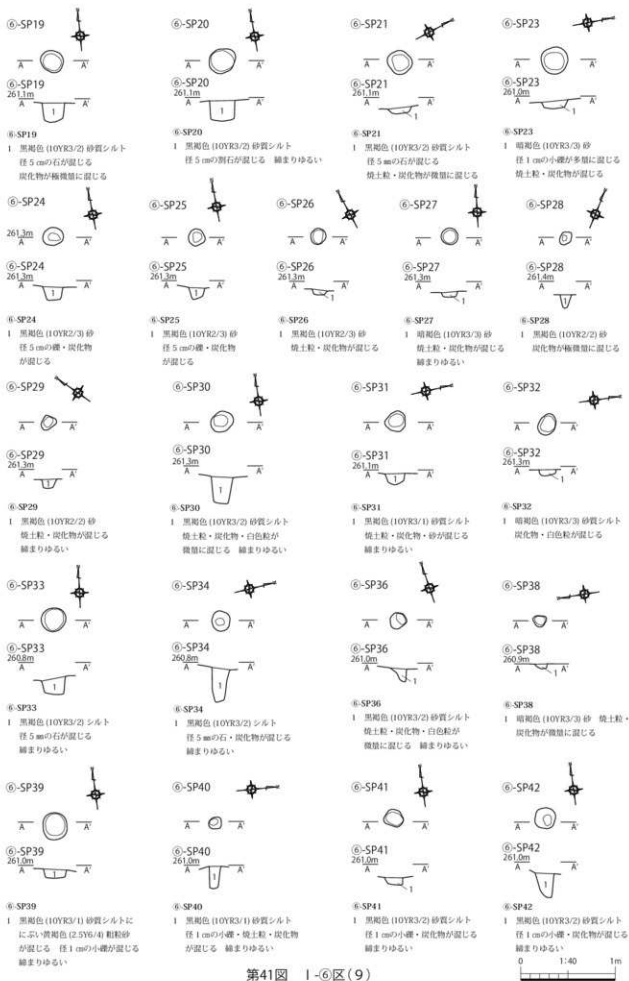


第39図 1-⑥区(7)

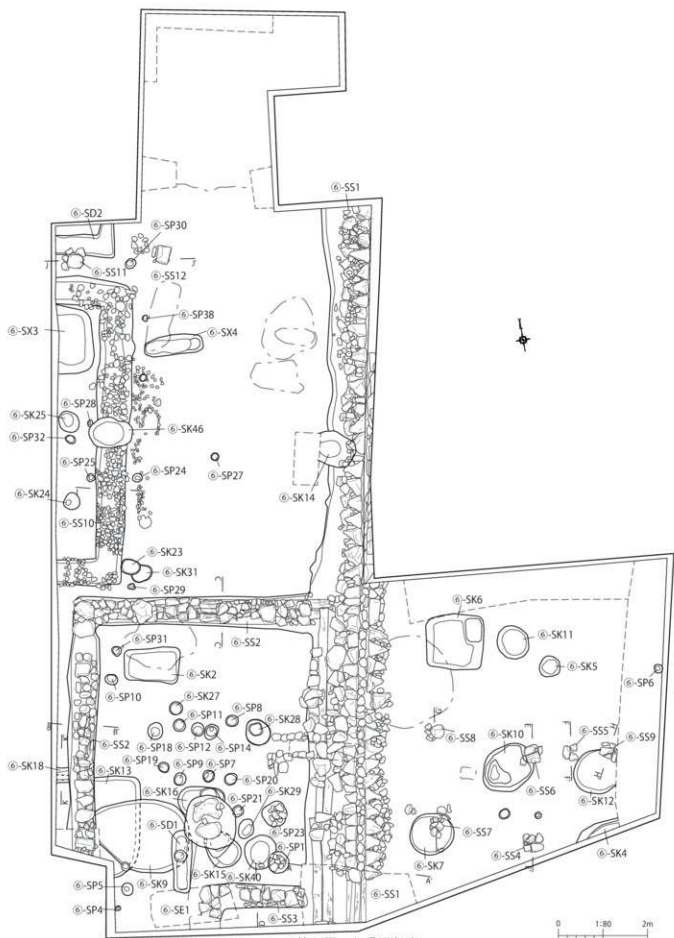




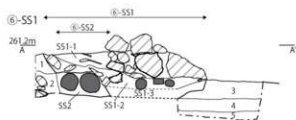
第40図 I-⑥区(8)



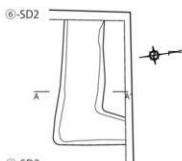
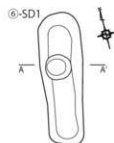
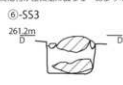
第41図 1-⑥区(9)



第42图 I-6区(10)



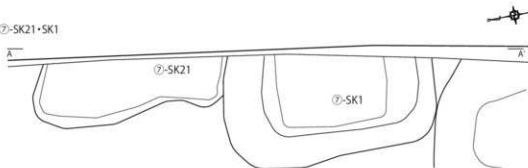
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルトに黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる 結まりあり
 - 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトが混に混じる
径 5 mm の石・炭化物が混じる 結まりゆるい [SK37 覆土]
 - 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物が極微量に混じる 径 2~3 mm の石が混じる
結まりあり
 - 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 結まりあり
 - 5 黒色 (2.5Y2/1) シルト
- ⑥-SS1
SS1-1 黒褐色 (2.5Y2/1) 砂 径 10 cm の卵石が混じる 結まりあり
SS1-2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 結まりゆるい
SS1-3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトに黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる
径 1 cm の小礫が混じる
- ⑥-SS2
SS2 黒色 (10YR2/1) シルト 炭化物が極微量に混じる 結まりゆるい



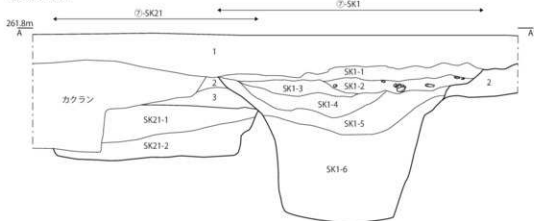
第43図 I-⑥区(11)



⑦-SK21・SK1



⑦-SK21・SK1



⑦-SK21・SK1

- 1 表土 砕石層
 2 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 3 黒褐色(10YR3/2)砂 径5mmの石・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- ⑦-SK1
 SK1-1 黒褐色(10YR3/2)砂に赤い黄褐色(10YR4/3)砂が混じる 径5mmの石が混じる 締まりあり
 SK1-2 径0.5～1cmの小礫が埋積する。
 SK1-3 黒褐色(10YR3/2)砂 径5mmの石・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
 SK1-4 黒褐色(10YR3/2)砂に赤い黄褐色(10YR4/3)砂が混じる 径5mmの石・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
 SK1-5 黒色(10YR2/1)砂 径5cmの焼土ブロック・炭化物・植物繊維が混じる 締まりゆるい
 SK1-6 黒色(10YR1.7/1)細粒砂 植物繊維・木材が多量に混じる 締まりゆるい
- ⑦-SK21
 SK21-1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルトに黒色(10YR2/1)シルトブロックが混じる 径1cmの小礫・焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
 SK21-2 黒色(10YR2/1)シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい

⑦-SK4



⑦-SK4



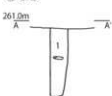
⑦-SK4

- 1 黒褐色(10YR3/1)シルトに暗褐色(10YR3/4)粗粒砂が混に混じる 締まりゆるい

⑦-SK5



⑦-SK5



⑦-SK5

- 1 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルトに黒褐色(10YR3/1)砂質シルトが混に混じる 炭化物が混じる 締まりゆるい・粘性強い

⑦-SK6

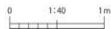


⑦-SK6

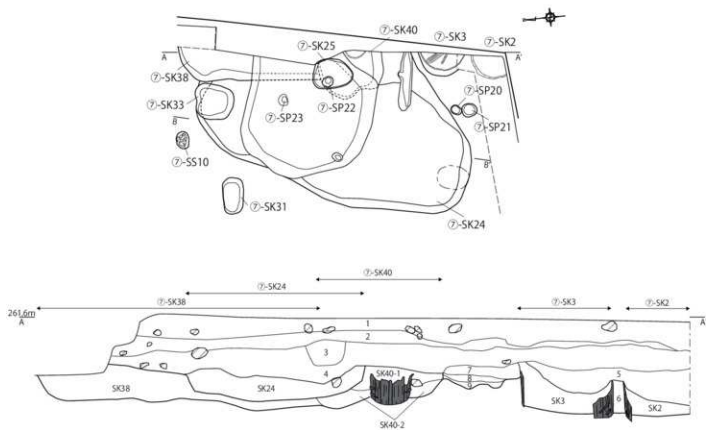


⑦-SK6

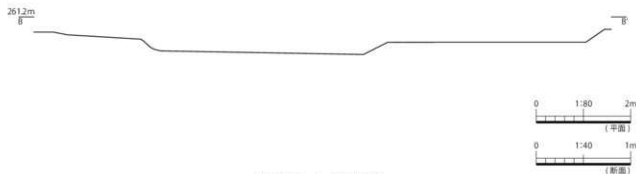
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径2cmの小礫・炭化物が混じる 締まりゆるい



第44図 1-⑦区(1)

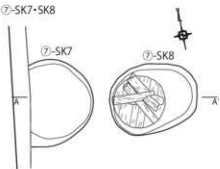


- 1 表土 砕石層
 - 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 1 cm の小礫が混じる 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりあり
 - 3 暗褐色 (10YR2/3) シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる
 - 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 径 10 mm の礫・径 1 cm の焼土ブロック・炭化物が混じる 締まりあり
 - 5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂にオリーブ褐色 (2.5YR4/4) 砂が混じる 炭化物が混じる
 - 6 黒褐色 (2.5Y3/2) シルトに黄褐色 (2.5Y5/6) 砂が混じる 焼土粒・炭化物が混じる
 - 7 黒褐色 (10YR2/3) 砂に暗褐色 (10YR3/3) 砂が混じる 炭化物が混じる 締まりあり
 - 8 黒褐色 (10YR2/3) シルトに黄褐色 (10YR5/8) 砂が混じる 炭化物が混じる 締まりゆるい
 - 9 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物が混じる 締まりゆるい
- ⑦-SK2
SK2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂に黄褐色 (10YR5/8) 砂が混じる 炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- ⑦-SK3
SK3 黒色 (10YR2/1) シルトに黄褐色 (10YR5/8) 砂が混じる 炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- ⑦-SK24
SK24 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 3 cm の焼土ブロック・炭化物を多量に含む
- ⑦-SK38
SK38 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルトに黒色 (10YR4/6) 砂が混じる 径 1 cm の石・炭化物が混じる
- ⑦-SK40
SK40-1 黒色 (10YR2/1) シルト 径 5 mm の石・炭化物が混じる
SK40-2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物が混じる 締まりゆるい

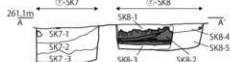


第45図 1-⑦区(2)

⑦-SK7・SK8



⑦-SK7・SK8



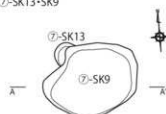
⑦-SK7

- SK7-1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルトに濃い黄褐色(10YR4/2)砂が混じる
径1cmの石・焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい
- SK7-2 暗灰色(10YR4/1)シルトに黒色(10YR2/1)シルトに濃い黄褐色(10YR4/2)砂が混
混に混じる
- SK7-3 黒褐色(10YR3/1)シルトに砂が混じる 締まりゆるい

⑦-SK8

- SK8-1 黒褐色(10YR3/2)シルトにオリーブ褐色(2.5Y4/4)砂が混じる
径5mmの石・径1cmの焼土ブロック・炭化物ブロックが混じる 締まりゆるい
- SK8-2 オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂 炭化物が混じる 締まりゆるい
- SK8-3 黒褐色(7.5Y2/1)砂質シルト 径5mmの石が混じる 締まりゆるい
- SK8-4 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土粒・炭化物・白色粒が散在する
- SK8-5 黒褐色(10YR3/1)シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が散在する

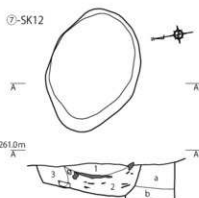
⑦-SK13-SK9



⑦-SK9



⑦-SK12



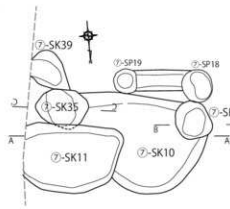
⑦-SK12

- 1 10YR3/1黒褐色シルト 腐炭が多量に混じる
径1cmの石・炭化物が混じる 締まりゆるい
- 2 5Y2/1黒色砂 腐炭が多量に混じる 締まりゆるい
- 3 2.5Y3/1黒褐色シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- a 10YR3/1黒褐色シルト 炭化物・黒質粒・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- b 10YR2/1黒褐色シルト 炭質粒が極微量に混じる 締まりゆるい

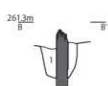


⑦-SK13

- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルトに
暗褐色(2.5Y4/2)シルトが混じる
焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい

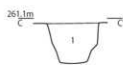


⑦-SK34



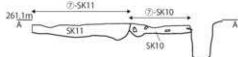
- ⑦-SK34
1 黒褐色(2.5Y3/2)シルト
炭化物が極微量に混じる
締まりゆるい

⑦-SK35



- ⑦-SK35
1 黒褐色(2.5Y3/2)シルト
径10cmの石が混じる
炭化物が極微量に混じる
締まりゆるい、粘性強い

⑦-SK11・10



⑦-SK11

- SK11 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 径5cmの礫・焼土粒・
炭化物・植物繊維が混じる

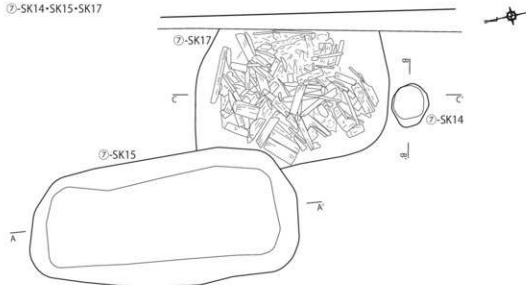
⑦-SK10

- SK10 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 径5cmの割石・
焼土粒・炭化物・植物繊維が混じる

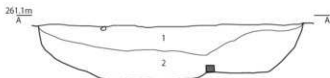


第46図 1-⑦区(3)

⑦-SK14-SK15-SK17



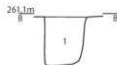
⑦-SK15



⑦-SK15

- 1 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルトにオリーブ褐色(2.5Y4/3)砂が混じる 径5cmの石が混じる 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 木片・植物繊維が多数に混じる 締まりゆるい

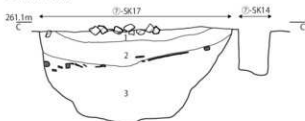
⑦-SK14



⑦-SK14

- 1 黒褐色(2.5YR3/1)砂質シルト 径1cmの小礫・炭化物が混じる 締まりゆるい

⑦-SK17-SK14



⑦-SK17-SK14

- 1 黒褐色(2.5Y3/2)砂 径1cmの小礫・炭化物が混じる
- 2 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径5cmの石・炭化物が混じる 締まりゆるい
- 3 2層に似るが木片・植物繊維を多数に含む 締まりゆるい

⑦-SK16



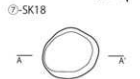
⑦-SK16



⑦-SK16

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 径5cmの礫・木片・炭化物が混じる
- 2 オリーブ褐色(5YR3/1)シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい

⑦-SK18

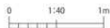


⑦-SK18

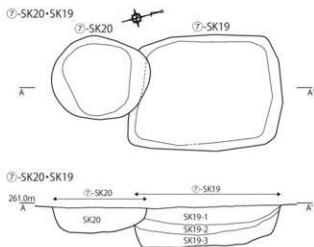


⑦-SK18

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい



第47図 1-⑦区(4)



⑦-SK19

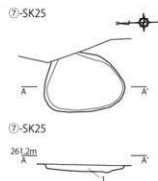
SK19-1 暗褐色(10YR3/3)砂に暗褐色(10YR3/3)砂質シルトが混じる 炭化物が散在に混じる 締まりゆるい

SK19-2 オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂質シルト 炭化物が混じる 締まりゆるい

SK19-3 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト 径1cmの小礫・炭化物・植物繊維が混じる 締まりゆるい

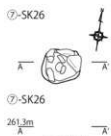
⑦-SK20

SK20 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物が散在に混じる 締まりゆるい



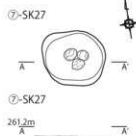
⑦-SK25

1 極暗褐色(7.5YR2/3)砂質シルト
炭化物が散在に混じる



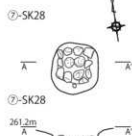
⑦-SK26

261.3m



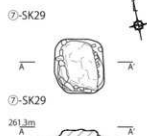
⑦-SK27

261.2m



⑦-SK28

261.2m

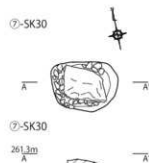


⑦-SK29

261.3m

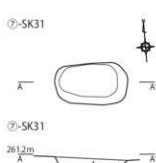
⑦-SK27

1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
径5～10cmの礫・炭化物が混じる



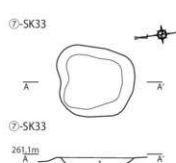
⑦-SK30

261.3m



⑦-SK31

261.2m



⑦-SK33

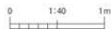
261.1m

⑦-SK31

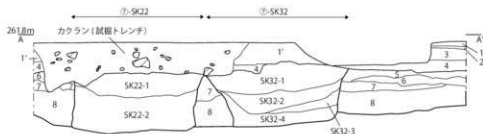
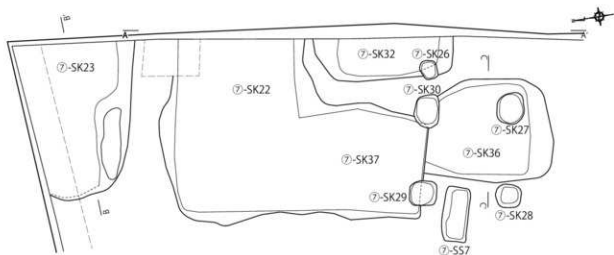
1 黒褐色(10YR2/2)砂 径1cmの小礫・
粘土ブロック・炭化物が混じる
締まりゆるい

⑦-SK33

1 黒色(2.5Y2/1)シルト 締まりゆるい



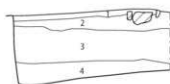
第48図 1-⑦区(5)



- 1 表土 砕石層
 - 1' 表土
 - 2 焼土層 径 2 cm の炭化物ブロックが混じる
 - 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒色シルトブロックが混じる 径 4 ~ 7 cm の礫・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - 4 黒褐色 (10YR3/4) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
 - 5 黒褐色 (10YR3/2) シルトに褐色砂が混じる 炭化物・白色粒子が微量に混じる 締まりあり
 - 6 5層に似るが褐色砂を 5層より多く含む
 - 7 黒褐色 (10YR3/1) シルトに褐色砂・炭化物・白色粒が微量に混じる
 - 8 黒色シルトに炭化物が微量に混じる
- ⑦-SK22
SK22-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径 2 ~ 3 cm の礫・焼土粒・径 1 cm の炭化物ブロックが混じる
SK22-2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径 2 cm の礫が微量に混じる 植物繊維が多量に混じる 締まりゆるい
- ⑦-SK32
SK32-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径 2 ~ 3 cm の小礫・焼土粒・径 1 cm の炭化物ブロックが混じる
SK32-2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 径 2 cm の小礫が混じる 植物繊維が多量に混じる 締まりゆるい
SK32-3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト 植物繊維が混じる 締まりゆるい 粘性強い
SK32-4 SK32-3層に似るが階状に炭化物が沈着する 締まりゆるい

⑦-SK23

261.6m



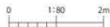
⑦-SK36

⑦-SK36

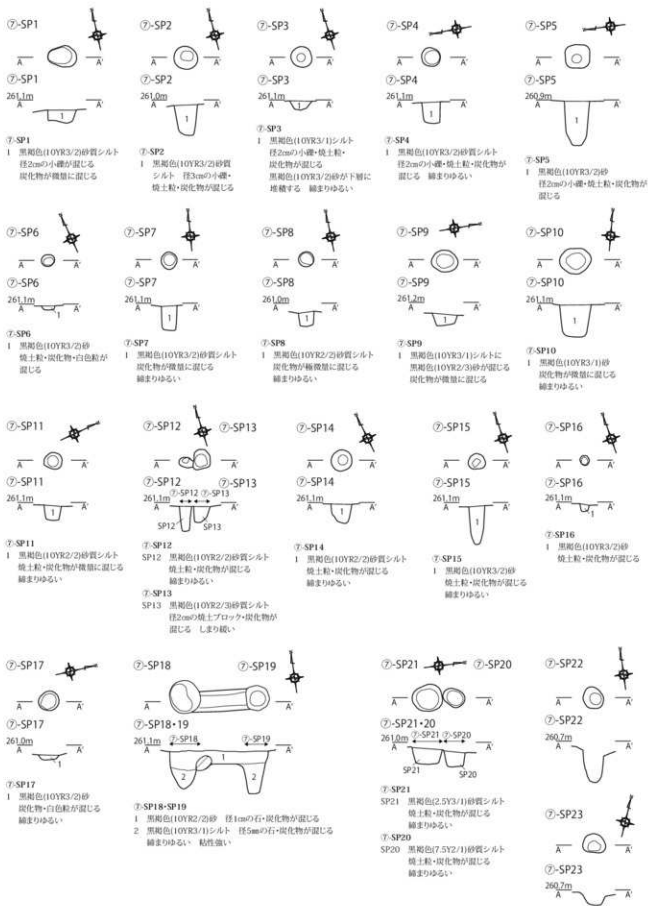
261.2m



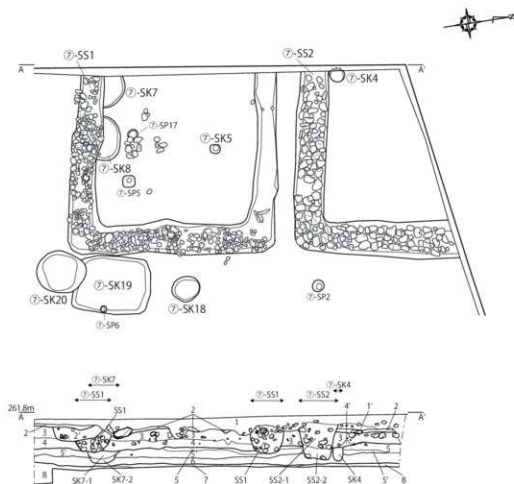
- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる
径 1 cm の小礫・炭化物が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 径 1 cm の小礫・炭化物が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルトに赤い・黒褐色 (10YR5/3) 砂が混じる
植物繊維が多量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
- 4 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルトに赤い・黒褐色 (10YR5/3) 砂が混じる
植物繊維が混じる 締まりゆるい 粘性強い



第49図 1-⑦区(6)



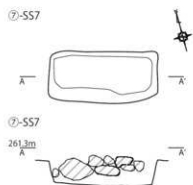
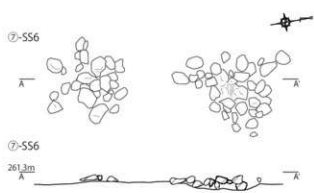
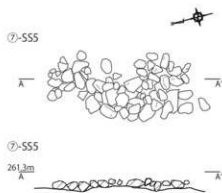
第50図 1-⑦区(7)



- 1 表土 砕石層
 1' 表土
 2 焼土層 径 2 cm の炭化物ブロックが混じる
 2' 2 層に似るが径 2 cm の礫・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒色シルトブロックが混じる 径 4 ~ 7 cm の礫・焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 4 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が塊層に混じる 締まりあり
 4' 黒色 (10YR2/1) シルト 炭化物・白色粒が混じる 下層に暗褐色 (10YR3/4) 粗粒砂が堆積する
 5 黒色 (10YR3/1) シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が塊層に混じる 締まりあり
 5' 黒褐色 (10YR3/2) シルトに褐色砂が混じる 炭化物・白色粒子が塊層に混じる 締まりあり
 6 5 層に似るが褐色砂を 5 層より多く含む
 7 黒褐色 (10YR3/1) シルトに褐色砂・炭化物・白色粒が塊層に混じる
 8 黒色 (7.5Y/2/1) シルト 炭化物が塊層に混じる
- ⑦-SS1
 SS1 黒褐色 (10YR3/2) シルト 径 8 ~ 10 cm の卵石・径 4 ~ 5 cm の石が混じる 締まりあり
- ⑦-SS2
 SS2-1 黒褐色 (10YR2/3) シルト 径 15 cm の卵石・径 4 ~ 5 cm の石・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
 SS2-2 黒色 (10YR3/1) シルト 径 4 ~ 5 cm の石・焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- ⑦-SK4
 SK4 黒褐色 (10YR3/1) シルトに暗褐色 (10YR3/4) 粗粒砂が混じる 締まりゆるい

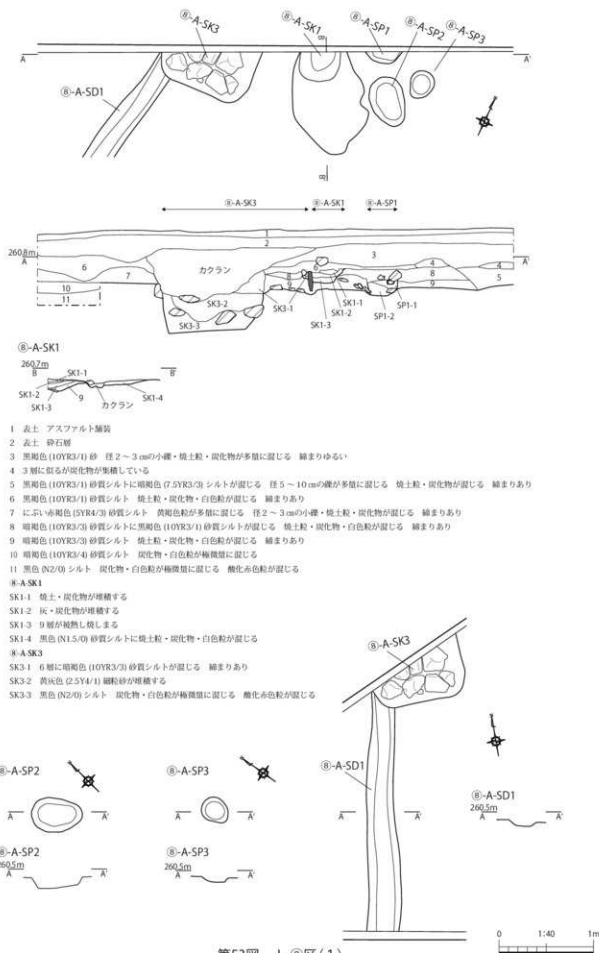
第51図 1-⑦区(8)

0 1:80 2m

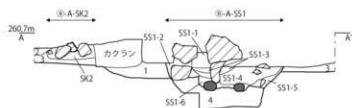
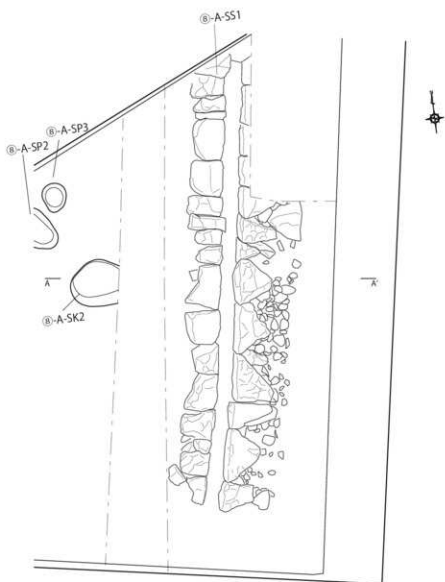


第52图 1-⑦区(9)





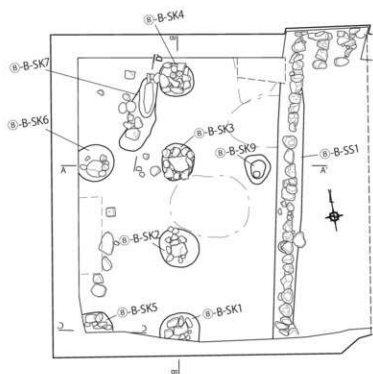
第53図 I-⑧区(1)



- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂 径2~3cmの小礫・焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルトに黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトが混じる 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - 4 黒色 (N2/0) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 酸化赤色粒が混じる
- ※A-SK2
SK2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
- ※A-SS1
SS1-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 黄褐色粒・炭化物・白色粒が混じる 粘性強い
SS1-2 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる
SS1-3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 粘性強い
SS1-4 黒褐色 (10YR3/1) 砂 径10~12cmの礫が多量に混じる
SS1-5 黒褐色 (10YR3/1) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
SS1-6 黒色 (10YR2/1) シルト 白色粒が極微量に混じる

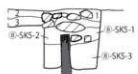
第54図 1-⑧区(2)





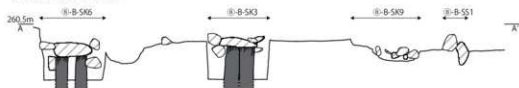
⑧-B-SK5

260.9m
C



- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルトに黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトが混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
 - 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- ※B-SK5
SK5-1 暗灰色 (N3/0) シルトに黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルトが混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる
SK5-2 暗灰色 (N3/0) シルト 微量の炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
SK5-3 黒色 (N2/0) シルト 酸化赤色粒が混じる

⑧-B-SK6・3・9, ⑧-C-SS1

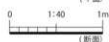


⑧-B-SK4・3・2

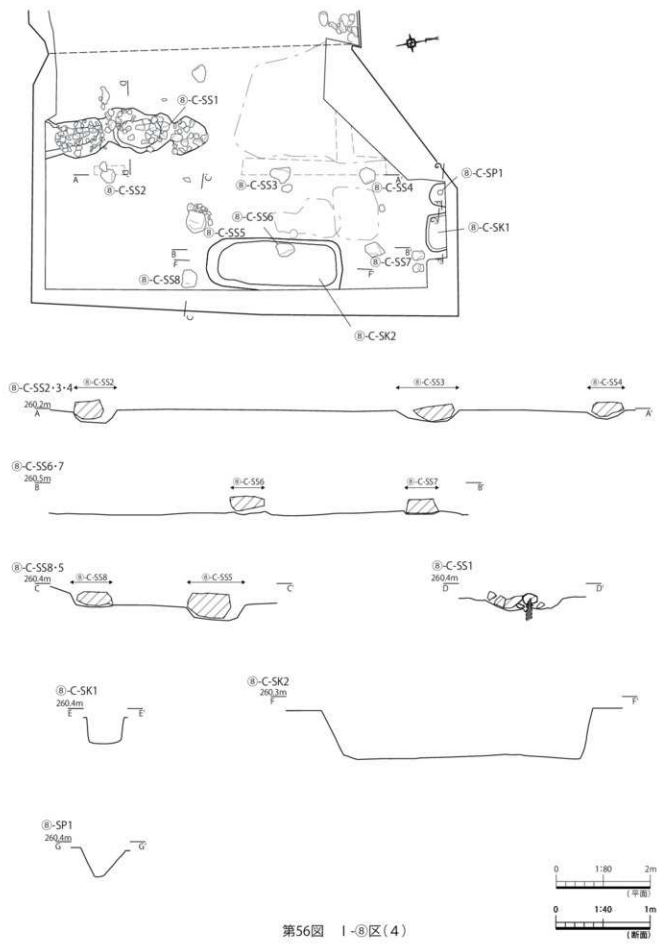


⑧-B-SK7

260.1m
D

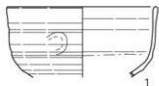


第55図 1-⑧区(3)



第56図 1-⑧区(4)

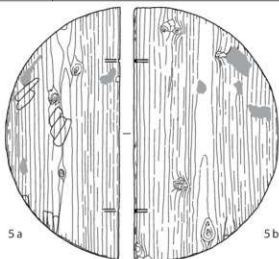
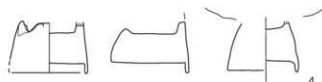
①-SK1



①-SK3



①-SK4



6



7



8



9



10



11



12



13

0 1:2 5cm

(2)

0 1:8 20cm

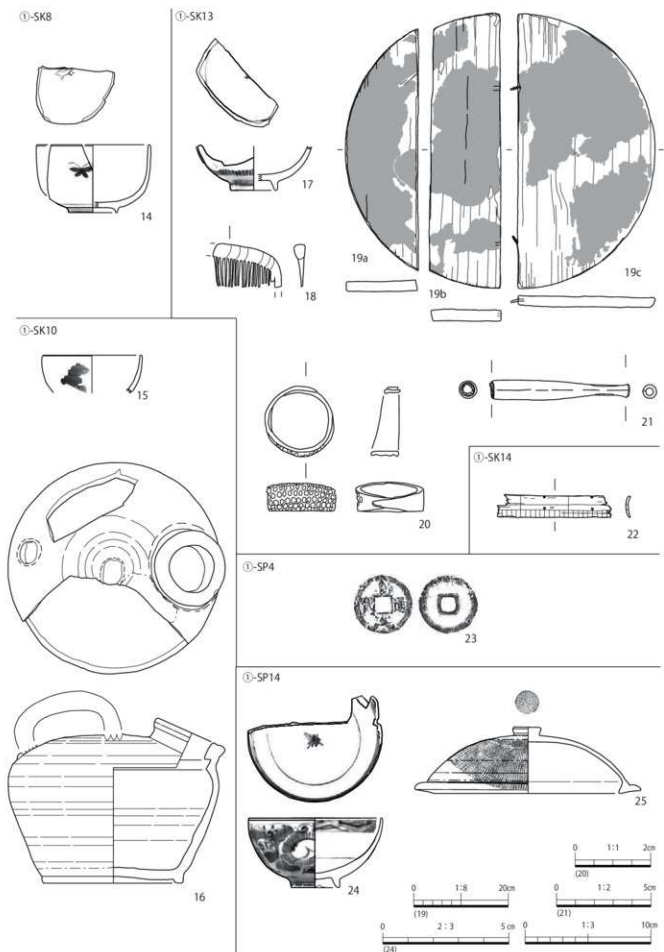
(6~13)

0 1:6 20cm

(5)

0 1:3 10cm

第57图 ①区出土遗物(1)



第 58 图 ①区出土遺物 (2)

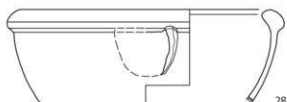
①-SS1



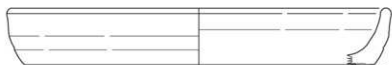
26



27



28



29



30



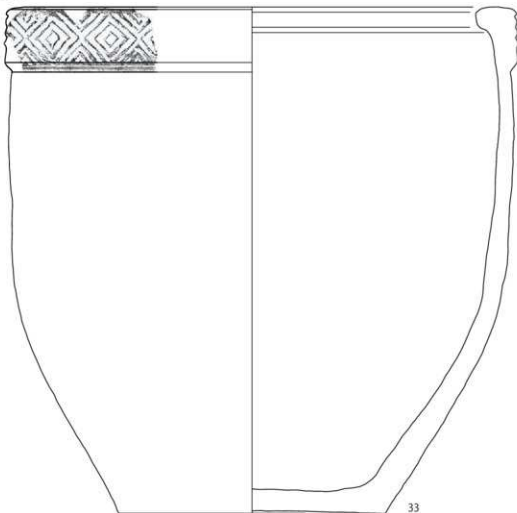
31

①-SSS

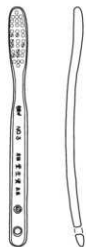


32

①-SX1



33



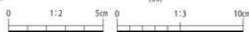
34



(30-31)



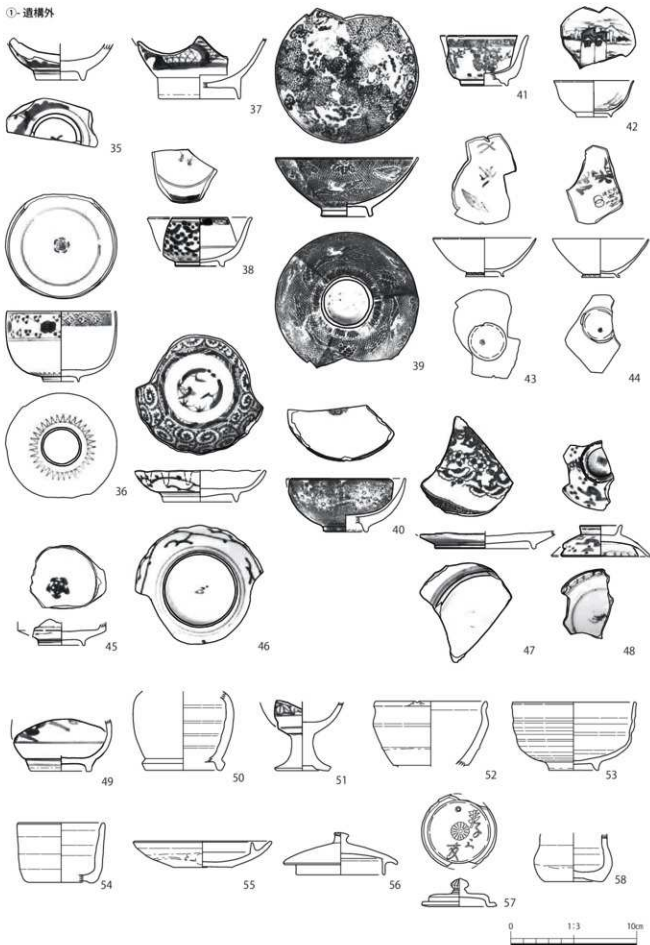
(33)



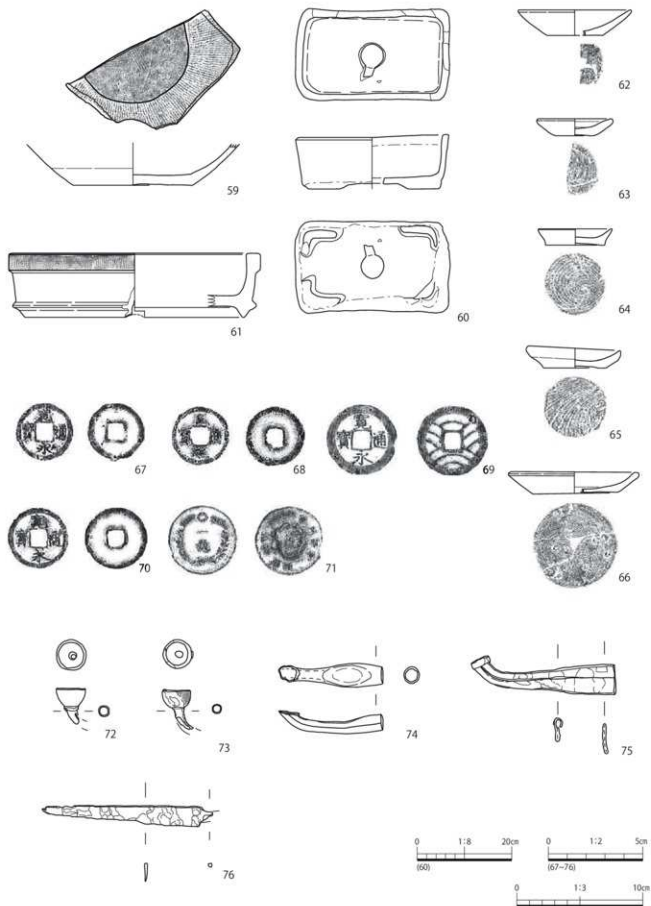
(34)

第 59 图 ①区出土遺物 (3)

①-遺構外

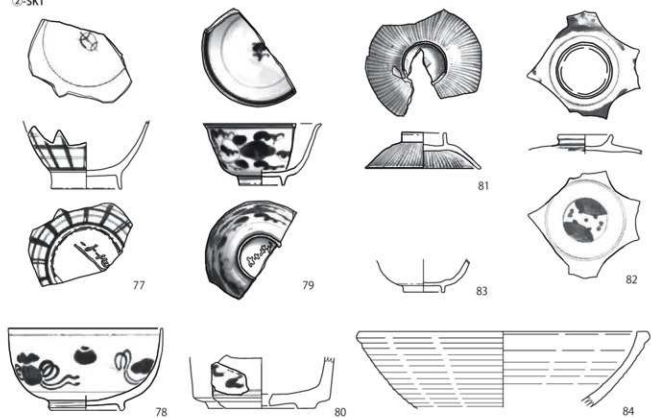


第60图 ①区出土遗物(4)

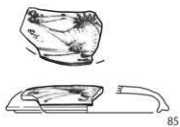


第61图 ①区出土遗物(5)

②-SK1



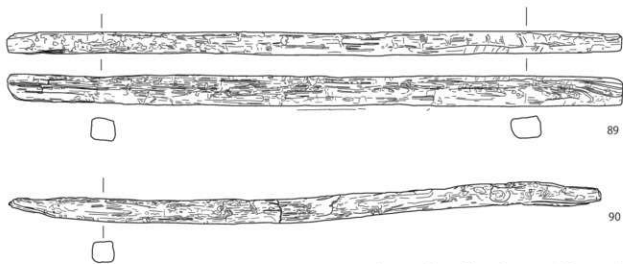
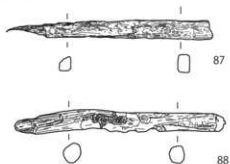
②-SK3



②-SK10

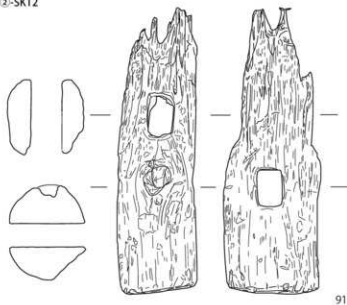


②-SK12



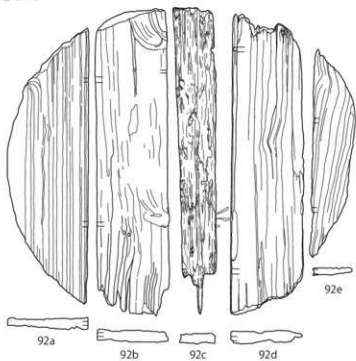
第 62 图 ②区出土遗物 (1)

②-SK12



91

②-SK13



92e

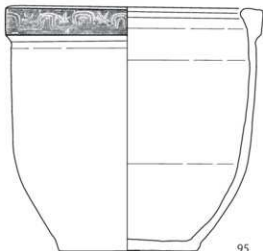
92a

92b

92c

92d

②-SX1



95

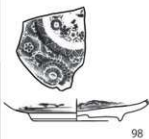


96

②-SS1



97



98



99



100

②-SP6



93



101

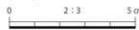
②-SD1



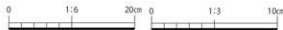
94



(91-92)



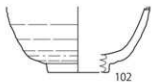
(94)



(95)

第63图 ②区出土遗物(2)

②-SS2



102

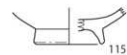
②-SS4



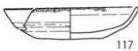
103



112



115



117



118

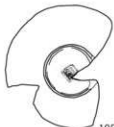
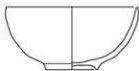
②-遺構外



104



105



107



113



116



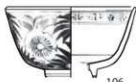
116



119



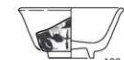
109



106



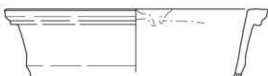
107



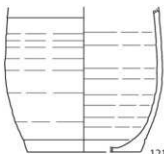
108



114



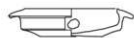
120



121



123



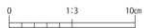
123



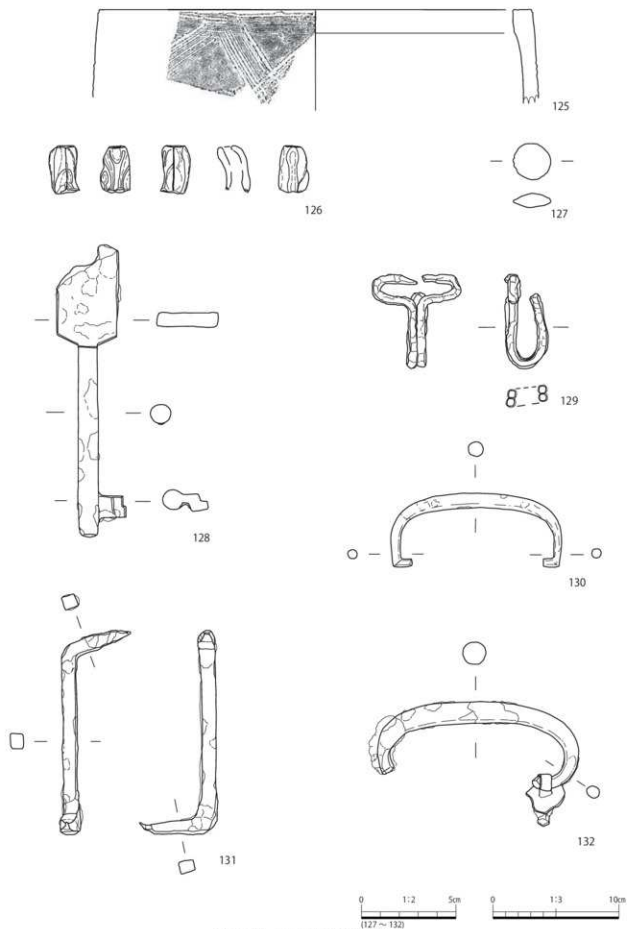
122



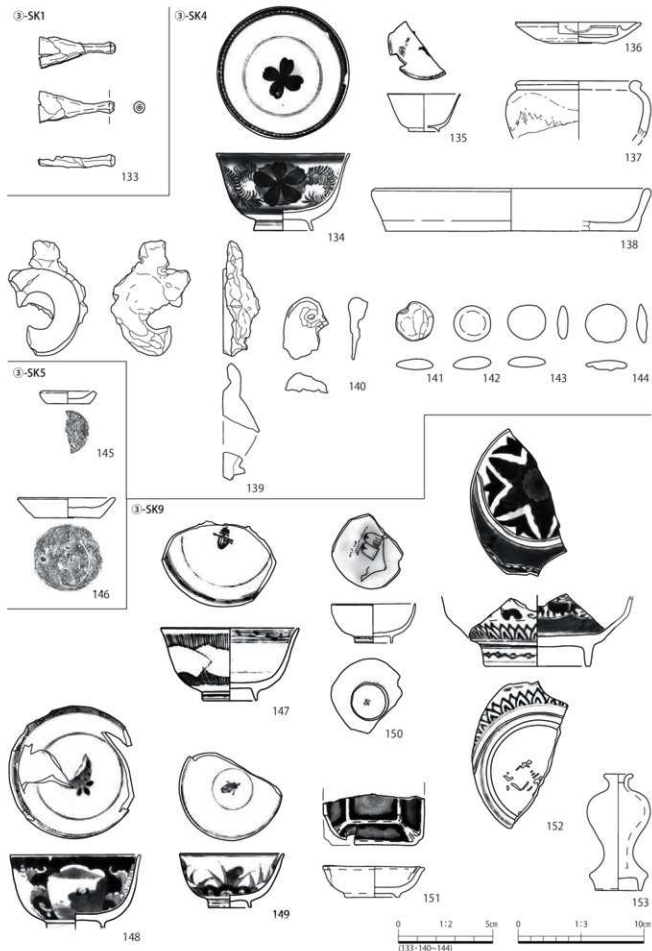
124



第 64 图 ②区出土遺物 (3)



第65图 ②区出土遗物(4)



第66图 ③区出土遗物(1)

③-SK9



154

③-SK12



155

③-SK13



156

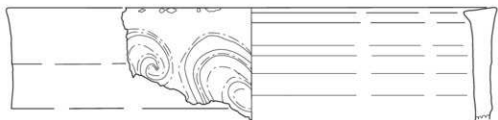
③-SE1



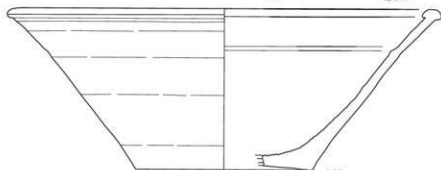
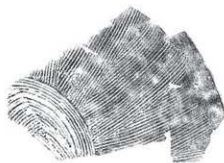
157



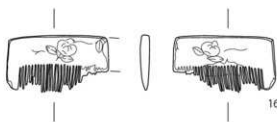
158



159



160



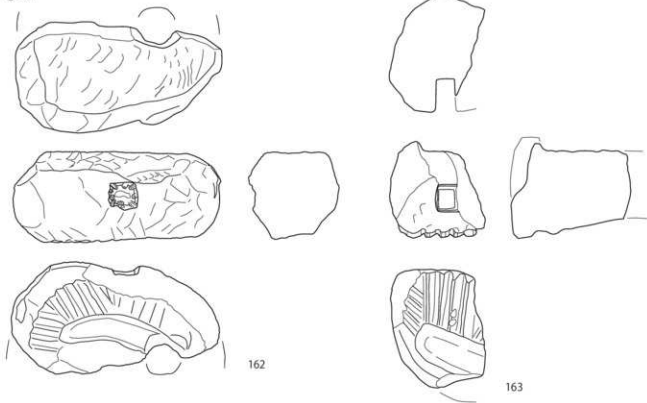
161



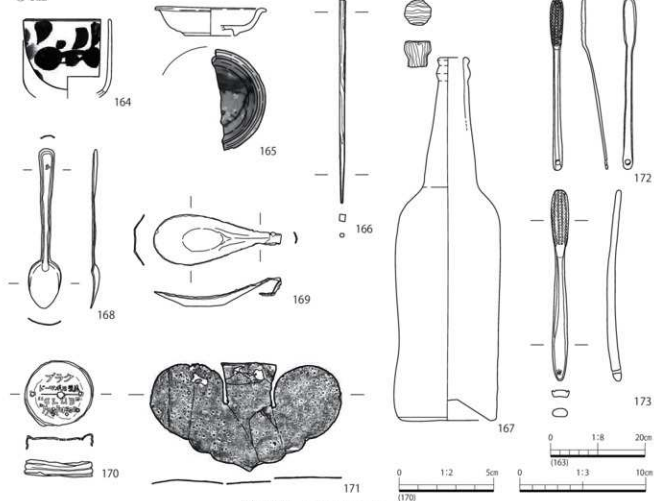
(161)

第67图 ③区出土遗物(2)

③-SE1

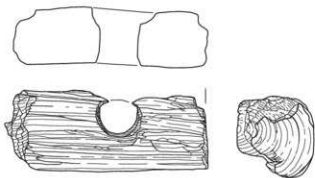


③-SE2



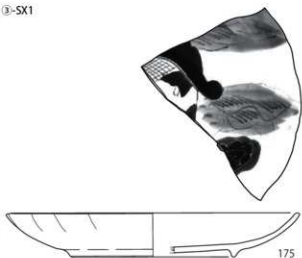
第68图 ③区出土遗物(3)

③-SD3



174

③-SX1



175

③-遺構外



177



179



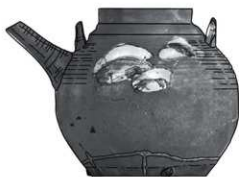
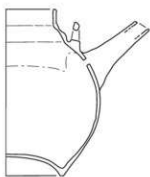
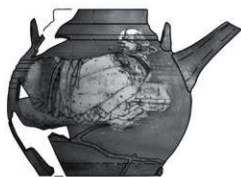
176



180



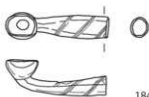
181



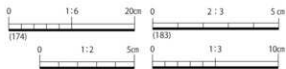
182



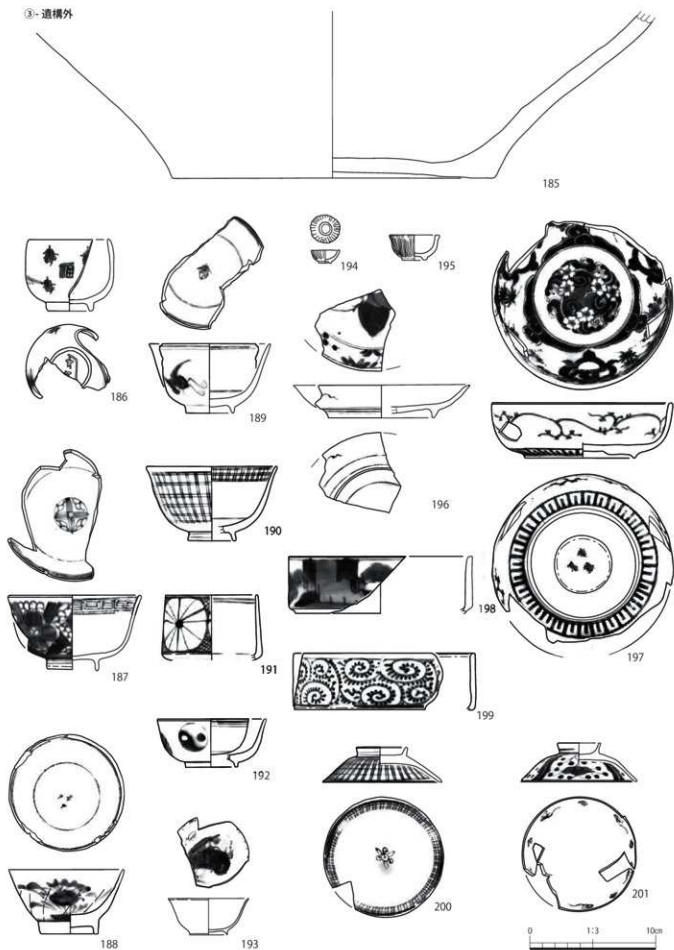
183



184

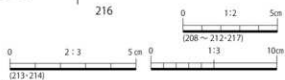
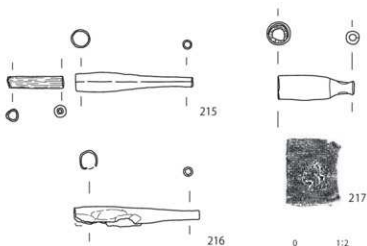
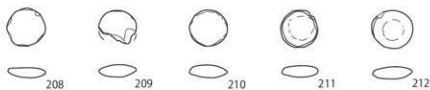
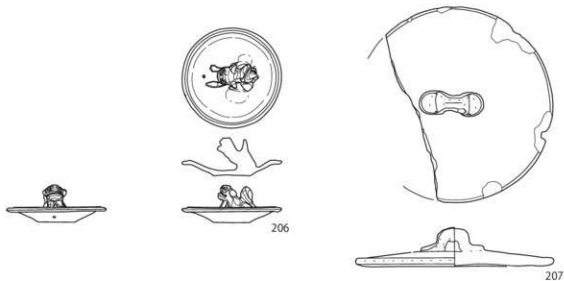
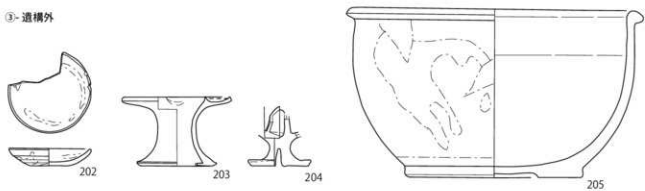


第 69 图 ③区出土遗物 (4)



第 70 图 ③区出土遗物 (5)

③- 遺構外



第71图 ③区出土遗物(6)

④-SK1



218

④-SK4



220

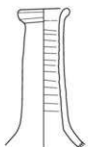
④-SK5



221



223



222

④-SK3

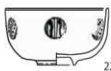


219



224

④-SS1



225



226



234



227



228



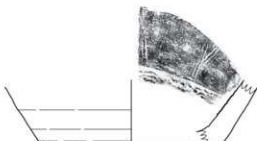
229



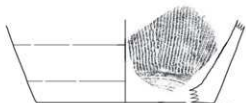
230



231

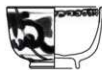


232



233

④-遺構外



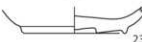
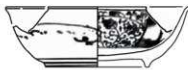
236



237



238



239



240

0 2:3 5cm

(218・219・224・235)

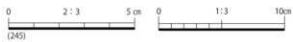
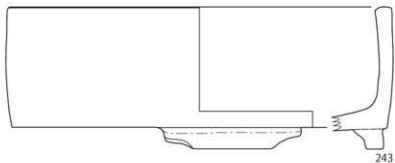
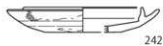
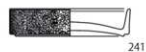
0 1:2 5cm

(234)

0 1:3 10cm

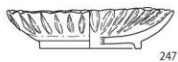
第72图 ④区出土遺物(1)

④- 遺構外

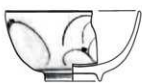


第 73 図 ④区出土遺物 (2)

⑤-SK1



⑤-SK3



252



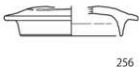
254

⑤-SK4

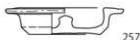


255

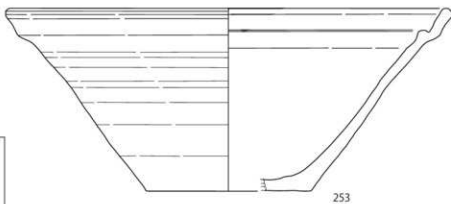
⑤-SK11



256

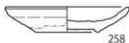


257



253

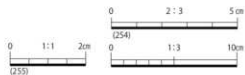
⑤-SK12



258

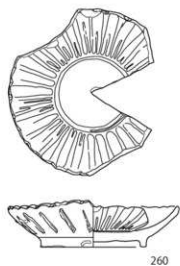


259



第74图 ⑤区出土遺物(1)

⑤-SK16



260



261



262



263



264

⑤-SP5



265

⑤-SP6



266



⑤-SD1



267

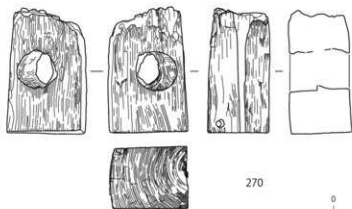


268



269

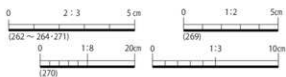
⑤-SD4



270

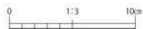
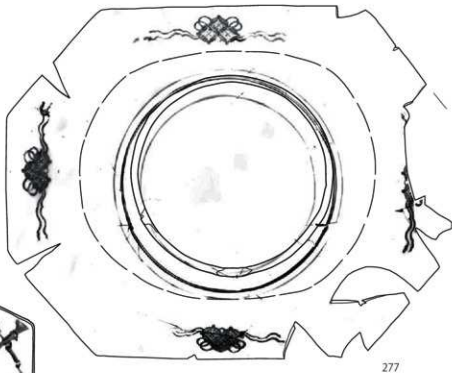
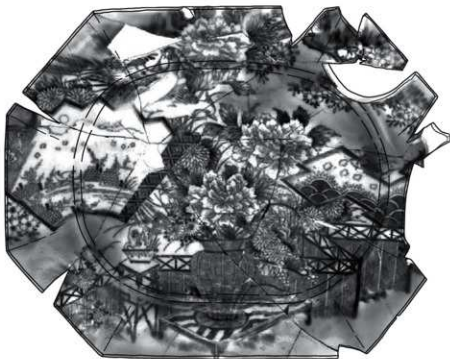
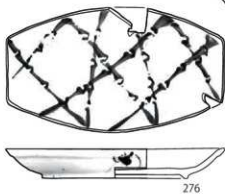
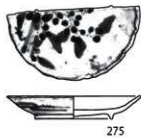


271



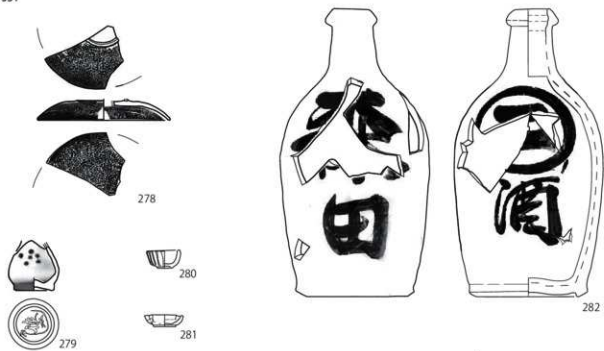
第 75 图 ⑤区出土遗物 (2)

⑤551

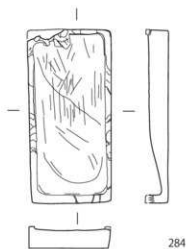


第76图 ⑤区出土遺物(3)

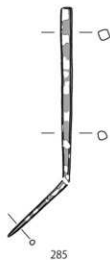
⑤-551



283

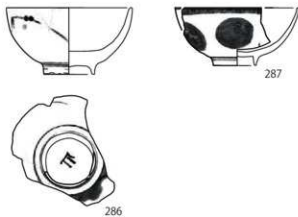


284



285

⑤-552

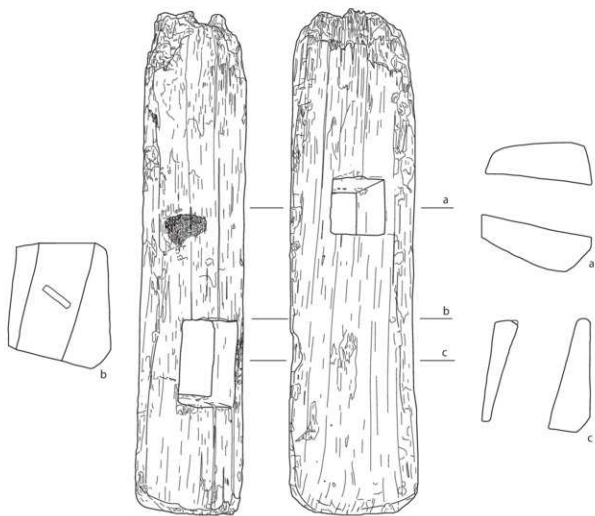


287

286



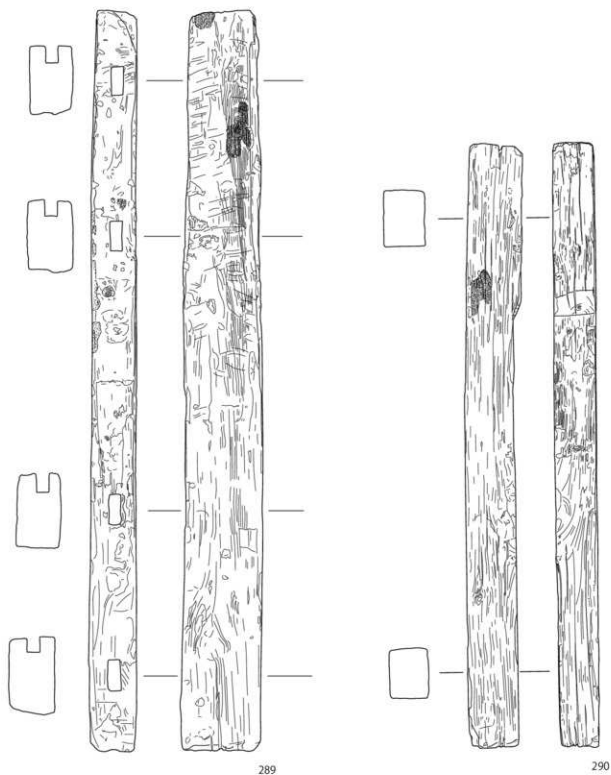
第77图 ⑤区出土遗物(4)



288

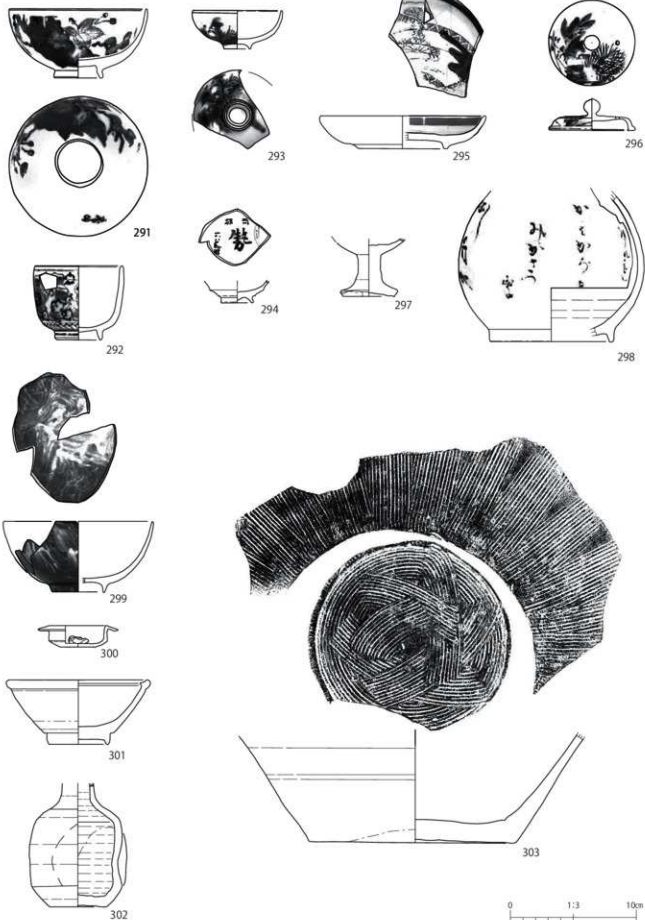


第78图 ⑤区出土遗物(5)



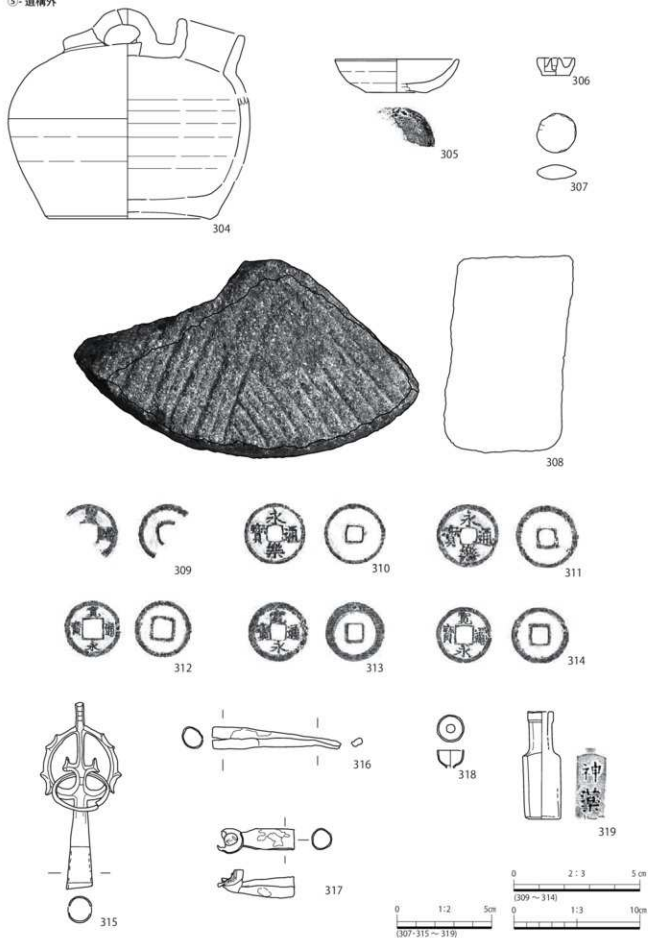
第 79 图 ⑤区出土遗物 (6)

⑤- 遺構外



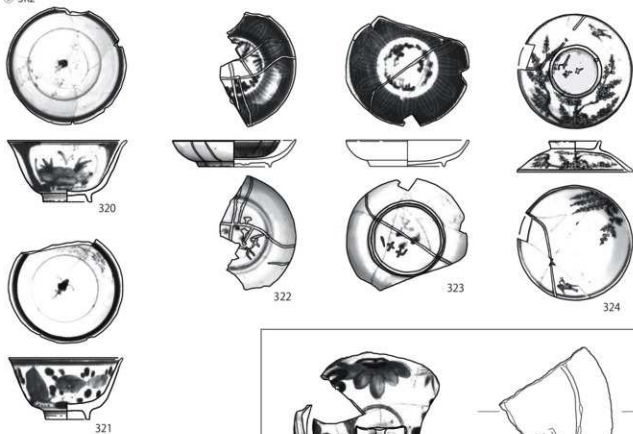
第 80 图 ⑤区出土遺物 (7)

⑤- 遺構外

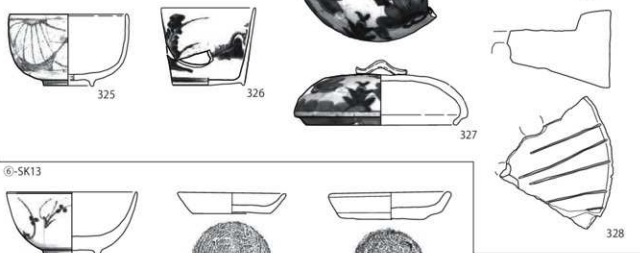


第 81 图 ⑤区出土遺物 (8)

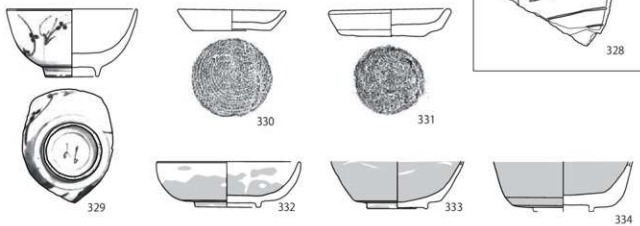
⑥-SK2



⑥-SK6

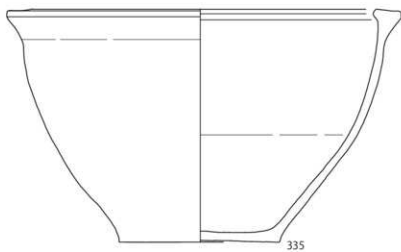


⑥-SK13



第 82 图 ⑥区出土遗物 (1)

⑥-SK14



335

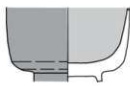
⑥-SK17



336



337



338



339

⑥-SK18



340



341



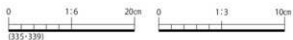
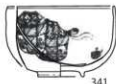
342



343

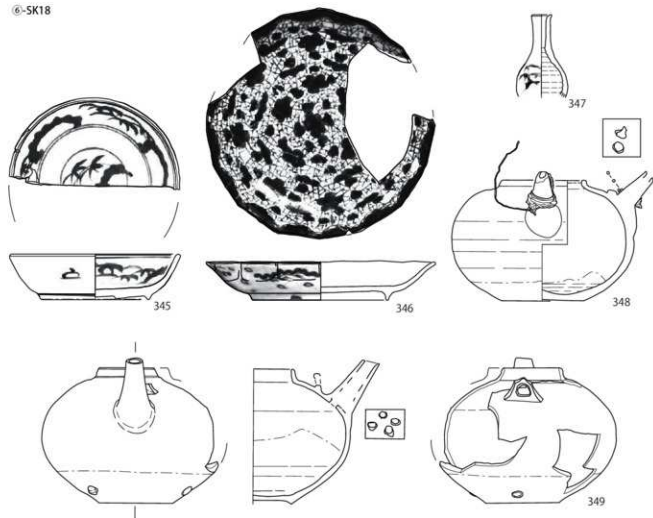


344

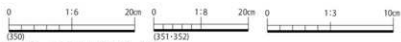
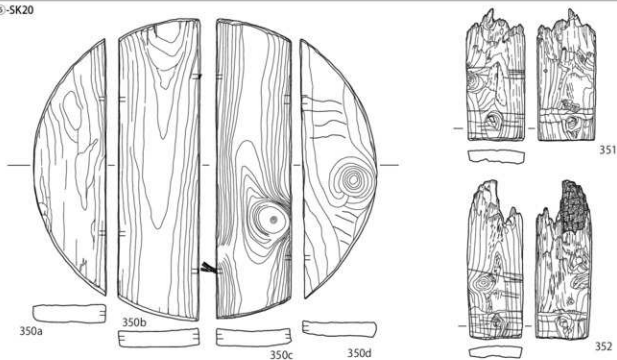


第 83 图 ⑥区出土遗物 (2)

⑥-SK18

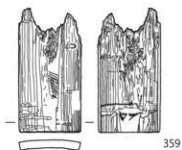
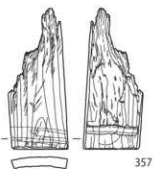
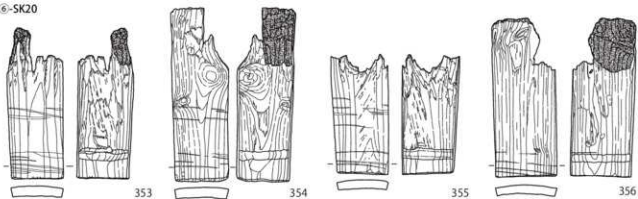


⑥-SK20

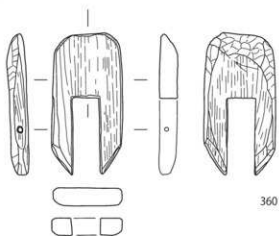


第84图 ⑥区出土遗物(3)

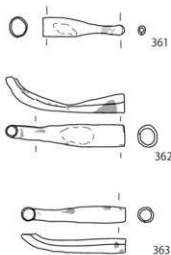
⑥-SK20



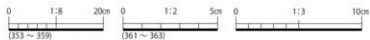
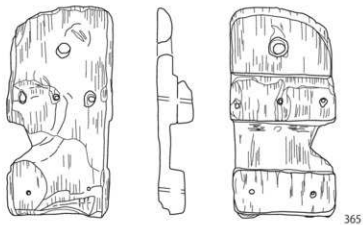
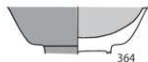
⑥-SK22



⑥-SK34

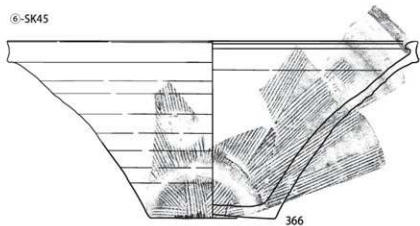


⑥-SK37



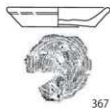
第 85 图 ⑥区出土遗物 (4)

⑥-SK45



366

⑥-SK53



367

⑥-SK54



368

⑥-SK56



369



370



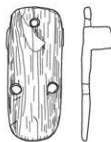
371



372



374



373



⑥-SS1



377



378



379



375



381

⑥-SK57



376



377



378



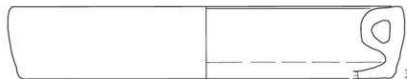
380



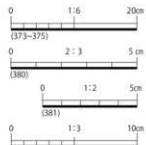
381



381

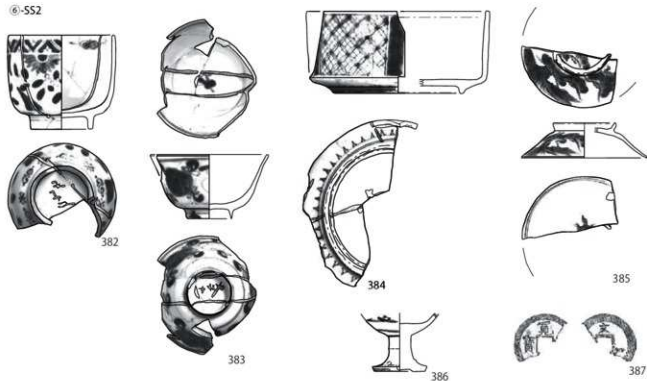


379

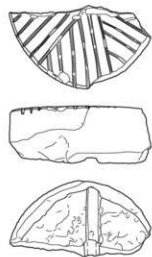
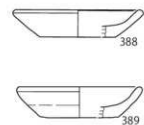


第86图 ⑥区出土遗物(5)

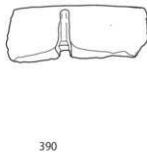
⑥-SS2



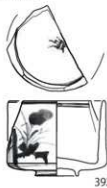
⑥-S510



⑥-SX4

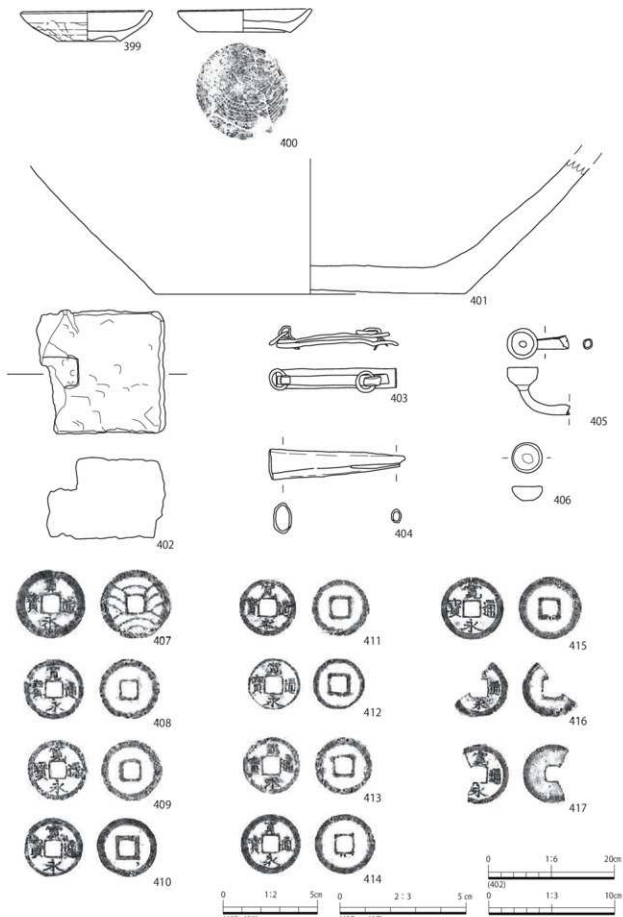


⑥-遺構外

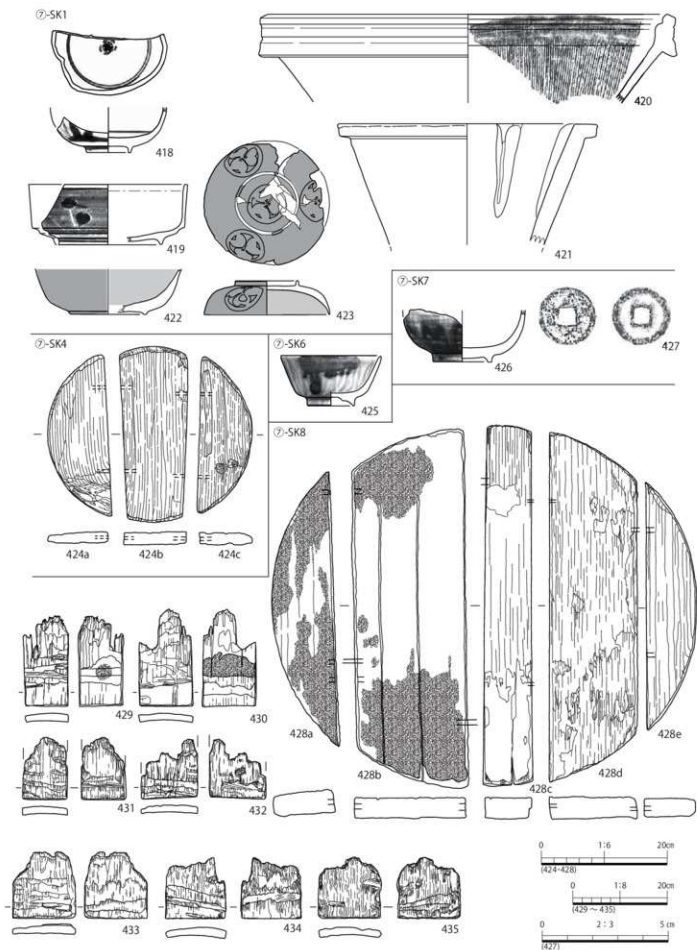


第 87 图 ⑥区出土遗物 (6)

⑥- 遺構外

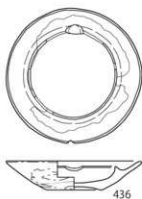


第88图 ⑥区出土遺物(7)



第 89 图 ⑦区出土遗物 (1)

⑦-SK10

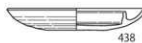


436

⑦-SK11



437



438

⑦-SK12



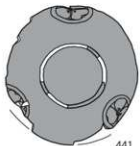
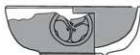
439



442



440



441



443

⑦-SK15



444



446



445



447



448



449



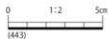
450



451

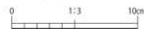


452



0 1:2 5cm

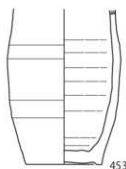
(443)



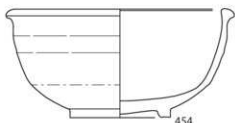
0 1:3 10cm

第90图 ⑦区出土遺物(2)

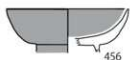
⑦-SK15



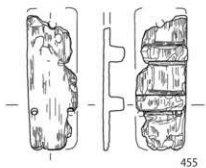
453



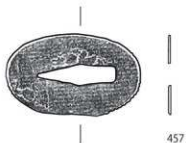
454



456

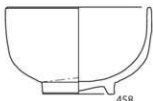


455

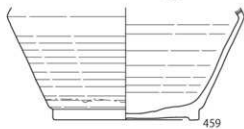


457

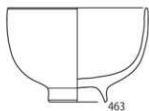
⑦-SK16



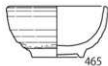
458



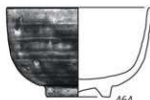
459



463



465



464

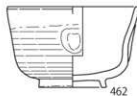
⑦-SK17



460



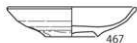
461



462



466

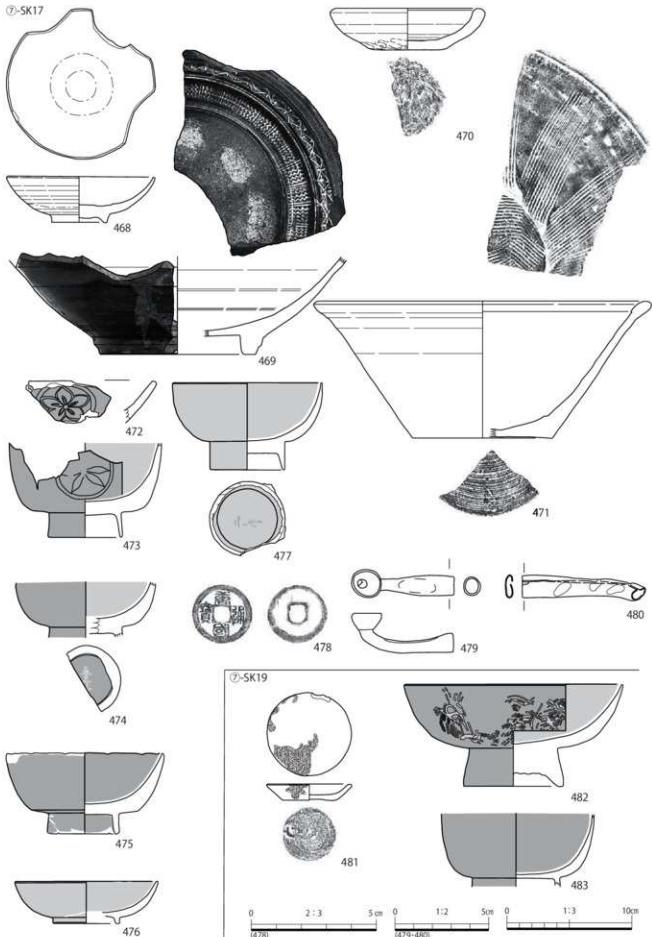


467

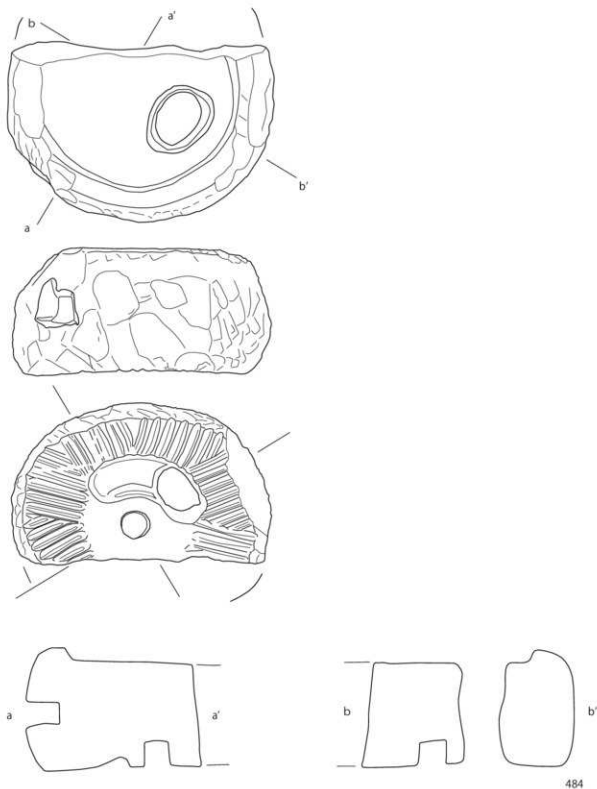


第91图 ⑦区出土遗物(3)

⑦-SK17



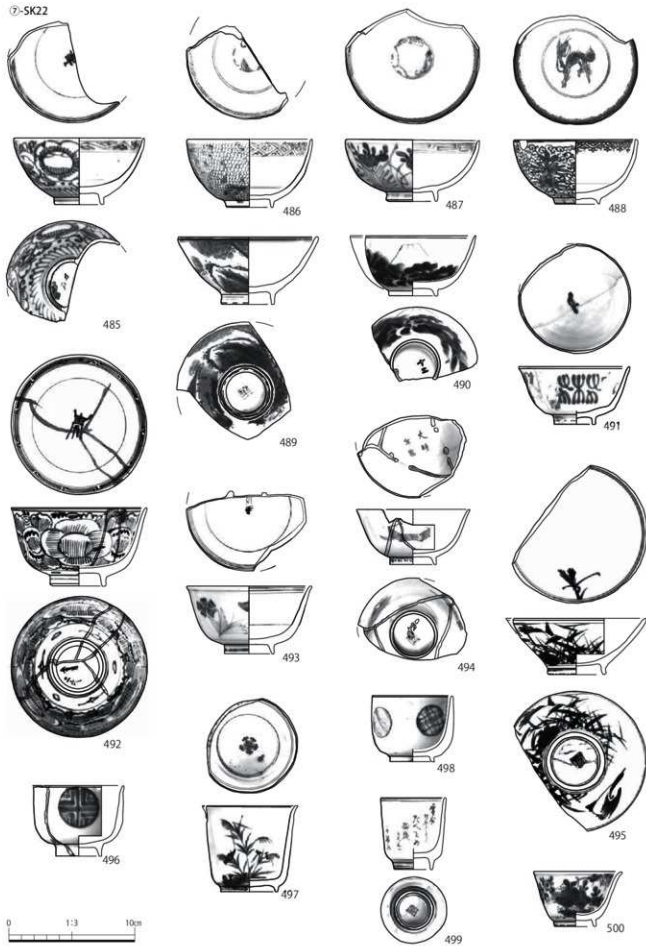
第92图 ⑦区出土遗物(4)



第 93 图 ⑦区出土遗物 (5)



⑦-SK22

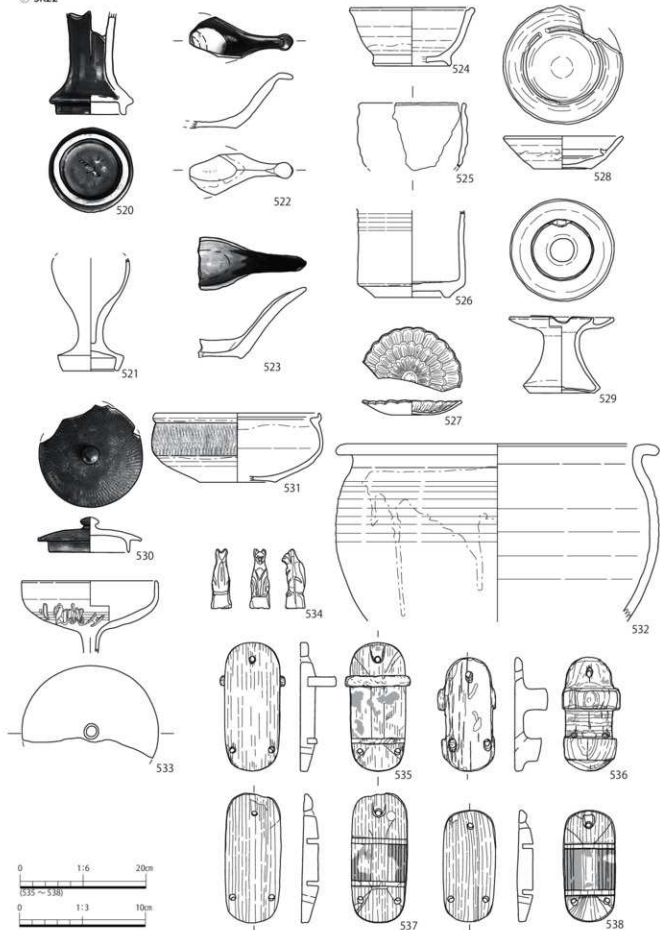


第94图 ⑦区出土遺物(6)



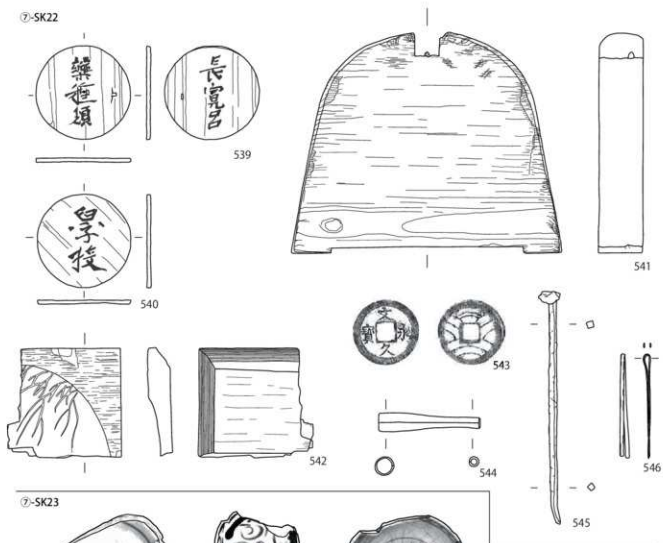
第95图 ⑦区出土遗物(7)

⑦-SK22

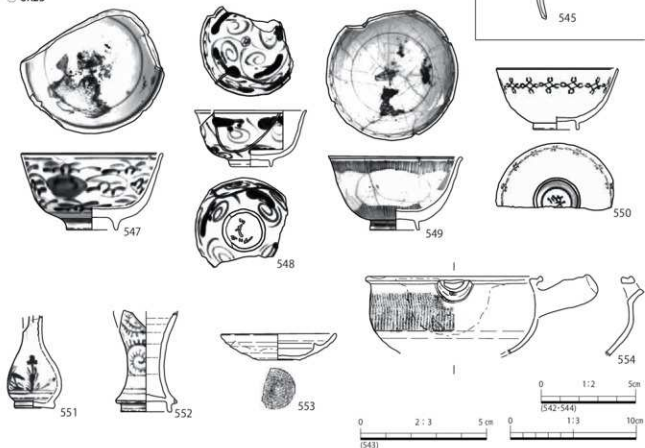


第96图 ⑦区出土遗物(8)

⑦-SK22

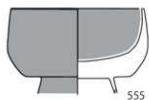


⑦-SK23

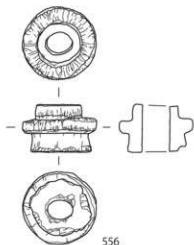


第97图 ⑦区出土遗物(9)

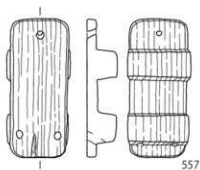
⑦-SK23



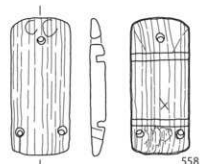
555



556



557



558

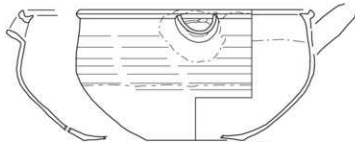
⑦-SK24



559



560



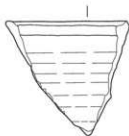
563



561



564



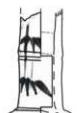
565



566



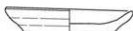
568



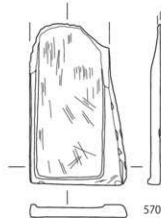
562



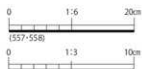
567



569

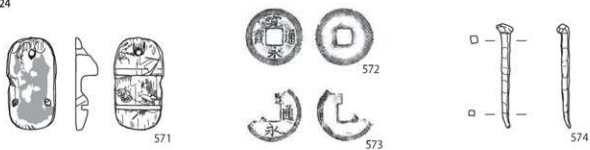


570

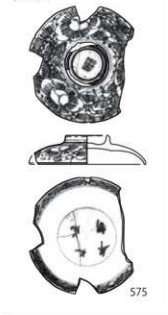


第98图 ⑦区出土遗物(10)

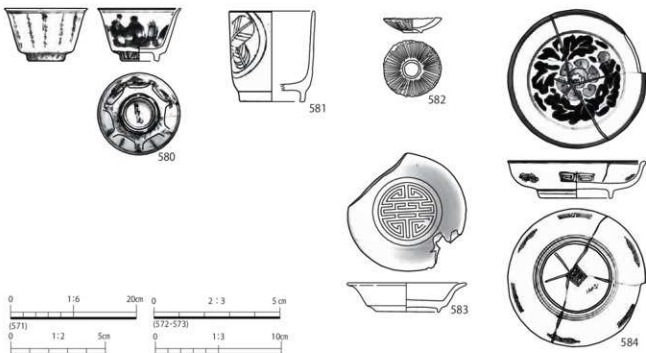
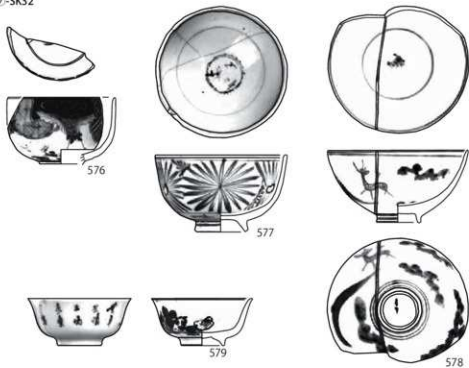
⑦-SK24



⑦-SK29



⑦-SK32



0 1:6 20cm

(571)

0 1:2 5cm

(574)

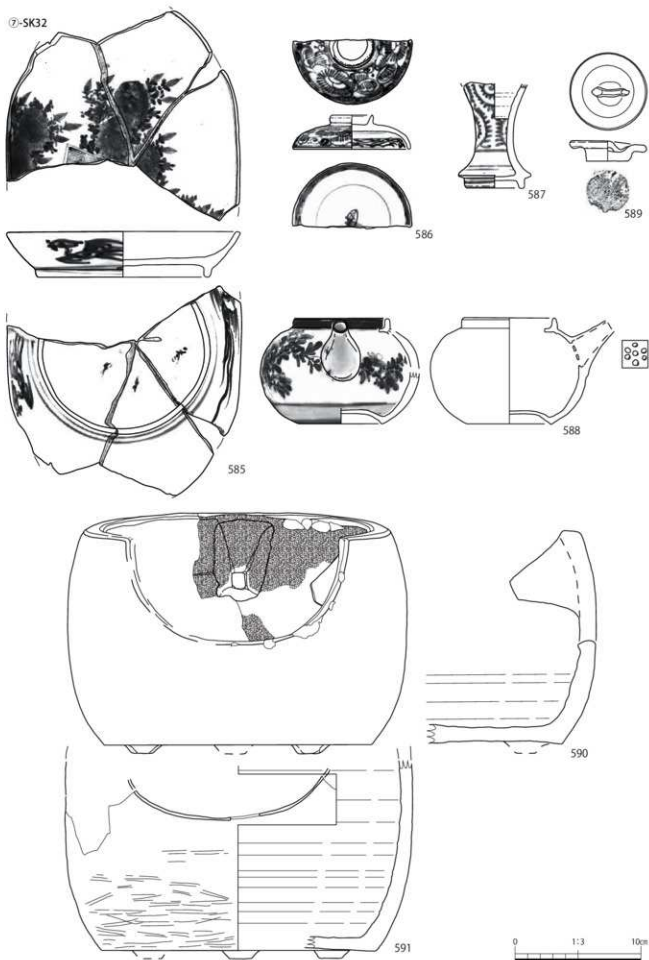
0 2:3 5cm

(572-573)

0 1:3 10cm

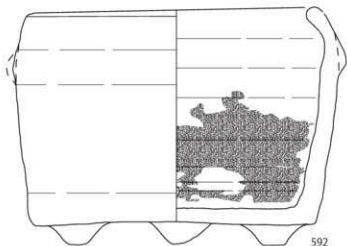
第99图 ⑦区出土遗物(11)

⑦-SK32

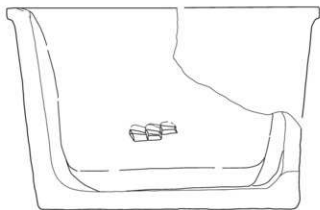


第100图 ⑦区出土遺物(12)

⑦-SK32



592



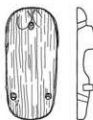
593



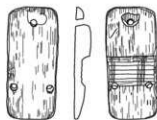
594



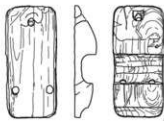
595



596



597



598



599



603



600



601

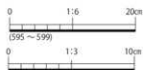


602



0 2:3 5 cm

600 ~ 602



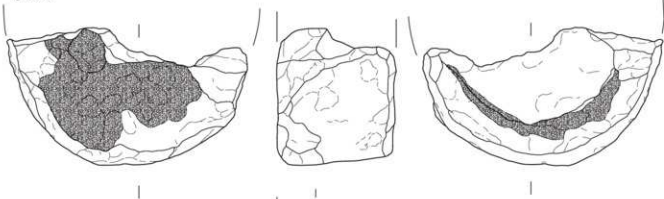
0 1:6 20cm

595 ~ 599

0 1:3 10cm

第 101 图 ⑦区出土遺物 (13)

⑦-SK35



⑦-SK36



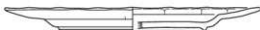
604



605



607



608



610



612



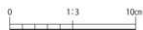
606



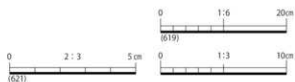
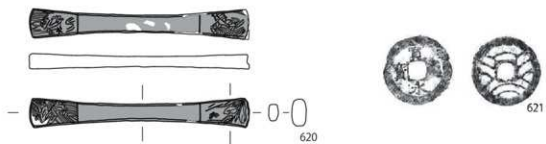
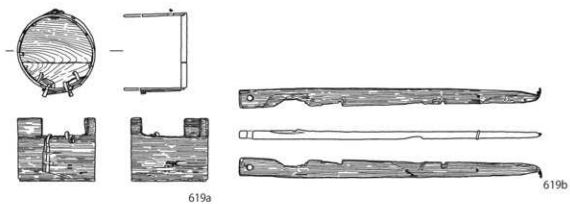
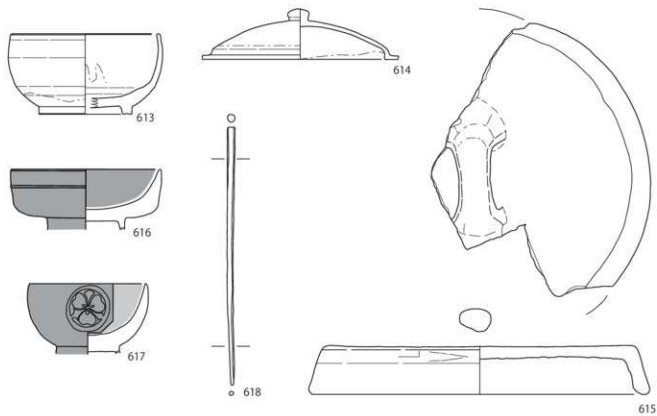
609



611

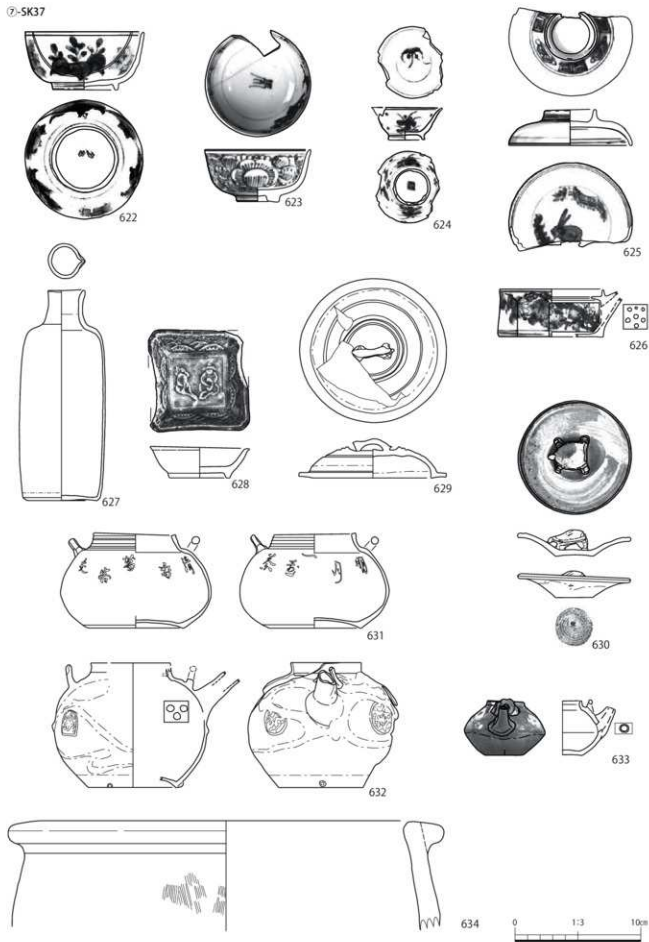


第 102 图 ⑦区出土遗物 (14)



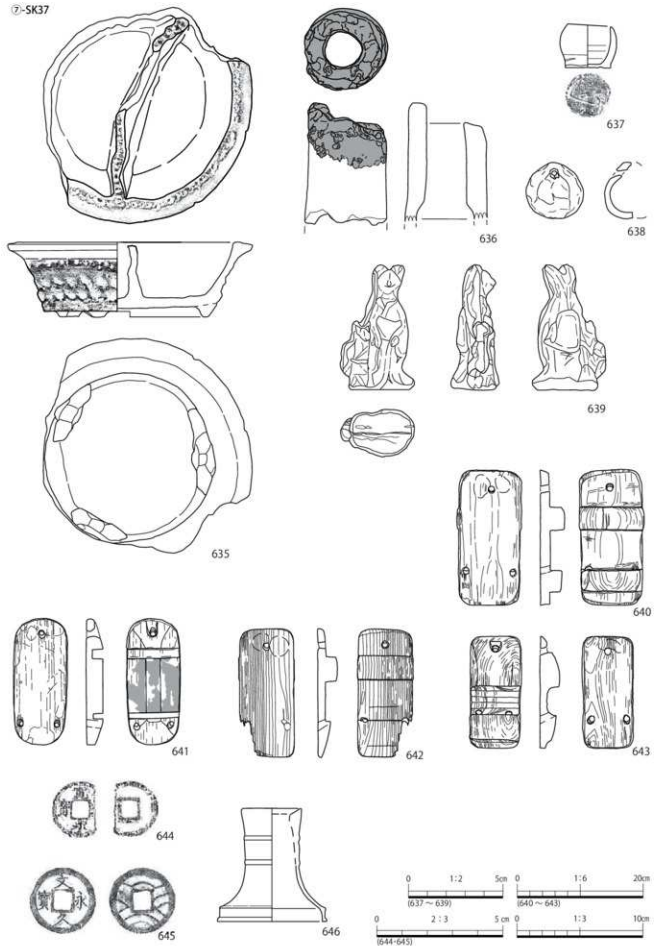
第 103 图 ⑦区出土遗物 (15)

⑦-SK37



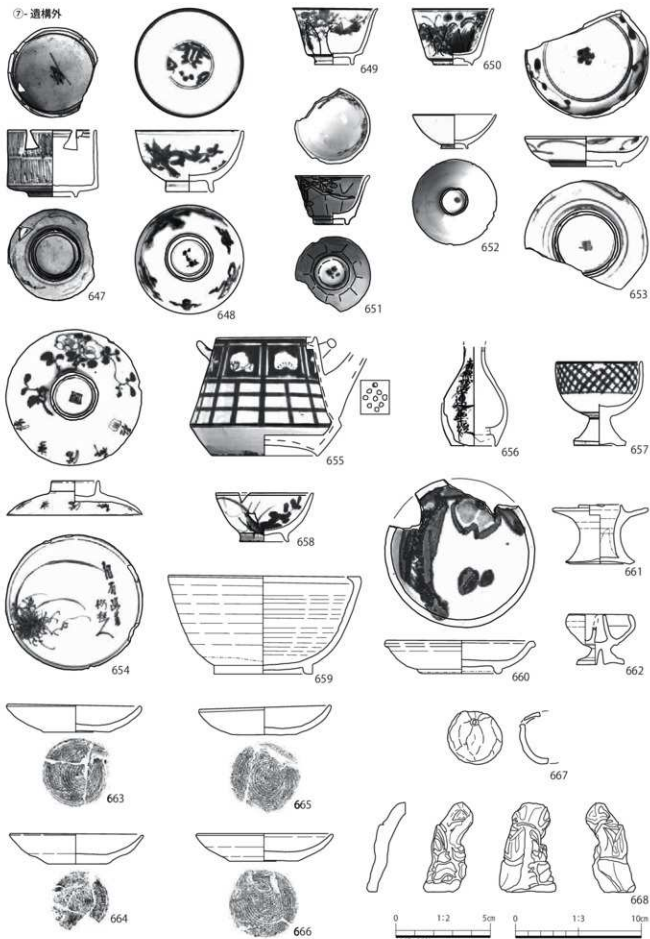
第 104 图 ⑦区出土遗物 (16)

⑦-SK37



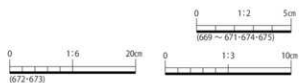
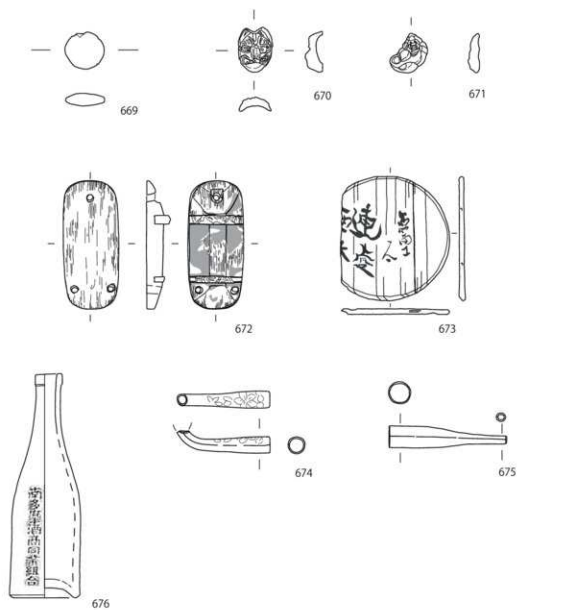
第 105 图 ⑦区出土遗物 (17)

⑦-遺構外



第106图 ⑦区出土遺物(18)

⑦- 遺構外



第 107 图 ⑦区出土遺物 (19)

㊦-A-SK1



677

㊦-A-SS1



678

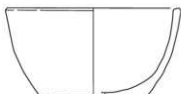
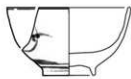


679



680

㊦-A-遺構外



682



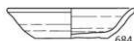
685



681



683



684



686



687



688



689



690



691



692



693



694

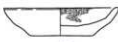
㊦-B-SK1



695



㊦-B-SK7



696



697



698



699

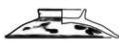
㊦-B-遺構外



700



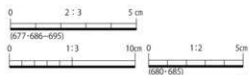
701



702

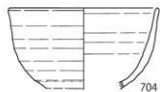


703

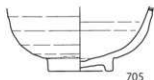


第108图 ㊦区出土遺物(1)

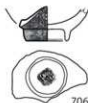
⑧-B-遺構外



704



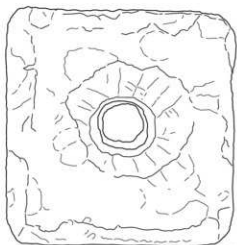
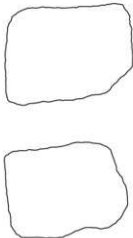
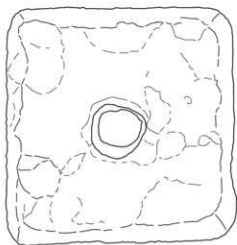
705



706



707



708



709



710



711



712



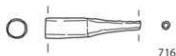
713



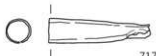
714



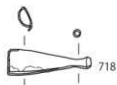
715



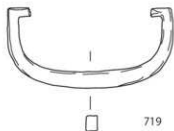
716



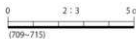
717



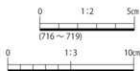
718



719



(709~715)

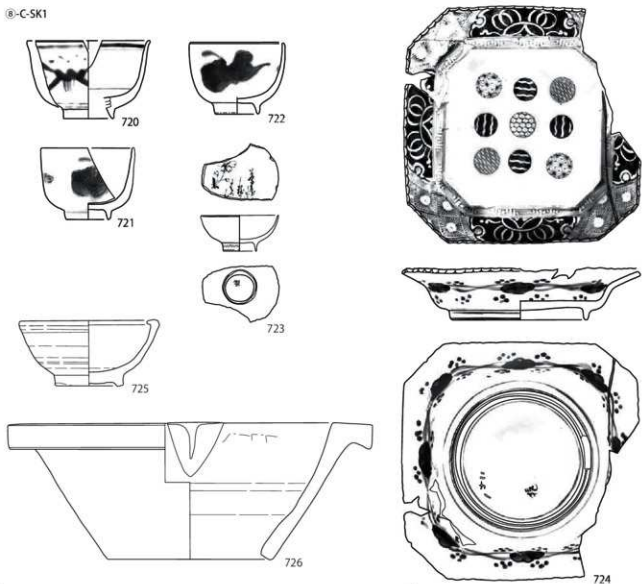


(716~719)

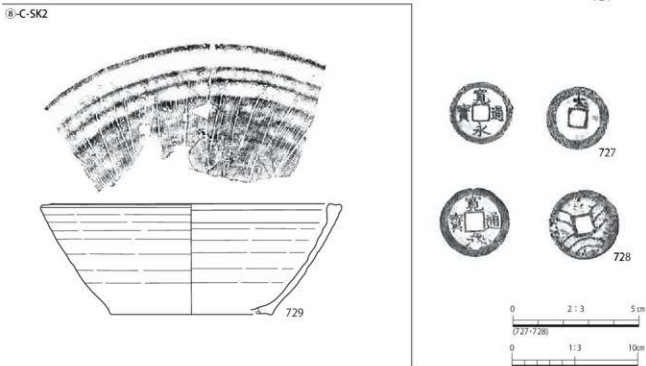
0 1:3 10cm

第109图 ⑧区出土遺物(2)

⑧-C-SK1

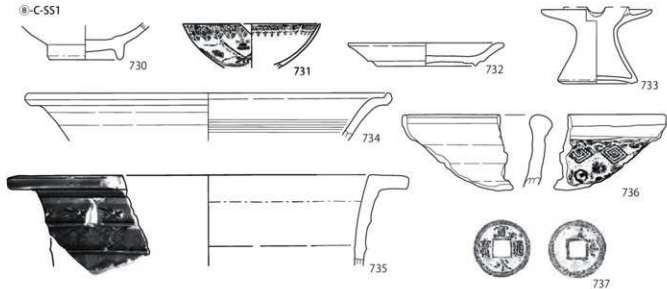


⑧-C-SK2

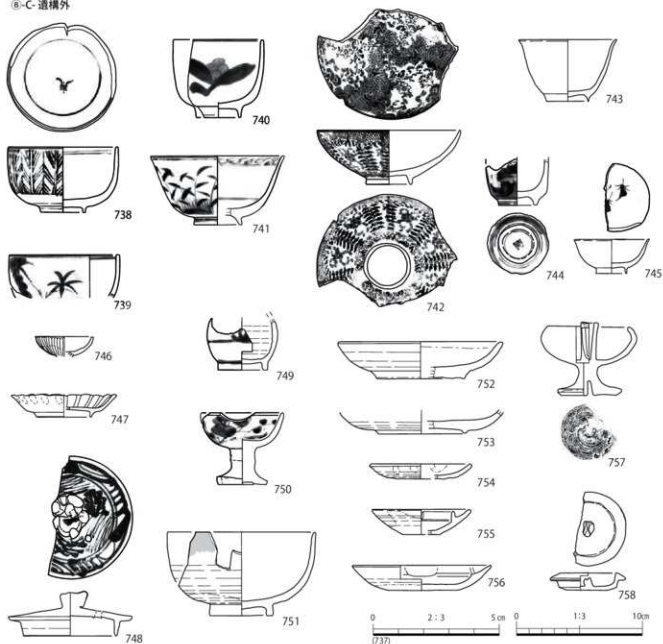


第 110 图 ⑧区出土遗物 (3)

⑧-C-SS1

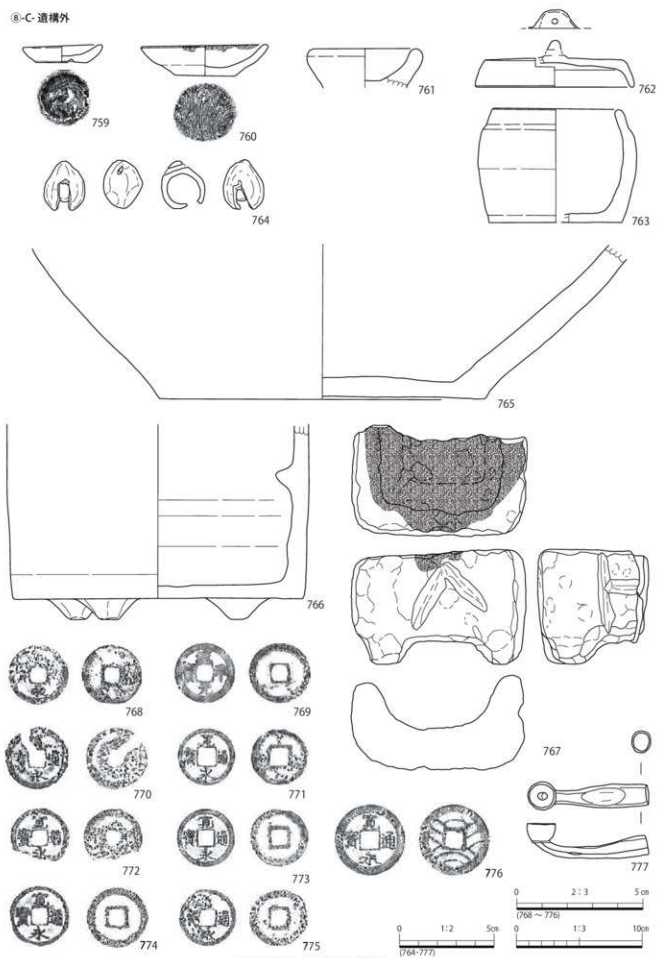


⑧-C-遺構外



第 111 图 ⑧区出土遗物 (4)

⑧-C- 遺構外



第 112 图 ⑧区出土遺物 (5)

※主筆者：1は発行地掲載。()は発行地不詳。

書名 番号	著者	題名	種別	形式	頁数 (冊)				発行・出版社名	特長・備考	紙質	編者	冊数	備考	紙質	冊数	備考	紙質	冊数	備考	
					A	B	C	D													
59	① 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	—	953	34													漢文原典	
60	① 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	12.1	11.0	4.3														朝鮮・朝日版 発行：朝日新聞社 分冊記
61	① 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	200	174.0	5.1														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
62	① 漢語外	土著	朝鮮	朝鮮	19.0	14.5	2.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
63	① 漢語外	土著	朝鮮	朝鮮	16.0	12.2	1.4														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
64	① 漢語外	土著	朝鮮	朝鮮	15.8	4.8	1.3														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
65	① 漢語外	土著	朝鮮	朝鮮	7.4	5.0	1.8														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
66	① 漢語外	土著	朝鮮	朝鮮	10.2	6.8	1.8														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
77	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	—	16.0	54.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
78	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	12.1	5.7	6.53														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
79	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	0.4	3.6	4.5														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
80	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	—	85.5	44.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
81	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	8.2	1.5	3.9														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
82	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	8.2	4.4	15.5														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
83	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	—	3.3	24.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
84	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	12.8	—	6.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
85	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	13.0	11.0	2.1														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
86	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	18.1	—	14.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
93	② 506	朝鮮	朝鮮	朝鮮	10.9	—	13.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
95	② 503	土著	朝鮮	朝鮮	35.7	21.8	39.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
96	② 503	白語	朝鮮	朝鮮	13.3	1.0	0.6														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
97	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	—	14.0	13.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
98	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	—	8.5	17.2														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
99	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	10.0	6.1	2.3														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
100	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	—	4.0	0.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
101	② 503	朝鮮	朝鮮	朝鮮	3.6	13.8	0.9														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
102	② 502	朝鮮	朝鮮	朝鮮	—	14.8	0.2														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
103	② 504	朝鮮	朝鮮	朝鮮	—	13.1	0.3														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
104	② 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	18.1	—	13.4														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
105	② 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	10.4	4.1	5.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
106	② 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	10.4	—	0.6														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
107	② 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	10.2	14.8	5.6														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
108	② 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	8.4	1.0	14.0														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
109	② 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	15.1	4.0	8.7														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
110	② 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	6.2	10.8	3.5														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記
111	② 漢語外	朝鮮	朝鮮	朝鮮	15.7	2.3	3.4														朝鮮 発行：朝日新聞社 分冊記

* 主簿 (1)は原水調査簿、(2)は原簿である。

原簿番号	調査区	調査区 土地区名	標高	調査	正量 (mm)				経過改正	航行・船舶状況	特殊・備考	船名	船種	船主	船主住所	航行時期	航行地	調査年度	調査年度代		
					A	B	C	D													
112	①	瀬内沖	船橋	調査	—	0.00	2.5	4.5		舟出航行	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査		
113	①	瀬内沖	船橋	小堤	1.8	—	0.00			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査		
114	②	瀬内沖	船橋	人形	2.7	4.4	0.5			二沖ノ正		調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
115	①	瀬内沖	船橋	橋	—	0.3	2.0			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
116	②	瀬内沖	船橋	洲	—	4.0	3.1			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
117	②	瀬内沖	船橋	灯台堤	調査	調査	調査			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
118	①	瀬内沖	船橋	灯台堤	調査	調査	調査			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
119	①	瀬内沖	船橋	不況	0.7	—	0.00			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
120	②	瀬内沖	船橋	中堤	20.9	—	0.4			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
121	①	瀬内沖	船橋	島	—	0.0	11.5			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
122	①	瀬内沖	船橋	島戸	調査	調査	調査			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
123	②	瀬内沖	船橋	島	0.0	5.0	2.2	4.0		調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
124	②	瀬内沖	船橋	島戸	調査	調査	調査			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
125	②	瀬内沖	土郷	大堤	0.4	—	0.6			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
126	②	瀬内沖	土郷	大堤	2.3	2.3	0.0			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
127	②	瀬内沖	土郷	島	2.0	1.9	0.7			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
134	①	504	船橋	中堤	10.6	4.7	6.1			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
136	①	504	船橋	中堤	10.0	4.4	1.7	6.4		調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
137	①	504	船橋	島	0.0	—	4.5			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
138	①	504	土郷	島堤	0.7	0.0	3.4			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
139	①	504	土郷	河口	0.2	0.3	2.9			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
140	①	504	土郷	人形	2.4	1.0	3.2			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
141	①	504	土郷	島	2.1	2.0	0.6			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
142	①	504	土郷	島	1.9	2.0	0.7			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
143	①	504	土郷	島	1.8	2.0	0.5			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
144	①	504	土郷	島	2.1	2.1	0.5			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
145	①	505	土郷	灯台堤	調査	調査	調査			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
146	①	505	土郷	灯台堤	調査	調査	調査			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
147	①	509	船橋	中堤	11.0	4.2	5.8			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
148	①	509	船橋	中堤	10.3	—	5.9			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
149	①	509	船橋	小堤	4.2	3.4	4.3			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
150	①	509	船橋	島	2.5	4.3	2.6			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	
151	①	509	船橋	小堤	2.5	4.3	2.6			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査
152	①	509	船橋	島	—	0.4	5.0			調査	調査	調査船	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	調査	

飼育管理 番号	飼育区	飼育区 土壌名	樹種	樹形	樹高 (m)	径寸(mm)				枝分枝法	特殊・備考	結果	樹種	樹土	含有物	播定産地	播定生産年代	
						A	B	C	D									
207	③	濃緑外 土製品	陶器	圓錐		15.2	—	3.1	5.0			実録	灰白(10961)	白色樹皮 白粉	自白	1972	非熟	
208	③	濃緑外 土製品	華石	華石		2.0	2.0	0.6		平型丸成形		陶物	紺砂粒含む 黒(10966)	黒色樹皮・黒 赤樹皮・黒 赤樹皮・黒	紺砂粒含む	1976	非熟	
209	③	濃緑外 土製品	華石	華石		1.8	2.0	0.7		平型丸成形		陶物	紺砂粒含む 黒(10966)	黒色樹皮・黒 赤樹皮・黒	紺砂粒含む	1976	非熟	
210	③	濃緑外 土製品	華石	華石		1.9	2.0	0.7		平型丸成形		陶物	紺砂粒含む 黒(10966)	黒色樹皮・黒 赤樹皮・黒	紺砂粒含む	1976	非熟	
211	③	濃緑外 土製品	華石	華石		2.0	2.0	0.6		平型丸成形		陶物	紺砂粒含む 黒(10966)	黒色樹皮・黒 赤樹皮・黒	紺砂粒含む	1976	非熟	
212	③	濃緑外 土製品	華石	華石		2.1	2.2	0.6		平型丸成形		陶物	紺砂粒含む 黒(10966)	黒色樹皮・黒 赤樹皮・黒	紺砂粒含む	1976	非熟	
221	⑥	564 陶器	小皿	小皿		14.5	(2.2)			輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
222	⑥	565 陶器	彫刻 016	彫刻 016		1.9	4.2	2.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
223	⑥	565 陶器	灯篕 調子	調子 調子		(0.7)	1.8	(2.1)	7.8	輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
224	⑥	565 陶器	灯篕 調子	調子 調子		(0.7)	1.8	(2.1)	7.8	輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
225	⑥	551 陶器	小皿	平型		8.1	3.0	4.5		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
226	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
227	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
228	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
229	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
229	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
229	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
229	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
231	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
230	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
231	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
232	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
232	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
232	⑥	551 陶器	小皿	小皿		8.3	3.1	4.1		輪盤成形	具熱焼	焼物	焼物(10971)	黒色樹皮	焼物	1976	非熟	
234	⑥	551 陶器	大皿	大皿		1.5	2.2	2.9		平型丸成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
236	⑥	濃緑外 土製品	小皿	小皿		7.8	1.8	4.9		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
237	⑥	濃緑外 土製品	小皿	小皿		6.8	3.1	4.7		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
238	⑥	濃緑外 土製品	小皿	小皿		(0.9)	6.6	1.9		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
239	⑥	濃緑外 土製品	小皿	小皿		(0.9)	6.6	1.9		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
239	⑥	濃緑外 土製品	小皿	小皿		(0.9)	6.6	1.9		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
241	⑥	濃緑外 土製品	五蓋 調子	五蓋 調子		1.6	4.6	2.2		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
241	⑥	濃緑外 土製品	五蓋 調子	五蓋 調子		1.6	4.6	2.2		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
242	⑥	濃緑外 土製品	灯篕 調子	調子		(2.1)	6.6	0.6	9.4	輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
243	⑥	濃緑外 土製品	大皿	大皿		(3.3)	(2.8)	(11.3)		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
244	⑥	濃緑外 土製品	灯篕 調子	調子		—	6.6	(2.2)		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
244	⑥	561 陶器	小皿	小皿		—	6.6	(2.2)		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
247	③	561 陶器	小皿	小皿		(3.2)	6.6	(3.6)		打込成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
248	③	561 陶器	小皿	小皿		(8.6)	5.6	2.0		打込成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
249	③	563 陶器	中皿	中皿		(16.6)	4.5	3.6		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
250	③	563 陶器	中皿	中皿		(16.6)	4.0	5.2		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
251	③	563 陶器	中皿	中皿		(10.7)	5.6	8.1		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
252	③	563 陶器	中皿	中皿		(10.7)	5.6	8.1		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
253	③	561 陶器	大皿	大皿		(16.6)	13.3	(14.0)		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
256	③	561 陶器	大皿	大皿		(6.6)	6.6	2.0	—	輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
257	③	561 陶器	大皿	大皿		(6.6)	6.6	2.0	—	輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
258	③	561 陶器	小皿	小皿		6.6	5.6	1.8		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
258	③	562 陶器	小皿	小皿		6.6	5.6	1.8		輪盤成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
259	③	562 陶器	小皿	小皿		4.1	2.2	1.2		平型丸成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
260	③	5616 陶器	小皿	小皿		(13.2)	8.4	3.7		打込成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
261	③	5616 陶器	中皿	中皿		(13.2)	8.4	3.7		打込成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
261	③	5616 陶器	中皿	中皿		(13.2)	8.4	3.7		打込成形		陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟	
265	③	595 陶器	大皿	大皿		—	(4.6)	(4.2)		輪盤成形	製作・コニエクド陶	中09手	陶物	焼物(10963)	黒色樹皮	陶物	1976	非熟

※注意：①は発行地別、②は発行種別、③は発行年代。

邦書番号	邦書名	著者	題名	原書				邦文訳法	邦行・邦訳状況	特長・備考	編者	邦土	邦土品	告知物	邦文訳者
				A	B	C	D								
266	① 596	織田 小島	小島	16.0	3.7	4.6	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
267	① 501	織田 小島	小島	17.0	14.0	5.7	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
268	① 501	織田 小島	小島	17.0	13.0	1.6	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
272	① 551	織田 小島	小島	8.2	3.7	4.2	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
273	① 551	織田 小島	小島	15.0	10.0	5.0	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
274	① 551	織田 小島	小島	5.4	2.2	3.0	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
275	① 551	織田 小島	小島	10.6	6.1	1.8	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
276	① 551	織田 小島	小島	17.3	11.5	2.3	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
277	① 551	織田 小島	小島	13.0	16.0	4.5	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
278	① 551	織田 小島	小島	10.0	13.0	17.7	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
279	① 551	織田 小島	小島	3.2	3.0	3.0	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
280	① 551	織田 小島	小島	3.2	3.0	3.0	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
281	① 551	織田 小島	小島	3.0	1.8	1.0	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
282	① 551	織田 小島	小島	6.0	4.0	22.9	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
283	① 551	織田 小島	小島	2.6	—	9.0	17.8	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
284	① 552	織田 小島	小島	10.0	14.1	5.3	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
286	① 552	織田 小島	小島	8.8	3.4	4.6	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
287	① 552	織田 小島	小島	10.0	13.0	17.7	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
288	① 552	織田 小島	小島	10.0	13.0	17.7	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
289	① 552	織田 小島	小島	10.0	13.0	17.7	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
290	① 552	織田 小島	小島	10.0	13.0	17.7	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
291	① 552	織田 小島	小島	10.0	13.0	17.7	4.6	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
294	① 552	織田 小島	小島	—	12.0	1.8	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
295	① 552	織田 小島	小島	13.0	17.0	2.6	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
296	① 552	織田 小島	小島	6.8	5.1	2.5	1.2	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
297	① 552	織田 小島	小島	—	14.1	16.6	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
298	① 552	織田 小島	小島	—	8.8	13.0	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
299	① 552	織田 小島	小島	11.0	4.2	5.6	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
300	① 552	織田 小島	小島	16.0	29	17	16	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
301	① 552	織田 小島	小島	—	13.3	4.7	5.1	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
302	① 552	織田 小島	小島	—	4.5	0.8	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
303	① 552	織田 小島	小島	—	16.4	0.8	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
304	① 552	織田 小島	小島	19.2	12.7	16.6	0.4	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
305	① 552	織田 小島	小島	0.8	14.8	2.7	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
306	① 552	織田 小島	小島	2.8	2.2	1.4	0.7	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
307	① 552	織田 小島	小島	2.1	2.1	0.8	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
319	① 502	織田 小島	小島	1.0	0.9	5.7	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
320	① 502	織田 小島	小島	9.5	3.9	4.9	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
321	① 502	織田 小島	小島	6.0	3.5	4.9	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
322	① 502	織田 小島	小島	0.7	0.7	2.0	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
323	① 502	織田 小島	小島	8.7	0.8	2.1	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
324	① 502	織田 小島	小島	4.0	4.1	2.5	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
325	① 506	織田 小島	小島	0.3	14.0	5.7	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
326	① 506	織田 小島	小島	13.8	13.8	12.0	5.2	4.0	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳
327	① 503	織田 小島	小島	10.2	4.2	5.4	—	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳	蘭文直訳

※基準(1)は符号表参照。(2)は目的表を参照。

新訂漢字 番号	漢字	漢字	漢字	正誤(mm)				成語注法	配列・配列注法	施字・備考	施字	施土	施土位置	含有語	漢字位置	漢字生年代
				A	B	C	D									
330	㊦ SK13	土鐘	灯籠型	扁圓型(半形)	8.5	6.2	1.6	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) S196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
331	㊦ SK13	土鐘	灯籠型	扁圓型(半形)	9.8	5.5	2.2	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) S196(5)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
335	㊦ SK14	土鐘	大鐘	扁圓型(半形)	55.1	25.7	37.0	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
336	㊦ SK17	磁鐘	中鐘	扁圓型(半形)	9.9	14.0	5.6	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
340	㊦ SK18	磁鐘	小鐘	扁圓型(半形)	7.5	4.3	6.3	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
341	㊦ SK18	磁鐘	小鐘	扁圓型(半形)	8.5	3.7	5.6	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
342	㊦ SK18	磁鐘	中鐘	扁圓型(半形)	9.1	4.0	4.6	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
343	㊦ SK18	磁鐘	中鐘	扁圓型(半形)	9.0	3.8	5.1	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
344	㊦ SK18	磁鐘	小鐘	扁圓型(半形)	13.8	2.7	2.9	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
345	㊦ SK18	磁鐘	小鐘	扁圓型(半形)	13.52	8.0	3.6	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
346	㊦ SK18	磁鐘	中鐘	扁圓型(半形)	18.0	10.8	3.0	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
347	㊦ SK18	磁鐘	小鐘	扁圓型(半形)	1.9	—	0.60	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
348	㊦ SK18	陶鐘	土鐘	扁圓型(半形)	6.51	6.4	16.0	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
349	㊦ SK18	陶鐘	土鐘	扁圓型(半形)	5.51	5.9	11.3	17.4	扁圓型(半形)		扁圓型	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
366	㊦ SK45	陶鐘	扁鐘	扁圓型(半形)	12.62	10.00	14.0	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
367	㊦ SK13	土鐘	灯籠型	扁圓型(半形)	18.2	5.8	1.6	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
368	㊦ SK54	陶鐘	小鐘	扁圓型(半形)	—	6.0	6.53	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
369	㊦ SK56	陶鐘	中鐘	扁圓型(半形)	8.9	5.0	5.6	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
370	㊦ SK56	土鐘	灯籠型(半形)	扁圓型(半形)	6.5	4.2	1.4	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
376	㊦ SK7	陶鐘	小鐘	扁圓型(半形)	—	6.8	11.1	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
377	㊦ SK1	陶鐘	中鐘	扁圓型(半形)	12.4	4.0	5.0	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
378	㊦ SK1	陶鐘	火入れ	扁圓型(半形)	9.9	6.2	7.4	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
379	㊦ SK1	土鐘	扁鐘	扁圓型(半形)	11.0	129.4	5.8	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
382	㊦ SK2	磁鐘	小鐘	扁圓型(半形)	8.3	4.8	7.5	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
383	㊦ SK2	磁鐘	中鐘	扁圓型(半形)	9.2	3.5	5.1	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
384	㊦ SK2	磁鐘	扁鐘	扁圓型(半形)	14.5	10.0	6.5	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
385	㊦ SK2	磁鐘	扁鐘	扁圓型(半形)	10.0	4.8	2.8	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
386	㊦ SK2	磁鐘	扁鐘(半形)	扁圓型(半形)	—	4.0	4.0	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
388	㊦ SK10	土鐘	灯籠型	扁圓型(半形)	6.9	6.0	2.2	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
389	㊦ SK10	土鐘	灯籠型(半形)	扁圓型(半形)	16.0	6.0	2.5	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
391	㊦ SK8	土製品	附付石	扁圓型(半形)	5.8	5.0	2.1	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
392	㊦ 遺物外	磁鐘	小鐘	扁圓型(半形)	7.0	15.4	6.0	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
393	㊦ 遺物外	磁鐘	中鐘	扁圓型(半形)	—	—	—	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
394	㊦ 遺物外	磁鐘	扁鐘	扁圓型(半形)	12.0	14.8	5.4	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
395	㊦ 遺物外	磁鐘	小鐘	扁圓型(半形)	5.0	2.9	2.8	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	
396	㊦ 遺物外	磁鐘	小鐘	扁圓型(半形)	11.2	6.3	2.5	扁圓型(半形)		扁圓型	扁圓型(半形)	土中心(半形) J196(4)	青色白・白 赤黒・黄色 白・赤色黄	餅形 餅形 餅形	餅形	

*注：（ ）は発行年を、（ ）は発行社名を示す。

刊行年度	図号	題名	種別	版数 (部)				原形	図形	発行・出版方法	特筆・備考	紙質	綴装	編者	図土	加工処理	造作物	原産地
				A	B	C	D											
644	⑦	漆器外	磁器	10.8	3.8	2.7	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
655	⑦	漆器外	磁器	7.9	8.3	9.35	14.0	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
656	⑦	漆器外	磁器	—	3.6	17.0	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
657	⑦	漆器外	磁器	16.0	4.0	6.7	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
658	⑦	漆器外	陶器	7.7	3.9	3.9	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
659	⑦	漆器外	陶器	15.2	7.8	7.8	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
660	⑦	漆器外	陶器	11.5	6.5	2.6	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
661	⑦	漆器外	陶器	17.6	4.7	3.4	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
662	⑦	漆器外	陶器	4.8	3.8	4.0	0.7	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
663	⑦	漆器外	土器	10.5	5.3	2.7	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
664	⑦	漆器外	土器	10.6	4.7	2.3	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
665	⑦	漆器外	土器	10.4	5.0	2.3	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
666	⑦	漆器外	土器	10.7	5.5	2.2	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
667	⑦	漆器外	土製品	2.8	2.9	1.5	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
668	⑦	漆器外	土製品	2.6	2.95	4.7	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
669	⑦	漆器外	土製品	2.0	2.1	0.7	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
670	⑦	漆器外	土製品	2.4	1.8	0.9	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
671	⑦	漆器外	土製品	2.1	2.0	0.6	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
672	⑦	漆器外	ガラス製品	2.1	5.0	17.8	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
673	⑧-A	551	磁器	13.1	10.3	3.0	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
679	⑧-A	552	磁器	4.3	3.0	2.0	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
681	⑧-A	漆器外	磁器	18.0	4.2	5.1	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
682	⑧-A	漆器外	磁器	13.8	18.2	7.4	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
683	⑧-A	漆器外	陶器	10.0	5.0	2.2	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
684	⑧-A	漆器外	陶器	10.0	15.8	2.4	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
696	⑧-B	507	土器	1.0	6.7	3.8	2.2	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
697	⑧-B	507	土器	18.0	4.4	1.7	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無
698	⑧-B	507	土器	7.0	4.4	1.8	無	無	発行・印刷	無	無	無	無	白	無	白磁器	無	無

第 5 表 | 工区遺物観察表(木製品)

発掘層 番号	遺物 番号	種別	寸法(mm)			形状	出土地点	備考
			A	B	C			
10	504	皿	11.2	3.5	1.4	半円形1/3片断あり	* 注意 () は加工痕跡、(△) は修理痕である。	
	505	皿	10.2	3.0	1.4	半円形1/3片断あり		
	506	皿	10.4	2.8	1.4	半円形1/3片断あり		
6	504	皿	16.5	5.1	3.4	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	505	皿	13.5	7.1	2.6	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
7	504	皿	13.3	9.8	2.7	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	505	皿	13.3	11.3	4.0	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
11	504	皿	13.0	16.4	2.7	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	505	皿	13.0	16.4	2.7	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
13	504	皿	13.2	16.4	2.5	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	505	皿	13.2	16.4	2.5	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
18	503	皿	6.4	3.5	0.9	半円形あり	* 注意 () は加工痕跡、(△) は修理痕である。	
	504	皿	5.1	3.0	0.9	半円形あり		
19	503	皿	5.1	3.0	1.2	半円形あり	* 注意 () は加工痕跡、(△) は修理痕である。	
	504	皿	5.1	3.0	1.2	半円形あり		
22	503	皿	5.2	3.6	2.5	半円形あり	* 注意 () は加工痕跡、(△) は修理痕である。	
	504	皿	6.0	7.4	0.9	半円形あり		
87	502	皿	14.0	3.8	3.0	5012の痕跡あり・ヤツルNo.049	ヤツルNo.049	
	503	皿	14.7	4.2	3.6	5012の痕跡あり・ヤツルNo.049		
89	502	皿	12.9	6.3	4.7	5012の痕跡あり・ヤツルNo.013	ヤツルNo.013	
	503	皿	12.8	4.6	4.3	5012の痕跡あり・ヤツルNo.015		
91	502	皿	5.94	20.0	16.0	5012の痕跡あり・ヤツルNo.011・遺着番号非/付着点下2・片断の痕跡が確認	ヤツルNo.011	
	503	皿	5.84	17.3	2.5	半円形1/2片断あり		
92	503	皿	6.50	15.5	2.5	半円形2/3片断あり	ヤツルNo.011	
	504	皿	6.49	9.2	2.2	半円形2/3片断あり		
92	503	皿	6.17	13.5	2.7	半円形2/3片断あり	ヤツルNo.011	
	504	皿	4.41	9.8	1.7	半円形2/3片断あり		
166	503	皿	16.2	6.5	0.5	半円形あり	ヤツルNo.011	
	504	皿	16.2	6.5	0.5	半円形あり		
174	503	皿	1.29	32.3	13.0	付着物の痕跡	ヤツルNo.011	
	504	皿	26.6	16.6	12.8	付着物の痕跡		
205	503	皿	20.2	6.9	0.9	片断あり	ヤツルNo.011	
	504	皿	20.2	6.9	0.9	片断あり		
288	503	皿	13.5	34.0	29.5	5012の痕跡あり・ヤツルNo.M100・No.0702より確認できる・ヤツルNo.011	ヤツルNo.011	
	504	皿	13.2	34.0	13.5	5012の痕跡あり・ヤツルNo.M101・ヤツルNo.M102・ヤツルNo.M103・ヤツルNo.M104		
290	503	皿	15.0	15.0	10.9	5012の痕跡あり・ヤツルNo.M101	ヤツルNo.M101	
	504	皿	15.0	15.0	10.9	5012の痕跡あり・ヤツルNo.M101		
332	503	皿	11.3	5.2	3.6	内側に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	—	—	—	内側に遺物の痕跡あり		
334	503	皿	—	—	—	内側に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	—	—	—	内側に遺物の痕跡あり		
337	503	皿	11.2	11.8	0.6	片断に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
339	503	皿	40.0	41.8	33.8	片断に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
350	503	皿	40.8	11.5	2.9	片断に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	49.9	13.0	2.6	半円形1/4片断あり		
350	503	皿	47.6	14.5	2.8	半円形1/4片断あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	41.2	12.2	2.6	半円形1/4片断あり		
352	503	皿	13.8	11.3	3.5	片断に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	13.0	11.3	3.5	片断に遺物の痕跡あり		
353	503	皿	13.0	12.0	2.4	内側に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	—	—	—	内側に遺物の痕跡あり		
354	503	皿	13.6	11.4	2.5	内側に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	—	—	—	内側に遺物の痕跡あり		
355	503	皿	13.7	13.9	2.4	外側に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	—	—	—	外側に遺物の痕跡あり		
357	503	皿	12.0	12.2	2.4	外側に遺物の痕跡あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	—	—	—	外側に遺物の痕跡あり		
359	503	皿	15.3	13.4	1.7	付着物あり	ヤツルNo.040	
	504	皿	—	—	—	付着物あり		

発掘層 番号	遺物 番号	種別	寸法(mm)			形状	出土地点	備考
			A	B	C			
300	502	皿	11.2	3.5	1.4	半円形1/3片断あり	* 注意 () は加工痕跡、(△) は修理痕である。	
	503	皿	10.2	3.0	1.4	半円形1/3片断あり		
	504	皿	10.4	2.8	1.4	半円形1/3片断あり		
371	506	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	507	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
372	506	皿	21.2	9.0	4.5	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	507	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
374	506	皿	11.4	8.9	3.4	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	507	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
423	505	皿	9.9	10.0	2.7	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	506	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
424	505	皿	25.6	30.2	1.9	半円形2/3片断あり	半円形2/3片断あり	
	506	皿	26.0	30.9	2.1	半円形2/3片断あり		
426	505	皿	24.9	38.8	1.9	半円形2/3片断あり	半円形2/3片断あり	
	506	皿	24.9	38.8	1.9	半円形2/3片断あり		
428	505	皿	57.2	27.5	4.2	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	506	皿	57.2	27.5	4.2	片断に遺物の痕跡あり		
429	505	皿	55.5	40.0	3.6	半円形1/3片断あり	半円形1/3片断あり	
	506	皿	55.5	40.0	3.6	半円形1/3片断あり		
430	505	皿	19.4	10.0	2.9	半円形1/2片断あり	半円形1/2片断あり	
	506	皿	19.2	9.6	1.7	片断に付着物あり		
432	505	皿	20.6	17.2	1.4	片断に付着物あり	片断に付着物あり	
	506	皿	20.6	17.2	1.4	片断に付着物あり		
433	505	皿	13.2	12.0	1.5	片断に付着物あり	片断に付着物あり	
	506	皿	13.2	12.0	1.5	片断に付着物あり		
434	505	皿	13.0	12.9	1.8	片断に付着物あり	片断に付着物あり	
	506	皿	13.0	12.9	1.8	片断に付着物あり		
441	502	皿	10.6	3.3	1.9	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	503	皿	10.6	3.3	1.9	片断に遺物の痕跡あり		
442	502	皿	19.2	8.9	6.0	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり・外側に遺物の痕跡あり・付着物あり	
	503	皿	19.2	8.9	6.0	片断に遺物の痕跡あり		
455	503	皿	21.0	7.7	3.3	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
456	503	皿	19.6	15.0	13.4	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
472	503	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
474	503	皿	11.8	9.9	4.5	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
476	503	皿	11.4	5.4	3.4	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
482	503	皿	12.0	6.0	0.0	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
485	503	皿	17.4	6.0	0.2	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
505	502	皿	20.4	9.3	5.7	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	503	皿	20.4	9.3	5.7	片断に遺物の痕跡あり		
507	502	皿	20.4	8.7	2.5	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	503	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
538	503	皿	17.6	8.3	2.4	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
540	502	皿	7.4	7.5	6.3	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	503	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
541	502	皿	17.5	21.4	1.6	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	503	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
545	502	皿	10.5	6.4	6.6	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	503	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
556	503	皿	5.8	5.9	3.8	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
557	503	皿	23.1	39.1	4.8	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	504	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
558	502	皿	27.7	9.4	2.4	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	503	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
571	504	皿	14.6	7.9	3.5	半円形1/2片断あり	片断に遺物の痕跡あり	
	505	皿	—	—	—	半円形1/2片断あり		
594	502	皿	19.0	8.4	—	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	503	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
596	502	皿	17.7	8.3	2.7	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	503	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		
597	502	皿	17.8	8.0	2.5	片断に遺物の痕跡あり	片断に遺物の痕跡あり	
	503	皿	—	—	—	片断に遺物の痕跡あり		

第 7 表 1 区産物類表 (金属製品)

*注 () は番号記載。() は別図である。

番号	品名	仕土地名	種類	寸法 (mm)			
				A	B	C	D
20	1	SX1	釘	3.9	0.7	0.2	
20	1	SX13	組立金	7.0	0.8	0.1	
71	1	鋼板	鋼板	1.5	0.9	0.19	内径に滑り部付
75	1	鋼板	鋼板	1.5	—	0.17	外周部外面に凸目取の突端
78	1	鋼板	鋼板	—	3.5	—	0.9
78	1	鋼板	鋼板	—	7.6	—	1.6
75	1	鋼板	鋼板	9.1	1.1	0.2	
78	1	鋼板	鋼板	—	1.3	—	0.2
129	2	鋼板	鋼板	5.0	4.7	0.4	
130	2	鋼板	鋼板	9.0	3.9	0.8	
131	2	鋼板	鋼板	10.8	4.1	0.7	
132	2	鋼板	鋼板	11.1	6.5	1.2	
133	3	SX1	鋼板	4.0	1.7	0.6	
158	3	鋼板	鋼板	12.7	2.6	0.1	外周突端
159	3	鋼板	鋼板	12.7	2.6	0.1	外周突端
190	3	SX2	鋼板	3.6	0.8	0.1	外周突端
171	3	鋼板	鋼板	8.6	15.2	0.07	
184	3	鋼板	鋼板	1.6	5.3	1.95	1.1 突端に十字溝の突部付
215	3	鋼板	鋼板	0.2	0.95	0.5	内径に滑り部付
216	3	鋼板	鋼板	0.2	0.6	0.6	内径に滑り部付
217	3	鋼板	鋼板	0.2	0.3	1.1	内径に滑り部付
265	5	SX4	鋼板	1.3	1.3	1.2	外周に滑り部付・内径に突部付
269	5	S01	釘	5.0	1.6	0.0	
315	5	鋼板	鋼板	9.9	4.3	1.4	
316	5	鋼板	鋼板	0.2	0.8	1.1	0.3
317	5	鋼板	鋼板	—	4.1	1.5	1.1 突端部に凸目取の突部付
318	5	鋼板	鋼板	—	4.1	1.5	1.1 突端部に凸目取の突部付
34	6	SX14	鋼板	4.8	1.0	0.5	
362	6	SX14	鋼板	—	6.3	1.9	1.1 突端に十字溝の突部付
363	6	SX14	鋼板	—	5.5	1.0	0.8 突端に十字溝の突部付
381	6	S51	鋼板	0.2	4.3	0.8	0.4
401	6	鋼板	鋼板の弁付	5.0	0.8	1.0	
402	6	鋼板	鋼板	3.4	0.8	0.5	
405	6	鋼板	鋼板	1.4	2.25	2.5	
406	6	鋼板	鋼板	1.6	1.6	0.8	0.05
457	7	SX15	7/16径 鋼板	3.5	2.1	0.5	鋼板弁付
459	7	SX17	鋼板	1.6	5.5	2.1	1.0
460	7	SX17	鋼板	—	6.6	—	1.2
548	7	SX22	鋼板	3.4	1.0	0.5	
549	7	SX22	鋼板	—	1.0	—	0.5
546	7	SX22	鋼板	8.3	0.8	0.1	
574	7	SX24	釘	5.5	0.9	0.4	
603	7	SX24	鋼板の弁付	6.4	4.6	0.4	
606	7	SX27	鋼板	2.4	4.3	4.5	
605	7	鋼板	鋼板	—	4.9	1.2	0.9 突端に十字溝の突部付
607	7	鋼板	鋼板	—	6.1	—	0.9 突端に十字溝の突部付
605	8A	S51	鋼板	0.2	5.7	1.2	0.5 突端に十字溝の突部付
605	8A	鋼板	鋼板	5.2	0.95	0.4	
716	8B	鋼板	鋼板	5.1	1.1	0.5	
717	8B	鋼板	鋼板	0.2	5.4	1.2	—
718	8B	鋼板	鋼板	0.2	4.4	1.5	0.4
719	8B	鋼板	鋼板の弁付	0.2	4.8	4.2	0.6
777	8C	鋼板	鋼板	1.043	0.4	1.9	1.1

*注 () は番号記載。() は別図である。

番号	品名	仕土地名	種類	寸法 (mm)			
				A	B	C	D
598	①	SX2	下板	17.7	8.1	3.4	
599	①	SX2	下板	17.6	7.7	2.7	
600	①	SX2	下板	17.6	7.7	2.7	
617	①	SX6	鋼	0.31	0.31	0.55	鋼板の突部付
618	①	SX6	鋼	20.5	0.6	0.6	鋼板の突部付・外周突部付・内径に滑り部付・突部取付
619a	①	SX6	鋼	12.3	12.3	10.1	
619b	①	SX6	鋼	48.3	2.8	1.3	鋼板突部付・鋼板取付
620	①	SX6	鋼	17.4	2.3	1.1	鋼板突部付・鋼板取付
641	①	SX17	鋼板	20.0	8.5	2.6	鋼板突部付・鋼板取付・鋼板の突部取付
642	①	SX17	鋼板	20.5	8.9	3.1	鋼板の突部取付
643	①	SX17	鋼板	17.7	8.1	3.1	鋼板の突部取付
652	①	鋼板	下板	20.3	8.8	2.7	鋼板の突部取付・鋼板の突部取付
653	①	鋼板	鋼	17.6	17.2	0.8	鋼板取付・鋼板取付・鋼板取付・鋼板取付

第 6 表 1 区産物類表 (石製品)

*注 () は番号記載。() は別図である。

番号	品名	仕土地名	種類	寸法 (mm)			
				A	B	C	D
162	3	SX1	石	43.0	20.0	19.3	上白・木口・木口入り板付・板付の突部付として用直されて、井戸の覆石として用直されて、
163	3	SX1	石	25.3	20.1	19.0	上白・木口・木口入り板付・板付の突部付として用直されて、
259	5	SX2	鋼	4.1	2.2	1.2	
284	5	S51	鋼	13.8	0.9	1.0	鋼代
308	5	S51	鋼	13.8	0.9	1.0	鋼代
508	6	SX6	鋼	25.3	12.5	12.3	上白・突部取付・鋼板取付・鋼板取付
509	6	SX6	鋼	28.4	16.3	11.5	下白
402	6	鋼板	石	18.5	17.0	12.9	上白・鋼板の突部付
604	7	SX21	石	55.2	34.0	26.0	上白・木口・木口入り板付・凸部取付・鋼板取付
700	7	SX24	鋼	12.8	7.9	1.0	鋼板の突部付
701	7	SX24	鋼	12.8	7.9	1.0	鋼板の突部付
706	8B	鋼板	鋼	18.9	18.3	10.2	鋼板の突部付
707	8C	鋼板	鋼板の突部付	13.8	9.0	鋼板の突部付	

第 8 表 1 工区遺物観察表(銭貨)

*正表()は発行年、副表()は製造年を示す。

番号	調査地区	出土状況	種類	重量(g)			備考
				A	B	C	
24	1	S48	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.2
31	1	S51	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.1
67	1	遺物外	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	2.7
68	1	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	1.7
69	1	遺物外	寛永通寶	2.8	0.6	0.1	5.1
70	1	遺物外	寛永通寶	2.4	0.7	0.1	2.8
74	2	遺物外	寛永通寶	2.4	0.7	0.1	4.1
75	2	遺物外	寛永通寶	2.4	0.7	0.1	4.1
76	3	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.8
78	3	遺物外	平銭	2.2	—	0.1	3.3
214	3	遺物外	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	4.9
218	4	S01	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.4
219	4	S03	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.6
220	4	S04	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.6
233	4	S55	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.4
245	4	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.3
245	4	S43	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.0
262	5	S46	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.2
263	5	S46	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.7
271	5	S46	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.3
271	5	S48	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.3
509	5	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	1.1
310	5	遺物外	各朝通寶	2.4	0.6	0.1	2.6
311	5	遺物外	各朝通寶	2.5	0.6	0.1	2.7
312	5	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	1.5
313	5	遺物外	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	2.3
313	5	遺物外	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	2.3
380	6	S51	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	3.6
387	6	S52	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	1.9
407	6	遺物外	寛永通寶	2.7	0.7	0.1	4.3
409	6	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.3
409	6	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.7
411	6	遺物外	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	2.1
412	6	遺物外	寛永通寶	2.0	0.6	0.1	2.7
413	6	遺物外	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	2.4
414	6	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.5
415	6	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.9
415	6	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.9
417	6	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	1.6
427	7	S47	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.1
478	7	S47	元徳通寶	2.3	0.6	0.1	2.9
543	7	S62	文永通寶	2.6	0.7	0.1	3.2
572	7	S64	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.1
578	7	S65	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.1
601	7	S63	寛永通寶	2.6	0.7	0.1	4.0
601	7	S63	寛永通寶	2.6	0.7	0.1	3.5
602	7	S63	寛永通寶	2.6	0.7	0.1	3.3
621	7	S46	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	6.4
644	7	S47	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	1.6
645	7	S47	寛永通寶	2.6	0.7	0.1	2.6
646	7	S47	寛永通寶	2.6	0.7	0.1	2.6
666	8	遺物外	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.2
667	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.5	0.1	3.8

*正表()は発行年、副表()は製造年を示す。

番号	調査地区	出土状況	種類	重量(g)			備考
				A	B	C	
485	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.4
486	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.7
489	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.7
491	8	遺物外	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.8
492	8	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.8
494	8	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.3
495	8	遺物外	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	3.9
496	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.4
519	8	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.6
711	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.4
712	8	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.9
713	8	遺物外	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	5.1
714	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.8
715	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.8
722	8	S41	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	3.3
728	8	S41	寛永通寶	2.7	0.6	0.1	4.5
737	8	S51	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	2.1
768	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.9
769	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.9
771	8	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.2
772	8	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.6
773	8	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	2.7
774	8	遺物外	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	2.5
775	8	遺物外	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	3.0
776	8	遺物外	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	4.6

第5章 II工区及び相生工区の調査

第1節 遺構と遺物

第1項 II-A地点(第113・114図)

土坑

A-SK1(第122図)

J21・K21グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸2.58m、短軸1.23m、深さ40cmを測る。半筒形の磁器碗、焼継ぎの痕跡がある呉器形の磁器碗や薄手酒杯、油溝を切立状に切る灯明受皿、瀬戸美濃系の播鉢などが出土している。時期は出土遺物から19世紀前葉から中葉と考えられる。

A-SK3(第122図)

K23グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.5m、短軸残存長0.24m、深さ68cmを測る。襖が埋設されており、便槽遺構の可能性はある。時期は近代と推測される。

A-SK4(第123図)

I23グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸1.44m、短軸0.68m、深さ14cmを測る。多量の炭化物、灰が堆積している。陶器の小破片が出土している。切り合いではA-SS6より新しい。時期は近代と推測される。

A-SK6(第122図)

J21グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.83m、短軸0.8m、深さ20cmを測る。黒褐色の荒い砂が堆積している。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK8(第124図)

I22グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.75m、短軸0.85m、深さ19cmを測る。焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に堆積している。切り合いではA-SS12より古い。時期は不明である。

A-SK9(第124図)

J21グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.8m、短軸0.46m、深さ7cmを測る。炭化物が多量に堆積する。時期は不明である。

A-SK10(第127図)

I22グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.9m、短軸残存長0.5m、深さ30cmを測る。堺・明石系の播鉢が出土している。切り合いはA-SK17より新しい。時期は出土遺物より19世紀と考えられる。

A-SK11(第124図)

J22グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸0.56m、短軸0.29m、深さ22cmを測る。A-SX1の下層で検出した。時期は不明である。

A-SK12(第124図)

I22グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸0.96m、短軸残存長0.41m、深さ5cmを測る。磁器の小破片が出土している。切り合いはA-SX1より古い。時期は19世紀と考えられる。

A-SK13(第124図)

J21・22グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.7m、短軸0.79m、深さ40cmを測る。陶磁器の小破片が出土している。A-SX1の下層で検出した。時期は不明である。

A-SK15(第125図)

J22・23、K22・23グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸3.8m、短軸3.4m、深さ1.78mを測る。多量の木片・瓦片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。多量の陶磁器が出土しており、瀬戸美濃系の端反碗、筒丸形の湯呑碗、薄手酒杯、紅猪口、灰軸灯明受皿、瓶類、急須、土鍋などがみられる。木製品としては、曲物容器の蓋、櫛払い、墨で文章が書かれた木札が出土している。切り合いはA-SK53・A-SK57・A-SK68・A-SP24より新しく、A-SS39より古い。時期は出土遺物から幕末から明治と考えられる。

A-SK16 (第126図)

J21・22、K21・22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 5.35m、短軸 3.15m、深さ 1.32m を測る。多量の焼土・炭化物が堆積しており火災等で発生したゴミを投棄した土坑であると考えられる。出土遺物は少なく、肥前系磁器碗の蓋、七輪、火鉢が出土している。切り合いは A-SS41・A-SS44・A-SS45・A-SS46・A-SS47 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀中葉から後葉と考えられる。

A-SK17 (第127図)

I22 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.26m、短軸残存長 0.75m、深さ 0.54m を測る。土器の小破片が出土している。切り合いは A-SK10・A-SP3・A-SS11 より古い。時期は不明である。

A-SK18 (第127図)

I22 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 3.2m、短軸残存長 1.8m、深さ 0.86m を測る。磁器・陶器・土器の小破片が出土している。切り合いは A-SK19・A-SP8・A-SS11・A-SS12・A-SS17 より古い。時期は近世と推測される。

A-SK19 (第128図)

I22 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.48m、短軸 2.05m、深さ 1.3m を測る。覆土に樹皮、木片が多量に混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。多量の陶磁器類が出土しており、半筒形の湯呑碗、広東形の大碗、灰軸灯明皿、土鍋などの他、七輪五徳、焼塩壺が出土している。切り合いは A-SK8・A-SP7・A-SS12・A-SS14 より古く、A-SK18 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀初頭と考えられる。

A-SK20 (第124図)

J22 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.49m、短軸 0.37m、深さ 7cm を測る。A-SX1 の下層で検出した。時期は不明である。

A-SK21 (第128図)

I23・24 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.54m、短軸残存長 1.36m、深さ 30cm を測る。焼継ぎの痕跡がある端反形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、油溝を半月状に切る灰軸灯明受皿、油溝を切立状に切る鉄軸灯明受皿、焙烙などが出土している。切り合いは A-SS7 より古い。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK22 (第129図)

K21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.9m、短軸 0.52m を測る。内部に径 22cm の穴が開いており、内部に水が溜まっている。汲み上げ井戸の跡であると考えられる。

A-SK23 (第129図)

K21・L21 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.29m、短軸 1.85m、深さ 1.0m を測る。覆土に多量の木片が混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。端反形の磁器碗、薄手酒杯、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、広東形の陶胎染付碗、油溝を切立状に切る鉄軸灯明受皿などが出土している。切り合いは A-SS49・A-SS50 より古く、A-SK26・A-SK47 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK24 (第128図)

I23・24、J23・24 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.72m、短軸 1.6m、深さ 58cm を測る。広東形の磁器碗、薄手酒杯、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、灰軸灯明皿、包丁などが出土している。切り合いは A-SS7 より古く、A-SK49・A-SK56・A-SK63・A-SS30 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀前葉から中葉と考えられる。

A-SK25 (第130図)

L21・22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.12m、短軸 0.8m、深さ 95cm を測る。土坑内部には桶が埋設され、南西に竹樋が接続されている上水井戸である。薄手酒杯、筒丸形の磁器碗、平形の中碗、平面八角形の脚付きの鉢、油溝を切立状の鉄軸灯明受皿などが出土している。切り合いは A-SS1 より古く、

A-SK26より新しい。時期は出土遺物より近代に廃絶されたと考えらえる。

A-SK26 (第132図)

L21・22グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長2.4m、短軸残存長1.64m、深さ11cmを測る。半筒形の湯呑碗、広東形の磁器碗、端反形の磁器碗、京焼風陶器碗、鉄釉灯明皿、埴・明石系の播鉢などが出土している。切り合いはA-SK23・A-SK25・A-SS1・A-SS23より古い。時期は出土遺物より19世紀前葉と考えられる。

A-SK27 (第131図)

K22・23グリッドに位置する。平面形は方形で長軸2.05m、短軸1.4m、深さ30cmを測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いはA-SP27より新しい。時期は近世と考えられる。

A-SK28 (第131図)

K22・L22グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸1.4m、短軸残存長1.0m、深さ10cmを測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いはA-SK45より古い。時期は近世と考えられる。

A-SK29 (第132図)

K23・24グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.49m、短軸0.39m、深さ7cmを測る。筒丸形の磁器碗、端反形の磁器碗、太白手の陶器皿、薄手酒杯、磁器皿、鉄釉灯明皿、灰釉灯明皿、油溝を半月状に切る灰釉灯明受皿、下駄などが出土している。時期は出土遺物より明治と考えられる。

A-SK30 (第132図)

L23グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.98m、短軸0.58m、深さ12cmを測る。切り合いはA-SK65より新しい。時期は不明である。

A-SK31 (第132図)

K23・L23グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.34m、短軸0.28m、深さ5cmを測る。土器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK32 (第132図)

L23・24グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.43m、短軸0.23m、深さ9cmを測る。時期は不明である。

A-SK33 (第132図)

L22グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.45m、短軸0.36m、深さ15cmを測る。陶器の小破片が出土している。切り合いはA-SK45より新しい。時期は不明である。

A-SK34 (第132図)

L23グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長0.59m、短軸0.45m、深さ7cmを測る。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK35 (第132図)

J23グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸1.5m、短軸0.7m、深さ11cmを測る。陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK36 (第125図)

J22グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.34m、短軸0.34m、深さ25cmを測る。A-SX1の下層で検出した。時期は不明である。

A-SK37 (第132図)

L22グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.28m、短軸0.24m、深さ9cmを測る。端反形の磁器碗、磁器鉢が出土している。時期は出土遺物から19世紀中葉と考えらえる。

A-SK38 (第131・137図)

L22・23、M22・23グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸4.7m、短軸3.5m、深さ1.42mを測る。

多量の樹皮、木片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。土坑の南東角から埋桶の底板が出土しており、埋桶を切る形でゴミ処理用の廃棄土坑が掘られたと考えられる。多量の陶磁器類が出土しており、端反形の磁器碗、筒丸形の磁器碗、紅猪口、薄手酒杯、仏飯器、油溝を半月状に切る灯明受皿、油溝を切立状に切る灯明受皿、容器付灯明受皿、植木鉢、陶器製小便器、羽口などが出土している。切り合いは A-SS1・A-SS20・A-SS23 より古く、A-SK45・A-SK67 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀後葉と考えられる。

A-SK39 (第 132 図)

L23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.2m、短軸 1.92m、深さ 31cm を測る。筒丸形の磁器碗、仏飯器などが出土している。切り合いは A-SS23 より古く、A-SK45・A-SK65 より新しい。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

A-SK40 (第 133 図)

L23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 1.5m、短軸 1.4m、深さ 87cm を測る。木片が多量に堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器碗、焼継ぎの痕跡がある猪口、紅猪口、薄手酒杯、燵徳利、鉄軸灯明皿、油溝を半月状に切る鉄軸灯明受皿などが出土している。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

A-SK41 (第 134 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.04m、短軸 0.98m、深さ 13cm を測る。覆土に炭化物ブロックが多量に混じる。切り合いは A-SS35 より古く、A-SK57・A-SK59・A-SP17 より新しい。時期は近世と推測される。

A-SK42 (第 134 図)

L21 グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸 2.53m、短軸 1.62m を測る。土坑南半部に桶を井戸枠とした掘抜き井戸が設置されている。桶の上部には陶製の土管が接続されていた。井戸枠の周囲には丸太がコの字形に配置されており、井戸と同時期に設置されていたと考えられる。井戸内部から汲出しポンプの一部とみられる残骸が出土しており、近代まで使用されていた可能性が推測される。切り合いは A-SS1 より古く、A-SK47 より新しい。

A-SK43 (第 133 図)

K23・24、L23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.4m、短軸 3.48m、深さ 1.32m を測る。覆土に樹皮や木片が混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器碗、端反形の磁器碗、薄手酒杯、灰軸灯明皿、たんころ形の乗燵、土瓶、焙烙、硯、漆椀などが出土している。切り合いは A-SK44 より古く、A-SK45・A-SK57 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK44 (第 133 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 2.36m、短軸 2.16m、深さ 80cm を測る。径 6cm 程度の杭を打ち込み、その外側に径 10cm 程度の丸太や角材を積んで、方形の囲いを作る。長丸形の磁器杯、端反形の磁器碗、紅猪口、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、灰軸灯明皿、油溝を半月状に切る灰軸灯明受皿、羽口、櫛、包丁などが出土している。切り合いは A-SK43・A-SK57・A-SK60・A-SK68 より新しい。時期は出土遺物より明治時代前半と考えられる。

A-SK45 (第 131・133 図)

K22・23、L22・23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.6m、短軸 2.2m、深さ 27cm を測る。筒丸形の磁器碗、丸形の磁器碗などが出土している。切り合いは A-SK33・A-SK38・A-SK39・A-SK43 より古く、A-SK28・A-SP32 より新しい。時期は出土遺物、切り合い関係より 19 世紀と考えられる。

A-SK47 (第 129 図)

K21・L21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.14m、短軸 3.94m、深さ 31cm を測る。丸形の磁器碗、筒丸形の磁器碗、広東形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、土鍋などが出土している。切り合い

は A-SK22・A-SK23・A-SK42・A-SS1・A-SS48・A-SS49 より古い。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

A-SK49 (第 128 図)

I24・J24 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 3.78m、短軸残存長 2.4m、深さ 28cm を測る。油溝をアーチ状に 2ヶ所切り抜き、鉄錆軸を施す志戸呂系の灯明受皿が出土している。切り合いは A-SK24・A-SS31 より古く、A-SK56 より新しい。時期は出土遺物、切り合い関係より 17 世紀末から 18 世紀前葉と考えられる。

A-SK50 (第 135 図)

J23・24 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 1.28m、短軸 1.26m、深さ 50cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS29 より古い。時期は不明である。

A-SK51 (第 135 図)

J22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.12m、短軸 1.34m、深さ 2cm を測る。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SK53 (第 135 図)

J22、K22・23 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸 1.84m、短軸残存長 1.76m、深さ 47cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK15 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK56 (第 128 図)

I23・24、J23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 1.96m、短軸残存長 1.36m、深さ 30cm を測る。陶器の小破片が出土している。切り合いは A-SK24・A-SS7 より古く、A-SK63 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK57 (第 135 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 1.6m、短軸残存長 1.04m、深さ 57cm を測る。瓦片、磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK15・A-SK44・A-SK43 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK58 (第 128 図)

I23・J23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 3.26m、短軸 2.32m、深さ 1.1m を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SP6・A-SS13・A-SS25・A-SS30・A-SS33・A-SS34 より古く、A-SK63 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK59 (第 135 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸 0.72m、短軸 0.28m、深さ 5cm を測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK41・A-SS35 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK60 (第 135 図)

K23・24 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 2.3m、短軸 1.44m、深さ 32cm を測る。多量の木片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。丸形の磁器碗、肥前系京焼風陶器、刷毛目碗、志戸呂系の灯明皿などが出土している。切り合いは A-SK44・A-SS29 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀前葉から 18 世紀中葉と考えられる。

A-SK62 (第 130 図)

L21・M21 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.56m、短軸 0.48m、深さ 13cm を測る。切り合いは A-SS1 より古い。時期は不明である。

A-SK63 (第 128 図)

I23・J23 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 2.8m、短軸残存長 2.2m、深さ 20cm を測る。陶器の小破片が出土している。切り合いは A-SK24・A-SK56・A-SK58・A-SP35・A-SS7・A-SS30

より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK65 (第136図)

L23・M23グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長2.8m、短軸残存長2.3m、深さ42cmを測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いはA-SK30・A-SK38・A-SK39・A-SK67・A-SE1より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK66 (第130図)

M21・22グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸2.54m、短軸2.2m、深さ41cmを測る。陶器の小破片が出土している。切り合いはA-SD4より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SK67 (第136図)

L22、M22・23グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長8.06m、短軸残存長2.5m、深さ1.06mを測る。覆土に樹皮・木片が多量に混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。土坑の西側には径62cmの樽が埋められていた。端反形の磁器碗、半筒形の磁器碗、半球形の磁器碗、紅猪口、薄手酒杯、髪油壺、仏花瓶、油溝を切立状に切る鉄軸灯明受皿、油溝を半月状に切る灰軸灯明受皿、容器付きの灯明受皿、天保一銀を模した土製模造貨などが出土している。切り合いはA-SK38・A-SE1・A-SS1より古く、A-SK65より新しい。時期は出土遺物より19世紀中葉と考えられる。

A-SK68 (第135図)

J23グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長1.1m、短軸残存長1.0m、深さ26cmを測る。切り合いはA-SK15・A-SK44より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SE1 (第131図)

L23・M23グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸2.8m、短軸残存長1.9m、深さ1.2mを測る。土坑内には径167cmの桶が埋設されており、当初上水井戸と想定して掘削を進めたが、桶の体部に穴は無く、桶をつなげた様子は見られなかった。桶内部には多量の木片、砂利が堆積していた。最終的には廃棄土坑として利用されたと考えられる。端反形の磁器碗、焼継ぎの痕跡がある磁器皿、鉄軸灯明皿、灰軸灯明皿、油溝を切立状に切る灰軸灯明受皿、容器付き灯明受皿、明治8年の刻印がある一銭硬貨などが出土している。切り合いはA-SS1より古く、A-SK65より新しい。時期は出土遺物より明治時代と考えられる。

A-SX1 (第124図)

I21・22、J21・22グリッドに位置する。平面形は片袖形で長軸5.6m、短軸2.1m、深さ10cmを測る。土坑内部には炭化した木材や炭化物が堆積しており、床面には柱穴が並んでいることから、建屋が火災を受け、崩落した跡であると考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いはA-SK12・A-SP22・A-SS14・A-SS29・B-SK3・B-SK4より新しい。時期は近代と考えられる。

溝

A-SD2 (第130図)

L21・M21グリッドに位置する。幅24cm、深さ30cmを測る。軸方向はN-36°-Eを指す。径6cmの竹桶が埋設されており、A-SK25の埋桶、A-SD3の木桶に接続している。切り合いはA-SS1より古い。A-SK25と同様に近代に廃絶されたと考えられる。

A-SD3 (第130図)

M21・22グリッドに位置する。幅34cm、深さ30cmを測る。軸方向はW-29°-Nを指す。径16cmの木桶が埋設されており、A-SD2の竹桶と接続している。東端は調査区外へ延び、西端はカクランにより破壊されている。木桶は樹皮の残る丸太を刳り貫いたもので、上蓋を釘で留めた痕跡はなく、被せているだけであった。東から西に向かって傾斜し、1mで約6cmの傾斜を測る。切り合いはA-SK66より新しい。時期はA-SK25・A-SD2と同様に近代に廃絶されたと考えられる。

石列・礎石・建物基礎

A-SS1 (第 137 図)

A 地点南半部で検出した。間知石や方形の切石の面を向かい合わせて積み上げ、溝を構築している。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。土地境に敷設された水路と考えられる。K22・L22 グリッドで 4 回 L 字に曲がり、西端は B-SS1 に繋がる。L21 グリッドで胴木を並べ変えた痕跡が確認できることから、過去に土地境が変更された可能性がある。南の辺の軸方向は W - 15° - N を指す。型紙摺や銅板転写で染付された磁器皿や初期の国産レンガが出土している。切り合いは A-SK23・A-SK26・A-SK42・A-SK47・A-SK62・A-SK67・A-SD3 より新しい。時期は近代と考えられる。

A-SS2 (第 138 図)

J23 グリッドに位置する。長軸 0.9m、短軸 0.6 m、深さ 40cm の土坑内に径 10 ～ 20cm の石を詰める。A-SS5 と並び、礎石の根石部分が残存したものと考えられる。時期は不明である。

A-SS3 (第 138 図)

J23 グリッドに位置する。36 × 30 × 10cm の扁平な石と、その周囲に径 10cm 前後の石が置かれている。

A-SS4 と並び、礎石であった可能性が考えられる。周囲からは陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS4 (第 138 図)

J24 グリッドに位置する。24 × 16 × 7cm と 18 × 12 × 7cm の扁平な石を並べる。A-SS3 と並び、礎石であった可能性が考えられる。周囲からは陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS29 より新しい。時期は不明である。

A-SS5 (第 138 図)

J23 グリッドに位置する。40 × 36 × 19cm の方形の石を埋設している。A-SS2 と並び、礎石と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS6 (第 123 図)

I23・J23 グリッドに位置する。幅 50cm、深さ 50cm の溝の中に径 10cm の石を詰める。軸方向は N - 12° - E を指す。覆土にコンクリート片が混ざっており、近代の擁壁の基礎と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK4・A-SS19 より古く、A-SK58・A-SS21・A-SS29・A-SS30・A-SS33・A-SS34・A-SS42 より新しい。時期は近代と考えられる。

A-SS7 (第 123 図)

I23、J23・24 グリッドに位置する。幅 56cm、深さ 54cm の L 字状に曲がる溝の中に、径 10 ～ 15cm の石を詰める。溝の北端と東端は調査区外へと延びる。西の辺の軸方向は N - 12° - E を指す。建物の基礎と考えられる。切り合いは A-SS8 より古く、A-SK21・A-SK24・A-SK56・A-SP19・A-SP35・A-SS42 より新しい。磁器皿、京・信楽系の灰軸灯明皿などが出土しているが構築時に混入と考えられる。時期は近代と考えられる。

A-SS8 (第 123 図)

I23・24 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.76m、短軸 1.44m、深さ 20cm の土坑上に、径 10cm の石が散乱している。切り合いは A-SS7 より新しい。時期は近代以降と考えられる。

A-SS9 (第 122 図)

K23 グリッドに位置する。28 × 16 × 10cm と 22 × 20 × 11cm の方形の石が並ぶ。礎石の可能性もある。切り合いは A-SK3 より新しい。時期は近代と考えられる。

A-SS10 (第 122 図)

K23・24 グリッドに位置する。幅 63cm、深さ 8cm の溝の中に径 10cm の石を詰めている。軸方向は W - 16° - N を指す。東端は調査区外へと延びている。建物の基礎の可能性もある。端反形の磁器碗、平形の磁器碗、薄手酒杯、戸車などが出土している。切り合いは A-SS29 より新しい。時期は近代と考えられる。

A-SS11 (第124図)

I22 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.89m、短軸 0.73m、深さ 80cmの土坑に、42 × 40 × 30cm の方形の石を埋設し、その上に径 10 ～ 20cmの石を詰める。A-SS12・A-SS13と並び、礎石と考えられる。端反形の磁器碗、陶器の植木鉢、行平等が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いはA-SK18より新しい。時期は19世紀と考えられる。

A-SS12 (第124図)

I22 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.94m、短軸 0.8m、深さ 87cmの土坑に、径 20cmの石を詰める。A-SS11・A-SS13と並び、礎石と考えられる。磁器の小破片が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いはA-SK8・A-SK18・A-SK19より新しい。時期は19世紀と考えられる。

A-SS13 (第138図)

I23 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.78m、短軸 0.57m、深さ 74cmの土坑に、径 10 ～ 20cmの石を詰める。A-SS11・A-SS12と並び、礎石と考えられる。切り合いはA-SS25より新しい。時期は19世紀と考えられる。

A-SS14 (第138図)

I22 グリッドに位置する。径 10cmの石がコの字状に並べてある。周辺から陶磁器の小破片が出土している。切り合いはA-SX1より古く、A-SK19より新しい。遺構の時期と性格は不明である。

A-SS15 (第138図)

J22・23 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.58m、短軸 0.48m、深さ 18cmの土坑上に 20 × 20 × 9cmの扁平な石を据える。礎石の可能性ある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いはA-SS25より新しい。時期は不明である。

A-SS16 (第138図)

I22・23 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.5m、短軸 0.48m、深さ 40cmの土坑の覆土に、径 10cmの石が混ざる。礎石の根石部分の可能性ある。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS17 (第138図)

I22 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.3m、短軸 0.26m、深さ 16cmの土坑上に 20 × 10 × 10cmの板状の石が残存する。礎石であった可能性ある。時期は不明である。

A-SS18 (第123図)

I22 グリッドに位置する。20 × 11 × 10cmの方形の石を検出した。礎石の可能性ある。時期は不明である。

A-SS19 (第123図)

I23・J23 グリッドに位置する。径 10 ～ 20cmの石が長さ 1.0m、幅 0.28mの範囲で並べてある。軸方向はN - 13° - Eを指す。何らかの構造物の基礎の可能性ある。切り合いはA-SS6より新しい。時期は近代以降と考えられる。

A-SS20 (第139図)

L22 グリッドに位置する。径 10cmの石が 2.0 × 1.5mの範囲でコの字状に並べてある。何らかの構造物の基礎の可能性ある。切り合いはA-SK38より新しい。時期は近代以降と考えられる。

A-SS21 (第139図)

J23 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.54m、短軸 0.5m、深さ 34cmの土坑内に、40 × 30 × 17cmの方形の石が埋設されている。礎石と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いはA-SS6より古く、A-SK15より新しい。時期は不明である。

A-SS22 (第139図)

I23 グリッドに位置する。32 × 22 × 20cmの楕円形の石を検出した。礎石の可能性ある。時期は不明である。

A-SS23 (第139図)

L22・23 グリッドに位置する。幅 92cm、深さ 10cm の溝の中に径 10cm の石を詰める。軸方向は W - 16° - N を指す。何らかの構造物の基礎の可能性ある。切り合いは A-SK26・A-SK38・A-SK39 より新しい。時期は近代以降と考えられる。

A-SS25 (第 125・127・138 図)

I23・J23 グリッドに位置する。幅 60cm、深さ 34cm の溝の中に径 7～10cm の石を詰める。軸方向は N - 10° - E を指す。建物の基礎の可能性ある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS13・A-SS15・A-SS26 より古い。時期は切り合い関係より 19 世紀と考えられる。

A-SS26 (第 138 図)

I23 グリッドに位置する。30 × 24 × 10cm の楕円形の石を検出した。礎石の可能性ある。切り合いは A-SS25 より新しい。時期は不明である。

A-SS27 (第 139 図)

K23 グリッドに位置する。40 × 22 × 19cm の楕円形の石を検出した。礎石の可能性ある。時期は不明である。

A-SS28 (第 139 図)

J23 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.78m、短軸 0.72m、深さ 38cm の土坑内に径 10～20cm の石を詰めている。礎石の根石部分の可能性ある。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS29 (第 125 図)

I21・22、J21～24、K24 グリッドに位置する。幅 72cm、深さ 30cm の L 字状に曲がる溝の中に、径 8～10cm の石を詰める。北の辺の軸方向は W - 13° - N を指す。建物の基礎と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK35・A-SS4・A-SS6・A-SS10・A-SX1 より古く、A-SK50・A-SK60・A-SP11・A-SP13・A-SP23・A-SP36・A-SP37・A-SP38・B-SK3・B-SK4 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SS30 (第 125 図)

J23・24 グリッドに位置する。幅 51cm、深さ 20cm の溝に径 8～10cm の石を詰める。軸方向は W - 12° - N を指す。建物の基礎と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK24・A-SS6・A-SS9 より古い。時期は切り合い関係より 19 世紀と考えられる。

A-SS31 (第 123 図)

I24 グリッドに位置する。幅 50cm、深さ 52cm の溝に径 10cm の石を詰める。軸方向は N - 10° - E を指す。建物の基礎と考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK24 より古く、A-SK49 より新しい。時期は切り合い関係より 19 世紀と考えられる。

A-SS32 (第 140 図)

K21・22 グリッドに位置する。径 5～10cm の石が、長さ 5.0m、幅 0.5m の範囲で並べてある。軸方向は W - 13° - N を指す。何らかの構造物の基礎の可能性ある。陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

A-SS33 (第 139 図)

I23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.7m、短軸 0.68m、深さ 30cm を測る。1 辺 10～30cm の石が埋設されている。A-SS34 と並び、礎石の可能性ある。切り合いは A-SS6 より古く、A-SK58 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SS34 (第 139 図)

I23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.72m、短軸 0.64m、深さ 36cm を測る。1 辺 10～30cm の石が埋設されている。A-SS33 と並び、礎石の可能性ある。切り合いは A-SS6 より古く、A-SK58 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SS35 (第 141 図)

K23 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸 0.52m、短軸 0.5m、深さ 18cm を測る。1 辺 10～40cm の方

形の石が埋設されている。礎石と考えられる。切り合いは A-SK41・A-SK59・A-SP29 より新しい。時期は近世と考えられる。

A-SS37 (第 141 図)

J22 グリッドに位置する。径 4～10cm の割石が 1.5×1.0m の範囲に散乱している。周辺から丸形の磁器碗、見込みに蛇の目軸剥ぎを施した陶器皿、乗燭が出土している。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS39 (第 141 図)

J22 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.38m、短軸 0.32m、深さ 25cm を測る。土坑内に径 10～20cm の石を詰める。礎石の根石が残存したものと考えられる。切り合いは A-SK15 より新しい。時期は不明である。

A-SS40 (第 140 図)

J22 グリッドに位置する。径 6～20cm の石が 2.2×0.8m の範囲に散乱している。周辺から陶磁器の小破片が出土している。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS41 (第 140 図)

K22 グリッドに位置する。径 2～12cm の石が 2.0×1.6m の範囲に散乱している。周辺から陶磁器の小破片が出土している。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS42 (第 139 図)

I23 グリッドに位置する。幅 106cm、深さ 32cm の溝に径 5～10cm の石を詰める。軸方向は W-7°-N を指す。建物の基礎の可能性がある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK4・A-SS7・A-SS26 より古く、A-SP19・A-SP20・A-SP21 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

A-SS43 (第 140 図)

J22 グリッドに位置する。径 5～10cm の石が 1.6×1.4m の範囲に散乱している。周辺から陶磁器の小破片が出土している。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS44 (第 140 図)

K21・22 グリッドに位置する。16×14×5cm と 20×16×8cm の扁平な石が並ぶ。礎石の可能性がある。切り合いは A-SK16 より新しい。時期は不明である。

A-SS45 (第 140 図)

K21 グリッドに位置する。1 辺 10～25cm の方形の石が並ぶ。A-SS46・A-SS47 と並び、礎石と考えられる。切り合いは A-SK16 より新しい。時期は不明である。

A-SS46 (第 140 図)

K22 グリッドに位置する。1 辺 20～40cm の方形の石が並ぶ。A-SS45・A-SS47 と並び、礎石と考えられる。切り合いは A-SK16 より新しい。時期は不明である。

A-SS47 (第 140 図)

K22 グリッドに位置する。1 辺 10～20cm の方形の石が並ぶ。A-SS45・A-SS46 と並び、礎石と考えられる。切り合いは A-SK16 より新しい。時期は不明である。

A-SS48 (第 140 図)

K21 グリッドに位置する。径 10～40cm の石が 1.0×0.8m の範囲に散乱している。周辺から磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK47・A-SS32 より新しい。遺構の時期・性格は不明である。

A-SS49 (第 140 図)

K21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.8m、短軸 0.7m、深さ 36cm を測る。土坑内に径 10～20cm の石を詰める。礎石の可能性がある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SK23・A-SK47 より新しい。時期は不明である。

A-SS50 (第 129・137 図)

K21 グリッドに位置する。径 10cm の石を長さ 2.0m、幅 0.5m の範囲に並べる。軸方向は W - 15° - N を指す。何らかの構造物の基礎の可能性ある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは A-SS1 より古く、A-SK23 より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えらえる。

A-SS51 (第 140 図)

L22 グリッドに位置する。1 辺 10 ~ 25cm の石を並べる。A-SS52 と並び、礎石と考えられる。時期は不明である。

A-SS52 (第 140 図)

L22・23 グリッドに位置する。1 辺 10 ~ 35cm の石を並べる。A-SS51 と並び、礎石と考えられる。切り合いは A-SK45 より新しい。時期は不明である。

第 2 項 II-B 地点 (第 113・114 図)

土坑

B-SK2 (第 144 図)

I21・J21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 4.12m、短軸残存長 2.4m、深さ 63cm を測る。覆土に焼土粒・木片が混ざっており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。半筒形の磁器碗、広東形の磁器碗、仏飯器、肥前系京焼風陶器、広東形の陶胎染付碗、油溝を半月状に切る灰軸灯明受皿、埴・明石系の播鉢などが出土している。切り合いは B-SK3・B-SK4 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀前葉と考えられる。

B-SK3 (第 144 図)

I21・J21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.24m、短軸 2.2m、深さ 1.0m を測る。丸形の磁器碗、薄手酒杯、肥前系京焼風陶器、焼塩壺、焙烙などが出土している。切り合いは B-SK2 より古い。時期は出土遺物より 17 世紀末から 18 世紀前葉と考えらえる。

B-SK4 (第 144 図)

I21 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 2.6m、短軸残存長 1.5m、深さ 0.9m を測る。覆土に焼土粒・木片が混ざっており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。半筒形の磁器碗、腰鉋碗、肥前系京焼風陶器などが出土している。切り合いは B-SK2 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

B-SK7 (第 145 図)

J20・K20 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.3m、短軸 1.18m、深さ 19cm を測る。陶器の小破片が出土している。切り合いは B-SK12 より新しい。時期は不明である。

B-SK8 (第 145 図)

I20 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.36m、短軸 0.3m、深さ 10cm を測る。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

B-SK9 (第 145 図)

I20 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.3m、短軸 0.24m、深さ 5cm を測る。時期は不明である。

B-SK10 (第 145 図)

I20・J20 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.3m、短軸 0.2m、深さ 3cm を測る。時期は不明である。

B-SK11 (第 145 図)

J20 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.26m、短軸残存長 0.14m、深さ 10cm を測る。時期は不明である。

B-SK12 (第145図)

K20 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.58m、短軸 0.53m、深さ 20cmを測る。土坑内に 36 × 25 × 11cmの扁平な石が埋設されており、礎石の可能性はある。B-SK7の下層で検出された。時期は不明である。

B-SK13 (第146図)

J20 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 1.0m、短軸残存長 0.6m、深さ 22cmを測る。切り合いは B-SK21・B-SS1 より古い。時期は不明である。

B-SK14 (第146図)

J19 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 0.61m、短軸 0.53m、深さ 52cmを測る。磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

B-SK15 (第146図)

J19・20 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 3.72m、短軸 2.31m、深さ 1.33mを測る。丸形の磁器碗、半筒形の磁器碗、油溝を切立状に切る鉄軸灯明受皿などが出土している。切り合いは B-SS4 より古く、B-SK19・B-SP1・B-SP2 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀前葉と考えられる。

B-SK17 (第145図)

J20・21 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.52m、短軸 1.9m、深さ 24cmを測る。磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SK2 より古い。時期は切り合い関係から近世と考えられる。

B-SK18 (第146図)

K20 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.55m、短軸 0.54m、深さ 20cmを測る。32 × 30 × 12cmの扁平な石が埋設されており、礎石の可能性はある。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1 より古く、B-SK21 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

B-SK19 (第146図)

J20 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.74m、短軸残存長 0.36m、深さ 29cmを測る。磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SK15 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

B-SK20 (第147図)

J18 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 1.48m、短軸残存長 0.85m、深さ 4cmを測る。切り合いは B-SD3 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

B-SK21 (第146図)

J20 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸残存長 0.38m、短軸 0.3m、深さ 10cmを測る。径 10cmの小石を詰めており、柱の根石の可能性はある。切り合いは B-SK18 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

B-SK22 (第146図)

J20 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.3m、短軸 0.23m、深さ 19cmを測る。径 10cmの小石を詰めており、柱の根石の可能性はある。時期は不明である。

溝

B-SD1 (第149図)

I20・J20・K20 グリッドに位置する。幅 132cm、深さ 70cmを測る。軸方向は N - 13° - E を指し、J20 グリッドで T 字状に分岐している。径 2 ~ 10cmの小石を充填し、径 20cm程度の木杭を 3 本 1 セットとして、1.3 ~ 1.4m 間隔で打ち込んでいる。3 本 1 セットの木杭は J19・K19・I20・J20・K20 グリッドに口の字状に分布しており、建物の不等沈下防止のための捨杭である。B-SD1 の下層には木樋を通した B-SD2 が走っており、地盤強化のため、さらに石を入れて補強したものであると考えられる。陶磁器の小破片が出土している。切り

合いは B-SS1 より古く、B-SD2 より新しい。時期は近代と考えられる。

B-SD2 (第 145 図)

I20・J20・K20 グリッドに位置する。幅 64cm、深さ 146cmを測る。南北方向に延びている。径 20cmの木樋を埋設している。木樋は樹皮の残る丸太を削り貫いたもので、上蓋は洋釘により留められている。北から南に向かって傾斜しており、周囲から集まった雨水などが、木樋を通して現在も流れ続けていた。木樋は近代の捨杭により破壊されている。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1・B-SD1 より古い。時期は近代と考えられる。

B-SD3 (第 147 図)

J18 グリッドに位置する。幅 174cm、深さ 66cmを測る。軸方向は N - 21° - E を指す。幅 19cm、高さ 15cm の箱形の木樋が埋設されており、西隣には径 5cmの竹樋が木樋に並行して埋設されている。木樋は凹の字状に削り出した管に蓋板を置き、和釘を打って留めている。北から南に向かって傾斜しており、周囲から集まった雨水などが、木樋を通して現在も流れ続けていた。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1・B-SS4 より古く、B-SK20 より新しい。時期は近世と考えられる。

B-SD4 (第 147 図)

J18 グリッドに位置する。幅 54cm、深さ 42cmを測る。軸方向は N - 11° - E を指す。径 20cmの木樋を埋設している。木樋は樹皮の残る丸太を削り貫いたもので、上蓋は洋釘により留められている。北から南に向かって傾斜しており、周囲から集まった雨水などが、木樋を通して現在も流れ続けていた。磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1・B-SS2 より古い。時期は近代と考えられる。

石列・礎石・基礎

B-SS1 (第 148 図)

B 地点南半部で検出した。間知石や方形の切石を積み上げる。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。対面の石列はカクランにより無くなっているが、土地境に敷設された用水路の一部と考えられる。東端は A-SS1 に繋がる。K19 グリッドでカクランを受け、一時途切れている。B-SS1 の後方北側には、土地境の石列の一部とみられる B-SS2 や B-SS4 があり、過去に土地境が変更された可能性がある。軸方向は W - 10° - N を指す。切り合いは B-SS6・B-SS7 より古く、B-SK13・B-SK18・B-SK21・B-SP7・B-SS3・B-SD1・B-SD2・B-SD3・B-SD4 より新しい。時期は近代と考えられる。

B-SS2 (第 148 図)

I17・18 グリッドに位置する。間知石を積み上げた土地境の石列である。やや大形の石を使用しており、大きいもので幅 55cm、厚み 30cm、控え長 90cmを測る。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。I18 グリッドで角を形成し、北に曲がっている。前方南側には B-SS1 があり、土地境が変更された可能性がある。南の辺の軸方向は W - 10° - N を指す。磁器の小破片が出土している。切り合いは B-SS1 より古く、B-SD4 より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えられる。

B-SS3 (第 148 図)

J20 グリッドに位置する。40 × 30 × 24cmの方形の石を並べ、後方西側には径 10cmの石が 2.5 × 0.6m の範囲に散乱している。土地境の石列の一部であると考えられる。軸方向は N - 13° - S を指す。切り合いは B-SS1 より古く、B-SK18・B-SP5 より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えられる。

B-SS4 (第 148 図)

J18・19 グリッドに位置する。間知石を積み上げた土地境の石列である。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。J19 グリッドで角を形成し、北に曲がっている。調査区外で B-SS2 と繋がる可能性がある。南の辺の軸方向は W - 11° - N を指す。陶磁器の小片が出土している。切り合いは B-SK15・B-SP6・B-SD3 より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えられる。

B-SS5 (第149図)

J19 グリッドに位置する。径10～20cmの石が1.5×0.6mの範囲で並んでいる。遺構の時期・性格は不明である。

B-SS6 (第149図)

J19 グリッドに位置する。径10cmの木杭を3本打ち込み、その上に70×40×16cmの方形の石を置き、礎石としている。3本1セットの木杭はJ19・K19・J20・K20 グリッドに口の字状に分布しており、建物の不等沈下防止用の捨杭で、同時期に打ち込まれたものと考えられる。時期は近代と考えられる。

B-SS7 (第149図)

K19 グリッドに位置する。60×40×21cmの楕円形の石を検出した。礎石の可能性がある。切り合いはB-SS1より新しい。時期は切り合い関係より近代と考えられる。

第3項 II-C地点(第115・116図)**土坑****C-SK1 (第150図)**

N17 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸1.24m、短軸残存長0.86m、深さ62cmを測る。時期は不明である。

C-SK2 (第150図)

N18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.24m、短軸0.2m、深さ8cmを測る。時期は不明である。

C-SK3 (第150図)

N17 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.28m、短軸0.24m、深さ6cmを測る。時期は不明である。

C-SK4 (第150図)

N16・17 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.84m、短軸0.82m、深さ23cmを測る。土坑の底から桶の底板の残骸を検出した。桶を埋設した土坑である。半筒形の磁器碗、肥前系京焼風陶器などが出土している。時期は出土遺物より18世紀末から19世紀と考えられる。

C-SK5 (第150図)

N18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.6m、短軸0.4m、深さ37cmを測る。時期は不明である。

C-SK6 (第150図)

N18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.64m、短軸0.3m、深さ25cmを測る。時期は不明である。

C-SK7 (第150図)

N18 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.4m、短軸0.3m、深さ6cmを測る。時期は不明である。

C-SK8 (第150図)

N18 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.36m、短軸0.3m、深さ6cmを測る。時期は不明である。

C-SK9 (第150図)

N17・18 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.3m、短軸0.8m、深さ20cmを測る。切り合いはC-SK10・C-SS12により古い。時期は不明である。

C-SK10 (第150図)

N17 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.52m、短軸0.48m、深さ22cmを測る。切り合いはC-SK9より新しい。時期は不明である。

C-SK11 (第150図)

N17 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸1.0m、短軸残存長0.44m、深さ6cmを測る。切り合いはC-SK12より新しい。時期は不明である。

C-SK12 (第150図)

N17 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.76m、短軸残存長0.38m、深さ16cmを測る。

切り合いはC-SK11より古い。時期は不明である。

C-SK13 (第150図)

O18 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸0.56m、短軸残存長0.4m、深さ18cmを測る。時期は不明である。

C-SK14 (第150図)

N18 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.8m、短軸残存長0.7m、深さ20cmを測る。時期は不明である。

C-SK16 (第154図)

M12 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.72m、短軸残存長0.2m、深さ55cmを測る。甲府空襲に由来する焼土ブロック・炭化物が堆積している。時期は近代と考えられる。

C-SK17 (第151図)

M12 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.64m、短軸0.6m、深さ10cmを測る。甲府空襲に由来する焼土ブロック・炭化物が堆積している。時期は近代と考えられる。

C-SK18 (第152図)

N16 グリッドに位置する。平面形は方形で長軸1.8m、短軸1.1m、深さ34cmを測る。肥前系京焼風陶器、志戸呂系の灯明皿、漆継ぎの痕跡が残る三鳥手の鉢などが出土している。時期は出土遺物より18世紀前葉と考えられる。

C-SK19 (第151図)

M13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸2.7m、短軸1.6m、深さ34cmを測る。土坑内に焼土・炭化物が多量に堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。端反形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、被熱した陶器の皿、鉢、土瓶などが出土している。切り合いはC-SS2より古く、C-SK32・C-SK39・C-SP19・C-SP20より新しい。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

C-SK20 (第151図)

M14・15、N15 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.4m、短軸1.0m、深さ46cmを測る。銅板転写や型紙摺で染付した磁器などが出土している。時期は出土遺物より近代と考えられる。

C-SK21 (第152図)

N14・15 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸2.6m、短軸残存長1.04m、深さ48cmを測る。漆継ぎの痕跡がある丸形の磁器碗、高台内に目跡が残る磁器皿、丸形の陶器碗、陶胎染付の皿などが出土している。切り合いはC-SX1より古い。時期は出土遺物より18世紀後葉と考えられる。

C-SK22 (第159図)

M15・16 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸2.4m、短軸2.2m、深さ2.2mを測る。深さ1.08mまで、径5～20cmの石が多量に混ざる。丸形の磁器碗、刷毛目碗、油溝を半月状に切る灰軸灯明受皿などが出土している。切り合いはC-SX2より古く、C-SE2より新しい。時期は出土遺物・切り合い関係より18世紀後葉と考えられる。

C-SK23 (第152図)

N15 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.16m、短軸0.64m、深さ8cmを測る。京・信楽系の陶器碗、肥前系の刷毛目碗などが出土している。時期は出土遺物から17世紀後葉から18世紀前葉と考えられる。

C-SK24 (第152図)

M15・16 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.1m、短軸1.1m、深さ32cmを測る。時期は不明である。

C-SK25 (第153図)

M14・N14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.8m、短軸0.64m、深さ8cmを測る。桶の底板の残骸が出土しており、桶を埋設した土坑である。切り合いはC-SK28より新しい。時期は近世と考えられる。

C-SK26 (第152図)

M15 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長 1.78m、短軸残存長 0.9m、深さ 16cm を測る。切り合いは C-SD2 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SK27 (第 152 図)

M15 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.32m、短軸残存長 0.3m、深さ 24cm を測る。桶が埋設されている。切り合いは C-SD3 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK28 (第 155 図)

M14・N14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.7m、短軸 0.66m、深さ 20cm を測る。切り合いは C-SK25 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SK29 (第 152 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は不整形で、長軸残存長 1.58m、短軸 0.76m、深さ 32cm を測る。多量の陶磁器を一括廃棄した廃棄土坑と考えられる。時期は出土遺物より 18 世紀第 3 四半期から 19 世紀初頭と考えられる。

C-SK30 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.08m、短軸残存長 0.36m、深さ 24cm を測る。呉器形の磁器碗、端反形の磁器碗、京・信楽系の灯明皿などが出土している。切り合いは C-SS9 より古く、C-SD5 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

C-SK31 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.2m、短軸残存長 0.5m、深さ 30cm を測る。覆土に焼土ブロック・炭化物ブロック・瓦片が多量に混じる。火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑の可能性がある。端反形の磁器碗、寛永通宝などが出土している。切り合いは C-SS2 より古く、C-SK35 より新しい。時期は出土遺物より 19 世紀中葉と考えられる。

C-SK32 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸 1.2m、短軸残存長 0.74m、深さ 20cm を測る。丸形の磁器碗、尾呂茶碗、油溝をアーチ状に 2ヶ所切り抜き、鉄錆軸を施す志戸呂系の灯明受皿が出土している。切り合いは C-SK19・C-SK39・C-SS2 より古く、C-SP18 より新しい。時期は出土遺物より 18 世紀と考えられる。

C-SK33 (第 153・154 図)

M12・13 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長 2.52m、短軸残存長 1.36m、深さ 80cm を測る。多量の焼土ブロック・炭化物ブロックが堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。丸形の磁器碗、磁器皿、杉形碗、刷毛目碗、油溝を切立状に切る鉄軸灯明受皿、土器の灯明皿、硯、寛永通宝などが出土している。切り合いは C-SK17 より古く、C-SK44 より新しい。時期は出土遺物より 18 世紀中葉と考えられる。

C-SK34 (第 153 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.8m、短軸 0.6m、深さ 16cm を測る。切り合いは C-SK40 より新しい。時期は近世と考えられる。

C-SK35 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.28m、短軸残存長 0.9m、深さ 22cm を測る。丸形の磁器碗、瀬戸美濃系の掃鉢、寛永通宝などが出土している。切り合いは C-SK31・C-SS10 より古く、C-SP17 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀後葉から 19 世紀初頭と考えられる。

C-SK36 (第 153 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長 0.5m、短軸残存長 0.28m、深さ 12cm を測る。丸形の磁器碗、磁器皿、磁器の猪口などが出土している。切り合いは C-SK38 より新しい。時期は出土遺物と

切り合い関係より 19 世紀初頭と考えられる。

C-SK37 (第 153 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.36m、短軸 0.96m、深さ 26cm を測る。尾呂茶碗、焙烙などが出土している。切り合いは C-SK38・C-SK43・C-SD5 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK38 (第 153 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長 1.32m、短軸残存長 0.96m、深さ 8cm を測る。半筒形の磁器碗、焼継ぎの痕跡がある半球形の磁器碗、丸形の磁器碗、瀬戸美濃系の香炉などが出土している。切り合いは C-SK36・C-SK37 より古く、C-SP21 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀後葉と考えられる。

C-SK39 (第 153 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸残存長 1.0m、短軸 0.94m、深さ 20cm を測る。切り合いは C-SK19 より古く、C-SK32 より新しい。時期は切り合い関係より 18 世紀から 19 世紀と考えられる。

C-SK40 (第 156 図)

M13・14 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.52m、短軸 1.1m、深さ 46cm を測る。切り合いは C-SK34・C-SP15・C-SS10 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SK42 (第 155 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 0.72m、短軸残存長 0.4m、深さ 40cm を測る。腰鉋碗、陶器の瓶などが出土している。切り合いは C-SE3 より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀中葉から後葉と考えられる。

C-SK43 (第 155 図)

M14 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.28m、短軸残存長 0.15m、深さ 18cm を測る。切り合いは C-SK37 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK44 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.52m、短軸 0.48m、深さ 24cm を測る。切り合いは C-SK33 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK45 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.5m、短軸 0.66m、深さ 28cm を測る。切り合いは C-SS1・C-SS11 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SK46 (第 156 図)

M12 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.37m、短軸 0.36m、深さ 20cm を測る。土坑内に 24 × 22 × 14cm の石が埋設されており、礎石と考えられる。時期は近世と考えられる。

C-SK47 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.8m、短軸 0.25m、深さ 12cm を測る。切り合いは C-SK35・C-SS10 より古く、C-SK48 より新しい。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK48 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.62m、短軸 0.6m、深さ 48cm を測る。切り合いは C-SK35・C-SK47・C-SS10 より古い。時期は切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

C-SK49 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.52m、短軸 0.4m、深さ 58cm を測る。時期は不明である。

C-SK50 (第 156 図)

M13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 0.76m、短軸 0.62m、深さ 52cm を測る。時期は不明である。

C-SK51 (第155図)

M14グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.45m、短軸残存長0.28m、深さ6cmを測る。時期は不明である。

C-SK52 (第158図)

M14グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長0.3m、短軸残存長0.2m、深さ13cmを測る。覆土に炭化物が多量に混ざっている。切り合いはC-SP25より古い。時期は近世と考えられる。

井戸

C-SE2 (第152図)

M15グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.2m、短軸残存長1.06m、深さ1.02mを測る。土坑内で桶の底板が出土した。土坑の北側には竹樋が埋設されている。C-SD3が走り、C-SE2の埋桶に接続されていたと考えられる。見込みにコンニャク印判で五弁花を染め付けた磁器皿、油溝をアーチ状に2ヶ所切り抜き、鉄錆軸を施す志戸呂系色の灯明受皿などが出土している。銅板転写で染付を施した磁器皿も出土しているが、これは後世の混入と考えられる。切り合いはC-SK22・C-SS6より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀中葉と考えられる。

C-SE3 (第155図)

M14グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.98m、短軸0.88m、深さ70cmを測る。土坑内に径79cmの桶が埋設されており、桶の底板には径12cmの穴が開けられ、径10cmの竹の管が挿入されている。明治期に発達した上総掘りの技術で掘られた掘り抜き井戸である。18世紀代の陶磁器が出土しているが、掘方から出土したものであり、同時期の遺物が出土している。C-SK29やC-SX4と隣接していることから、構築時の混入と考えられる。

溝

C-SD2 (第155図)

M14・15、N14グリッドに位置する。幅52cm、深さ32cmを測る。軸方向はN-17°-Eを指す。径6cmの竹樋が埋設されている。北から南に向かって傾斜し、1mで約6cmの傾斜を測る。端反形の磁器碗、半筒形の磁器碗、磁器碗の蓋などが出土している。切り合いはC-SK26より新しい。時期は出土遺物より19世紀前葉と考えられる。

C-SD3 (第152・159図)

M15グリッドに位置する。幅30cm、深さ28cmを測る。軸方向はN-13°-Eを指す。径6cmの竹樋が埋設されている。南端はC-SE2と接続する。切り合いはC-SK23より新しい。時期は切り合い関係より18世紀中葉と考えられる。

C-SD4 (第158図)

M13グリッドに位置する。幅36cm、深さ16cmを測る。軸方向はN-13°-Eを指す。切り合いはC-SS4・C-SS9より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SD5 (第158図)

M13・14グリッドに位置する。幅34cm、深さ6cmを測る。軸方向はW-6°-Nを指す。切り合いはC-SK30・C-SK37・C-SS9より古い。時期は近世と考えられる。

石列・礎石・基礎

C-SS1 (第151図)

M13グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.88m、短軸0.78m、深さ52cmを測る。径12cmの木杭を

3本打ち込み、その上に36×30×24cmの方形の石を埋設し、径10～30cmの石を詰める。C-SS2・C-SS3・C-SS4・C-SS5・C-SS9と並び、礎石と考えられる。切り合いはC-SK45・C-SS11より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SS2 (第151図)

M13グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.94m、短軸0.76m、深さ52cmを測る。径15cmの木杭を3本打ち込み、その上に52×32×17cmの方形の石を埋設し、さらに方形の石を積み、周囲に径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS3・C-SS4・C-SS5・C-SS9と並び、礎石と考えられる。切り合いはC-SK19・C-SK31・C-SK32より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SS3 (第151図)

L13・M13グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸0.85m、短軸残存長0.6m、深さ60cmを測る。径15cmの木杭を3本打ち込み、その上に44×40×30cmの方形の石を埋設し、径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS2・C-SS4・C-SS5・C-SS9と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

C-SS4 (第151図)

M13・14グリッドに位置する。平面形は方形で長軸1.08m、短軸残存長0.8m、深さ54cmを測る。径15cmの木杭を3本打ち込み、その上に45×42×22cmの方形の石を埋設し、径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS2・C-SS3・C-SS5・C-SS9と並び、礎石と考えられる。切り合いはC-SD4より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SS5 (第154図)

M12グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸0.68m、短軸残存長0.5m、深さ66cmを測る。土坑内に径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS2・C-SS3・C-SS4・C-SS9と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

C-SS6 (第152図)

M15・N15グリッドに位置する。幅74cm、深さ36cmのL字状の溝に、径15cmの丸太を並べ、その上に径10～20cmの石を積んでいる。西の辺の軸方向はN-15°-Eを指す。建物の基礎と考えられる。切り合いはC-SE2より新しい。時期は不明である。

C-SS7 (第152図)

M15・16、N15・16グリッドに位置する。径10～20cmの石が2.0×1.8mの範囲でL字状に並べてある。何らかの構造物の基礎の可能性はある。時期は不明である。

C-SS8 (第151図)

M13グリッドに位置する。28×24×18cmの方形の石を検出した。礎石の可能性はある。時期は不明である。

C-SS9 (第151・153図)

M13グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸1.72m、短軸0.96m、深さ50cmを測る。径15cmの木杭を6本打ち込み、その上に1辺25cm程の方形の石を並べ、周囲に径10～20cmの石を詰める。C-SS1・C-SS2・C-SS3・C-SS4・C-SS5と並び、礎石と考えられる。18世紀代の陶磁器類が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いはC-SK30・C-SD4・C-SD5より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SS10 (第151図)

M12～14グリッドに位置する。5.6×1.2mの範囲に径10～20cmの石が散乱している。東端部では小形の間知石を並べ、溝を作っていた痕跡が残り、水路と考えられる。軸方向はW-15°-Nを指す。時期は近代と考えられる。

C-SS11 (第153図)

M13グリッドに位置する。平面形は方形で長軸1.2m、短軸1.0m、深さ18cmを測る。土坑内に径10cmの石を詰める。切り合いはC-SS1より古く、C-SK45より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

C-SS12 (第150図)

N17 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.6m、短軸 0.5m、深さ 20cmを測る。1辺 40cmの扁平な石や径 10～20cmの石を詰める。何らかの構造物の基礎と考えられる。時期は近代と考えられる。

その他の遺構

C-SX1 (第156図)

N15 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.47m、短軸 0.45m、深さ 11cmを測る。土坑内には多量の陶磁器片が堆積しており、陶磁器を一括廃棄した廃棄土坑と考えられる。銅板転写で染付を施した磁器碗、磁器皿などが出土している。切り合いは C-SK21 より新しい。時期は近代と考えられる。

C-SX2 (第159・160図)

M16 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 4.46m、短軸残存長 3.84m、深さ 1.6mを測る土坑内に、太さ 70×40cmの方形心柱と井桁に組まれた地中梁から構成される木組みが埋設されている。木組みに隣接して口径 1.0mの鉄釜が据えられている。大きな荷重に耐える構造を有していることから、梃子の原理を利用した圧搾装置の可能性はある。使用されている木材は梁や柱の転用材とみられるものもあり、樹種同定の結果ではケヤキとクリが使用されている。また暦年較正・ウィグルマッチングの成果では、1802 - 1827calAD、1821 - 1839 calAD、1714 - 1909 calADと報告されている。切り合いは C-SK22 より新しい。

C-SX4 (第155図)

M14・N14 グリッドに位置する。平面形は長方形で長軸残存長 2.8m、短軸 1.7m、深さ 43cmを測る。覆土に炭化物や砂利、木片などが混ざり、土坑上には径 10～20cmの石、木片が散乱していた。廃棄土坑の可能性はある。半筒形の青磁染付碗、油溝を切立状に切る鉄軸灯明受皿、髪油壺、高台内に朱漆で「斤」の文字が書かれた漆塗りの椀、甲州金が出土している。甲州金には「桐紋」・「松木」・「茗朱」の刻印が施されている。切り合いは C-SE3 より古い。時期は出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

第4項 II-D地点(第117・118図)

土坑

D-SK1 (第161図)

K13 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸残存長 0.8m、短軸 0.8m、深さ 80cmを測る。寛永通宝が出土している。時期は出土遺物より近世と考えられる。

D-SK2 (第162図)

H13 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.64m、短軸残存長 0.26m、深さ 35cmを測る。時期は不明である。

D-SK3 (第162図)

H13・I13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 4.16m、短軸 1.76m、深さ 45cmを測る。多量の焼土ブロック・炭化物ブロックが堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄した土坑と考えられる。半筒形の磁器碗、丸形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、柳茶碗、腰膳碗、陶胎染付の碗、摺鉢皿、甲州金、寛永通宝などが出土している。甲州金には「桐紋」・「松木」・「茗朱」の刻印が施されている。時期は出土遺物より 18 世紀末から 19 世紀初頭と考えられる。

D-SK4 (第161図)

J13・K13 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 2.6m、短軸残存長 2.36m、深さ 65cmを測る。多量の焼土ブロック・炭化物ブロックが堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄した土坑と考えられる。被熱した磁器碗、磁器皿、練鉢、寛永通宝、雁首銭などが出土している。切り合いは D-SD2 より新しい。時期は出土遺物より 18 世紀後葉と考えられる。

D-SK5 (第162図)

H13グリッドに位置する。平面形は楕円形と考えられる。長軸残存長0.6m、短軸残存長0.2m、深さ8cmを測る。磁器皿、輪杢皿、瀬戸美濃系の播鉢が出土している。時期は出土遺物より18世紀後葉と考えられる。

D-SK6 (第162図)

H13・14グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸残存長0.9m、短軸0.64m、深さ63cmを測る。呉器形の磁器碗、紅猪口、染付磁器皿、寿文皿などが出土している。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

D-SK7 (第163図)

J13グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長1.4m、短軸残存長1.0m、深さ17cmを測る。時期は不明である。

D-SK9 (第163図)

H14・J14グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長2.0m、短軸残存長1.62m、深さ52cmを測る。木片が多量に堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。丸形の磁器碗、半球形の磁器碗、半球形の陶器碗、灰釉灯明皿、鉄釉灯明皿、瀬戸美濃系の播鉢などが出土している。切り合いはD-SK10・D-SS1より古い。時期は出土遺物より18世紀後葉と考えられる。

D-SK10 (第163図)

J14グリッドに位置する。平面形は方形で、長軸0.98m、短軸0.92m、深さ46cmを測る。径5～10cmの小石混じりの砂利が堆積している。切り合いはD-SS1より古く、D-SK9より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

D-SK11 (第163図)

H13グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸1.14m、短軸残存長0.68m、深さ30cmを測る。土坑内には多量の陶磁器片が堆積しており、陶磁器を一括廃棄した廃棄土坑と考えられる。18世紀代を中心とした陶磁器が多量に出土している。切り合いはD-SK12・D-SS1より古い。時期は出土遺物より18世紀末と考えられる。

D-SK12 (第161・163図)

H13・J13グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長2.1m、短軸残存長0.64m、深さ50cmを測る。土坑内に径7～10cmの石が詰められており、何らかの構造物の基礎の可能性がある。景德鎮窯の磁器皿、見込みに蛇の目状軸刺ぎを施した磁器皿、腰鎗碗などが出土している。切り合いはD-SK11より新しい。時期は出土遺物より19世紀前葉と考えられる。

D-SK13 (第162図)

H13・14グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸1.2m、短軸1.0m、深さ26cmを測る。端反形の磁器碗、磁器の急須などが出土している。切り合いはD-SS1より古い。時期は出土遺物より幕末から明治と考えられる。

D-SK14 (第162図)

H14グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.44m、短軸0.44m、深さ45cmを測る。時期は不明である。

溝

D-SD1 (第161図)

J13グリッドに位置する。幅38cm、深さ34cmを測る。軸方向はW-12°-Nを指す。時期は不明である。

D-SD2 (第163図)

J13グリッドに位置する。幅80cm、深さ44cmを測る。軸方向はW-37°-Nを指し、北に向かってやや蛇行している。溝の両端に石を並べて壁としていた痕跡がある。切り合いはD-SK4より古い。時期は切り合い関係より18世紀と考えられる。

石列・礎石・基礎

D-SS1 (第162図)

I13・14、J13～15グリッドに位置する。間知石や方形の切石を積み上げる。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。対面の石列はカケランにより無くなっているが、土地境に敷設された用水路の一部と考えられる。東端はB-SS1に繋がると考えられる。軸方向はW-11°-Nを指す。18世紀から19世紀の陶磁器が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いはD-SK9・D-SK10・D-SK11・D-SK13より新しい。時期は近代と考えられる。

D-SS2 (第161図)

K13グリッドに位置する。平面形は方形で長軸0.8m、短軸0.6m、深さ40cmを測る。径15cmの木柱を3本打ち込み、その上に1辺30cmの方形の石を置き、周囲に1辺20cmの板石を詰めて固定している。建物の礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

第5項 相生工区 (第119～121図)

土坑

相生-SK1 (第164図)

L4グリッドに位置する。平面形は方形で長軸2.4m、短軸残存長1.9m、深さ53cmを測る。多量の焼土ブロック・炭化物・瓦片が堆積しており、火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。近代以降の陶磁器が出土している。切り合い関係は相生-SK11・相生-SK12より新しい。時期は近代から現代と考えられる。

相生-SK2 (第176図)

L6グリッドに位置する。62×45×8cmの木製の箱が埋設されていた。平面形は長方形で側面の板は腐食し、ほとんど残っていない。内部には多量の砂が堆積していた。遺構の時期、性格は不明である。

相生-SK3 (第165図)

K5グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸2.76m、短軸残存長1.7m、深さ35cmを測る。焼土粒・炭化物とともに多量の瓦片が堆積している。建物解体時に発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器碗、端反形の磁器碗、広東形の磁器碗、紅猪口、油溝を切立状に切る鉄軸灯明受皿、秉燭、掃鉢などが出土している。切り合いは相生-SK11より新しい。時期は出土遺物より19世紀中葉と考えられる。

相生-SK4 (第165図)

K4グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸2.0m、短軸残存長1.5m、深さ94cmを測る。焼土粒・炭化物とともに多量の瓦片が堆積している。建物解体時に発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。端反形の磁器碗、紅猪口、仏飯器、餌猪口などが出土している。切り合いは相生-SK11より新しい。時期は出土遺物より19世紀中葉と考えられる。

相生-SK5 (第165図)

K4グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸2.2m、短軸残存長1.0m、深さ45cmを測る。多量の焼土粒・炭化物・瓦片が堆積している。建物解体時に発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器、異器形の磁器、水滴などが出土している。切り合いは相生-SK12・相生-NR1より新しい。時期は出土遺物より19世紀中葉と考えられる。

相生-SK6 (第166図)

K2・3・L2・3グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸4.0m、短軸残存長1.4m、深さ60cmを測る。瓦片・木片・径7～8cmの石が多量に堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。端反形の磁器碗、筒丸形の磁器碗、半球形の磁器碗、半筒形の磁器碗、丸形の磁器碗、腰鎗碗、鉄軸灯明皿、灰軸灯明皿、油溝を切立状に切る鉄軸灯明皿、秉燭、焼塩壺、熨斗などが出土している。切り合いは相生-SK10・相生SE1より新しい。時期は出土遺物より19世紀中葉と考えられる。

相生-SK7 (第166図)

K2・3グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長6.0m、短軸残存長1.24m、深さ1.12mを測る。覆土に木片が多量に混ざっており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。筒丸形の磁器碗、端反形の磁器碗、紅猪口、薄手酒杯、鉄絵皿、灯明皿、燭燵、播鉢、墨で文章が書かれた木札や杭状の木製品などが出土している。時期は出土遺物より19世紀中葉と考えられる。

相生-SK8 (第166・171図)

L3グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長1.12m、短軸残存長0.6m、深さ44cmを測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは相生-SS17より古く、相生-SK12より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SK9 (第169図)

K1・2グリッドに位置する。平面形は円形で長軸0.8m、短軸0.8m、深さ34cmを測る。土坑内より桶の底板が検出されており、桶を埋設した土坑である。半筒形の磁器碗、丸形の磁器碗、蛇の目凹形高台を持つ磁器皿、瀬戸美濃系の播鉢などが出土している。切り合いは相生-SS10より古い。時期は出土遺物より19世紀前葉と考えられる。

相生-SK10 (第167・171図)

K3・L3グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長2.5m、短軸残存長1.76m、深さ0.88mを測る。ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。東側に位置する相生-SK12と同一の土坑と考えられる。18世紀から19世紀の陶磁器が多量に出土している。切り合いは相生-SK6より古く、相生-SK1より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀末から19世紀初頭と考えられる。

相生-SK11 (第167・171図)

K4・5・L4・5グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸4.0m、短軸残存長3.0m、深さ90cmを測る。多量の木片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。18世紀から19世紀の陶磁器が多量に出土しており、漆継ぎの痕跡や漆のパレットとして使用された痕跡のある磁器碗が出土している。切り合いは相生-SK1・相生-SK3・相生-SK4・相生-SK12・相生-SS12・相生-SS13・相生-SS14・相生-SS15より古く、相生-NR1より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀末から19世紀初頭と考えられる。

相生-SK12 (第167・171図)

K3・4・L3・4グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸残存長4.0m、短軸残存長2.6m、深さ1.12mを測る。多量の木片が堆積しており、ゴミ処理用の廃棄土坑と考えられる。西側に位置する相生-SK10と同一の土坑と考えられる。18世紀から19世紀の陶磁器が多量に出土しており、墨で文章が書かれた木札も出土している。切り合いは相生-SK1・相生-SK5・相生-SK8・相生-SP1・相生-SS8・相生-SS17より古く、相生-NR1より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より、18世紀末から19世紀初頭と考えられる。

相生-SK13 (第166図)

K1グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.76m、短軸残存長0.68m、深さ50cmを測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは相生-SS10より古い。時期は近世と考えられる。

相生-SK14 (第169図)

K5・L5グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸1.36m、短軸1.0m、深さ40cmを測る。半筒形の小碗、丸形の小碗、腰銘碗、柳茶碗、堺・明石系の播鉢、焼塩壺などが出土している。切り合いは相生-SK15・相生-SS7より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀末から19世紀初頭と考えられる。

相生-SK15 (第169図)

L5グリッドに位置する。平面形は円形で長軸1.08m、短軸1.08m、深さ1.1mを測る。土坑内部には桶が埋設され、東側に竹樋が接続されている上水井戸である。桶の内部より半球形の磁器碗、土瓶、鋤などが出土している。切り合いは相生-SS7より古く、相生-SK14・相生-SK28より新しい。時期は出土遺物と切り合い

関係より幕末から明治と考えられる。

相生-SK16 (第168・172図)

K5・6 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸 1.36m、短軸残存長 1.16m、深さ 60cmを測る。筒丸形の磁器碗、半球形の磁器碗、呉器形の磁器碗、馬の目皿、乗燭、墨で文章が書かれた木札などが出土している。切り合いは相生-SS7 より古く、相生-SK17 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 19 世紀中葉と考えられる。

相生-SK17 (第172図)

K6 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 1.2m、短軸残存長 0.9m、深さ 1.1m を測る。土坑内部には桶が埋設され、南東側に竹樋が接続されていた痕跡が残る。桶の内部より 18 世紀から 19 世紀の陶磁器が多量に出土している。切り合いは相生-SK16・相生-SS5 より古く、相生-SD3 より新しい。時期は出土遺物より、18 世紀から 19 世紀初頭と考えられる。

相生-SK18 (第172図)

K6 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.92m、短軸残存長 0.36m、深さ〇〇cmを測る。磁器の小破片が出土している。切り合いは相生-SS1 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SK19 (第168図)

K6・L6 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.8m、短軸 0.78m、深さ 27cmを測る。半球形の磁器碗、丸形の磁器碗、半筒形の陶胎染付碗、水滴などが出土している。切り合い関係は相生-SD3 より新しい。時期は出土遺物より 18 世紀末と考えられる。

相生-SK20 (第168図)

L6 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 0.92m、短軸 0.76m、深さ 18cmを測る。土坑内に桶の底板が検出されており、桶を埋設した土坑である。丸形の磁器碗が出土している。切り合い関係は相生-SS22 より古く、相生-SK27 より新しい。時期は出土遺物と切り合い関係より 18 世紀と考えられる。

相生-SK21 (第168図)

L5 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.84m、短軸残存長 0.4m、深さ 6cmを測る。切り合いは相生-SS7・相生-SD1 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SK22 (第168図)

L5 グリッドに位置する。平面形は円形で長軸 0.9m、短軸 0.8m、深さ 17cmを測る。切り合いは相生-SX5 より新しい。時期は不明である。

相生-SK23 (第168図)

L6 グリッドに位置する。18×18cmの桶の底板が検出された。切り合いは相生-SS22 より古く、相生-SK27 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SK24 (第165図)

K3 グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸残存長 0.48m、短軸 0.3m、深さ 6cmを測る。陶磁器の小破片が出土している。時期は不明である。

相生-SK25 (第170・171図)

L5・6 グリッドに位置する。1.8×1.0mの範囲に梁の転用材をコの字状に並べ、内側に杭を打ち、外側には石を詰めて固定している。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは相生-SS1 より古く、相生-SK27 より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。遺構の性格は不明である。

相生-SK26 (第170・171図)

L5 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.6m、短軸残存長 0.32m、深さ 15cmを測る。相生-SK25 内で検出された。切り合いは相生-SS1 より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SK27 (第170図)

L6グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸3.34m、短軸残存長1.88mを測る。土坑内に桶を井戸枠とした掘抜き井戸が設置されている。井戸枠の上には梁の転用材を並べて井戸の蓋としている。掘方の上層から、漆継ぎの痕跡がある磁器の瓶や丹波系の播鉢などが出土している。切り合いは相生-SK2、相生-SK20、相生-SK23、相生-SK25、相生-SS1、相生-SS21、相生-SS22より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀末と考えられる。

相生-SK28 (第169図)

L5グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸0.54m、短軸残存長0.36m、深さ1.24mを測る。陶磁器の小破片が出土している。切り合いは相生-SK15・相生-SS7より古い。時期は切り合い関係より19世紀と考えられる。

相生-SK29 (第170図)

K6・L6グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸1.4m、短軸0.96m、深さ24cmを測る。丸形の磁器碗、半胴甕などが出土している。切り合いは相生-SS1・相生-SS23より古い。時期は出土遺物と切り合い関係より18世紀末と考えられる。

石列・礎石・基礎

相生-SS1 (第172・173・176図)

K6、L5・6グリッドに位置する。幅80cm、深さ70cmの溝の中に約1.5m間隔で32×30×54cmの蝟燭石を据えて、径10～20cmの石を詰めて固定している。蝟燭石の下には径10～15cmの胴木を3本並べている。さらに蝟燭石を据えた部分については、胴木の下に径10cmの木杭を3本打ち込み、その上に枕木を置いている。それ以外の部分では胴木の下に径10cm前後の石を敷き並べている。L6グリッドでL字状に曲がり、西端部は相生-SS7と繋がっている。建物の基礎と考えられる。18世紀中葉から19世紀中葉の陶磁器が出土しているが、構築時の混入と考えられる。切り合いは相生-SK18・相生-SK25・相生-SK26・相生-SK27・相生-SK29・相生-SD1より新しい。時期は近代と考えられる。

相生-SS2 (第174図)

K6グリッドに位置する。1辺10～20cmの方形の石を置き、周囲に径10cmの石を置いて固定している。相生-SS3・相生-SS4・相生-SS5・相生-SS6と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS3 (第174図)

K6グリッドに位置する。40×30×10cmの扁平な石を置き、その下層に1辺10～20cmの方形の石を積んでいる。相生-SS2・相生-SS4・相生-SS5・相生-SS6と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS4 (第174図)

L6グリッドに位置する。32×30×28cmの方形の石を置き、その下層に径20cmの石を積んでいる。相生-SS2・相生-SS3・相生-SS5・相生-SS6と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS5 (第174図)

K6グリッドに位置する。36×30×11cmの扁平な石を置き、その下層に径10cmの石を積んでいる。相生-SS2・相生-SS3・相生-SS4・相生-SS6と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS6 (第174図)

L5グリッドに位置する。30×30×17cmの方形の石を検出した。相生-SS2・相生-SS3・相生-SS4・相生-SS5と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS7 (第175図)

K5、L5グリッドに位置する。間知石を積み上げた土地境の石列である。間知石の下には胴木を並べ、根石や杭で固定している。軸方向はN-10°-Eを指す。南端部東側は相生-SS1と繋がっており、建物の基礎

としても機能していたと考えられる。切り合いは相生-SK15・相生-SK16・相生-SK21・相生-SK25・相生-SK28・相生-SD1・相生-SX1より新しい。時期は近代と考えられる。

相生-SS8 (第164図)

K4グリッドに位置する。40×40×20cmの方形の石を置き、周囲に径20cmの石を並べて固定している。相生-SS11・相生-SS12・相生-SS13・相生-SS14・相生-SS15と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS9 (第169図)

K1・2、L1・2グリッドに位置する。幅50cm、深さ36cmの溝の中に、径20cm前後の石を詰める。L2グリッドでL字状に曲がっているが、北側はカクランを受けて崩れている。建物の基礎と考えられる。南の辺の軸方向はW-9°-Nを指す。切り合いは相生-SS10より古く、相生-SS26・相生-SX4より新しい。時期は近代と考えられる。

相生-SS10 (第169図)

K1・2グリッドに位置する。30×25×20cmの小形の間知石を並べ、径10～20cmの根石で固定している。軸方向はW-9°-Nを指す。土地境の石列と考えられる。切り合いは相生-SK9・相生-SS9より新しい。時期は近代と考えられる。

相生-SS11 (第164図)

L4グリッドに位置する。40×20×18cmの方形の石を置き、周囲に径10cmの石を並べて固定している。相生-SS8・相生-SS12・相生-SS13・相生-SS14・相生-SS15と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS12 (第164図)

L5グリッドに位置する。42×40×20cmの方形の石を検出した。相生-SS8・相生-SS11・相生-SS13・相生-SS14・相生-SS15と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS13 (第164図)

L5グリッドに位置する。22×20×13cmの方形の石を検出した。相生-SS8・相生-SS11・相生-SS12・相生-SS14・相生-SS15と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS14 (第164図)

K4グリッドに位置する。24×24×16cmの方形の石を置き、周囲に径20cmの石を並べて固定している。相生-SS8・相生-SS11・相生-SS12・相生-SS13・相生-SS15と並び、礎石と考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS15 (第164図)

K4グリッドに位置する。径10～20cmの楕円形の石が積まれている。相生-SS8・相生-SS11・相生-SS12・相生-SS13・相生-SS14と並び、礎石の根石部分が残存したものと考えられる。時期は近代と考えられる。

相生-SS16 (第169図)

L2グリッドに位置する。1辺10～20cmの方形の石が積まれている。石の下には径15cmの木杭が2本打ち込まれている。礎石と考えられる。切り合いは相生-SK6より新しい。時期は近代と考えられる。

相生-SS17 (第165図)

L3グリッドに位置する。径10～20cmの石が積まれている。相生-SS18と並び、礎石の根石部分が残存したものと考えられる。切り合いは相生-SK8・相生-SK12より新しい。時期は近代と考えられる。

相生-SS18 (第165図)

K3グリッドに位置する。径10～30cmの石積が2基並んで検出された。相生-SS17と並び礎石の根石部分が残存したものと考えられる。切り合いは相生-SK12より新しい。時期は近代と考えられる。

相生-SS19 (第175図)

L5 グリッドに位置する。平面形は方形と考えられる。長軸 0.7m、短軸残存長 0.6m、深さ 34cmを測る。30 × 25 × 20cmの方形の石を埋設し、径 10 ~ 20cmの石を詰めて固定している。礎石と考えられる。切り合いは相生-SX5より新しい。時期は近世と考えられる。

相生-SS20 (第175図)

L6 グリッドに位置する。30 × 28 × 18cmの方形の石を据え、周囲に1辺 30cm程度の方形の石を置いて固定している。礎石と考えられる。時期は近世と考えられる。

相生-SS21 (第174図)

L6 グリッドに位置する。90 × 60cmの範囲に径 10cm前後の石を並べている。軸方向はN - 8° - Eを指す。何らかの構造物の基礎の可能性ある。下層に相生-SS22が位置している。時期は近代と考えられる。

相生-SS22 (第168図)

L6 グリッドに位置する。60 × 24 × 19cmの長方形の石を据え、周囲に径 10 ~ 20cmの石を詰めて固定している。礎石と考えられる。相生-SS21の下層で検出した。切り合いは相生-SK20より新しい。時期は近世と考えられる。

相生-SS23 (第176図)

K6 グリッドに位置する。1.9 × 1.2mの範囲に、径 10 ~ 20cmの石をL字状に並べている。西の辺の軸方向はN - 12° - Eを指す。建物の基礎と考えられる。切り合いは相生-SS1より古く、相生-SK29・相生-SS24・相生-SS27より新しい。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SS24 (第170図)

K6 グリッドに位置する。44 × 40 × 12cmの扁平な石を据え、その上に1辺 10 ~ 20cmの石を積んでいる。礎石と考えられる。切り合い関係は相生-SS23より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

相生-SS25 (第167図)

K4 グリッドに位置する。32 × 30 × 16cmの方形の石を積み、周囲に径 10 ~ 20cmの石を詰めて固定している。礎石と考えられる。時期は近世と考えられる。

相生-SS26 (第166図)

K2 グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸 1.04m、短軸 0.68m、深さ 20cmを測る。土坑内に径 10cmの木杭を7本打ち込み、その上に1辺 40cm、厚み 10 ~ 15cmの方形の石を並べて置き、その周囲に径 10cmの石を詰めて固定している。礎石と考えられる。時期は近世と考えられる。

相生-SS27 (第172図)

K6 グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸 0.44m、短軸残存長 0.3m、深さ 60cmを測る。土坑内に径 10cmの石を詰める。礎石の根石部分が残存したものと考えられる。切り合いは相生-SS23より古い。時期は切り合い関係より近世と考えられる。

溝

相生-SD1 (第170図)

L5・6グリッドに位置する。幅 42cm、深さ 46cmを測る。軸方向はW - 3° - Nを指す。径 10cmの竹樋が埋設されている。西端は相生-SK15の埋桶と接続する。何度か竹樋の付け替えが行われており、L6グリッドで相生-SD2、相生-SD3と接続し、枡や継手を敷設し流路を曲げていた痕跡がある。切り合い関係は相生-SS1・相生-SS7より古く、相生-SK21・相生-SD4より新しい。時期は幕末から明治と考えられる。

相生-SD2 (第170図)

K6、L6グリッドに位置する。幅 52cm、深さ 32cmを測る。軸方向はW - 62° - Nを指す。径 10cmの竹樋の残骸が残る。北端は相生-SK17の埋桶と接続していたと考えられる。南端は相生-SD1と繋がり、小形の埋桶を枡として敷設し、流路を曲げていた痕跡がある。切り合いは相生-SS3より古く、相生-SD4より新しい。時

期は18世紀末から19世紀初頭と考えられる。

相生-SD3 (第170図)

K6、L6グリッドに位置する。幅40cm、深さ26cmを測る。軸方向はN-16°-Eを指す。径8cmの竹樋の残骸が残る。南端は相生-SD1と繋がり、継手を敷設し、流路を曲げていた痕跡がある。切り合いは相生-SK16・相生-SK17・相生-SK19より古い。時期は切り合い関係より18世紀と考えられる。

相生-SD4 (第170図)

K6、L6グリッドに位置する。幅10cm、深さ8cmを測る。軸方向はN-14°-Eを指す。切り合いは相生-SD1・相生-SD2より古い。時期は切り合い関係より18世紀と考えられる。

その他の遺構

相生-SX2 (第169図)

K3グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.6m、短軸0.52m、深さ30cmを測る。周囲には径10～20cmの石が並べられていた。切り合いは相生-SK7より新しい。時期は不明である。

相生-SX4 (第166図)

L2グリッドに位置する。平面形は不整形で長軸0.64m、短軸残存長0.52m、深さ27cmを測る。遺構の時期、性格は不明である。

相生-SX5 (第170・171図)

L5グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸2.0m、短軸残存長0.8m、深さ1.3mを測る。土坑の壁際に径10～20cmの石が積み上げられている。切り合いは相生-SK11・相生-SK22・相生-SS7・相生-SS19より古い。時期は切り合い関係より18世紀と考えられる。

相生-SE1 (第167・171図)

K3・L3グリッドに位置する。平面形は円形と考えられる。長軸残存長0.76m、短軸残存長0.64mを測る。掘抜き井戸で、井戸枠は検出されなかった。相生-SK10の下層で検出され、相生-SK10覆土が流れ込んでおり、18世紀に廃絶されたものと考えられる。

自然流路 (NR)

相生-NR1 (第177図)

K4、L4・5グリッドに位置する。幅1.28～2.92m、深さ54～65cmを測る。調査区の南北を横断し、S字状に蛇行している。粒の粗い砂が堆積していた。甲府城下町の北東に流れる藤川は、甲府城下建設以前は真っ直ぐに南流し、その一部が甲府城二の堀の一部に利用されていたことが分かっている。相生工区は柳町四丁目の西側の街区、二の堀の東側に位置しており、旧藤川の流路の一部である可能性が考えられる。

遺物集積地 (P)

相生-P1 (第169図)

K3グリッドに位置する。60×40cmの範囲内に、銅板転写や型紙摺で染付をした磁器などが多量に堆積していた。陶磁器を一括廃棄したものと考えられる。

第9表 II・相生工区遺構観察表(SP)

調査区	グリッド	遺構名	形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
A	K21	SP1	円形	17	15	18
A	J21	SP2	円形	33	28	15
A	I22	SP3	円形	37	23	13
A	J21	SP4	円形	18	16	15
A	J21	SP5	円形	34	17	7
A	I23	SP6	円形	20	18	52
A	I22	SP7	円形	21	19	20
A	I22	SP8	円形	42	(20)	20
A	欠番	SP9	—	—	—	—
A	I23	SP10	円形	23	23	25
A	J・K24	SP11	円形	53	53	46
A	J23	SP12	円形	36	31	78
A	J22	SP13	円形	60	56	51
A	J22	SP14	円形	43	33	11
A	J22	SP15	円形	29	27	22
A	K22	SP16	円形	45	37	23
A	K23	SP17	円形	31	31	28
A	欠番	SP18	—	—	—	—
A	I23	SP19	円形	46	44	57
A	I23	SP20	円形	29	27	29
A	I23	SP21	円形	49	46	77
A	I22	SP22	円形	46	43	15
A	J24	SP23	円形	31	25	43
A	J22	SP24	不整形	54	<15>	53
A	K22・23	SP25	円形	26	25	27
A	K23	SP26	円形	16	15	8
A	K22	SP27	円形	17	16	17
A	K22	SP28	円形	14	12	29
A	K23	SP29	円形	17	15	3
A	I22・23	SP30	円形	17	15	36
A	欠番	SP31	—	—	—	—
A	K・L23	SP32	円形	40	(20)	5
A	M21	SP33	円形	26	25	9
A	M22	SP34	円形	26	25	29
A	J23	SP35	円形	32	30	24
A	J・K24	SP36	円形	27	26	65
A	K24	SP37	円形	25	24	22
A	K24	SP38	円形	27	22	25
B	J20	SP1	方形	44	41	27
B	J20	SP2	不整形	54	51	44
B	欠番	SP3	—	—	—	—
B	J20	SP4	円形	22	20	20
B	J・K20	SP5	円形	41	37	43
B	J19	SP6	円形	49	45	23
B	J18	SP7	円形	34	31	17
B	J18	SP8	円形	31	29	37
B	J19	SP9	円形	43	38	34
B	J19	SP10	円形	25	25	15
C	N17	SP1	円形	42	32	48
C	N17	SP2	円形	36	26	18
C	N16	SP3	円形	36	36	25
C	N17・18	SP4	円形	48	34	12
C	N18	SP5	円形	26	20	38
C	N17	SP6	円形	30	28	38
C	N17	SP7	円形	38	32	48
C	N17	SP8	円形	48	38	60
C	N17	SP9	円形	38	30	35
C	N17	SP10	円形	32	30	22
C	N18	SP11	円形	42	38	22
C	N16	SP12	円形	38	37	50
C	N16	SP13	円形	20	34	45
C	M13	SP14	円形	38	34	40
C	M14	SP15	円形	32	30	30
C	M13	SP16	円形	32	30	30

調査区	グリッド	遺構名	形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
C	M13	SP17	円形	26	22	23
C	M13	SP18	円形	36	28	40
C	M13	SP19	円形	30	26	72
C	M13	SP20	円形	32	30	26
C	M14	SP21	円形	18	18	32
C	M14	SP22	円形	26	26	32
C	M14	SP23	円形	22	15	22
C	M13	SP24	円形	20	16	45
C	M13	SP25	円形	18	(14)	12
D	J13	SP1	円形	22	18	48
相生	L3	SP1	円形	28	22	6

第 10 表 II・相生工区遺構一覧表

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
A	J21・K21	SK1	長方形	19世紀前葉～中葉
A	欠番	SK2	—	—
A	K23	SK3	円形か	近代
A	I23	SK4	長方形	近代
A	欠番	SK5	—	—
A	J21	SK6	不整形	不明
A	欠番	SK7	—	—
A	I22	SK8	不整形	不明
A	J21	SK9	不整形	不明
A	I22	SK10	円形か	19世紀
A	J22	SK11	長方形	不明
A	I22	SK12	方形か	19世紀
A	J21・22	SK13	不整形	不明
A	欠番	SK14	—	—
A	J22・23・K22・23	SK15	不整形	幕末～明治
A	J21・22・K22・23	SK16	不整形	18世紀中葉～後葉
A	I22	SK17	円形か	不明
A	I22	SK18	方形か	近世
A	I22	SK19	方形	19世紀初頭
A	J22	SK20	円形	不明
A	I23・24	SK21	不整形	19世紀中葉
A	K21	SK22	不整形	近代
A	K21・22・L21	SK23	方形	19世紀中葉
A	I23・24・J23・24	SK24	不整形	19世紀前葉～中葉
A	L21・22	SK25	不整形	近代
A	L21・22	SK26	方形か	19世紀前葉
A	K22・23	SK27	方形	近世
A	K22・L22	SK28	円形か	近世
A	K23・24	SK29	円形	明治
A	L23	SK30	不整形	不明
A	K23・L23	SK31	不整形	不明
A	L24	SK32	円形か	不明
A	L22	SK33	円形	不明
A	L24	SK34	楕円形	不明
A	J23	SK35	楕円形	不明
A	J22	SK36	円形	不明
A	L22	SK37	円形	19世紀中葉
A	L22・23・M22・23	SK38	不整形	19世紀後葉
A	L23	SK39	不整形	幕末～明治
A	L23	SK40	方形	幕末～明治
A	K23	SK41	不整形	近世
A	L21	SK42	長方形	近代
A	K23・24・L23	SK43	不整形	19世紀中葉
A	K23	SK44	方形	明治前半
A	K22・23・L22・23	SK45	不整形	19世紀
A	欠番	SK46	—	—
A	K21・L21	SK47	不整形	19世紀中葉
A	欠番	SK48	—	—
A	I24・J24	SK49	不整形	17世紀末～18世紀前葉
A	J23・J24	SK50	円形	不明
A	J21・22	SK51	不整形	不明
A	欠番	SK52	—	—
A	J22・K22・23	SK53	楕円形か	近世
A	欠番	SK54	—	—

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
A	欠番	SK55	—	—
A	I23・24・J23	SK56	不整形	近世
A	K23	SK57	円形	近世
A	I23・J23	SK58	不整形	近世
A	K23	SK59	長方形	近世
A	K23・24	SK60	楕円形	18世紀前葉～中葉
A	欠番	SK61	—	—
A	L21・M21	SK62	円形	不明
A	I23・J23	SK63	方形	近世
A	欠番	SK64	—	—
A	L23・M23	SK65	円形か	近世
A	M21・22	SK66	不整形	近世
A	L22・M22・23	SK67	楕円形	19世紀中葉
A	J23	SK68	不整形	近世
A	L23・M23	SE1	円形か	明治時代
A	I21・22・J21・22	SX1	片袖形	近代
A	K21・L21・22・M22・23	SS1	石列	近代
A	J23	SS2	根石か	不明
A	J23	SS3	礎石か	不明
A	J24	SS4	礎石か	不明
A	J23	SS5	礎石	不明
A	I23・J23	SS6	擁壁の基礎	近代
A	I23・J23・24	SS7	建物基礎	近代
A	I28	SS8	集石	近代以降
A	K23	SS9	礎石か	近代
A	I21・J21	SS10	建物基礎か	近代
A	I22	SS11	礎石	19世紀
A	I22	SS12	礎石	19世紀
A	I23	SS13	礎石	19世紀
A	I22	SS14	不明	不明
A	J22・23	SS15	礎石か	不明
A	I22・23	SS16	根石か	不明
A	I22	SS17	礎石か	不明
A	I22	SS18	礎石か	不明
A	I23・J23	SS19	構造物の基礎か	近代以降
A	L22	SS20	構造物の基礎か	近代以降
A	J3	SS21	礎石	不明
A	I23	SS22	礎石か	不明
A	L22・23	SS23	構造物の基礎か	近代以降
A	欠番	SS24	—	—
A	I23・J23	SS25	建物基礎か	19世紀
A	I23	SS26	礎石か	不明
A	K23	SS27	礎石か	不明
A	J23	SS28	根石か	不明
A	I21・22・J21～24・K24	SS29	建物基礎か	近世
A	J23・24	SS30	建物基礎か	19世紀
A	I24	SS31	建物基礎か	19世紀
A	K21・22	SS32	構造物の基礎か	不明
A	I23	SS33	礎石か	近世
A	I23	SS34	礎石か	近世
A	K23	SS35	礎石	近世
A	欠番	SS36	—	—
A	J22	SS37	集石	不明
A	欠番	SS38	—	—
A	J22	SS39	根石か	不明
A	J22	SS40	集石	不明
A	K22	SS41	集石	不明
A	I23	SS42	建物基礎か	近世

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
A	J22	S543	集石	不明
A	K21・22	S544	礎石か	不明
A	K21	S545	礎石	不明
A	K22	S546	礎石	不明
A	K22	S547	礎石	不明
A	K21	S548	集石	不明
A	K21	S549	礎石か	不明
A	K21	S550	構造物の基礎か	近代
A	L22	S551	礎石	不明
A	L22・23	S552	礎石	不明
A	欠番	SD1	—	—
A	L21・M21	SD2	竹樋	近代
A	M21・22	SD3	木樋	近代
B	欠番	SK1	—	—
B	I21・J21	SK2	不整形	19世紀前半
B	I21・J21	SK3	不整形	17～18世紀
B	I21・J21	SK4	方形か	18世紀後半
B	欠番	SK5	—	—
B	欠番	SK6	—	—
B	J20・K20	SK7	不整形	不明
B	I20	SK8	円形	不明
B	I20	SK9	円形	不明
B	I20・J20	SK10	楕円形	不明
B	J20	SK11	円形か	不明
B	K20	SK12	不整形	不明
B	J19・20	SK13	方形か	不明
B	J19	SK14	不整形	不明
B	J19・20	SK15	不整形	19世紀前半
B	欠番	SK16	—	—
B	I20・21	SK17	不整形	近世
B	J20・K20	SK18	円形	近世
B	J20	SK19	円形か	近世
B	J18	SK20	円形か	近世
B	J20	SK21	楕円形	近世
B	J20	SK22	円形	不明
B	J17・18・19・ K19・20	SS1	石列	近代
B	I17・18	SS2	石列	近代
B	J20	SS3	石列	近代
B	J18・19	SS4	石列	近代
B	J19	SS5	集石	不明
B	J19	SS6	礎石	近代
B	J19	SS7	礎石か	近代
B	I20・J20・K20	SD1	建物基礎か	近代
B	I20・J20・K20	SD2	木樋	近代
B	J18	SD3	木樋	近世
B	J18	SD4	木樋	近代
C	N17	SK1	円形か	不明
C	N18	SK2	楕円形	不明
C	N17	SK3	円形	不明
C	N16・17	SK4	不整形	18世紀末～19世紀
C	N18	SK5	楕円形	不明
C	N18	SK6	楕円形	不明
C	N18	SK7	楕円形	不明
C	N18	SK8	円形	不明
C	N17・18	SK9	不整形	不明
C	N17	SK10	円形	不明
C	N17	SK11	楕円形か	不明
C	N17	SK12	円形か	不明
C	O18	SK13	楕円形か	不明
C	N18	SK14	不整形	不明
C	欠番	SK15	—	—
C	M12	SK16	円形か	近代

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
C	M12	SK17	不整形	近代
C	N16	SK18	方形	18世紀前半
C	M13	SK19	不整形	幕末～明治
C	M14・15・ N14・15	SK20	不整形	近代
C	N14・15	SK21	不整形	18世紀後半
C	M15・16	SK22	円形	18世紀後半
C	N15	SK23	不整形	17世紀後半～ 18世紀前半
C	M15・16	SK24	円形	不明
C	M14・N14	SK25	楕円形	近世
C	M15	SK26	楕円形か	近世
C	M15	SK27	円形	18世紀
C	M14・N14	SK28	楕円形	近世
C	M14	SK29	不整形	18世紀第3四半 期～19世紀初 頭
C	M13・14	SK30	円形か	19世紀中葉
C	M13	SK31	円形か	19世紀中葉
C	M13	SK32	楕円形か	18世紀
C	M12・13	SK33	方形か	18世紀中葉
C	M14	SK34	楕円形	近世
C	M13	SK35	楕円形	18世紀後半～ 19世紀初頭
C	M13	SK36	円形か	19世紀初頭
C	M14	SK37	楕円形	18世紀
C	M14	SK38	楕円形か	18世紀後半
C	M13	SK39	楕円形	18世紀～19世紀
C	M13・14	SK40	不整形	近世
C	欠番	SK41	—	—
C	M14	SK42	不整形	18世紀中葉～後 葉
C	M14	SK43	円形か	18世紀
C	M13	SK44	円形	18世紀
C	M13	SK45	不整形	近世
C	M12	SK46	不整形	近世
C	M13	SK47	不整形	18世紀
C	M13	SK48	円形	18世紀
C	M13	SK49	楕円形	不明
C	M13	SK50	不整形	不明
C	M14	SK51	円形か	不明
C	M14	SK52	円形か	近世
C	欠番	SE1	—	—
C	M15	SE2	円形	18世紀中葉
C	M14	SE3	円形	近代
C	N15	SX1	円形	近代
C	M16	SX2	不整形	近代
C	欠番	SX3	—	—
C	M14・N14	SX4	長方形	18世紀後半
C	M13	SS1	礎石	近代
C	M13	SS2	礎石	近代
C	L13・M13	SS3	礎石	近代
C	M13・14	SS4	礎石	近代
C	M12	SS5	礎石	近代
C	M15・N15	SS6	建造物の基礎	不明
C	M15・16・ N15・16	SS7	構造物の基礎か	不明
C	M13	SS8	礎石か	不明
C	M13	SS9	礎石	近代
C	M12～14	SS10	石列	近代
C	M13	SS11	集石	近世

調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
C	N17	SS12	構造物の基礎か	近代
C	欠番	SD1	—	—
C	M14・15・N14	SD2	木樋	19世紀前葉
C	N15	SD3	竹樋	18世紀中葉
C	M13	SD4	溝	近世
C	M13・14	SD5	溝	近世
D	K13	SK1	円形	近世
D	H13	SK2	円形か	不明
D	H13・I13	SK3	不整形	18世紀末～19世紀初頭
D	J13・K13	SK4	不整形	18世紀後葉
D	H13	SK5	楕円形か	18世紀後葉
D	I13・14	SK6	楕円形	幕末～明治
D	J13	SK7	不整形	不明
D	欠番	SK8	—	—
D	I14	SK9	方形か	18世紀後葉
D	J14	SK10	方形	近世
D	I13	SK11	楕円形	18世紀末
D	I13・J13	SK12	方形か	19世紀前葉
D	I13・14	SK13	不整形	幕末～明治
D	I14	SK14	不整形	不明
D	I13・14・J13 ～15	SS1	石列	近代
D	K13	SS2	礎石	近代
D	J13	SD1	溝	不明
D	J13	SD2	溝	18世紀
相生	L4	SK1	方形	近代～現代
相生	L6	SK2	方形	不明
相生	K5	SK3	不整形	19世紀中葉
相生	K4	SK4	方形か	19世紀中葉
相生	K4	SK5	方形か	19世紀中葉
相生	K2・3・L2・3	SK6	方形か	19世紀中葉
相生	K2・K3	SK7	方形か	19世紀中葉
相生	L3	SK8	不整形	近世
相生	K1・2	SK9	円形	19世紀前葉
相生	K3・L3	SK10	方形か	18世紀末～19世紀初頭
相生	K4・5・L4・5	SK11	方形か	18世紀末～19世紀初頭
相生	K3・4・L3・4	SK12	方形か	18世紀末～19世紀初頭
相生	K1	SK13	不整形	近世
相生	K5・L5	SK14	楕円形	18世紀末～19世紀初頭
相生	L5	SK15	円形	幕末～明治
相生	K5・6	SK16	不整形	19世紀中葉
相生	K6	SK17	円形か	18世紀末～19世紀初頭
相生	K6	SK18	円形か	近世
相生	K6・L6	SK19	円形	18世紀末
相生	L6	SK20	楕円形	18世紀
相生	L5	SK21	円形か	近世
相生	L5	SK22	円形	不明
相生	L6	SK23	円形	近世
相生	K3	SK24	楕円形	不明
相生	L5・6	SK25	方形か	近世
相生	L5	SK26	楕円形か	近世
相生	L6	SK27	円形か	18世紀末
相生	L5	SK28	円形か	19世紀
相生	K6・L6	SK29	楕円形	18世紀末
相生	欠番	SK1	—	—
相生	K3	SK2	不整形	不明
相生	欠番	SK3	—	—

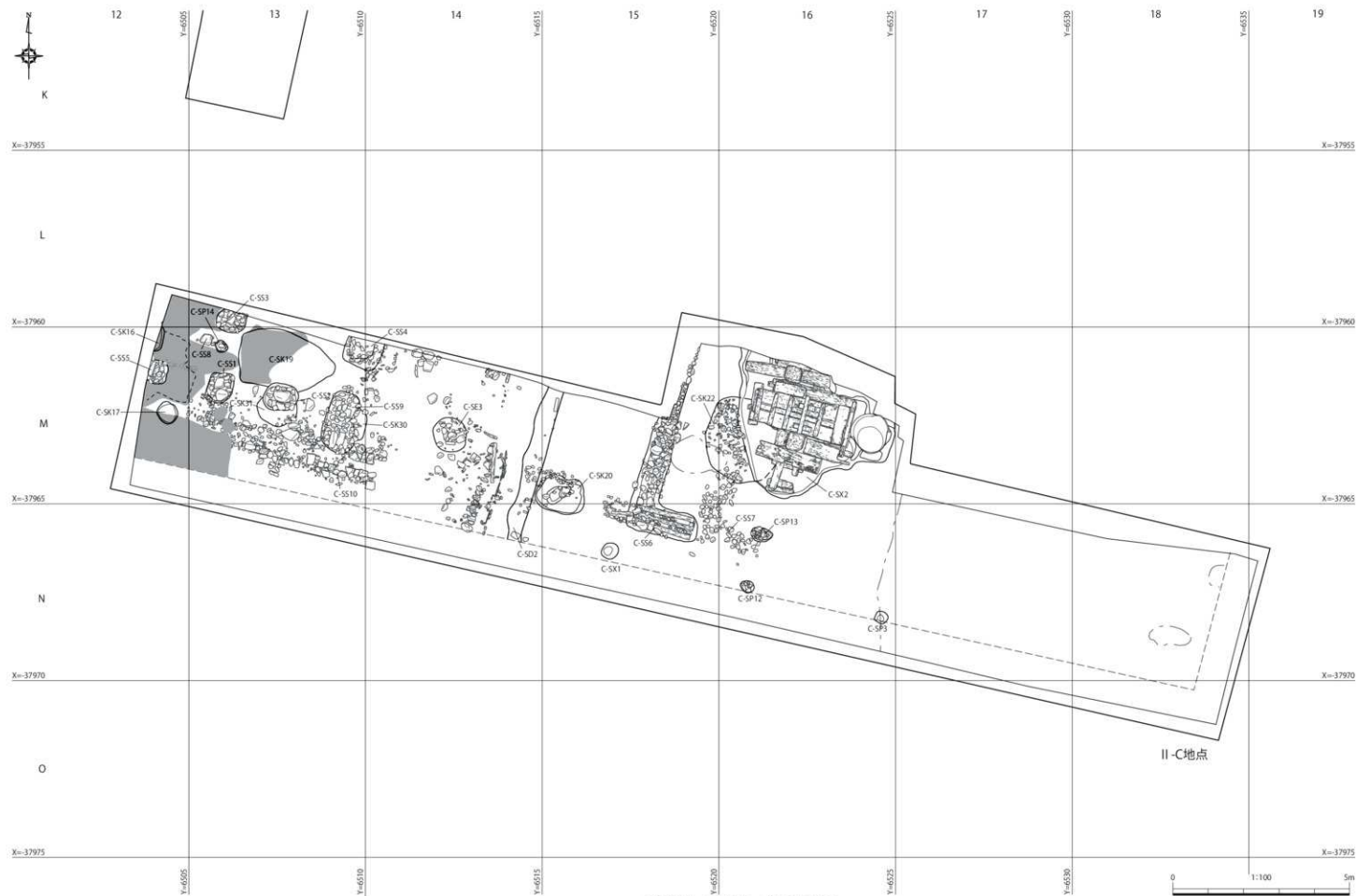
調査区	グリッド	遺構名	形態	時期
相生	L2	SK4	不整形	不明
相生	L5	SK5	楕円形か	18世紀
相生	K3・L3	SE1	円形	18世紀
相生	K3	P1	遺物集積地	近代
相生	K6・L5・6	SS1	建物基礎	近代
相生	K6	SS2	礎石	近代
相生	K6	SS3	礎石	近代
相生	L6	SS4	礎石	近代
相生	K6	SS5	礎石	近代
相生	L5	SS6	礎石	近代
相生	K5・L5	SS7	石列	近代
相生	K4	SS8	礎石	近代
相生	K1・2・L1・2	SS9	建物の基礎	近代
相生	K1・2	SS10	石列	近代
相生	L4	SS11	礎石	近代
相生	L5	SS12	礎石	近代
相生	L5	SS13	礎石	近代
相生	K4	SS14	礎石	近代
相生	K4	SS15	礎石	近代
相生	L2	SS16	礎石	近代
相生	L3	SS17	礎石	近代
相生	K3	SS18	礎石	近代
相生	L5	SS19	礎石	近世
相生	L6	SS20	礎石	近世
相生	L6	SS21	構造物の基礎か	近代
相生	L6	SS22	礎石	近代
相生	K6	SS23	建物の基礎	近世
相生	K6	SS24	礎石	近世
相生	K4	SS25	礎石	近世
相生	K2	SS26	礎石	近世
相生	K6	SS27	円形か	近世
相生	L5・L6	SD1	竹樋	幕末～明治
相生	K6・L6	SD2	竹樋	18世紀末～19世紀初頭
相生	K6・L6	SD3	竹樋	18世紀
相生	K6・L6	SD4	溝	18世紀
相生	K4・L4・5	NR1	自然流路	城下町形成以前



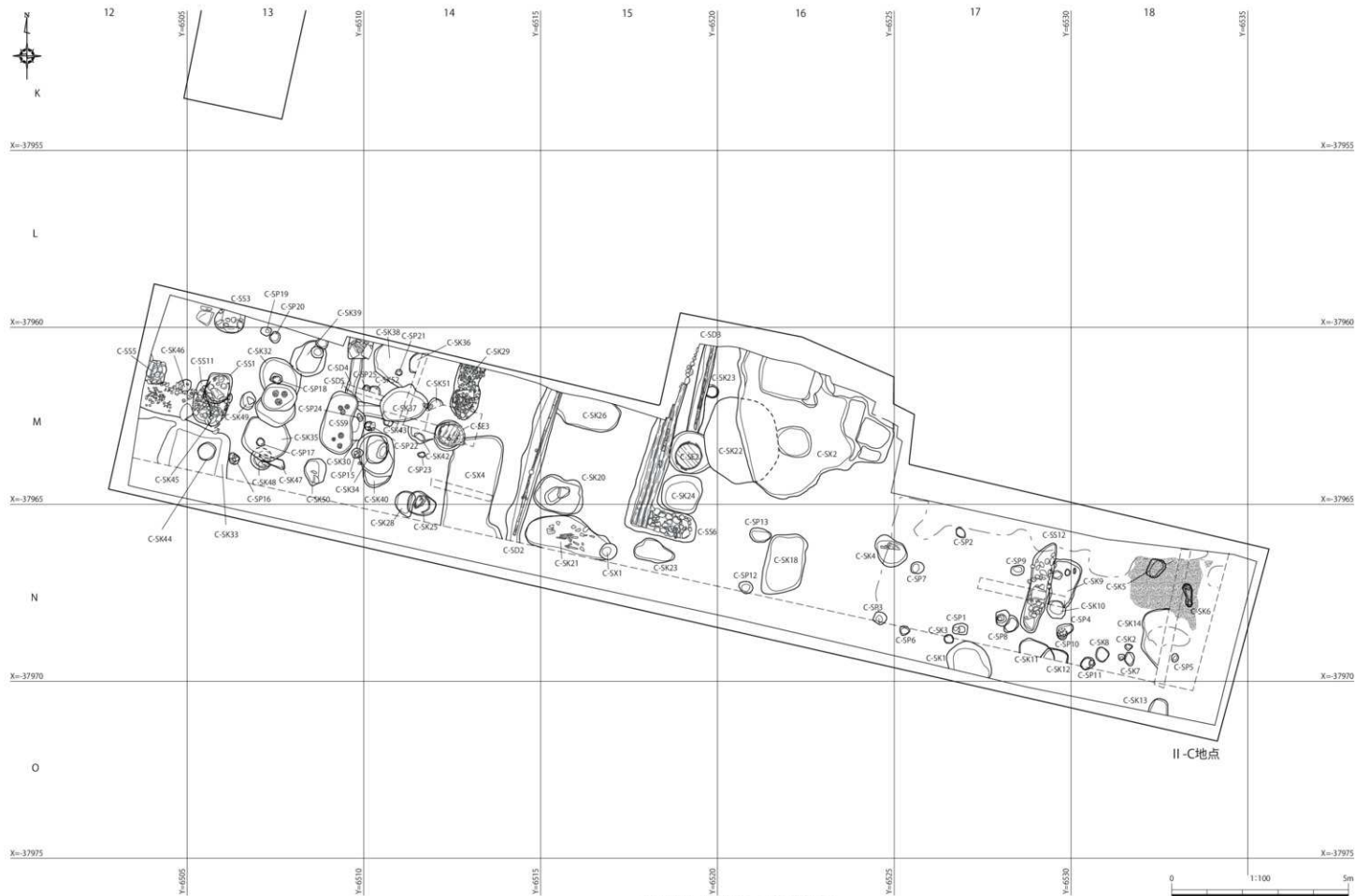
第113图 II-A·B地点 全体图(上层)



第114图 II-A·B地点 全体图(下層)



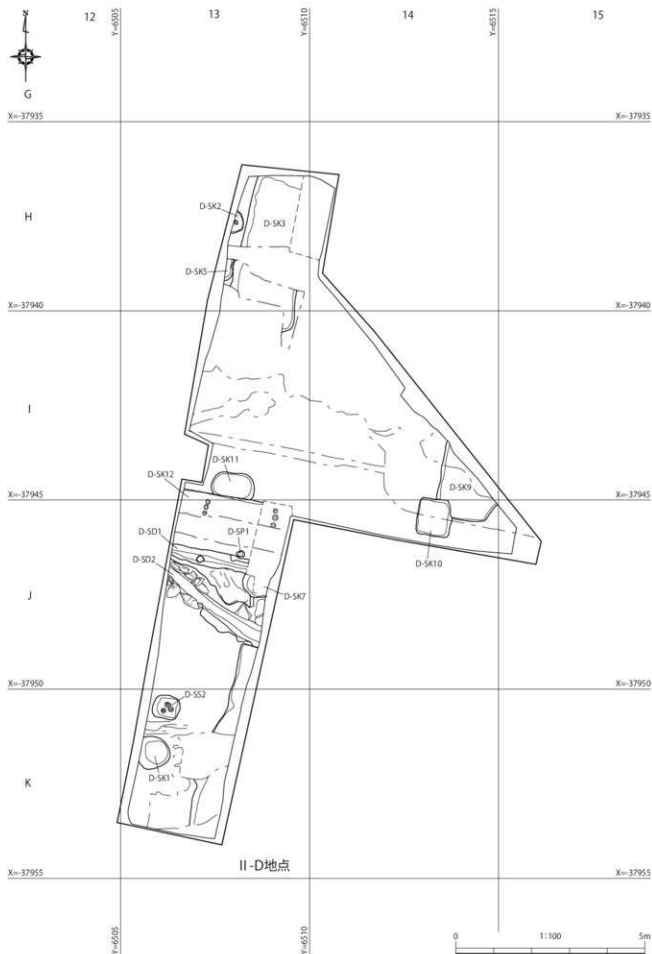
第115图 II-C地点 全体图(上层)



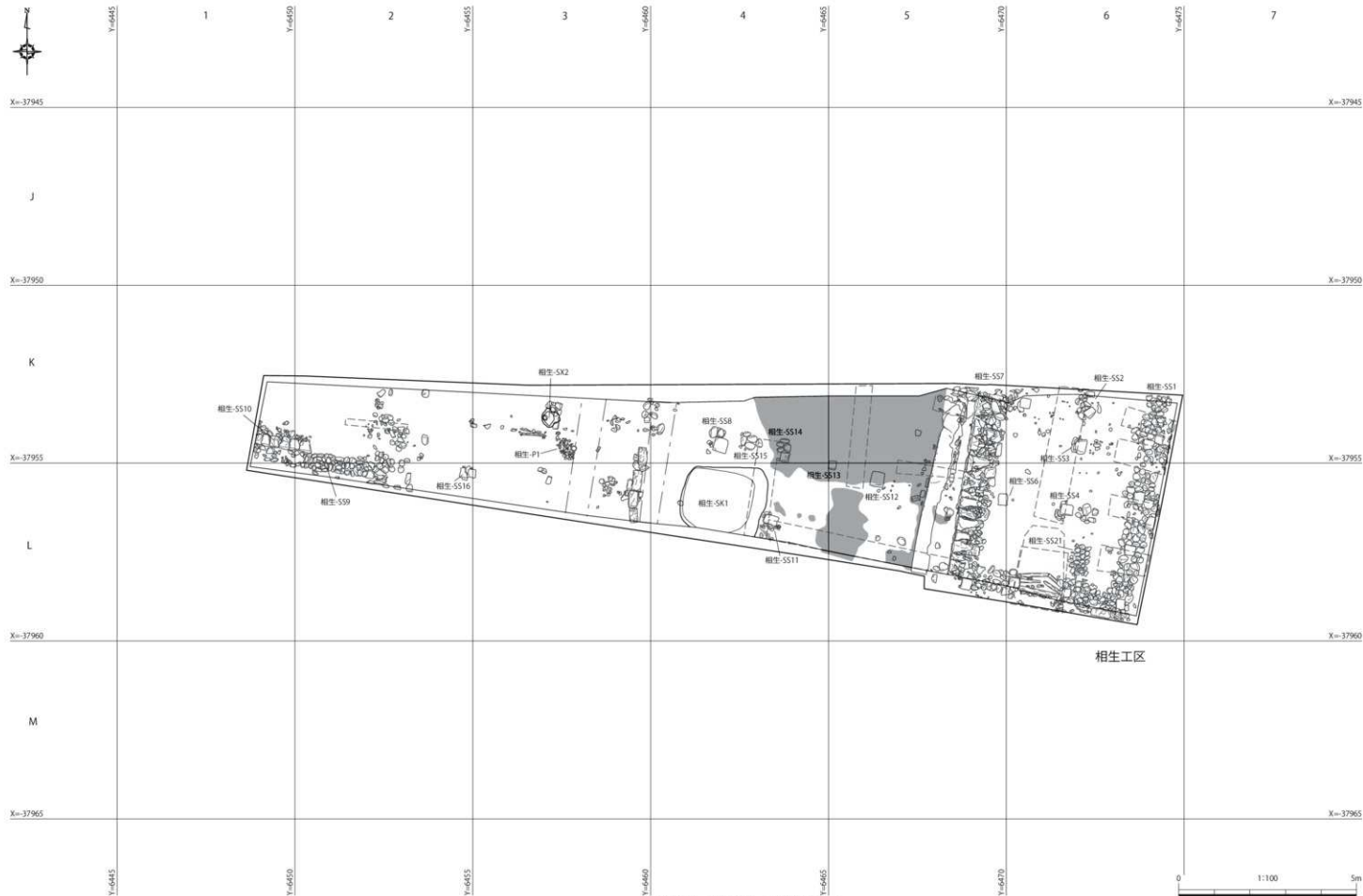
第116图 II-C地点 全体图(下層)



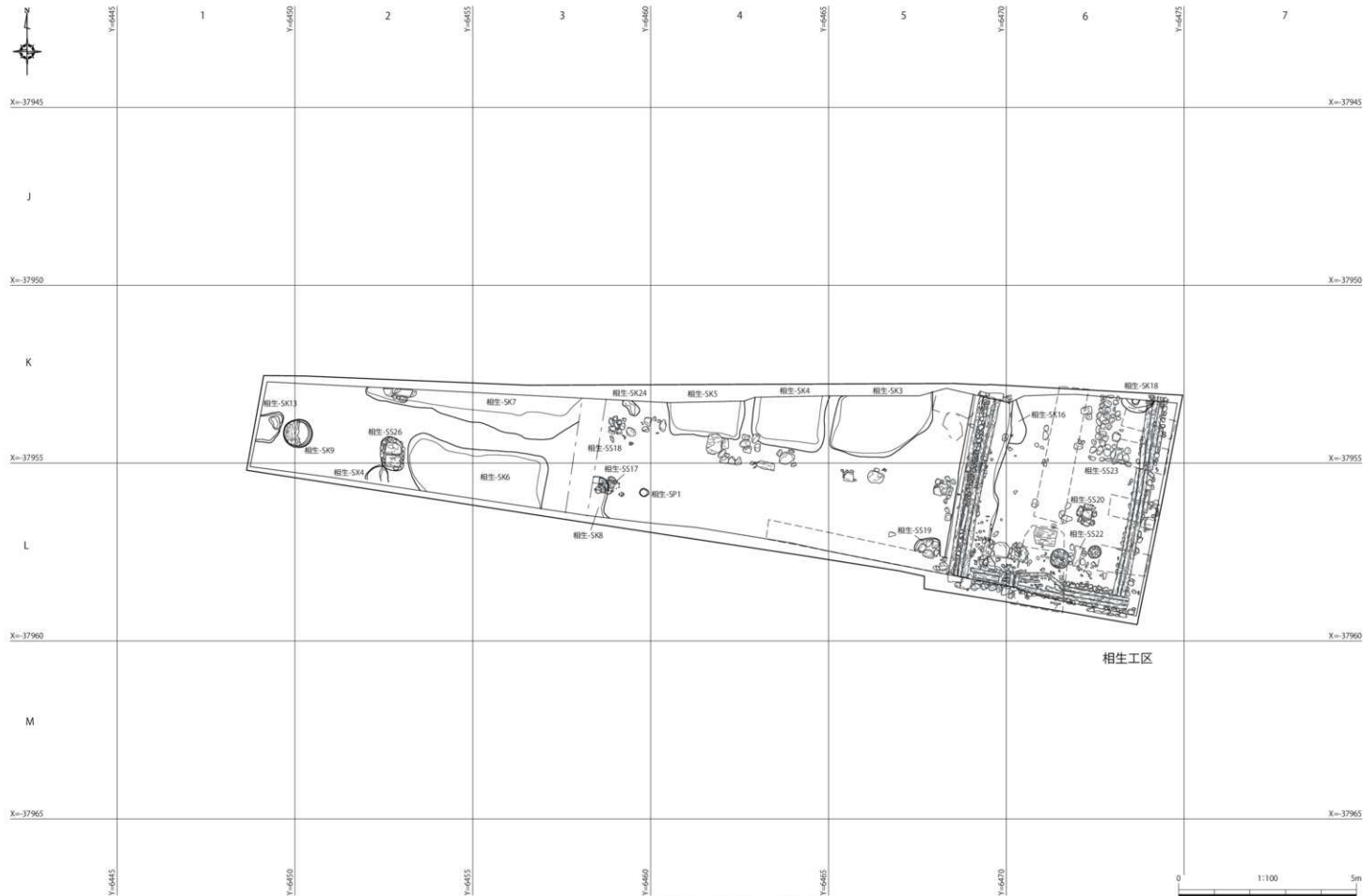
第117图 II-D地点 全体图(上层)



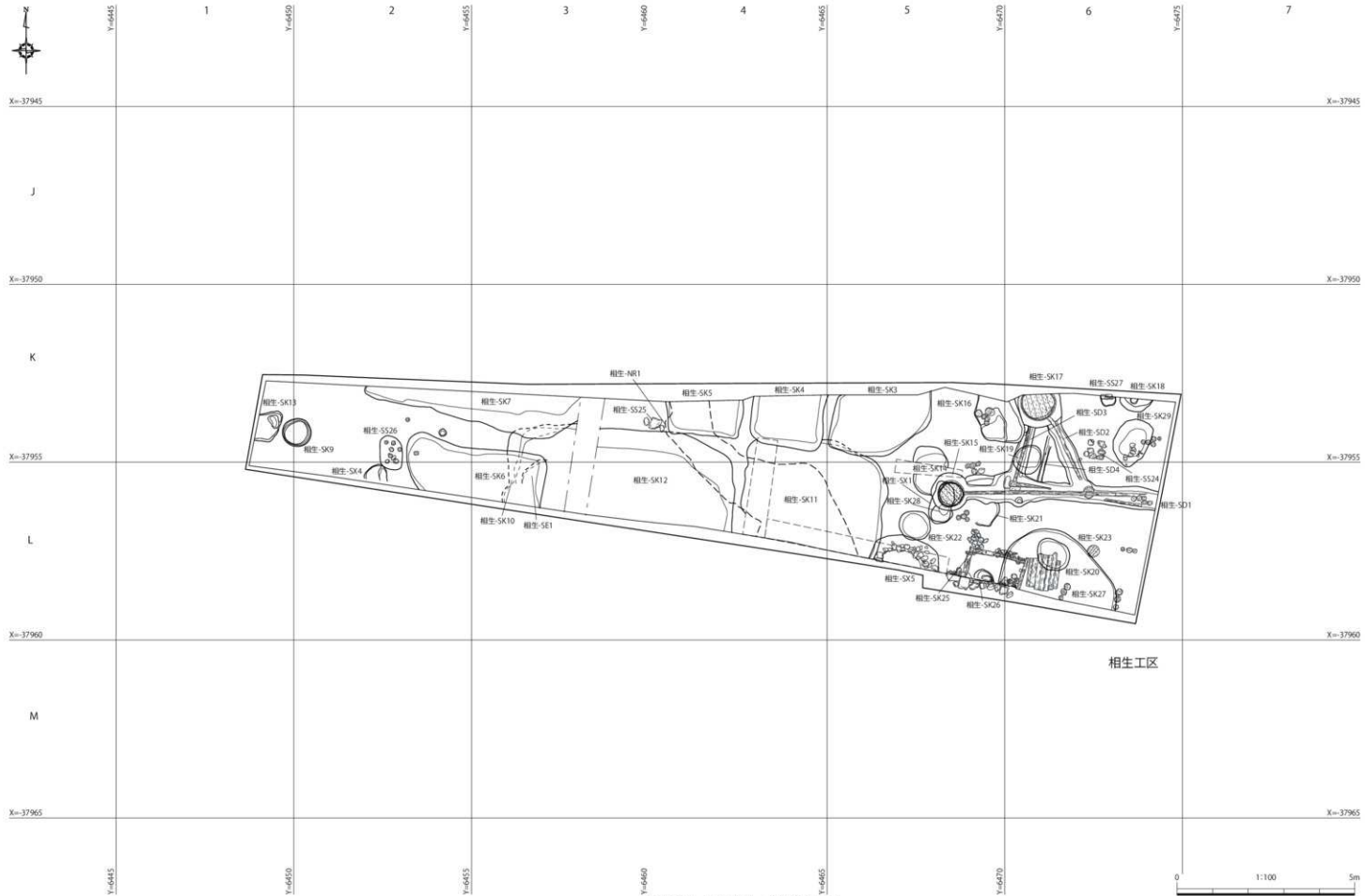
第118図 II-D地点 全体図(下層)



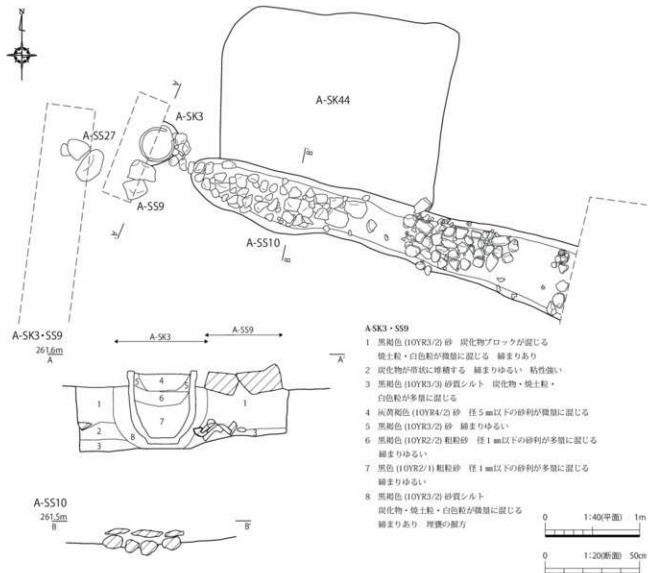
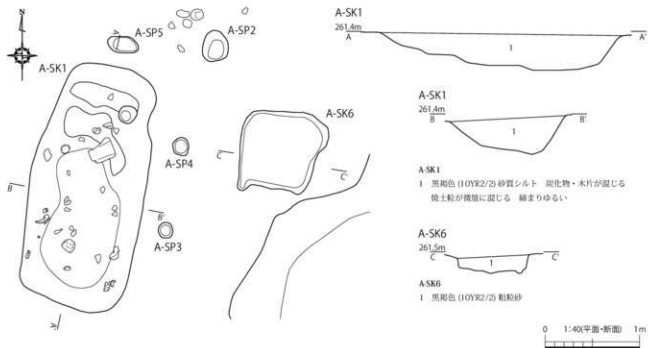
第119图 相生工区 全体图(上層)



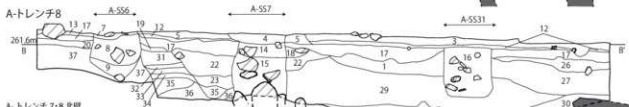
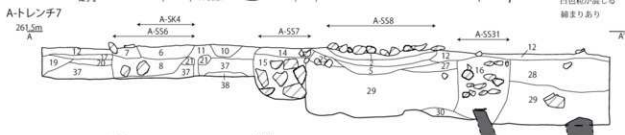
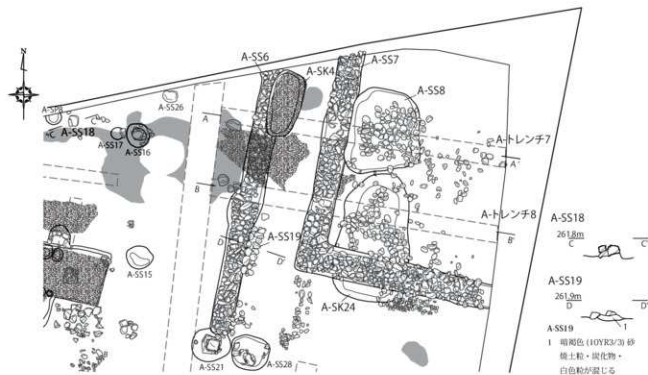
第120图 相生工区 全体图(中層)



第121图 相生工区 全体图(下層)



第122図 A地点 (1)



A-トレンチ7-8北壁

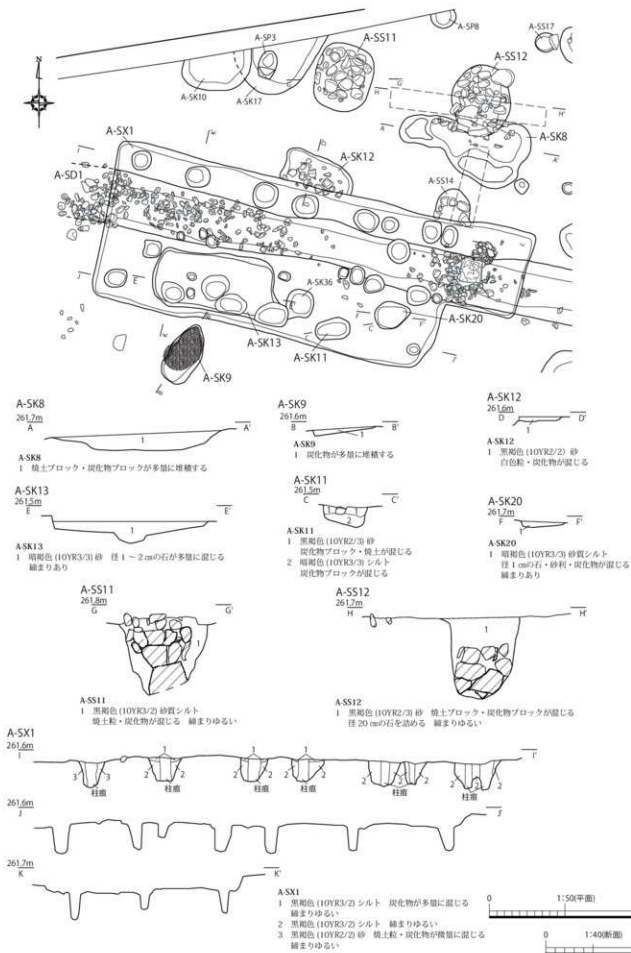
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる
径 10 ~ 15 cmの石を散べる 固く締まる S58 覆土
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる
締まりあり S58 覆土
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が多量に混じる
径 4 ~ 5 cmの石を散べる 締まりあり S57 覆土 上層
- 5 焼土層 概炭焼土層か
- 6 近い黄褐色 (10YR6/4) 細砂土 炭化物・灰が多量に混じる SK4 覆土
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が多量に混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
径 10 ~ 20 cmの石を散べる コンクリート片が混じる 締まりあり S56 覆土
- 8 黒褐色 (10YR2/2) 砂 コンクリート片が混じる 焼土粒・炭化物が微量に混じる
径 10 cmの石を散べる S56 覆土
- 9 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる
締まりゆるい S56 覆土
- 10 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒が多量に混じる 炭化物・石灰が混じる 締まりあり
- 11 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径 1 cmの炭化物ブロック・焼土粒が混じる 締まりあり
- 12 近い黄褐色 (10YR4/2) 砂 焼土粒・炭化物・石灰が混じる 締まりあり
- 13 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物が混じる
- 14 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が混じる 径 4 ~ 5 cmの石を散べる
締まりあり S57 覆土
- 15 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる
径 10 ~ 15 cmの石を散める S57 覆土
- 16 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 10 cmの石を散める 焼土粒・炭化物が混じる S531 覆土
- 17 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒が微量に混じる 固く締まる
- 18 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 固く締まる
- 19 暗褐色 (10YR3/4) 砂 径 5 cmの石 焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり

- 20 暗褐色 (10YR3/4) 砂 焼土粒・炭化物 径 1 cmの石が混じる 締まりあり
- 21 暗褐色 (10YR3/4) 細砂土 焼土粒・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 22 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 焼土粒・炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- 23 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が多量に混じる 締まりゆるい
- 24 黒褐色 (10YR3/3) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 25 黒褐色 (10YR3/2) シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 26 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 焼土粒が多量に混じる 締まりあり
- 27 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物ブロックが微量に混じる 締まりゆるい
- 28 暗褐色 (10YR3/3) 砂 焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- 29 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
- 30 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる
締まりゆるい 粘性強い
- 31 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物ブロックが多量に混じる
焼土粒・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 32 炭化物が明灰に堆積する
- 33 暗褐色 (10YR3/4) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 34 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 35 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 36 褐色 (10YR4/1) シルトに黒色 (10YR1.7/1) シルトブロックが混じる
砂利が微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
- 37 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 径 3 cmの炭化物ブロック
焼土粒・白色粒が多量に混じる 締まりあり
- 38 暗褐色 (10YR3/3) シルト 締まりあり

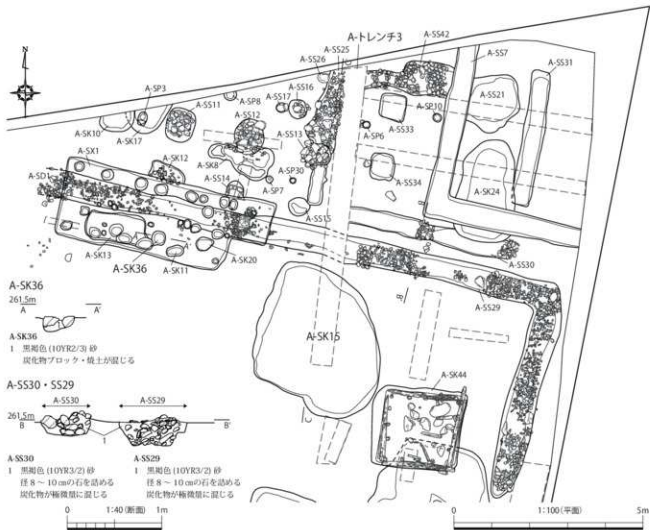
0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

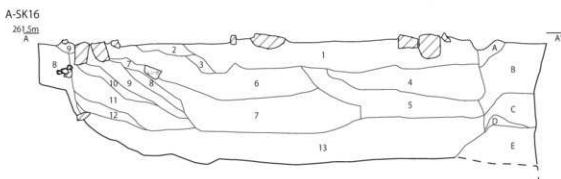
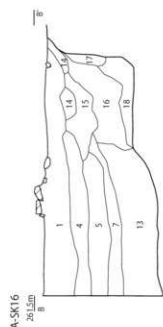
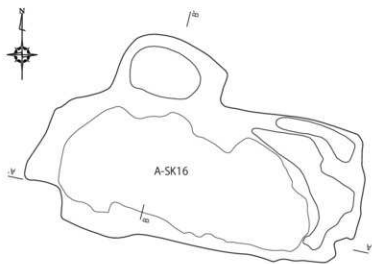
第123図 A地点 (2)



第124図 A地点(3)

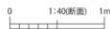


第125図 A地点 (4)

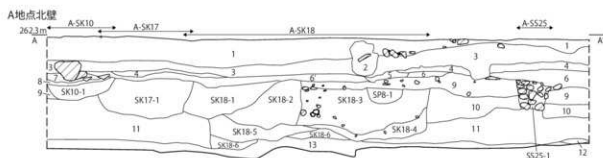
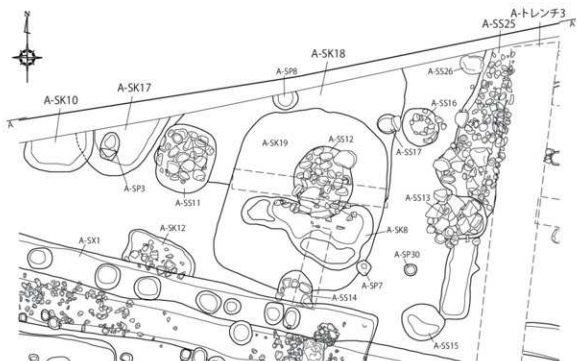


SK16

- 1 暗褐色 (7.5YR3/4) 砂 径1～2cmの炭化物ブロック・径2cmの焼土ブロックが多量に散じる 締まりゆるい
- 2 1層に黒褐色 (10YR3/2) シルトブロックが周に散じる 締まりゆるい
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂 径1cmの炭化物ブロック 径2～3cmの焼土ブロックが多量に散じる 締まりゆるい
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトブロック (径3～5cm) が周に散じる
径2cmの炭化物ブロック 径1～3cmの焼土ブロックが多量に散じる 締まりゆるい
- 5 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径1～2cmの炭化物ブロック・径1～2cmの焼土ブロックが多量に散じる 締まりゆるい
- 6 暗褐色 (7.5YR3/4) 砂 径1cmの炭化物ブロック・焼土ブロックが多量に散じる 締まりゆるい
- 7 黒褐色 (10YR2/3) 粗粒砂 径1cmの炭化物ブロック・径2cmの焼土ブロックが多量に散じる 締まりゆるい
- 8 暗褐色 (10YR3/4) 砂 焼土粒・炭化物が多量に散じる 締まりゆるい
- 9 黒褐色 (10YR2/2) 細粒砂 焼土粒・炭化物が多量に散じる 締まりゆるい
- 10 暗褐色 (7.5YR3/3) 細粒砂 焼土粒・炭化物が多量に散じる 締まりゆるい
- 11 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂 焼土粒・炭化物が多量に散じる 締まりゆるい
- 12 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂 焼土粒・炭化物が多量に散じる 締まりゆるい
- 13 黒褐色 (10YR3/2) 粗粒砂 径2cmの炭化物ブロック・径2cmの焼土ブロックが多量に散じる 締まりゆるい
- 14 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒・炭化物が極微量に散じる 締まりゆるい
- 15 黒色 (10YR2/1) 砂 レンガ片が多量に散じる
- 16 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物が極微量に散じる 締まりゆるい
- 17 黒色 (5Y2/1) シルト 炭化物が極微量に散じる 締まりゆるい
- 18 灰層 径1cmの炭化材片が埋積する
- A 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・砂利が微量に散じる 締まりあり
- B 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・砂利が極微量に散じる 泥岩粒が微量に散じる 締まりあり
- C 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・砂利が極微量に散じる 泥岩粒が微量に散じる 締まりゆるい 粘性強い
- D 黄灰色 (2.5Y4/1) 粗粒砂 泥岩粒が微量に散じる
- E 黒色 (2.5Y2/1) シルト 泥岩粒が微量に散じる 締まりゆるい 粘性強い



第126図 A地点 (5)



A地点北壁

- 1 表土
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂 締まりゆるい
- 3 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土ブロック・炭化物・径1cmの石・コンクリート片が混じる 締まりあり 近・現代の造成土
- 4 径1cmの石・コンクリート片が埋積する
- 5 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる
- 6 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- 7 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土ブロック・炭化物が多量に混じる
- 8 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 瓦片が埋積する
- 9 黒褐色(10YR3/3)砂質シルト 炭化物が微量に混じる 泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 10 黒褐色(10YR3/2)シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 締まりあり
- 11 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 12 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 13 オリーブ黒色(5Y3/1)シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい

A-SP8

- SP8-1 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい

A-SK10

- SK10-1 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる

A-SK17

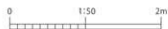
- SK17-1 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる

A-SK18

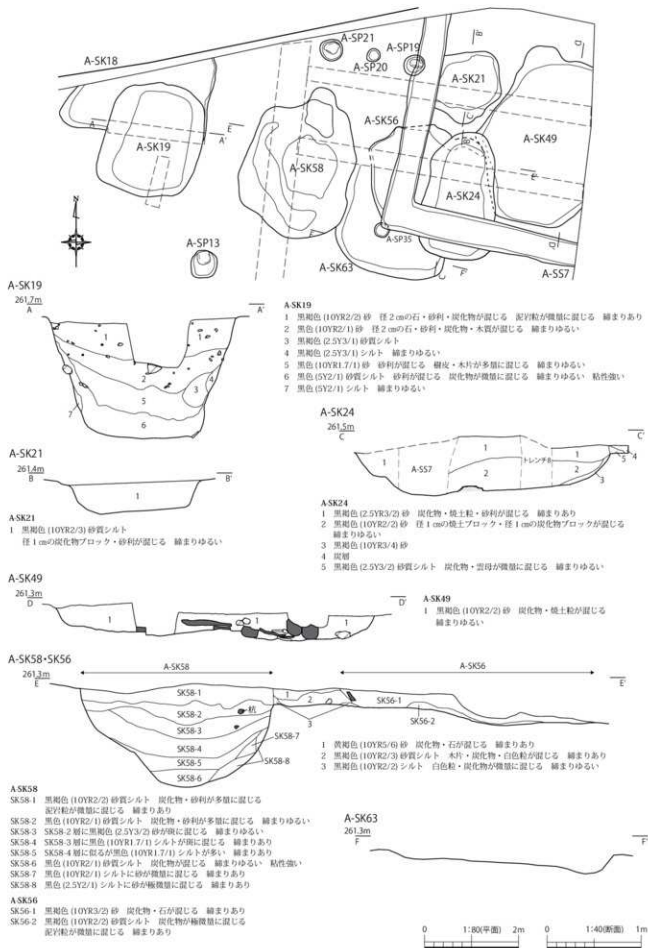
- SK18-1 黒褐色(10YR3/1)砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる
- SK18-2 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる
- SK18-3 暗褐色(10YR3/4)砂質シルト 径10cmの石が混じる 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる
- SK18-4 黒褐色(10YR 3/1)砂質シルトに暗褐色(10YR3/4)砂質シルトが混じる 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- SK18-5 黒色(10YR2/1)砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)砂質シルトが混じる 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- SK18-6 黒色(10YR2/1)砂質シルト 炭化物・泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい

A-SS25

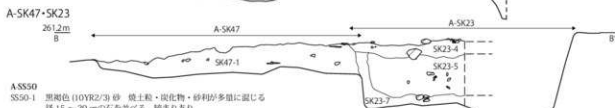
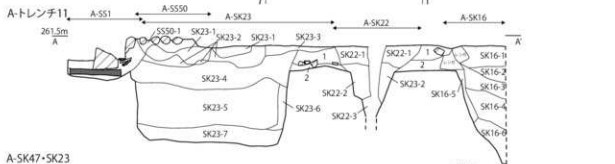
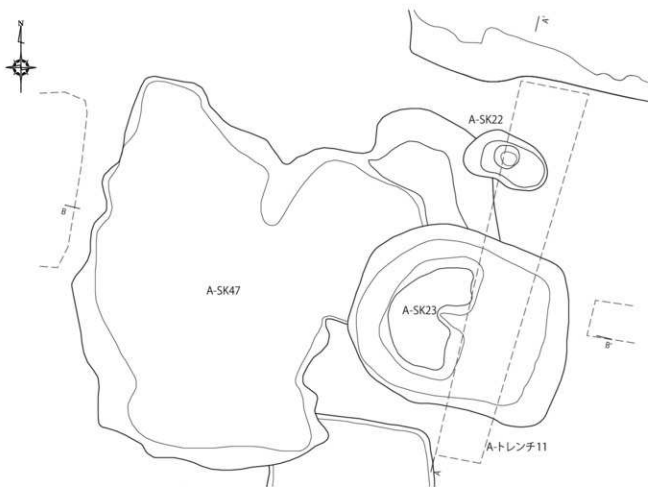
- SS25-1 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒が極微量に混じる 径7~10cmの石を混める 締まりあり



第127図 A地点(6)



第128図 A地点(7)



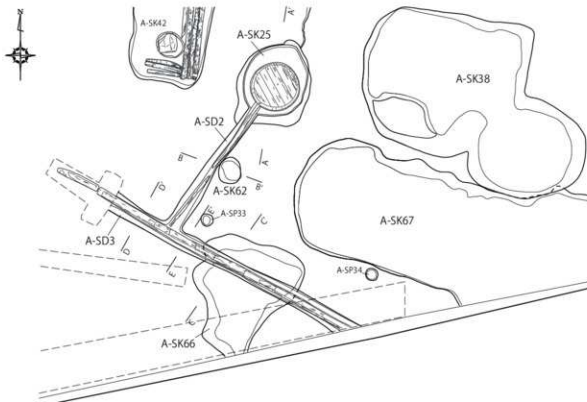
- A550**
SS50-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物・砂利が多量に混じる
径15～20 cmの石を並べる 締まりあり
- A-SK23**
SK23-1 黒色 (10YR2/1)シルト 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
SK23-2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 締まりあり
SK23-3 黒色 (10YR2/1)シルトに黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる
炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
SK23-4 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる
炭分の集積が見られる 締まりゆるい
SK23-5 黒色 (10YR2/1) 砂 多量の木片が混じる 締まりゆるい
SK23-6 褐色 (10YR4/1) 粘土 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
SK23-7 黒色 (5Y2/1)シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
- A-SK22**
SK22-1 黒色 (10YR2/1)シルト 砂利が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
SK22-2 褐色 (10YR5/1)シルトに黄褐色 (10YR5/6)シルトが
混に混じる 炭化物が極微量に混じる
締まりゆるい 粘性強い
- A-SK47**
SK22-3 空洞 内部に水が溜まる 掘抜き井戸か
SK47-1 黒色 (10YR2/1) 砂 径5cmの石・木片が多量に混じる 締まりゆるい

- A-SK16**
SK16-1 暗褐色 (7.5YR3/4) 砂 径1～2cmの炭化物ブロック・
径2cmの焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
SK16-2 暗褐色 (10YR3/4) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトブロックが
混に混じる 径2cmの炭化物ブロック
SK16-3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径1～2cmの炭化物ブロック・
径1～3cmの焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
SK16-4 黒褐色 (10YR2/3) 粗粒砂 径1cmの炭化物ブロック・
径2cmの焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい
SK16-5 黒褐色 (2.5Y2/1)シルト 締まりゆるい
SK16-6 黒褐色 (10YR3/2) 粗粒砂 径2cmの炭化物ブロック・
径2cmの焼土ブロックが多量に混じる 締まりゆるい

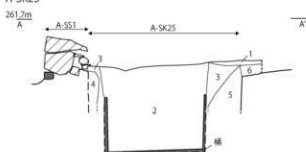
- A-トレンチ 11**
1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・焼土粒が 多量に混じる
径3～9cmの石を溜める 締まりあり
2 黒褐色 (2.5Y3/2)シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
3 黒色 (7.5Y2/1)シルト 締まりあり 粘性強い



第129図 A地点 (8)



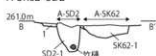
A-SK25



A-SK25

- 1 黒褐色(10YR2/2) 砂 砂利が多量に混じる
- 2 黒褐色(10YR3/3) 砂 径10cmの卵石が多量に堆積する
- 3 オリーブ黒色(10YR2/2) 砂質シルト 締まりゆるい
- 4 オリーブ黒色(5Y3/1) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 5 オリーブ黒色(5Y3/1) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 6 黒褐色(10YR2/2) 砂 炭化物・砂利が多量に混じる

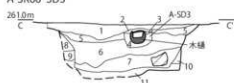
A-SK62・SD2



A-SK62・SD2

- SK62-1 黒褐色(10YR3/2)シルト 砂・石・炭化物が混じる 締まりあり
 SD2-1 灰色(5Y4/1)砂質シルト 炭化物・雲母が極微量に混じる 締まりゆるい
 1 オリーブ黒色(5Y3/1)シルト 雲母が極微量に混じる 炭粒が微量に混じる 締まりあり

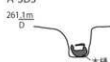
A-SK66・SD3



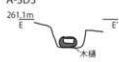
A-SK66・SD3

- 1 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 砂 砂利・炭化物が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色(10YR2/2) 砂に黒色(2.5Y2/1)シルトが混じる SD3 覆土
- 3 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 凝結砂 SD3 覆土
- 4 黒色(5Y2/1) 砂質シルト 雲母・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい SD4 覆土
- 5 暗褐色(10YR3/3) 砂 砂利・炭化物・白色粘が微量に混じる 締まりあり
- 6 黒褐色(2.5Y3/2) 砂 砂利・炭化物が混じる 締まりあり
- 7 黒褐色(2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粘が混じる 締まりあり
- 8 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 炭化物・白色粘が極微量に混じる 締まりあり
- 9 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 砂利が多量に混じる 締まりあり
- 10 オリーブ黒色(5Y2/2)シルト 白色粘が微量に混じる 締まりあり
- 11 黒色(7.5Y2/1)シルト

A-SD3



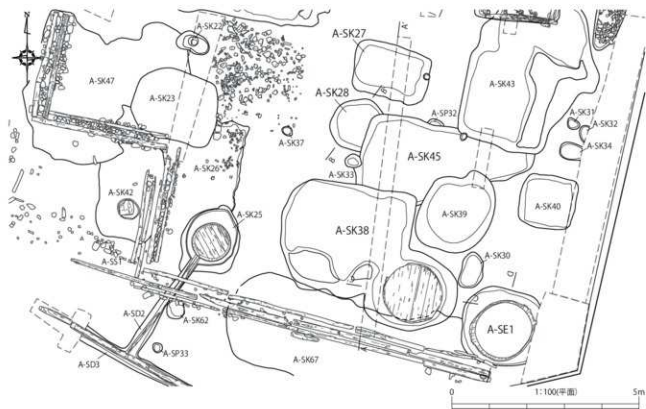
A-SD3



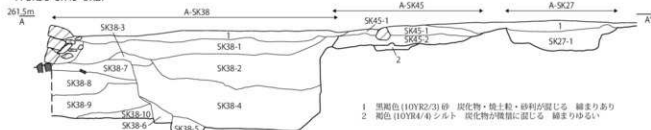
0 1:80(平面) 2m

0 1:40(平面) 1m

第130図 A地点(9)



A-SK38-SK45-SK27



- 1 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 締まりあり
- 2 褐色(10YR4/4)シルト 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい

A-SK38

- SK38-1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりあり
 SK38-2 黒色(10YR2/1)砂 木の皮・炭化した種子が多量に埋蔵する 締まりゆるい
 SK38-3 黒褐色(10YR3/1)砂 炭化物が極微量に混じる 締まりあり
 SK38-4 黒褐色(10YR3/1)砂 炭化した種子が多量に埋蔵する 瓦片が混じる 締まりゆるい
 SK38-5 オリーブ黒色(5Y3/1)砂質シルト 砂利が混じる 締まりゆるい 粘性強い
 SK38-6 黒色(5Y2/1)シルト 締まりあり 粘性強い
 SK38-7 黒褐色(10YR2/2)砂 木片が混じる 締まりゆるい
 SK38-8 黒褐色(10YR2/2)砂 多量の木片・樹皮が埋蔵する 締まりゆるい
 SK38-9 黒褐色(10YR3/1)シルト 砂が混じる 締まりゆるい 粘性強い
 SK38-10 黒色(10YR1/1)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり

A-SK27

- SK27-1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 締まりゆるい

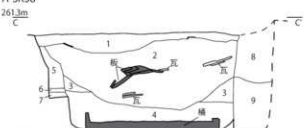
A-SK45

- SK45-1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 締まりゆるい
 SK45-2 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 締まりゆるい

A-SK28

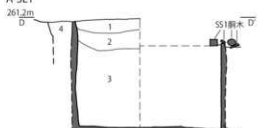
- SK28-1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい

A-SK38



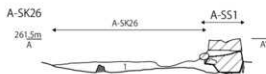
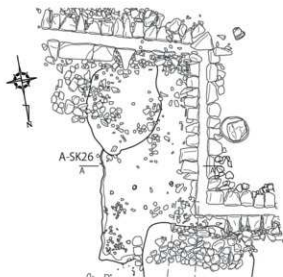
- A-SK38
 1 黒褐色(10YR2/2)砂 砂利・炭化物・木片が多量に混じる 締まりあり
 2 黒色(10YR1/1)細粒砂 細板片・径10cmの石・割石が混じる 締まりゆるい
 3 黒褐色(10YR3/1)細粒砂 締まりゆるい
 4 黒色(5Y2/1)シルト 締まりあり 粘性強い
 5 黒色(5Y3/1)砂質シルト 締まりゆるい 粘性強い
 6 黒色(5Y2/1)シルト 木片が多量に混じる 締まりゆるい
 7 黒褐色(10YR3/1)シルト 締まりゆるい 粘性強い
 8 黒褐色(10YR2/2)砂 木片が混じる 締まりゆるい SK38-7層
 9 黒褐色(5Y3/1)シルト 砂が混じる 締まりゆるい 粘性強い SK38-9層

A-SE1

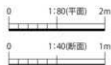


- A-SE1
 1 黒褐色(10YR2/2)砂 砂利・炭化物が極微量に混じる
 2 黒褐色(10YR2/1)砂 砂利・木片が微量に混じる 締まりゆるい
 3 オリーブ黒色(5Y2/2)砂 木の皮・径10cmの石が多量に混じる 締まりゆるい
 4 オリーブ黒色(5Y2/2)砂質シルト 砂利が極微量に混じる 締まりあり

第131図 A地点 (10)



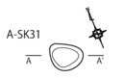
A-SK26
1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・砂利が多量に混じる



1 黒褐色(10YR2/2)砂
炭化物が混じる



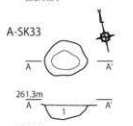
1 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト
炭化物・焼土粒が微量に混じる
締まりあり



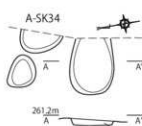
1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
炭化物・焼土粒が微量に混じる
締まりあり



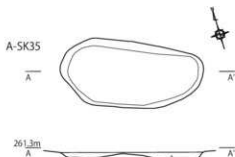
1 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト
炭化物・焼土粒が微量に混じる
締まりあり



1 黒褐色(10YR3/2)砂
炭化物・焼土粒が混じる



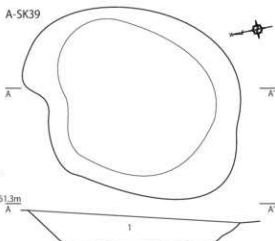
1 黒褐色(10YR2/3)砂
炭化物・焼土粒が混じる



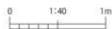
1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる
締まりあり



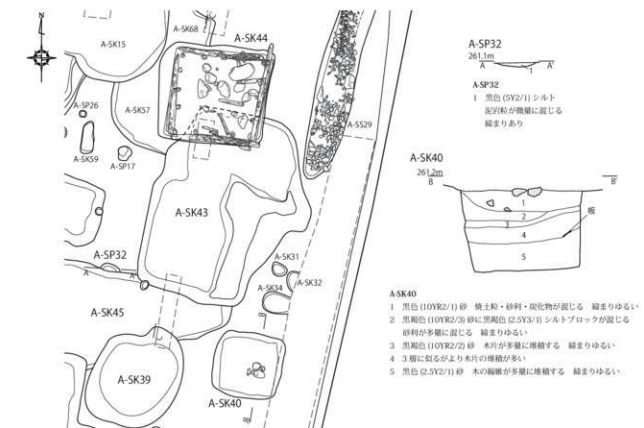
1 黒褐色(10YR3/2)砂
炭化物・焼土粒・砂利が混じる
締まりあり



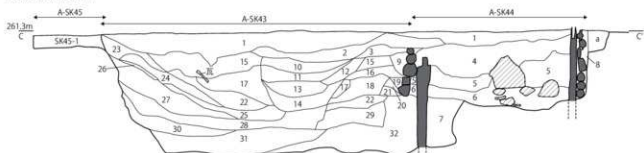
1 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物・径2mの石が混じる 締まりゆるい



第132図 A地点 (11)



A-SK45・SK43・SK44



A-SK43・SK44

- 1 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物・砂利が混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径1cmの炭化物ブロック・焼土ブロック・砂利が混じる 縮まりあり
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利が混じる 縮まりあり
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
- 5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 縮まりあり
- 6 黒色 (10YR1.7/1) シルト 焼土粒・炭化物・白色粒が微量に混じる 縮まりあり
- 7 6層に黄褐色 (2.5Y5/4) が側面に混じる
- 8 黒褐色 (10YR3/1) シルト 焼土粒・砂が微量に混じる 縮まりあり
- 9 黒褐色 (2.5YR3/2) 砂 径1cmの炭化物ブロック・焼土粒・白色粒が多量に混じる 縮まりあり
- 10 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・木片が多量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 炭化物が堆積する
- 11 炭化物が堆積する
- 12 漆喰片が堆積する
- 13 黒色 (2.5YR2/1) 砂
- 14 黒色 (2.5YR2/1) 砂 木片・漆喰片が多量に混じる 縮まりゆるい
- 15 黒褐色 (10YR2/2) 砂 1cmの炭化物・焼土ブロック・砂利が多量に混じる 縮まりあり
- 16 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりあり
- 17 黒褐色 (10YR2/1) 砂 炭化物・木片・砂利が微量に混じる 縮まりゆるい
- 18 黒褐色 (10YR2/1) 砂 炭化物・砂利が多量に堆積する 縮まりゆるい

- 19 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・砂利が多量に混じる 縮まりあり
- 20 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粗粒砂 縮まりあり
- 21 黒色 (10YR2/1) シルト 砂が混じる 縮まりあり
- 22 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 縮まりあり
- 23 黒褐色 (2.5YR2/2) 砂 炭化物ブロック・焼土ブロック・砂利が多量に混じる
- 24 黒色 (10YR2/1) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
- 25 炭化物が膠状に堆積する 縮まりゆるい
- 26 黒褐色 (10YR2/2) 砂に暗褐色 (2.5Y4/2) 砂ブロックが混じる 縮まりゆるい
- 27 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物・木片・樹皮・径2cmの石が多量に混じる 縮まりゆるい
- 28 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・樹皮が微量に混じる 縮まりゆるい
- 29 黒色 (7.5Y2/1) シルト 砂が混じる 縮まりあり
- 30 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂・炭化物が混じる 縮まりゆるい 粘性強い
- 31 オリーブ褐色 (5Y3/1) シルト 縮まりゆるい 粘性強い
- 32 黒色 (5Y2/1) シルト 縮まりあり

A-SK45

SK45-1 において黄褐色 (10YR4/3) 砂 径1cmの焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる

- ※ 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径1cmの炭化物ブロック・砂利が混じる 縮まりあり

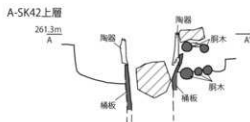
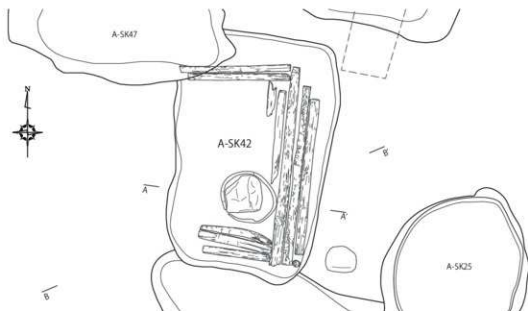
1:80(平面) 2m

1:140(断面) 1m

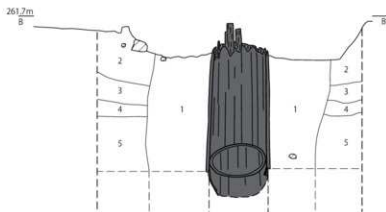
第133図 A地点 (12)



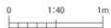
A-SK41
1 暗褐色(10YR3/4)砂質シルト
径1cmの炭化物ブロックが多量に混じる
締まりあり



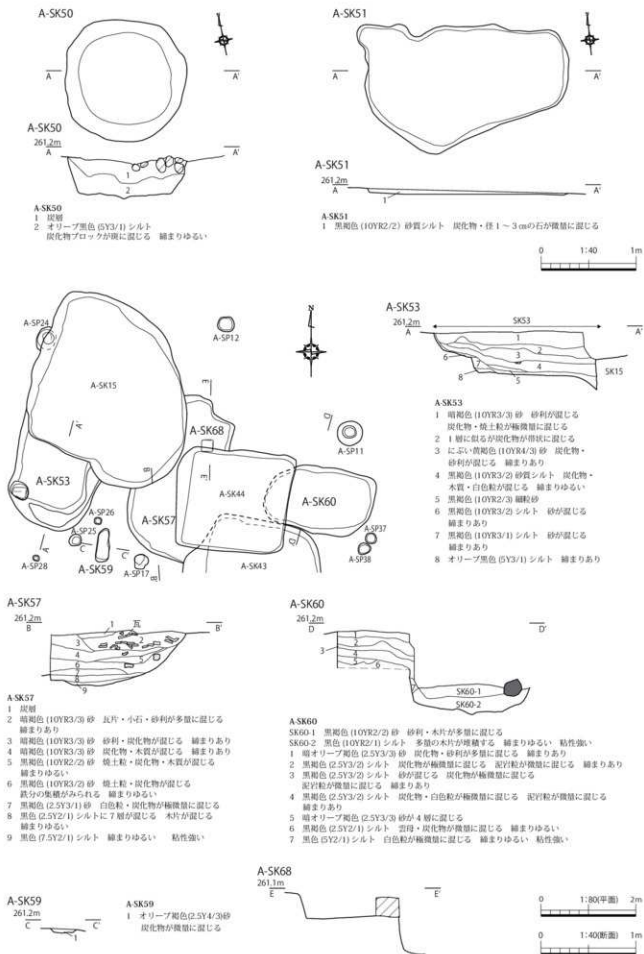
A-SK42下層



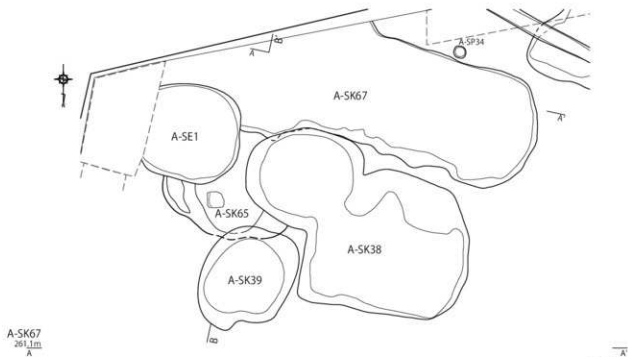
A-SK42
1 黒色(2.5Y2/1)シルトに黒色(5Y2/1)シルトブロックが眼に見る
砂・石が微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
2 黒色(2.5Y2/1)シルト 白色粒が微量に混じる 締まりあり
泥り粒が微量に混じる
3 黒色(5Y2/1) 締まりゆるい 粘性強い
4 黒色(2.5Y2/1) 3層より締まりゆるい 粘性強い
5 黒色(10YR2/1) 締まりゆるい 粘性強い



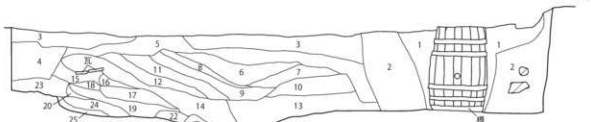
第134図 A地点 (13)



第135図 A地点 (14)



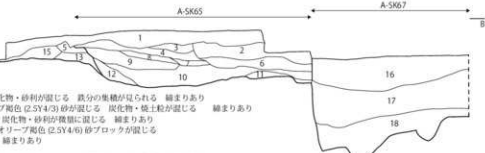
A-SK67
261.1m
A



A-SK67

- 1 黒色 (10YR2/1) シルト 木の皮・木片が多量に混じる 締まりゆるい
- 2 黒色 (2.5Y2/1) シルトに暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂が微量に混じる 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
- 3 黒色 (10YR1.7/1) 砂 木の皮・木片が混じる
- 4 木の皮が多量に増殖する
- 5 黒色 (2.5Y2/1) シルトに黒色 (7.5Y2/1) シルトが順に混じる 炭化物 (2.5Y5/3) 砂・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 6 黒色 (5Y2/1) 砂・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 7 順に混るが砂が多い
- 8 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
- 9 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
- 10 層と同一
- 11 同層
- 12 炭層
- 13 黒色 (5Y2/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
- 14 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
- 15 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
- 16 黒褐色 (10YR2/2) シルト 炭化物・砂利・泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
- 17 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・砂利が混じる 締まりゆるい 粘性強い
- 18 17層に黒色 (5Y2/1) シルトが混じる 締まりゆるい 粘性強い
- 19 黒色 (5Y2/1) シルト 締まりあり
- 20 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 21 黒色 (10Y2/1) シルト 締まりあり
- 22 黒色 (7.5Y2/1) シルト 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
- 23 黒色 (7.5Y2/1) 細粒砂 炭化物・白色粒・泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 24 黒色 (10Y2/1) シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 25 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粗粒砂に黒色 (10Y2/1) シルトが混じる 締まりあり

A-SK65・SK67
261.1m
B



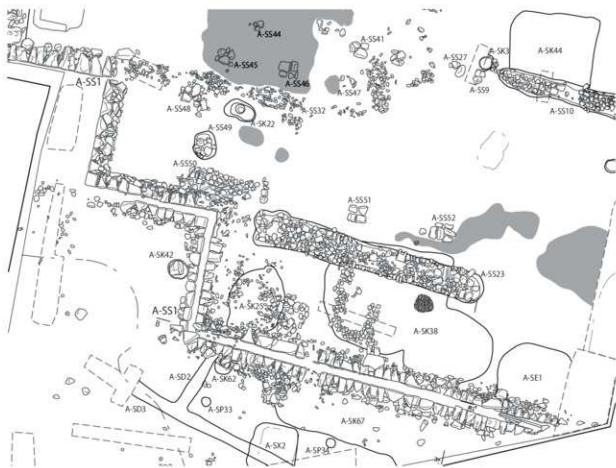
A-SK65・SK67

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト 炭化物・砂利が混じる 鉄分の集積が見られる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂にオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂が混じる 炭化物・焼土粒が混じる 締まりあり
- 3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりあり
- 4 黒褐色 (10YR3/2) シルトに暗オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 砂が混じる 炭化物・木片が微量に混じる 締まりあり
- 5 黄褐色 (2.5Y5/6) 細粒砂
- 6 黒褐色 (10YR2/3) シルトに暗オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 砂が混じる 炭化物・木片が多量に混じる
- 7 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 木の皮が混じる 締まりゆるい
- 8 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物が混じる 締まりあり
- 9 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
- 10 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 炭化物が多量に混じる 締まりゆるい
- 11 黒色 (7.5Y2/1) シルト 白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 12 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 炭化物・砂利・木片が微量に混じる 締まりゆるい
- 13 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 砂・白色粒が多量に混じる 締まりあり
- 14 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物・砂利が混じる 締まりあり
- 15 褐色 (10YR4/6) 細粒砂
- 16 黒色 (10YR1.7/1) 砂 木の皮・木片が混じる
- 17 木の皮が多量に増殖する
- 18 黒色 (7.5Y2/1) 細粒砂 炭化物・白色粒・泥岩粒が微量に混じる 締まりゆるい

0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第136図 A地点 (15)



- 1 黒褐色 (2.5YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (2.5YR3/1) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 3 黒色 (10YR1.7/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい

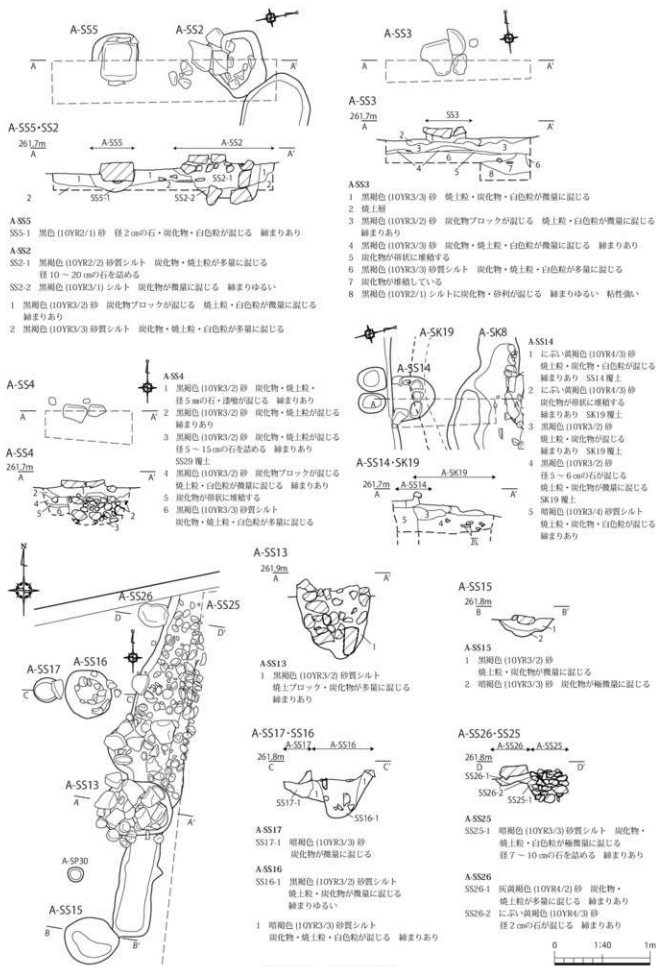
- A-SK38**
 SK38-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 砂利・炭化物・木片が多量に混じる 締まりあり
 SK38-2 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物が混じる 締まりゆるい
 SK38-3 黒色 (10YR1.7/1) 砂 炭化物・木片が多量に混じる 締まりゆるい
 SK38-4 黒色 (10YR1.7/1) 細粒砂 植木片・径 10cm の石・卵石が混じる 締まりゆるい
 SK38-6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 多量の木片・樹皮が混入する 締まりゆるい
 SK38-7 黒色 (5Y2/1) シルト 締まりゆるい 粘性強い

- SS1**
 SS1-1 黒色 (10YR2/1) 砂 径 10 ~ 20 cm の石・卵石を欠める
 SS1-2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 径 3 cm の石・瓦片・砂利が混じる 締まりあり
 SS1-3 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗粒砂 砂利が混じる
 SS1-4 黒色 (10YR1.7/1) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい

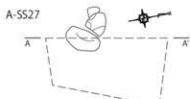
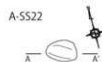
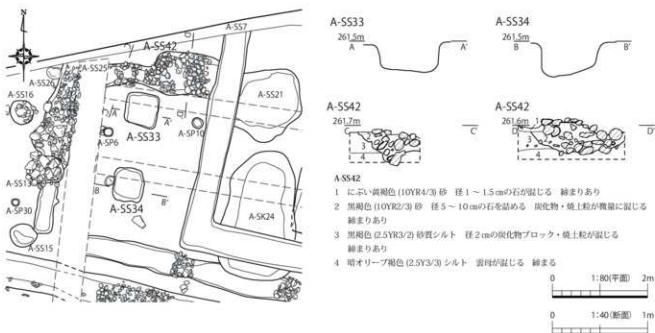
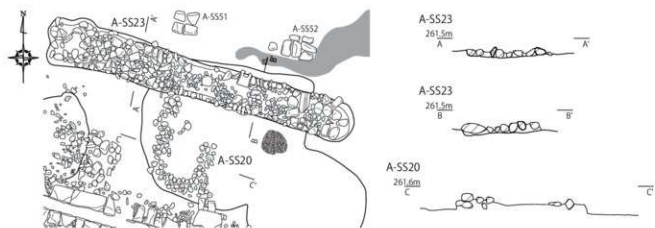
261.5m
B



第137図 A地点 (16)



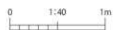
第138図 A地点 (17)



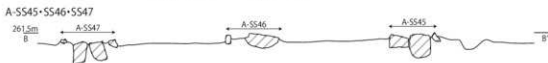
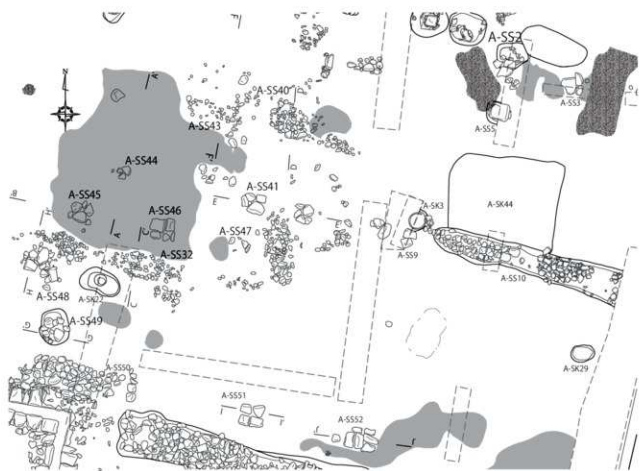
- A-SS27
SS27-1 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が混じる
1 暗褐色(10YR2/3)砂 径1cmの焼土ブロック・径1cmの炭化物ブロック・白色粒が多量に混じる 固く締まる
2 暗褐色(10YR3/4)細粒砂 炭化物・焼土粒が混じる
3 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト 径1cmの炭化物ブロックが混じる
4 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 締まりあり



- A-SS28
1 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりゆるい



第139図 A地点 (18)



A-SS32
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
炭化物・焼土粒が多量に混じる

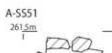
A-SS40
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
砂粒が混じる
炭化物が極微量に混じる 縮まりゆるい

A-SS41
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
焼土粒・炭化物が混じる 縮まりあり
2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
径 2 cm の焼土ブロック・
径 2 cm の炭化ブロックが多量に混じる



A-SS43
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
砂粒が混じる
炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
砂粒が混じる
炭化物が微量に混じる 縮まりゆるい
3 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
砂粒・炭化物微量に混じる 縮まりゆるい
4 暗褐色 (10YR3/3) シルト
炭化物が微量に混じる 縮まりあり

A-SS48
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
径 1 ~ 2 cm の石・炭化物が混じる
縮まりあり
2 暗褐色 (10YR3/3) 砂
径 5 ~ 8 cm の石を混める 縮まりあり



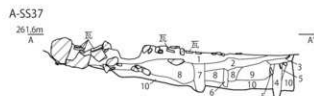
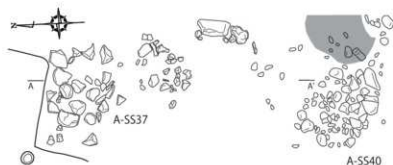
A-SS49
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
炭化物・焼土粒・砂粒が混じる
配粒粉が微量に混じる 縮まりゆるい

A-SS51
1 暗褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
白色粒・炭化物・焼土粒が混じる
縮まりあり

A-SS52
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
炭化物・焼土粒・
砂粒が混じる 縮まりゆるい
2 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・焼土粒が
多量に混じる 縮まりゆるい



第140図 A地点 (19)



A-SS37

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 径4~10cmの卵石が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 締まりあり
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
- 5 黒褐色 (10YR2/3) 砂 径4cmの卵石が混じる 締まりあり
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 炭化物が混じる 泥岩粒が微量に混じる
- 7 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 炭化物が混じる 泥岩粒が微量に混じる
- 8 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 締まりあり
- 9 黒褐色 (10YR3/3) シルト 炭化物が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
- 10 黒褐色 (10YR2/3) シルト 炭化物が極微量に混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり



- A-SP1
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 締まりゆるい



- A-SP2
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 締まりゆるい



- A-SP3
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる



- A-SP4
- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 焼土粒・白色粒・炭化物が極微量に混じる



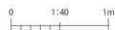
- A-SP5
- 1 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗粒砂 径3mm以下の砂粒が多量に増粘する



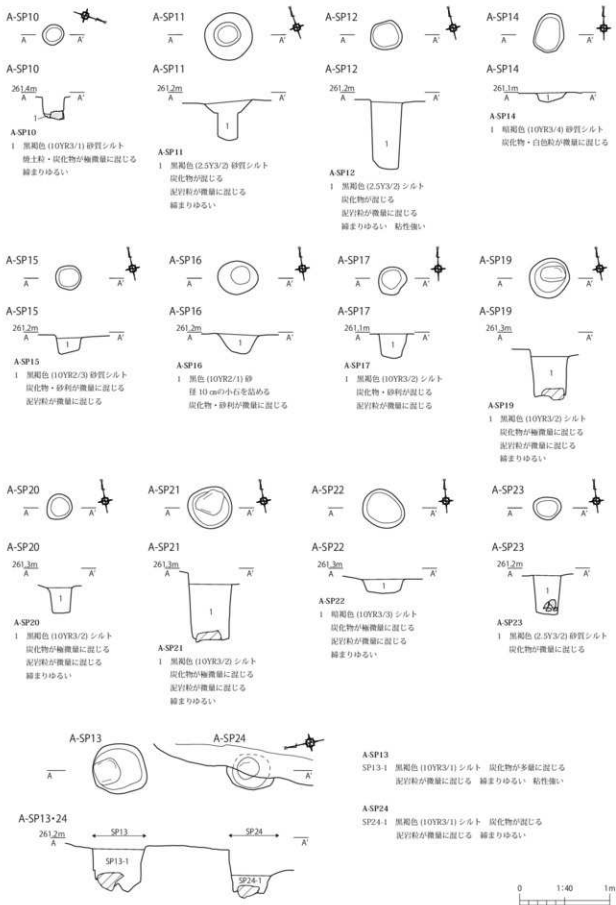
- A-SP6
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい



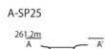
- A-SP7
- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる



第141図 A地点 (20)



第142図 A地点 (21)



A-SP25
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・白色粒・
粘土粒が微量に混じる



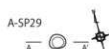
A-SP26
1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂
炭化物・石が混じる
締まりあり



A-SP27
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物が微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる
締まりあり



A-SP28
1 黒褐色 (10YR3/3) 砂質シルト
炭化物・石が混じる
泥岩粒が微量に混じる
締まりあり



A-SP29
1 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂
炭化物・石が混じる
泥岩粒が微量に混じる
締まりあり



A-SP30
1 黒褐色 (10YR3/2) シルト
炭化物が混じる



A-SP33
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
炭化物・石が微量に混じる
締まりあり



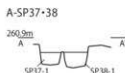
A-SP34
1 黒褐色 (10YR3/1) シルトに
黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる
炭化物・石が微量に混じる



A-SP35
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
炭化物が微量に混じる
泥岩粒が微量に混じる

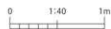


A-SP36
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物が微量に混じる
締まりゆるい

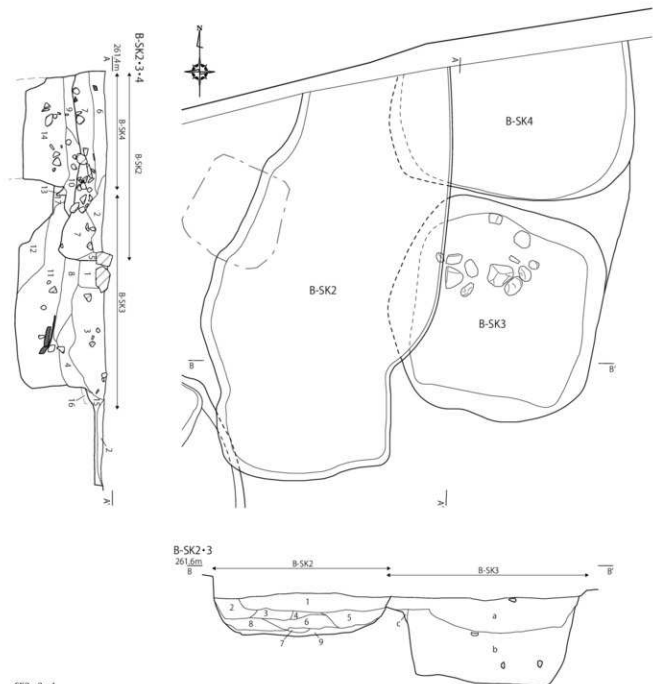


A-SP37
SP37-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
炭化物が微量に混じる
締まりゆるい

A-SP38
SP38-1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト
炭化物が微量に混じる
締まりゆるい



第143図 A地点 (22)



SK2・3・4

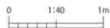
- 1 オリーブ黒色 (5Y2/2) シルトに黒褐色 (2.5Y3/2) 砂が混に混じる
白色粒・炭化物が混じる 締まりあり
- 2 暗オリーブ褐色 (2.5YR3/3) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が多量に混じる
- 3 暗褐色 (10YR2/4) シルトに黒褐色 (2.5Y3/1) シルトが混に混じる
白色粒・炭化物・焼土粒が混じる 締まりあり
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 締まりゆるい
- 5 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・木片が多量に混じる 締まりゆるい
- 7 黒褐色 (10YR2/2) 砂 焼土粒・炭化物・白色粒・木片・径5～8cmの石が混じる
- 8 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 9 黒色 (10YR1/1) 砂 炭化物・砂粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 10 黒色 (10YR1/1) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 11 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルトに暗オリーブ色 (5Y3/2) 砂が微量に混じる
炭化物・白色粒・木片が混じる 締まりゆるい
- 12 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 白色粒・炭化物が極微量に混じる
締まりゆるい 粘性強い
- 13 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる
締まりゆるい
- 14 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 径5～7cmの石が混じる
炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 15 暗褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 16 暗褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 17 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい

SK2・3

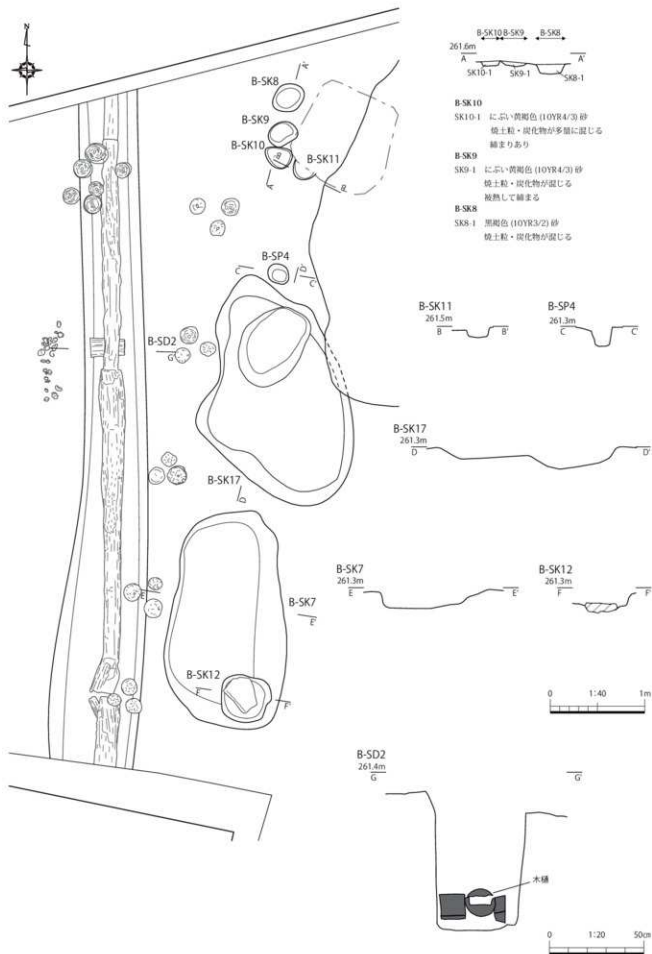
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒・木片が微量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 砂粒・炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 4 黒色 (2.5Y2/1) 砂 締まりゆるい
- 5 暗褐色 (10YR2/3) 砂 木片が混じる 締まりゆるい
- 6 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 炭化物・木片が混じる 締まりゆるい
- 7 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト
- 8 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 9 オリーブ黒色 (5Y3/2) シルト 炭化物・砂粒が混じる 締まりゆるい

SK2・3

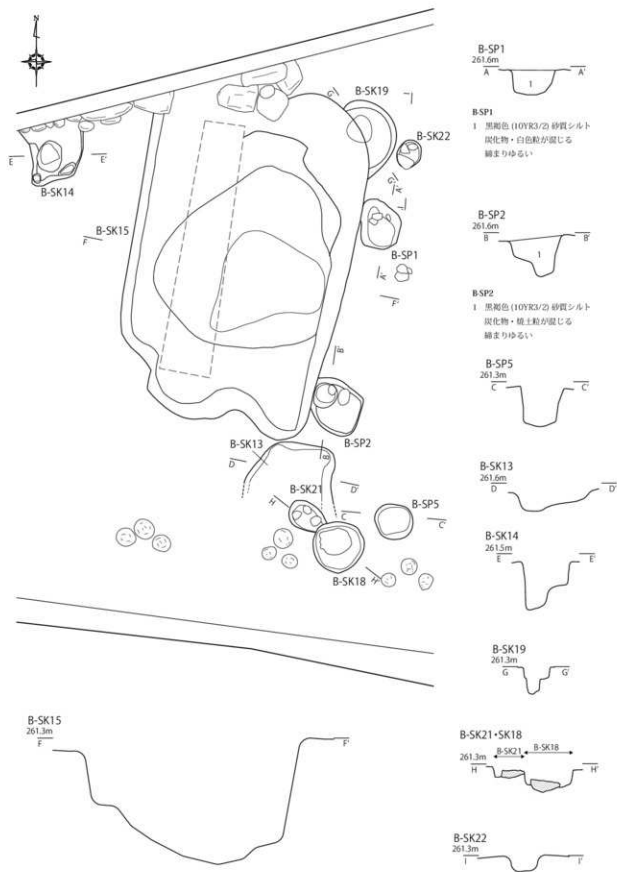
- a 黒色 (10YR2/1) シルトに暗褐色 (10R3/3) 砂質シルトが混に混じる
焼土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- b 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物・焼土粒・径2～5cmの石が混じる
締まりゆるい
- c 黒褐色 (10YR3/2) シルト 締まりあり



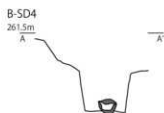
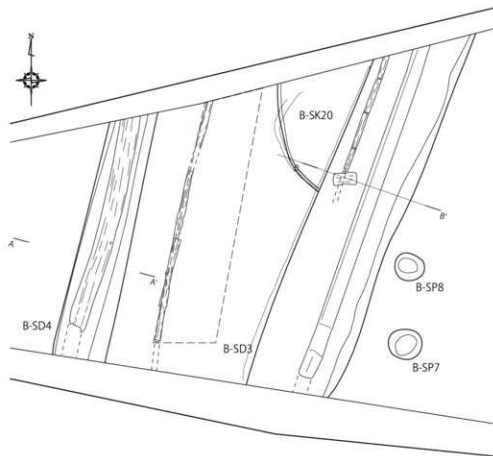
第144図 B地点 (1)



第145図 B地点(2)



第146図 B地点 (3)

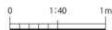


B-SP10
1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
炭化物・白色粒が微量に混じる
締まりゆるい、粘性強い

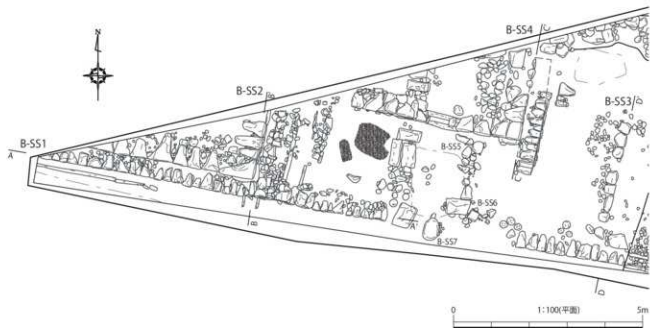
B-SP7
1 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・白色粒が微量に混じる
締まりゆるい

B-SP8
1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト
炭化物・砂粒が混じる
締まりゆるい、粘性強い

B-SP9
1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
炭化物・白色粒が微量に混じる
締まりゆるい、粘性強い



第147図 B地点 (4)



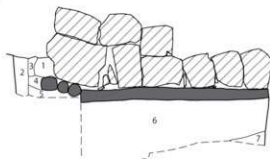
B-SS1
262.3m
A



B-SS2
261.7m
B



B-SS4
262.3m
C

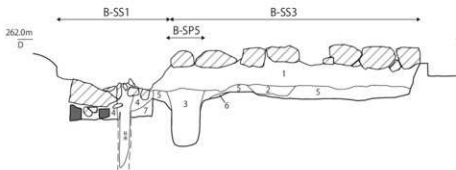


BSS4

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルトに暗褐色 (10YR3/4) 砂が混じる 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 3 1層に散る暗褐色 (10YR3/4) 砂が多い
- 4 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 5 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 粘性強い 締まりゆるい
- 6 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂 径2~5cmの石が混じる 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 7 黒色 (7.5Y2/1) シルト 粘性強い 締まりゆるい

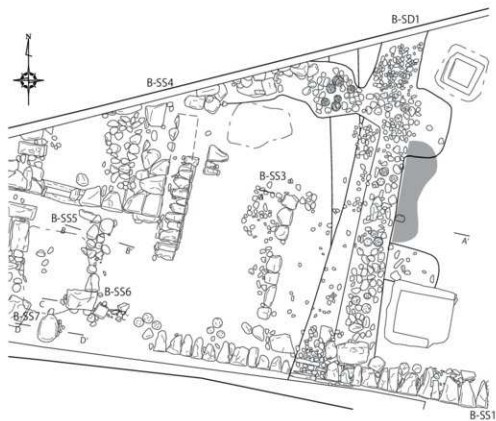
B-SS1・SS3・SP5

- 1 黒褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒・径2~3cmの石が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 4 灰褐色 (10YR4/2) シルト 締まりゆるい
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト 白色粒・炭化物が微量に混じる 径3cmの石が混じる 締まりあり
- 6 暗褐色 (10YR3/4) シルト
- 7 暗灰色 (N3/0) シルト

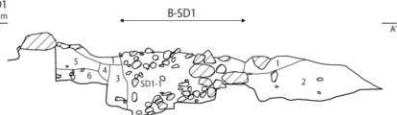


0 1:40(断面) 1m

第148図 B地点 (5)



B-SD1
262.0m
A



BSD1

SD1-1 黒褐色 (10YR2/2) シルト 径2~10cmの石を充填する 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 跡残りあり

1 褐色 (7.5YR4/6) 砂 焼土粒・炭化物・砂粒が混じる 焼熟し跡残る

2 黒褐色 (10YR2/3) 粗粒砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 径2cmの石が混じる 跡残りあり

3 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・白色粒が混じる 跡残りあり

4 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 跡残りあり

5 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・白色粒・径2~5cmの石が混じる 跡残りあり

6 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト 白色粒・炭化物が微量に混じる 径3cmの石が混じる 跡残りあり

B-SS5
261.7m
B



B-SS6
261.7m
C



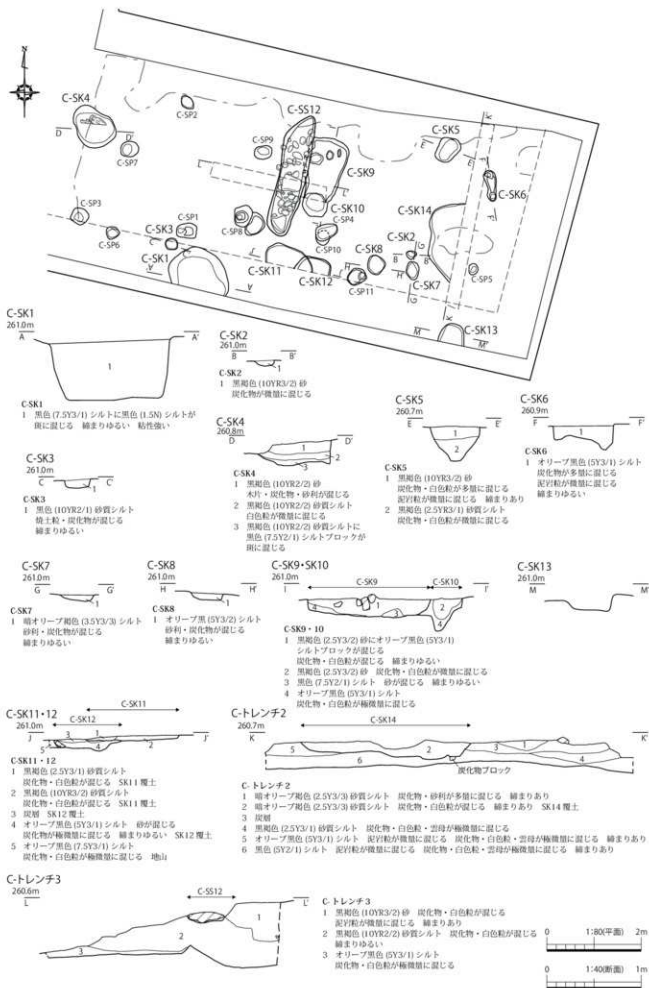
B-SS7
261.6m
D



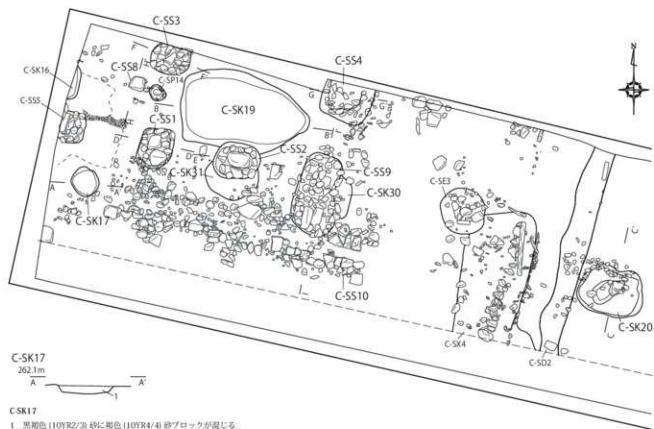
0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第149図 B地点 (6)



第150図 C地点 (1)



C-SK17

262.1m



C-SK17

1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂ブロックが混じる
焼土ブロック・炭化物が多量に混じる 跡残りあり

C-SK19

262.0m



C-SK19

1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土・炭化物が多量に増殖する

C-SK20

261.4m



C-SK20

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 砂利が微量に混じる
炭化物が微量に混じる
2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる

C-SS1

262.1m



C-SS1

1 暗褐色 (7.5YR4/3) 砂
炭化物・焼土粒が微量に混じる

C-SS2

262.2m



C-SS2

1 褐色 (7.5YR4/3) 砂
炭化物・焼土粒が微量に混じる

C-SS3

273.4m



C-SS3

1 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂
炭化物・焼土粒が微量に混じる

C-SS4

262.1m



C-SS4

1 暗褐色 (7.5YR3/3) 砂
炭化物・焼土粒が微量に混じる

C-SS8

262.1m



C-SS8

1 暗褐色 (10YR3/3) 砂
炭化物・焼土粒が混じる
2 黒褐色 (10YR2/3) 砂
炭化物・焼土粒が多量に混じる

C-SS10・SS9

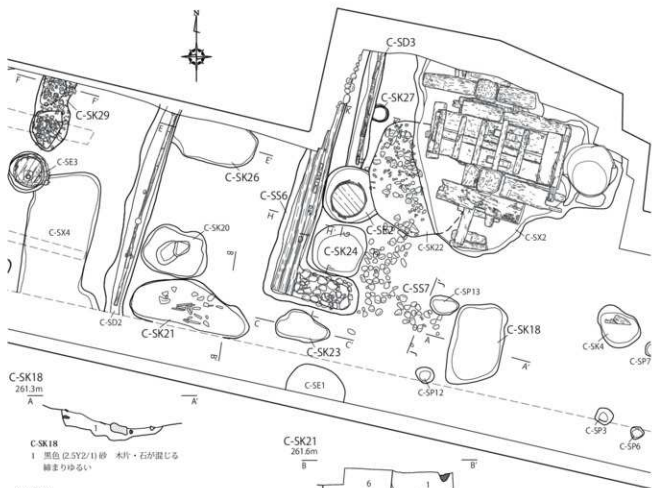
262.0m



0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第151図 C地点 (2)



C-SK18

261.3m



C-SK18

- 1 黒色 (2.5Y2/1) 砂 木片・石が混じる
締まりゆるい

C-SK23

261.3m



C-SK23

- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
炭化物・砂利が混じる 締まりゆるい

C-SK24

261.5m

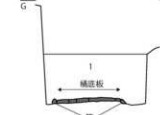


C-SK24

- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂 炭化物・白色粒が
塊状に混じる 下層に炭化物が帯状に堆積する
締まりあり
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂 炭化物・白色粒が
塊状に混じる 締まりあり
- 3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 炭化物・
白色粒が塊状に混じる 締まりあり

C-SE2

261.3m

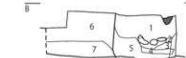


C-SE2

- 1 オリーブ黒 (5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・砂利が混じる 締まりゆるい

C-SK21

261.6m



C-SK21

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土ブロック・木片が多量に混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 粗粒砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 締まりゆるい
- 3 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
- 5 黒色 (10YR2/1) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 締まりゆるい
- 6 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂 白色粒が塊状に混じる
- 7 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト 白色粒が塊状に混じる 締まりゆるい

C-SK26

261.3m



C-SK26

- 1 オリーブ黒色 (2.5Y3/2) 砂に黒色 (2.5Y2/1) シルトブロックが
塊に混じる 締まりゆるい
- 2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂 締まりゆるい

C-SK29

261.6m



C-SK29

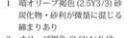
- 1 多量の磁器片・陶器片が堆積する

C-SS6

261.3m



C-SS6



C-SS6

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
炭化物・砂利が微量に混じる 締まりあり
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂
砂利が微量に混じる 締まりあり

C-SS7

273.4m



C-SS7

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
炭化物・砂利が微量に混じる 締まりあり
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂
砂利が微量に混じる 締まりあり

C-SD3・SK27

261.2m



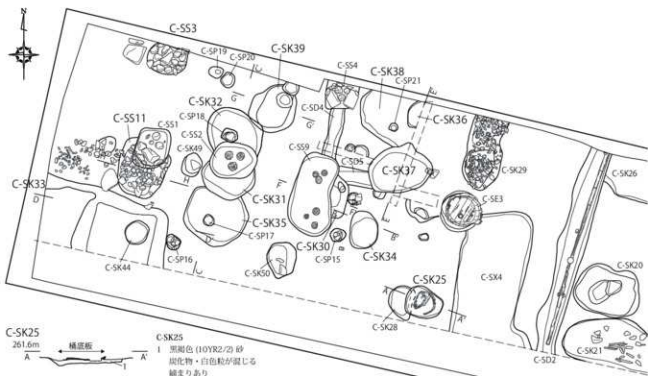
C-SD3・SK27

- 1 多量の磁器片・陶器片が堆積する

0 1:80(平面) 2m

0 1:400(断面) 1m

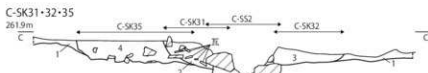
第152図 C地点 (3)



C-SK25
261.6m
1 黒褐色 (10YR2/2) 砂
炭化物・白色粒が混じる
締まりあり

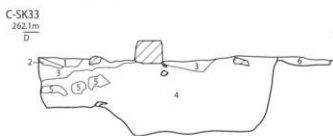


C-SK34
273.4m
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利・焼土粒が混じる
2 にふい黄色 (2.5Y6/4) 粘土に黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる
締まりゆるい
3 にふい黄色 (2.5Y6/4) 粘土 焼土粒・炭が混じる
4 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・砂利が混じる



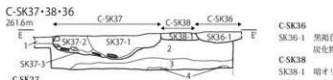
C-SK31・32・35
261.9m

C-SK31・32・35
1 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 焼土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる 締まりゆるい SK31 覆土
3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 締まりあり SK32 覆土
4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 締まりあり SK35 覆土



C-SK33
262.1m

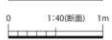
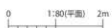
C-SK33
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト 炭化物・焼土ブロックが混じる
締まりゆるい
2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 にふい黄褐色 (10YR6/3) 砂が混じる
炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる
4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物ブロック・焼土ブロックが多量に混じる
締まりゆるい
5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる
締まりゆるい
6 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる
締まりゆるい



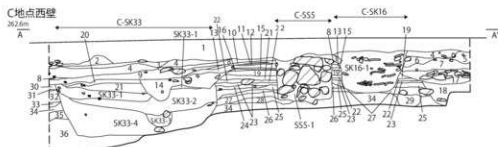
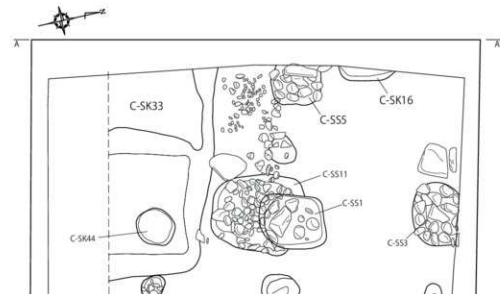
C-SK37・38・36
261.6m

C-SK36
SK36-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂に黄色 (2.5Y8/8) 砂が混じる
炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
C-SK38
SK38-1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・木片・砂利が混じる
締まりあり
1 褐色 (10YR4/4) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 白色粒が微量に混じる 締まりあり
3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗粒砂
4 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 締まりゆるい

C-SK37
SK37-1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・木片・砂利が混じる
締まりゆるい
SK37-2 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) 砂が混じる
炭化物・砂利が微量に混じる
SK37-3 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・木片が混じる
締まりゆるい



第153図 C地点 (4)

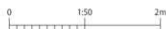


C地点西壁

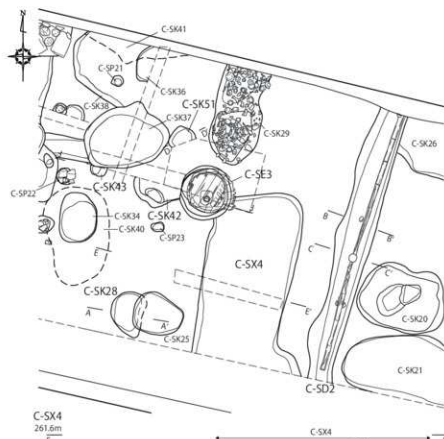
- 1 表土・砂石層
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂 締まりあり
- 3 に近い黄褐色 (10YR5/4) 粗粒砂
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂にオリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂ブロックが混じる
炭土粒・炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 5 炭化物が堆積する
- 6 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭土粒・炭化物・白色粒が混じる
- 8 暗褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭土粒・炭化物・白色粒・砂粒が多量に混じる 締まりあり
- 9 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/2) 砂に黒褐色 (10YR3/2) シルトブロックが混じる
炭土ブロック・炭化物ブロックが混じる 締まりあり
- 10 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 11 炭土ブロック・炭化物が形状に堆積する
- 12 黒色 (10YR2/1) 砂 炭土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 13 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる 締まりあり
- 14 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭土ブロック・炭化物ブロックが混じる
- 15 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 16 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 17 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭土ブロック・炭化物・炭片が多量に堆積している
- 18 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭土粒・炭化物が混じる
- 19 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭土ブロック・炭化物ブロックが多量に混じる 締まりあり
- 20 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 21 炭土ブロック・炭化物ブロックが多量に堆積する
- 22 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 23 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 24 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 5mm の炭が混じる 炭土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 25 黒褐色 (10YR3/2) 砂に浅黄褐色 (10YR8/4) 砂が混じる
炭土粒・炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 26 浅黄褐色 (10YR8/4) 砂 砂粒が混じる
- 27 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・炭片粒が極微量に混じる 締まりあり
- 28 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (10YR5/6) 砂が混じる 白色粒が極微量に混じる
- 29 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・炭片粒が極微量に混じる 締まりあり
- 30 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物が極微量に混じる 締まりあり
- 31 炭化物が形状に堆積する
- 32 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが順に混じる
炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 33 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂に黒褐色 (2.5Y3/1) が順に混じる 炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 34 暗褐色 (10YR3/4) 砂 砂粒が微量に混じる 炭化物・炭片粒が極微量に混じる
- 35 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 炭化物・炭片粒が極微量に混じる 締まりあり
- 36 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト 炭化物・炭片粒が極微量に混じる

C-SK16

- SK16-1 炭土ブロック・炭化物・炭片が多量に堆積する
- C-SK33**
- SK33-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭土粒・炭化物が混じる 締まりゆるい
- SK33-2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭土ブロック・炭化物ブロックが混じる
- SK33-3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 径 10cm の石・炭土ブロック・炭化物が混じる
- SK33-4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物ブロック・炭土ブロックが多量に堆積する
- C-S55**
- S55-1 褐色砂 (7.5YR4/8) 砂 炭化物・炭土粒が微量に混じる



第154図 C地点 (5)



C-SK28
261.5m
A A

C-SK28
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
炭化物・焼土粒が極微量に混じる
砂利が混じる



C-SD2
261.4m
B B

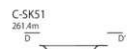
1 竹縄



C-SD2
261.3m
C C

1 竹縄

C-SD1
1 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂に 黒色 (2.5Y2/1)
シルトブロックが混じる
炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる
締まりゆるい



C-SK51
261.4m
D D

C-SK51
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
炭化物が極微量に混じる 砂利が混じる



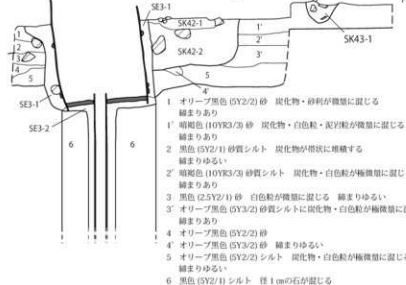
C-SX4

1 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂 炭化物・砂利・木片が混じる 締まりあり
2 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
3 1層に収めるが含有物が多い 締まりあり
4 炭層
5 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
6 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) 砂が混じる
炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり

7 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 白色粒が極微量に混じる 締まりあり
8 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂
9 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト
10 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる
11 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
12 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり



C-SE3
261.6m
F F



1 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる
締まりあり
1' 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒・灰質粒が微量に混じる
締まりあり
2 黒色 (5Y2/1) 砂質シルト 炭化物が帯状に堆積する
締まりゆるい
2' 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる
締まりあり
3 黒色 (2.5Y2/1) 砂 白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
3' オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルトに炭化物・白色粒が極微量に混じる
締まりあり
4 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂
4' オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂 締まりゆるい
5 オリーブ黒色 (5Y2/2) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる
締まりゆるい
6 黒色 (5Y2/1) シルト 径1cmの石が混じる
締まりゆるい 粘性強い

C-SE3
SE3-1 黒色 (2.5Y2/1) シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる
粘性強い 締まりゆるい

SE3-2 黒色 (5Y2/1) シルト
上部にオリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂が堆積する
締まりゆるい

C-SK42
SK42-1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
炭化物・白色粒・砂利が微量に混じる
締まりあり

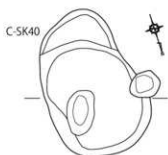
SK42-2 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・砂利が微量に混じる
締まりゆるい

C-SK43
SK43-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・黄色粒・砂利が混じる
締まりあり

0 1:60(平面) 2m

0 1:30(断面) 1m

第155図 C地点 (6)



C-SK40
261.6m

C-SK40

- 1 褐色 (10YR4/4) 砂に赤い黄色 (2.5Y6/3) 粘土が膜に覆じる 炭化物・白色粒が散在する 締まりあり
- 2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂に赤い黄色 (2.5Y6/3) 粘土が膜に覆じる 締まりあり
- 3 オリーブ黒色 (5Y3/1) 砂質シルト 締まりあり



C-SK46
261.4m

C-SK46

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが覆じる 炭化物・白色粒が散在する



C-SK49
261.4m

C-SK49

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・黄色粒・泥岩粒が散在する 締まりゆるい
- 2 暗褐色 (10YR2/3) 砂 締まりゆるい
- 3 黒褐色 (2.5Y2/2) 砂 炭化物・白色粒が極微量に散在する 締まりゆるい
- 4 褐色 (10YR4/4) 粗粒砂 泥岩粒が散在する 締まりゆるい
- 5 暗褐色 (10YR3/4) シルト 泥岩粒が極微量に散在する 締まりゆるい



C-SK44
261.1m

C-SK44

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・白色粒が微量に散在する 締まりあり



C-SK45
261.4m

C-SK45

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) にオリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルトが膜に覆じる 泥岩粒が微量に散在する 炭化物・白色粒が極微量に散在する 締まりゆるい



C-SK48-SK47
261.4m

C-SK48-SK47

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 泥岩粒が微量に散在する 炭化物・白色粒が極微量に散在する 締まりゆるい
- 2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が散在する 締まりゆるい
- 1 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 白色粒が極微量に散在する 締まりあり

C-SK47-SK48

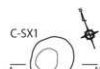
- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 泥岩粒が微量に散在する 炭化物・白色粒が極微量に散在する 締まりゆるい
- 2 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が散在する 締まりゆるい
- 1 オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質シルト 白色粒が極微量に散在する 締まりあり



C-SK50
261.4m

C-SK50

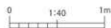
- 1 暗褐色 (10YR3/6) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが覆じる 炭化物・白色粒・泥岩粒が微量に散在する 締まりゆるい
- 2 暗褐色 (10YR3/6) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが覆じる 泥岩粒が微量に散在する 炭化物・白色粒が極微量に散在する 締まりあり
- 3 暗褐色 (10YR3/6) 砂に黒褐色 (2.5Y3/2) シルトブロックが膜に覆じる 泥岩粒が微量に散在する 炭化物・白色粒が極微量に散在する 締まりあり
- 4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂に黒褐色 (2.5Y3/1) シルトブロックが膜に覆じる 泥岩粒が微量に散在する 炭化物・白色粒が極微量に散在する 締まりあり



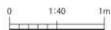
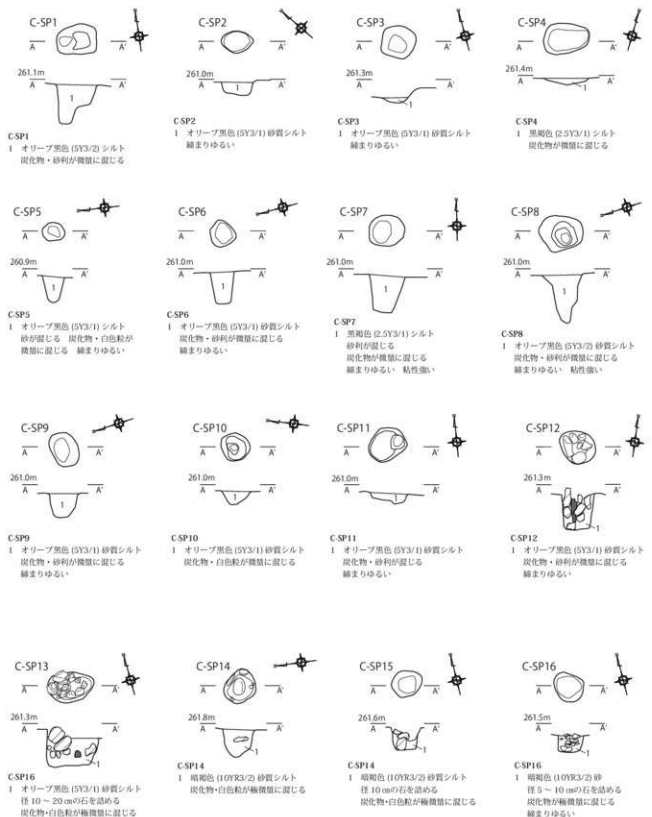
C-SX1
261.7m

C-SX1

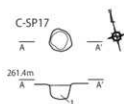
- 1 磁器片が多量に埋積する



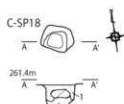
第156図 C地点 (7)



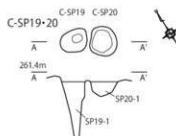
第157図 C地点 (8)



C-SP17
1 オリーブ褐色 (10YR4/4) 砂
白色粘が極微量に混じる



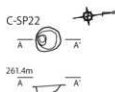
C-SP18
1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物・白色粘が極微量に混じる
2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粗粒砂
細まりゆるい



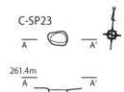
C-SP19
SP19-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物が極微量に混じる
細まりゆるい
C-SP20
SP20-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト
炭化物・白色粘が極微量に混じる
細まりゆるい



C-SP21
1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂
白色粘が極微量に混じる



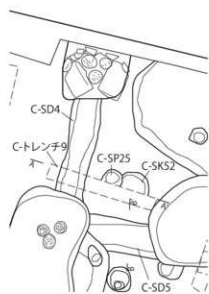
C-SP22
1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
炭化物・白色粘・砂利が混じる
細まりあり



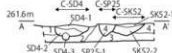
C-SP23
1 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト
砂利が混じる
炭化物が極微量に混じる



C-SP24
1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
炭化物・白色粘・砂利が混じる



C-トレンチ9

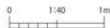


C-トレンチ9

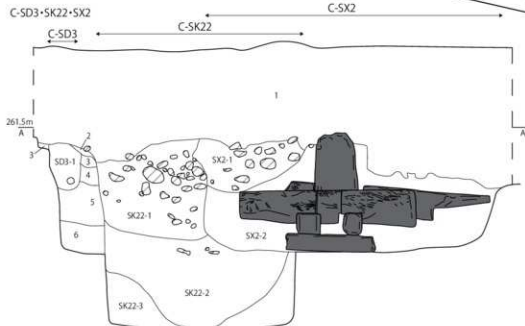
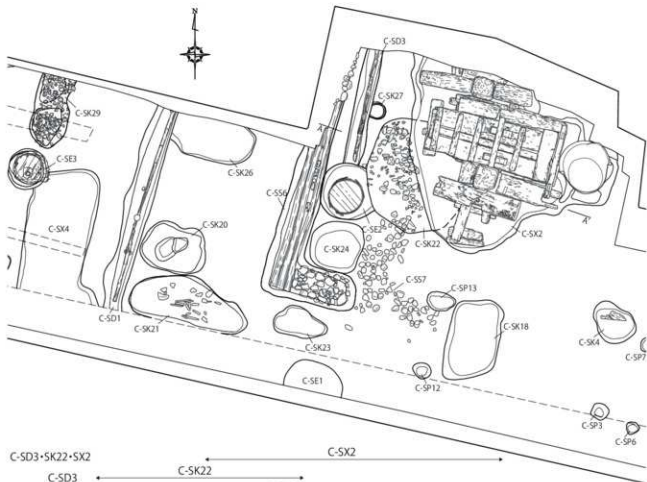
- SD4-1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物が多量に混じる
細まりあり [SD4]
- SD4-2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物・白色粘が微量に混じる
細まりあり [SD4]
- SD4-3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト 細まりゆるい [SD4]
- SP25-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 木炭跡 細まりゆるい
- SKS2-1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物が多量に混じる 細まりあり
- SKS2-2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂 炭化物が混じる 細まりあり
- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂 炭化物・白色粘が極微量に混じる
細まりあり
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粘が極微量に混じる
細まりあり
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂 白色粘が混じる 細まりあり
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂 白色粘が極微量に混じる
細まりあり



C-SD5
1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂
炭化物・白色粘が微量に混じる
細まりあり



第158図 C地点 (9)



C-SD3-SK22-SX2

- 1 黄土
- 2 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 3 黒褐色(10YR3/1)砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 5 オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト 白色粒・炭屑粒が極微量に混じる
- 6 黒色(5Y2/1)シルト 白色粒が極微量に混じる

C-SD3

SD3-1 黒色(10YR2/1)砂質シルト 径10cmの竹樋が埋設されている 白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい

C-SK22

SK22-1 黒色(5Y2/1)シルトに黒褐色(10YR3/2)砂が混じる 径10~20cmの石が多量に混じる 白色粒・炭屑粒が極微量に混じる 締まりあり

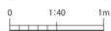
SK22-2 黒色(5Y2/1)シルトに黒褐色(10YR3/2)砂が混じる 白色粒・炭屑粒が極微量に混じる 締まりゆるい

SK22-3 黒色(5Y2/1)シルト 白色粒・炭屑粒が極微量に混じる 締まりゆるい

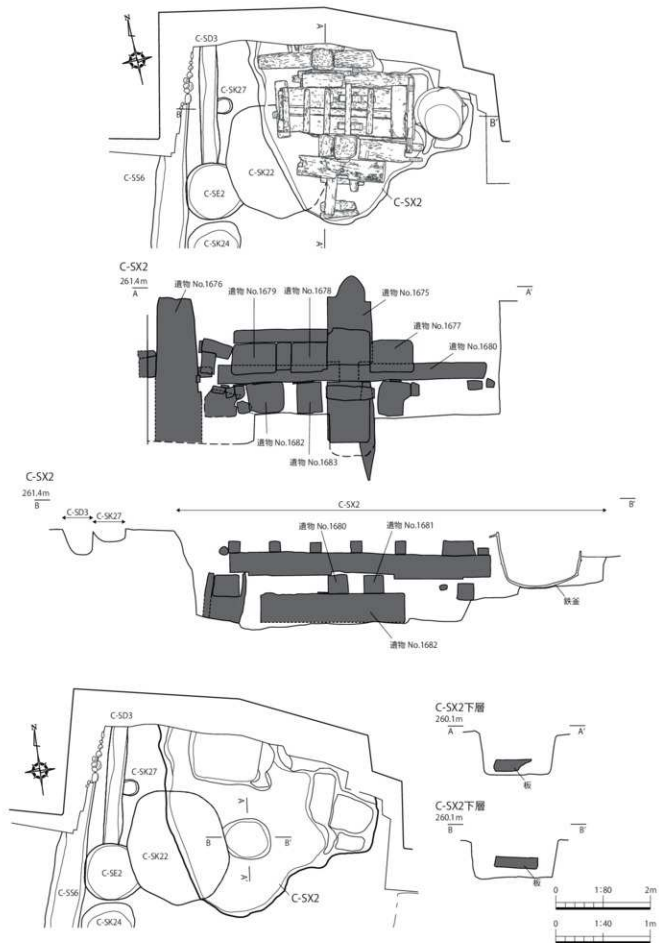
C-SX2

SX2-1 黒色(5Y2/1)シルトに黒褐色(10YR3/2)砂が混じる 径10~20cmの石が混じる 白色粒・炭屑粒が極微量に混じる 締まりあり

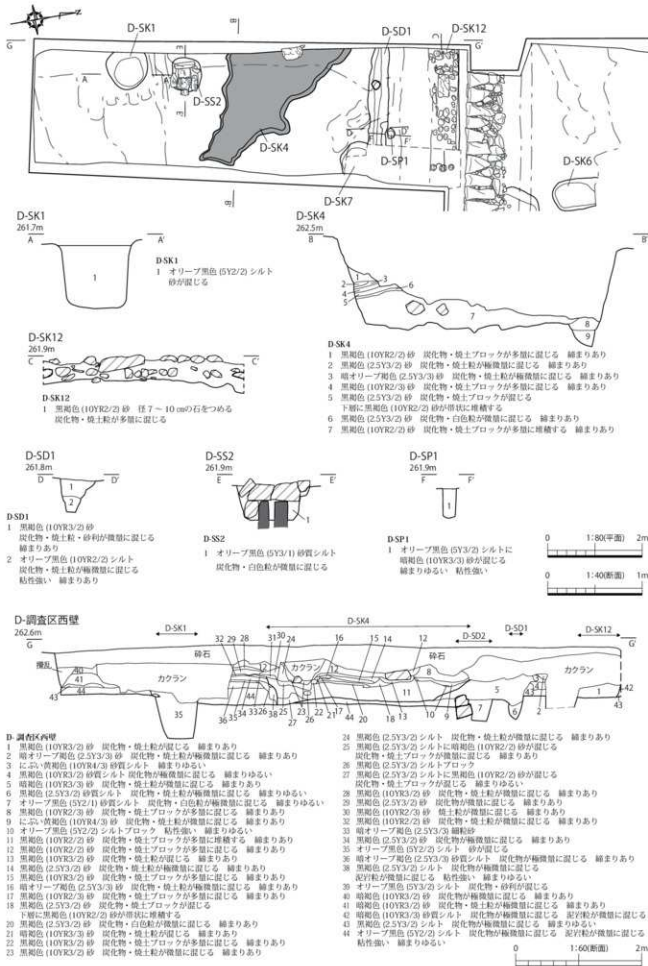
SX2-2 オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト 白色粒・炭屑粒が極微量に混じる



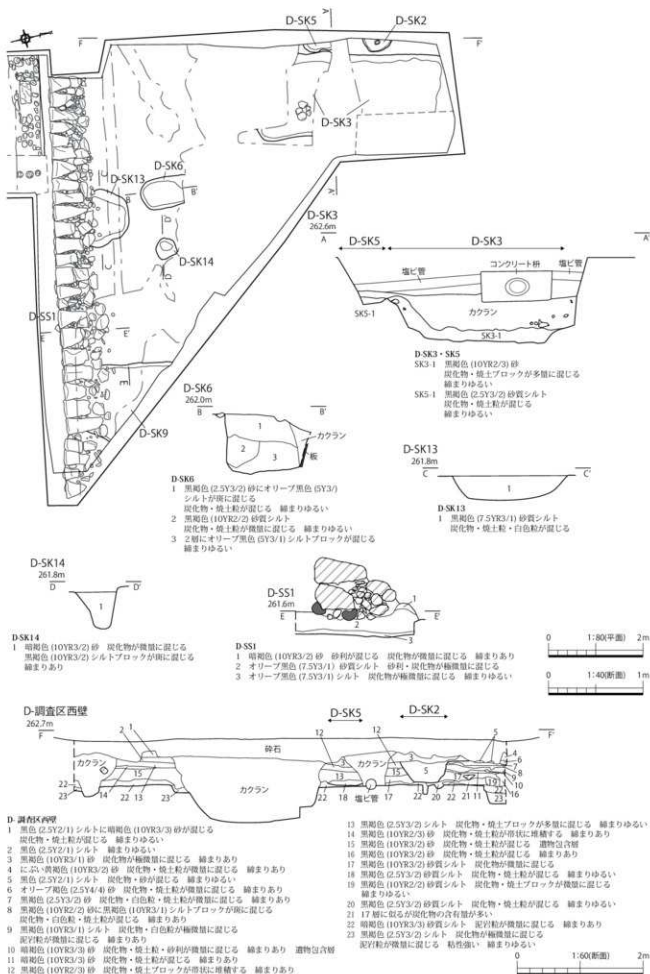
第159図 C地点 (10)



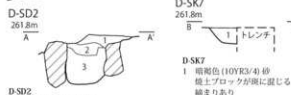
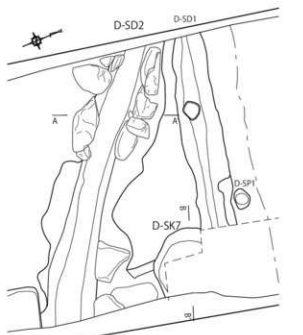
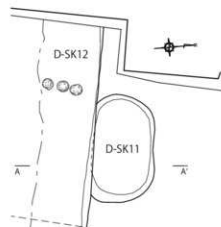
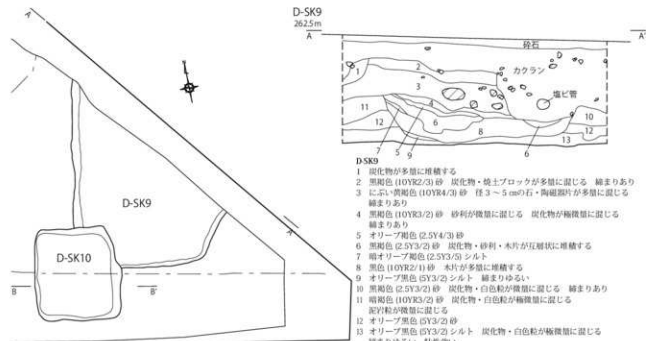
第160图 C地点 (11)



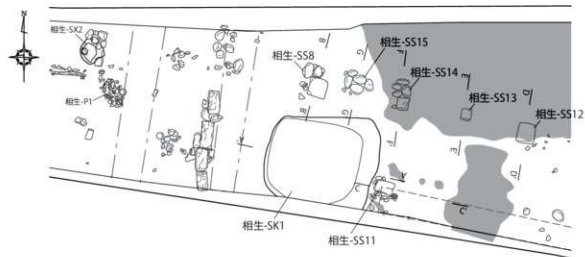
第161図 D地点 (1)



第162図 D地点 (2)



第163図 D地点 (3)



相生-SK1

262.2m



相生-SK1

- 1 赤褐色 (5YR4/6) 砂 炭化物・焼土ブロックが混じる
瓦片が多量に埋積する 締まりゆるい

相生-SS8

262.2m



相生-SS8

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
締まりあり

相生-SS11

262.2m



相生-SS11

- 1 に近い黄褐色 (10YR5/4) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 灰白色 (2.5Y8/1) 細粒砂
- 褐色 (10YR4/4) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が輪状に混じる 締まりあり
- 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる

相生-SS12

262.2m



相生-SS12

- 1 に近い黄褐色 (10YR5/4) 砂 焼土粒・砂利が微量に混じる
締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
締まりあり

相生-SS13

262.1m



相生-SS13

- 1 に近い黄褐色 (10YR5/4) 砂 焼土粒・砂利が微量に混じる 締まりあり
- 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 黒褐色 (10YR2/3) 砂にに近い黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり

相生-SS14

262.1m



相生-SS14

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂にに近い黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
径 3cmの石が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
締まりあり

相生-SS15

262.0m



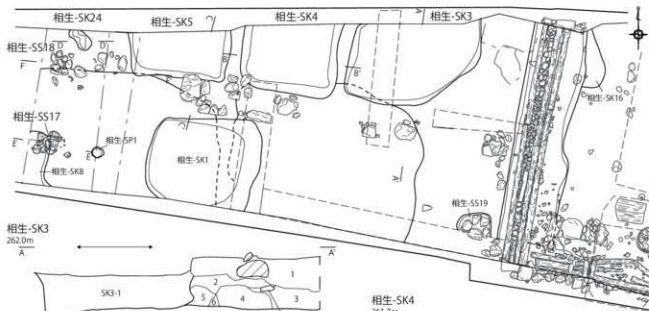
相生-SS15

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黒色 (10YR2/1) シルトブロックが混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が多量に混じる
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 5 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり

0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第164図 相生工区 (1)



相生-SK3
262.0m

相生-SK3

- SK3-1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 瓦片が多量に堆積する 締まりゆるい
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂に黒褐色 (10YR2/2) シルトブロックが混じる 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
 - 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりゆるい
 - 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が輪模様に混じる 締まりゆるい
 - 4 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が輪模様に混じる 締まりゆるい
 - 5 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が輪模様に混じる 泥岩粒が微量に混じる
 - 6 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が輪模様に混じる

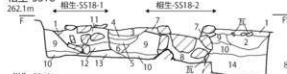
相生-SK5・SS8



相生-SK5・SS8

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂に黒褐色 (10YR2/2) シルトブロックが混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 3 黒色 (10YR2/1) シルトに暗褐色 (10YR3/3) 砂が混じる 締まりあり
- 4 黒色 (10YR2/1) シルト
- 5 2層と同一の層
- 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂に黒色 (10YR2/1) シルトブロックが混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 7 黒色 (10YR2/1) シルト 白色粒・焼土粒が微量に混じる
- 8 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 下層に瓦片が多量に堆積する 締まりゆるい
- 9 黒褐色 (10YR2/2) シルトに黒褐色 (10YR2/3) 砂が混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 10 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 締まりあり
- 11 黒色 (10YR2/1) シルト
- 12 暗褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 13 暗褐色 (10YR3/2) シルトにふい暗褐色 (10YR5/7) 砂が混じる 泥岩粒が微量に混じる 締まりあり
- 14 黒色 (10YR2/1) シルト 炭化物・白色粒が輪模様に混じる 締まりあり

相生-SS18



相生-SS18

- 1 黒色 (10YR4/4) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 砂 炭化物・焼土粒が多量に混じる 瓦片が多量に堆積する 締まりゆるい
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂に黒褐色 (10YR3/1) シルトブロックが混じる 炭化物・焼土粒が混じる
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる 瓦片が混じる
- 6 暗褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 7 暗褐色 (10YR2/1) シルトに黒褐色 (10YR5/6) 砂が混じる 炭化物・白色粒が輪模様に混じる 締まりあり

相生-SK4

261.7m

- 相生-SK4
1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 瓦片が多量に堆積する 締まりゆるい

相生-SK24

261.7m

- 相生-SK24
1 暗褐色 (10YR3/4) 砂 炭化物・砂粒が微量に混じる 締まりあり

相生-SS17

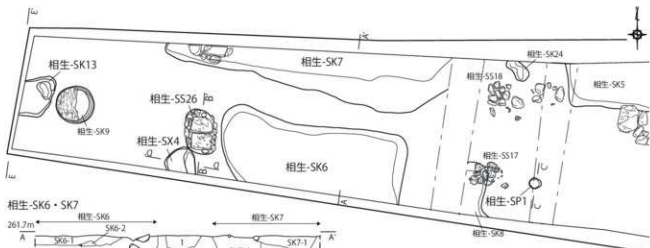
262.1m

- 相生-SS17
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒・瓦片が混じる 締まりゆるい
 - 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりゆるい
 - 3 暗褐色 (10YR2/3) 砂に暗褐色 (10YR3/4) 砂ブロックが混じる 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
 - 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
 - 5 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 瓦片・卵石が多量に混じる 締まりゆるい
 - 6 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる

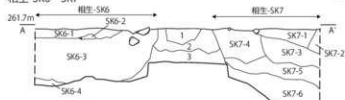
0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第165図 相生工区 (2)



相生-SK6・SK7



相生-SK6

- SK6-1 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- SK6-2 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- SK6-3 黒褐色(10YR2/2)砂 瓦片・木片・径7~8cmの石が多数に埋積する 締まりゆるい
- SK6-4 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 砂利が混じる 締まりゆるい

相生-SK7

- SK7-1 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土ブロックが混じる
- SK7-2 黒褐色(10YR2/2)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- SK7-3 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・白色粒が混じる 泥岩粒が極微量に混じる
- SK7-4 黒色(10YR2/1)砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土ブロックが混じる 締まりゆるい
- SK7-5 黒色(10YR2/1)砂 木片が混じる 締まりゆるい
- SK7-6 黒色(10YR2/1)砂 木片が多数に混じる 締まりゆるい

- 1 黒褐色(10YR3/2)シルトに暗褐色(10YR4/4)砂が混入している 炭化物が微量に混じる 泥岩粒が極微量に混じる 締まりあり
- 2 黒褐色(2.5Y3/2)シルトに暗褐色(2.5Y4/2)砂が混入している 炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色(2.5Y3/2)シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい

相生-SK26

261.6m



相生-SK26

- 1 黒褐色(10YR3/1)シルトに暗褐色(10YR3/3)砂が混じる 炭化物・砂利が微量に混じる 泥岩粒が極微量に混じる
- 2 黒褐色(10Y3/2)シルトに暗褐色(10YR3/4)砂が混じる 炭化物・白色粒が混じる 泥岩粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 3 黒褐色(10YR3/2)シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりあり

相生-SK1

261.6m



相生-SK1

- 1 黒褐色(2.5Y3/2)シルトに黒褐色(10Y2/3)砂が混じる 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりゆるい

相生-SK4

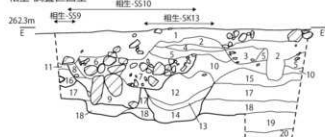
261.6m



相生-SK4

- 1 黒褐色(10YR2/2)シルト 砂が混じる 炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりゆるい

相生-調査区西壁



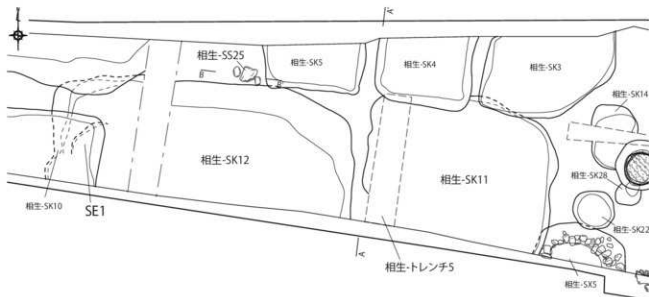
相生-調査区西壁

- 1 表土
- 2 黒褐色(10YR3/2)シルト 径2cmの石・炭化物・焼土粒・白色粒・砂が混じる 締まりゆるい
- 3 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒・瓦片が混じる
- 4 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 5 黒褐色(10YR2/3)砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 6 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 径5~10cmの石を詰める
- 7 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 炭化物・焼土粒が混じる 径5~10cmの石・割石を詰める
- 8 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 9 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 10 暗褐色(10YR3/3)砂 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる
- 11 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 炭化物・焼土粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 12 暗褐色(10YR3/3)砂に赤い・黄褐色(10YR4/3)砂が混入している 炭化物・焼土粒・白色粒が混じる 締まりゆるい
- 13 黒褐色(10YR3/1)シルトに赤い・黄褐色(10YR4/3)砂が混入している 炭化物・焼土粒・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 14 黒褐色(10YR2/3)シルト 砂が混じる 炭化物・焼土粒が極微量に混じる
- 15 黒褐色(2.5Y3/2)砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 16 黒褐色(10YR3/2)シルト 炭化物・焼土粒・白色粒が極微量に混じる 径10cmの石を詰める 締まりゆるい
- 17 黒褐色(10YR3/1)シルトに暗褐色(10YR3/3)砂が混じる 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 18 黒褐色(10YR3/1)シルト 炭化物・泥岩粒・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 19 黒褐色(10YR3/1)シルトに暗褐色(10YR4/4)粗粒砂が混じる 泥岩粒が極微量に混じる 締まりあり
- 20 黒色(10YR2/1)シルト

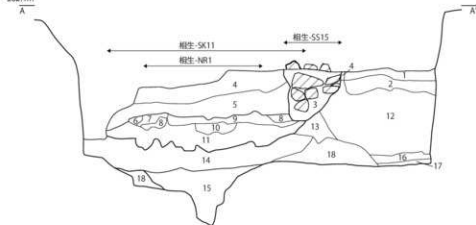
0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第166図 相生工区 (3)



相生-トレンチ5
262.4m

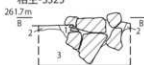


相生-トレンチ5

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・焼土粒・砂利が混じる 締まりあり
- 2 I 層に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる
径 15 cmの石を積む
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒・径2~4 cmの石が混じる
締まりあり
- 5 黒褐色 (10YR2/2) シルト 砂が混じる 炭化物が微量に混じる
泥質粒が極微量に混じる 締まりゆるい
- 6 黒褐色 (10YR3/1) シルト 締まりゆるい
- 7 褐色 (10YR4/4) 粗粒砂に黒褐色 (10YR3/1) シルトブロックが混じる
泥質粒が極微量に混じる
- 8 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗粒砂に黒褐色 (10YR3/1) シルトブロックが混じる
- 9 黒色 (10YR2/1) シルトに灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂が混じる 締まりゆるい

- 10 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂に黒色 (10YR2/1) シルトが混じる
泥質粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 11 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗粒砂に黒色 (10YR2/1) シルトブロックが微量に混じる
締まりゆるい
- 12 黒褐色 (10YR2/1) シルト 炭化物・泥質粒・白色粒が極微量に混じる
締まりゆるい
- 13 黒色 (10YR2/1) シルトに灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂が混じる
締まりゆるい
- 14 黒色 (10YR2/1) シルトに灰黄褐色 (10YR5/2) 粗粒砂が混じる
炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 15 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂
- 16 黒褐色 (10YR2/2) シルト 締まりゆるい
- 17 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂
- 18 黒色 (2.5Y2/1) シルト 締まりゆるい

相生-SS25



相生-SS25

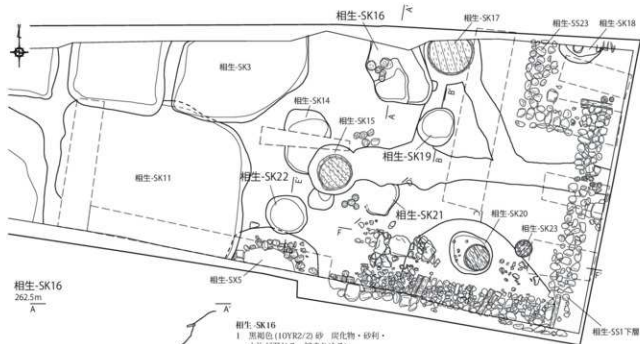
- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト
炭化物・白色粒が極微量に混じる
径 10~20 cmの石を積む
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂
炭化物・白色粒・砂利が微量に混じる
- 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト
炭化物・泥質粒・白色粒が極微量に混じる
締まりあり

0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

0 1:40(断面) 1m

第167図 相生工区 (4)



相生-SK16
262.5m



- 相生-SK16
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・砂利・木片が混じる 締まりゆるい
 - 2 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 炭化物・砂利が極微量に混じる 粘性強い、締まりゆるい
 - 3 黒褐色(2.5Y3/1)砂 炭化物・砂利・径2~3cmの石・瓦片が混じる 締まりゆるい
 - 4 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 粘性強い、締まりゆるい
 - 5 オリーブ黒色(7.5Y3/1)粗粒砂 締まりゆるい
 - 6 オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト 粘性強い、締まりゆるい

相生-SK19
261.6m



- 相生-SK19
- 1 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 径5~7cmの石が混じる 炭化物・砂利が極微量に混じる 締まりゆるい

相生-SK20
261.6m



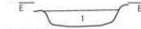
- 相生-SK20
- 1 黒褐色(10YR2/2)砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる 径2~3cmの石が混じる 締まりゆるい
 - 2 黒褐色(10YR2/2)シルト 砂が混じる 黒色(2.5Y2/1)シルトブロックが混じる 炭化物・泥付粒・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい
 - 3 黒褐色(10YR3/1)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりあり

相生-SK21
261.5m



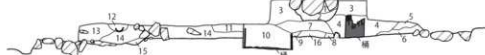
- 相生-SK21
- 1 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりあり

相生-SK22
261.4m



- 相生-SK22
- 1 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 砂・径5~10cmの石が混じる 締まりゆるい

相生-SK20-SK23-SS22
262.0m



相生-SK20-SS22

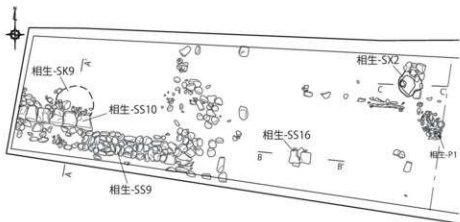
- 1 黒褐色(10YR2/3)砂に黄褐色(2.5Y5/6)砂が混じる 炭化物・砂利が混じる
- 2 黒褐色(10YR2/2)砂に赤い・黄褐色(10YR6/3)砂が混じる 締まりあり
- 3 黒褐色(10YR3/2)砂に黄褐色(2.5Y5/6)砂が混じる 炭化物・白色粒・粘土粒が混じる 締まりあり
- 4 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物・砂利が混じる 締まりゆるい
- 5 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・白色粒が混じる
- 6 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 7 黒色(10YR2/1)砂質シルト 炭化物・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
- 8 黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂

- 9 黒褐色(10YR3/1)砂 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 10 黒褐色(10YR2/2)砂に黄褐色(2.5Y5/6)砂が混じる 炭化物・径1cmの石が微量に混じる 締まりゆるい
- 11 黒褐色(10YR3/2)砂 炭化物・砂利が混じる 締まりあり
- 12 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 炭化物・径5~10cmの石が混じる
- 13 黒褐色(10YR2/1)砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 泥付粒が極微量に混じる 締まりあり
- 14 黒色(10YR2/1)砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる
- 15 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト 締まりゆるい
- 16 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 締まりゆるい

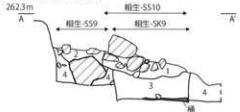
0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第168図 相生工区(5)



相生-SS9-SS10-SK9



相生-SS10・SS9・SK9

- 1 褐色 (10YR4/4) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物が微層に混じる 締まりゆるい
- 4 黒褐色 (10YR3/2) シルト 炭化物・肥石粒・白色粒が輪層に混じる 締まりあり

相生-SS16

262.0m



相生-SS16

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる 締まりゆるい
- 3 褐色 (10YR4/4) 細粒砂に黒褐色 (10YR2/3) 砂が厚に混じる 炭化物・白色粒が微層に混じる 締まりゆるい
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 瓦片・径 5cm の石・木片が多層に混じる 締まりゆるい

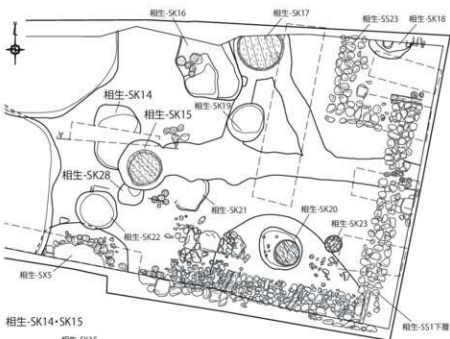
相生-SK2

261.8m

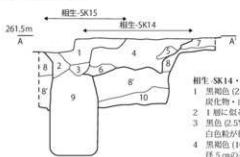


相生-SK2

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に暗褐色 (7.5YR3/4) 砂が混じる 炭化物が混じる 締まりゆるい



相生-SK14・SK15

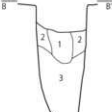


相生-SK14・SK15

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂が混じる 炭化物・白色粒が混じる 締まりゆるい
- 2 1層に混るが砂が多量に混じる 締まりゆるい
- 3 黒色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物・白色粒が微層に混じる 締まりゆるい
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・木片・径 5cm の石が混じる 締まりゆるい SK14 覆土
- 5 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物が微層に混じる 締まりゆるい SK14 覆土
- 6 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂が混じる 締まりゆるい SK14 覆土

相生-SK28

261.4m

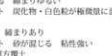


相生-SK28

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 砂 炭化物・焼土粒・径 2cm の石が混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる 締まりゆるい 粘性強い
- 3 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂・径 2cm の石が混じる 締まりゆるい 粘性強い

相生-SK20

261.4m



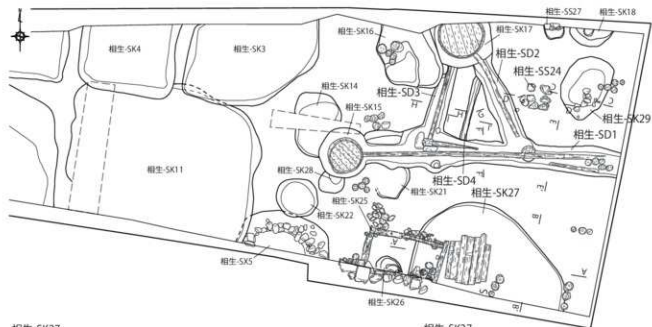
相生-SK20

- 7 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 炭化物・肥石粒・白色粒が輪層に混じる 締まりゆるい
- 8 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・白色粒が輪層に混じる 締まりあり
- 8' 黒色 (2.5Y2/1) シルト 締まりあり
- 9 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂が混じる 粘性強い
- 10 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗粒砂

0 1:80(平面) 2m

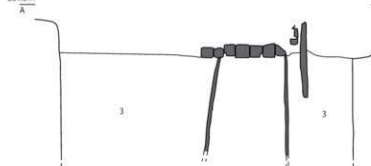
0 1:40(断面) 1m

第169図 相生工区 (6)



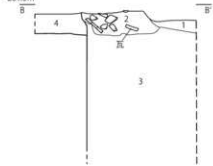
相生-SK27

261.6m



相生-SK27

261.6m



相生-SK27

- 1 黒色 (2.5Y2/1) シルトに黒色 (2.5Y3/2) 砂が混じる 炭化物・白色粒が微層に混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/3) シルト 砂・10cmの小礫・瓦片が混じる 炭化物が極微層に混じる 締まりゆるい
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) シルトに黒色 (2.5Y2/1) シルト・砂が混じる 粘性強い 締まりゆるい
- 4 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 砂が混じる 炭化物・白色粒が極微層に混じる 締まりあり

相生-SK29

260.8m



相生-SK29

- 1 黒褐色 (10YR3/1) シルトに
にぶい黒褐色 (10YR6/3) 砂が混じる
炭化物・白色粒が極微層に混じる
締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/2) シルト 砂が混じる
白色粒が極微層に混じる
締まりゆるい

相生-SS24

261.9m



相生-SS24

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・
粘土粒が微層に混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/3) 砂 炭化物・白色粒・
粘土粒が微層に混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 砂質シルト
炭化物・白色粒が微層に混じる

相生-SD1

261.7m

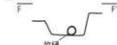


相生-SD1

- 1 黒褐色 (10YR3/1) シルト 砂が混じる
炭化物・泥岩粒が極微層に混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト 砂が混じる
径 3cmの石が混じる 炭化物・粘土粒が微層に混じる
泥岩粒が極微層に混じる 締まりゆるい
- 3 黒色 (10YR2/1) シルト 砂が混じる
炭化物・泥岩粒が極微層に混じる 締まりゆるい
- 4 黒色 (2.5Y2/1) シルト 粘性強い 締まりゆるい
- 5 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・泥岩粒が極微層に混じる
締まりあり

相生-SD1

261.4m



相生-SD2

261.4m



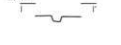
相生-SD3

261.4m



相生-SD4

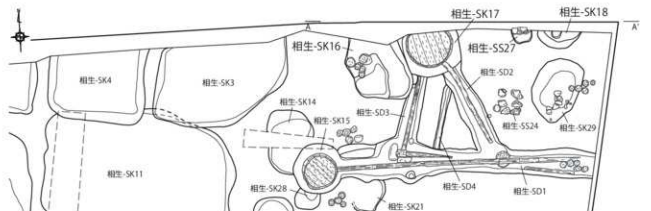
261.4m



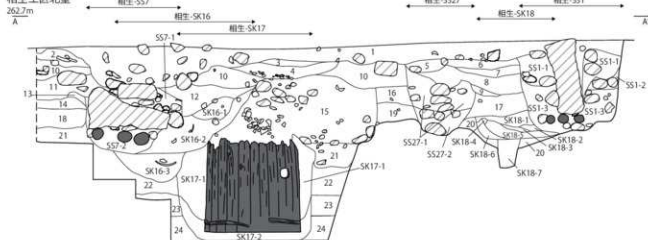
0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第170図 相生工区 (7)



相生工区北壁



相生工区調査区北壁(素図)

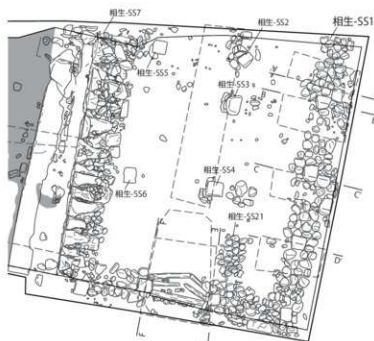
- 1 表土
- 2 概況焼土層
- 3 黒褐色(10YR2/2)砂とオリーブ褐色(5Y4/4)砂が互層状に堆積する
炭化物・白色粘が混じる
- 4 径2～3mmの小石が堆積する
- 5 暗褐色(10YR3/3)砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる
- 6 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 7 炭化物と黄褐色(2.5Y5/3)砂が互層状に堆積する 締まりゆるい
- 8 黄褐色(2.5Y5/3)砂 焼土粒・炭化物・白色粘が極微量に混じる 締まりあり
- 9 に近い黄褐色(10YR5/3)顆粒砂
- 10 黒褐色(10YR2/2)砂 に黄褐色(2.5Y5/4)砂が混じる
焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- 11 黒褐色(10YR2/2)砂 に黄褐色(2.5Y5/4)砂が混じる
焼土粒・炭化物・白色粘が混じる 締まりあり
- 12 黒褐色(10YR2/2)砂 に黄褐色(2.5Y5/4)砂が混じる
焼土粒・炭化物・白色粘が混じる 締まりあり
- 13 暗褐色(10YR2/2)砂 炭化物・白色粘が極微量に混じる 締まりゆるい
- 14 暗灰黄(2.5Y4/2)砂 径2～5mmの小石が混じる
炭化物・白色粘が極微量に混じる
- 15 黒褐色(10YR3/2)砂に、近い黄褐色(10YR5/4)砂が混じる
径10～15mmの石・炭化物が混じる 締まりあり
- 16 黒褐色(10YR3/2)砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 17 黒褐色(10YR2/3)砂 焼土粒・炭化物・白色粘が微量に混じる
- 18 黒褐色(2.5Y3/1)シルトに近い黄褐色(10YR5/4)砂が混じる
炭化物・白色粘が極微量に混じる 締まりあり
- 19 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 20 褐色(10YR4/4)砂質シルト 炭化物・白色粘が極微量に混じる
- 21 暗灰黄色(2.5Y3/1)シルトに黒褐色(2.5Y3/1)シルトが混じる
焼土粒・炭化物・砂が微量に混じる 締まりゆるい
- 22 黒褐色(2.5Y3/1)シルトに砂が混じる 炭化物・白色粘が極微量に混じる
締まりゆるい
- 23 黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト 炭化物・白色粘が極微量に混じる 締まりゆるい
- 24 黒色(2.5Y2/1)シルト 締まりゆるい 粘性強い

- 相生-SK16**
- SK16-1 黒褐色(2.5Y2/2)砂に黒褐色(10YR3/1)シルトブロックが混じる
焼土粒・炭化物・白色粘が極微量に混じる 締まりあり
- SK16-2 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- SK16-3 黒褐色(10YR2/2)砂質シルト 木片が多量に堆積する 締まりゆるい
- 相生-SK17**
- SK17-1 黒褐色(2.5Y3/1)シルトに黒色(2.5Y2/1)シルトが混じる
砂が混じる 締まりゆるい
- SK17-2 黒色(2.5Y2/1)シルトに黒褐色(2.5Y3/1)シルトが混じる
締まりゆるい 粘性強い
- 相生-SK18**
- SK18-1 黒褐色(10YR3/2)砂に黒褐色(10YR3/1)シルトブロックが混じる
焼土粒・炭化物が混じる 締まりあり
- SK18-2 焼土層
- SK18-3 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト 焼土粒・炭化物が極微量に混じる
- SK18-4 焼土層
- SK18-5 炭化物が堆積している
- SK18-6 焼土層
- SK18-7 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト
- 相生-SS1**
- SS1-1 黒褐色(10YR3/2)砂 径10cm～15cmの石を包める
焼土粒・炭化物・砂が微量に混じる 締まりゆるい
- SS1-2 暗褐色(10YR3/3)砂に褐色(10YR4/4)シルトブロックが混じる
径10～15cmの石を包める 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- SS1-3 黒褐色(2.5Y3/2)砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる 締まりあり
- 相生-SS7**
- SS7-1 黒褐色(2.5Y3/2)シルトに黒褐色(10YR2/2)砂が混じる 径10mmの石を包める
炭化物・白色粘が極微量に混じる 締まりゆるい 粘性強い
- SS7-2 黒褐色(2.5Y3/1)シルト 締まりゆるい 粘性強い
- 相生-SS27**
- SS27-1 黒褐色(10YR2/2)砂 焼土粒・炭化物が微量に混じる
- SS27-2 黒褐色(10YR2/2)砂 白色粘が極微量に混じる 締まりゆるい

0 1:20(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第172図 相生工区(9)



相生-SS1トレンチA

262.5m



相生-SS1トレンチA

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる。炭化物・焼土粒が微量に混じる。径 10～20 cmの石を積む
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が極微量に混じる。径 10～20 cmの石を積む
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる。径 5 cmの石が混入する
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる。炭化物・焼土粒が微量に混じる。締まりあり
- 5 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 粘砂
- 6 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる
- 7 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物が極微量に混じる

相生-SS1トレンチB

262.5m



相生-SS1トレンチB

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる。焼土粒・炭化物が微量に混じる。径 10～20 cmの石を積む
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が極微量に混じる。径 10～20 cmの石を積む
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる。焼土粒・炭化物が微量に混じる。締まりあり
- 4 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 粘砂
- 5 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる
- 6 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物が極微量に混じる

相生-SS1トレンチC

262.5m



相生-SS1トレンチC

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる。径 10～20 cmの石を積む
- 2 下層に黄褐色 (2.5Y5/3) 細粒砂が堆積する。黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が極微量に混じる。径 10～20 cmの石を積む
- 3 黒色 (2.5Y2/1) シルトに黄褐色 (2.5Y5/3) 細粒砂が極微量に混じる。泥付が微量に混じる
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/3) 砂が混じる。炭化物・白色粒・焼土粒が混じる。締まりあり
- 5 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂 炭化物が微量に混じる
- 6 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる。締まりあり
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/3) 砂が混じる。炭化物・白色粒・焼土粒が混じる。締まりあり
- 8 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物が混じる。炭化物が微量に混じる。締まりあり
- 9 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒が混じる。炭化物が微量に混じる。締まりあり
- 10 黒色 (10YR1.7/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる。締まりあり

相生-SS1トレンチE

262.4m



相生-SS1トレンチE東面

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる。締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂 焼土粒が微量に混じる。締まりあり
- 3 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる。径 10～20 cmの石を積む
- 4 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる。締まりあり
- 5 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物に互層状に堆積する。締まりあり
- 6 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・白色粒が極微量に混じる。締まりあり
- 7 1層に広がる炭化物・白色粒・焼土粒が少ない
- 8 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる。締まりあり
- 9 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黒褐色 (10YR3/3) 砂が混じる。炭化物・白色粒が極微量に混じる。締まりあり
- 10 黒色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる。締まりあり
- 11 黒色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 12 黒色 (2.5Y2/1) シルト
- 13 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる

相生-SS1トレンチD

262.5m



相生-SS1トレンチD

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる。炭化物・焼土粒が混じる。径 10～20 cmの石を積む
- 2 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる。締まりあり
- 3 黒色 (10YR2/1) 砂に褐色 (10YR4/4) 砂が混じる。炭化物が微量に混じる。締まりあり
- 4 黒色 (10YR1.7/1) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる
- 5 黒色 (2.5Y2/1) シルト

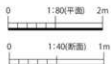
相生-SS1トレンチE

262.4m



SS1トレンチE西面

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/4) 砂が混じる。炭化物・白色粒・焼土粒が混じる。締まりあり
- 2 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物が極微量に混じる。径 10～15 cmの石を積む
- 3 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・焼土粒が極微量に混じる。締まりあり
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる
- 5 黒色 (2.5Y2/1) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる。締まりあり
- 6 黒色 (2.5Y2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる



第173図 相生工区 (10)



相生-SS5

262.2m
A



相生-SS5下層

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 砂に黒褐色 (10YR3/3) 砂ブロックが混じる 炭化物・焼土粒が微量に混じる
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂
炭化物・焼土粒が微量に混じる 締まりあり

相生-SS6

262.2m
B

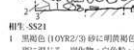


相生-SS6

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂
炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる 締まりゆるい
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂
炭化物・焼土粒・砂利が微量に混じる

相生-SS21

262.1m
C

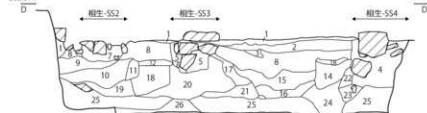


相生-SS21

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 砂に明褐色 (2.5Y7/6) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 砂 灰・炭化物・焼土ブロックが帯状に堆積する
- 3 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・焼土粒が微量に混じる

相生-トレンチ1

262.5m
D



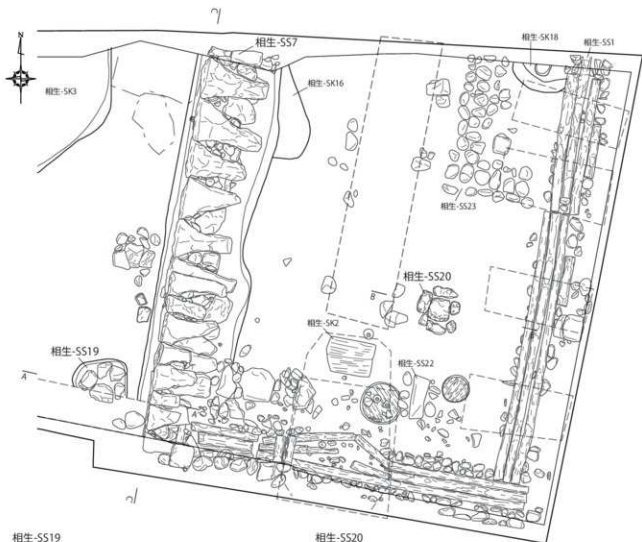
相生-トレンチ1

- 1 に灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂 炭化物・白色粒・漆喰片が混じる 締まりあり
- 2 に灰・黄褐色 (10YR4/3) 砂にに灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 3 黒色 (10YR1.7/1) シルト
- 4 黒褐色 (10YR2/3) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 炭化物が極微量に混じる 締まりゆるい
- 5 黒褐色 (10YR2/2) 砂にに灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 係2cmの石が混じる
- 6 黒褐色 (10YR2/2) シルトにに灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が極微量に混じる 締まりあり
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 砂にに灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 締まりあり
- 8 黒褐色 (10YR2/3) 砂にに灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 9 黒褐色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物・炭屑粒・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 10 黒褐色 (10YR3/2) 砂にに灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 係2cmの石が混じる 締まりあり
- 11 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 係2cmの石が混じる
- 12 暗褐色 (10YR3/3) 砂にに灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒が混じる 締まりあり
- 13 に灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂に黒褐色 (10YR3/2) 砂ブロックが混に混じる 白色粒が混じる 締まりあり
- 14 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる
- 15 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒が混に混じる 炭化物が極微量に混じる 締まりあり
- 16 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が極微量に混じる 係2cmの石が混じる
- 17 黒色 (2.5Y2/1) シルト 炭化物・炭屑粒・白色粒が極微量に混じる 締まりあり
- 18 黒褐色 (10YR3/2) 砂にに灰・黄褐色 (10YR5/4) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 係2cmの石が混じる 締まりあり
- 19 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 係2cmの石が混じる
- 20 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒が混じる 係3cmの石が混じる 締まりあり
- 21 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 22 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・砂利が微量に混じる
- 23 黒褐色 (2.5Y3/2) 砂質シルト 炭化物が微量に混じる 締まりゆるい
- 24 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が極微量に混じる 係2cmの石が混じる
- 25 黒褐色 (2.5Y3/1) シルトに黒褐色 (10YR2/2) 砂が混に混じる 炭化物・白色粒が極微量に混じる 炭化物が微量に混じる
- 26 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト 炭化物・炭屑粒・白色粒が極微量に混じる

0 1:80(平面) 2m

0 1:40(断面) 1m

第174図 相生工区 (11)



相生-SS19

262.1m

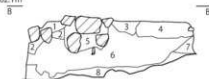


相生: SS19

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・焼土粒が混じる
泥粒が微量に混じる 締まりあり
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる
泥粒が微量に混じる
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる
- 5 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・白色粒・焼土粒が少量に混じる
泥粒が微量に混じる
- 6 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト 炭化物・白色粒・焼土粒が混じる
- 7 黒褐色 (10YR3/1) シルトに黒褐色 (10YR3/2) 砂が混じる
炭化物・白色粒が微量に混じる

相生-SS20

262.1m

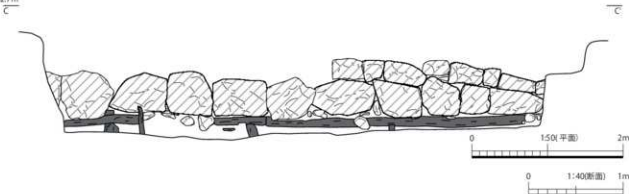


相生: SS20

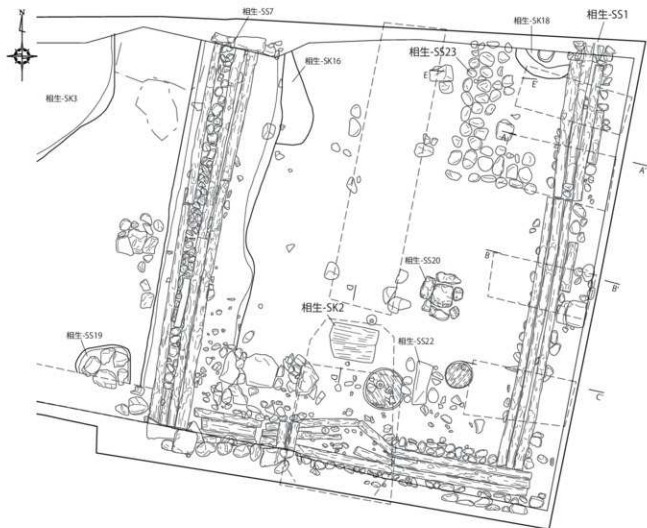
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・白色粒が微量に混じる 締まりあり
- 2 黒褐色 (10YR2/4) シルトに白・黄褐色 (10YR5/4) 砂が混じる
炭化物が微量に混じる 泥粒が微量に混じる 締まりゆるい
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・径1cmの石が混じる 締まりあり
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂粒が混じる 泥粒が微量に混じる 締まりあり
- 5 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる
1辺30cm程度の方形の白石を横切
- 6 黒色 (10YR2/1) 砂質シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる
- 7 黒褐色 (10YR3/1) シルト 炭化物・白色粒が微量に混じる 泥粒が微量に混じる

相生-SS7

262.7m



第175図 相生工区 (12)



相生-SS1下層
262.5m
A



相生-SS1下層
262.5m
B



相生-SS1下層
262.5m
C



相生-SS1下層

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂 炭化物・砂利が混じる
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂 炭化物・径1cmの石が混じる

相生-SK2
262.2m
D



相生-SK2

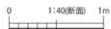
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂に黄褐色 (2.5Y5/4) 砂が混に混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 跡あり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂に黄褐色 (2.5Y5/4) 砂が混に混じる
炭化物・白色粒・焼土粒が混じる 跡あり

相生-SS23
262.0m
E

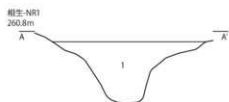
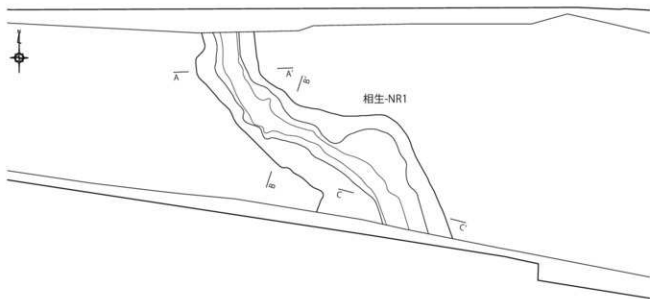


相生-SS23

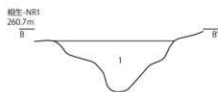
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 砂
炭化物・白色粒・焼土粒が微量に混じる 跡あり



第176図 相生工区 (13)



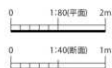
相生-NR1
1 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂



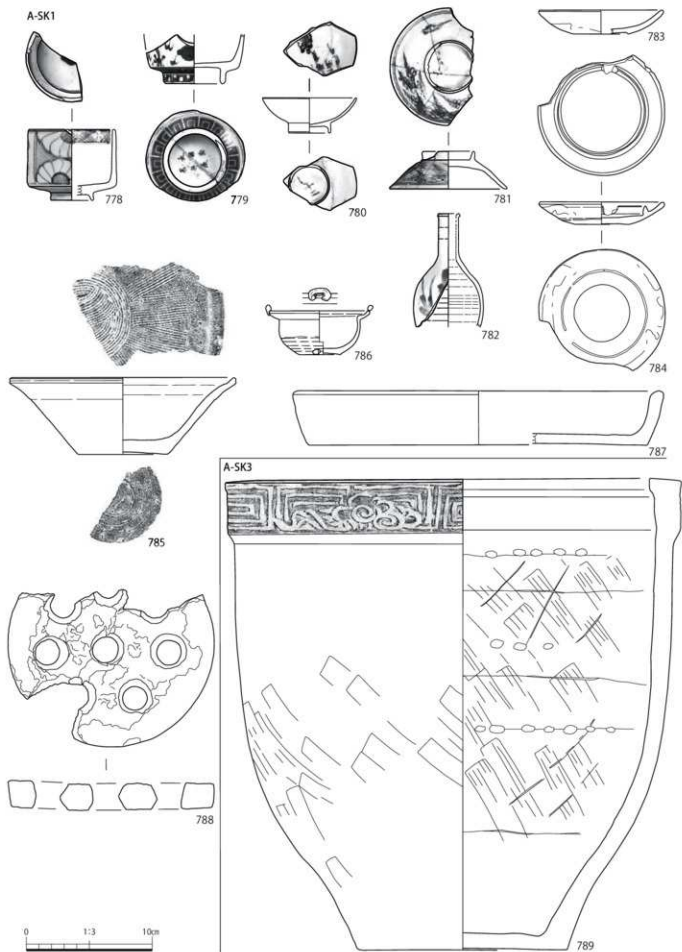
相生-NR1
1 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂



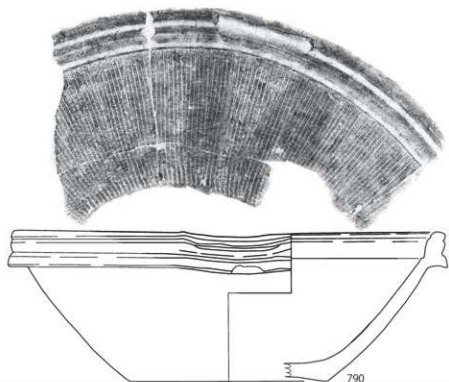
相生-NR1
1 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗粒砂



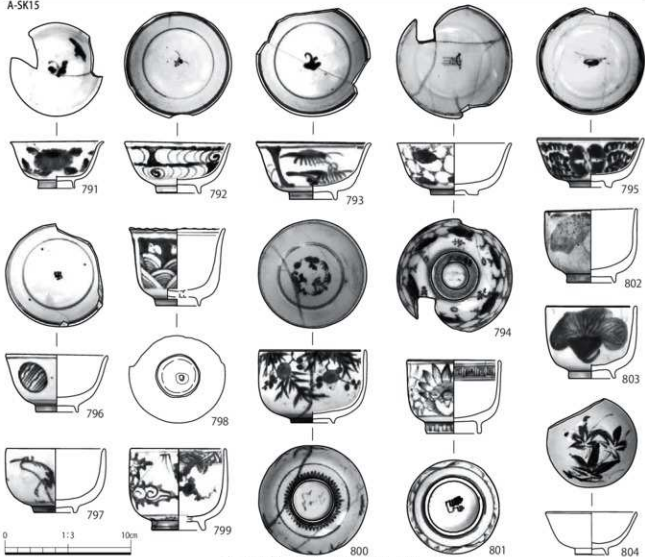
第177图 相生工区 (14)



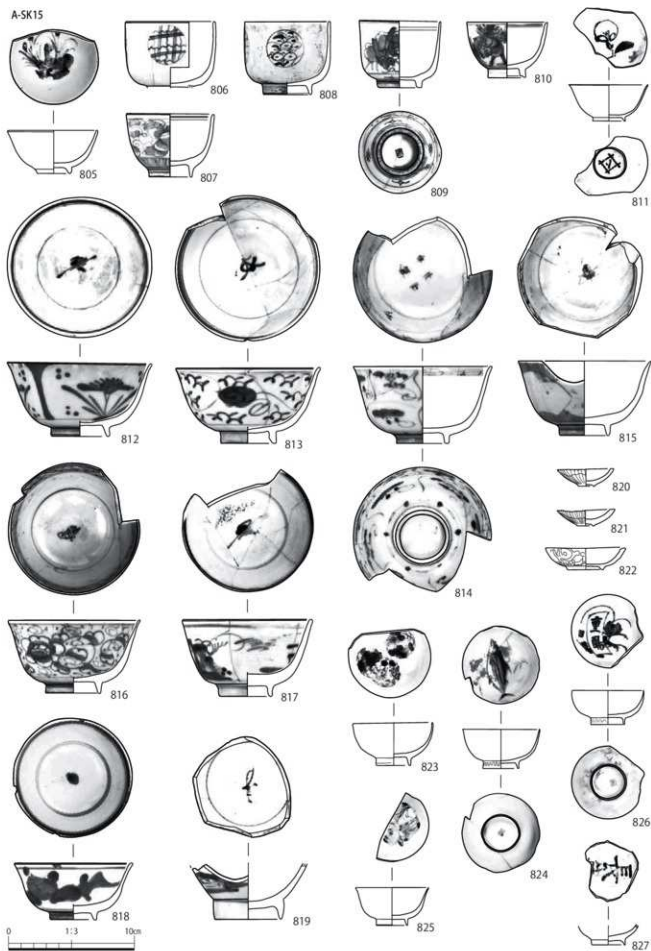
第178图 A地点出土遺物(1)



A-SK15

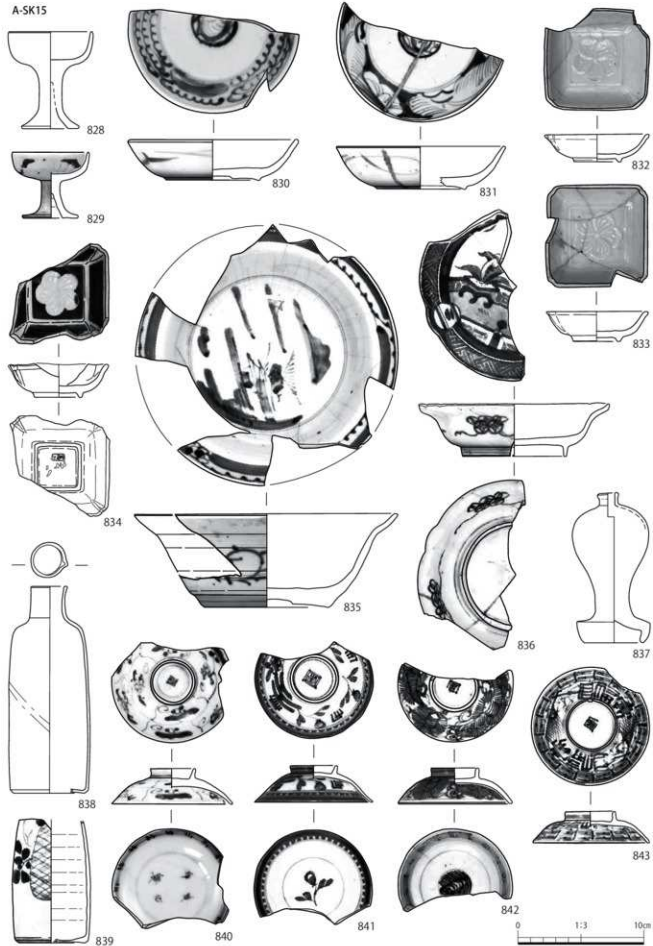


第 179 图 A 地点出土遗物 (2)



第 180 图 A 地点出土物 (3)

A-SK15



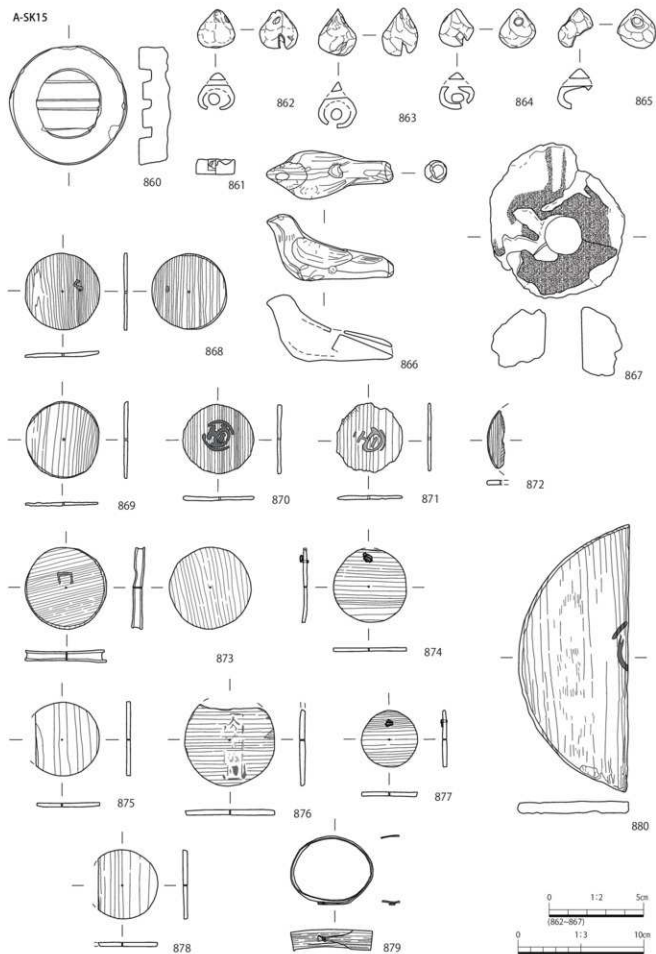
第 181 图 A 地点出土遗物 (4)

A-SK15

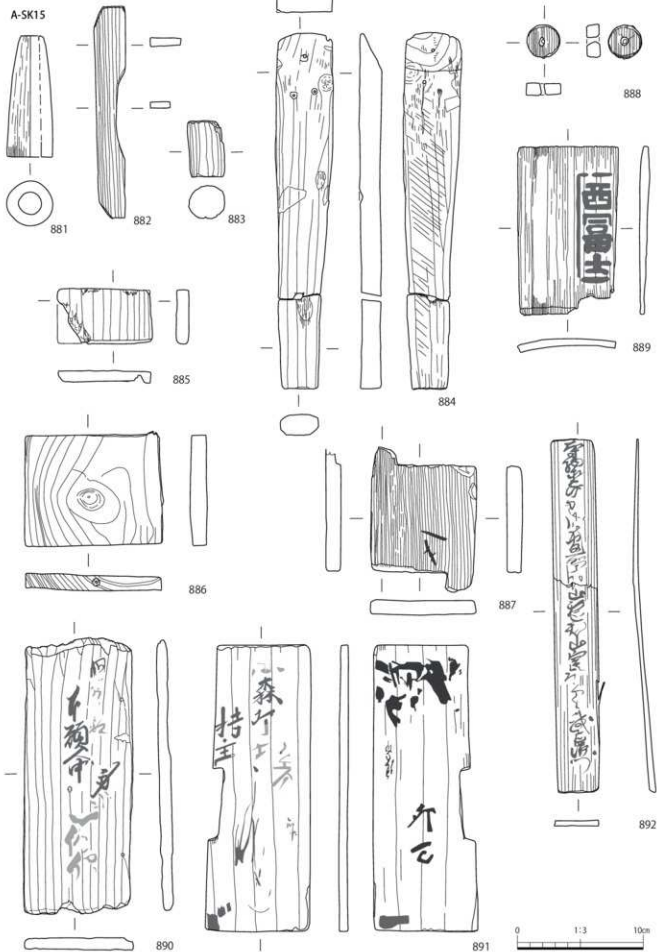


第 182 图 A 地点出土遺物 (5)

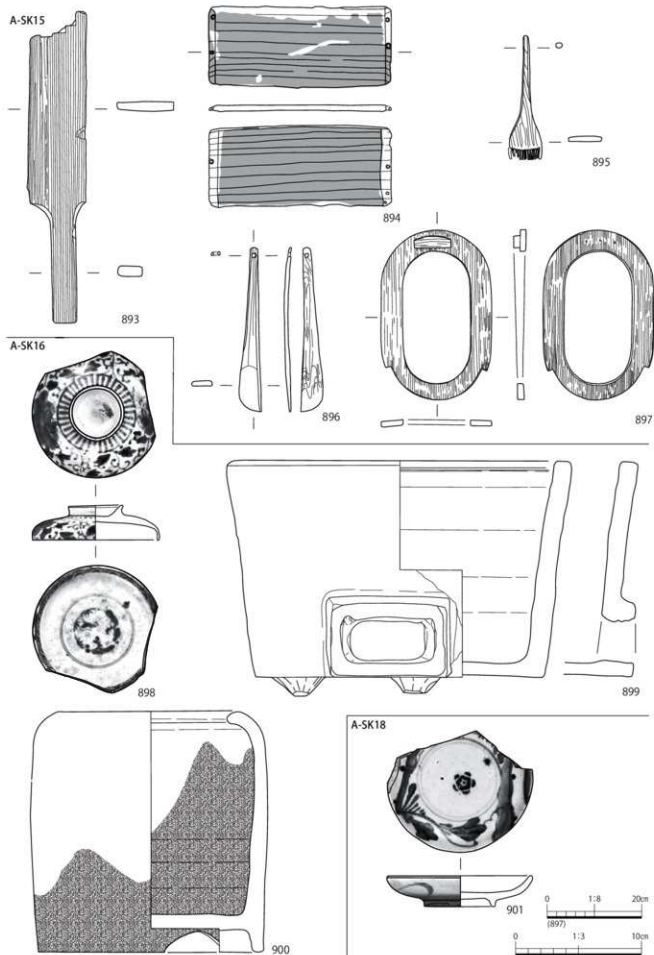
A-SK15



第 183 图 A 地点出土遺物 (6)

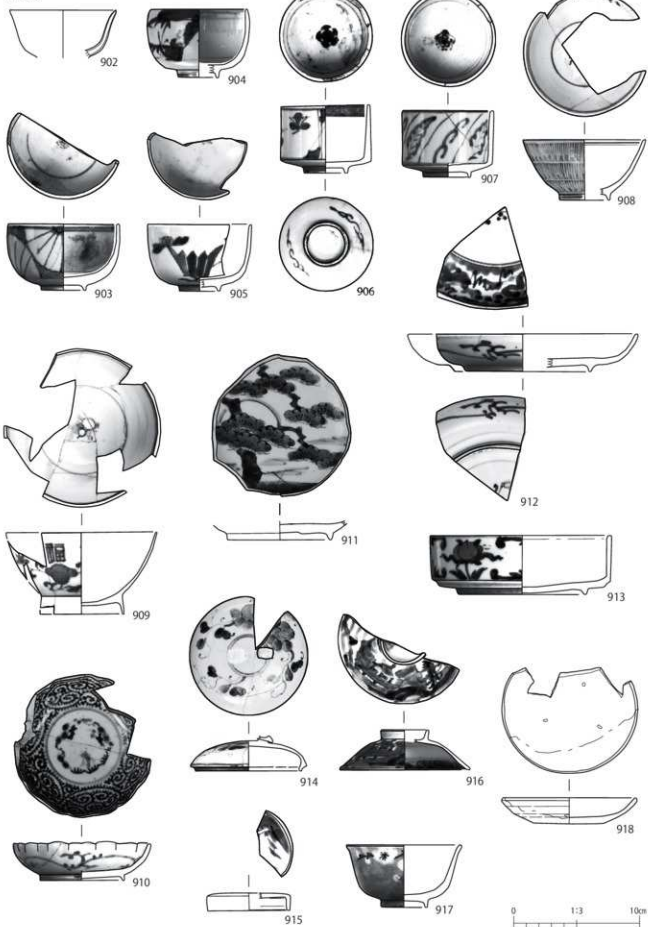


第184图 A地点出土遺物(7)



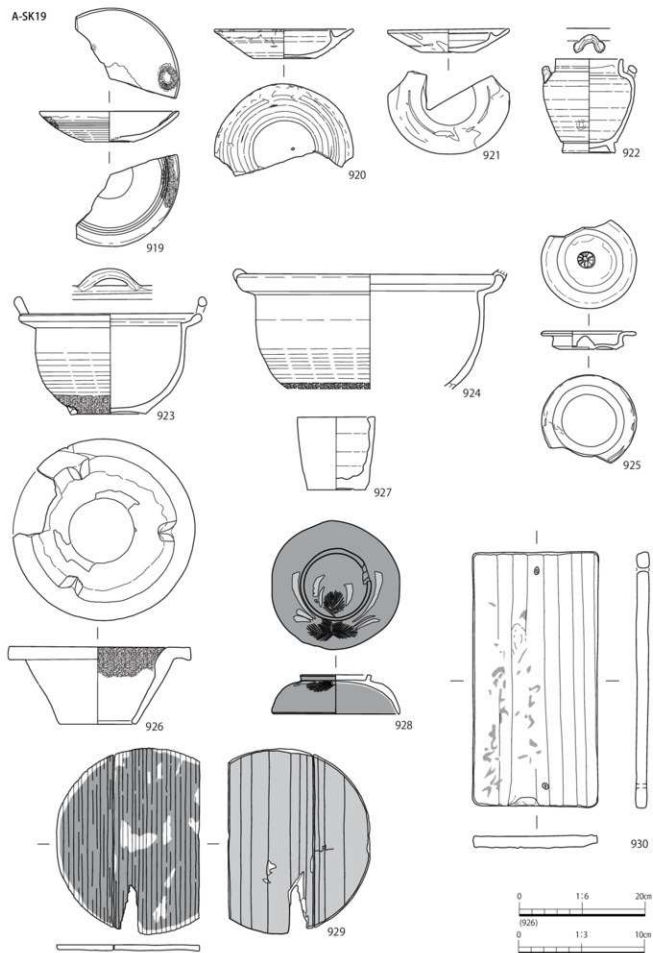
第 185 图 A 地点出土遗物 (8)

A-SK19



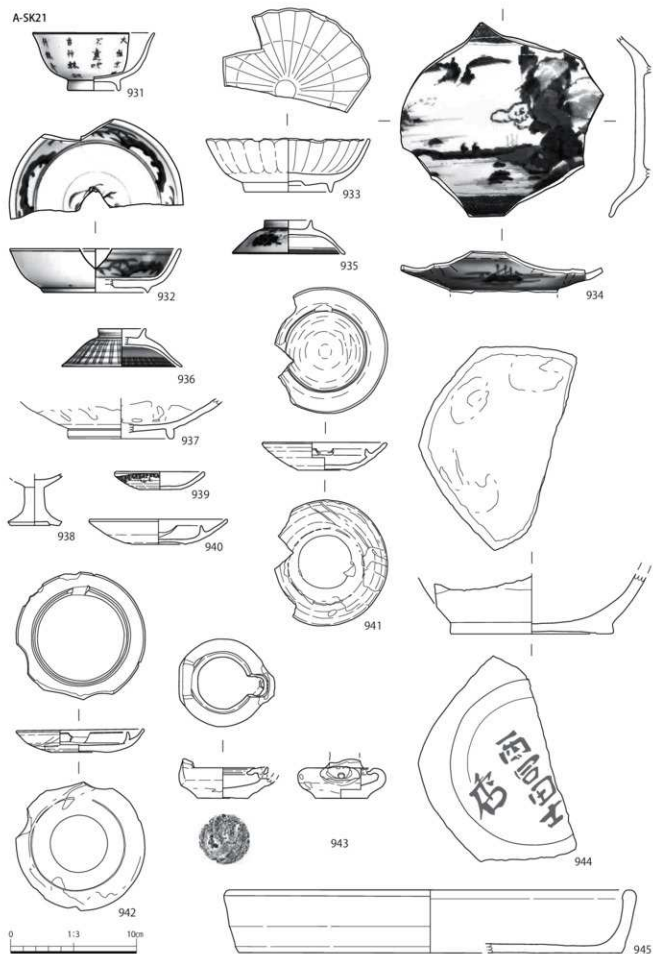
第 186 图 A 地点出土遺物 (9)

A-SK19

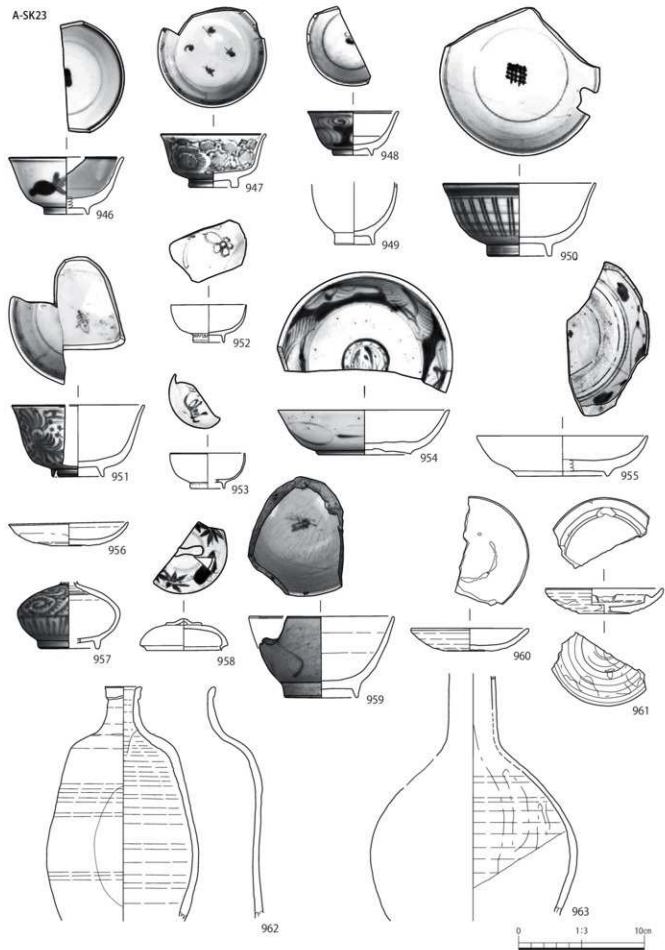


第 187 图 A 地点出土遗物 (10)

A-SK21

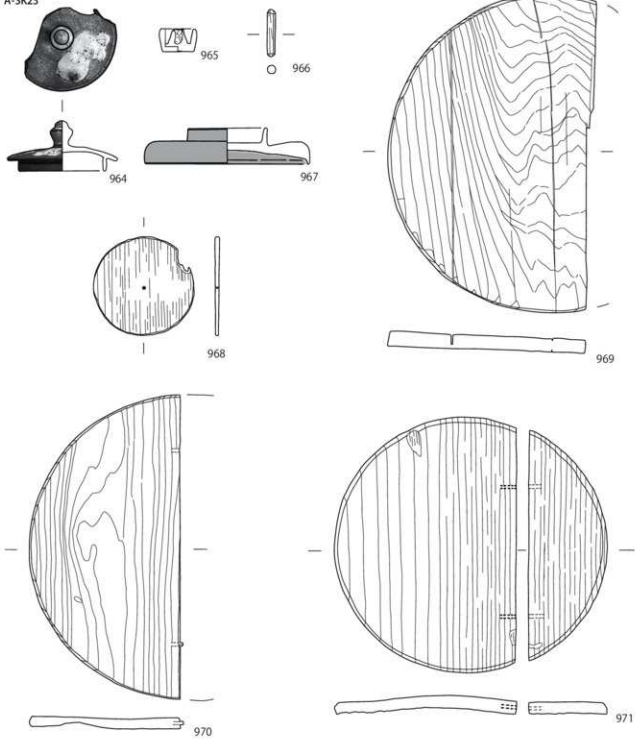


第 188 图 A 地点出土遗物 (11)

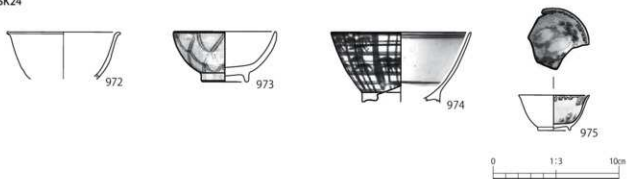


第 189 图 A 地点出土遗物 (12)

A-SK23

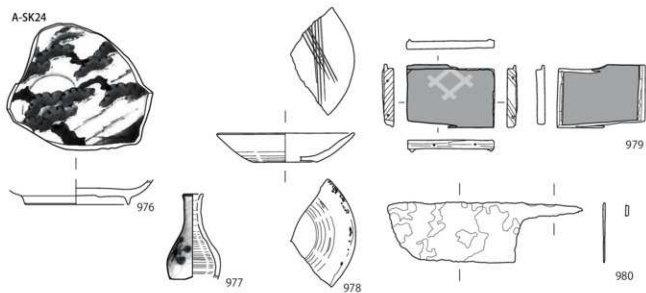


A-SK24

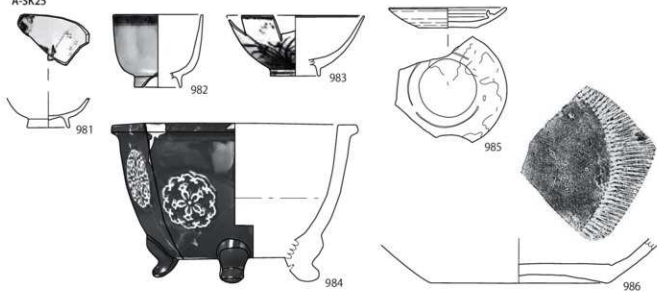


第 190 图 A 地点出土遺物 (13)

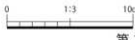
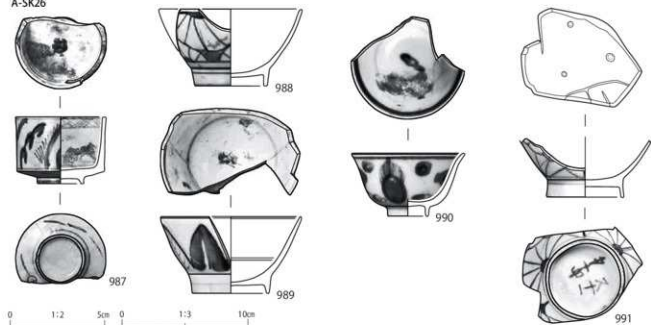
A-SK24



A-SK25

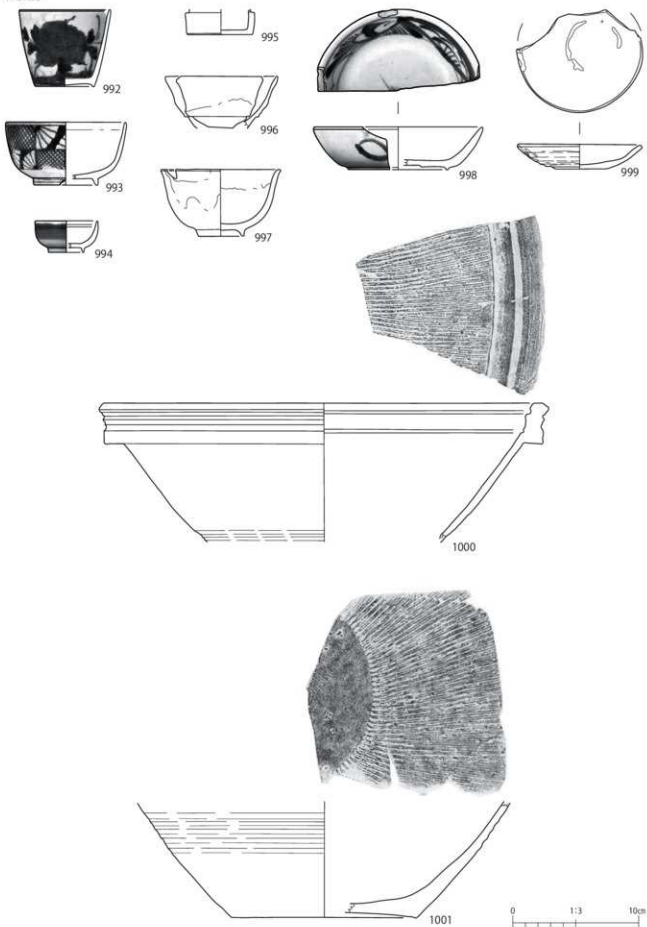


A-SK26



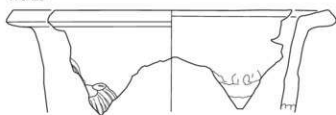
第 191 图 A 地点出土遗物 (14)

A-SK26

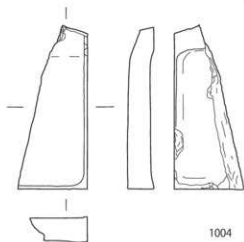


第 192 图 A 地点出土遗物 (15)

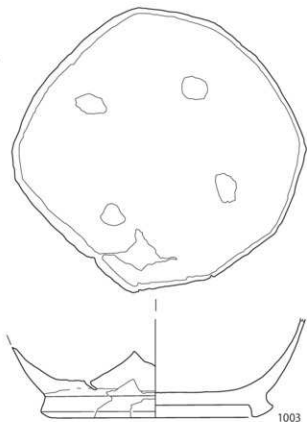
A-SK26



1002



1004



1003

A-SK29



1005



1007



1008



1009



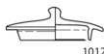
1006



1010



1011



1012

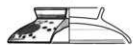


1013



第 193 图 A 地点出土遗物 (16)

A-SK29



1014



1015



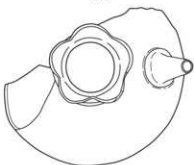
1016



1017



1018



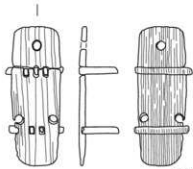
1020



1021



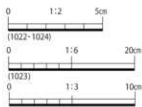
1022



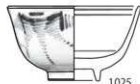
1023



1024



A-SK37



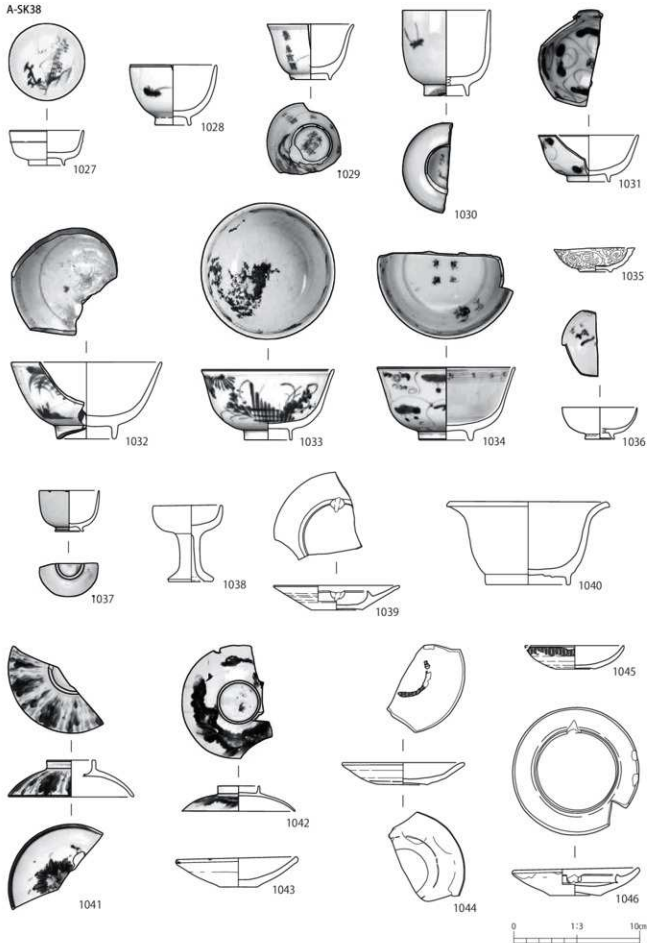
1025



1026

第 194 图 A 地点出土遺物 (17)

A-SK38



第 195 图 A 地点出土遗物 (18)

A-SK38



1047



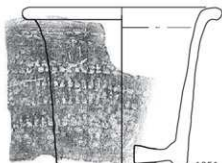
1048



1049



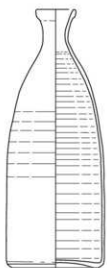
1050



1051



1052



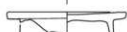
1053



1056



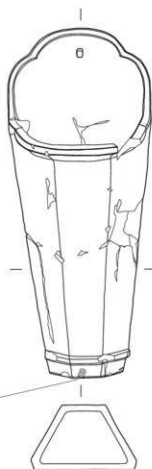
1054



1057



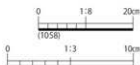
1055



1058

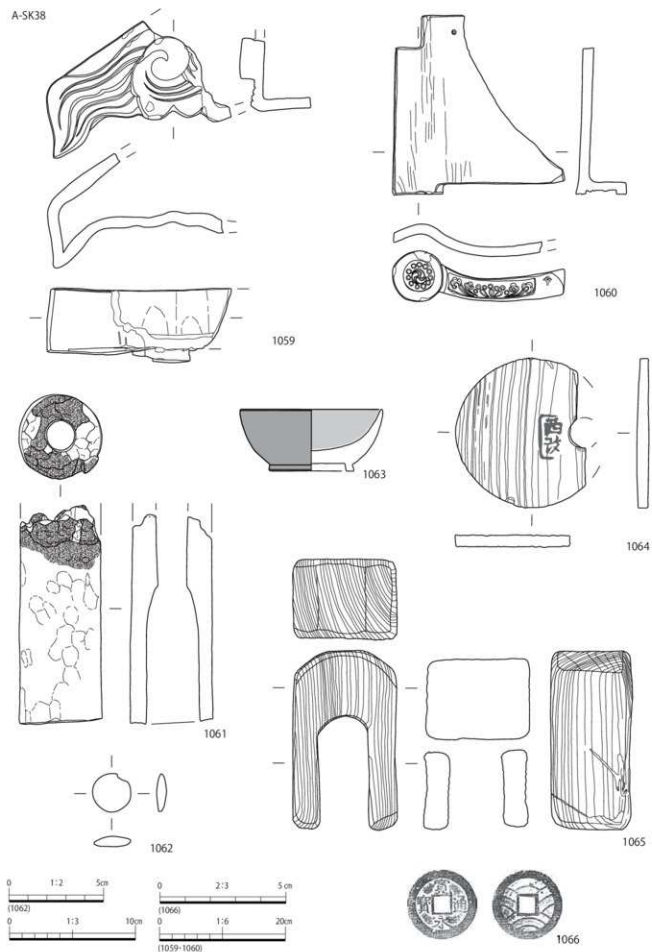


※拓本は原寸大

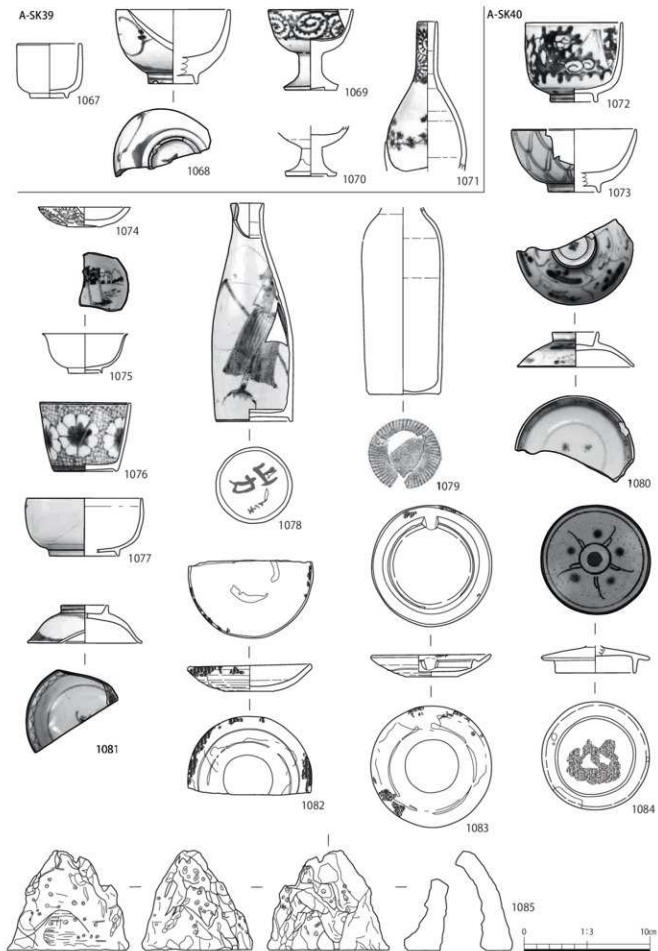


第 196 图 A 地点出土遺物 (19)

A-SK38

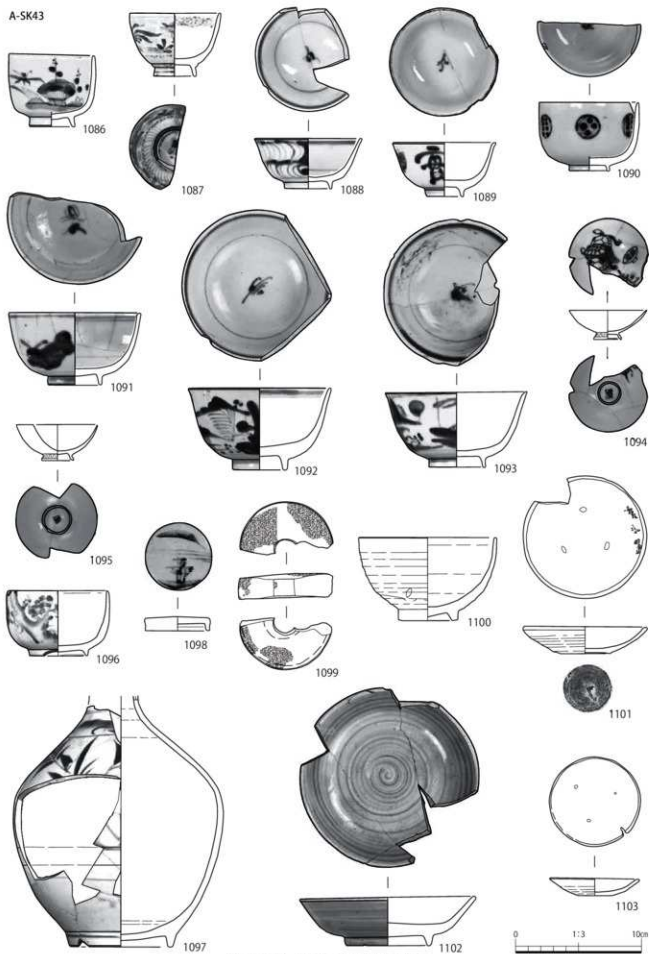


第 197 图 A 地点出土遗物 (20)



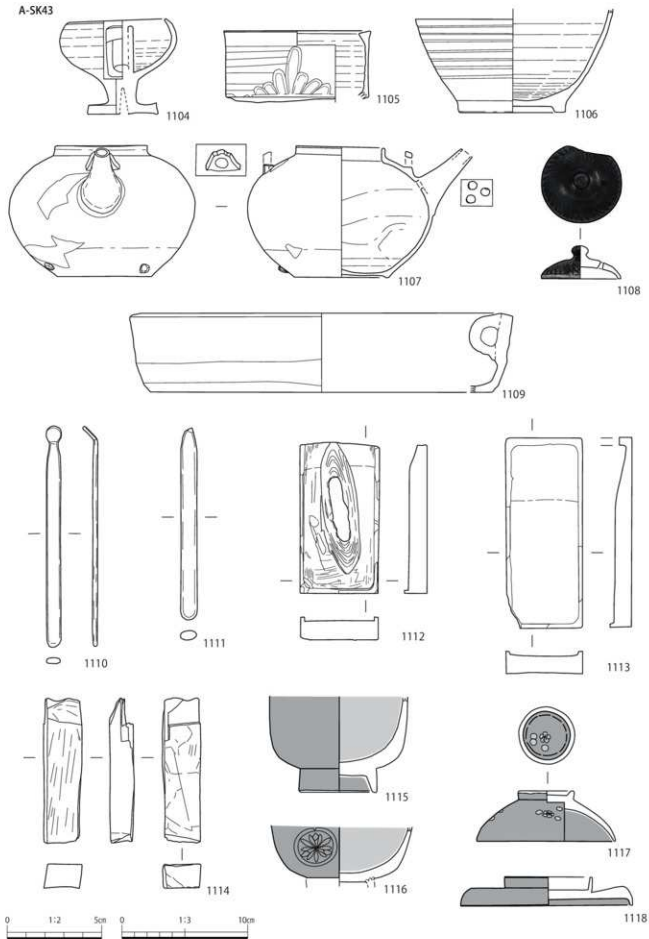
第198图 A地点出土遗物(21)

A-SK43



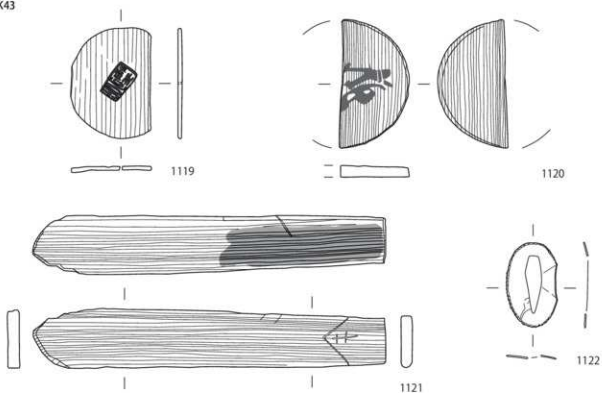
第 199 图 A 地点出土遺物 (22)

A-SK43

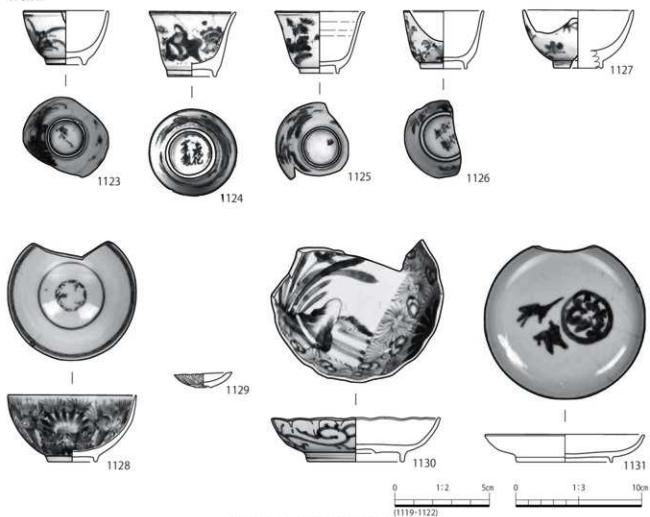


第 200 图 A 地点出土遗物 (23)

A-SK43

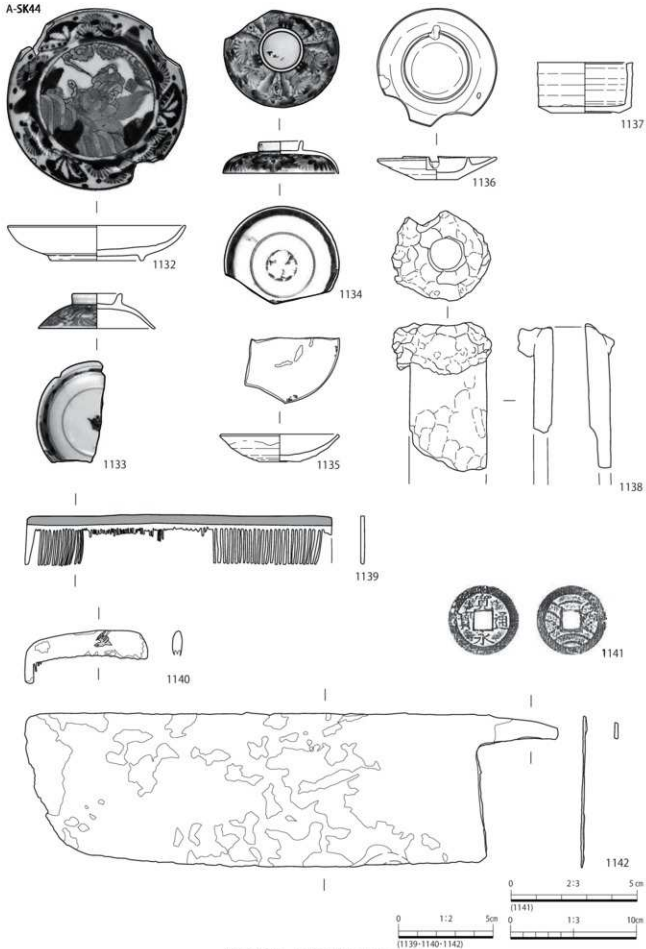


A-SK44



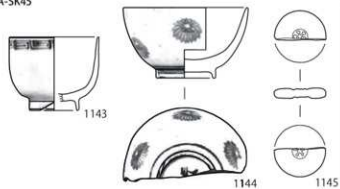
第 201 图 A地点出土遗物 (24)

A-SK44

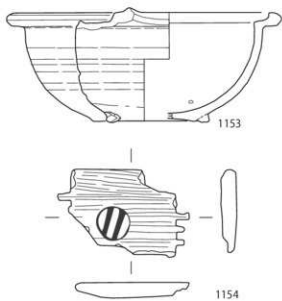
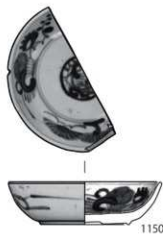
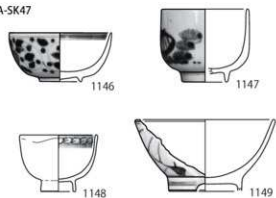


第 202 图 A 地点出土遺物 (25)

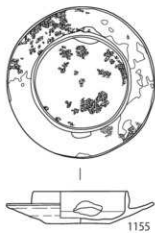
A-SK45



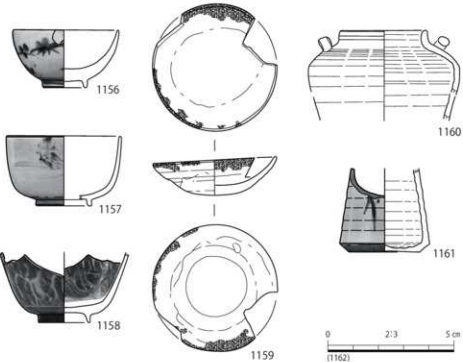
A-SK47



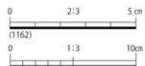
A-SK49



A-SK60

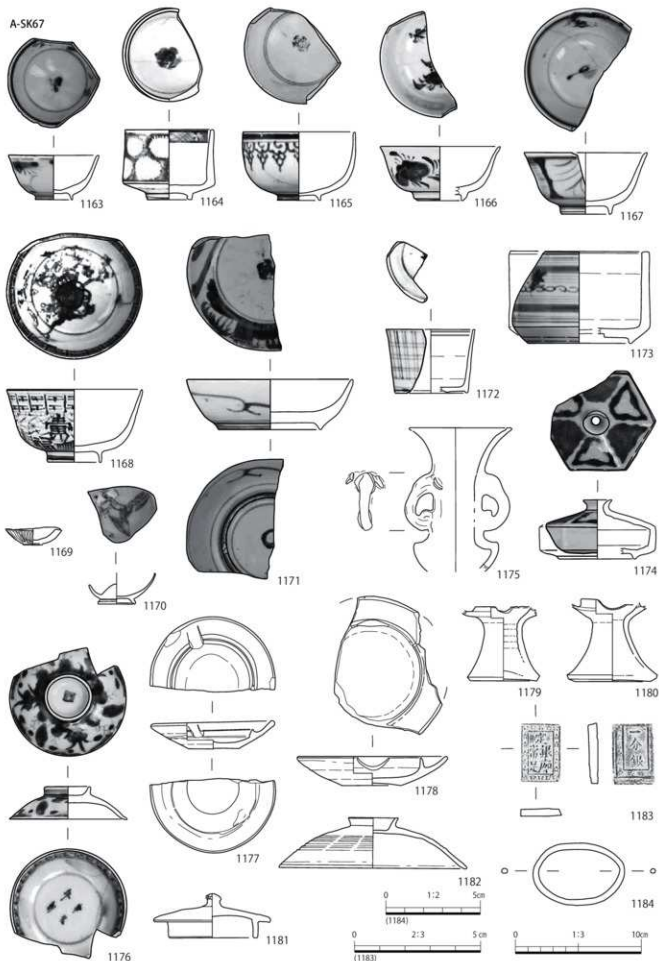


A-SK66

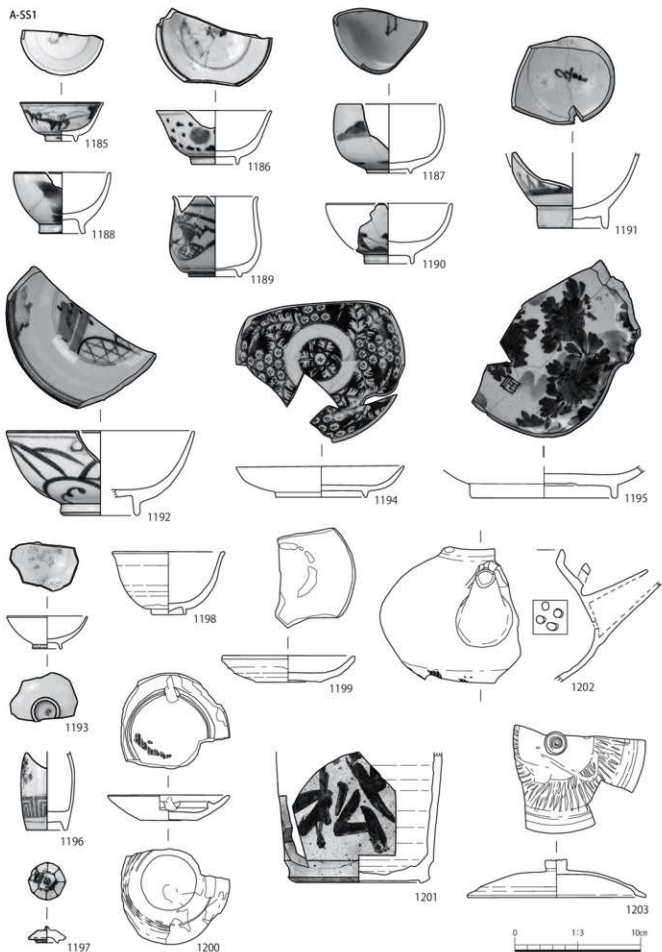


第 203 图 A 地点出土遗物 (26)

A-SK67

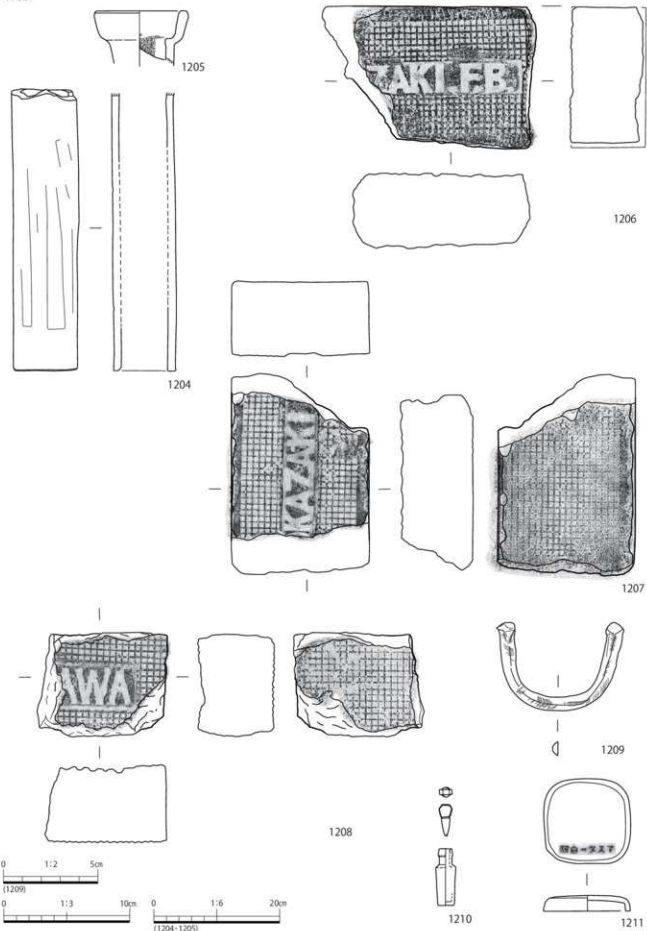


第 204 图 A 地点出土遺物 (27)



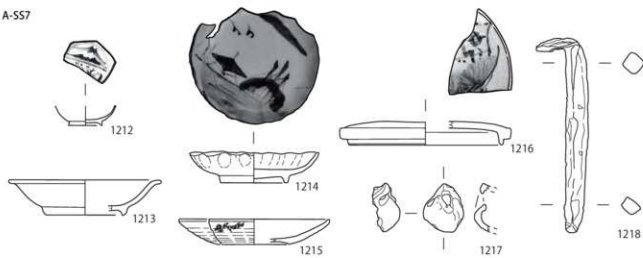
第 205 图 A 地点出土遺物 (28)

A-551

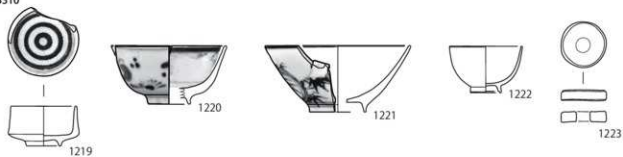


第 206 图 A 地点出土遺物 (29)

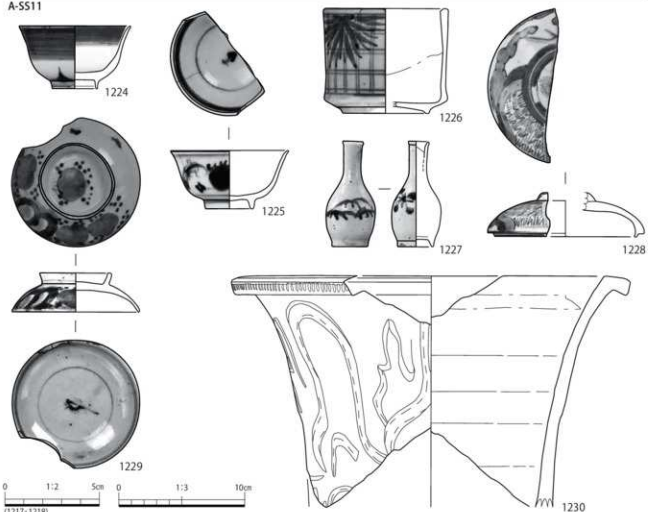
A-SS7



A-SS10

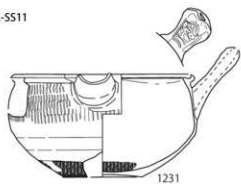


A-SS11



第 207 图 A 地点出土遗物 (30)

A-SS11

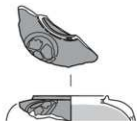


1231



1232

A-SS12



1233

A-SS37



1234



1235



1236



1241



1242



A-SE1



1237



1238



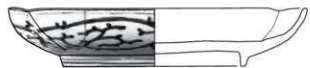
1239



1243

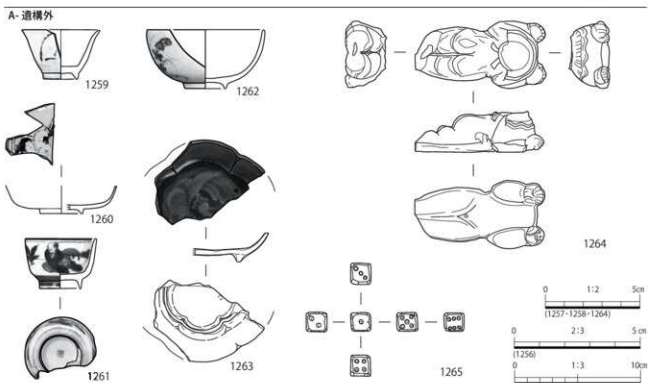
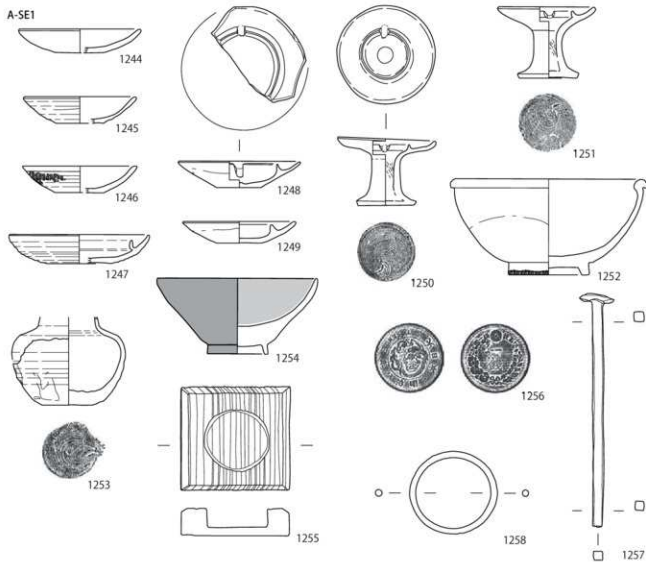


1243



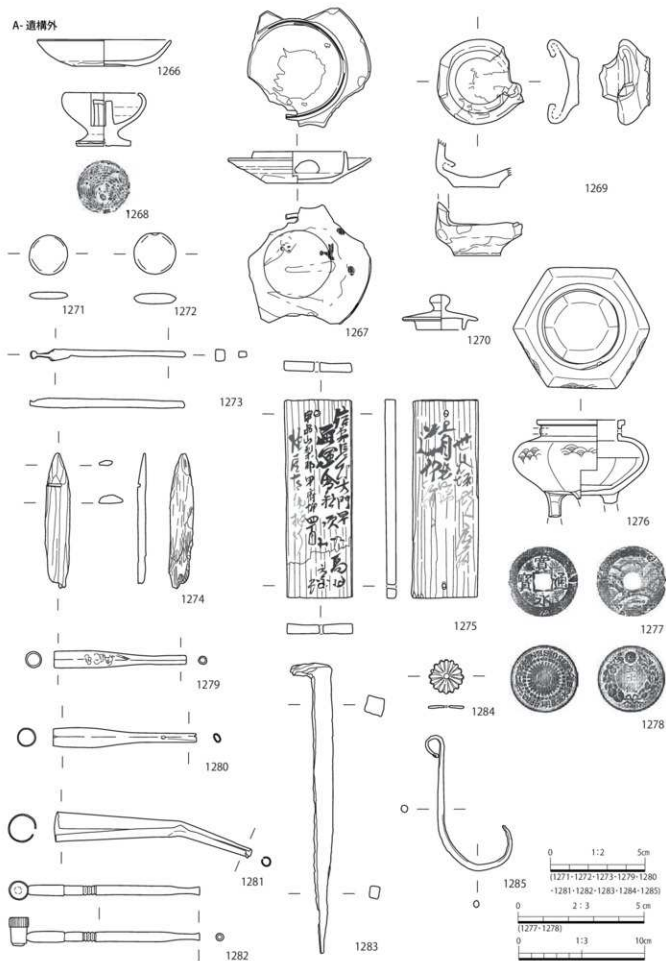
1240

第 208 图 A 地点出土遗物 (31)



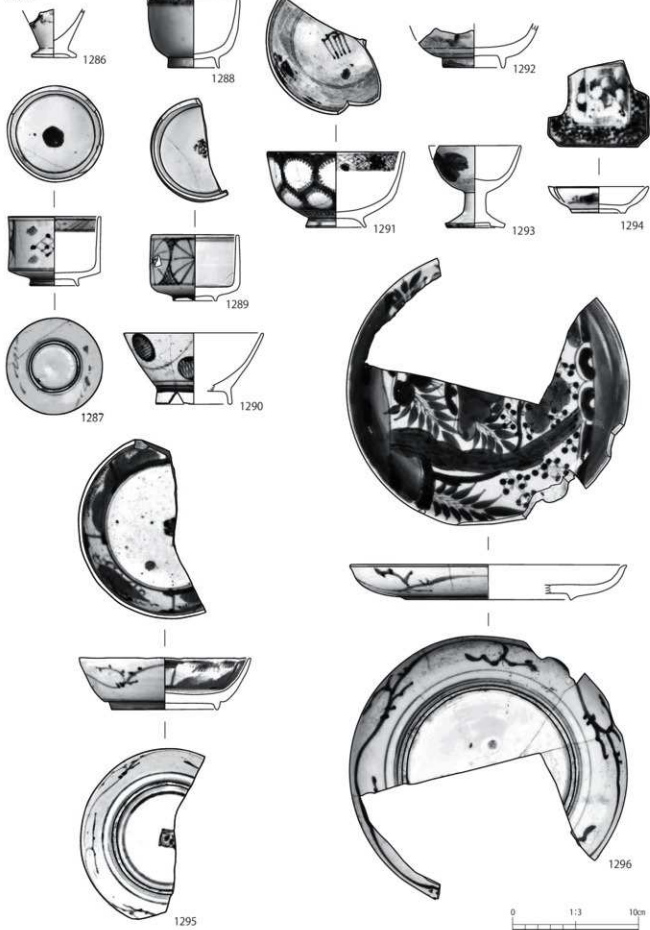
第 209 图 A地点出土遺物 (32)

A- 遺構外



第 210 图 A 地点出土遺物 (33)

B-SK2



第 211 图 B 地点出土遗物 (1)

B-SK2



1297



1305



1306



1307



1298



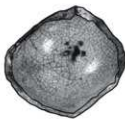
1299



1300



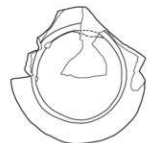
1301



1302



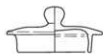
1303



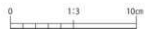
1304



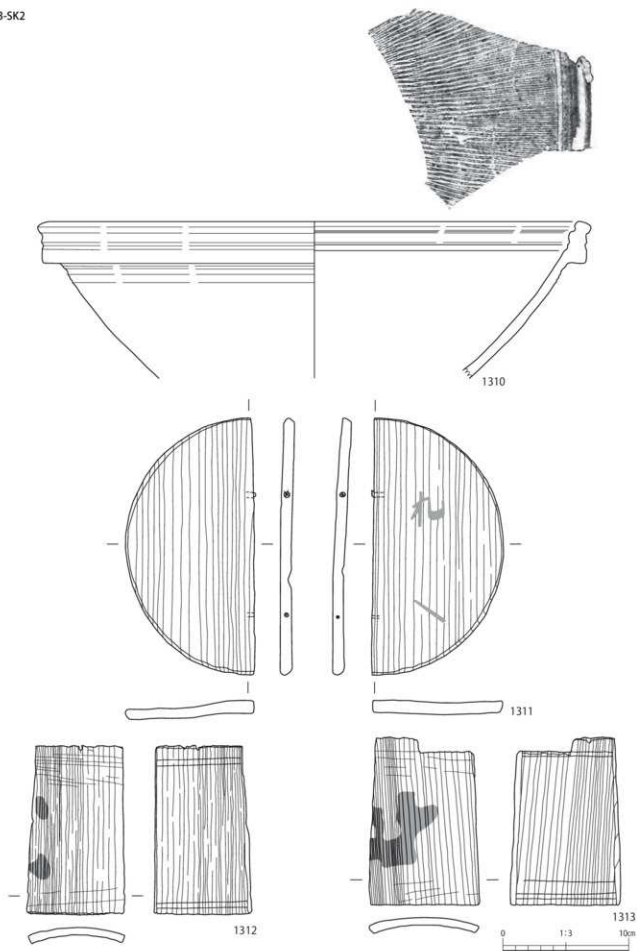
1308



1309

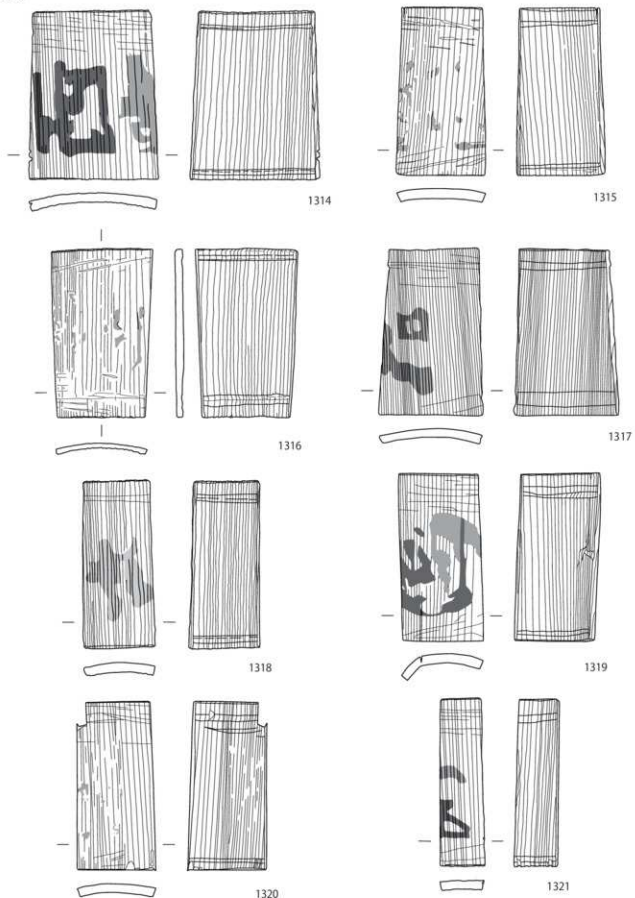


第 212 图 B 地点出土遗物 (2)



第 213 图 B 地点出土遗物 (3)

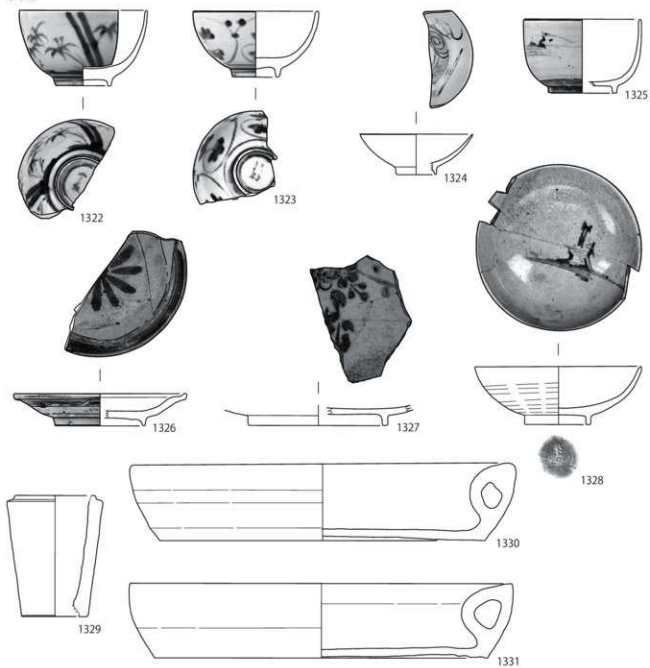
B-SK2



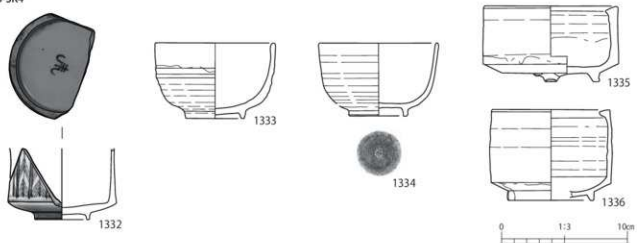
第 214 图 B地点出土遗物 (4)

0 1:3 10cm

B-SK3



B-SK4



第 215 图 B 地点出土遗物 (5)

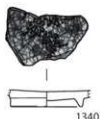
B-SK15



1337



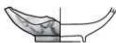
1339



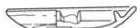
1340



1338



1341



B-S51



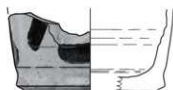
1342



1343



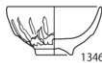
1344



1345



B-遺構外



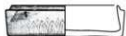
1346



1348



1349



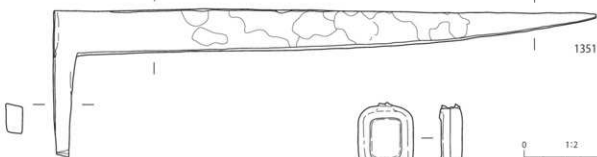
1347



1350



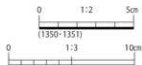
1351



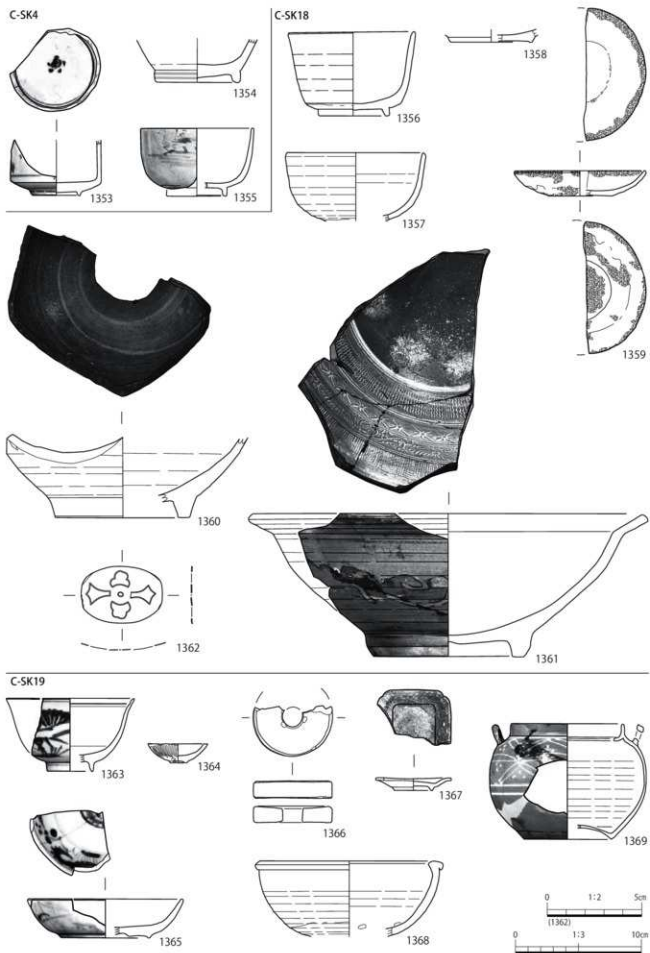
1351



1352

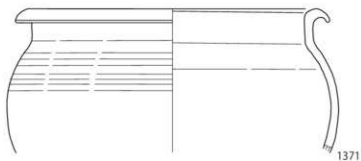
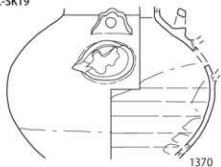


第216図 B地点出土遺物(6)

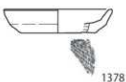
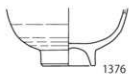
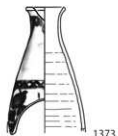
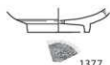
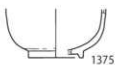


第 217 图 C 地点出土遗物 (1)

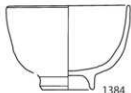
C-SK19



C-SK20



C-SK21



1380

1381

1382



1386

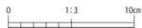
C-SK22



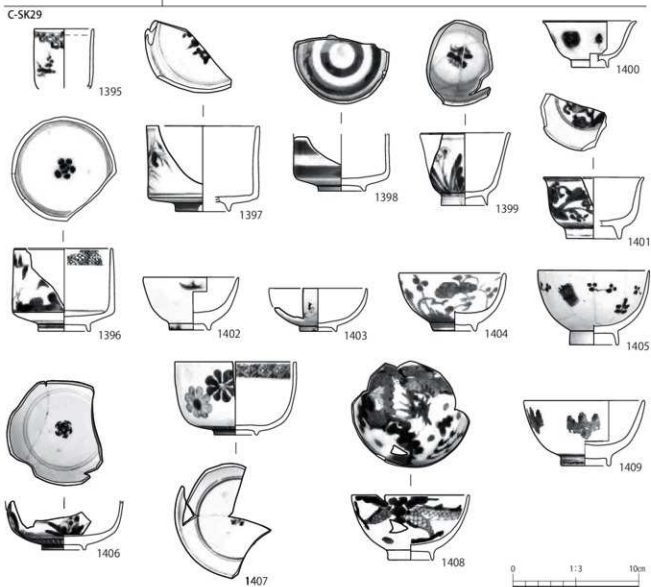
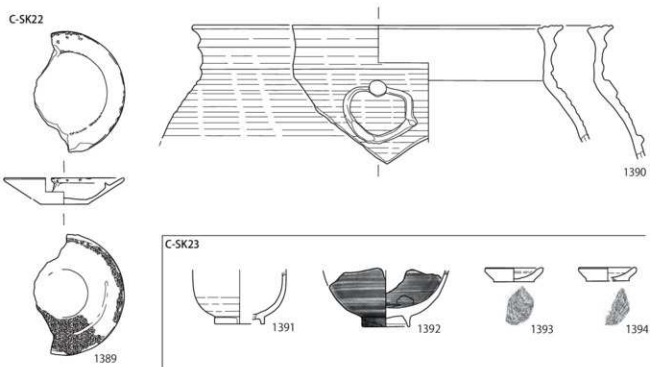
1387



1388

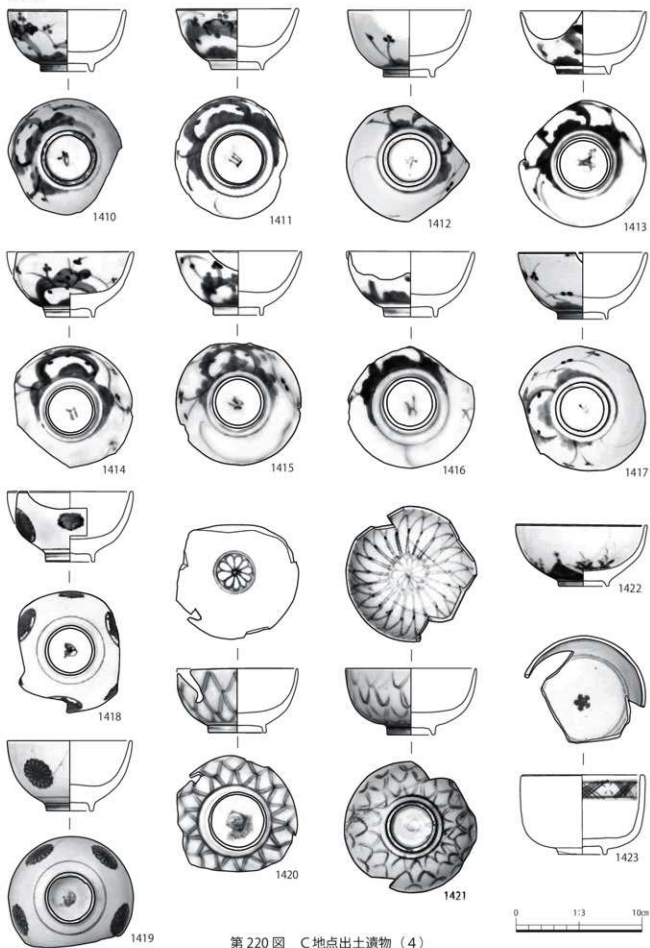


第 218 图 C 地点出土遺物 (2)



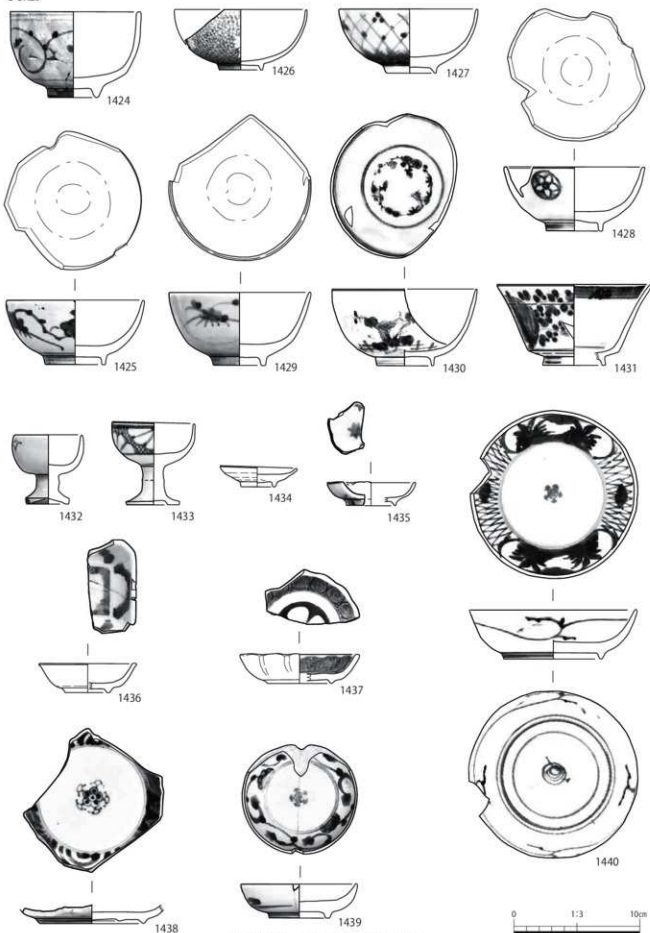
第 219 图 C 地点出土遗物 (3)

C-5K29



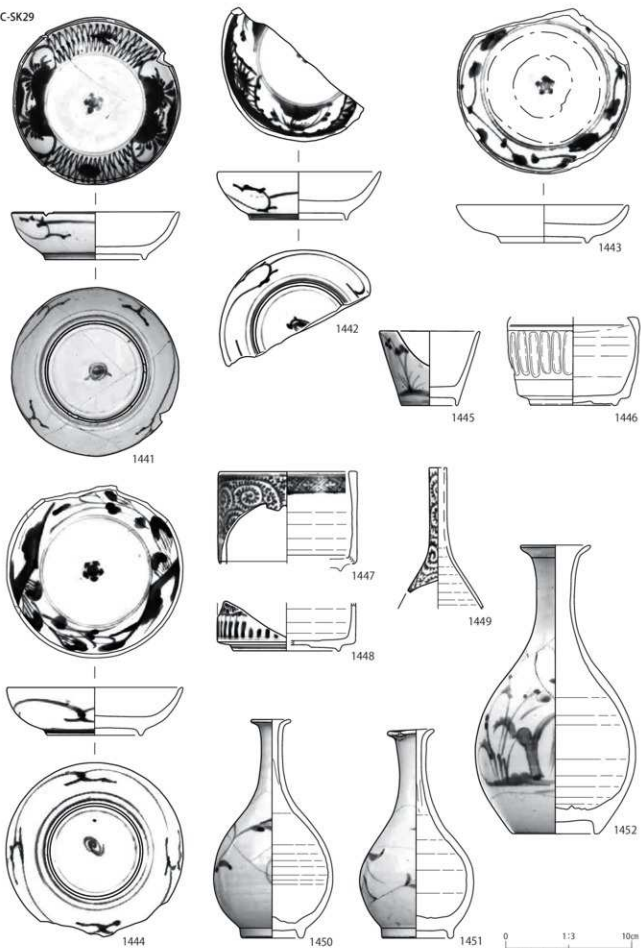
第 220 图 C 地点出土遺物 (4)

C-SK29



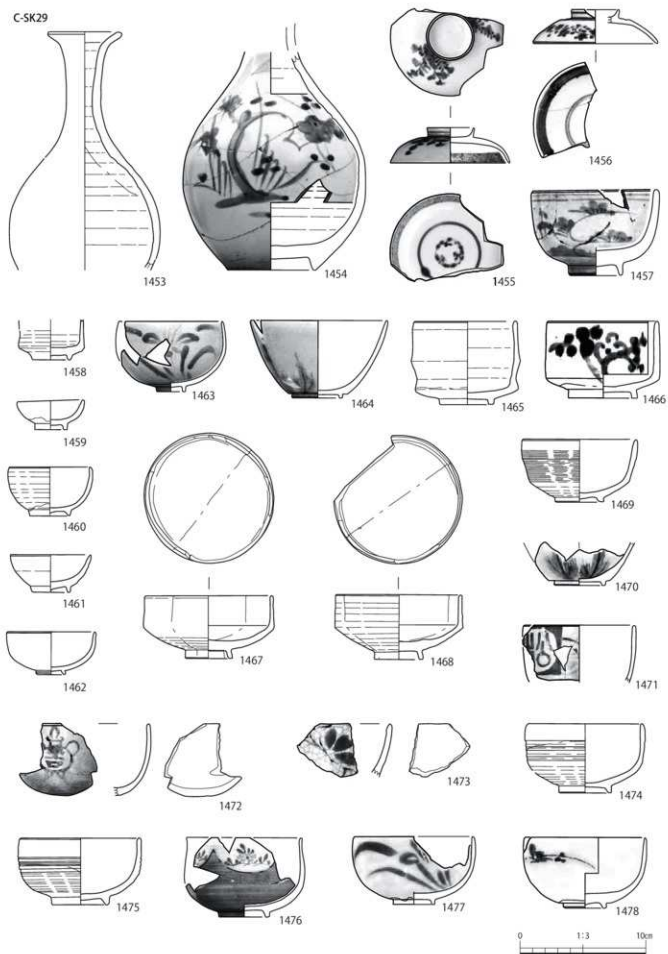
第 221 图 C 地点出土遗物 (5)

C-SK29



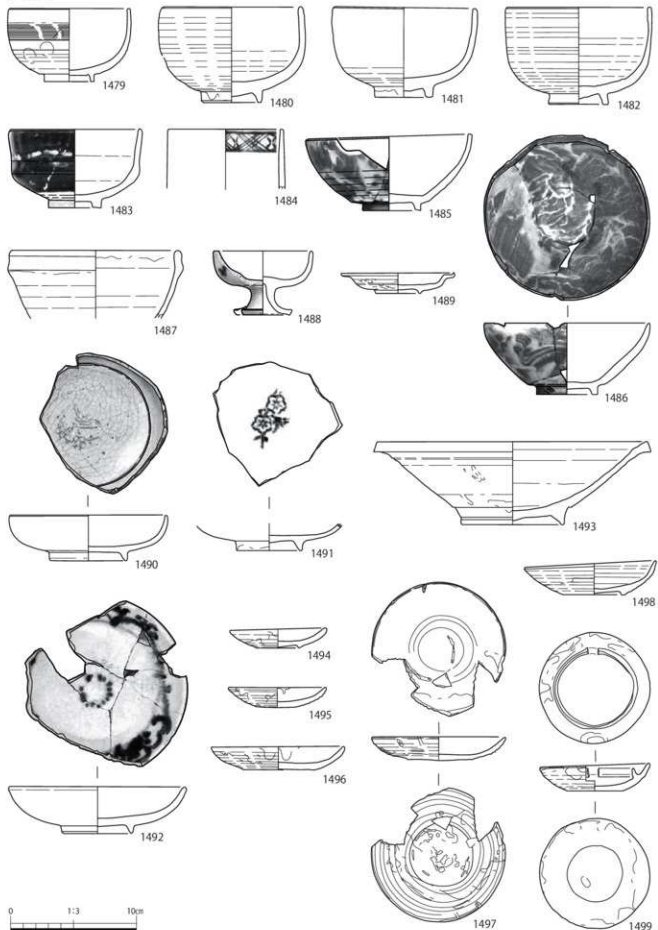
第 222 图 C 地点出土遗物 (6)

C-SK29



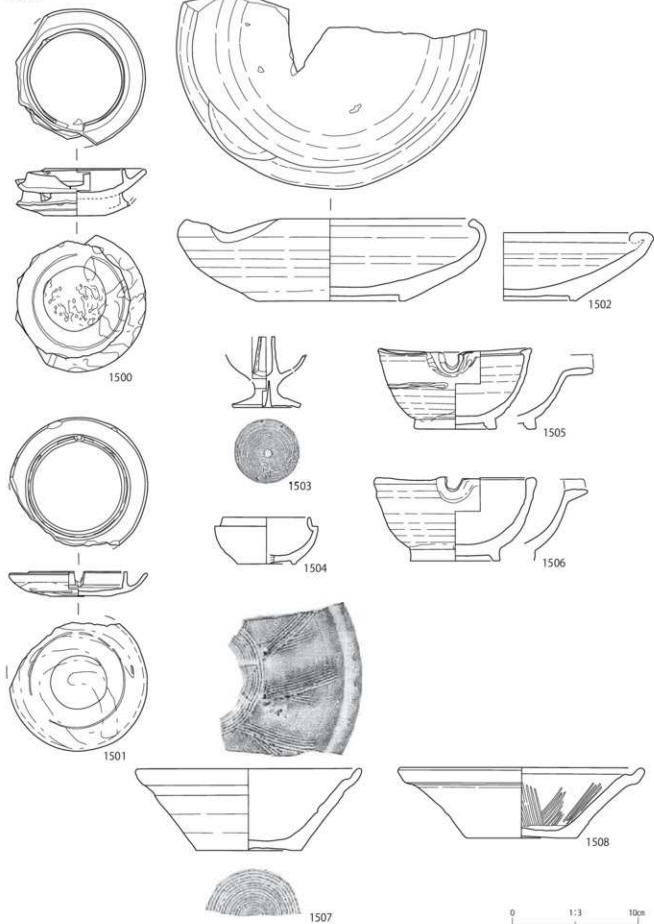
第 223 图 C 地点出土遗物 (7)

C-SK29



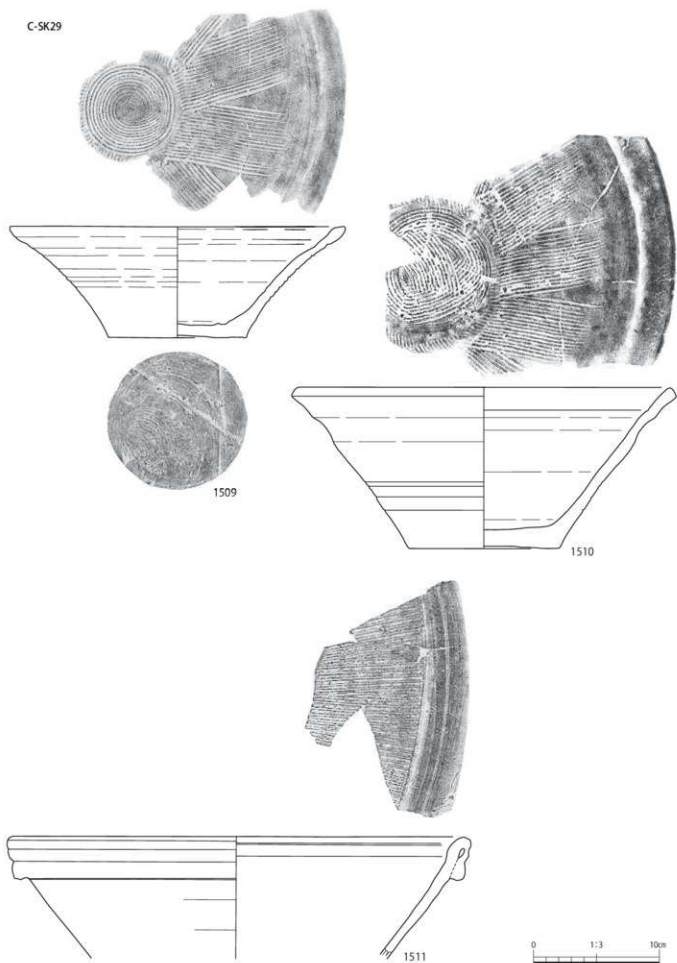
第 224 图 C 地点出土遗物 (8)

C-SK29

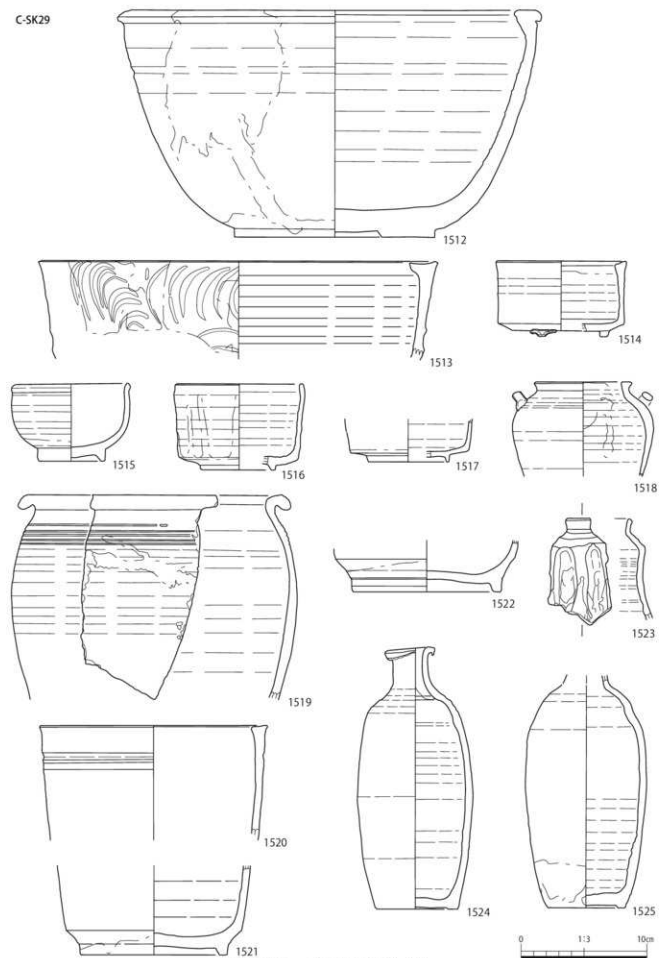


第 225 图 C 地点出土遗物 (9)

C-SK29

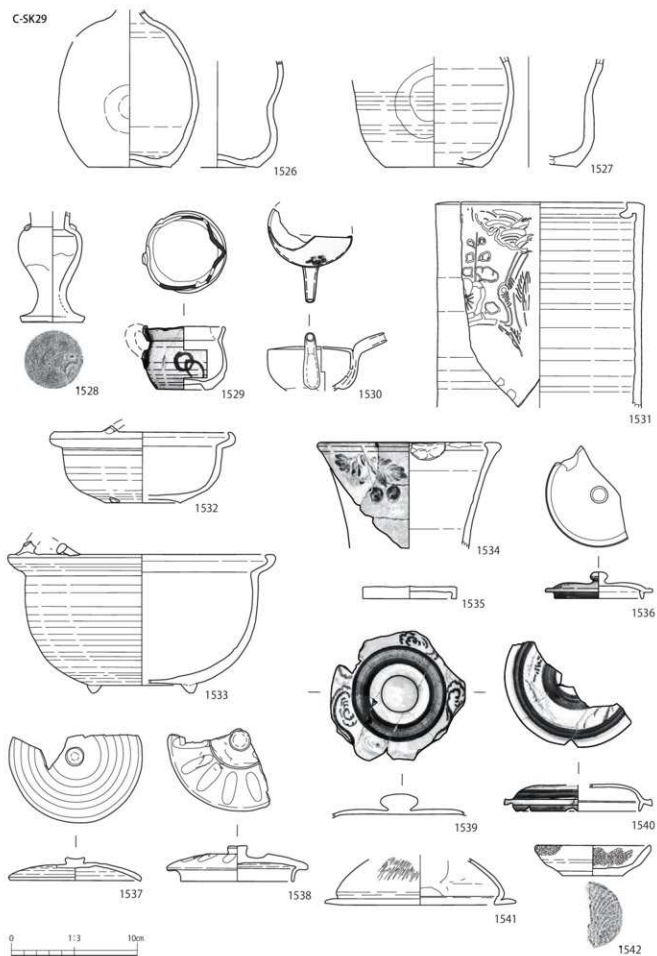


第 226 图 C 地点出土遺物 (10)



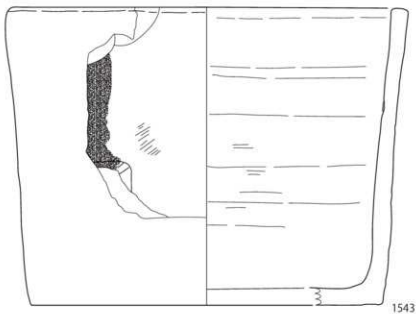
第 227 图 C 地点出土遗物 (11)

C-SK29

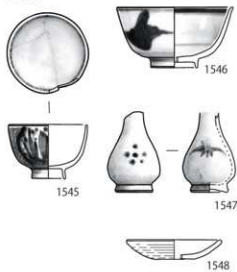


第 228 图 C 地点出土遗物 (12)

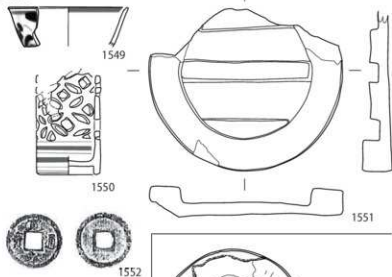
C-SK29



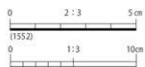
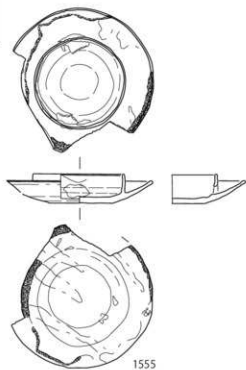
C-SK30



C-SK31

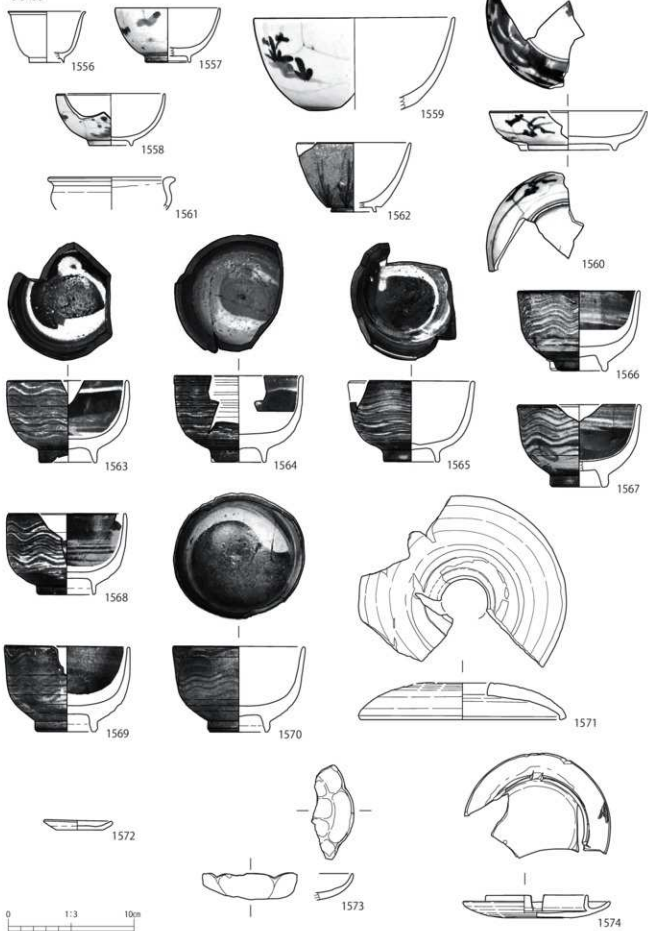


C-SK32

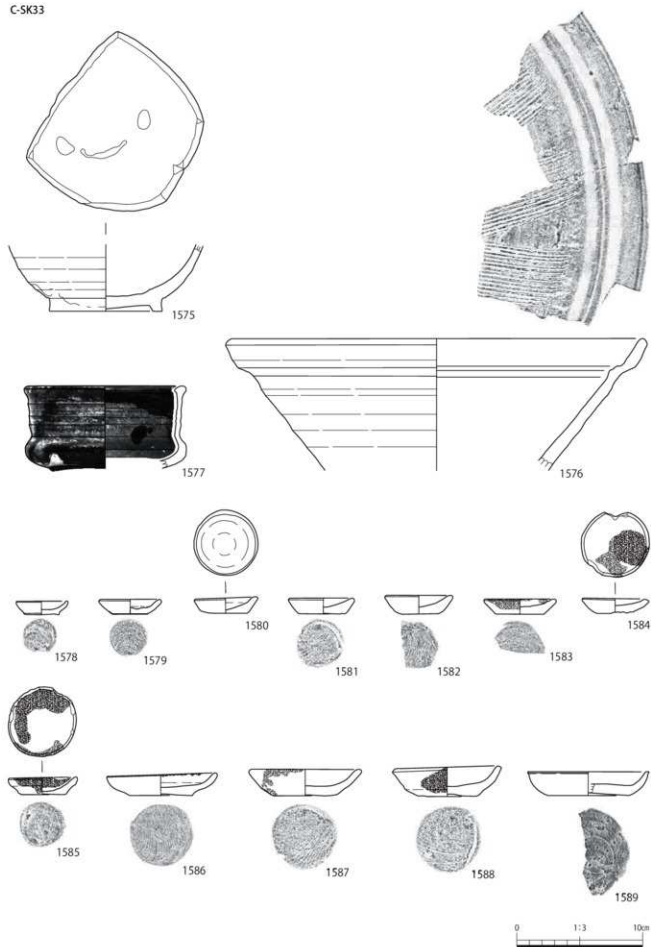


第 229 图 C 地点出土遺物 (13)

C-SK33

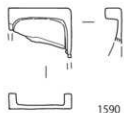


第 230 图 C 地点出土遗物 (14)

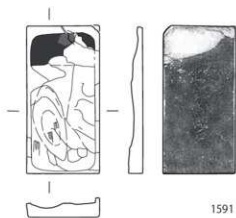


第 231 图 C 地点出土遗物 (15)

C-SK33



1590

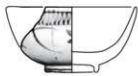


1591



1592

C-SK35



1593

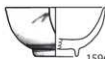


1594

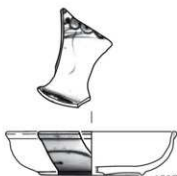


1595

C-SK36



1596

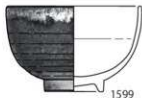


1597



1598

C-SK37



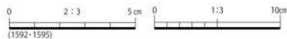
1599



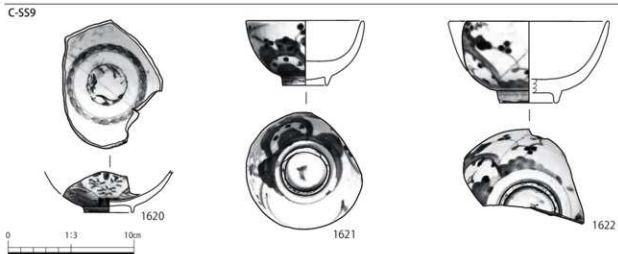
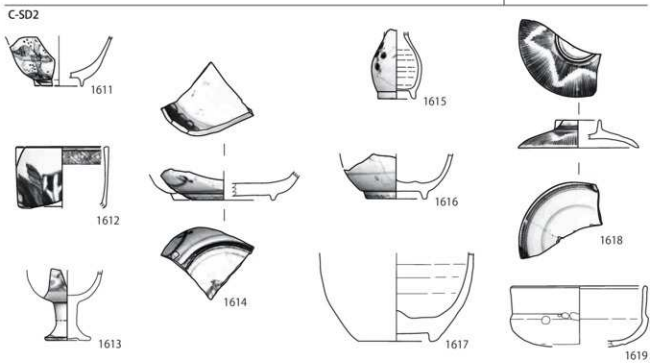
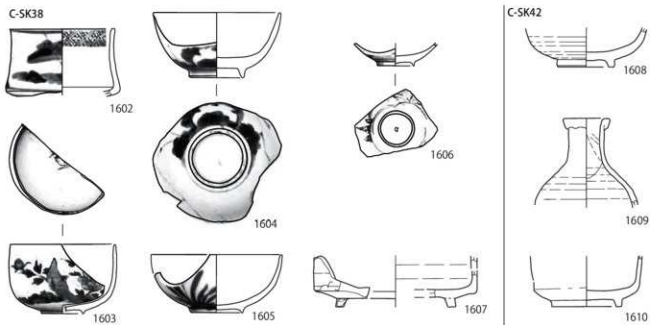
1600



1601

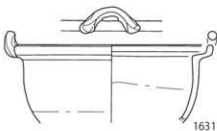


第 232 图 C 地点出土遺物 (16)



第 233 图 C 地点出土遗物 (17)

C-SS9



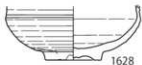
1623

1624

1625

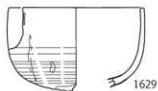
1626

1631



1627

1628



1629

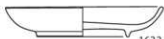


1630



1632

C-SE2



1633



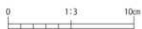
1634



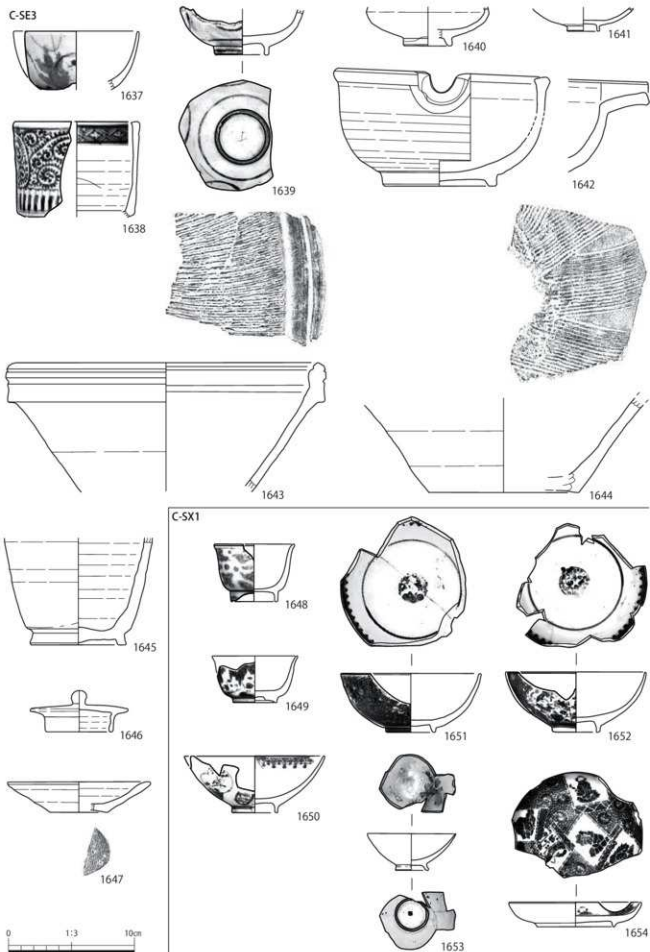
1635



1636

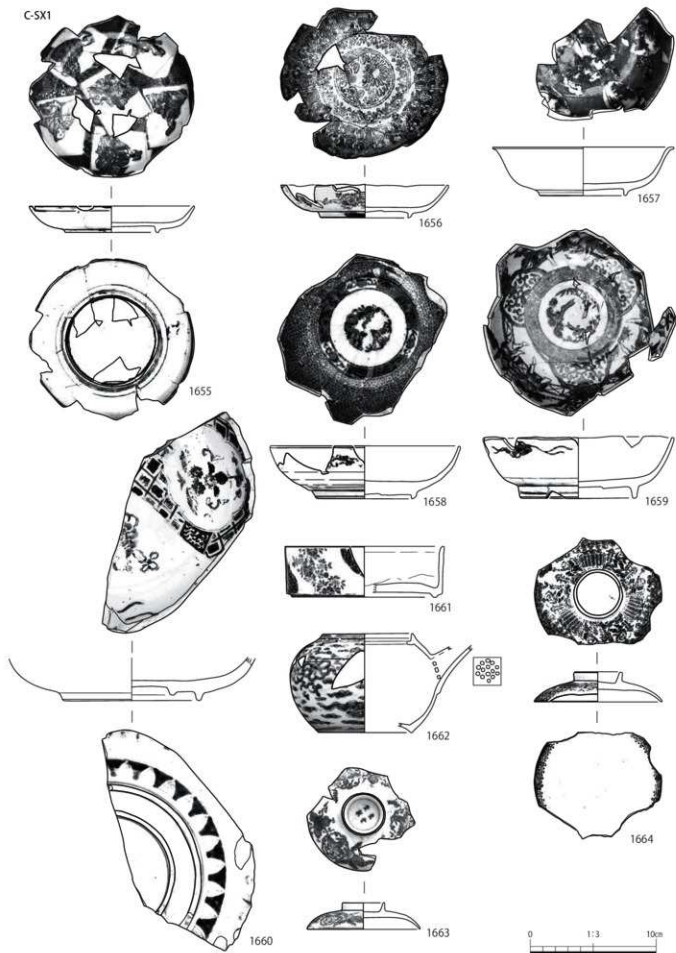


第 234 图 C 地点出土遺物 (18)



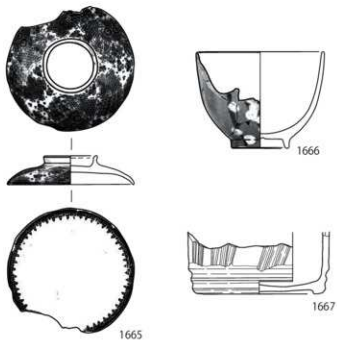
第 235 图 C 地点出土遗物 (19)

C-SX1

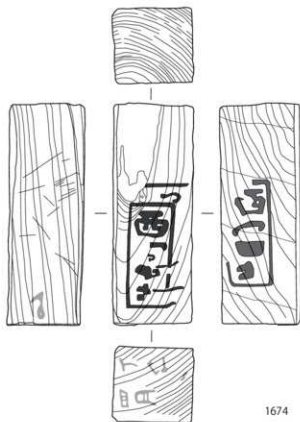
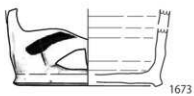
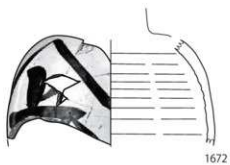
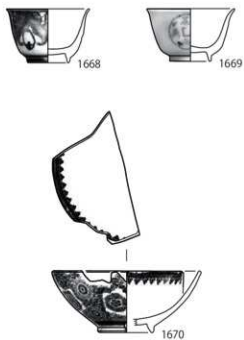


第 236 图 C 地点出土遗物 (20)

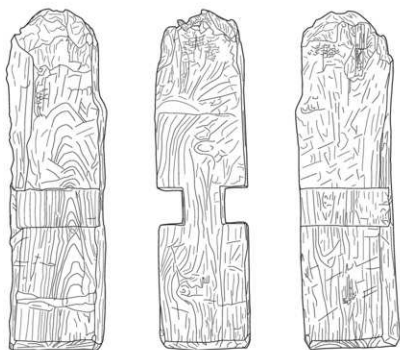
C-SX1



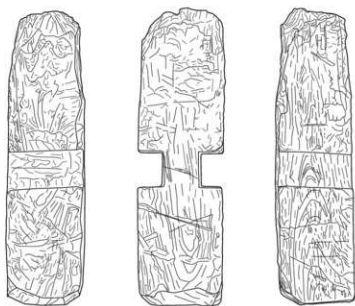
C-SX2



第 237 图 C 地点出土遗物 (21)



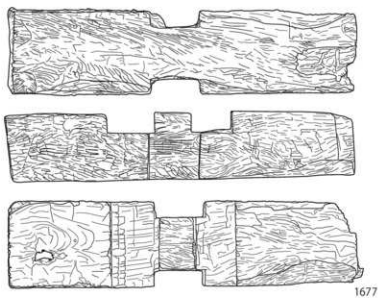
1675



1676



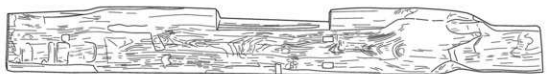
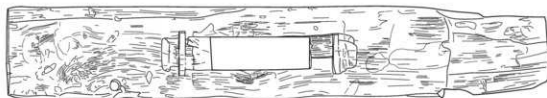
第 238 图 C 地点出土遺物 (22)



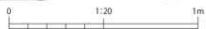
1677



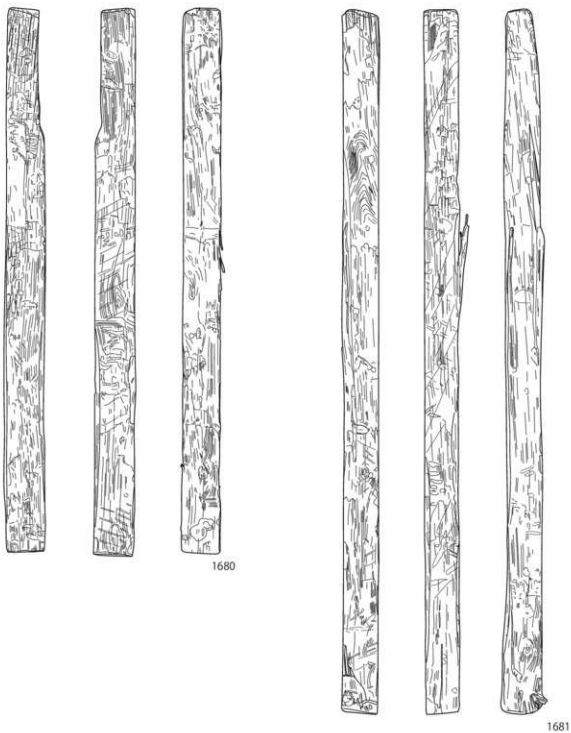
1678



1679



第 239 图 C地点出土遺物 (23)



第 240 图 C 地点出土遺物 (24)



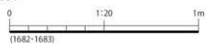
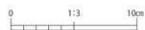
1682



1683

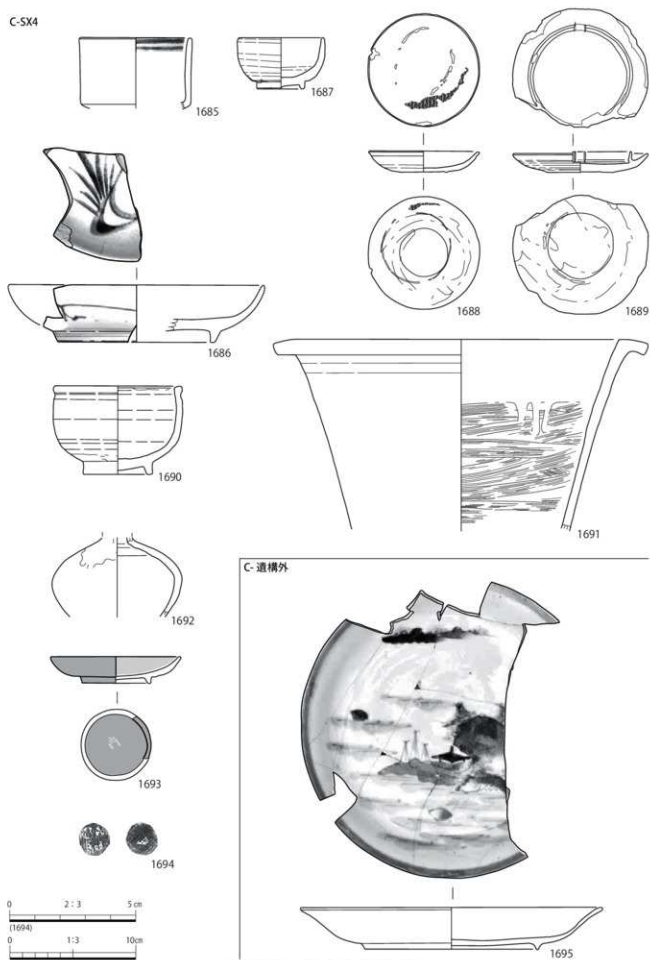


1684



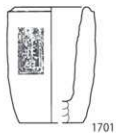
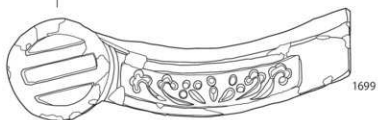
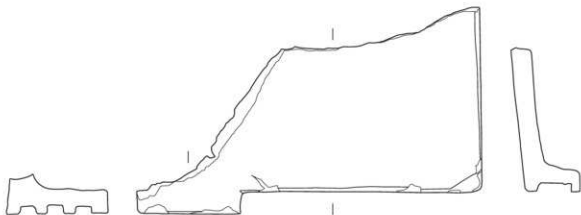
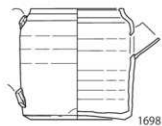
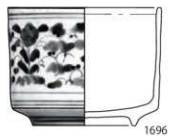
第 241 图 C地点出土遗物 (25)

C-SX4



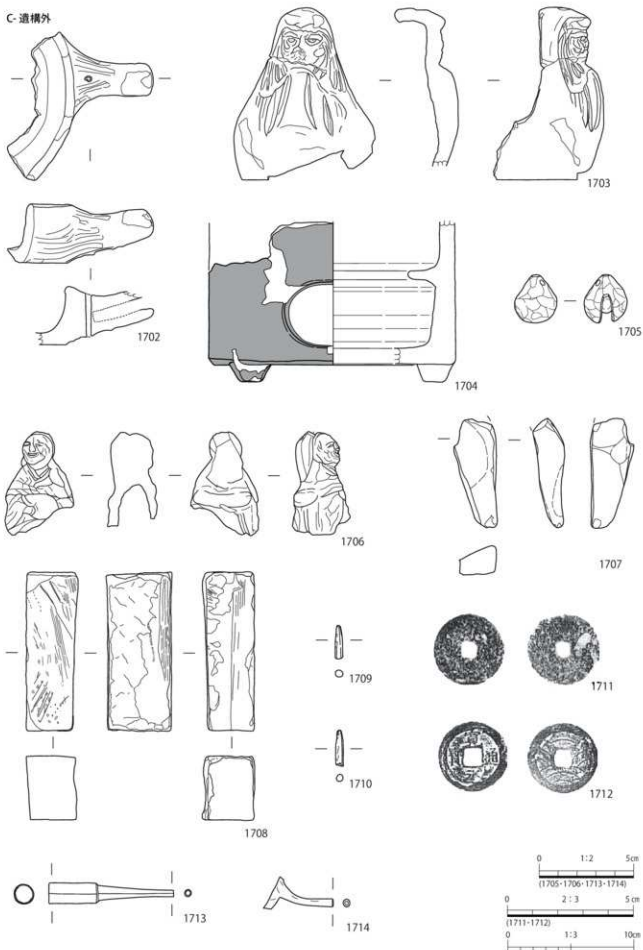
第 242 図 C 地点出土遺物 (26)

C- 遺構外



第 243 图 C 地点出土遺物 (27)

C-遺構外



第 244 图 C地点出土遺物 (28)

D-SK1



1715

D-SK3



1717

1716



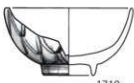
1718



1719



1720



1721



1722



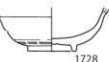
1723



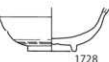
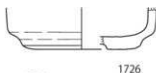
1724



1725



1727



1729



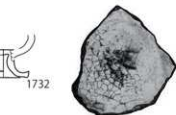
1730



1731



1732



1733



1734



1735



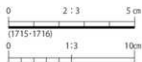
1736



1737



1738



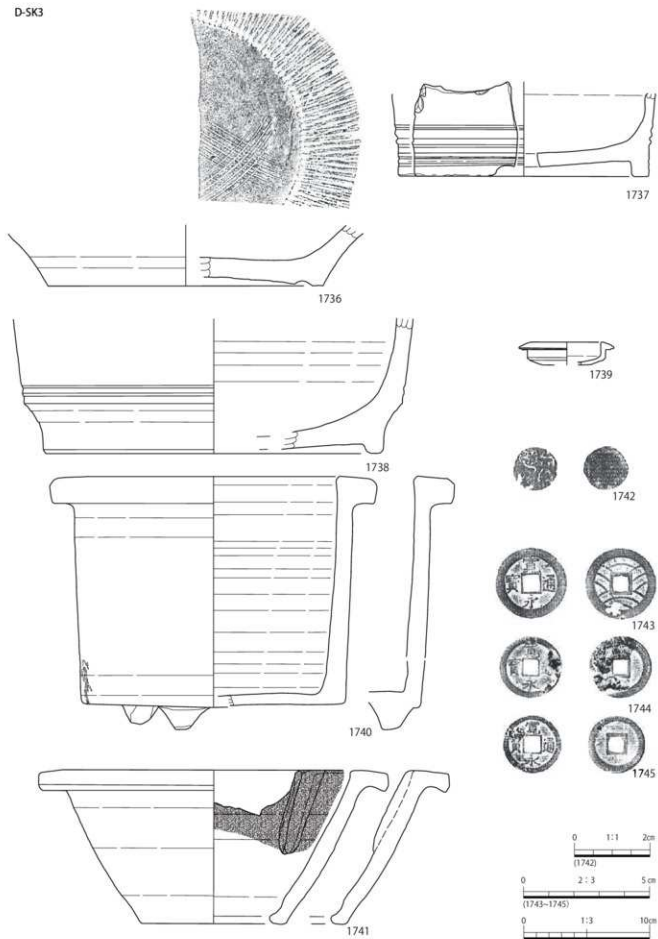
(1715-1716)

0 2:3 5 cm

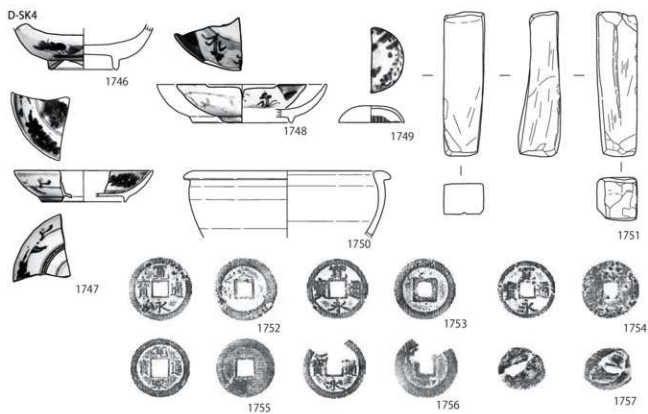
0 1:3 10 cm

第 245 图 D 地点出土遗物 (1)

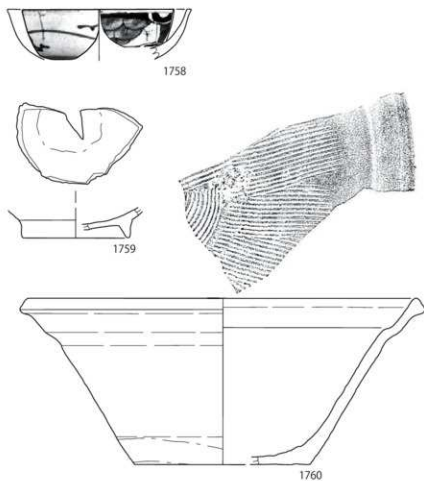
D-SK3



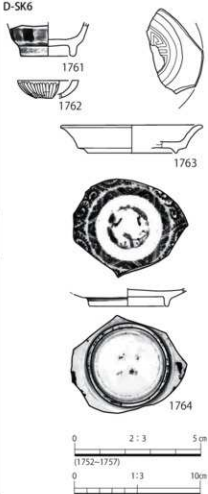
第 246 图 D地点出土遺物 (2)



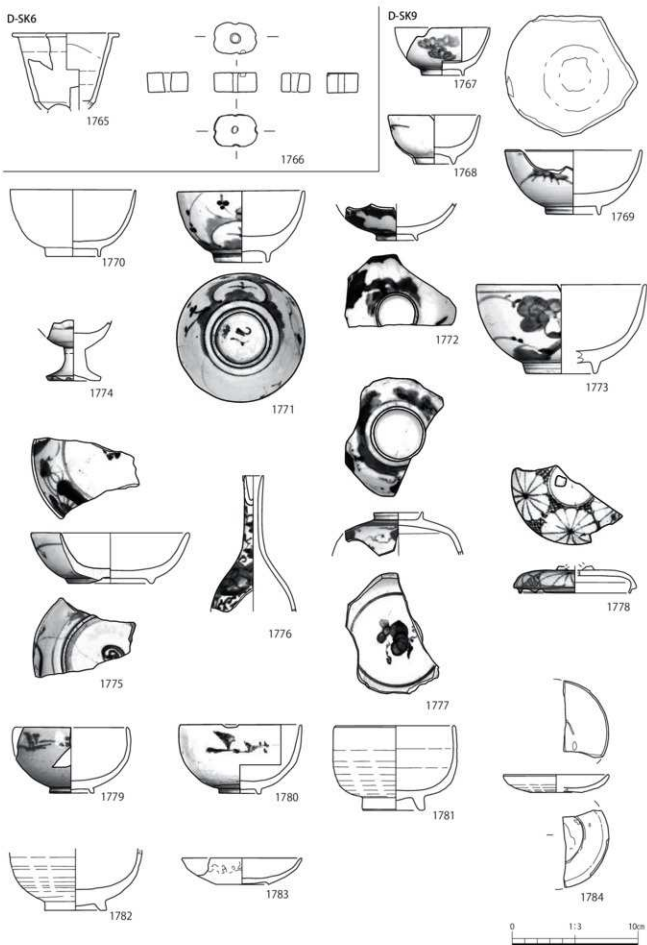
D-SK5



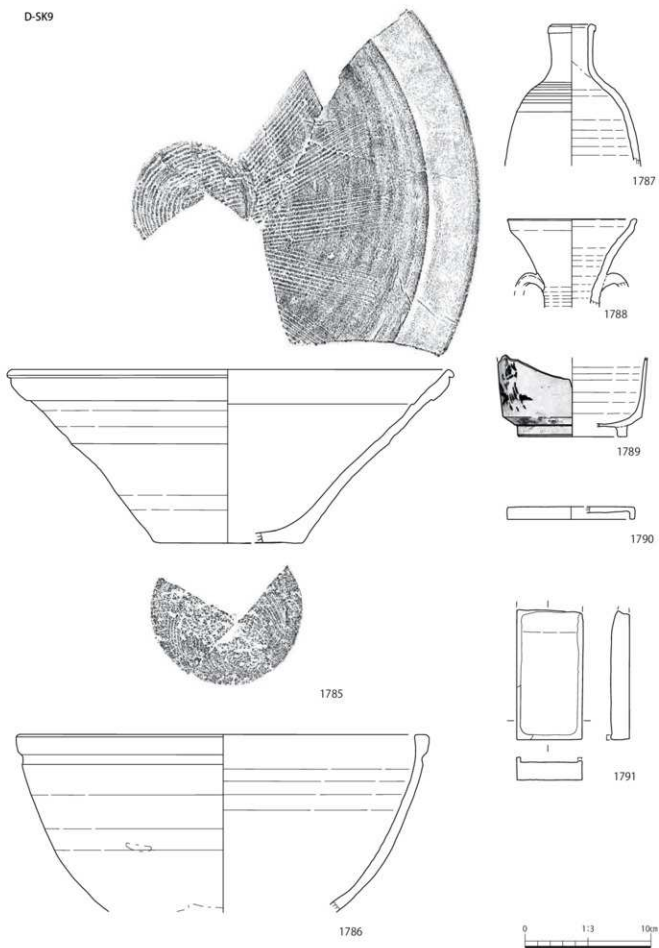
D-SK6



第 247 图 D地点出土遗物 (3)

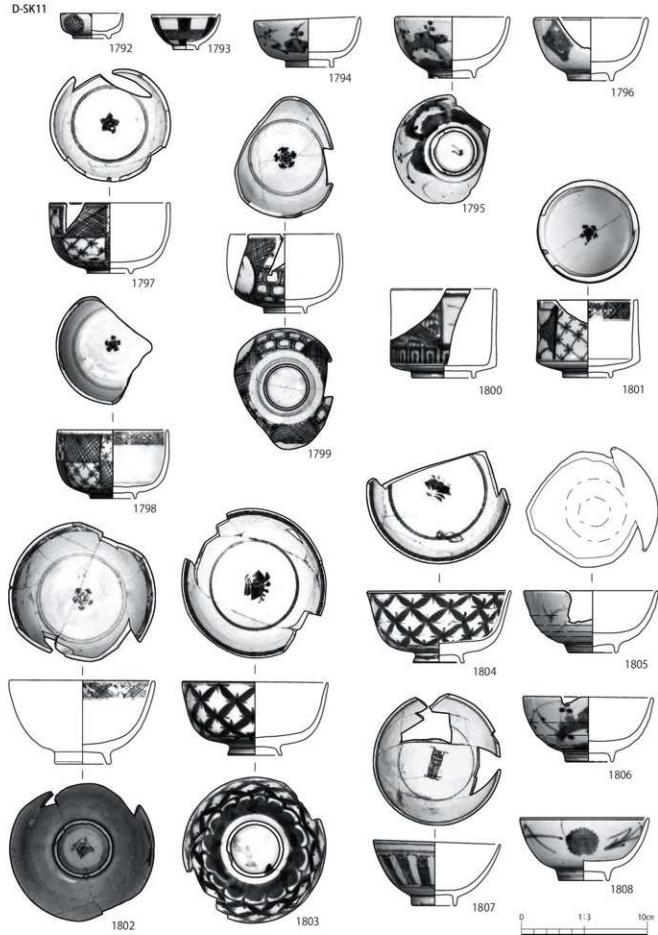


第 248 图 D 地点出土遗物 (4)

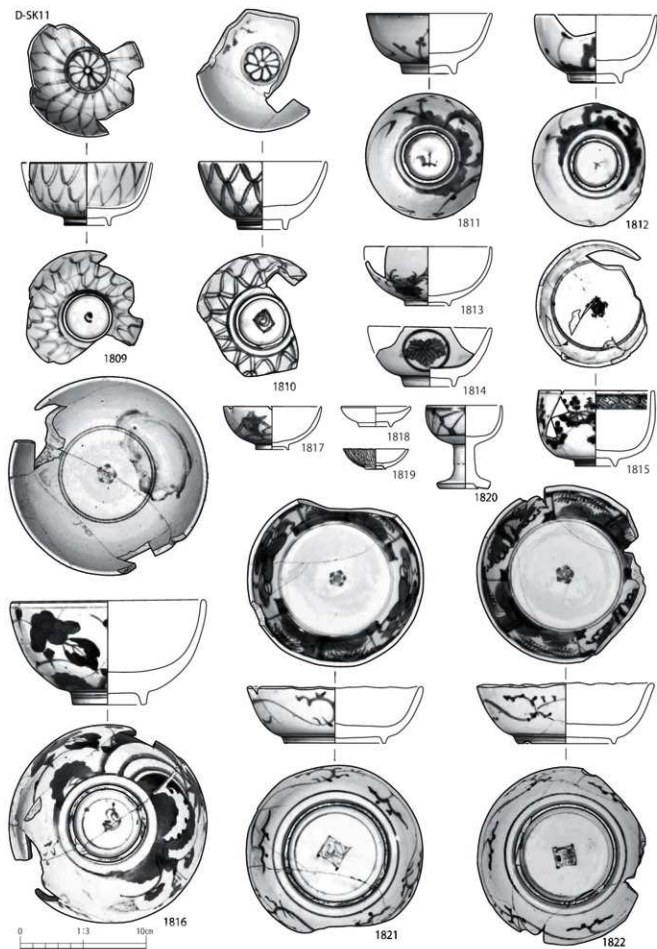


第 249 图 D地点出土遗物 (5)

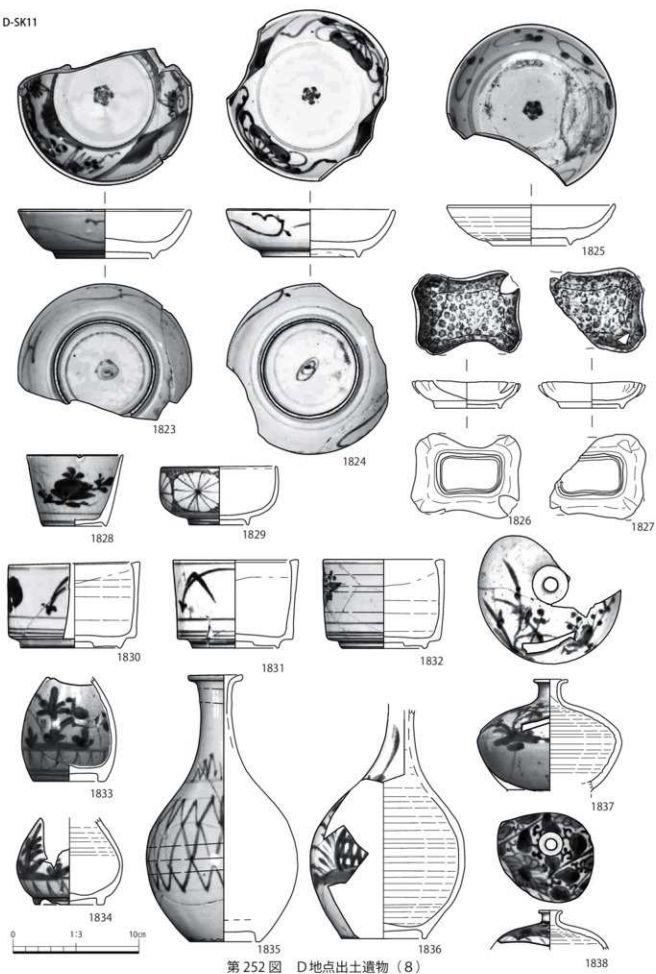
D-SK11



第250图 D地点出土遺物(6)

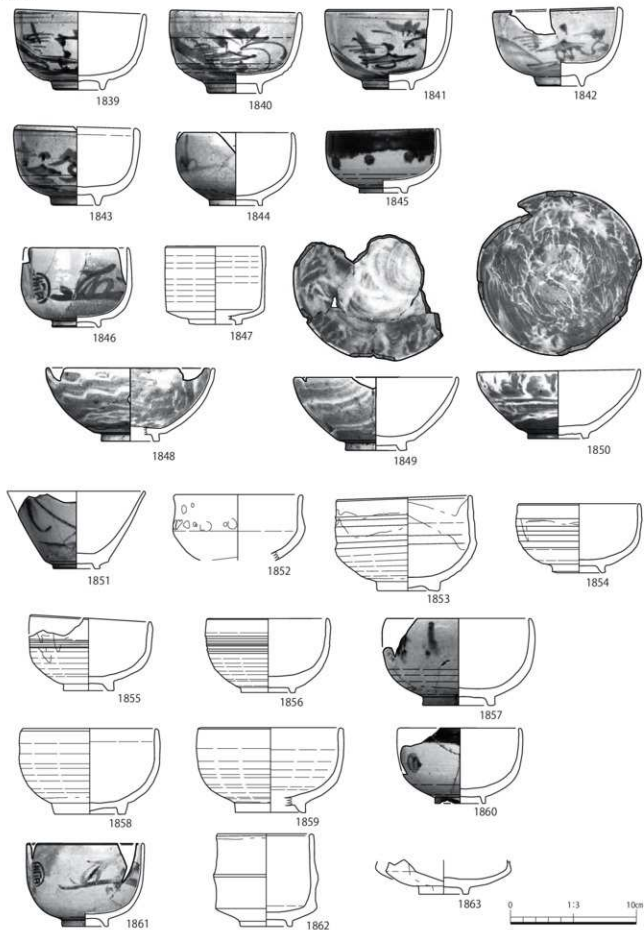


第 251 图 D 地点出土遗物 (7)



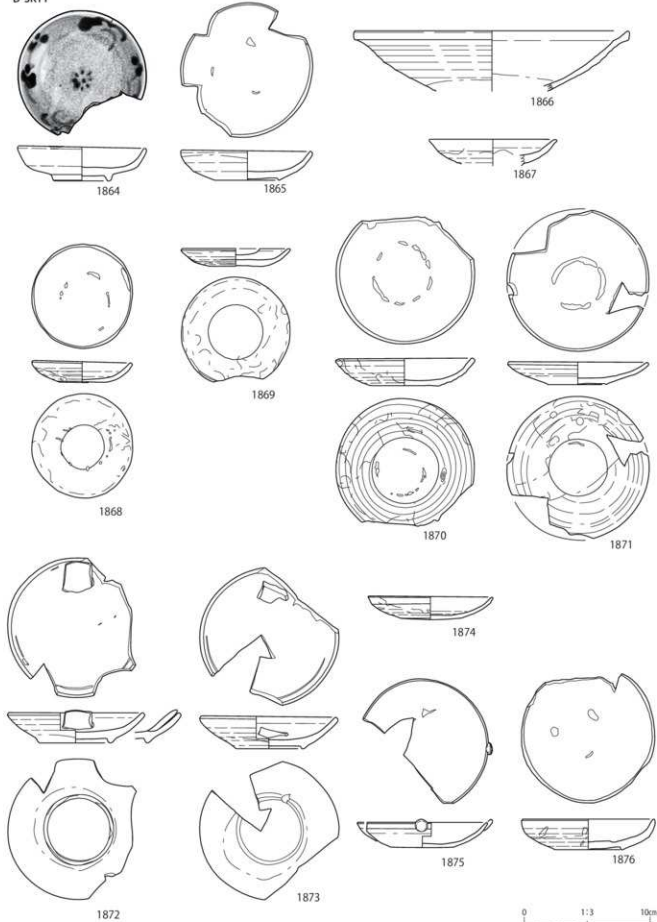
第 252 图 D 地点出土遗物 (8)

D-SK11

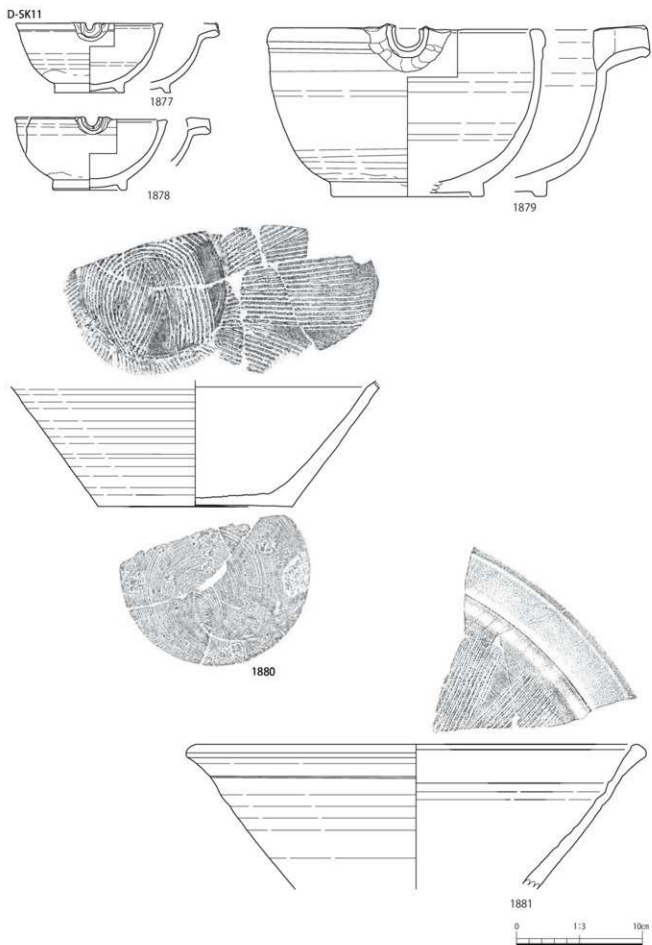


第 253 图 D 地点出土遗物 (9)

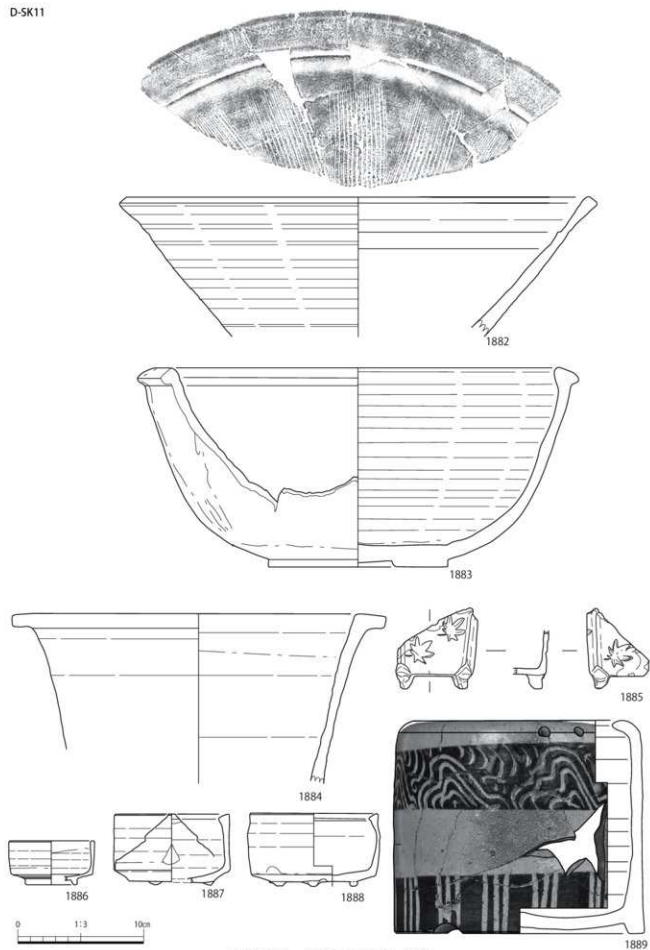
D-SK11



第 254 图 D地点出土遗物 (10)

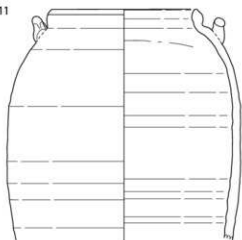


第 255 图 D地点出土遗物 (11)



第 256 图 D地点出土遺物 (12)

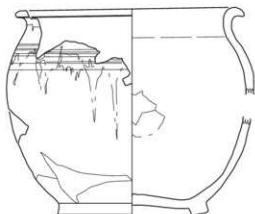
D-SK11



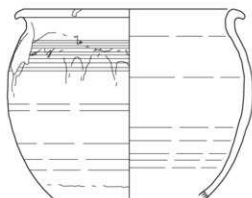
1890



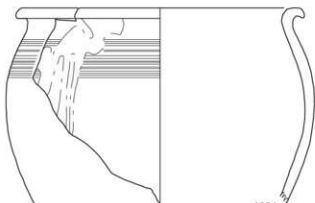
1891



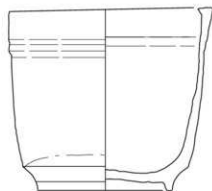
1892



1893



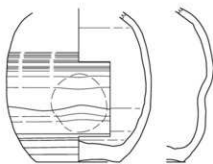
1894



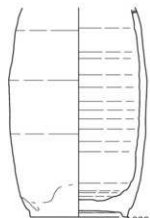
1895



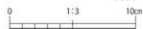
1896



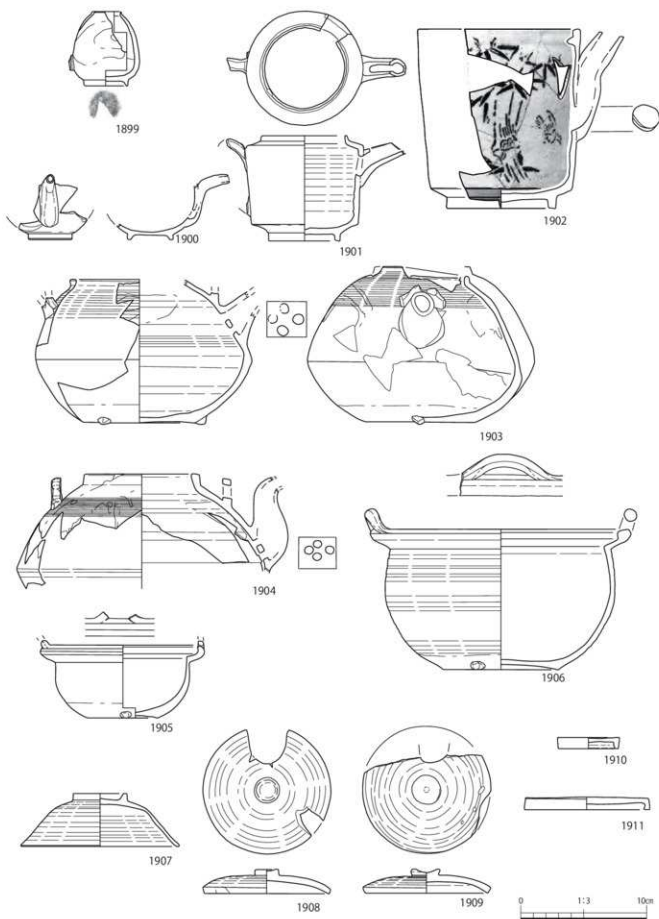
1897



1898

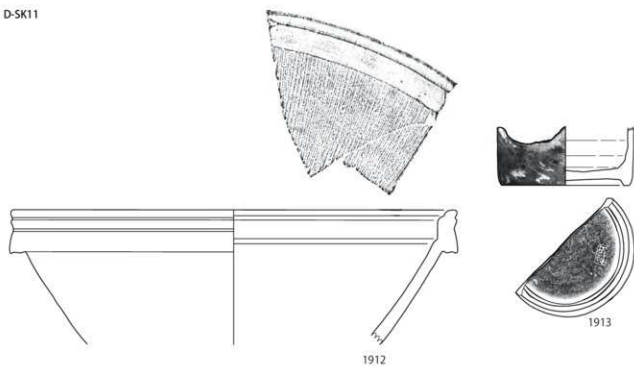


第 257 図 D地点出土遺物 (13)

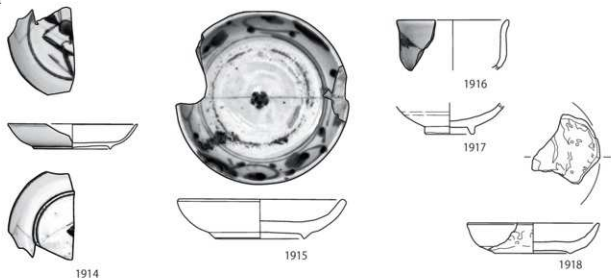


第 258 图 D地点出土遺物 (14)

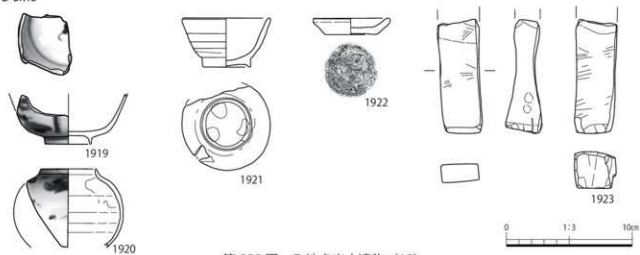
D-SK11



D-SK12

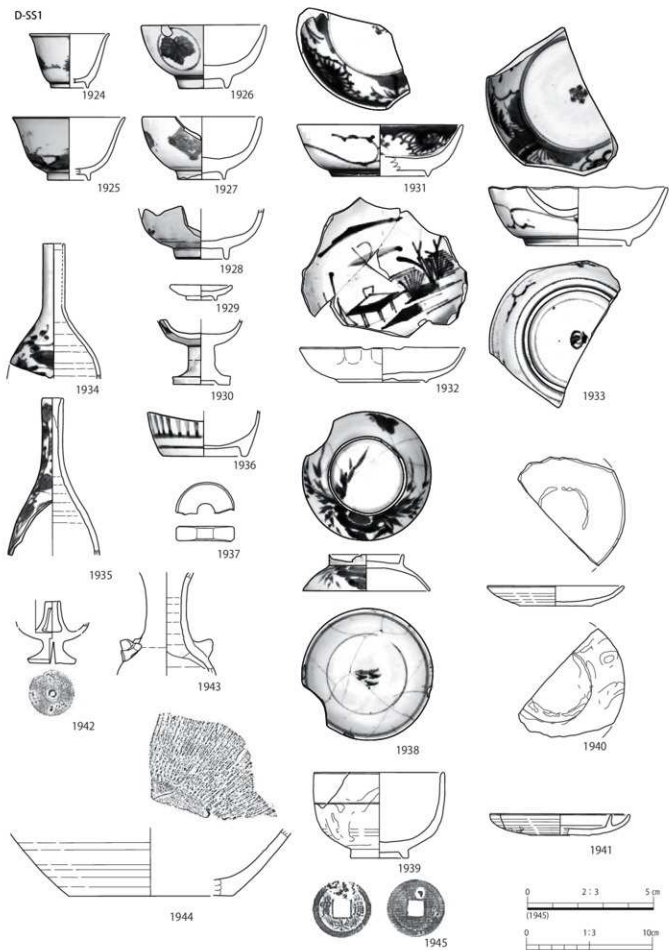


D-SK13



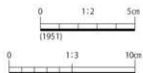
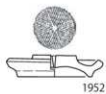
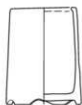
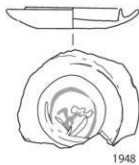
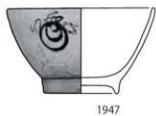
第 259 图 D地点出土遺物 (15)

D-SS1

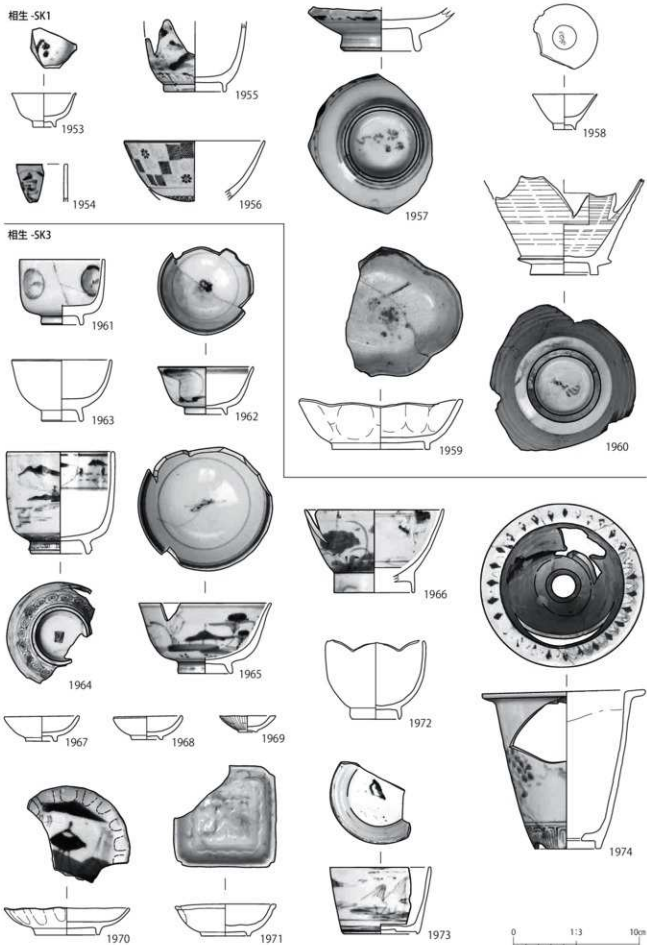


第 260 图 D 地点出土遗物 (16)

D- 道橋外

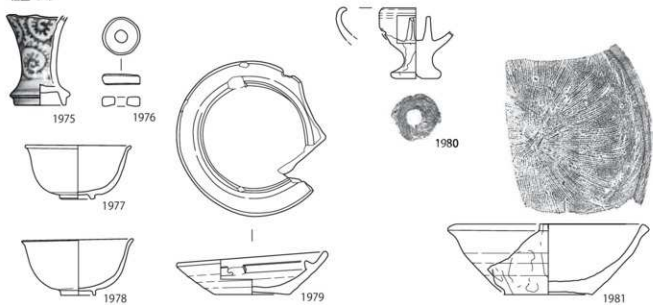


第 261 图 D地点出土遺物 (17)

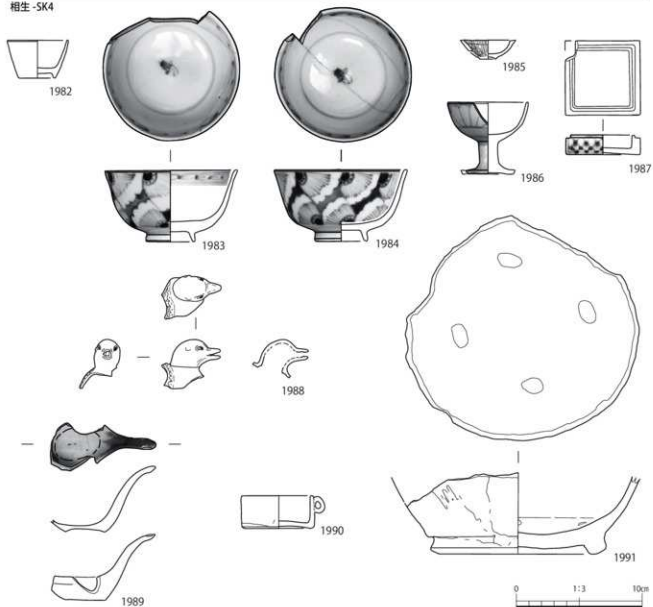


第 262 图 相生工区出土遺物 (1)

相生-SK3



相生-SK4

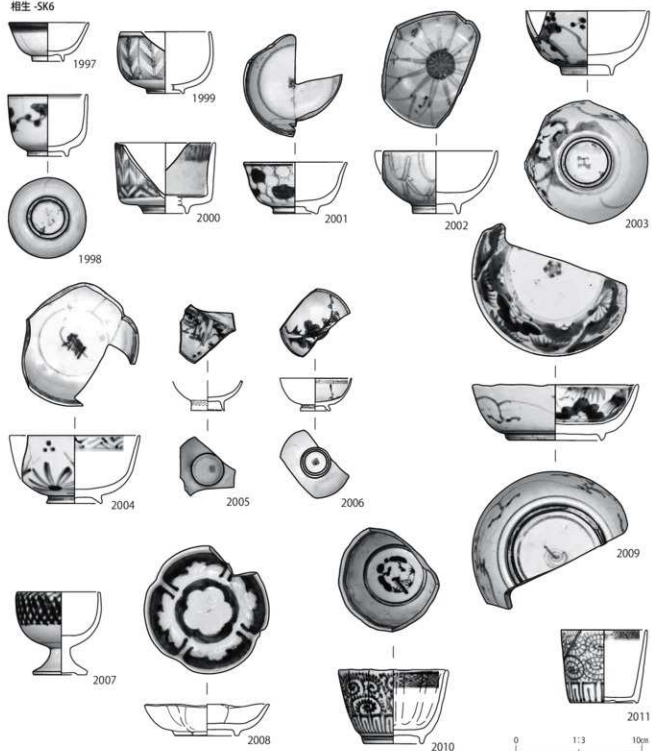


第 263 図 相生工区出土遺物 (2)

相生-SK5

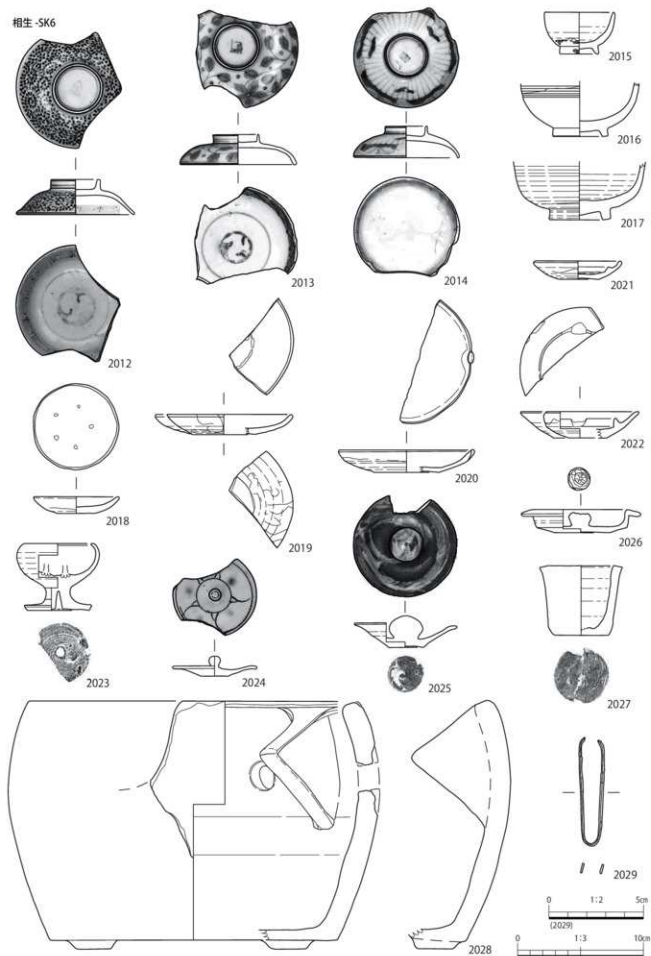


相生-SK6

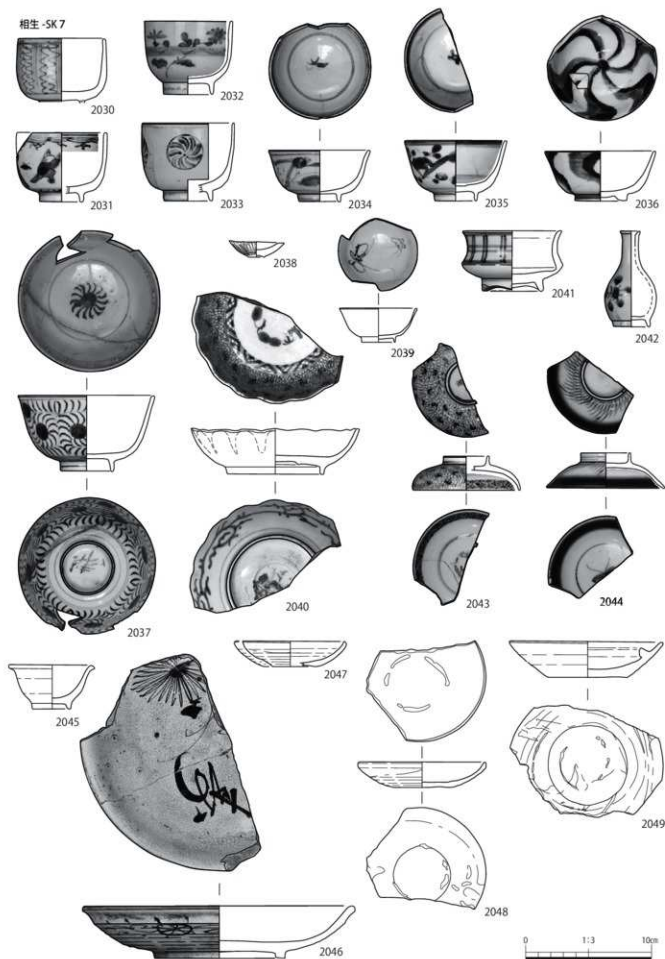


第 264 图 相生工区出土遺物 (3)

相生-SK6



第 265 图 相生工区出土遺物 (4)



第 266 图 相生工区出土遗物 (5)

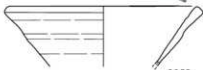
相生-SK7



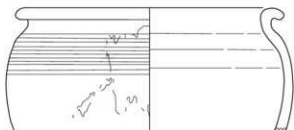
2050



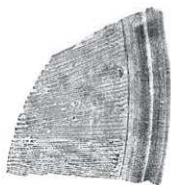
2051



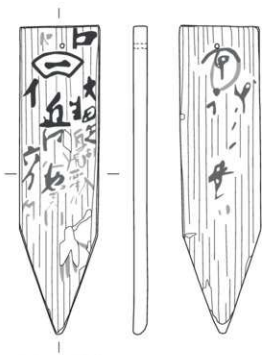
2052



2053



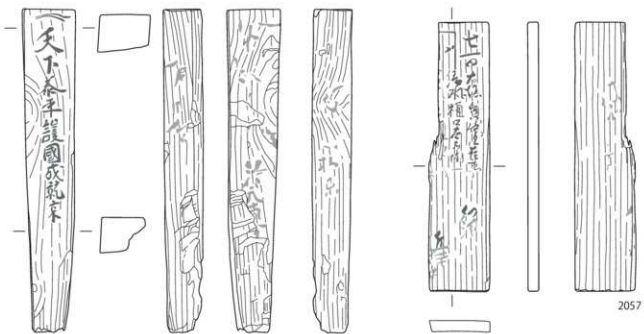
2054



2055

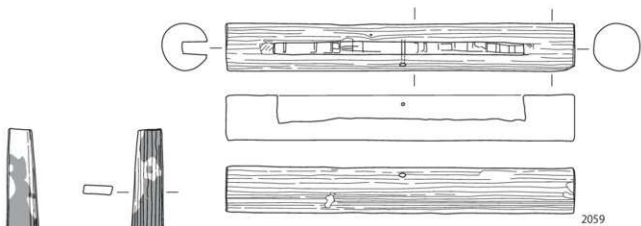


第 267 図 相生工区出土遺物 (6)

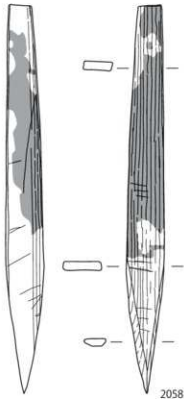


2056

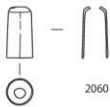
2057



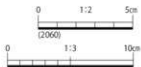
2059



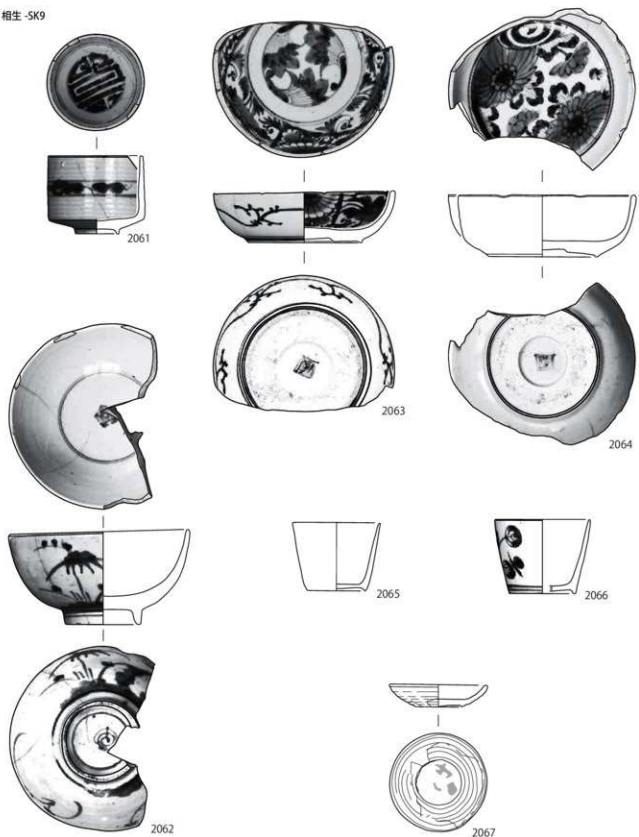
2058



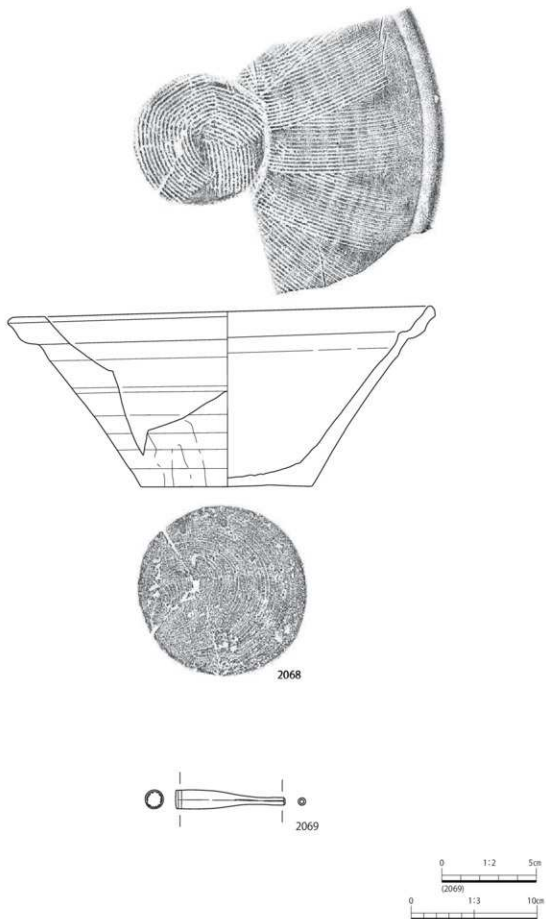
2060



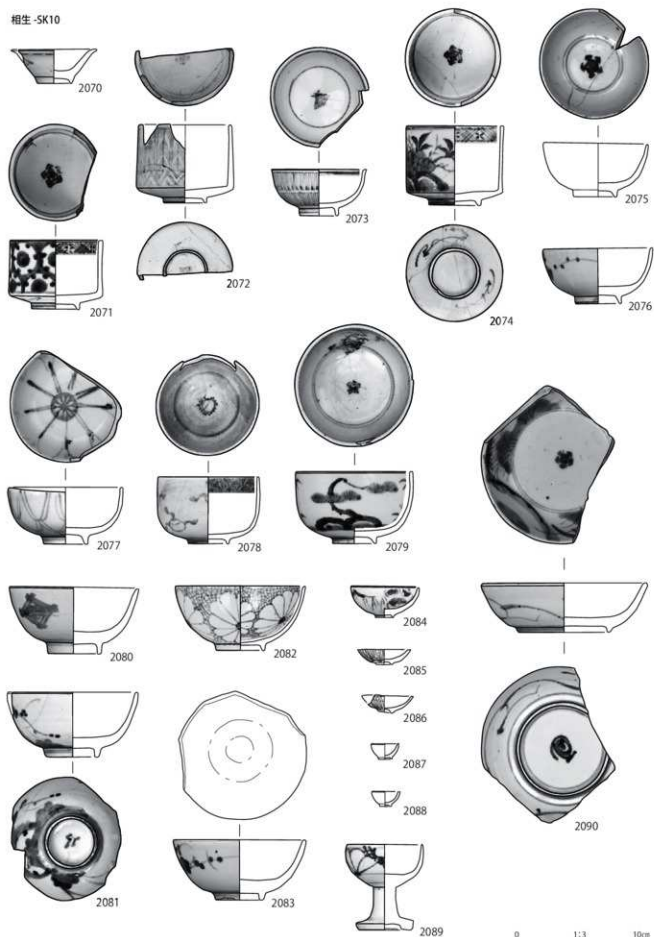
第 268 图 相生工区出土遺物 (7)



第 269 图 相生工区出土遺物 (8)

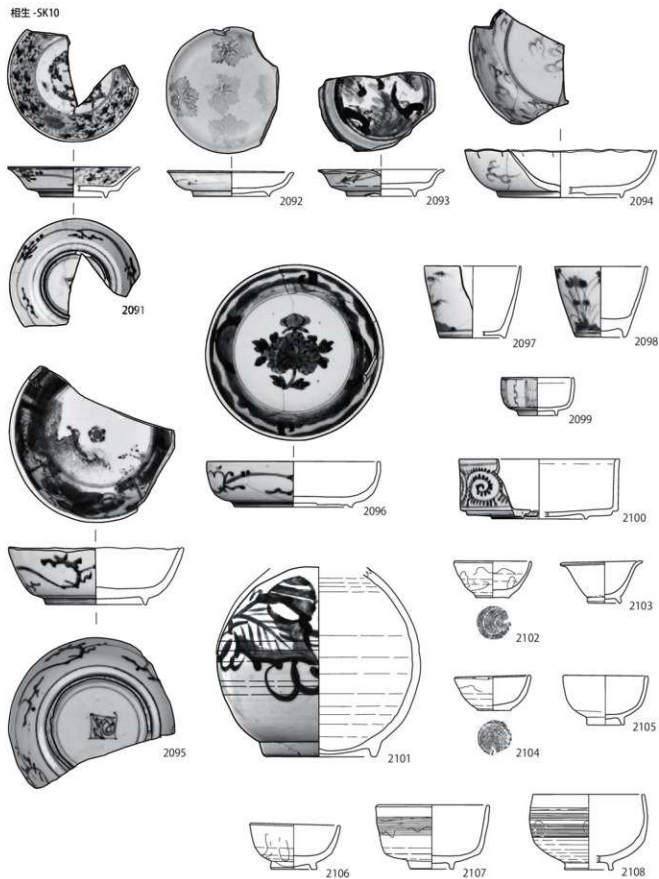


第 270 图 相生工区出土遺物 (9)

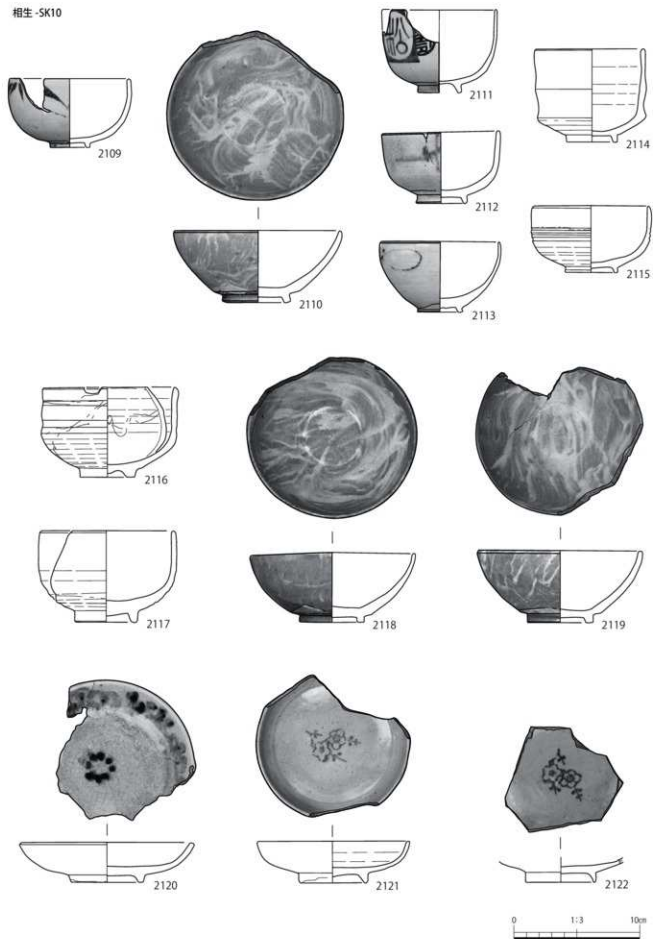


第 271 図 相生工区出土遺物 (10)

相生-SK10

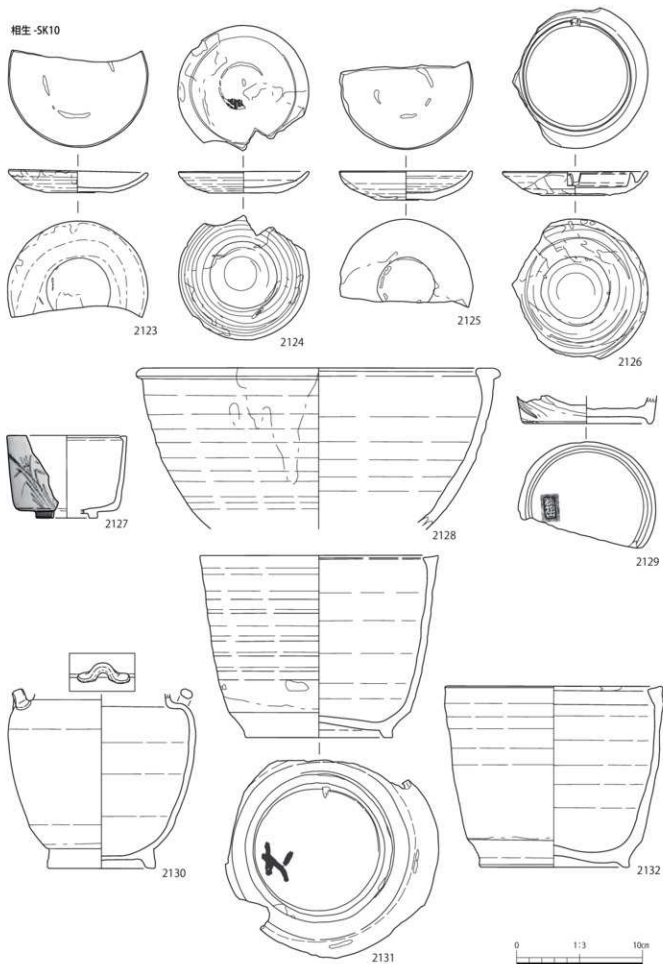


第 272 図 相生工区出土遺物 (11)



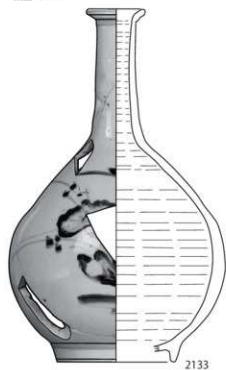
第 273 図 相生工区出土遺物 (12)

相生-SK10

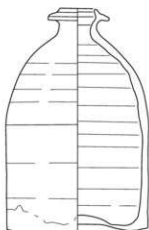


第 274 図 相生工区出土遺物 (13)

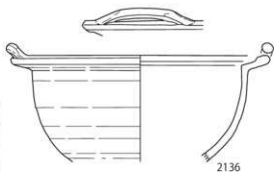
相生-SK10



2133



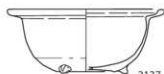
2134



2136



2135



2137



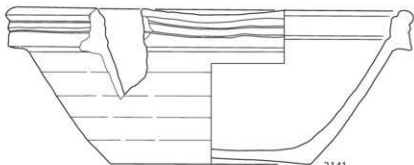
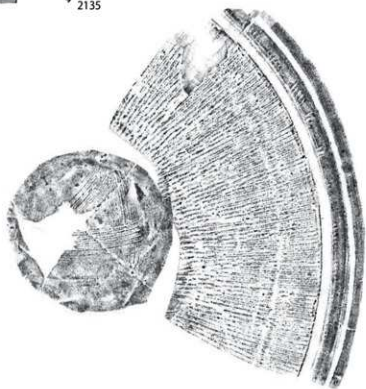
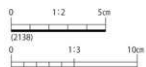
2138



2139



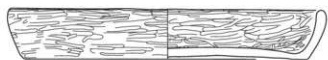
2140



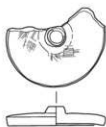
2141

第 275 图 相生工区出土遺物 (14)

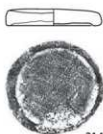
相生-SK10



2142



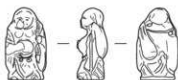
2143



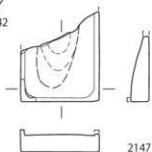
2144



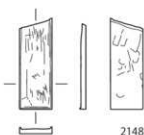
2145



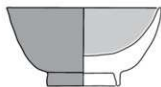
2146



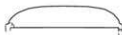
2147



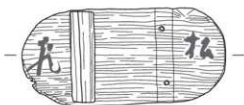
2148



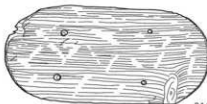
2149



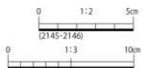
2151



2150

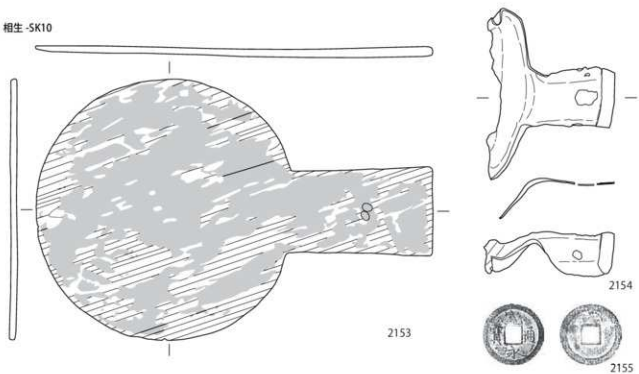


2152

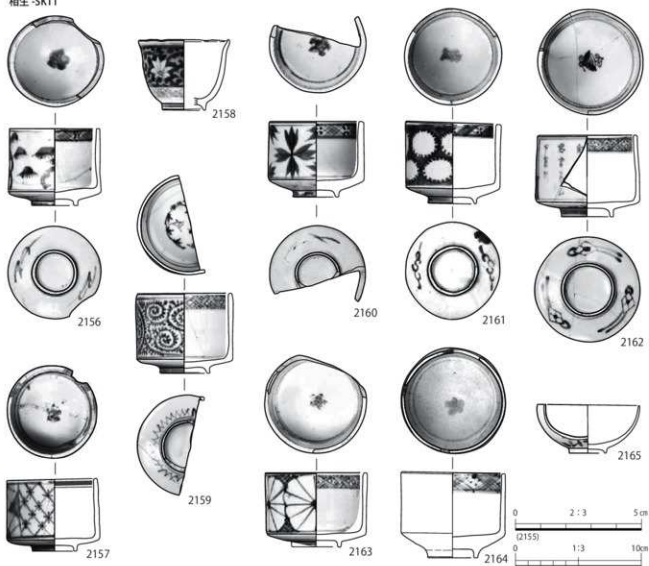


第 276 图 相生工区出土遗物 (15)

相生-SK10



相生-SK11



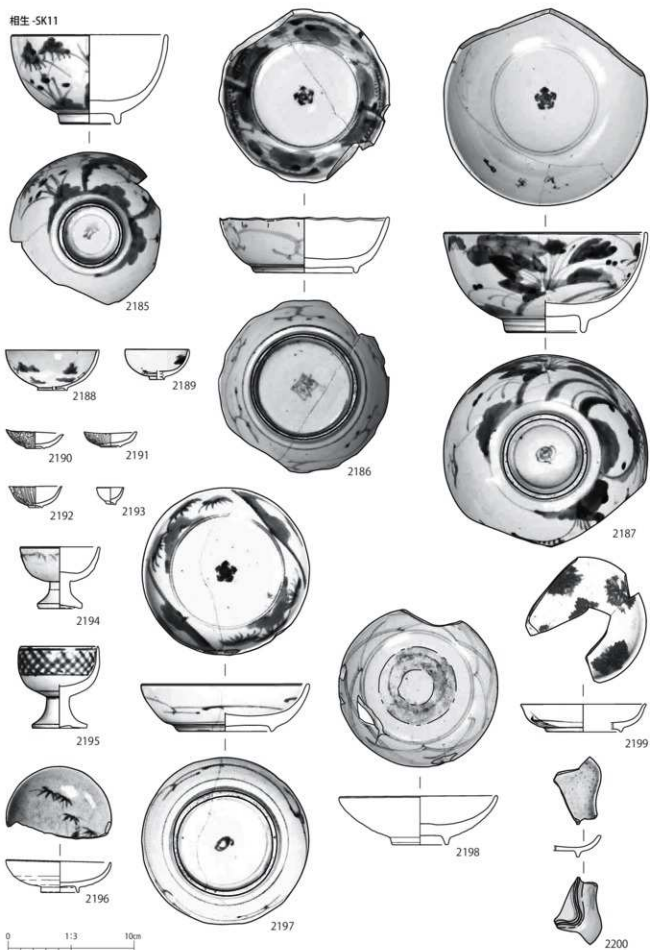
第 277 図 相生工区出土遺物 (16)

相生-SK11



第 278 图 相生工区出土遺物 (17)

相生-SK11



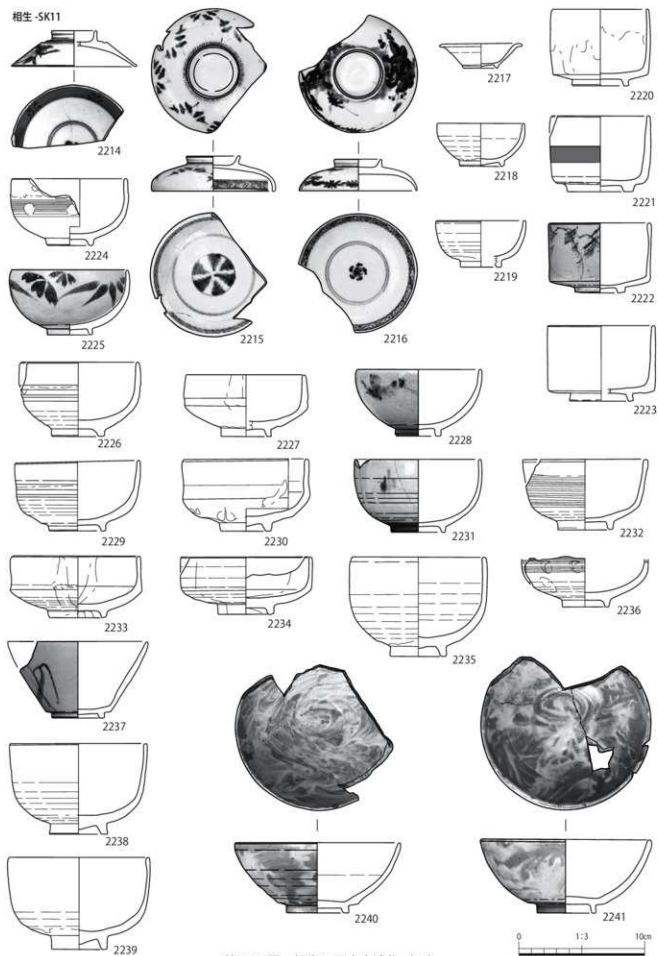
第 279 图 相生工区出土遺物 (18)

相生-SK11



第 280 图 相生工区出土遺物 (19)

相生-SK11



第 281 图 相生工区出土遺物 (20)

相生-SK11



2242



2243



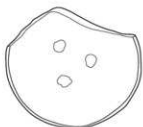
2244



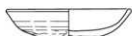
2245



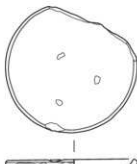
2246



2247



2248



2249



2250



2251



2252



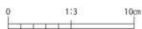
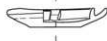
2253



2254

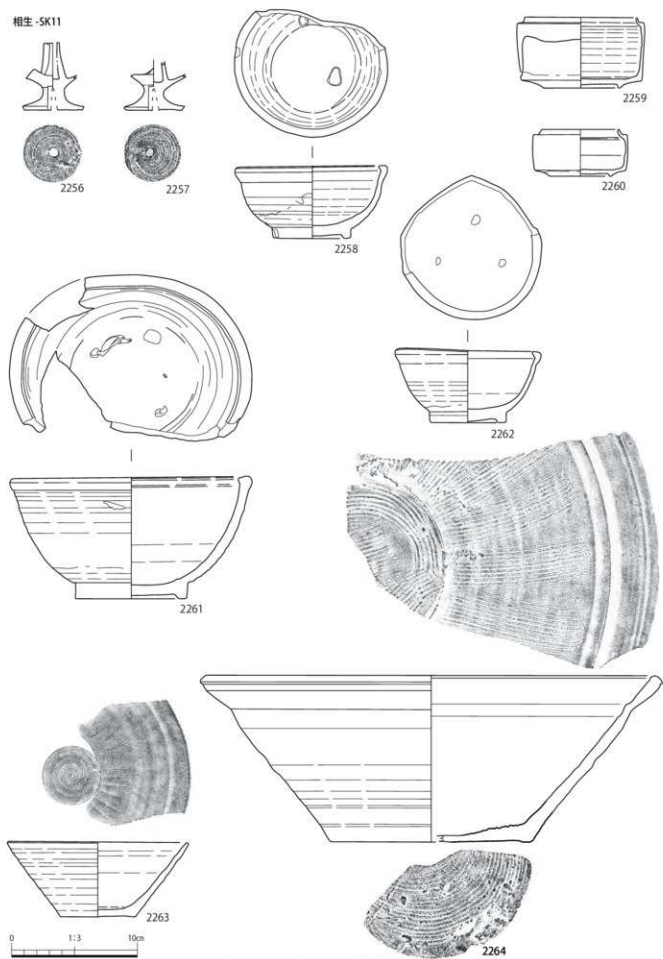


2255

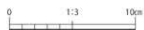
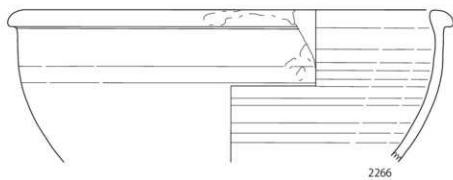
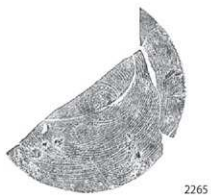
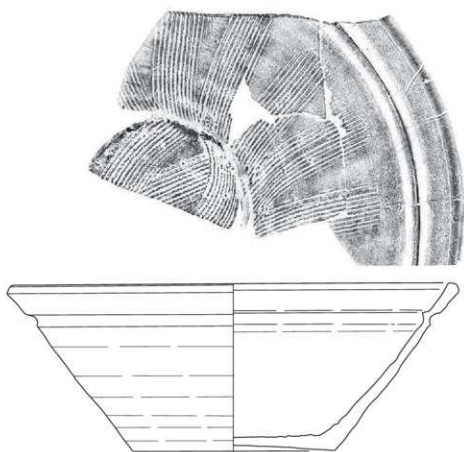


第 282 图 相生工区出土遗物 (21)

相生-SK11

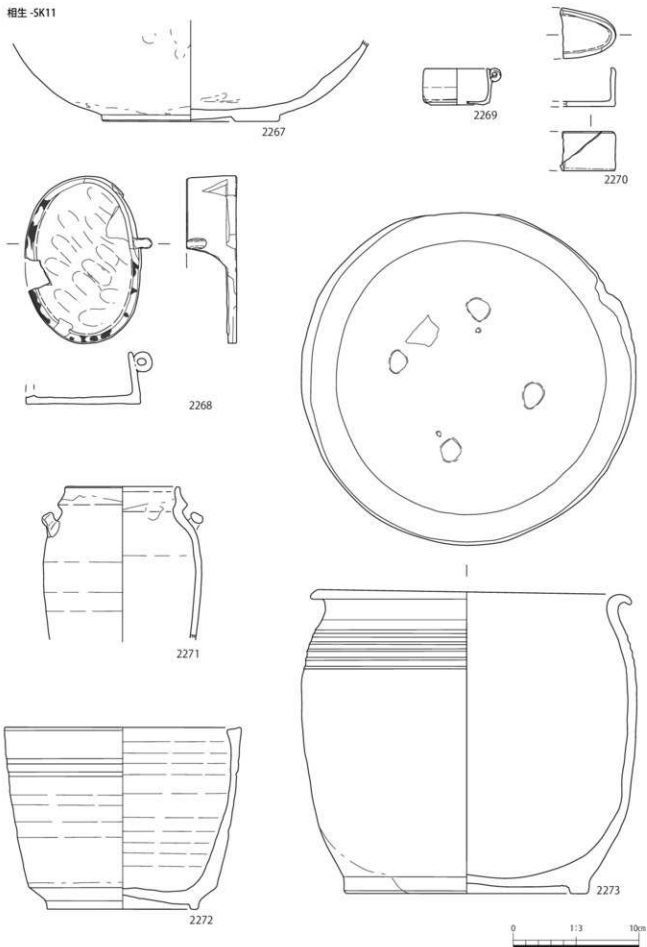


第 283 图 相生工区出土遺物 (22)



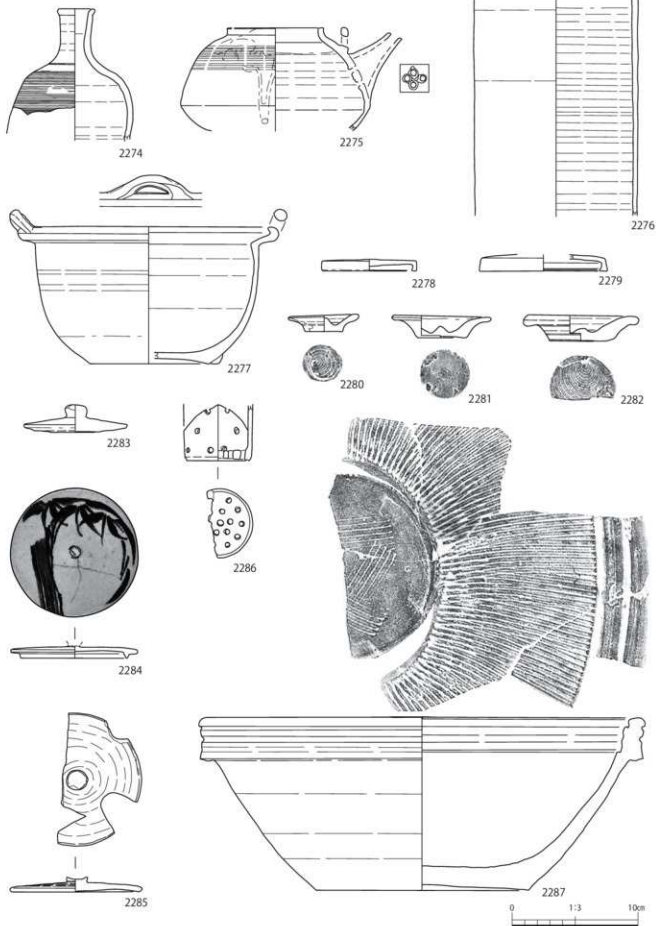
第 284 図 相生工区出土遺物 (23)

相生 -SK11

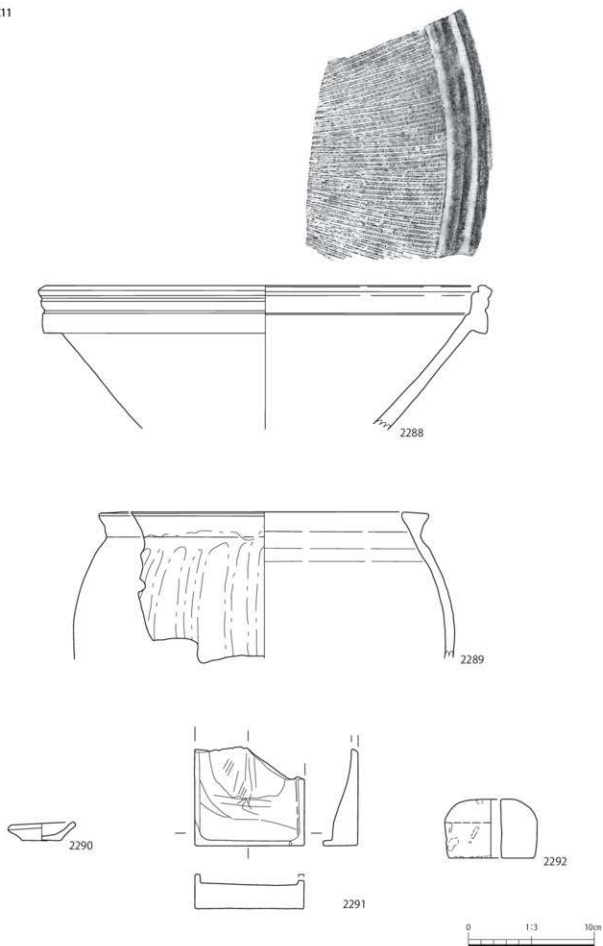


第 285 图 相生工区出土遺物 (24)

相生-SK11

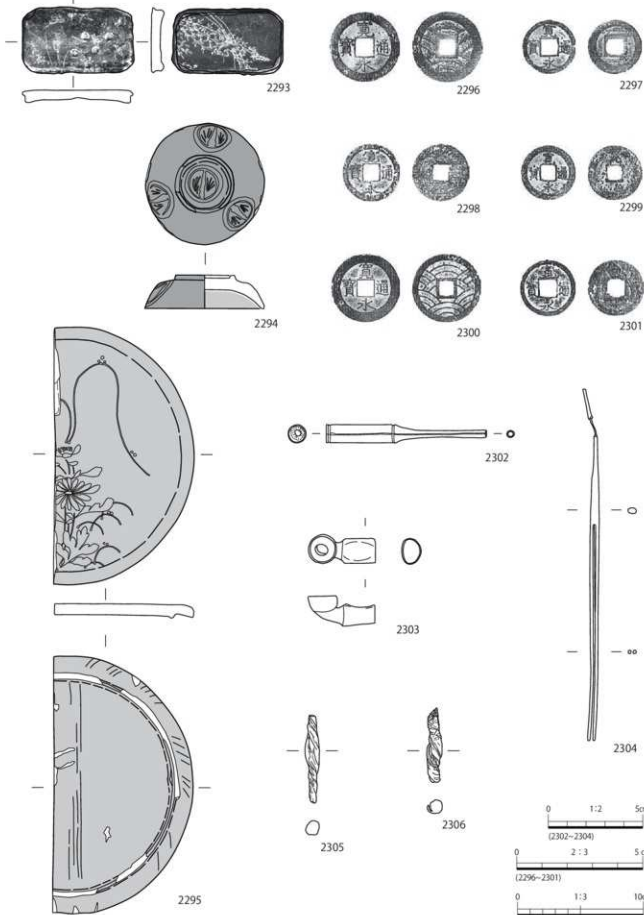


第 286 图 相生工区出土遺物 (25)

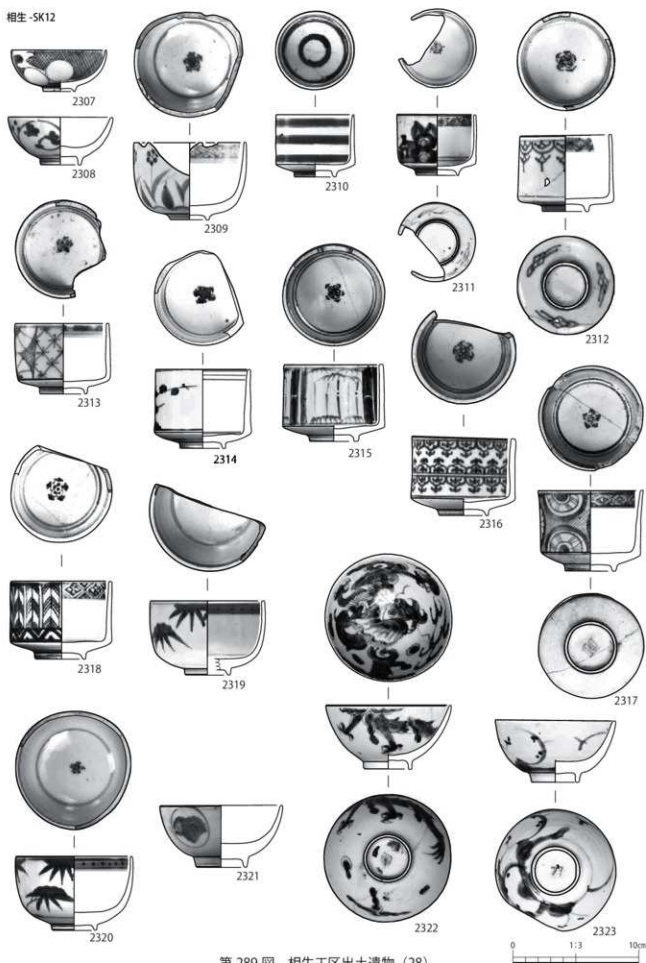


第 287 図 相生工区出土遺物 (26)

相生-SK11

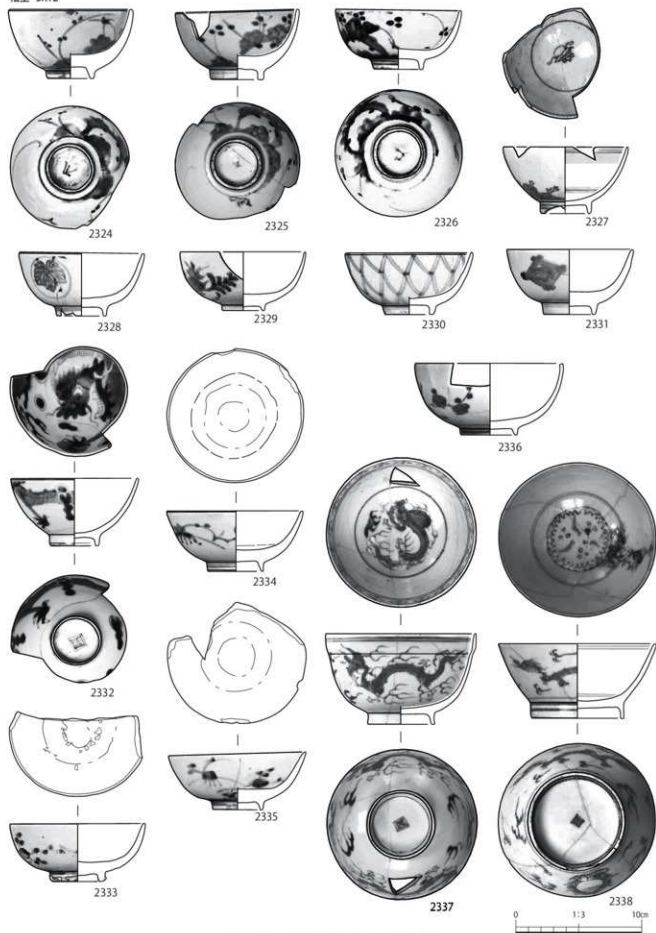


第 288 図 相生工区出土遺物 (27)

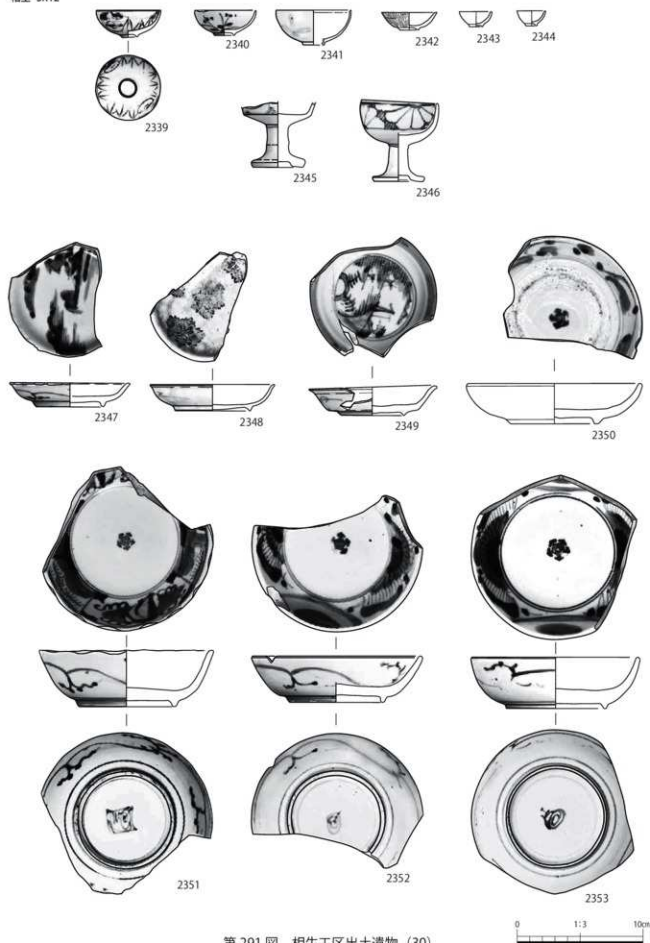


第 289 图 相生工区出土遺物 (28)

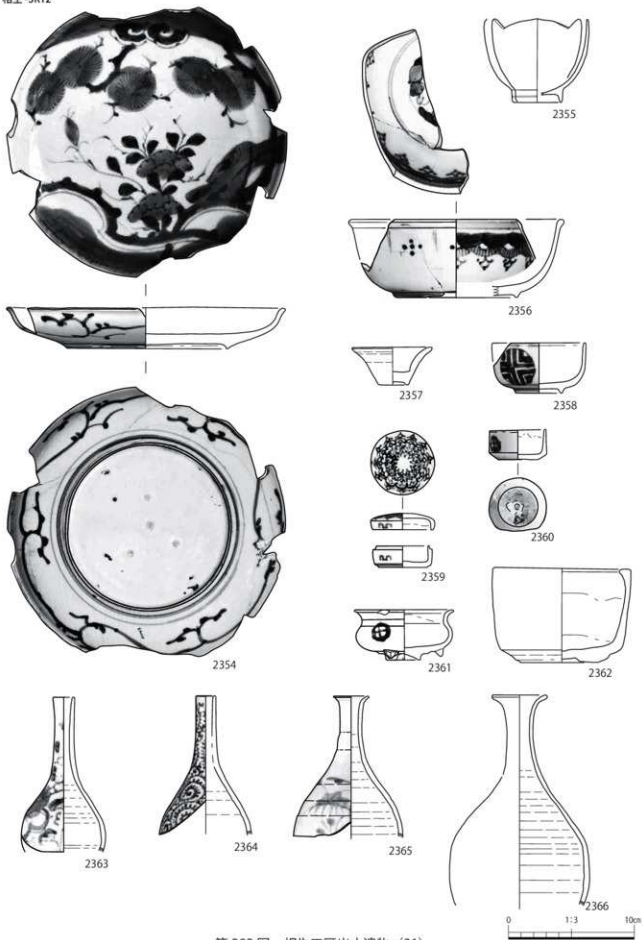
相生-SK12



第 290 图 相生工区出土遺物 (29)

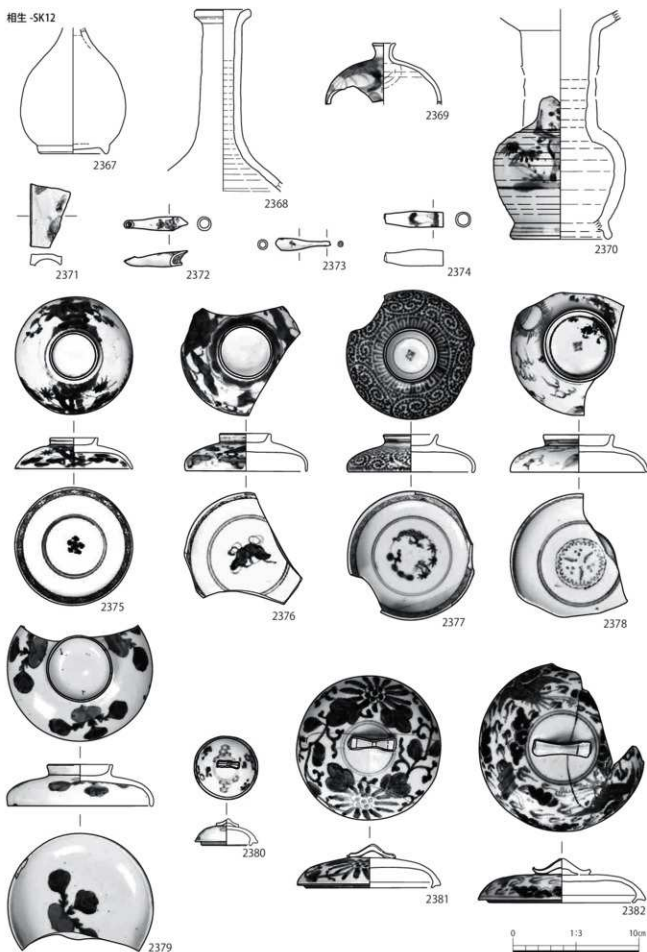


第 291 図 相生工区出土遺物 (30)



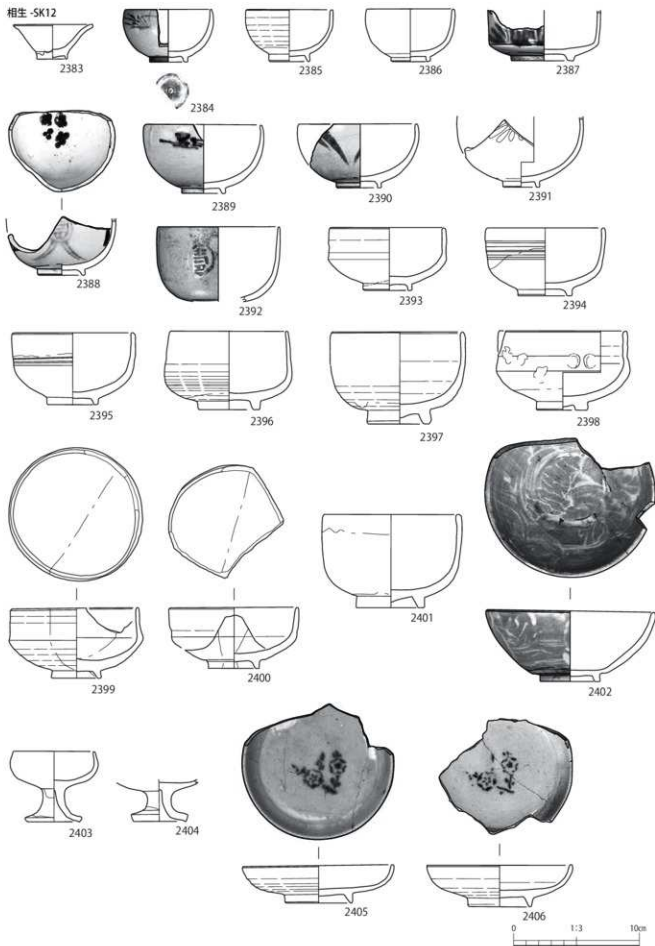
第 292 图 相生工区出土遗物 (31)

相生-SK12



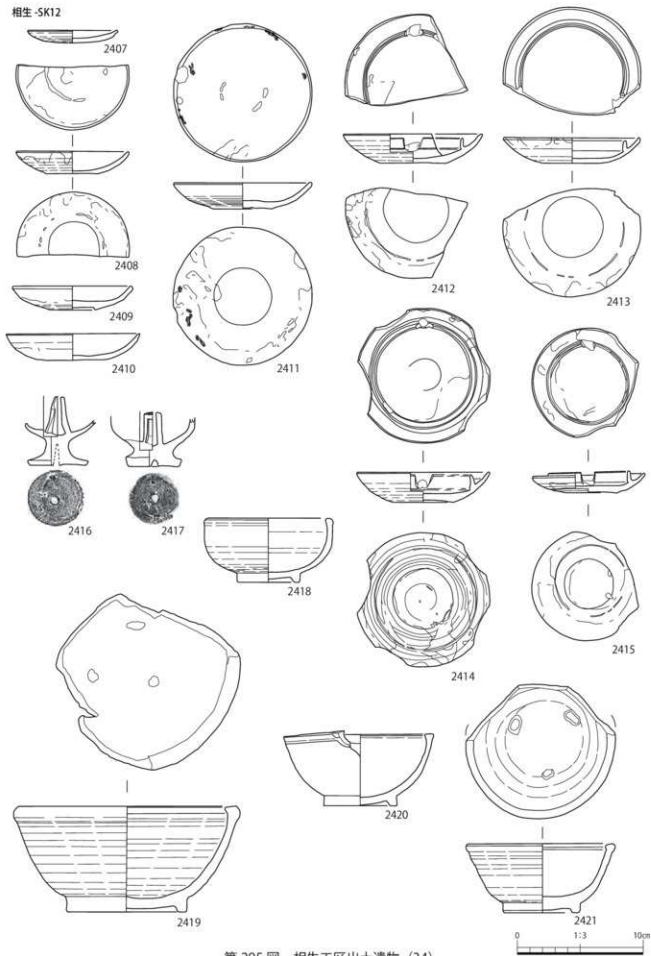
第 293 图 相生工区出土遗物 (32)

相生 -5K12

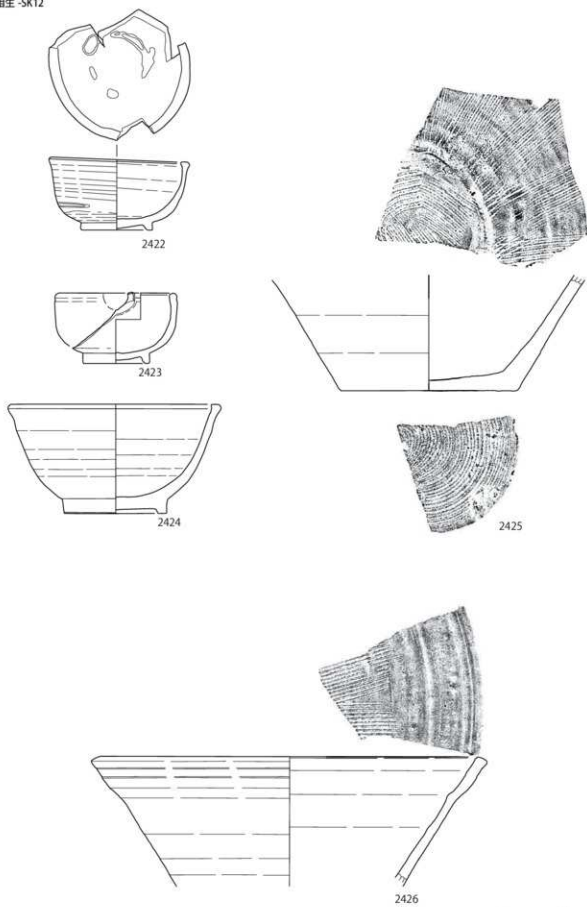


第 294 图 相生工区出土遺物 (33)

相生-5K12

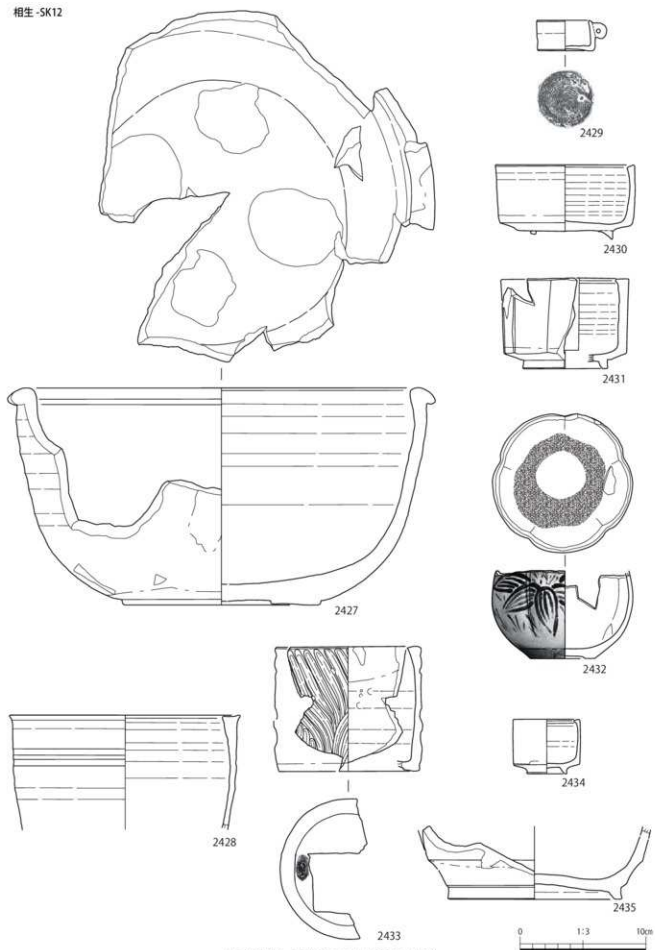


第 295 图 相生工区出土遺物 (34)



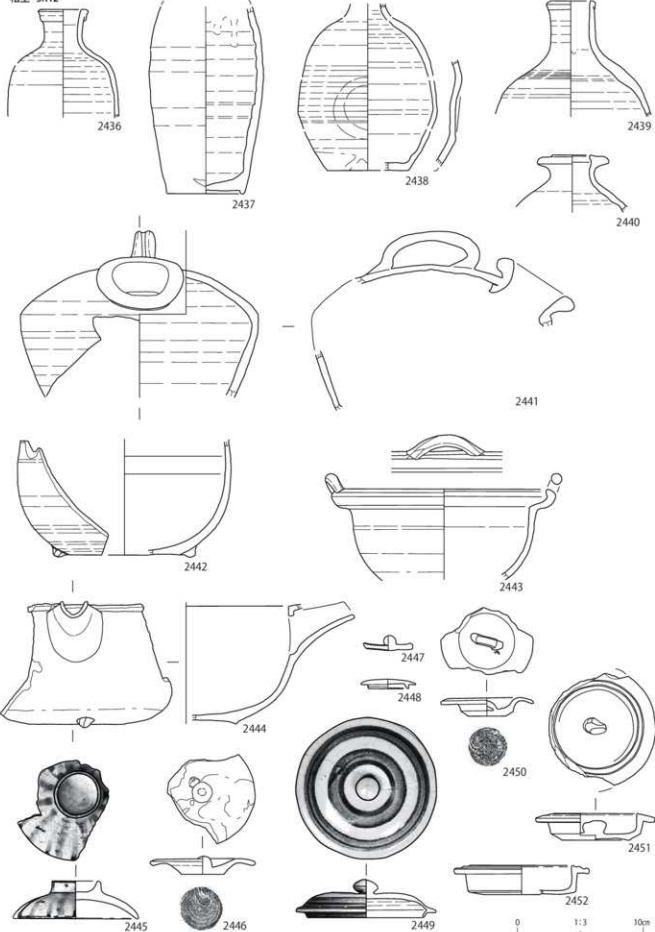
第 296 图 相生工区出土遺物 (35)



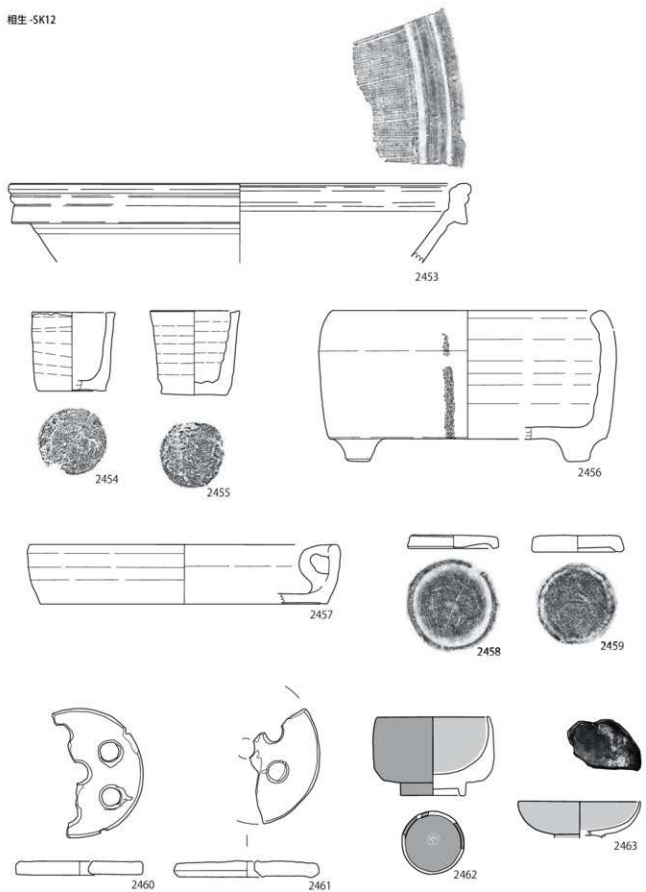


第 297 图 相生工区出土遺物 (36)

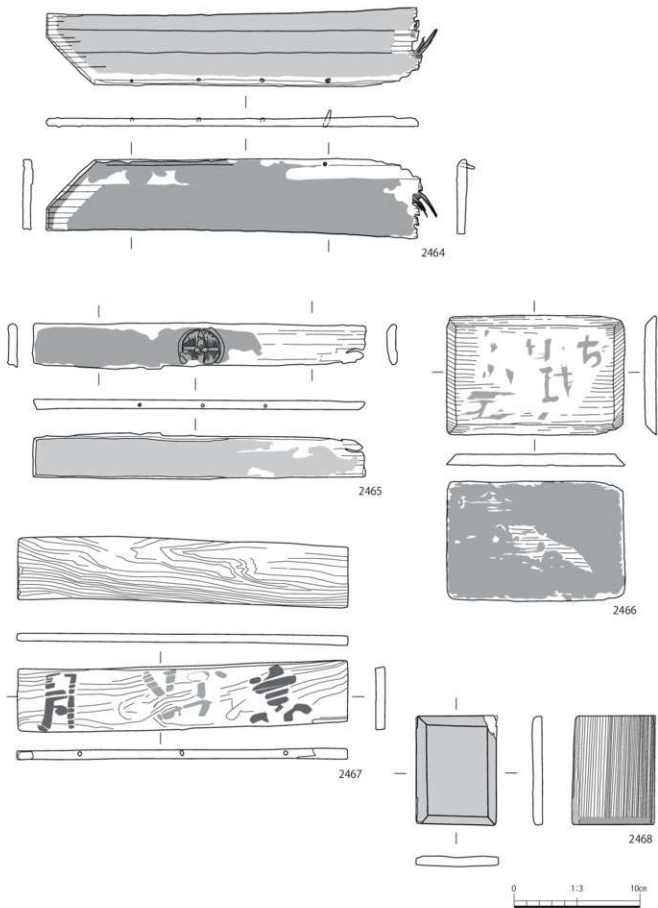
相生-SK12



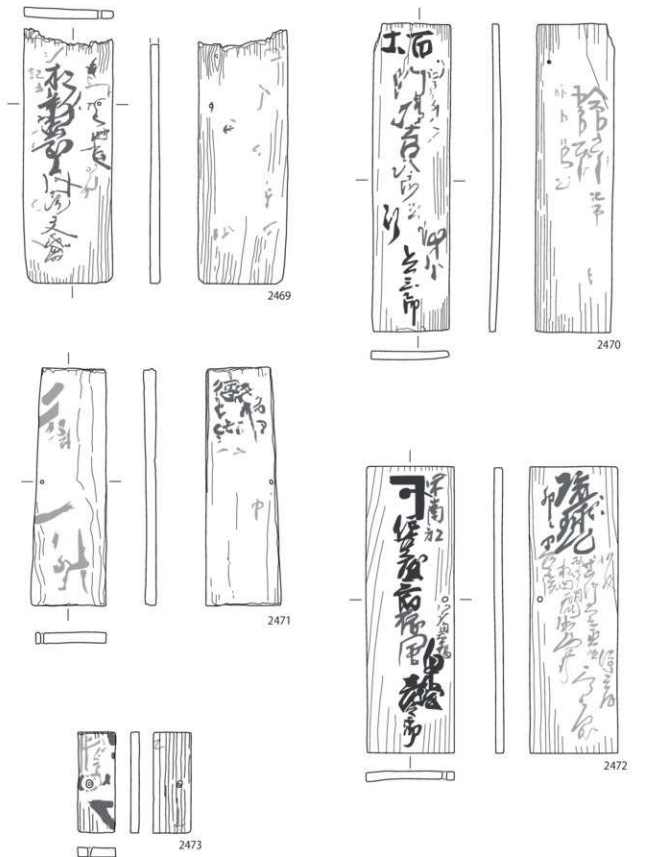
第 298 图 相生工区出土遺物 (37)



第 299 図 相生工区出土遺物 (38)

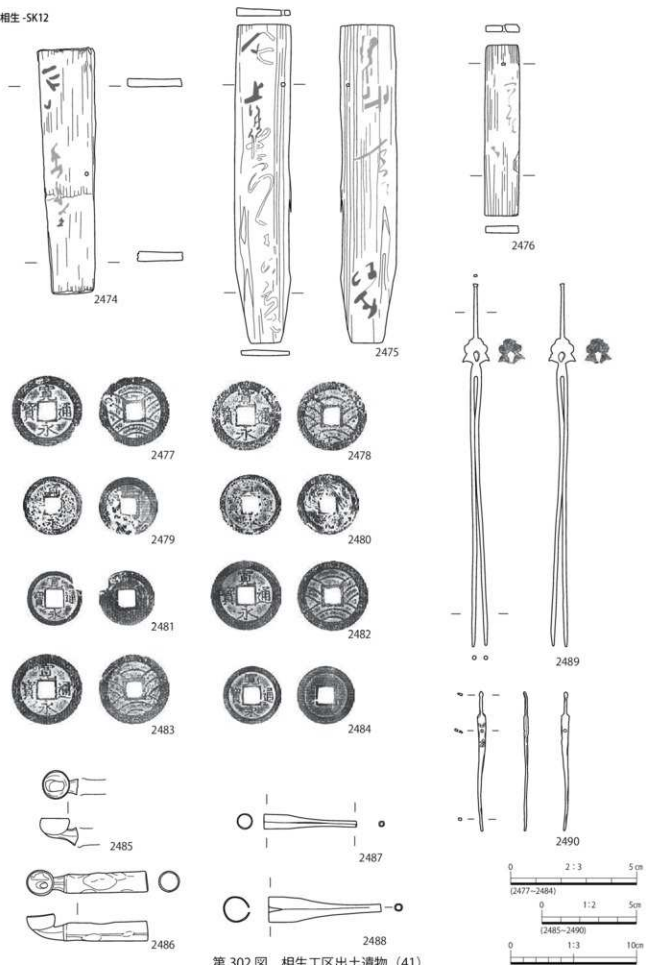


第 300 図 相生工区出土遺物 (39)

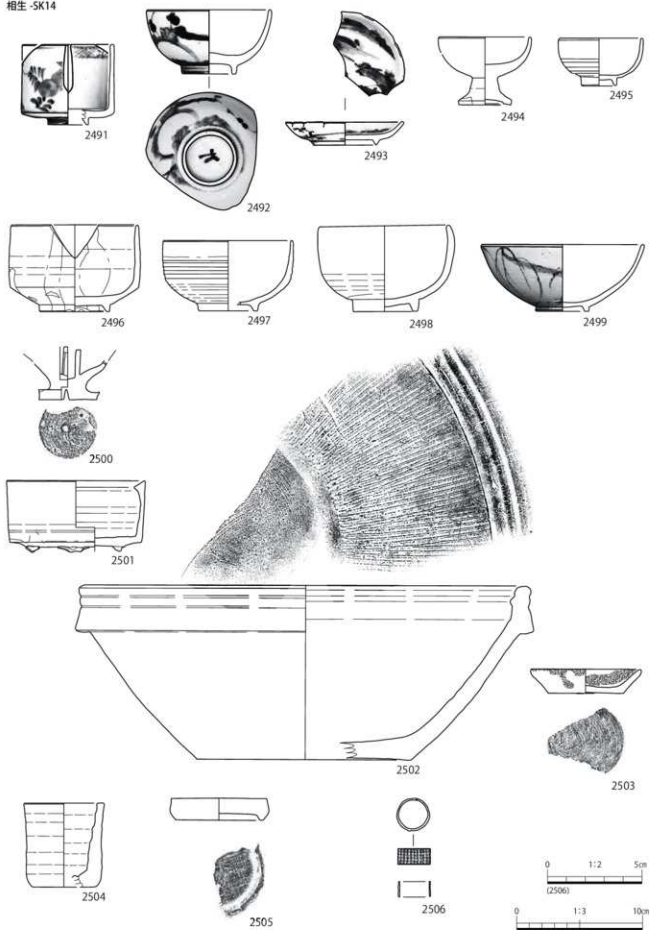


第 301 図 相生工区出土遺物 (40)

相生-SK12

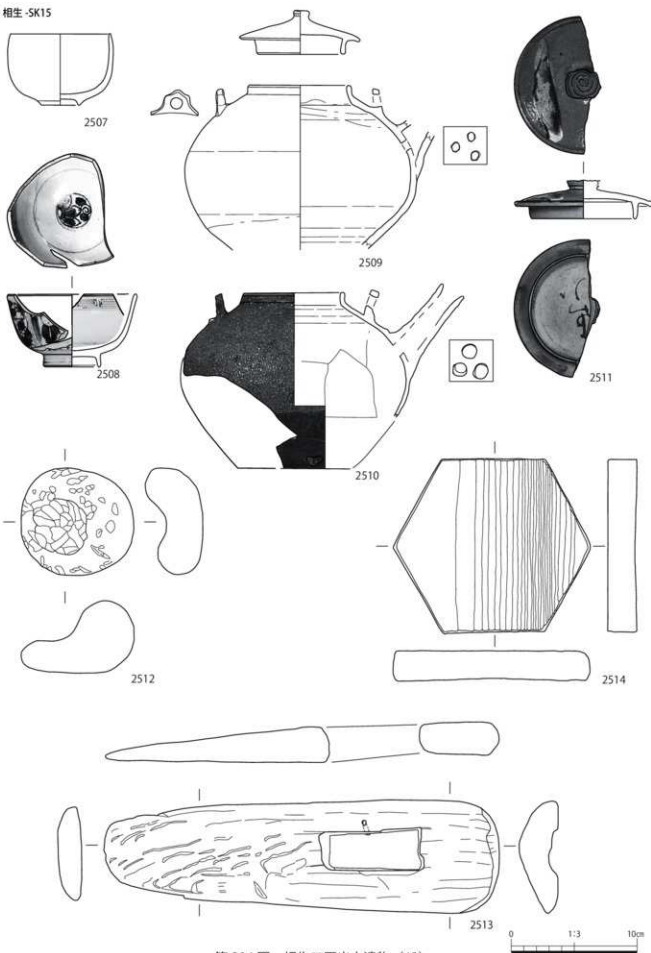


第 302 図 相生工区出土遺物 (41)



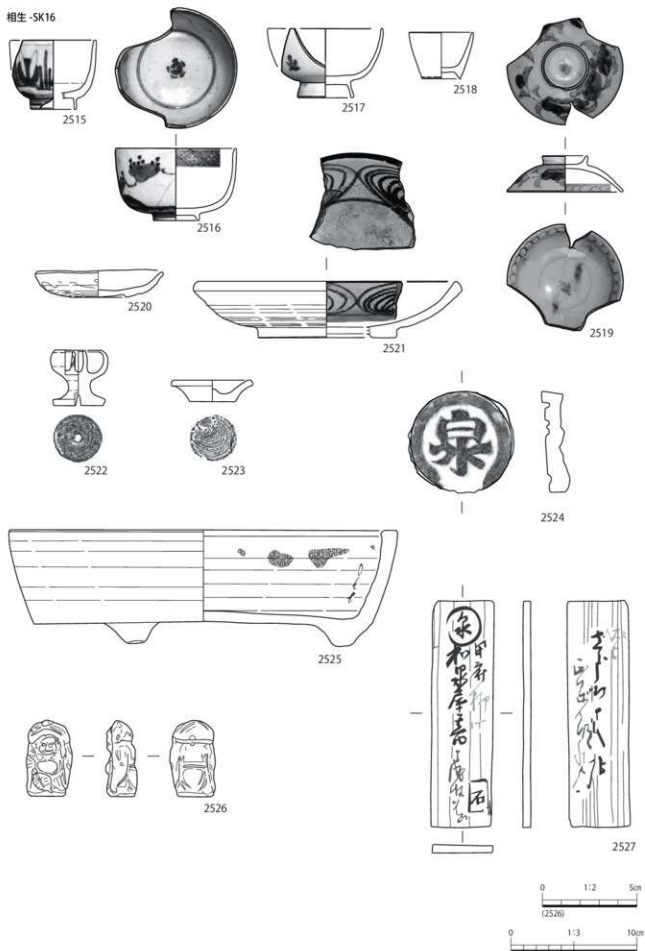
第 303 图 相生工区出土遺物 (42)

相生-SK15



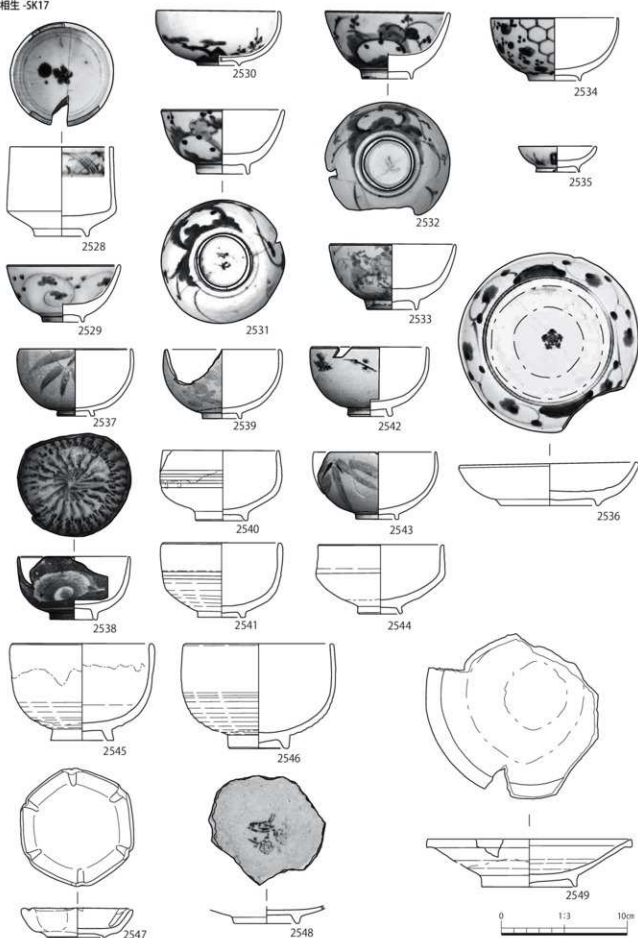
第 304 図 相生工区出土遺物 (43)

相生-SK16



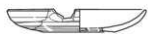
第305図 相生工区出土遺物(44)

相生-SK17



第 306 图 相生工区出土遗物 (45)

相生-SK17



2550



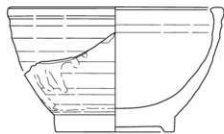
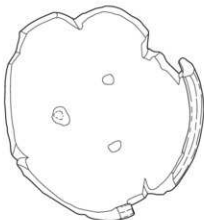
2551



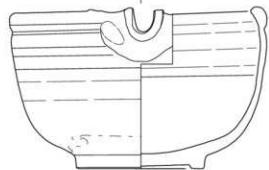
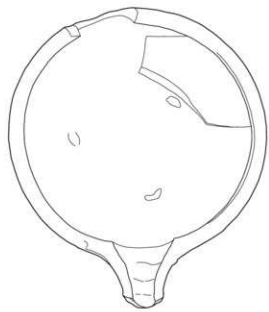
2552



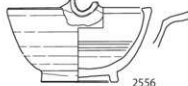
2553



2555



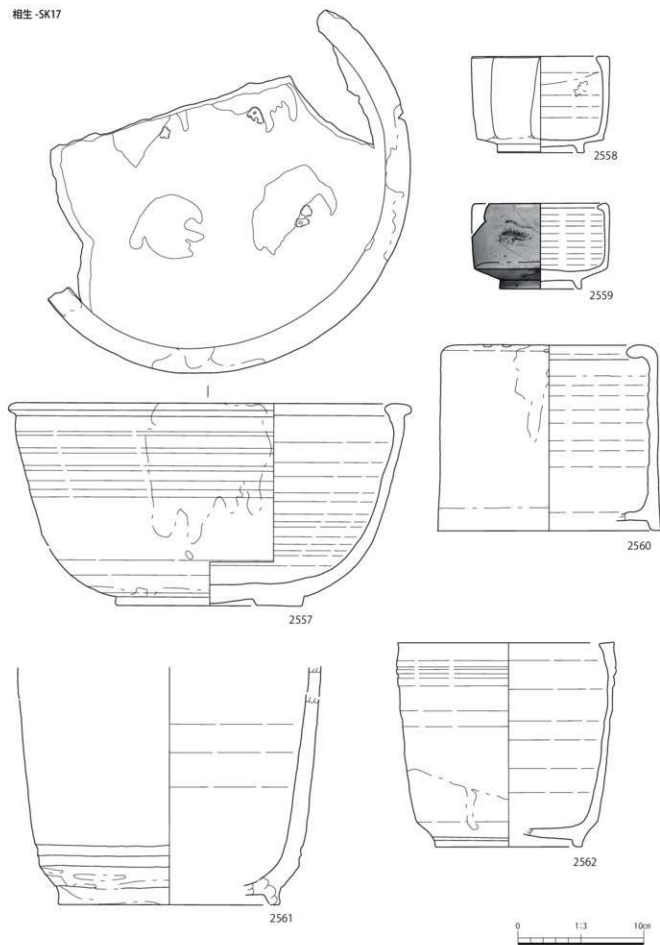
2554



2556

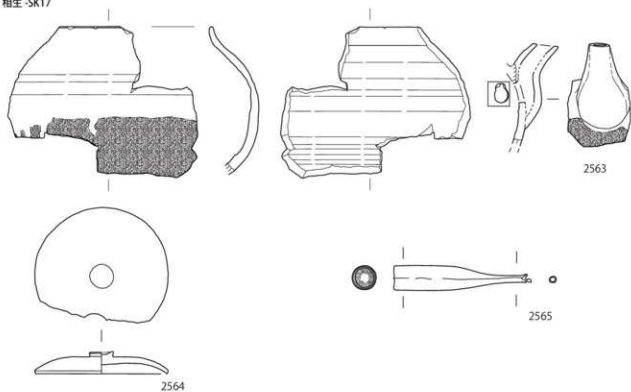


第 307 図 相生工区出土遺物 (46)

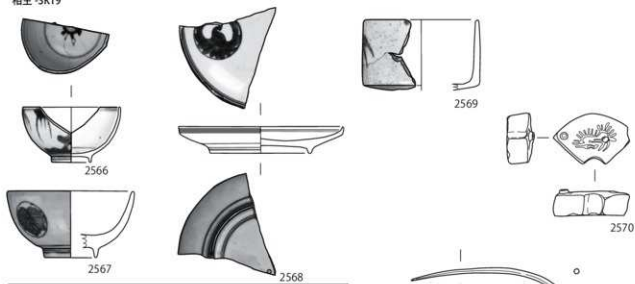


第 308 図 相生工区出土遺物 (47)

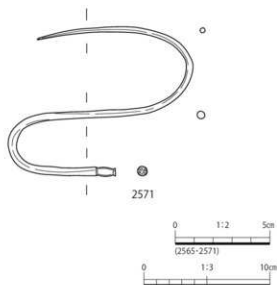
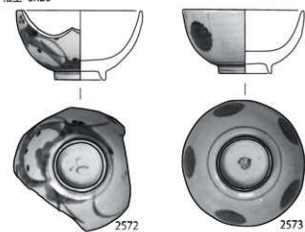
相生-SK17



相生-SK19

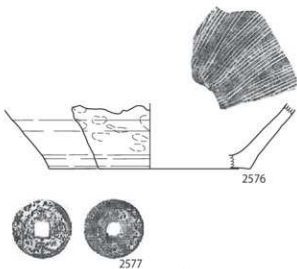
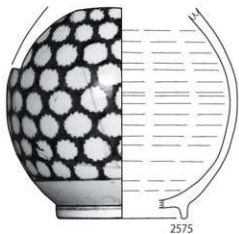


相生-SK20

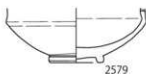


第 309 図 相生工区出土遺物 (48)

相生-SK27



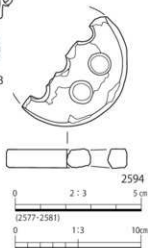
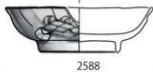
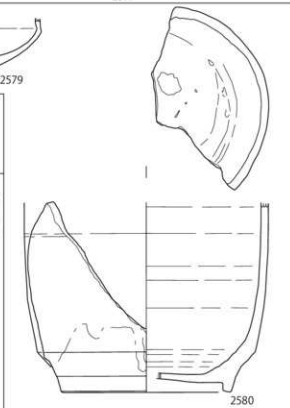
相生-SK29



相生-SD1

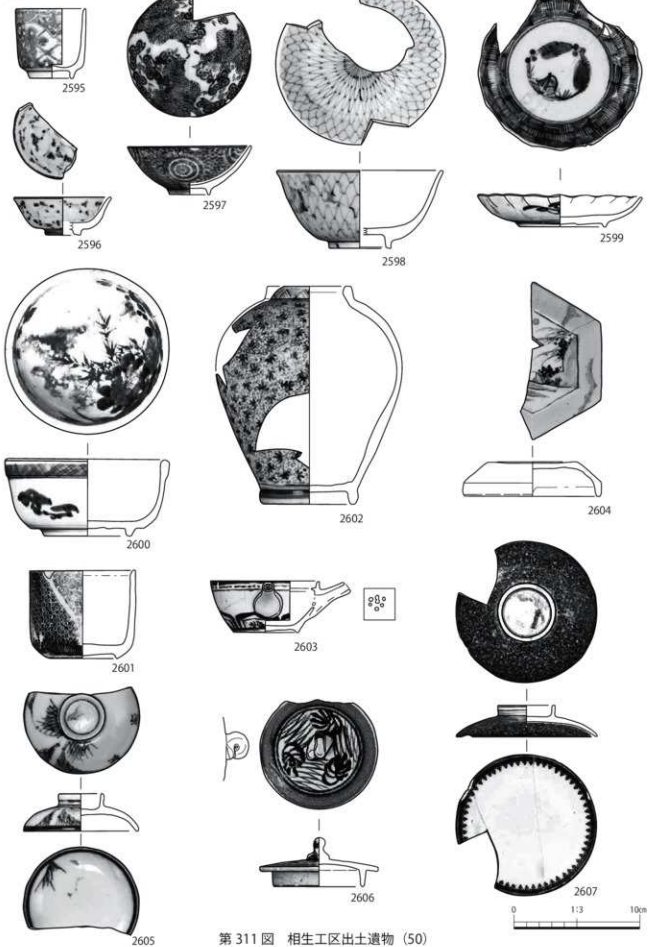


相生-SS1



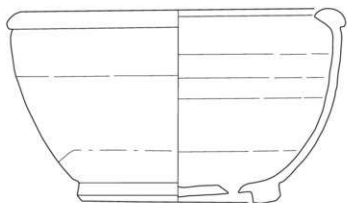
第 310 图 相生工区出土遗物 (49)

相生-P1

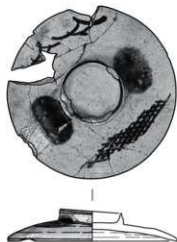


第 311 図 相生工区出土遺物 (50)

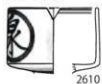
相生-P1



2608



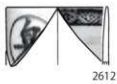
相生 - 遺構外



2610



2611



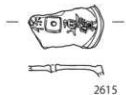
2612



2613



2614



2615



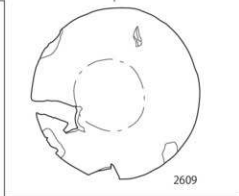
2616



2617



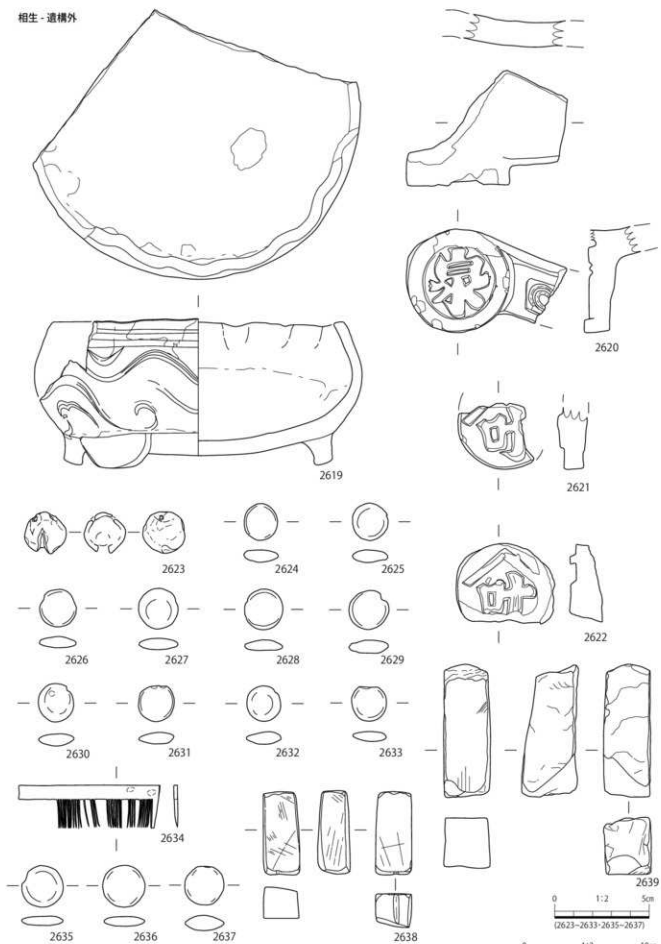
2618



2609

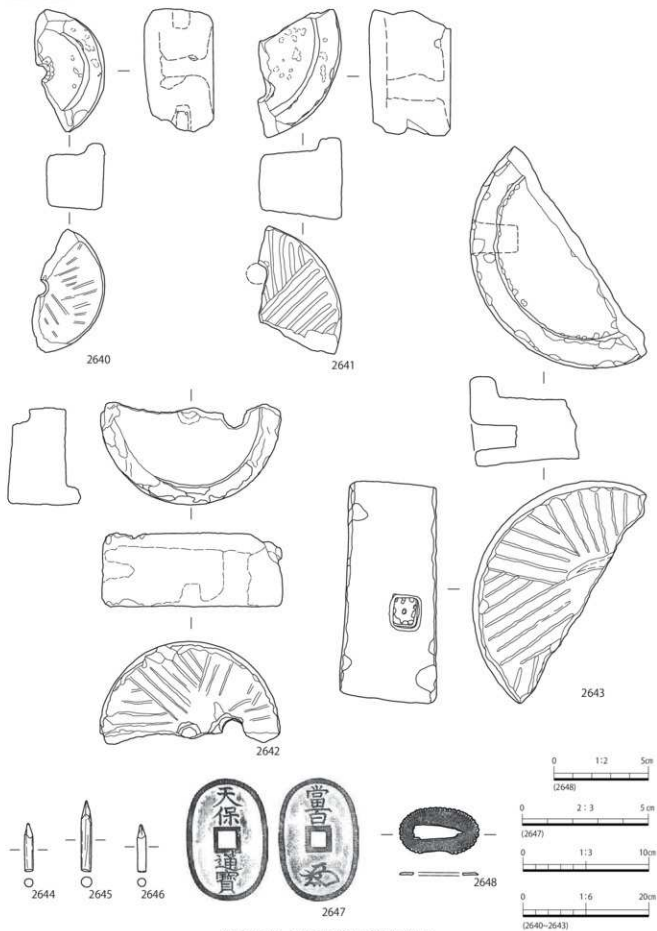
第 312 図 相生工区出土遺物 (51)





第 313 图 相生工区出土遺物 (52)

相生 - 遺構外



第 314 図 相生工区出土遺物 (53)

新築費 番号	調査区 番号	調査点 番号	種別	面積	法線 (cm)				地付・道路状況	特種・備考	概要	種類	地土	土壌調査 年月	生育物	地況	用途	管理区分
					A	B	C	D										
858	A	S615	海積	積層	0.4	2.1			埋積地	上部に礫の層(小(厚約1)・中(厚約2))あり、下部は砂質土	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
859	A	S615	海積	積層	4.0	3.2	1.5	1.5	埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
861	A	S615	土製品	堆積	2.9	3.0	1.2	0.9	埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
862	A	S615	土製品	堆積	2.0	2.0	2.0		埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
863	A	S615	土製品	堆積	2.5	2.0	1.9		埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
864	A	S615	土製品	堆積	2.0	1.9	1.8		埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
865	A	S615	土製品	堆積	2.0	2.0	1.0		埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
866	A	S615	土製品	堆積	6.7	2.3	3.5		埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
867	A	S615	土製品	堆積	7.2	8.2	3.7		埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
868	A	S616	埋積	積層	10.0	2.8	4.3		埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
869	A	S616	土層	堆積	27.4	23.0	18.7		埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
890	A	S616	土製品	堆積	14.5	18.0	19.1		埋積地	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
901	A	S618	海積	小波	堆積	11.6	5.5	2.5		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
902	A	S619	埋積	小波	堆積	0.4	—	13.6		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
903	A	S619	埋積	小波	堆積	0.8	3.4	5.3		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
904	A	S619	埋積	小波	堆積	0.7	0.2	5.4		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
905	A	S619	埋積	小波	堆積	0.2	0.3	5.3		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
906	A	S619	埋積	小波	堆積	0.7	1.7	0.4		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
907	A	S619	埋積	小波	堆積	2.2	3.8	3.3		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
908	A	S619	埋積	小波	堆積	0.7	16.0	4.8		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
909	A	S619	埋積	大波	堆積	12.0	6.2	6.5		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
910	A	S619	埋積	小波	堆積	11.0	6.6	3.1		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
911	A	S619	埋積	中波	堆積	—	8.3	(1.5)		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
912	A	S619	埋積	中波	堆積	11.8	10.0	3.0		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
913	A	S619	埋積	積層	埋積地(小波)	14.4	10.2	4.7		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
914	A	S619	埋積	積層	埋積地(小波)	8.3	8.4	2.8	(1.2)	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
915	A	S619	埋積	積層	埋積地	6.7	6.0	1.4		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
916	A	S619	埋積	積層	埋積地	10.3	3.2	0.8		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
917	A	S619	海積	小波	堆積	0.1	0.6	5.0		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
918	A	S619	埋積	打積	埋積地(中波)	16.2	5.5	2.1		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
919	A	S619	埋積	打積	埋積地(中波)	11.0	13.6	2.4		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
920	A	S619	海積	打積	埋積地	11.4	0.1	2.5	7.2	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
921	A	S619	海積	打積	埋積地	10.6	4.5	2.1	7.0	埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
922	A	S619	海積	小波	堆積	0.6	14.1	6.8		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	
923	A	S619	海積	土層	堆積	11.0	6.0	0.9		埋積地	埋積地	砂質土	昭和19年7月	良好	良好	良好	管理区分不明	

* 主成分 () は実行標準値、() は目標実行値。

管理費種別 費目	用途区分	仕入地点	種別	数量	寸法 (cm)				単位	積算	積算 小口金(%)	成約方法	仕行・取付状況	特徴・備考	仕様	仕様	仕入色	色写真	用途	標準仕度	
					A	B	C	D													
965	A	5013	土器	腰巻	丸口金(%)	2.6	2.3	1.8	0.6	無施成	無施成	小口金(%)、腰巻(%)、丸口金(%)	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成
972	A	5014	陶器	小皿	腰巻	丸口金(%)	0.0	—	0.3	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
973	A	5014	陶器	小皿	腰巻	丸口金(%)	0.0	0.0	14.0	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
974	A	5014	陶器	中皿	腰巻	丸口金(%)	0.11	—	0.6	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
975	A	5014	陶器	湯呑み	腰巻	丸口金(%)	0.50	0.50	2.8	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
976	A	5014	陶器	五寸皿	腰巻	丸口金(%)	—	0.2	0.0	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
977	A	5014	陶器	小皿	腰巻	丸口金(%)	0.0	—	0.6	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
978	A	5014	陶器	打物皿	腰巻	丸口金(%)	0.10	0.50	2.3	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
981	A	5025	磁器	小皿	腰巻	丸口金(%)	—	0.30	0.40	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
982	A	5025	磁器	小皿	腰巻	丸口金(%)	0.22	3.8	5.8	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
983	A	5025	磁器	中皿	腰巻	丸口金(%)	0.10	4.0	5.8	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
984	A	5025	磁器	鉢	腰巻	丸口金(%)	0.19	8.5	12.7	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
985	A	5025	磁器	打物皿	腰巻	丸口金(%)	0.43	4.6	17.6	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
—		5025	磁器	鉢	腰巻	丸口金(%)	—	0.40	0.50	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
987	A	5026	磁器	小皿	腰巻	丸口金(%)	0.11	3.7	0.5	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
988	A	5026	磁器	中皿	腰巻	丸口金(%)	0.11	0.20	6.1	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
989	A	5026	磁器	中皿	腰巻	丸口金(%)	0.10	0.60	0.6	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
990	A	5026	磁器	中皿	腰巻	丸口金(%)	0.05	3.2	5.0	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
991	A	5026	磁器	中皿	腰巻	丸口金(%)	—	6.2	0.5	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
992	A	5026	磁器	鉢	腰巻	丸口金(%)	0.23	4.6	6.1	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
993	A	5026	磁器	鉢	腰巻	丸口金(%)	0.10	0.20	5.5	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
994	A	5026	磁器	鉢	腰巻	丸口金(%)	0.10	0.20	2.5	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
995	A	5026	磁器	鉢	腰巻	丸口金(%)	—	5.0	2.0	5.4	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
996	A	5026	陶器	小皿	腰巻	丸口金(%)	0.03	—	0.4	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
997	A	5026	陶器	中皿	腰巻	丸口金(%)	0.5	3.6	3.3	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
998	A	5026	陶器	五寸皿	腰巻	丸口金(%)	0.34	0.9	3.4	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
999	A	5026	陶器	打物皿	腰巻	丸口金(%)	0.09	3.8	2.0	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1000	A	5026	陶器	鉢	腰巻	丸口金(%)	0.50	—	0.0	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1001	A	5026	陶器	鉢	腰巻	丸口金(%)	—	0.40	9.1	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1002	A	5026	陶器	鉢	腰巻	丸口金(%)	0.26	—	0.1	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1003	A	5026	陶器	中皿	腰巻	丸口金(%)	—	18.4	0.6	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1005	A	5029	磁器	小皿	腰巻	丸口金(%)	0.6	0.0	4.3	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1006	A	5029	磁器	中皿	腰巻	丸口金(%)	0.4	3.7	0.6	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1007	A	5029	磁器	中皿	腰巻	丸口金(%)	0.04	4.3	0.7	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1008	A	5029	磁器	中皿	腰巻	丸口金(%)	0.04	0.0	5.8	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1009	A	5029	磁器	湯呑み	腰巻	丸口金(%)	0.60	0.20	2.7	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1010	A	5029	磁器	小皿	腰巻	丸口金(%)	1.14	6.5	3.4	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	
1011	A	5029	磁器	中皿	腰巻	丸口金(%)	1.54	8.3	4.5	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	無施成	

※左欄に「1」は実行済数値、「C」は計画中を示す。

管理番号	課名/地区/施設名	種別	趣意	概要	経費(万円)					施行・実施状況	特徴、備考	効果	施設	地区	色別	達成	決定年度
					A	B	C	D	O								
1012	A	5029	研修	研修	2.2	0.5	2.6	0.9	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1013	A	5029	研修	研修	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1014	A	5029	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1015	A	5029	研修	研修	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1016	A	5029	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1017	A	5029	研修	研修	14.2	0.0	3.9	0.0	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1018	A	5029	研修	研修	0.2	5.1	2.1	0.0	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1019	A	5029	研修	研修	0.6	4.1	2.1	0.0	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1020	A	5029	研修	研修	11.0	4.8	4.5	1.5	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1021	A	5029	研修	研修	6.2	0.0	11.4	0.0	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1022	A	5029	研修	研修	8.4	7.5	3.9	2.0	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1023	A	5029	研修	研修	0.0	2.0	0.6	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1025	A	5037	研修	研修	10.0	4.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1026	A	5037	研修	研修	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1027	A	5038	研修	研修	5.9	2.9	2.8	0.0	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1028	A	5038	研修	研修	0.5	2.8	4.8	0.0	0.0	実施済み	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1029	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1030	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1031	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1032	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1033	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1034	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1035	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1036	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1037	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1038	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1039	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1040	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1041	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1042	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1043	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1044	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1045	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1046	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1047	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1048	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1049	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1050	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1051	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1052	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)
1053	A	5038	研修	研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	実行	研修	研修	研修	研修	良好	良好	研修実施2回(計画)

※ 裏面に「1」は発行済製品、「C」は印刷済形式。

管理番号	製品区分	品名	仕様	寸法(mm)					成形技法	発行・展開状況	特徴・備考	価格	種類	紙種	加工色調	色特性	備考
				A	B	C	D	O									
1100	A	5643	両面 中厚 丸芯	(10.0)	4.0	6.6			糊糊成型	脱色剤付・脱色剤多量入り	両面	薄紙 (253754)	糊紙(特注付)	原色 (25372)	良好	原色	原色
1101	A	5643	両面 中厚 両面丸芯	8.8	3.0	2.2	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (253771)	糊紙(特注付)	原色 (253771)	良好	原色	77年対応
1102	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	14.0	6.7	3.9	糊糊成型		両面	外・両面脱色剤多量入り・脱色剤多量入り	両面	薄紙 (253772)	糊紙(特注付)	原色 (253772)	良好	原色	77年対応
1103	A	5643	両面 打眼型 両面丸芯	7.1	2.6	1.4	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (56071)	糊紙(特注付)	原色 (253782)	良好	原色	77年対応
1104	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	7.6	5.5	7.6	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (25382)	糊紙(特注付)	原色 (25382)	良好	原色	77年対応
1105	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	(11.7)	(5.7)		糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (25382)	糊紙(特注付)	原色 (25382)	良好	原色	77年対応
1106	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	(11.7)	(5.7)		糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (25382)	糊紙(特注付)	原色 (25382)	良好	原色	77年対応
1107	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	6.9	7.5	10.4	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (253771)	糊紙(特注付)	原色 (253771)	良好	原色	77年対応
1108	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	6.9	7.5	10.4	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (253771)	糊紙(特注付)	原色 (253771)	良好	原色	77年対応
1109	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	6.3	2.6	1.3	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (253772)	糊紙(特注付)	原色 (253772)	良好	原色	77年対応
1109	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	6.3	2.6	1.3	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (253772)	糊紙(特注付)	原色 (253772)	良好	原色	77年対応
1110	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	10.6	12.1	16.3	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (253771)	糊紙(特注付)	原色 (253771)	良好	原色	77年対応
1111	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	11.2	7.0	10.3	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (253771)	糊紙(特注付)	原色 (253771)	良好	原色	77年対応
1112	A	5643	両面 厚寸型 両面丸芯	10.2	6.0	10.5	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (253771)	糊紙(特注付)	原色 (253771)	良好	原色	77年対応
1124	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	6.6	3.0	4.3	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1125	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	6.9	3.0	5.2	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1126	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	17.1	13.0	4.9	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1129	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	18.2	13.7	14.6	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1129	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	18.2	13.0	4.6	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1129	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	18.2	13.0	4.6	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1128	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	10.2	3.8	5.3	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1129	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	4.6	1.4	1.2	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1130	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	13.2	7.6	3.5	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1131	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	12.6	7.6	2.2	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1132	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	14.0	7.3	2.8	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1133	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	10.4	2.8	11.0	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1134	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	9.2	3.4	2.6	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1135	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	10.3	3.3	2.2	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1136	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	9.5	3.3	1.9	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1137	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	7.5	5.4	4.0	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1138	A	5644	両面 厚寸型 両面丸芯	(11.8)	7.9	7.2	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1143	A	5645	両面 厚寸型 両面丸芯	(7.2)	(4.0)	(3.5)	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1144	A	5645	両面 厚寸型 両面丸芯	(7.2)	(4.0)	(3.5)	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1145	A	5645	両面 厚寸型 両面丸芯	4.1	3.3	10.9	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1146	A	5647	両面 厚寸型 両面丸芯	(8.1)	(3.3)	(8.1)	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1147	A	5647	両面 厚寸型 両面丸芯	(8.1)	(3.3)	(8.1)	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1147	A	5647	両面 厚寸型 両面丸芯	6.8	13.6	6.8	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1148	A	5647	両面 厚寸型 両面丸芯	16.0	(2.1)	4.5	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1149	A	5647	両面 厚寸型 両面丸芯	(11.0)	(5.1)	(5.1)	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1150	A	5647	両面 厚寸型 両面丸芯	13.0	7.0	3.4	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1151	A	5647	両面 厚寸型 両面丸芯	4.0	4.5	2.2	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1152	A	5647	両面 厚寸型 両面丸芯	(7.8)	(2.9)	3.0	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応
1153	A	5647	両面 厚寸型 両面丸芯	(8.0)	(8.1)	(8.1)	糊糊成型		両面	脱色剤付	両面	薄紙 (100901)	糊紙(特注付)	原色 (100901)	良好	原色	77年対応

計画番号 番号	計画区 番号	地区名	種別	事業名	内容	延長 (m)					地付・道路状況	特徴・備考	種別	種別	地土	社会環境	自治体	建設年度	竣工年度
						A	B	C	D	O									
1155	A	5069	海防	防波堤	防波堤一ノ子堤(2ヶ所)	13.8	5.0	2.6	7.5	無補修必要	道路幅員<9m以下、2.2m幅員、全線に付道路幅員あり	説明書	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄
1156	A	5060	堤防	小堤	北堤	28.0	3.4	4.6		無補修必要	5.5m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1157	A	5060	海防	小堤	南堤	18.1	14.1	5.6		無補修必要	道路幅員<9m以下、東側に高低差あり	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1158	A	5060	海防	中堤	南堤		4.0	3.6		無補修必要		説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1159	A	5060	海防	防波堤	防波堤中用	5.8	2.0	3.1		無補修必要	北堤、二層部より2ヶ所、防波堤付置	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1160	A	5060	海防	中堤	北堤	16.8		(7.1)		無補修必要		説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1161	A	5067	堤防	防波堤	防波堤		3.7	(6.6)		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1162	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	(1.1)	3.0	3.1		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1164	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	7.0	3.5	5.6		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1165	A	5067	堤防	中堤	中堤	(0.0)	(3.4)	5.4		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1166	A	5067	堤防	中堤	南堤	(0.4)	(3.0)	4.3		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1167	A	5067	堤防	中堤	北堤	8.8	3.9	4.9		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1168	A	5067	堤防	中堤	南堤	(10.0)	4.2	5.8		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1169	A	5067	堤防	中堤	北堤	4.5	1.4	(1.3)		2ヶ所付修	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1170	A	5067	堤防	中堤	南堤	4.5	1.4	(1.3)		2ヶ所付修	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1171	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	(13.2)	(8.3)	4.0		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1172	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	(7.0)	(5.0)	5.0		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1173	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	(11.1)	(8.2)	(7.2)		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1174	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	(2.2)	(0.0)	5.7	9.2	無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1175	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	18.2		(14.4)		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1176	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	9.2	2.6	3.6		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1177	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	6.9	2.6	6.0		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1178	A	5067	海防	防波堤	防波堤	(12.0)	4.6	2.3	(8.0)	無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1179	A	5067	海防	防波堤	防波堤		5.1	(3.0)	4.5	無補修必要	道路幅員<9m以下、敷入あり	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1180	A	5067	海防	防波堤	防波堤		6.0	(6.6)		無補修必要	道路幅員<9m以下、敷入あり	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1181	A	5067	海防	防波堤	防波堤		8.3	7.1	3.2	無補修必要	道路幅員<9m以下、敷入あり	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1182	A	5067	堤防	防波堤	防波堤	(15.0)	(4.0)	4.0		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1183	A	5067	土砂防除	土砂防除	土砂防除	2.4	1.6	(3.5)		2ヶ所付修	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1185	A	551	堤防	小堤	南堤	(6.0)	(2.4)	3.1		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1186	A	551	堤防	小堤	北堤	(9.2)	3.7	4.3		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1187	A	551	堤防	小堤	北堤	(8.2)	(0.0)	5.5		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1188	A	551	堤防	小堤	北堤	(2.7)	(3.7)	4.9		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1189	A	551	堤防	小堤	北堤	(1.0)	1.8	4.8		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1190	A	551	堤防	小堤	北堤	(0.0)	3.4	4.0		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1191	A	551	堤防	中堤	北堤		5.5	6.0		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1192	A	551	堤防	大堤	北堤	(15.0)	(5.0)	6.7		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1193	A	551	堤防	防波堤	防波堤	(6.3)	(2.3)	(2.6)		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1194	A	551	堤防	小堤	北堤	13.4	7.3	2.5		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1195	A	551	堤防	中堤	北堤		(11.0)	(2.0)		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1196	A	551	堤防	中堤	北堤		3.7	3.2		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1197	A	551	堤防	中堤	北堤		3.0	1.3	0.5	2ヶ所付修	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	
1198	A	551	海防	小堤	南堤	(9.0)	(2.4)	5.0		無補修必要	道路幅員<9m以下	説明書	説明書	説明書	説明書	良好	良好	17年度起～19年度迄	

駅番号	駅名	所在地	線別	路線	駅別	延長 (m)	A	B	C	D	成り分法	始行・到着駅名	特徴・備考	構築	竣工	地上・地下	色別	色別	竣工年度	
1341	B	5015	海線	打根線	北東部区立北	10.3	5.0	2.3	7.2	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線 (1934)	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1342	B	5017	海線	小浜	中津	7.0	2.3	3.5	無軌道区	無軌道区	小浜駅	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1343	B	5018	海線	小浜	北東部区	6.0	0.0	3.9	無軌道区	無軌道区	小浜駅	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1344	B	501	海線	中津	北東部区	(11.2)	6.0	5.6	無軌道区	無軌道区	小浜駅	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1345	B	501	海線	大津	北東部区	—	(10.4)	(6.7)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1346	B	5018	海線	小浜	北東部区	(7.4)	0.0	3.8	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1347	B	5018	海線	小浜	北東部区	(5.1)	0.0	2.6	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1348	B	5018	海線	北東部区	小浜	4.2	4.1	5.2	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1349	B	5018	海線	北東部区	小浜	4.3	4.1	4.8	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1352	B	5018	海線	北東部区	小浜	3.4	4.4	—	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1353	C	504	海線	小浜	北東部区	—	3.8	(4.4)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1354	C	504	海線	中津	北東部区	—	6.6	(3.4)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1355	C	504	海線	小浜	北東部区	8.9	(4.8)	5.4	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1356	C	5018	海線	小浜	北東部区	10.0	5.5	6.7	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1357	C	5018	海線	中津	北東部区	(10.4)	—	(3.4)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1358	C	5018	海線	北東部区	中津	—	(6.4)	(3.0)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1359	C	5018	海線	打根線	北東部区	(10.4)	0.0	2.0	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1360	C	5018	海線	中津	北東部区	—	(10.4)	(6.4)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1361	C	5018	海線	中津	北東部区	(11.0)	(12.0)	11.3	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1362	C	5019	海線	中津	北東部区	(10.1)	(0.0)	5.8	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1364	C	5019	海線	中津	北東部区	4.7	1.2	1.5	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1365	C	5019	海線	中津	北東部区	(12.2)	(7.0)	(3.1)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1366	C	5019	海線	中津	北東部区	6.3	1.3	—	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1367	C	5019	海線	中津	北東部区	6.0	3.1	1.0	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1368	C	5019	海線	中津	北東部区	(14.2)	—	(6.0)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1369	C	5019	海線	北東部区	中津	(9.0)	(7.0)	(9.7)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1370	C	5019	海線	北東部区	中津	—	—	12.1	—	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1371	C	5019	海線	中津	北東部区	(21.0)	—	11.4	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1372	C	5020	海線	中津	北東部区	—	(4.4)	(2.0)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1373	C	5020	海線	中津	北東部区	(2.9)	—	(10.0)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1374	C	5020	海線	中津	北東部区	(10.4)	(4.3)	2.6	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1375	C	5020	海線	中津	北東部区	—	(4.4)	(3.9)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1376	C	5020	海線	中津	北東部区	—	4.2	(4.4)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1377	C	5020	海線	中津	北東部区	—	(4.0)	(1.9)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1378	C	5020	海線	打根線	北東部区	(6.6)	(3.0)	1.9	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度
1379	C	5021	海線	小浜	北東部区	(9.3)	4.1	(3.4)	無軌道区	無軌道区	無軌道区	追分駅	追分駅	築港線	築港線	地上	赤	黒	1937年	竣工年度

路線番号	駅位置	駅名	路線	正線 (m)				駅行・駅間所要	特種・備考	電機	橋脚	土工	土工金額	当否特	竣工年度	竣工年度代
				A	B	C	D									
1575	C	5033	海線	丸石	—	0.53	0.53	—	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1576	C	5033	海線	陸路	2階建(橋脚)	12.20	—	10.55	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1577	C	5033	海線	島戸	(1)2.2	—	0.63	—	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1578	C	5033	土線	打形田	敷設途中	4.1	2.6	1.1	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1579	C	5033	土線	打形田	敷設途中	(4)6	2.8	1.2	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1580	C	5033	土線	打形田	敷設途中	4.9	2.8	1.3	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1581	C	5033	土線	打形田	敷設途中	5.2	3.6	1.8	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1582	C	5033	土線	打形田	敷設途中	(5)4	(2)9	1.5	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1583	C	5033	土線	打形田	敷設途中	(5)3	(3)0	1.2	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1584	C	5033	土線	打形田	敷設途中	5.3	2.9	1.2	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1585	C	5033	土線	打形田	敷設途中	5.5	3.5	1.4	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1586	C	5033	土線	打形田	敷設途中	8.6	5.0	18.0	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1587	C	5033	土線	打形田	敷設途中	(8)6	5.0	2.1	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1588	C	5033	土線	打形田	敷設途中	8.6	4.8	2.4	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1589	C	5033	土線	打形田	敷設途中	9.0	6.4	1.9	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1593	C	5035	海線	中線	丸石	(1)2.2	4.1	5.2	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1594	C	5035	海線	陸路	2階建(橋脚)	(2)5.0	—	(1)3.3	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1596	C	5036	海線	小磯	丸石	(8)0	(3)4	3.9	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1597	C	5036	海線	小磯	丸石	(1)3.0	(8)0	3.3	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1598	C	5036	海線	中磯	丸石	(2)8	(5)0	5.6	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1599	C	5037	海線	中磯	丸石	(1)3.3	4.6	6.8	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1600	C	5037	海線	中磯	陸路	—	4.0	3.8	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1601	C	5037	土線	陸路	丸石	32.4	30.0	6.8	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1602	C	5038	海線	小磯	中磯	8.4	—	(5)3	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1603	C	5038	海線	小磯	中磯	8.3	(3)4	5.5	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1604	C	5038	海線	中磯	丸石	(1)0.0	(8)0	4.2	5.2	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1605	C	5038	海線	陸路	丸石	(8)2	(4)2	4.6	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
1606	C	5038	海線	丸石	丸石	—	2.9	(1)0	無補正	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり

* 主屋 () 是單行式屋頂, () 是雙行式屋頂。

舊屋編號	新屋編號	新屋地址	樓宇	樓層	面積 (sqm)	高度 (cm)			完成用途	地庫、地庫柱	特徵、備考	樓型	樓層	牆土	牆土顏色	凸窗/平台	牆面	樓頂	樓頂高度	樓頂年代
						A	B	C												
1647	C	S23	土庫	小座	無	11.4	18.3	2.5	無	無	單層	無	無	灰白 (S1970)	無	良好	良好	良好	無	無
1648	C	S31	裙樓	小座	無	6.3	12.0	4.6	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1649	C	S31	裙樓	小座	無	6.3	12.0	4.6	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1650	C	S31	裙樓	小座	無	11.0	3.5	4.5	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1651	C	S31	裙樓	小座	無	11.0	3.8	4.7	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1652	C	S31	裙樓	小座	無	13.1	3.8	4.8	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1653	C	S31	裙樓	小座	無	12.0	2.6	2.9	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1654	C	S31	裙樓	小座	無	10.4	6.2	2.0	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1655	C	S31	裙樓	小座	無	13.0	7.4	2.1	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1656	C	S31	裙樓	小座	無	12.2	7.2	2.7	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1657	C	S31	裙樓	小座	無	14.4	4.0	13.6	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1658	C	S31	裙樓	小座	無	15.0	7.7	4.2	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1659	C	S31	裙樓	小座	無	13.0	9.0	4.9	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1660	C	S31	裙樓	小座	無	11.0	13.0	4.0	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1661	C	S31	裙樓	小座	無	12.4	11.4	4.0	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1662	C	S31	裙樓	小座	無	7.1	2.5	7.9	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1663	C	S31	裙樓	小座	無	10.0	2.2	7.1	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1664	C	S31	裙樓	小座	無	10.1	3.8	2.1	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1665	C	S31	裙樓	小座	無	16.1	4.2	2.3	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1666	C	S31	裙樓	小座	無	10.0	4.6	7.7	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1667	C	S31	裙樓	小座	無	—	10.2	4.0	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1668	C	S32	裙樓	小座	無	8.6	3.2	4.3	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1669	C	S32	裙樓	小座	無	8.9	3.3	4.2	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1670	C	S32	裙樓	小座	無	11.7	4.2	4.9	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1671	C	S32	裙樓	小座	無	2.1	1.5	2.4	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1672	C	S32	裙樓	小座	無	—	18.5	16.5	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1673	C	S32	裙樓	小座	無	—	12.0	16.1	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1684	C	S32	裙樓	小座	無	2.0	4.0	9.5	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1685	C	S38	裙樓	小座	無	—	15.0	—	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1686	C	S38	裙樓	小座	無	12.3	12.3	4.6	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1687	C	S38	裙樓	小座	無	6.8	3.7	4.1	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1688	C	S38	裙樓	小座	無	8.7	3.8	1.7	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1689	C	S38	裙樓	小座	無	10.3	3.2	1.7	8.0	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1690	C	S38	裙樓	小座	無	10.0	5.3	7.0	—	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1691	C	S38	裙樓	小座	無	13.0	—	13.3	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1692	C	S38	裙樓	小座	無	—	—	16.3	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1695	C	高層	裙樓	中座	有	24.0	13.7	3.3	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1696	C	高層	裙樓	中座	有	12.1	8.1	9.4	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1697	C	高層	裙樓	中座	有	20.0	—	18.4	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1698	C	高層	裙樓	中座	有	7.4	7.5	8.8	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無
1700	C	高層	土庫	小座	無	4.8	1.6	1.2	無	無	高層 2/10 樓	無	無	灰白	良好	良好	良好	良好	無	無

新築費 番号	新築区 出土地名	種別	用途	面積	積算	延床面積 (㎡)				用途区分	地目・用途特記	特種・備考	種類	積算	地目	地土名	色別等	地質	標準定価
						A	B	C	D										
1740	D	5K3	土庫	小棟	雑居工業	26.0	21.0	00.1		雑作り建蔽		雑居カ	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄
1741	D	5K3	土庫	中規模小規模		27.7	11.6	12.2		雑居建蔽	スズヤ倉庫	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄
1746	D	5K4	雑居	中規模			0.3	0.3		雑居建蔽	くらやみ倉庫・雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1747	D	5K4	雑居	小規模		11.0	0.5	2.5		雑居建蔽		雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1748	D	5K4	雑居	五層		13.5	0.6	3.1		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1749	D	5K4	雑居	小規模			0.2	1.3		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1750	D	5K4	雑居	雑居	雑居	06.3		0.3		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1751	D	5K5	雑居	五層		14.0		4.0		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1759	D	5K5	雑居	雑居			8.5	(2.4)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1760	D	5K5	雑居	雑居	雑居	00.0	14.0	13.2		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1761	D	5K6	雑居	小規模			4.3	(2.7)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1762	D	5K6	雑居	配電	配電	14.8		(1.4)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1763	D	5K6	雑居	小規模		11.4	0.0	2.2		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1764	D	5K6	雑居	小規模		6.4	0.3	(1.4)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1765	D	5K6	雑居	雑居	雑居	8.4		0.4		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1767	D	5K9	雑居	小規模		25.3	3.3	3.6		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1768	D	5K9	雑居	小規模		17.2	0.2	3.9		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1769	D	5K9	雑居	中規模		10.0	14.6	5.1		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1770	D	5K9	雑居	中規模		10.0	4.4	5.3		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1771	D	5K9	雑居	中規模		10.1	4.3	5.6		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1772	D	5K9	雑居	中規模			(2.0)	3.1		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1773	D	5K9	雑居	小規模		13.4	0.5	7.1		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1774	D	5K9	雑居	小規模			3.9	(4.0)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1775	D	5K9	雑居	小規模		12.5	0.7	4.0		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1776	D	5K9	雑居	小規模		11.6		(10.0)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1777	D	5K9	雑居	雑居			4.0	(4.3)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1778	D	5K9	雑居	雑居		0.8	0.0	(2.2)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1779	D	5K9	雑居	中規模		0.0	3.3	5.2		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1780	D	5K9	雑居	中規模		0.6	3.3	5.5		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1781	D	5K9	雑居	中規模		0.5	4.8	6.8		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1782	D	5K9	雑居	中規模			5.0	(4.0)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1783	D	5K9	雑居	打建	打建	0.4	(4.2)	2.1		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1784	D	5K9	雑居	打建	打建	0.3	(4.2)	1.4		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1785	D	5K9	雑居	雑居	雑居	03.0	11.9	13.8		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1786	D	5K9	雑居	雑居	雑居	15.0		(11.1)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1787	D	5K9	雑居	中規模		3.0		(11.2)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1788	D	5K9	雑居	化正	化正	01.4		(7.0)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1789	D	5K9	雑居	中規模			0.6	(6.3)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1790	D	5K9	雑居	雑居		(10.1)	(10.2)	(1.0)		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1791	D	5K11	雑居	小規模		14.9	0.3	2.0		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1792	D	5K11	雑居	小規模		13.2	0.3	3.2		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1794	D	5K11	雑居	小規模		8.5	3.7	4.0		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	
1795	D	5K11	雑居	小規模		0.8	0.0	4.9		雑居建蔽	雑居ビル等	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	雑居	17年12月～10月迄	

* 表裏に「1」は実行済状態、「C」は対応済否。

管理番号	種別区分	種別	種別	基準 (mm)					成程技法	施行・展開状況	特徴・備考	備考	地土	加工色調	含有物	構成	決定理由	標準仕様書形式
				A	B	C	D	O										
1796	D	SK11	埋積	小橋	埋積	13.4	3.0					埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1797	D	SK11	埋積	小橋	埋積	8.5	3.5	5.6			個人あり	埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1799	D	SK11	埋積	小橋	埋積	10.27	3.6	5.5				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1799	D	SK11	埋積	小橋	埋積	16.0	3.4	6.3				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1800	D	SK11	埋積	小橋	埋積	8.2	5.0	7.1				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1801	D	SK11	埋積	小橋	埋積	16.0	4.0	6.2				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1802	D	SK11	埋積	中橋	埋積	11.4	4.4	6.7				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1803	D	SK11	埋積	中橋	埋積	11.4	4.2	5.9				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1804	D	SK11	埋積	中橋	埋積	11.3	4.0	5.7				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1805	D	SK11	埋積	中橋	埋積	10.4	4.7	5.0				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1806	D	SK11	埋積	中橋	埋積	10.2	4.7	5.2				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1807	D	SK11	埋積	中橋	埋積	10.1	4.4	5.0				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1808	D	SK11	埋積	中橋	埋積	10.1	4.0	5.0				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1809	D	SK11	埋積	中橋	埋積	10.2	3.7	5.0				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1810	D	SK11	埋積	中橋	埋積	10.0	3.8	5.4				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1811	D	SK11	埋積	中橋	埋積	9.8	4.2	4.8				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1812	D	SK11	埋積	中橋	埋積	16.0	3.3	5.4				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1813	D	SK11	埋積	中橋	埋積	10.0	3.5	4.7				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1814	D	SK11	埋積	中橋	埋積	9.7	4.0	4.8				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1815	D	SK11	埋積	中橋	埋積	19.2	3.3	6.0				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1816	D	SK11	埋積	大橋	埋積	15.2	5.8	8.2				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1817	D	SK11	埋積	既設工	既設工	7.8	2.6	3.4				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1818	D	SK11	埋積	既設工	既設工	5.5	2.6	1.6				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1819	D	SK11	埋積	既設工	既設工	15.2	0.6	1.6				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1820	D	SK11	埋積	既設工	既設工	15.9	3.8	6.6				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1821	D	SK11	埋積	小橋	埋積	14.0	8.0	4.5				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1822	D	SK11	埋積	小橋	埋積	13.8	7.8	4.8				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1823	D	SK11	埋積	小橋	埋積	13.5	7.7	3.9				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1824	D	SK11	埋積	小橋	埋積	13.2	7.7	3.8				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1825	D	SK11	埋積	小橋	埋積	13.2	6.1	3.2				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1826	D	SK11	埋積	小橋	埋積	8.5	5.3	2.2				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1827	D	SK11	埋積	小橋	埋積	10.0	5.2	0.7				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1828	D	SK11	埋積	中橋	埋積	17.0	5.0	5.7				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1829	D	SK11	埋積	中橋	埋積	10.0	4.6	4.7				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1830	D	SK11	埋積	小橋	埋積	10.4	7.9	0.8				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1831	D	SK11	埋積	小橋	埋積	10.0	7.0	7.0				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1832	D	SK11	埋積	小橋	埋積	16.0	6.5	7.0				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1833	D	SK11	埋積	小橋	埋積	—	—	—				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1834	D	SK11	埋積	小橋	埋積	—	—	—				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1835	D	SK11	埋積	中橋	埋積	4.2	5.4	3.9				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1836	D	SK11	埋積	中橋	埋積	16.2	16.2	16.2				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1837	D	SK11	埋積	中橋	埋積	—	—	—				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1838	D	SK11	埋積	中橋	埋積	2.5	—	—				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1839	D	SK11	埋積	中橋	埋積	16.4	3.8	6.4				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	
1840	D	SK11	埋積	中橋	埋積	10.3	4.1	6.6				埋積	白	埋積	良好	良好	埋積仕様書～19年度版	

*注：()は基本計画案。()は旧設計案。

新築費 概算	新築区 番号	用途	地味	面積	延長 (cm)			成程	地付・道路状況	特徴・備考	築年	地土	地土色調	色別	用途	標準住宅代
					A	B	C									
1841	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	3.6	6.3	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1842	D	SK11	海陸	中陸	標準型	8.8	3.3	6.2	水付	甲種海陸・高層住宅付	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1843	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1844	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1845	D	SK11	海陸	中陸	標準型	8.2	3.8	5.1	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1846	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1847	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1848	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1849	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1850	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1851	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1852	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1853	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1854	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1855	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1856	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1857	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1858	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1859	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1860	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1861	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1862	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1863	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1864	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1865	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1866	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1867	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1868	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1869	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1870	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1871	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1872	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型
1873	D	SK11	海陸	中陸	標準型	10.0	4.2	5.8	水付	甲種海陸	昭和48年	良	良	良	良	37年分譲型

* 2頁目：1は市町村別集、C、1は郡庁別集。

管区番号	郡市区	地区名称	種別	経緯	面積	A	B	C	D	成り立法	施行・経緯特注	特徴・沿革	編入	編入時期	編入前	編入後	備考		
管区番号	郡市区	地区名称	種別	経緯	面積	面積(m ²)	面積(m ²)	面積(m ²)	面積(m ²)										
1074	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	6.8	4.3	10.7	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	
1075	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	6.8	5.0	2.3	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	
1076	D	5611	海陸	白根島	少連半島	10.4	3.2	2.4	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	
1077	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	10.0	5.6	5.5	12.6	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1078	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	11.9	5.8	5.8	11.0	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1079	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	21.0	11.8	13.7	25.0	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1080	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	—	15.4	10.0	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1081	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	06.0	—	(11.5)	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1082	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	17.9	—	(17.2)	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1083	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	13.1	14.3	15.8	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1084	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	29.8	—	(33.5)	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1085	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	65.7	48.0	6.4	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1086	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	16.7	4.1	3.5	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1087	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	19.2	0.6	15.6	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1088	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	10.0	7.0	5.8	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1089	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	16.8	19.8	16.9	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1090	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	11.5	—	(18.4)	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1091	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	10.8	8.2	13.9	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1092	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	18.1	12.0	16.6	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1093	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	18.3	—	(33.3)	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1094	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	22.0	—	(15.6)	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1095	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	16.2	10.7	14.5	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1096	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	15.0	11.0	13.8	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1097	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	—	6.6	(13.2)	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1098	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	7.6	16.1	—	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1099	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	—	3.4	6.9	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1000	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	—	1.5	(5.2)	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1001	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	6.7	5.6	8.4	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1002	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	12.8	8.6	14.2	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1003	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	17.6	18.0	(12.2)	—	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)
1004	D	5611	海陸	白根島	白根島半島	9.0	—	(9.1)	(21.7)	編成区		道庁管内へ分離し	道庁管内へ分離し	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)	良好	良好	道庁(2,507/1)	道庁(2,507/1)

野鳥調査 番号	調査区 所在地	出土地点	種別	個体数	種別	全長(mm)					成体判定	性別・年齢推定	種別	特徴・備考	種別	出土	出土位置	保存状態	保存年代
						A	B	C	D	O									
2077	岐阜県	SK10	鴉科	小鳩	成体	051	3.5	4.3			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2078	岐阜県	SK10	鴉科	小鳩	若成体	16.0	3.2	5.4			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2079	岐阜県	SK10	鴉科	中鳩	若成体	9.2	3.4	5.1			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2080	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.0	4.1	5.4			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2081	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.2	4.0	5.1			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2082	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.4	3.8	5.1			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2083	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.4	3.8	4.8			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2084	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	5.4	1.4	2.5			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2085	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	14.2	1.0	2.2			成行	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2086	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	8.1	1.0	11.0			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2087	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	2.2	1.1	1.3			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2088	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	2.2	0.9	1.2			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2089	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	16.0	4.1	6.8			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2090	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	13.0	7.2	3.9			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2091	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.1	5.3	2.4			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2092	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.1	5.1	2.0			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2093	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.1	5.1	2.0			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2094	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	13.2	3.0	3.4			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2095	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	14.0	3.0	4.5			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2096	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	13.8	3.4	3.6			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2097	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	7.6	0.2	5.7			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2098	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	7.3	3.9	0.6			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2099	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	15.0	3.1	3.0			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2100	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	12.8	7.0	4.8			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2101	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	—	6.8	15.0	16.3		雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2102	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	16.0	2.6	2.9			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2103	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	6.5	2.6	3.4			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2104	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	18.1	2.6	2.8			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2105	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	6.6	2.9	3.4			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2106	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	7.0	3.6	3.7			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2107	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	18.0	3.4	5.1			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2108	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	13.0	0.0	16.0			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2109	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	19.3	3.1	5.5			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2110	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	13.7	5.5	5.7			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2111	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.0	3.3	6.6			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2112	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	9.2	4.1	5.0			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2113	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	18.4	3.4	5.6			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2114	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	8.6	4.0	7.4			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2115	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	19.1	16.1	5.3			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2116	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.4	16.4	7.2			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2117	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	10.5	4.8	7.3			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀
2118	岐阜県	SK10	鴉科	成体	成体	13.0	5.2	5.5			雛成体	成行	成行	成行	成行	成行	良好	良好	19世紀

野村證券 番号	新募集 用途	出土地点	種別	面積	積算	広さ (cm)				成坪単価	地付・面積特注	特種・備考	地味	種類	積算 内容(㎡)	社会 属性	用途	標準用途
						A	B	C	D									
2146	02E	500	雑種	大畑	小畑	2.2	1.6	3.8		22	21	良好な付成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2156	02E	5011	雑種	小畑	中畑	2.2	1.6	0.61	雑種成地	22	21	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2157	02E	5011	雑種	小畑	中畑	2.2	1.6	0.61	雑種成地	22	21	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2158	02E	5011	雑種	小畑	中畑	2.2	1.6	0.61	雑種成地	22	21	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2159	02E	5011	雑種	小畑	中畑	2.2	1.6	0.61	雑種成地	22	21	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2160	02E	5011	雑種	小畑	中畑	2.4	3.8	6.0	雑種成地	24	23	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2161	02E	5011	雑種	小畑	中畑	2.5	3.8	6.6	雑種成地	25	24	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2162	02E	5011	雑種	小畑	中畑	2.7	4.1	6.5	雑種成地	27	26	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2163	02E	5011	雑種	小畑	中畑	2.8	3.8	5.9	雑種成地	28	27	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2164	02E	5011	雑種	小畑	中畑	3.1	4.0	6.9	雑種成地	31	30	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2165	02E	5011	雑種	小畑	中畑	3.1	3.0	3.9	雑種成地	31	30	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2166	02E	5011	雑種	小畑	中畑	3.4	3.4	3.4	雑種成地	34	33	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2167	02E	5011	雑種	小畑	中畑	3.6	3.3	3.3	雑種成地	36	35	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2168	02E	5011	雑種	小畑	中畑	3.6	3.2	5.7	雑種成地	36	35	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2169	02E	5011	雑種	小畑	大畑	9.0	4.0	5.6	雑種成地	90	89	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2170	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	10	3.2	4.6	雑種成地	10	9	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2171	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	9.2	4.3	6.4	雑種成地	92	91	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2172	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	8.8	3.8	6.4	雑種成地	88	87	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2173	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	10.8	3.5	4.6	雑種成地	108	107	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2174	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	10.4	3.7	4.6	雑種成地	104	103	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2175	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	10.5	4.0	5.1	雑種成地	105	104	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2176	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	10.7	4.0	5.4	雑種成地	107	106	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2177	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	10.2	3.8	5.1	雑種成地	102	101	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2178	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	9.7	3.5	5.5	雑種成地	97	96	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2179	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	8.9	3.3	5.8	雑種成地	89	88	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2180	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	10.0	3.8	5.2	雑種成地	100	99	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2181	02E	5011	雑種	小畑	雑種(大畑)	10.0	3.8	5.5	雑種成地	100	99	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2182	02E	5011	雑種	中畑	大畑	10.1	4.3	5.4	雑種成地	101	100	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2183	02E	5011	雑種	中畑	大畑	10.0	4.0	4.7	雑種成地	100	99	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2184	02E	5011	雑種	中畑	大畑	11.0	4.0	5.1	雑種成地	110	109	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2185	02E	5011	雑種	大畑	大畑	12.2	4.6	7.1	雑種成地	122	121	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2186	02E	5011	雑種	大畑	大畑	13.5	6.0	4.5	雑種成地	135	134	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2187	02E	5011	雑種	大畑	大畑	16.0	6.2	8.0	雑種成地	160	159	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2188	02E	5011	雑種	大畑	大畑	12.6	12.0	3.2	雑種成地	126	125	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2189	02E	5011	雑種	大畑	大畑	15.0	11.2	2.4	雑種成地	150	149	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2190	02E	5011	雑種	大畑	大畑	14.6	14	1.5	雑種成地	146	145	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2191	02E	5011	雑種	大畑	大畑	14.2	11.0	1.2	雑種成地	142	141	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2192	02E	5011	雑種	大畑	大畑	12.1	11.0	1.7	雑種成地	121	120	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2193	02E	5011	雑種	大畑	大畑	2.1	0.8	1.4	雑種成地	21	20	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2194	02E	5011	雑種	大畑	大畑	6.2	3.4	4.9	雑種成地	62	61	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2195	02E	5011	雑種	大畑	大畑	6.3	4.3	6.5	雑種成地	63	62	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2196	02E	5011	雑種	大畑	大畑	6.1	3.0	2.6	雑種成地	61	60	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途
2197	02E	5011	雑種	小畑	大畑	13.2	7.5	3.8	雑種成地	132	131	雑種成地	雑種	雑種	約500(500%)	良好	良好	標準用途

* 表裏に「1」は実行済状態、「C」は計画中を示す。

特種事業 番号	特種事業 名称	地区・地区 番号	種別	種別 名称	種別 区分	延床面積(m ²)				施行・取組状況	特徴・備考	施業 名称	種別	地区・ 地区番号	種別 区分	種別 名称	種別 区分
						A	B	C	D								
2198	福祉	5611	福祉	小児	福祉	12.6	4.4	3.9	2.2	実行	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2199	福祉	5611	福祉	小児	福祉	10.0	0.0	5.9	0.0	実行	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2200	福祉	5611	福祉	小児	福祉	5.4	3.8	1.7	21.7	実行	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2201	福祉	5611	福祉	中児	福祉	20.59	12.53	2.8	0.0	実行	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2202	福祉	5611	福祉	打撲撲滅	高齢福祉	10.2	5.2	1.8	7.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	高齢福祉	福祉	福祉
2203	福祉	5611	福祉	児童	児童	14.2	10.0	3.9	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	児童	福祉	福祉
2204	福祉	5611	福祉	児童	児童	19.0	27.0	4.2	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	児童	福祉	福祉
2205	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	7.9	4.6	4.7	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2206	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	12.5	6.3	0.7	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2207	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	—	3.2	4.2	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2208	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	—	3.0	4.5	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2209	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	10.8	7.7	7.5	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2210	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	10.0	7.2	7.9	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2212	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	4.0	2.1	2.6	0.8	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2213	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	15.6	16.0	1.6	11.8	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2214	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	10.0	10.0	2.8	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2215	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	8.7	4.2	2.8	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2216	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	9.4	3.7	2.5	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	福祉	福祉	福祉
2217	福祉	5611	福祉	小児	福祉	6.5	2.7	2.0	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2218	福祉	5611	福祉	小児	福祉	6.9	3.5	3.4	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2219	福祉	5611	福祉	小児	福祉	7.0	3.2	3.7	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2220	福祉	5611	福祉	小児	福祉	7.0	4.4	6.1	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2221	福祉	5611	福祉	小児	福祉	8.0	5.2	6.0	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2222	福祉	5611	福祉	小児	福祉	8.0	4.0	5.6	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2223	福祉	5611	福祉	小児	福祉	8.4	0.0	6.0	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	小児	福祉	福祉
2224	福祉	5611	福祉	中児	福祉	9.0	3.3	5.3	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2225	福祉	5611	福祉	中児	福祉	19.2	3.5	5.2	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2226	福祉	5611	福祉	中児	福祉	19.2	4.2	6.0	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2227	福祉	5611	福祉	中児	福祉	5.4	14.0	4.9	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2228	福祉	5611	福祉	中児	福祉	9.8	3.5	5.3	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2229	福祉	5611	福祉	中児	福祉	19.8	4.4	5.0	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2230	福祉	5611	福祉	中児	福祉	9.8	3.8	5.8	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2231	福祉	5611	福祉	中児	福祉	10.0	4.2	5.0	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2232	福祉	5611	福祉	中児	福祉	10.0	4.0	5.6	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2233	福祉	5611	福祉	中児	福祉	10.2	4.6	4.0	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2234	福祉	5611	福祉	中児	福祉	10.4	4.4	4.6	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2235	福祉	5611	福祉	中児	福祉	10.53	4.4	7.9	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2236	福祉	5611	福祉	中児	福祉	—	3.0	3.0	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2237	福祉	5611	福祉	中児	福祉	11.0	4.3	6.1	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2238	福祉	5611	福祉	中児	福祉	10.8	4.6	7.2	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉
2239	福祉	5611	福祉	中児	福祉	11.18	4.4	7.3	0.0	福祉	福祉	福祉	5611	福祉	中児	福祉	福祉

* 2頁目 (1)は実行済製品、(2)は計画済製品。

管理番号	部品名	仕入地	種別	標準	寸法(mm)					原形	成形方法	履行・展開状況	特殊・備考	材質	種類	加工	加工色調	色相	確認	標準記号
					A	B	C	D	E											
2444	樹脂	5032	樹脂	円平	—	φ8.0	10.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2445	樹脂	5032	樹脂	円平	—	φ8.0	3.7	3.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2446	樹脂	5032	樹脂	圓	—	φ4.4	3.3	1.4	1.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2447	樹脂	5032	樹脂	圓	—	φ3.9	3.7	1.2	0.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2448	樹脂	5032	樹脂	圓	—	φ5.3	3.2	0.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2449	樹脂	5032	樹脂	圓	—	φ1.3	9.2	1.3	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2450	樹脂	5032	樹脂	圓	—	φ3.3	3.0	1.5	2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2451	樹脂	5032	樹脂	圓	—	φ5.0	4.0	2.1	1.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2452	樹脂	5032	樹脂	圓	—	φ8.0	6.0	2.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2453	樹脂	5032	樹脂	圓錐	—	φ36.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2454	樹脂	5032	土類	溝底型	—	φ6.6	5.3	6.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2455	樹脂	5032	土類	溝底型	—	φ7.0	5.1	6.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2456	樹脂	5032	土類	円錐	—	φ21.6	22.0	12.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2457	樹脂	5032	土類	筒状	—	φ24.0	22.8	4.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2458	樹脂	5032	土類	圓	—	φ6.9	6.6	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2459	樹脂	5032	土類	圓	—	φ6.8	7.4	1.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2460	樹脂	5032	土製品	凸	—	φ3.3	7.2	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2461	樹脂	5032	土製品	凸	—	φ11.6	—	1.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2462	樹脂	5034	樹脂	小溝	—	φ8.0	7.3	6.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2463	樹脂	5034	樹脂	凸	—	φ8.0	4.2	5.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2464	樹脂	5034	樹脂	凸	—	φ4.0	5.0	1.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2465	樹脂	5034	樹脂	凸	—	φ4.0	5.0	1.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2466	樹脂	5034	樹脂	小溝	—	φ5.2	2.7	3.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2467	樹脂	5034	樹脂	中溝	—	φ10.0	5.4	6.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2468	樹脂	5034	樹脂	中溝	—	φ10.2	14.0	5.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2469	樹脂	5034	樹脂	中溝	—	φ10.2	5.1	6.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2470	樹脂	5034	樹脂	中溝	—	φ12.8	4.2	5.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2500	樹脂	5034	樹脂	溝底型	—	φ4.6	4.2	1.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2501	樹脂	5034	樹脂	溝底型	—	φ11.0	7.8	5.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 注：() は実行済年度、() は計画年度を示す。

調査年度	調査地点	調査内容	調査時期	調査範囲 (m)				成り状況	航行・遊憩状況	特徴・備考	船隻	種類	土質	加工色調	自然物	構成	調査年度
				A	B	C	D										
2018	河正	遊憩外	河正	2.2	4.4	6.3		植生形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2019	河正	遊憩外	河正	2.2	2.2	11.8		植生形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2023	河正	遊憩外	河正	2.2	2.2	0.7		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2024	河正	遊憩外	河正	1.8	2.0	0.7		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2025	河正	遊憩外	河正	1.9	2.0	0.7		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2026	河正	遊憩外	河正	2.0	2.0	0.6		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2027	河正	遊憩外	河正	2.1	2.2	0.6		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2028	河正	遊憩外	河正	2.0	2.2	0.6		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2029	河正	遊憩外	河正	2.1	2.1	0.7		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2030	河正	遊憩外	河正	1.9	2.0	0.6		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2031	河正	遊憩外	河正	1.9	1.9	0.6		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2032	河正	遊憩外	河正	1.8	1.9	0.7		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2033	河正	遊憩外	河正	1.8	1.8	0.6		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正
2034	河正	遊憩外	河正	11.2	1.4	0.3		河正形成	航行	遊憩外(遊憩外)・航行(航行)	遊憩外	河正	河正(2.576/6)	河正	良好	河正	河正

第12表 II・相生工区遺物観察表(瓦)

* 注：() は実行済年度、() は計画年度を示す。

調査年度	調査地点	調査内容	調査時期	調査範囲 (m)				成り状況	航行・遊憩状況	特徴・備考
				A	B	C	D			
800	A	河正	河正	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正	河正	河正
1060	A	河正	河正	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正	河正	河正
1059	A	河正	河正	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正	河正	河正
1151	C	河正	河正	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正	河正	河正
1609	C	河正	河正	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正	河正	河正
2524	河正	河正	河正	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正	河正	河正
2020	河正	河正	河正	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正	河正	河正
2022	河正	河正	河正	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正	河正	河正
2021	河正	河正	河正	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正(2.576/6)	河正	河正	河正

第13表 II・相生工区遺物観察表(木製品)

調査区	出土地点	種類	法量 (cm)			備考	
			A	B	C		
866	A	SX15	着	6.1	5.8	2.5	中心に孔あり・履皮製のつまみあり
869	A	SX15	着	6.1	5.8	0.3	中心に孔あり
870	A	SX15	着	5.5	5.7	0.3	履皮あり「西」・中心に孔あり
871	A	SX15	着	(5.5)	(5.2)	0.3	履皮あり「西」・中心に孔あり
872	A	SX15	着	(7.0)	(7.0)	3.5	
873	A	SX15	着	6.5	6.4	1.0	中心に孔あり・履皮の履跡あり
874	A	SX15	着	(5.9)	5.8	0.3	中心に孔あり・履皮製のつまみあり
875	A	SX15	着	5.9	(5.0)	0.3	中心に孔あり
876	A	SX15	着	(6.1)	7.1	0.4	中心に孔あり・履皮あり
877	A	SX15	着	4.5	4.5	0.3	中心に孔あり・履皮製のつまみあり
878	A	SX15	着	5.4	(4.7)	0.3	中心に孔あり
879	A	SX15	前背骨飾	(1.7)	6.5	0.1	
880	A	SX15	桶	(2.2)	(8.9)	0.9	履皮あり
881	A	SX15	筒の取口	9.6	3.6	0.9	
882	A	SX15	部材	16.8	2.5	0.7	
883	A	SX15	織物・木製品	(4.5)	2.9	2.7	
884	A	SX15	部材	28.3	4.4	1.8	片が残り・孔あり
885	A	SX15	織物・木製品	4.4	(7.6)	0.9	
886	A	SX15	織物・木製品	(8.8)	(11.0)	1.3	面に紅が残り
887	A	SX15	部材	(11.5)	8.3	1.1	裏面あり「へ」の下の「甲」
888	A	SX15	部材	2.6	2.6	0.9	
889	A	SX15	桶	13.4	0.0	0.6	履皮あり「西」蓋あり
890	A	SX15	前背骨飾	(21.6)	8.6	0.9	蓋面あり「身」蓋面「本人」蓋面「他」・孔あり
891	A	SX15	筒の取口	22.6	8.3	0.7	面に履皮あり「履」・「背」・「他」・履皮「例」
892	A	SX15	前背骨飾	28.1	3.5	0.5	面に履皮あり「西」蓋あり「山登」・「左右蓋面」・他
893	A	SX15	羽子板	24.7	4.7	0.8	
894	A	SX15	筒	(6.5)	(14.9)	(0.3)	片面履皮あり・外面履皮あり・釘穴あり
895	A	SX15	履跡	9.9	2.6	0.4	
896	A	SX15	へら	13.0	1.8	0.4	
897	A	SX15	伊達	35.9	23.4	1.2	裏面あり
928	A	SX19	着	10.0	5.6	3.1	片面履皮あり・外面に文様あり
929	A	SX19	着	14.8	(11.4)	0.5	片面履皮あり・外面履皮あり
930	A	SX19	木札	20.0	9.9	0.9	履皮あり
967	A	SX23	着	13.0	6.3	2.9	片面履皮あり
968	A	SX23	着	7.8	8.0	0.4	中心に孔あり
969	A	SX23	桶	25.4	16.4	1.2	面による跡のみあり
970	A	SX23	桶	24.1	12.0	0.9	木釘2ヶ所残り
971	A	SX23	桶	30.3	20.7	1.0	
979	A	SX24	桶	(7.0)	(5.0)	0.7	片面履皮あり・竹釘の穴年3ヶ所あり
1023	A	SX29	下駄	22.0	9.2	6.3	筒状下駄

調査区	出土地点	種類	法量 (cm)			備考	
			A	B	C		
1053	A	SX38	桶	(11.2)	6.6	(4.9)	片面履皮あり・外面履皮あり
1064	A	SX38	桶	(11.8)	(9.1)	0.9	履皮あり「西」
1065	A	SX38	部材	14.2	8.3	6.4	
1115	A	SX43	桶	—	(7.6)	—	片面履皮あり・外面履皮あり・裏面あり
1116	A	SX43	桶	—	(4.4)	—	片面履皮あり・外面履皮あり
1117	A	SX43	着	13.7	4.4	4.0	片面履皮あり・外面履皮あり
1118	A	SX43	着	5.9	(4.3)	0.2	履皮あり「履」・中心に孔あり
1120	A	SX43	着	10.1	(5.3)	0.9	履皮あり
1121	A	SX43	部材	(28.2)	(4.6)	0.9	裏面に履皮を塗った履跡あり・側面あり「へ」の下の「年」
1129	A	SX44	桶	16.3	2.7	0.2	片面あり
1140	A	SX44	桶	(6.5)	(2.8)	0.6	金貨あり
1154	A	SX47	下駄	6.6	10.5	1.2	履皮あり「西」に二つ引き・履跡下駄
1233	A	S512	桶	(11.0)	10.4	1.0	履皮あり・木釘2ヶ所残り
1234	A	S511	桶	(12.7)	4.8	6.0	片面履皮あり・外面に履皮あり
1255	A	S51	桶	8.2	8.7	2.2	
1273	A	遺物外	織物・木製品	8.2	0.6	0.5	
1274	A	遺物外	織物・木製品	(10.7)	(2.0)	0.7	
1275	A	遺物外	部材	15.7	5.4	0.8	面に履皮あり「西」履跡下駄 申州山記部中身同梱あり 桶 □履皮製部行「他」・孔が2ヶ所あり
1311-a	B	SX2	桶	20.4	10.4	1.0	履皮あり・木釘2ヶ所残り
1311-b	B	SX2	桶	20.4	10.4	1.0	履皮あり・木釘2ヶ所残り
1312	B	SX2	桶	13.4	7.8	0.6	外面に履皮の履跡あり
1313	B	SX2	桶	13.3	8.7	0.6	外面に履皮の履跡あり
1314	B	SX2	桶	13.4	9.8	0.7	外面に履皮の履跡あり
1315	B	SX2	桶	13.3	7.1	0.8	外面に履皮の履跡あり
1316	B	SX2	桶	13.4	8.1	0.6	外面に履皮の履跡あり
1317	B	SX2	桶	13.3	8.3	0.7	外面に履皮の履跡あり
1318	B	SX2	桶	13.3	5.7	0.7	外面に履皮の履跡あり
1319	B	SX2	桶	13.3	6.8	0.7	外面に履皮の履跡あり
1320	B	SX2	桶	13.4	6.3	0.7	外面に履皮の履跡あり
1321	B	SX2	桶	13.4	3.5	0.7	外面に履皮の履跡あり
1674	C	SX2	桶	17.7	6.5	6.2	桶口2ヶ所あり「西」蓋あり
1675	C	SX2	部材	18.0	5.0	4.8	E-SX2の履皮材・旧No.柱①
1676	C	SX2	部材	15.6	4.0	4.5	E-SX2の履皮材・旧No.柱②
1677	C	SX2	部材	18.4	4.5	3.5	E-SX2の履皮材・旧No.柱③
1678	C	SX2	部材	28.9	4.1	3.7	E-SX2の履皮材・旧No.柱④
1679	C	SX2	部材	28.6	5.0	2.5	E-SX2の履皮材・旧No.柱⑤
1680	C	SX2	部材	28.7	2.2	2.0	E-SX2の履皮材・旧No.柱⑥
1681	C	SX2	部材	37.2	2.0	1.8	E-SX3の履皮材・旧No.柱⑦
1682	C	SX2	部材	15.2	4.4	2.9	E-SX4の履皮材・旧No.柱⑧

*法量()は推定法測値、()は照存値である。

*法量()は推定法測値、()は照存値である。

第14表 II・相生工区遺物類聚表(石製品)

*法量()は厚片系遺物、()は厚板系遺物、()は厚板片である。

調査番号	調査区	出土地点	種類	法量(cm)			備考
				A	B	C	
1683	C	SQ2	部材	145	42	36	C-SQ5の複製材・旧No.39
1693	C	S44	蓋	10.4	5.5	2.1	外周縁部より・外周縁部より・高脚内に転写遺・「行」の文字あり
2055	相生	SQ7	木札	24.6	6.3	1.2	裏面に墨書あり「大宛口」生「野江(鏡) 近江(鏡) 他・上部に墨あり
2066	相生	SQ7	朝日貝	(25.5)	4.2	3.0	墨書あり「天守御平願成願印」他
2057	相生	SQ7	木札	21.3	(4.8)	0.7	墨書あり「石巻(大正)局」(宮(古)吉原(大正)局) 清水 樋口(大正)局
2058	相生	SQ7	飲料水製品	30.8	3.1	0.7	墨面に転写を要す
2059	相生	SQ7	部材	27.8	3.7	3.7	内(心)部に彫刻残存・赤土の高脚内に履方筒のケズリ痕跡あり
2149	相生	SQ10	柄	(12.2)	5.8	6.2	外周縁部より・外周縁部より・裏面に墨書あり「門六(人)」
2150	相生	SQ10	柄	—	(6.2)	(4.4)	外周縁部より・外周縁部より・裏面に墨書あり「扇(〇)に挿し」本人入
2151	相生	SQ10	蓋	9.2	—	(2.0)	外周縁部より
2152	相生	SQ10	蓋	16.2	7.6	2.4	墨書あり
2153	相生	SQ10	手輪の端	31.6	20.7	0.7	外周縁部より
2293	相生	SQ11	蓋	5.4	8.9	1.0	外周縁部より・外面に轉記
2294	相生	SQ11	蓋	(9.5)	4.7	2.7	つまみ
2295	相生	SQ11	蓋	20.5	11.1	1.1	外周縁部より・外周縁部より・外面に「丸」に抱き袖」の墨書あり
2462	相生	SQ12	柄	6.8	5.0	6.2	外周縁部より・外周縁部より・外面に「丸」の墨書あり
2463	相生	SQ12	蓋	(9.6)	—	(2.9)	外周縁部より・外面に「〇」の墨書あり
2464	相生	SQ12	環状跡	(29.0)	(6.3)	(1.4)	No.2462と同一一體・内周縁部より・外面に「〇」の墨書あり
2465	相生	SQ12	環状跡	(26.0)	3.7	0.8	外周縁部より・外面に「〇」の墨書あり
2466	相生	SQ12	蓋か	9.5	14.1	0.9	外周縁部より・外面に墨書あり
2467	相生	SQ12	蓋か	26.5	(5.0)	0.7	墨書あり・側面に打釘あり
2468	相生	SQ12	蓋か	8.6	6.4	0.7	側面に転写を要した痕跡あり・外周縁部より
2469	相生	SQ12	筒札	(20.1)	7.2	0.8	裏面に墨書あり「〇」他・孔あり
2470	相生	SQ12	筒札	24.4	6.2	0.6	裏面に墨書あり「〇」より「〇」墨書あり「〇」他・孔あり
2471	相生	SQ12	筒札	18.8	6.0	0.9	裏面に墨書あり「他・孔あり
2472	相生	SQ12	筒札	22.6	7.0	0.7	裏面に墨書あり「甲府(前) 立日本橋 伊勢(前) 赤木田 赤土門 住吉 飯坂 飯坂(後) 松田(後) 石巻(後) 三郎 石工門前 原 旗本(後) 他・孔あり
2473	相生	SQ12	木札	(40.7)	(3.0)	0.7	裏面に墨書あり 孔あり
2474	相生	SQ12	柄	19.5	4.5	0.8	裏面に墨書あり 孔あり
2475	相生	SQ12	筒札	25.2	4.4	0.6	裏面に墨書あり「上巻の扉門」他・孔あり
2476	相生	SQ12	筒札	31.6	2.2	0.6	裏面に墨書あり「六」他 孔あり
2513	相生	SQ15	黒出陣(出陣)	31.5	8.9	2.6	厚板あり
2514	相生	SQ15	部材	15.9	15.7	2.4	裏面に墨書あり「甲府(前) 和原(前) 相原(前) 鳥居(前) 入会」 「石巻 正法(切) 江戸(入) 他
2527	相生	SQ16	筒札	18.0	4.9	0.7	裏面に墨書あり

第14表 I・相生工区遺物類聚表(石製品)

*法量()は厚片系遺物、()は厚板系遺物、()は厚板片である。

調査番号	調査区	出土地点	種類	法量(cm)			備考
				A	B	C	
966	A	SQ23	石筆	3.8	0.6	0.6	
1064	A	S426	埴	11.0	5.5	2.1	
1112	A	S443	埴	(11.0)	6.2	1.8	
1113	A	S443	埴	15.1	6.1	1.8	
1114	A	S443	埴	11.5	3.1	1.9	
1271	A	遺物類	埴	2.1	2.0	0.4	
1272	A	遺物類	埴	2.2	2.2	0.6	
1596	C	S403	埴	13.0	(5.0)	(1.3)	
1707	C	遺物類	埴	8.6	3.5	2.3	裏面に墨書あり・側面に墨書あり・厚板片
1709	C	遺物類	埴	12.6	4.2	5.1	
1709	C	遺物類	石筆	2.7	0.6	0.6	
1710	C	遺物類	文筆	2.9	0.5	0.6	
1731	D	S44	埴	11.6	3.2	3.4	
1769	D	S46	埴	2.5	3.5	1.5	部欠の心ばみあり
1799	D	S49	埴	(10.3)	5.3	1.8	裏面に墨書あり
1923	D	S433	埴	9.1	3.6	3.0	
2147	相生	S400	埴	(7.1)	6.3	1.8	
2148	相生	S400	埴	7.2	2.6	0.5	
2291	相生	S411	埴	(7.9)	8.7	2.7	中央に空白の位置あり
2292	相生	S411	伊勢(前)の複製	7.4	7.4	4.7	
2512	相生	S415	くは	8.4	9.0	5.3	
2635	相生	遺物類	埴	2.2	2.2	0.5	
2636	相生	遺物類	埴	2.2	2.2	0.5	
2637	相生	遺物類	埴	2.0	2.1	0.8	
2638	相生	遺物類	埴	6.6	2.8	2.6	
2639	相生	遺物類	埴	10.5	3.8	4.5	
2640	相生	遺物類	埴	(11.2)	(10.9)	上段・側面に「〇」の墨書あり	
2641	相生	遺物類	埴	(12.8)	(13.1)	(3.2)	上段・側面に「〇」の墨書あり
2642	相生	遺物類	埴	(16.4)	(11.8)	上段・側面に「〇」の墨書あり	
2643	相生	遺物類	埴	27.5	36.2	15.3	上段・側面に「〇」の墨書あり
2644	相生	遺物類	文筆	3.8	0.7	0.7	
2645	相生	遺物類	文筆	5.6	0.8	0.8	
2646	相生	遺物類	文筆	3.8	0.7	0.7	

第15表 II・相生工区舊物調査表(金属製品)

*左欄()は調査品別名、()は調査品である。

調査品番号	調査品名	出土地所	種類	部位	重量(kg)				備考
					A	B	C	D	
1024	A	5024	釘		10.4	3.2	0.2		
1024	A	5029	鍍金銅線		4.5	3.3	0.2		
1122	A	5063	釘		4.5	2.2	0.05		
1142	A	5044	釘		0.13	0.8	0.2		
1164	A	5067	日本製銅線		4.8	4.3	0.3		
1209	A	5071	日本製銅線		6.6	4.7	0.3		
1218	A	507	RKT		10.3	2.8	1.1		
1257	A	501	RKT		12.4	1.3	0.5		
1258	A	501	鍍金銅線		4.6	4.0	0.4		
1276	A	5035	銅釘		7.0	5.6	0.7		
1279	A	5035	銅線	銅口部	7.0	0.9	0.4		
1280	A	5035	銅線	銅口部	7.6	1.0	0.5		
1281	A	5035	銅線	銅口部	10.5	1.6	0.5		
1282	A	5035	銅線		1.0	10.1	1.5	0.4	
1283	A	5035	銅釘		15.3	2.3	1.1		
1284	A	5035	銅釘		1.9	0.3	0.2		
1285	A	5035	銅釘		7.2	4.6	0.4		
1305	B	5035	銅線		6.8	0.8	0.5		
1315	B	5035	銅線		20.8	7.8	1.3		
1382	C	5018	銅釘		3.0	4.3	0.05		
1713	C	5018	銅釘		1.7	1.0	0.4		
1713	C	5018	銅釘		5.2	1.3	0.5		
2029	銅釘	502	釘		2.7	1.4	0.4		
2069	銅釘	509	銅釘		5.8	1.0	0.4		
2154	銅釘	5010	十車	特字一丸形	(14.1)	(13.6)	(0.20)		
2162	銅釘	5011	銅釘	銅口部	8.5	9.0	4.0		
2303	銅釘	5011	銅釘	銅口部	1.5	3.6	1.6	1.0	
2485	銅釘	5012	銅釘	銅口部	(18.6)	0.5	0.4		
2485	銅釘	5012	銅釘	銅口部	1.4	1.9	1.4	1.1	
2485	銅釘	5012	銅釘	銅口部	4.9	0.8	0.3		
2485	銅釘	5012	銅釘	銅口部	1.4	0.8	0.3		
2485	銅釘	5012	銅釘	銅口部	19.1	1.2	0.2		
2485	銅釘	5012	銅釘	銅口部	7.4	0.5	0.2		
2506	銅釘	5014	銅釘		1.7	1.3	1.8		
2565	銅釘	5017	銅釘		7.3	1.3	0.4		
2571	銅釘	5019	銅釘		7.9	9.8	0.5		
2648	銅釘	5020	銅釘		4.2	2.5	0.1		

第16表 II・相生工区遺物調査表(銭貨)

*左欄()は調査品別名、()は調査品である。

調査品番号	調査品名	出土地所	種類	重量(kg)			備考
				A	B	C	
1065	A	5038	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	同一一室
1102	A	5044	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	同一一室
1151	A	5066	元禄通寶	2.3	0.6	0.1	同一一室
1155	A	5066	元禄通寶	2.8	0.7	0.1	同一一室
1278	A	5018	寛永通寶	2.7	—	—	同一一室
1582	C	5035	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	同一一室
1595	C	5035	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	同一一室
1711	C	504	寛永通寶	—	—	—	同一一室
1712	C	504	寛永通寶	2.8	0.6	0.2	同一一室
1713	D	501	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	同一一室
1716	D	501	寛永通寶	1.1	0.6	0.2	同一一室
1742	D	503	寛永通寶	—	—	—	同一一室
1743	D	503	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	同一一室
1744	D	503	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	同一一室
1745	D	503	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	同一一室
1752	D	504	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	同一一室
1753	D	504	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	同一一室
1754	D	504	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	同一一室
1755	D	504	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	同一一室
1756	D	504	7名通寶	2.5	0.6	0.1	同一一室
1742	D	503	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	同一一室
1742	D	503	寛永通寶	2.4	0.7	0.1	同一一室
2096	銅釘	5011	寛永通寶	2.8	0.2	0.2	同一一室
2097	銅釘	5011	寛永通寶	2.1	0.7	0.1	同一一室
2099	銅釘	5011	寛永通寶	2.3	0.6	0.1	同一一室
2300	銅釘	5011	寛永通寶	2.2	0.6	0.1	同一一室
2301	銅釘	5011	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	同一一室
2477	銅釘	5012	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	同一一室
2478	銅釘	5012	寛永通寶	2.7	0.7	0.2	同一一室
2479	銅釘	5012	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	同一一室
2480	銅釘	5012	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	同一一室
2482	銅釘	5012	寛永通寶	2.2	0.7	0.1	同一一室
2483	銅釘	5012	寛永通寶	2.8	0.7	0.1	同一一室
2484	銅釘	5012	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	同一一室
2577	銅釘	5017	寛永通寶	2.4	0.6	0.2	同一一室
2581	銅釘	501	元禄通寶	2	0.7	0.1	同一一室
2647	銅釘	5020	寛永通寶	—	—	—	同一一室

第6章 自然科学分析

第1節 甲府城下町遺跡（中央4丁目I工区）出土木製品と樹皮素材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府市に所在する甲府城下町遺跡（中央4丁目I区）から出土した木製品と樹皮素材の樹種同定を行った。なお、一部の同定に際して明治大学黒曜石研究センターの能城修一氏にご教示いただいた。

2. 試料と方法

試料は、部材や胴木、杭などの木質遺物25点と、樹皮素材1点である。調査所見から、遺構は主に江戸時代～近代と推測されているが、一部は時期不明である。

木質遺物については、剃刀を用いて試料から3断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定し、写真撮影を行った。

樹皮素材については、まず肉眼と実体顕微鏡で試料を観察し、樹脂包埋試料用に一部を採取した。なお、樹皮素材の観察方法は、佐々木ほか（2015）を参考にした。樹脂包埋は、アセトンの上昇系列で脱水処理を行なった後、エポキシ樹脂に包埋した。樹脂包埋試料は、ミクロトームを用いて切片を作製し、プレパラートに封入した。プレパラートを光学顕微鏡下で観察し、現生標本と比較して同定を行った。プレパラートは、パレオ・ラボに保管されている。

3. 結果

木質遺物は種同定の結果、針葉樹のアカマツとヒノキ、広葉樹のクリの、合計3分類群が確認された。樹皮素材は、カバノキ属樹皮（コルク層）であった。時期と器種別の樹種同定結果を表1、結果の一覧を付表1に示す。

表1 時期と器種別の樹種同定結果

樹種	18世紀後半～ 19世紀前半		18世紀か		19世紀 前半以前		19世紀 第二四半期		19世紀 中葉以降		19世紀頃か		近代		近代か		不明	
	胴木（南北）	部材	杭	部材	樹皮素材	胴木	胴木	杭	胴木	杖木	胴木	杭	胴木	杖木	胴木	杭	胴木	杖木
アカマツ	1		1						1		2	1	5	1	1	3	1	17
ヒノキ				1														1
クリ		3		4														7
カバノキ属樹皮					1													1
計	1	3	1	5	1	1	2	1	5	1	1	1	3	1	26			

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

(1) アカマツ *Pinus densiflora* Siebold et Zucc. マツ科 図版1 1a-1c（木材サンプルNo.M89）

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射組織、放射仮道管からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は広い。大型の樹脂道を薄壁のエピセリウム細胞が囲んでいる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側向きに鋸歯状に肥厚する。鋸歯が明瞭にあるため、アカマツと判断した。

アカマツは暖帯から温帯下部に分布する常緑高木である。材は油気が多く、韌性は大である。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版1 2a-2c（木材サンプルNo.M13）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で、割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

(3) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 3a-3c (木材サンプル No.M9)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(4) カバノキ属樹皮 *Betula Bark* カバノキ科 図版1 4a-4c (木材サンプル No.M117)

試料の表面には、棒状の皮目が観察できる。試料の幅は残存値が約17cm、厚さ約0.3cmであった(図版1 4d, 4e)。切断痕や剥ぎ取り痕などの加工痕は確認できなかった。

横断面では縞状の成長輪がみられる。細胞は1種類のみで、接線方向に長い長方形の細胞が配列している。接線断面では、樹幹に対して水平方向に長い紡錘形の細胞が隙間なく配列する。放射断面では、薄壁でやや大型の方形の細胞と、厚壁で扁平な長方形の細胞によって、針葉樹の横断面のような成長輪がみられる。薄壁の細胞が連なる層で剥離する傾向がある。以上の特徴から、カバノキ属の外樹皮(コルク層)と同定した。

4. 考察

木材は、25点のうち17点がアカマツで最も多く、次にクリが7点、ヒノキが1点であった。部材はクリとヒノキ、駒木や杭、枕木はいずれもアカマツであった。時期による樹種の違いは見られなかった。

駒木や杭、枕木で確認されたアカマツは、針葉樹の中では重くて丈夫な材質である。芯材は水中での保存性が高く、建築構造材などに有用である。

部材で確認されたヒノキは、軽軟で加工容易な材である。芯材の保存性が著しく高く、多用途に利用できる有用材である。また同じく部材で確認されたクリは、やや重硬で強度が大きく、粘りのある材である。

山梨県で確認されている近世の建築部材や土木材の例としては、南巨摩部の鯉沢河岸跡Ⅱ遺跡でマツ属繊維管束亜属やモミ属を中心とした針葉樹が多く、中巨摩部の二本柳遺跡でもスギやヒノキといった針葉樹が多用されている(伊東・山田編, 2012)。今回の分析では、部材以外の駒木や杭、枕木はアカマツであり、土木材に針葉樹を多用する傾向は周辺の事例とも類似していると考えられる。

樹皮素材は、カバノキ属の外樹皮であった。外樹皮には皮目が残り、内部が削がれていないため、樹皮を剥ぎ取った状態の樹皮素材(佐々木ほか, 2015)と思われる。切断痕や剥ぎ取り痕などの加工痕は見られなかった。用途は不明であるが、製品に加工するための素材と考えられる。

引用・参考文献

平井信二(1996)木の百科, 394p, 朝倉書店。

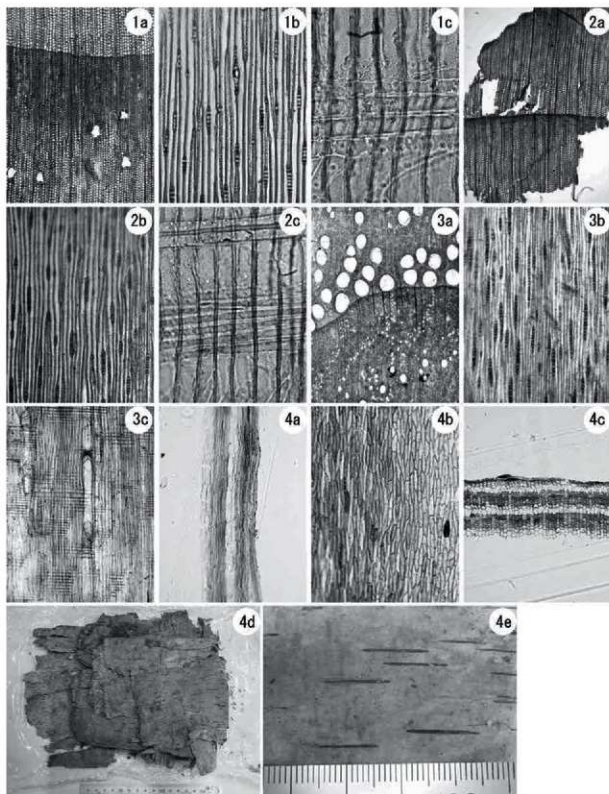
伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学—出土木製品用材データベース—, 449p, 海青社。

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂(2011)日本有用樹木誌, 238p, 海青社。

佐々木由香・小林和貴・能城修一・鈴木三男(2015)三内丸山遺跡北の谷出土の繊維製品・樹皮素材の技法, 青森県教育庁文化財保護課「三内丸山遺跡42」:152-159, 青森県教育委員会。

付表1 樹種同定結果一覧

木村サンプルNo.	地区	通稱	種類	備考	樹種	木取り	時期
M81	1区	SS1	樹木		アカマツ	丸木	近代
M89	1区	SP1	杭		アカマツ	丸木	19世紀頃か
M8	2区	SK12	部材	50%炭化 角柱状	クリ	丸木	19世紀前半以前
M9	2区	SK12	部材	一端部杭状	クリ	丸木	19世紀前半以前
M13	2区	SK12	部材	角柱状	ヒノキ	角材	19世紀前半以前
M15	2区	SK12	部材	一端部杭状	クリ	芯持角材	19世紀前半以前
M17	2区	SK12	部材	ホソ穴上下2ヶ所あり(直交方向) 材の垂直方向にも孔あり	クリ	芯持丸木	19世紀前半以前
M99	2区	SP4	杭	中央に円孔あり	アカマツ	丸木	不明
M100	2区	SK11	杭	中央に円孔あり	アカマツ	丸木	19世紀前半以前
M101	2区	SS1	樹木		アカマツ	丸木	近代
M105	2区	SS1	樹木		アカマツ	丸木	近代
M109	2区	SS1	枕木		アカマツ	丸木	近代
M117	2区	SK1	樹皮素材	残欠多数(幅約17cm、厚さ約0.3mm)	カバノキ属樹皮	横割ぎ	19世紀第二四半期
M130	3区	-	樹木	樹木サンプル	アカマツ	丸木	不明
M146	3区	SS1	杭	丸ホソ穴 穴深 80.0	アカマツ	丸木	不明
M132	3区	SS2	樹木	樹木サンプル	アカマツ	丸木	19世紀の構築か
M134	3区	SS1	樹木	樹木サンプル	アカマツ	丸木	19世紀の構築か
M138	3区	SO1	樹木(南北)	樹木サンプル	アカマツ	丸木	18世紀後半～19世紀前半
M190	3区	基礎1	部材	種?、ホソ穴 別紙地図	クリ	芯持角材	18世紀か
M192	3区	基礎1	部材	ホソ穴 (80×32×40(深))×4	クリ	芯持角材	18世紀か
M201	3区	基礎1	部材	ホソ穴	クリ	芯持角材	18世紀か
M154	6区	SS1	樹木		アカマツ	丸木	近代
M160	6区	SS2	樹木		アカマツ	丸木	19世紀中葉以降
M131	7区	木杭サンプル	杭	サンプル	アカマツ	丸木	不明
M133	8区	SS1	樹木	樹木サンプル	アカマツ	丸木	近代
M140	8区	SK6	樹木	上面丸ホソ穴有(貫通していない) 穴深 63.0 竹釘有	アカマツ	丸木	近代か



スケール：■

図版1 木質遺物および樹皮素材の光学顕微鏡写真、試料写真

1a-1c. アカマツ (木材サンプルNo. M89)、2a-2c. ヒノキ (木材サンプルNo. M13)、3a-3c. クリ (木材サンプルNo. M9)、4a-4e. カバノキ属樹皮 (木材サンプルNo. M117)

a: 横断面 (スケール=1-3: 500 μ m、4: 200 μ m)、b: 接線断面 (スケール=200 μ m)、c: 放射断面 (スケール=1・2: 50 μ m、3・4: 200 μ m)、d: 試料写真、e: 試料写真拡大

第2節 甲府城下町遺跡（中央4丁目地点）の花粉分析

森 将志（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡（中央4丁目地点）では、古植生を検討するために、花粉分析用の試料が採取された。以下では、試料に対して行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

2. 試料と分析方法

分析試料は、土坑から採取された3試料である（表1）。これらの試料について、以下の手順に従って分析を行った。

試料（湿重量約3g）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%のフッ化水素酸を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。その後、酢酸処理を行い、続けてアセトリス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混液を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良い花粉を選んで単体標本（PLC2671～2678）を作製し、写真を図版1に載せた。

3. 分析結果

3試料の検鏡を行った結果、検出されたのは樹木花粉23、草本花粉13、シダ植物胞子2の計38である。産出花粉・シダ植物胞子の一覧を表2に、分布図を図1に示す。分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示した。また、図表においてハイフン（-）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。

十分な量の花粉化石が得られた試料は、3試料中2試料（⑥区SK17、⑦区SK15）である。十分な量の花粉化石が得られた2試料では、樹木花粉でモミ属やツガ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などの産出が目立ち、モミ属は20%と8%、ツガ属は14%と11%、スギ属は28%と39%、コナラ属コナラ亜属は10%と14%、コナラ属アカガシ亜属は10%と6%の産出率である。草本花粉では、イネ科とアカザ科・ヒユ科の産出が目立ち、イネ科は26%と30%、アカザ科・ヒユ科は8%と2%の産出率である。

4. 考察

十分な量の花粉化石が得られた2試料（⑥区SK17、⑦区SK15）では、同様の花粉組成を示している。すなわち、樹木花粉では、スギ属やモミ属、ツガ属の産出が目立ち、コナラ属コナラ亜属やコナラ属アカガシ亜属などを伴っている。遺跡周辺の丘陵地などにはスギ林をはじめとして、モミ属やツ

表1 分析試料一覧

試料名	調査区	遺構	層位	時期	材質
SK17-7	⑥区	下層	17世紀末～18世紀初葉	灰黄褐色（100°F）	シルト
SK15-7	⑦区	SK15	18世紀後半～19世紀初葉	オリーブ褐色（90°F）	粘土
SK17-10	⑦区	SK15	18世紀後半	黒色（50°F）	粘土

表2 産出花粉・シダ植物胞子一覧

学名	別名	⑥区SK17	⑦区SK15	⑦区SK15
樹木				
<i>Alnus</i>	モミ属	40	30	16
<i>Taxus</i>	ツガ属	28	2	24
<i>Pinus</i>	スギ属	1	-	3
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	ツガ亜属ツガ亜属	5	3	1
<i>Quercus</i>	コナラ属	4	-	1
<i>Corylus</i>	スギ属	17	12	12
<i>Taxus-Daphniphyllum-Depressatae</i>	イチナギ-イヌヤナギ-ヒメナギ	3	-	2
<i>Myrica</i>	ヤブヤブ属	1	-	-
<i>Fraxinus-Juglans</i>	ヤブコナラ属-クルミ属	2	-	4
<i>Qercus-Quercus</i>	クマザサ属-アカザサ属	8	-	7
<i>Glycyx</i>	ハシバミ属	1	-	-
<i>Betula</i>	カバヤブ属	3	-	1
<i>Alnus</i>	ハシバミ属	-	1	4
<i>Fagus</i>	ブナ属	1	-	7
<i>Quercus subgen. Loricatae</i>	コナラ属コナラ亜属	21	1	20
<i>Quercus subgen. Quercetorum</i>	コナラ属アカガシ亜属	20	1	13
<i>Castanea</i>	クリ属	1	-	2
<i>Castanea-Beccaria</i>	シイノキ属-マツバシイノキ属	-	-	2
<i>Ulmus-Saxifraga</i>	エヒシノキ属-ヤマシイノキ属	4	1	7
<i>Qercus-Quercus</i>	エヒシノキ属-ヤマシイノキ属	1	-	1
<i>Alnus-Saxifraga</i>	スズナギ属-クルミ属	1	-	1
<i>Artemisia</i>	ウコギ科	-	-	1
<i>Ericaceae</i>	ヒメコナラ科	-	-	-
草本				
<i>Arrhenatherum</i>	ヒメコナラ科	-	-	2
<i>Setaria</i>	オキメチク	2	-	3
<i>Quercus</i>	イネ科	13	3	100
<i>Quercus</i>	カヤリグサ科	2	-	1
<i>Medicago</i>	ミズアオイ属	-	-	3
<i>Rhynchospora</i>	ヤナシノコ属-ツグミノコ属	4	-	3
<i>Chenopodium-Amaranthaceae</i>	アカザ科-ヒユ科	26	4	7
<i>Betula</i>	アザミ科	1	-	-
<i>Betula</i>	ホトケシザリ属	-	-	1
<i>Alnus</i>	セリ科	2	-	-
<i>Artemisia</i>	ミヤナギ属	2	-	4
<i>Taraxacum</i>	タラコ科	2	-	1
<i>Juncaceae</i>	ホトケシザリ科	3	-	-
シダ植物				
<i>Marattia-type spore</i>	単葉植物子	1	-	3
<i>Trilete-type spore</i>	三葉植物子	1	-	2
<i>Alnus pollen</i>	樹木花粉	202	30	208
<i>Non-rat pollen</i>	草本花粉	120	9	129
<i>Spores</i>	シダ植物胞子	2	-	5
Total Pollen & Spores	花粉・植物胞子数	324	37	360
<i>Ulmus pollen</i>	木質植物子	2	5	1

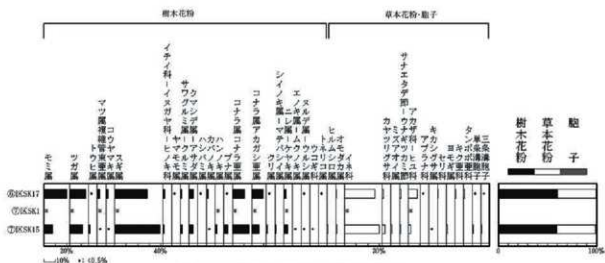


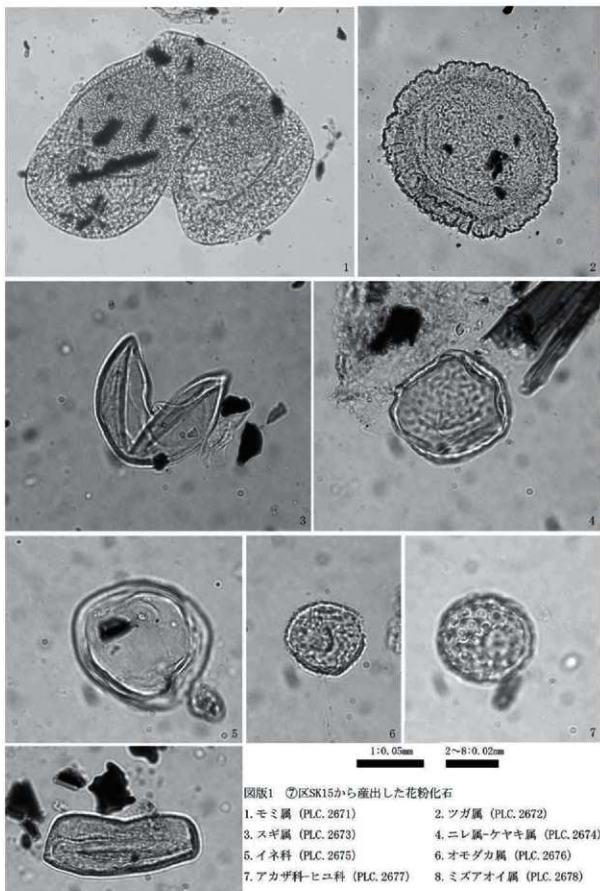
図1 甲府城下町遺跡（中央1丁目地点）における花粉分布図
樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は検出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。
※は樹木花粉200個未満の試料について、検出した分類群を示す。

ガ属などの温帯性針葉樹林が分布していたと考えられる。また、コナラ属コナラ亜属からなる落葉広葉樹林や、低地部にはコナラ属アカガシ亜属などの照葉樹林も分布を広げていた可能性がある。なお、甲府城下町遺跡の紅梅地区の花分析結果では、スギ属とコナラ属コナラ亜属優勢の花組成から、近世（19世紀）においてマツ属複雑管束亜属が優占する花組成に変化する層準が見出されている（鈴木，2009）。今回の2試料（⑥区 SK17、⑦区 SK15）から得られた花粉化石群集は、紅梅地区で得られたスギ属とコナラ属コナラ亜属優勢の花化石群集に類似しており、時期も⑥区 SK17 が17世紀末～18世紀前葉、⑦区 SK15 が18世紀後葉とされるため、整合的な結果となっている。

一方で、草本花粉では、イネ科やアカザ科・ヒユ科の産出が目立つため、土坑周辺にはイネ科やアカザ科・ヒユ科などの草本類が分布を広げていた可能性がある。あるいは、イネ科の産出とともにオモダカ属やミズアオイ属、キカシグサ属などの水田雑草でもある分類群が産出するため、土坑周辺において水田稲作が営まれていた可能性も考えられる。あるいは、調査地は1800年代から商人地として使用されているため、甲府城の築城以前に水田があり、水田土壌が土坑の埋め戻しなどに使用され、水田雑草にもなるこれらの分類群が再堆積した可能性も考えられる。

引用文献

鈴木 茂 (2009) 甲府城下町遺跡（紅梅地区再開発地点）の花化石。甲府市教育委員会編「甲府城下町遺跡V」：52-62, 甲府市教育委員会。



第3節 甲府城下町遺跡（中央4丁目地点）の寄生虫卵分析

森 将志（バレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡（中央4丁目地点）では、土坑や溝などの遺構が検出されており、これらの遺構から寄生虫卵分析用の試料が採取された。以下では、寄生虫卵分析の結果を示し、トイレ遺構の可能性などについて検討した。

2. 試料と分析方法

分析試料は、土坑や溝から採取された計21点である（表1）。これらの試料について、以下の手順に従って分析を行った。

試料を乾燥後、遠沈管にとり、計量した。そこに10%の水酸化カリウム溶液を加え、10分間湯煎する。水洗後、46%のフッ化水素酸を加え、1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。その後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混液を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、得られた残渣に適容量のグリセリンを加えて計量した。この残渣からプレバートを作製し、プレバート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求めた。

$$X = BD/AC$$

X：試料1g中の寄生虫卵含有数、A：分析に用いた試料の重量(g)、B：濃縮試料+グリセリンの重量(g)、C：濃縮試料+グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D：プレバート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良い寄生虫卵を選んで単体標本(PLC.2669,2670)を作製し、写真を図版1に載せた。

表1 分析試料一覧表

試料 No.	地点	調査区	遺構	時期	性質	備考
So1-3	中央4丁目1区	①区	SK4	19世紀中葉以前	オリーブ黒色(SY3/1)植物片混じり砂質シルト	検
So1-10		①区	SK13	19世紀中葉～後葉	暗灰黄色(2.5Y4/2)礫混じりシルト	検内側
So2-1		②区	SZ1	近代	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト	下層
So6-2		⑥区	SK17	17世紀末～18世紀前半	灰黄褐色(10YR6/2)シルト	下層
So6-3		⑥区	SK34	19世紀前半以前	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So6-4		⑥区	SK48	19世紀前半以前	黒色(10YR2/1)シルト	
So6-5		⑥区	SK52	18世紀後半～19世紀前半	黒褐色(2.5Y3/2)粘土	
So6-6		⑥区	SK53	18世紀後半	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So6-7		⑥区	SK54	—	暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土	
So7-5		⑦区	SK1	18世紀後半～19世紀初頭	オリーブ黒色(SY3/1)粘土	
So7-7		⑦区	SK7	18世紀後半	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂質シルト	3層
So7-9		⑦区	SK8	18世紀後半	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So7-10		⑦区	SK15	18世紀後半	黒色(SY2/1)シルト	
So7-11		⑦区	SK17	17世紀末～18世紀前半	黒色(2.5Y3/1)粘土	
So7-14		⑦区	SK32	19世紀後半	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So7-16		⑦区	SK3	19世紀以前	黒色(10YR1.7/1)砂礫混じりシルト	
So7-17		⑦区	SK40	19世紀以前	黒褐色(2.5Y3/1)粘土	検
So7-19		⑦区	SK23	19世紀後半	黒褐色(2.5YR3/2)シルト	
So7-20		⑦区	SK2	19世紀以前	黒褐色(10YR2/2)砂礫混じりシルト	
So7-21		⑦区	SK37	19世紀後半	黒褐色(2.5Y3/2)シルト	
So7-22		⑦区	SK22	19世紀後半	黒色(SY2/1)粘土	

3. 分析結果

計量し、検鏡した結果を表2に示す。21試料からは回虫卵と鞭虫卵の2種類が検出できた。中でも、⑦区SK3(So7-16)からは多くの寄生虫卵が検出されており、3,074個/cm³の密度である。その他にも、①区SK13(So1-10)や⑥区SK54(So6-7)、⑦区SK2(So7-20)などで数百個/cm³の寄生虫卵が検出されている。

表1 試料の総量と発生虫卵数

	So7-3	So7-10	So7-11	So7-2	So7-3	So7-4	So7-5	So7-6	So7-7	So7-8	So7-9	So7-10	So7-11	So7-12	So7-13	So7-14	So7-15	So7-16	So7-17	So7-18	So7-19	So7-20	So7-21	So7-22
分別した試料(g)	0.8123	0.8002	0.7280	0.8306	0.7222	0.8911	0.8168	0.8773	0.8090	0.6617	0.7153	0.8373	0.8094	0.830	0.8223	0.8086	0.709	0.8058	0.8102	0.8023	0.8023	0.8023	0.8023	0.8023
検出された虫卵数	0.0029	0.0067	0.1271	0.0011	0.2023	0.0010	0.0263	0.0707	0.0780	0.0007	0.0427	0.0096	0.0080	0.0080	0.0080	0.0080	0.0080	0.0080	0.0080	0.0080	0.0080	0.0080	0.0080	0.0080
検出された虫卵数/cm ³	0.0036	0.0084	0.174	0.0013	0.280	0.0011	0.0317	0.0807	0.0976	0.0011	0.0597	0.0110	0.0099	0.0099	0.0099	0.0099	0.0099	0.0099	0.0099	0.0099	0.0099	0.0099	0.0099	0.0099
検出された虫卵数/cm ²	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
検出された虫卵数/cm ³	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
検出された虫卵数/cm ²	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
検出された虫卵数/cm ³	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

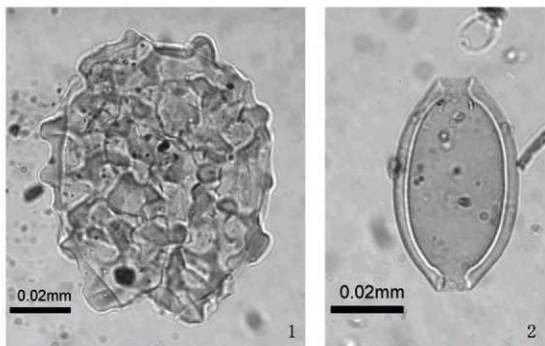
4. 考察

顕鏡の結果、⑦区SK3 (So7-16) から多くの寄生虫卵が検出された。寄生虫卵数については、試料 1cm³中に1,000個以上あれば糞便の可能性があると考えられている(金原, 1997)。これに照らし合わせて考えると、⑦区SK3 (So7-16) から産出した寄生虫卵の密度は3,074個/cm³であるため、糞便堆積物の判断の目安となる密度を上回る。よって、⑦区SK3 (So7-16) には糞便が混じり込んでいた状況が推測され、19世紀以前の⑦区SK3はトイレ遺構の可能性もある。その他の試料では、19世紀中葉～後葉の①区SK13 (So1-10) や19世紀中葉以前の⑥区SK54 (So6-7)、19世紀以前の⑦区SK2 (So7-20) などで数百個/cm³の寄生虫卵が検出されている。糞便堆積物の判断の目安となる密度には及ばないものの、他の遺構に比べると、これらの遺構も寄生虫卵にやや汚染されていると言える。

なお、検出された寄生虫卵は、いずれの試料においても回虫卵と鞭虫卵である。回虫と鞭虫は、糞便とともに排泄された寄生虫卵が付着した野菜や野草、寄生虫卵が含まれた飲み水などの摂取によって経口感染するため、当時の人々は処理が十分でない野菜や飲料水を摂取していたと考えられる。

引用文献

金原正明(1997)自然科学的研究からみたトイレ文化、大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」:197-216,東京美術。



図版1 ⑦区SK3から産出した寄生虫卵

1. 回虫卵 (PLC. 2669) 2. 鞭虫卵 (PLC. 2670)

第4節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)から出土した大型植物遺体

佐々木由香・バンダリ スダルシヤン(ハレオ・ラボ)

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、甲府盆地の北縁部、相川によって形成された扇状地上に立地する戦国期間創の城下町である。中央4丁目地点I区は1800年代から商人地であったと推定されており、周辺における古環境と植物利用について解明する目的で、遺構内の現地取り上げ試料と堆積物試料が回収された。ここでは、大型植物遺体を同定し、当時利用された種実や周辺の植生について検討した。なお、堆積物試料については花粉分析と寄生虫卵分析、昆虫分析も行われている(別項参照)。

2. 試料と方法

試料は、昭和測量株式会社によって、遺構から取り上げられた現地取り上げ試料が29試料と土壌試料が21試料である。試料が採取された遺構は、土坑(SK:ただし⑦区SK29は礎石跡)と、溝(SD:ただし③区SD1は建物基礎)、礎石・石列・集石(SS:ただし①区SS1は土地境の用水路の石積)、埋喪(SW・SZ)である。土坑のほとんどは廃棄土坑と推定されている。遺構の時期は、江戸時代～近代と考えられている。

堆積物試料の水洗はハレオ・ラボにて行い、最小0.5mm目の篩を用いて40～200ccを水洗した。大型植物遺体の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。モモとクルミ属は形態を視察し、完形、動物食痕のある個体、半割、打撃痕のある個体、破片に分類した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のモミ葉とイヌガヤ種子、マツ属複雑管束亜属球果、マツ属葉・炭化葉の4分類群、広葉樹のブドウ種子とモモ核・炭化核、ウメ核、アンズ核、キイチゴ属核、クワ属核、クリ果実、ヒメグルミ核、オニグルミ核、キハダ種子、サンショウ属種子、ニフトコ核、タラノキ核の13分類群、草本植物ではオモダカ属果実・種子と、サガミトリゲモ種子、ホッソモ種子、イボクサ種子、コナギ種子、ウキヤガラ果実、スゲ属アゼスゲ節果実、スゲ属A果実、カヤツリグサ属果実、ハリイ属果実、ホタルイ属果実、サンカクイ-フトイ果実、メシバ属有ふ果、ヒエ属炭化種子(顕果)、オヒシバ属種子(顕果)、イネ籾殻・炭化籾殻・小穂軸・炭化小穂軸・炭化種子(顕果)、コムギ炭化種子(顕果)、スズメノヒエ有ふ果、キケマン属種子、トウガン種子、メロン仲間種子(マクワウリ・シロウリ型、型不明)、キュウリ種子、ニホンカボチャ種子、タガラシ果実、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、トウダイグサ種子、ヤナギタデ果実・炭化果実、サナエタデ-オオイヌタデ果実、ギシギシ属果実、ウシハコベ種子、ノミノフスマ種子、アカザ属種子、スベリヒユ属種子、ヤエムグラ属炭化種子、ナス種子、ゴマ種子、トウバナ属果実、メハジキ属果実、エゴマ果実、シソ属果実、チドメグサ属種子の42分類群の、計59分類群が得られた(表1～5)。また、不明の炭化芽を一括し、科以上の同定に必要な識別点が残存していない一群を同定不能炭化種実とした。大型植物遺体以外には、炭化した子囊菌と動物遺体、昆虫遺体を得られた。

以下に、大型植物遺体の産出状況を遺構別に示す(不明芽と同定不能炭化種実を除く)。

[現地取り上げ試料]

- ①区 SW1: マツ属複雑管束亜属核がわずかに得られた。
- ①区 SS1: モモ(完形)がわずかに得られた。
- ①区 SK4: モモ(完形)がわずかに得られた。
- ⑤区 SD1: モモ(完形)がわずかに得られた。
- ⑤区 SK12: オニグルミ(動物食痕・打撃痕)がわずかに得られた。
- ⑤区 SK15: オニグルミ(完形)がわずかに得られた。
- ⑥区 SK13: ヒメグルミ(完形)がわずかに得られた。
- ⑦区 SK13: モモ(動物食痕)がわずかに得られた。

表1 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅰ区の現地取り上げ試料から出土した大型植物遺体 (1) (括弧内は破片数)

試料No.	T1-1	T1-2	T1-3	T5-5・6	T5-7	T6-1	T7-5	T7-9-10
	①			②		③		④
遺構	SW1	SS1	SK4	SD1	SK12	SK15	SK13	SK15
	内一括 No. 22		一括	4面目一括	一括	一括	No. 27	一括
時期	近代	近代	19世紀 中葉以前	18世紀後 葉～19世紀 前葉	17世紀か	18世紀 後葉	不明	18世紀 後葉
分組群	マツ属複雑管束亜属 球果							
モモ	核 (完形)	1	1	1				
	核 (動物食痕)						1	
	核 (半割)							(1)
ヒメグルミ	核 (破片)							(1)
	核 (完形)					1		
オニグルミ	核 (半割)							(1)
	核 (完形)							
	核 (動物食痕)				(1)			
	核 (打撃痕)				(1)			
キュウリ	種子							1

表2 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅰ区の現地取り上げ試料から出土した大型植物遺体 (2) (括弧内は破片数)

試料No.	T7-9	T7-10	T7-11	T7-24	T7-25・26	T7-27	T7-33	T7-28・35	T7-16	
	⑦									
遺構	SK17				SK22			SK23	SK29	
	一括	一括	4面目一括	一括	上層一括	下層一括	No. 4一括	一括	一括	
時期	17世紀末～18世紀 前葉			19世紀後葉						近代
分組群	マツ属複雑管束亜属 球果									
モモ	核 (完形)				2					
	核 (完形、一部焦痕)							1		
	核 (半割)		(1)	(3)				(1)	(1)	
	核 (破片)			(2)			(3)			
ヒメグルミ	核 (完形)	1								
オニグルミ	核 (動物食痕)						(1)			

表3 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅰ区の現地取り上げ試料から出土した大型植物遺体 (3) (括弧内は破片数)

試料No.	T7-13・15	T7-32	T7-21	T7-22	T7-23	T7-36	T7-18	T7-19・31	T7-20
	⑦								
遺構	SK32				SK36				
	一括	No. 27	一括	4面目一括	一括	一括	2層目一括		
時期	17世紀末～18世紀 前葉			19世紀後葉					
分組群	マツ属複雑管束亜属 球果								
モモ	核 (完形)	2		55				4	
	核 (完形、一部焦痕)			3					
	核 (半割)			(2)				(2)	
	核 (破片)			(1)					
	炭化核 (完形)			1					
ウメ	核								1
アンズ	核					1	1		
オニグルミ	核 (半割)						(1)		
トウガン	種子			2		1			
ニホンカボチャ	種子	42		11					

⑦区 SK15: モモ (半割・破片) とヒメグルミ (半割)、キュウリがわずかに得られた。

⑦区 SK17: マツ属複雑管束亜属とヒメグルミ (完形) がわずかに得られた。

⑦区 SK22: モモ (完形・半割・破片) とオニグルミ (動物食痕) がわずかに得られた。

⑦区 SK23: モモ (完形、一部焦痕・半割) がわずかに得られた。

⑦区 SK29: モモ (半割) がわずかに得られた。

⑦区 SK32: モモ (完形) がわずかに得られた。

⑦区 SK36: モモ (完形・半割・破片 (一部焦痕や炭化を含む)) とニホンカボチャがやや多く、ウメとアンズ、オニグルミ (半割)、トウガンがわずかに得られた。

[堆積物試料]

①区 SK4: イネがやや多く、ナスが少量、モミとコナギ、スゲ属A、トウガン、ニホンカボチャ、カタバミ属、エノキガサ属、トウダイグサ、ウシハコベ、スベリヒユ属、ゴマ、シソ属がわずかに得られた。

①区 SK13: ブドウとイネ、ニホンカボチャ、スベリヒユ属、ヤエムグラ属、ゴマがわずかに得られた。

②区 S21: スゲ属A とスベリヒユ属、シソ属がわずかに得られた。

⑥区 SK17: スベリヒユ属とシソ属がわずかに得られた。

表4 甲府城下町遺跡中央4丁目地点1区の水産試料から出土した大型植物遺体 (1) (括弧内は破片数)

試料No.	So1-3	So1-10	So2-1	So6-2	So6-3	So6-4	So6-5	So6-6	So6-7	So7-5	
	①			②							
区	①			②							
遺構	SK4	SK13	SK7	SK17	SK34	SK48	SK52	SK53	SK54	SK1	
	19世紀中葉以前		19世紀中葉～後葉	近代	17世紀末～18世紀前葉	19世紀前葉	18世紀以前	18世紀後葉～19世紀前葉	18世紀後葉	19世紀中葉以前	18世紀後葉～19世紀初頭
分類群	水産量 (cc)										
モミ	(1)										
ブドウ	種子										6
キイチゴ属	核										(1)
タラノキ	核										1
イボクサ	種子										1
コナギ	種子										3
ウキヤガラ	果実										1
スゲ属A	果実										2
ホタルイ属	果実										1
ヒエ属	炭化種子										1 (1)
イネ	籾殻										5 (**)
	炭化籾殻										(+)
	小穂軸										2 (+)
	炭化小穂軸										(+)
	炭化種子										1 (+)
スズメノヒエ	有ふ果										8 (**)
キケマン属	種子										(+)
トウガン	種子										2 (+)
メロン仲間 (型不明)	種子										1 (+)
ニホンカボチャ	種子										1 (+)
カタバミ属	種子										1 (+)
エノキグサ属	種子										1 (+)
トウダイグサ	種子										1 (+)
ヤナギタデ	炭化果実										1 (+)
ウシハコベ	種子										1 (+)
アカザ属	種子										1 (+)
スベリヒユ属	種子										1 (+)
ヤエムグラ属	炭化種子										1 (+)
ナス	種子										1 (+)
ゴマ	種子										1 (+)
トウバナ属	果実										1 (+)
メハジキ属	果実										1 (+)
エゴマ	果実										1 (+)
シソ属	果実										1 (+)
同定不能	炭化種実										1 (+)
不明	芽										1 (+)
子囊菌	炭化子囊										1 (+)
不明	動物遺体										1 (+)
	昆虫遺体										1 (+)

*1-9, **10-49, ***50-99, ****100以上

⑥区 SK34:イネが少量、イボクサとキケマン属、エノキグサ属、アカザ属、スベリヒユ属、ゴマがわずかに得られた。

⑥区 SK48:イネとメロン仲間 (型不明)、ナス、ゴマがわずかに得られた。

⑥区 SK52:ヒエ属とイネ、キケマン属、スベリヒユ属、シソ属がわずかに得られた。

⑥区 SK53:イネとシソ属が少量、ウキヤガラとスゲ属A、ホタルイ属、キケマン属、ウシハコベ、アカザ属、スベリヒユ属、ヤエムグラ属、ナス、メハジキ属、エゴマがわずかに得られた。

⑥区 SK54:キイチゴ属とタラノキ、ホタルイ属、イネ、ヤナギタデ、スベリヒユ属、トウバナ属、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK1:イネとキケマン属が少量、イボクサとウキヤガラ、スズメノヒエ、カタバミ属、アカザ属、スベリヒユ属、ゴマがわずかに得られた。

⑦区 SK7:ハリイ属とイネがわずかに得られた。

⑦区 SK8:イネとカタバミ属がわずかに得られた。

⑦区 SK15:オモダカ属とウキヤガラ、ホタルイ属、イネ、キケマン属、スベリヒユ属が少量、サガミトリゲモとホッスモ、イボクサ、カヤツリグサ属、サンカクイフトイ、カタバミ属、エノキグサ属、ヤナギタデ、ウシハコベ、ナス、ゴマ、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK17:イネが多く、ウシハコベがやや多く、キケマン属とサナエタデ-オオイヌタデ、シソ属が少量、クワ属とニワトコ、スゲ属アゼスゲ節、スゲ属A、メヒシバ属、カタバミ属、ナス、エゴマがわずかに得られた。

⑦区 SK32:イネとスベリヒユ属が少量、マツ属とクリ、カヤツリグサ属、メヒシバ属、オヒシバ属、コムギ、キケマン属、

表5 甲府城下町道路中央4丁目地点Ⅰ区の水洗試料から出土した大型植物遺体(2) (括弧内は破片数)

試料No.	区	遺構	(7)										
			SK7	SK8	SK15	SK17	SK32	SK3	SK40	SK23	SK2	SK37	SK22
時期	18世紀後葉	18世紀後葉か	18世紀後葉	17世紀末～18世紀初葉	19世紀後葉	19世紀以前	19世紀後葉	19世紀以前	19世紀後葉				
分群種	水容量(cc)	50	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	
イヌガヤ	種子								(1)	(1)			
マツ属	炭化葉					(3)							
ブドウ	種子					(2)		2 (1)					
モモ	核(完形)												
クワ属	核				1				1			1	
タリ	実実					(1)							
キハダ	種子								(2)				
サンショウ属	種子								(1)				
ニワトコ	核				(1)								
オモダカ属	実実			1									
	種子			46					1				
サガミトリガモ	種子			5 (2)									
ホッソモ	種子			2									
イボタガ	種子			8 (1)									
ウキヤガラ	実実			8 (14)								(3)	
スゲ属A	実実				1								
カヤツリダサ属	実実				4								
ハリイ属	実実	1				1			1				
ホタルイ属	実実			1 (9)								(1)	
サンシクアイブトイ	実実			1									
メヒシバ属	有花果			1		4			1		4	1	
オヒシバ属	種子					4			6				
イネ	穀粒			1 (++)	23 (+++)	2 (++)	(+)	1 (+)	23 (+++)	(+)	4 (++)	1 (++)	
	炭化穀粒	1 (+)	1		(+)		1 (+)		(+)	(+)			
	小穂軸		3	12		5	4	29	11	2	5	3	
	炭化小穂軸	2	2			11	6	3	7		14	2	
	炭化種子					1			1 (2)		1	1 (1)	
	炭化種子					1					1		
コムギ	種子			7 (4)	16 (7)	3		4	35 (8)	(1)	9 (4)	2 (3)	
キケマン属	種子					1					1		
ニホンカボチャ	種子												
タガラシ	実実										2		
カタバミ属	種子		(1)	(1)	1	4		4	3			1	
エノキガサ属	種子			(1)									
ヤナギタデ	実実		2 (1)					2 (4)					
ナナエタデ・オオイヌタデ	実実				9 (5)				(1)				
ギシギシ属	実実							1					
ウシハコベ	種子		3 (1)	86 (2)		8	6	50	(2)		2	9 (2)	
ノミノフスマ	種子					3	1	6			4	1	
アザガ属	種子												
スベリヒユ属	種子		7 (4)			12		8	30 (9)		8 (2)	1 (1)	
ナス	種子		(2)	4				21 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (4)	1 (1)	
ゴマ	種子		(2)					2 (180)	(1)	(2)	(15)		
メハジキ属	実実					2 (1)		1	5		1	1	
エゴマ	実実												
シソ属	実実		1 (1)	2 (10)	3 (2)	3	1			(1)	5 (3)	5 (15)	
チドメダサ属	種子					1							
同定不能	炭化葉実	(5)	(24)		(5)	(2)	(3)	(12)	(3)	(2)			
不明	芽							(+)					
子菌類	炭化子菌								1				
不明	動物遺体							(+)	(+)				
	昆虫遺体	(+)	(+)	(+)	(+)	(++)	(++)	(++)	(++)	(+)	(++)	(++)	

*1-9, **10-49, ***50-99, ****100以上

メロン仲間(マクワウリ・シロウリ型)、ニホンカボチャ、カタバミ属、ウシハコベ、ノミノフスマ、メハジキ属、シソ属、チドメダサ属がわずかに得られた。

⑦区 SK3:ゴマが非常に多く、イネとナスが少量、ブドウとキハダ、サンショウ属、ウシハコベ、アカザ属、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK40:ウシハコベがやや多く、イネが少量、イヌガヤとクワ属、オモダカ属、カヤツリダサ属、キケマン属、カタバミ属、ヤナギタデ、ギシギシ属、ノミノフスマ、スベリヒユ属、ナス、ゴマ、メハジキ属、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK23:イネがやや多く、キケマン属とスベリヒユ属が少量、イヌガヤとウキヤガラ、スゲ属A、メヒシバ属、オヒシバ属、カタバミ属、サナエタデ・オオイヌタデ、ナス、ゴマ、メハジキ属がわずかに得られた。

⑦区 SK2:イネとゴマが少量、キケマン属とナス、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK37:イネとキケマン属、スベリヒユ属が少量、モモとウキヤガラ、スゲ属A、メヒシバ属、コムギ、ニホンカボチャ、タガラシ、ウシハコベ、ノミノフスマ、ナス、メハジキ属、シソ属がわずかに得られた。

⑦区 SK22:イネとウシハコベ、シソ属が少量、ウキヤガラとホタルイ属、メヒシバ属、キケマン属、メロン仲間(マ

クワウリ・シロウリ型)、カタバミ属、ノミノフスマ、スベリヒユ属、メハジキ属がわずかに得られた。

次に、大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名や順番については米倉・梶田(2003)に準拠し、APG IIIリストの順とした。

(1) マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* 球果 マツ科

暗褐色で、上面観は円形、側面観は狭卵形。種鱗はくさび形で木質化して硬く、アカマツの可能性もある。露出部は菱形。高さ 29.5mm、幅 35.9mm。

(2) ブドウ *Vitis vinifera* L. 種子 ブドウ科

暗灰色で、上面観は楕円形、側面観は基部が尖り、倒心形に近い倒卵形。基部は太く円柱状に突出し、先端が丸い。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に 1 本の縦筋が走り、その両側に細く深い溝が 2 つある。種皮は薄く硬い。長さ 7.3mm、幅 4.6mm、厚さ 3.3mm。基部が太く円柱状に突出し、先端が丸いため、栽培種のブドウと同定した。

(3) モモ *Amygdalus persica* L. 核・炭化核 バラ科

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。完形個体の大きさは、高さ 29.9mm、幅 23.4mm、厚さ 15.9mm。一部に焦痕をもつ個体は、高さ 27.1mm、幅 21.9mm、厚さ 13.3mm。動物食痕のある個体は、高さ 25.1mm、残存幅 12.0mm、厚さ 14.0mm。半割の個体は、高さ 27.1mm、幅 20.4mm、残存厚 8.1mm。炭化核は、残存高 28.0mm、幅 18.3mm、厚さ 13.3mm。SK36 の T7-21 から出土した 52 点のモモ核の大きさを表 6 に示した。

(4) ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 核 バラ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面には全体的に不規則で深い小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。高さ 10.9mm、幅 10.7mm、厚さ 7.4mm。

(5) アンズ *Armeniaca vulgaris* Lam. 核 バラ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は円形。一方の側面では縫合線が発達する。表面には網目状の模様がある。縫合線付近には不規則な縦皺がある。高さ 19.2mm、幅 18.7mm、厚さ 11.6mm。

(6) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 果実 ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。下端に鱗状の殻斗着痕があるが、残存していない。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。残存高 12.4mm、残存幅 6.3mm。

(7) ヒメグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *cordiformis* (Makino) Kitam. 核 クルミ科

茶褐色で、上面観は楕円形、側面観は先端が尖る広卵形。外面中央にやや深い溝が走るが、それ以外は表面が平滑な点でオニグルミとは異なる。明瞭な縫合線がある。完形個体の大きさは、高さ 28.0mm、幅 21.4mm、厚さ 16.0mm、半割の個体は、高さ 24.7mm、幅 21.6mm、残存厚 7.3mm。

(8) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核 クルミ科

黄褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。内部は二室に分かれる。打撃痕のある個体は、頂部と上部が欠けている。完形個体の大きさは、高さ 30.0mm、幅 23.4mm、厚さ 24.0mm。動物食痕のある個体は、高さ 31.0mm、残存幅 23.1mm、残存厚 11.9mm。打撃痕のある個体は、残存高 26.6mm、残存幅 28.3mm、残存厚 12.4mm。半割の個体は、高さ 30.4mm、幅 23.2mm、残存厚 13.9mm。

(9) コナギ *Monochoria vaginalis* (Burm.f.) C.Presl ex Kunth 種子 ミズアオイ科

赤黄色で、上面観は円形、側面観は楕円形。表面には縦方向の低い隆起があり、隆起の間には横方向の線が密に入る。長さ 1.1mm、幅 0.5mm。

(10) スゲ属 A *Carex* sp. A 果実 カヤツリグサ科

黒色で、上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる倒卵形。長さ 1.0mm、幅 0.7mm。

(11) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 炭化種子(穎果) イネ科

側面観は卵形ないし楕円形、断面は片凸レンズ形であるが、厚みは薄く、やや扁平である。胚は幅が広いうちわ型で、胚の長さは全長の2/3程度と長い。長さ1.2mm、幅0.8mm。

(12) イネ *Oryza sativa* L. 初穀・炭化初穀・小穂軸・炭化小穂軸・炭化種子(穎果) イネ科

初穀は赤褐色で、本来の初穀の形態は、上面観が楕円形で側面観が長楕円形。2条の稜があり、表面には四角形の網目状隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しく並ぶが、基部しか残存していない。残存長5.7mm、残存幅2.8mm。種子(穎果)の上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形。一端に胚が残る。両面に縦方向の2本の浅い溝がある。長さ4.3mm、幅2.6mm。

(13) コムギ *Triticum aestivum* L. 炭化種子(穎果) イネ科

上面観は円形、側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る1本の溝がある。背面の下端中央部には扇形の胚があるが崩れている。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあるため、全体的に丸っこい形状である。断面形は腹面側が窪み、背面側が円形となる。またコムギの場合、側面観で最も背の高い部分(幅の広い部分)が基部付近に来る。コムギ属にはパンコムギやマカロニコムギなど複数種があるが、一般的に日本産コムギと呼称しているのはパンコムギである。ここでは一般的な呼称で記載した。残存長3.6mm、幅3.1mm、厚さ3.0mm。

(14) トウガン *Benincasa hispida* (Thunb.) Cogn. 種子 ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚があり、中央部は窪む。長さ13.1mm、幅5.8mm。

(15) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下(1984)は、種子の大きさからおおむね次の3群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1~8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。⑦区SK32の土壌試料から出土した種子は、長さ6.2mm、幅3.1mmで、マクワウリ・シロウリ型の大きさの種子であった。

(16) キュウリ *Cucumis sativus* L. 種子 ウリ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は長狭卵形で、頂点の部分は破損している。メロン仲間よりも細長く、厚みはほとんどない。残存長9.1mm、幅4.0mm。

(17) ニホンカボチャ *Cucurbita moschata* (Duchesne ex Lam.) Duchesne ex Poir. 種子 ウリ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は肩が張る長倒卵形。周縁を毛が取り囲む。長さ14.2mm、幅7.5mm。

(18) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

赤淡色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には欽状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ2.8mm、幅3.4mm。

(19) ゴマ *Sesamum orientale* L. 種子 ゴマ科

赤淡色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑。縁に沿って浅い溝がある。長さ3.2mm、幅2.0mm。

(20) エゴマ *Perilla frutescens* (L.) Britton var. *frutescens* 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部にやや突出する着点がある。表面には不規則で多角形の低い網目状隆線がある。網目部分の周囲はわずかに凹む。残存長1.9mm、残存幅1.7mm。

(21) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.5mm、幅1.4mm。

4. 考察

甲府城下町遺跡の江戸時代~近代の遺構から出土した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物のブドウとモモ、ウメ、アンズ、イネ、コムギ、メロン仲間(マクワウリ・シロウリ型)、キュウリ、ニホンカボチャ、トウガン、ナス、

ゴマ、エゴマ、野生植物で食用可能なキイチゴ属とクワ属、クリ、ヒメグミ、オニグルミ、キハダ、サンショウ属、ニワトコ、シソ属が得られた。土坑の用途は、ほとんどが廃棄土坑と考えられており、これらの食料残渣が堆積した可能性がある。また、堆積物試料では、ほぼすべての遺構からイネの籾殻が産出しており、籾殻が廃棄された可能性や、遺構が埋まる過程で再堆積した可能性などが考えられる。

山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集成した新津（1999）によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代には比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。江戸時代後期になると大型になり、平均核高 26.9mm、最大で 38.0mm 程度の核がみられるとしている。⑦区 SK36 から産出した 19 世紀後葉のモモ核で計測した大きさは、高さ平均 27.5 ± 1.8 mm、幅平均 18.9 ± 1.4 mm、厚さ平均 14.6 ± 1.0 mm で、縦長の個体が多かった（表 6）。山梨県から出土している江戸時代後期のモモの平均値と比較すると、今回の甲府城下町遺跡のモモ核の大きさは平均値をやや上回る値であった。

17 世紀と推定されている土坑である⑤区 SK12 から出土したオニグルミには、打撃痕を有する個体も含まれ、内部の子葉を利用するために割られたと考えられる。

周辺植生については、堆積物試料から、乾いた草地や荒地、畑などに生育するトウダイグサやキケマン属、ウシハコベ、アカザ属、スベリヒコ属、シソ属がしばしば得られており、周囲には草地が存在したと考えられる。また、調査地が商人地である点を考慮すると、家庭菜園的な小規模な畑が存在した可能性もある。

18 世紀後葉の⑦区 SK15 や 19 世紀後葉の SK37 などから産出したオモダカ属やイボクサ、コナギ、タガラシは、水田雑草でもある湿地性の草本である。調査地は 1800 年代から商人地として使用されているため、甲府城の築城以前に水田があり、水田土壌が土坑の埋め戻しなどに使用され、水田雑草にもなるこれらの種実が再堆積した可能性も考えられる。

19 世紀以前の⑦区 SK3 は、産出した寄生虫卵の密度から、糞便が混じり込んでいた状況が推測され、トイレ遺構の可能性が指摘されている（寄生虫卵分析の項参照）。大型植物遺体分析でも、他の土坑と種実遺体の組成が異

表6 モモ核の大きさ (単位: mm)

番号	高	幅	厚さ
SK36, T7-21	27.0	19.2	15.2
	30.1	22.0	17.7
	31.0	20.7	14.4
	29.9	23.4	15.9
	32.2	20.3	15.1
	29.9	22.7	17.1
	33.0	20.4	14.0
	29.9	19.8	13.9
	29.8	19.2	15.1
	29.1	19.7	14.2
	29.4	20.1	16.2
	27.9	17.9	14.4
	26.0	18.1	13.9
	28.3	18.9	15.0
	27.2	20.2	15.0
	27.8	18.8	14.9
	28.8	19.1	15.5
	28.0	18.3	13.3
	27.7	17.3	13.6
	26.4	17.9	15.0
	28.3	19.1	15.3
	26.7	18.4	15.2
	26.8	18.2	14.8
	28.2	18.7	14.4
	27.0	19.4	15.2
	27.7	18.8	14.7
	27.7	19.4	14.6
	27.6	18.9	14.5
	26.1	19.2	14.5
	27.1	17.9	14.9
	27.9	18.1	14.5
	26.1	18.9	15.3
	26.3	19.1	12.8
	27.2	19.5	15.8
	25.6	17.0	14.4
	25.9	18.3	14.9
	27.9	18.5	14.2
	28.1	18.5	15.1
	28.6	18.9	14.4
	27.3	17.9	14.1
	25.9	19.0	14.9
	27.3	18.3	13.7
	25.0	17.1	13.9
	25.9	16.2	13.4
	26.3	19.4	14.6
	23.9	17.6	14.2
	25.3	18.6	14.3
	26.4	18.1	15.6
	26.6	17.3	13.6
	24.7	17.5	13.1
	25.8	18.0	14.6
	25.6	16.8	12.2
最小	23.9	16.2	12.2
最大	33.0	23.4	17.7
平均	27.5	18.9	14.6
標準偏差	1.8	1.4	1.0

なり、栽培植物であるナスとゴマが多産した。ゴマはほとんどが破片で、ブドウやキハダ、サンショウ属などの食用になる種実もわずかであるが含まれており、これらの種子が排泄物に混じっていた可能性がある。

引用文献

藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」：638-654，同朋舎出版。

新津 健（1999）遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—。山梨考古学論集，IV，361-374，山梨県考古学協会。

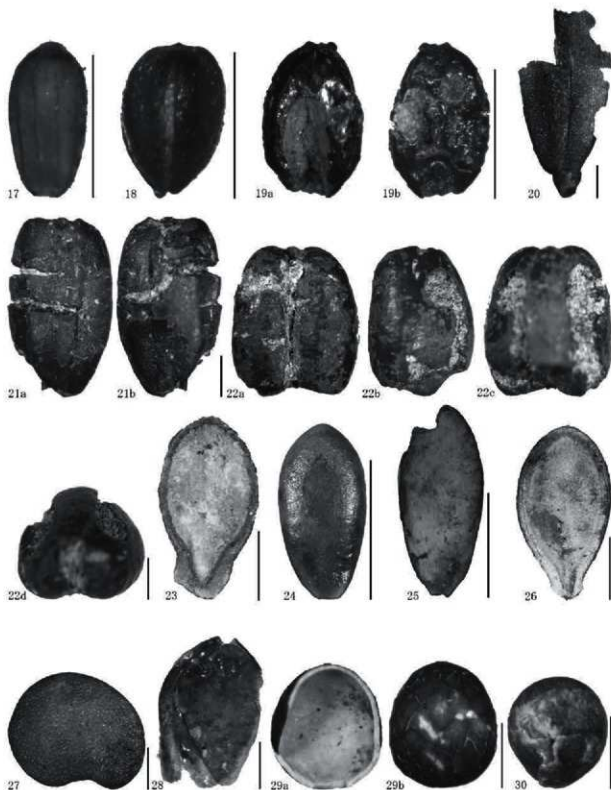
米倉浩司・榎田 忠（2003-）BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



図版1 甲府城下町遺跡中央4丁目地点I区から出土した大型植物遺体 (1)

スケール 1, 3-16:5mm, 2:1mm

1. マン柄複雑管束亜属球果 (SW1, No. T1-1)、2. ブドウ種子 (SK13, No. So1-10)、3. モモ核 (完形) (SK36, No. T7-21)、4. モモ核 (一部焦痕) (SK23, No. T7-28・35)、5. モモ核 (動物食痕) (SK13, No. T7-5)、6. モモ核 (半割) (SK36, No. T7-21)、7. モモ炭化核 (半割) (SK36, No. T7-21)、8. ウメ核 (SK36, No. T7-20)、9. アンズ核 (SK36, No. T7-23)、10. クリ果実 (SK32, No. So7-14)、11. ヒメグミ核 (完形) (SK17, No. T7-9)、12. ヒメグミ核 (半割) (SK15, No. T7-30)、13. オニグミ核 (完形) (SK15, No. T5-7)、14. オニグミ核 (動物食痕) (SK12, No. T5-5・6)、15. オニグミ核 (打撃痕) (SK15, No. T5-5・6)、16. オニグミ核 (半割) (SK36, No. T7-18)



スケール 17-22, 26-29:1mm, 23-25:5mm

図版2 甲府城下町遺跡中央4丁目地点I区から出土した大型植物遺体(2)

17. コナギ種子 (SK4, No. So1-3)、18. スダA属果実 (SK4, No. So1-3)、19. ヒエ属炭化種子 (頰果) (SK52, No. So6-5)、20. イネ籾殻 (SK23, No. So7-19)、21. イネ炭化種子 (頰果) (SK32, No. So7-14)、22. コムギ炭化種子 (頰果) (SK32, No. So7-14)、23. トウガン種子 (SK36, No. T7-32)、24. メロン仲間 (マクワウリ・シロウリ型) 種子 (SK32, No. So7-14)、25. キュウリ種子 (SK15, No. T7-6)、26. ニホンカボチャ種子 (SK36, No. T7-32)、27. ナス種子 (SK3, No. So7-16)、28. ゴマ種子 (SK3, No. So7-16)、29. エゴマ果実 (SK53, No. So6-6)、30. シソ属果実 (SK32, No. So7-14)

第5節 甲府城下町遺跡（中央4丁目I工区）から出土した昆虫化石

森 勇一（東海シニア自然大学）・山本 華（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、相川によって形成された扇状地上に立地する近世の城下町遺跡である。ここでは中央4丁目I区において遺構内の堆積物から得られた昆虫化石を同定し、当時の古環境について検討した。なお、堆積物については花粉分析と寄生虫卵分析、大型植物遺体分析も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

試料は、昭和測量株式会社によって、遺構から回収された土壌21試料のうち、昆虫が含まれていた20試料である。試料が採取された遺構は、土坑（SK）と埋裏（SZ）である。土坑のほとんどは廃棄土坑と推定されている。遺構の時期は、江戸時代～近代と考えられている。昆虫の試料番号と、遺構、もとの土壌の試料番号との対応関係は、次の通りである。試料1：SK4（No.Sol-3）、試料2：SK13（No.Sol-10）、試料3：SZ1（No.So2-1）、試料4：SK17（No.So6-2）、試料5：SK34（No.So6-3）、試料6：SK48（No.So6-4）、試料7：SK52（No.So6-5）、試料8：SK53（No.So6-6）、試料9：SK54（No.So6-7）、試料10：SK1（No.So7-5）、試料11：SK7（No.So7-7）、試料12：SK15（No.So7-10）、試料13：SK17（No.So7-11）、試料14：SK32（No.So7-14）、試料15：SK3（No.So7-16）、試料16：SK40（No.So7-17）、試料17：SK23（No.So7-19）、試料18：SK2（No.So7-20）、試料19：SK37（No.So7-21）、試料20：SK22（No.So7-22）。

堆積物試料の水洗はパレオ・ラボにて行ない、最小0.5mm目の篩を用いて40～200ccを水洗した。昆虫の抽出は、実体顕微鏡下で行った。

昆虫化石の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で1点ずつ比較の上、実施した。昆虫化石は、いずれも節片に分離した状態で検出されたため、本論に記した産出点数は、昆虫の個体数を示した数字ではない。

3. 結果

同定した結果、SK4（試料1、No.Sol-3）から計17点、SK13（試料2、No.Sol-10）から295点、SZ1（試料3、No.So2-1）から7点、SK17（試料4、No.So6-2）から4点、SK34（試料5、No.So6-3）から12点、SK48（試料6、No.So6-4）から8点、SK52（試料7、No.So6-5）から11点、SK53（試料8、No.So6-6）から137点、SK54（試料9、No.So6-7）から22点、SK1（試料10、No.So7-5）およびSK7（試料11、No.So7-7）から各11点、SK15（試料12、No.So7-10）から7点、SK17（試料13、No.So7-11）から60点、SK32（試料14、No.So7-14）から22点、SK3（試料15、No.So7-16）から31点、SK40（試料16、No.So7-17）から42点、SK23（試料17、No.So7-19）から23点、SK2（試料18、No.So7-20）から10点、SK37（試料19、No.So7-21）から13点、SK22（試料20、No.So7-22）から15点の、計758点の昆虫化石が発見された（表1～13）。産出した昆虫化石のうち、主なものに

表1 甲府城下町遺跡（中央4丁目I区）から出土した昆虫化石（試料1）

試料1 - No. Sol-3

番号	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	エンマコガネ属	<i>Anthrenus</i> sp.	右土層片	2.8	食糞性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
2	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	頭軸片	4.2	腐肉食	腐外性、糞池	SK4	19世紀中葉以前
3	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	1.8	食腐性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板片	3.5	雑食性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
5	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	土層片	3.1	雑食性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭軸片	1.6	雑食性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腹部腹板	5.6	不明	不明	SK4	19世紀中葉以前
8	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	2.4	食腐性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
9	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	3.1	食腐性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
10	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	5.2	食腐性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.4	不明	不明	SK4	19世紀中葉以前
12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板	3.3	雑食性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
13	ゴキウシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	前胸腹板片	2.5	雑食性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
14	ゴキウシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	右土層片上部	2.2	食腐性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
15	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	腿節	1.4	食糞性	好腐性	SK4	19世紀中葉以前
16	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	土層片	2.2	食腐性	地表性	SK4	19世紀中葉以前
17	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	土層片	2.6	不明	不明	SK4	19世紀中葉以前

表5 甲府城下町遺跡(中央4丁目1区)から出土した昆虫化石(資料3-7)

資料3: No.5a2-1

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1 オオムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.1	捕食性	地表性	SZ1	古代
2 オオコウバネ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	頭楯片	3.5	肉食性	腐食性・棲食	SZ1	古代
3 オオムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	頭楯片	1.2	肉食性	腐食性・棲食	SZ1	古代
4 ハエ目	<i>Diptera</i> fam. gen. et sp. indet.	頭楯片	2.0	雑食性	地表性	SZ1	古代
5 ショウジョウバエ属	<i>Musca</i> sp.	頭楯片	2.6	腐食性	腐食性	SZ1	古代
7 ハエ目	<i>Diptera</i> fam. gen. et sp. indet.	頭楯片	2.2	捕食性	地表性	SZ1	古代
7 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	3.0	不明	不明	SZ1	古代

資料4: No.5a2-2

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1 ヒメダングロウ	<i>Phanera sp. varicornis</i> (Stephens)	前胸背板	4.0	肉食性	水生	SX17	17世紀末~18世紀前半
2 ヒメダングロウ	<i>Phanera sp. varicornis</i> (Stephens)	前胸背板	3.2	肉食性	水生	SX17	17世紀末~18世紀前半
3 ヒメダングロウの産卵	<i>Phanera</i> sp. indet.	前胸背板片	1.2	肉食性	水生	SX17	17世紀末~18世紀前半
4 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	2.5	不明	不明	SX17	17世紀末~18世紀前半

資料5: No.5a2-3

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.3	食性	地表性	SX34	19世紀前半以前か
2 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	左上腹片	2.2	食性	好樹性	SX34	19世紀前半以前か
3 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.2	食性	地表性	SX34	19世紀前半以前か
4 ショウジョウバエ属	<i>Musca</i> sp.	前胸背板片	2.8	肉食性	地表性	SX34	19世紀前半以前か
5 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	食性	地表性	SX34	19世紀前半以前か
6 アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	腹部	1.4	雑食性	地表性	SX34	19世紀前半以前か
7 アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	腹部	0.6	雑食性	地表性	SX34	19世紀前半以前か
8 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	1.4	不明	不明	SX34	19世紀前半以前か
9 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.0	不明	不明	SX34	19世紀前半以前か
10 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.2	不明	不明	SX34	19世紀前半以前か
11 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.6	不明	不明	SX34	19世紀前半以前か
12 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	食性	地表性	SX34	19世紀前半以前か

資料6: No.5a2-4

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1 ブウスシ科	<i>Curculionidae</i> gen. et sp. indet.	上腹片	2.0	食性	好樹性	SX48	19世紀前半以前か
2 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	腹部背板片	2.2	食性	地表性	SX48	19世紀前半以前か
3 ハムシ科	<i>Cyrtopogonidae</i> sp.	上腹片	1.4	食性	好樹性	SX48	19世紀前半以前か
4 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.6	不明	不明	SX48	19世紀前半以前か
5 コクヌストモドキ	<i>Tribolium</i> sp.	前胸背板片	1.3	食性	好樹性	SX48	19世紀前半以前か
6 アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	腹部	0.6	雑食性	地表性	SX48	19世紀前半以前か
7 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	SX48	19世紀前半以前か
8 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食性	地表性	SX48	19世紀前半以前か

資料7: No.5a2-5

和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1 コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	右上腹	2.8	貯食性	家屋害虫	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
2 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.6	食性	地表性	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
3 ハエ目	<i>Diptera</i> fam. gen. et sp. indet.	頭楯片	2.2	肉食性	腐食性・棲食	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
4 エンソウゴナ属	<i>Orthopagus</i> sp.	前胸背板片	1.6	食性	地表性	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
5 ショウジョウバエ属	<i>Musca</i> sp.	頭楯片	1.3	腐食性	腐食性	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
6 オオムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.0	捕食性	地表性	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
7 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.3	食性	地表性	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
8 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	2.1	不明	不明	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
9 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5	不明	不明	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
10 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	SX52	18世紀後半~19世紀前半か
11 ハネカクシ科	<i>Staphylinidae</i> gen. et sp. indet.	腹部背板片	1.8	食性	地表性	SX52	18世紀後半~19世紀前半か

ついて、図版1~3に実体顕微鏡写真を掲げた。

分類群ごとくみると、目レベルまで同定した昆虫が1目18点、科レベルが10科119点、亜科レベルが1亜科1点、属レベルが10属48点、種まで同定できた昆虫は28種506点であった。これ以外に、不明甲虫とした昆虫が63点存在する。検出部位別では、上翅(Elytron)が最も多く、続いて前胸背

板(Pronotum)、腿関節(Legs)、腹部(Abdomen)などが確認された。昆虫以外では、イエダニの仲間が計2点確認された。

生態別では、地表面性歩行虫が計96点(12.7%)、うち食糞性ないし食屍性昆虫は計28点(3.7%)含まれていた。陸生の食植性昆虫は計132点(17.4%)発見された。水生昆虫は、食植性および肉食性の両タイプを含め、計13点(1.7%)確認されたのみであった。ハエ目が計425点(56.1%)と大量に出現しており、本群集の最大の特徴といえる。

特徴的な種についてみると、最も多く発見された昆虫は大型のハエ類の仲間、主に人糞に集まるオオコウバエ *Calliphora lata* (322点)、次いでコメをはじめ貯蔵した穀類を加害するコクソウムシ *Sitophilus zeamais* (54点) やコクヌストモドキ *Tribolium castaneum* (28点) であった。これに生活ゴミや汚物などに多いキンバエ *Lucilia*

表6 甲府城下町遺跡(中央4丁目1区)から出土した昆虫化石(試料8)(1)

試料13 No.56-66

番号	和名	学名	部位	長さ(μm)	形状	生態	遺構名	時代
1	コナゴラムシ	<i>Stenobius zemmisi</i> Watschulsky	右上側	1.7	約方形	家屋害虫	SK32	18世紀後半から
2	コナゴラムシ	<i>Stenobius zemmisi</i> Watschulsky	右上側	1.8	約方形	家屋害虫	SK32	18世紀後半から
3	コナゴラムシ	<i>Stenobius zemmisi</i> Watschulsky	頂部	1.7	約方形	家屋害虫	SK32	18世紀後半から
4	コナゴラムシ	<i>Stenobius zemmisi</i> Watschulsky	頂部	1.8	約方形	家屋害虫	SK32	18世紀後半から
5	トゲニセマダコゾウガサ	<i>Gnathus dentifolliculus</i> Lewis	前胸背板	1.1	食線性	地表性	SK32	18世紀後半から
6	キムバネ	<i>Lucilia caesar</i> Linnaeus	頭楯(臭腺門)	1.6	鎌状	腐外性など	SK32	18世紀後半から
7	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
8	ハシカケタリ科	<i>Staphylinidae</i> spp. et sp. indet.	葉節背板	2.1	食線性	地表性	SK32	18世紀後半から
9	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.1	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
10	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
11	コナゴラムシ	<i>Stenobius zemmisi</i> Watschulsky	前胸背板	1.2	約方形	家屋害虫	SK32	18世紀後半から
12	ハシカケタリ科	<i>Staphylinidae</i> spp. et sp. indet.	頭楯	2.1	食線性	地表性	SK32	18世紀後半から
13	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	1.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
14	不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. spp. et sp. indet.	上腹背	1.9	不明	不明	SK32	18世紀後半から
15	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	7.0	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
16	マユエシマコゾウガサ	<i>Ombroglossa viduus</i> Harold	頭楯	2.3	食線性	地表性	SK32	18世紀後半から
17	不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. spp. et sp. indet.	頭楯	1.0	不明	不明	SK32	18世紀後半から
18	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
19	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
20	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.9	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
21	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
22	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.2	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
23	キムバネ	<i>Lucilia caesar</i> Linnaeus	頭楯(臭腺門)	2.8	鎌状	腐外性など	SK32	18世紀後半から
24	トゲニセマダコゾウガサ	<i>Tetramorium tsushime</i> (Saw.)	頭楯	0.6	線食性	地表性	SK32	18世紀後半から
25	トゲニセマダコゾウガサ	<i>Tetramorium tsushime</i> (Saw.)	頭楯	0.5	線食性	地表性	SK32	18世紀後半から
26	不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. spp. et sp. indet.	頭楯	0.7	不明	不明	SK32	18世紀後半から
27	不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. spp. et sp. indet.	上腹背	1.4	不明	不明	SK32	18世紀後半から
28	不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. spp. et sp. indet.	上腹背	1.0	不明	不明	SK32	18世紀後半から
29	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯(前胸門)	2.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
30	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯(前胸門)	3.7	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
31	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.1	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
32	シジョウジュウバネ属	<i>Bronsohilla</i> sp.	頭楯	2.3	卵形卵食	腐内性	SK32	18世紀後半から
33	シジョウジュウバネ属	<i>Bronsohilla</i> sp.	頭楯	2.2	卵形卵食	腐内性	SK32	18世紀後半から
34	シジョウジュウバネ属	<i>Bronsohilla</i> sp.	頭楯	2.6	卵形卵食	腐内性	SK32	18世紀後半から
35	シジョウジュウバネ属	<i>Bronsohilla</i> sp.	頭楯	2.1	卵形卵食	腐内性	SK32	18世紀後半から
36	ハシカ	<i>Blattella lateralis</i> Coquillett	頭楯	2.8	鎌状	腐外性など	SK32	18世紀後半から
37	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯(前胸門)	3.3	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
38	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯(前胸門)	2.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
39	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.9	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
40	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.2	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
41	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯(前胸門)	3.0	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
42	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.4	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
43	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.0	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
44	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯(前胸門)	2.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
45	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯(前胸門)	3.2	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
46	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯(前胸門)	4.1	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
47	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯(前胸門)	4.1	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
48	キムバネ	<i>Lucilia caesar</i> Linnaeus	頭楯(臭腺門)	2.8	鎌状	腐外性など	SK32	18世紀後半から
49	キムバネ	<i>Lucilia caesar</i> Linnaeus	頭楯(臭腺門)	3.6	鎌状	腐外性など	SK32	18世紀後半から
50	キムバネ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	頭楯	2.6	鎌状	腐内性など	SK32	18世紀後半から
51	キムバネ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	頭楯	3.2	鎌状	腐内性など	SK32	18世紀後半から
52	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.0	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
53	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.4	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
54	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
55	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.2	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
56	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
57	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.3	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
58	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	5.1	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
59	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
60	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.3	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
61	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.9	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
62	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
63	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.3	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
64	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.4	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
65	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.4	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
66	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.2	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
67	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
68	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	5.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
69	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.1	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
70	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
71	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
72	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.9	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
73	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
74	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.1	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
75	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
76	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	5.2	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
77	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.3	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
78	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
79	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.7	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
80	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
81	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.6	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
82	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.9	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
83	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.0	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
84	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.1	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
85	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.0	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
86	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.2	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
87	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
88	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	2.8	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
89	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	3.9	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
90	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.2	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から
91	オオクロコバエ	<i>Gallibora lata</i> Coquillett	頭楯	4.0	約方形	腐外性、糞性	SK32	18世紀後半から

表7 甲府城下町遺跡(中央4丁目1号)から出土した昆虫化石(試料)(2)

試料: No. 56-6

和名	学名	部位	長さ(μm)	食性	生態	遺構名	時代
91) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	5.7	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
92) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	5.2	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
93) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.4	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
94) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.6	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
95) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.0	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
96) シオウジウバエ	<i>Karalliodon</i> sp. et sp. indet.	腹部腹板	1.1	食性不	好遺性	SK53	18世紀後葉の
97) シオウジウバエ	<i>Karalliodon</i> sp. et sp. indet.	腹部腹板	0.8	食性不	好遺性	SK53	18世紀後葉の
98) クロシヨウジウバエ	<i>Drosophila virilis</i> Startevant	雄蛹片	3.0	植物性食	腐肉性	SK53	18世紀後葉の
99) クロシヨウジウバエ	<i>Drosophila virilis</i> Startevant	雄蛹片	1.3	植物性食	腐肉性	SK53	18世紀後葉の
100) クロシヨウジウバエ	<i>Drosophila virilis</i> Startevant	雄蛹片	1.2	植物性食	腐肉性	SK53	18世紀後葉の
101) ショウジウバエ	<i>Drosophila</i> sp.	雄蛹片	1.8	植物性食	腐肉性	SK53	18世紀後葉の
102) クロシヨウジウバエ	<i>Drosophila virilis</i> Startevant	雄蛹片	1.2	植物性食	腐肉性	SK53	18世紀後葉の
103) クロウタムシ	<i>Stenobothrus japonicus</i> Motschulsky	中胸腹板	0.9	貯食性	家畜害虫	SK53	18世紀後葉の
104) トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimense</i> (Fenay)	腹部	0.8	雑食性	雑食性	SK53	18世紀後葉の
105) ショウジウバエ	<i>Drosophila</i> sp.	雄蛹片	1.8	植物性食	腐肉性	SK53	18世紀後葉の
106) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.9	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
107) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.3	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
108) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	2.9	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
109) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	4.1	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
110) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	4.2	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
111) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	4.3	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
112) サムシ科	<i>Karabidae</i> sp. et sp. indet.	上腹片	1.6	雑食性	雑食性	SK53	18世紀後葉の
113) サムシ科	<i>Karabidae</i> sp. et sp. indet.	上腹片	2.3	雑食性	雑食性	SK53	18世紀後葉の
114) サムシ科	<i>Karabidae</i> sp. et sp. indet.	上腹片	3.1	雑食性	雑食性	SK53	18世紀後葉の
115) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.9	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
116) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.3	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
117) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	2.9	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
118) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	4.1	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
119) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.8	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
120) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.7	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
121) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	2.9	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
122) イエダニの一種	<i>Acaridae</i> sp. et sp. indet.	全体	3.0	吸食性	家畜害虫	SK53	18世紀後葉の
123) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.2	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
124) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.3	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
125) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	2.8	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
126) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	4.1	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
127) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	3.8	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
128) オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett	雄蛹片	2.8	肉食食	腐肉性、使遺	SK53	18世紀後葉の
129) サムシ科	<i>Karabidae</i> sp. et sp. indet.	腹部腹板片		雑食性	雑食性	SK53	18世紀後葉の
130) サムシ科	<i>Karabidae</i> sp. et sp. indet.	腹部腹板片		雑食性	雑食性	SK53	18世紀後葉の
131) サムシ科	<i>Karabidae</i> sp. et sp. indet.	上腹片		雑食性	雑食性	SK53	18世紀後葉の
132) 不明甲虫	<i>Koleoptera</i> fam. sp. et sp. indet.	部位不明		不明	不明	SK53	18世紀後葉の
133) 不明甲虫	<i>Koleoptera</i> fam. sp. et sp. indet.	部位不明		不明	不明	SK53	18世紀後葉の
134) 不明甲虫	<i>Koleoptera</i> fam. sp. et sp. indet.	上腹片		不明	不明	SK53	18世紀後葉の
135) 不明甲虫	<i>Koleoptera</i> fam. sp. et sp. indet.	部位不明		不明	不明	SK53	18世紀後葉の
136) 不明甲虫	<i>Koleoptera</i> fam. sp. et sp. indet.	部位不明		不明	不明	SK53	18世紀後葉の
137) 不明甲虫	<i>Koleoptera</i> fam. sp. et sp. indet.	腹部腹板片		不明	不明	SK53	18世紀後葉の

caesar (29点)、イエバエ *Musca domestica* (19点) などが伴い、甲府城下町遺跡の昆虫組成は、きわめてヒトの気配の濃厚な都市型昆虫群集(森, 2001)であるとみなせる。

このほか、発酵性食の小型ハエ類であるショウジウバエ属 *Drosophila* sp. (32点)、同じく発酵性食のヒメイエバエ *Fannia canicularis* (3点)、食糞性甲虫では獣糞や人糞に集まるエンマコガネ属 *Onthophagus* sp. (計11点) やマダゴコガネ *Aphodius rectus* (8点)、コマグソコガネ *A. pusillus* (5点) などが確認され、優占種および随伴種ともに生活ゴミや汚物などに多い汚物集積の指標昆虫(森, 1999)で大部分が占められた。

周辺の植生を反映する陸生の食植性昆虫は、ハムシ科(7点)およびゾウムシ科(16点)などがわずかに得られたのみであった。こうした食植性昆虫の少なさも、甲府城下町遺跡の昆虫組成の異常さを際立たせている。

4. 考察

甲府城下町遺跡内から得られた昆虫化石は、合計758点にもおよび大変まとまった分析試料である。しかし、発見された昆虫組成に大きな偏りがあり、復元しうる古環境は限られたものであると考えられる。昆虫分析結果より考えられる古環境について、以下に、似たような産状を示す遺構ごとに述べる。

① 19世紀中葉～後葉のSK13(試料2)、18世紀後葉と推定されるSK53(試料8)

SK13内の試料2からは計295点の昆虫化石が発見されたが、うち255点(86.4%)がハエ類のサナギ(閉蛹)で占められた。このようなハエの多産は、よほど特殊な環境(便池)でないといえぬ昆虫群集といえる。最も多く得られたのはオオクロバエ(224点)であった。オオクロバエは、クロバエ亜科 *Calliphirinae* に属する体長10～12mmの大型のハエであり、青黒色で、体形は丸みを帯びる。世界共通種で、わが国では本州から四国、九州にか

表9 甲府城下町遺構(中央1丁目1号)から出土した昆虫化石(試料9-12)

試料: No. No.6-7	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	エンマゴキ亜属	<i>Othobagusa</i> sp.	上腹片	1.8	肉食性	地棲性	SK13	19世紀中葉以前
2	エンマゴキ亜属	<i>Othobagusa</i> sp.	上腹片	2.0	肉食性	地棲性	SK54	19世紀中葉以前
3	エンマゴキ亜属	<i>Othobagusa</i> sp.	上腹片	1.8	肉食性	地棲性	SK54	19世紀中葉以前
4	オオクワバエ	<i>Gallibloga Jata</i> Cossinlett	腹縁片	4.8	汚物食	腐外性, 埋蔵	SK54	19世紀中葉以前
5	オオクワバエ	<i>Gallibloga Jata</i> Cossinlett	腹縁片	3.7	汚物食	腐外性, 埋蔵	SK54	19世紀中葉以前
6	オオクワバエ	<i>Gallibloga Jata</i> Cossinlett	腹気門	3.0	汚物食	腐外性, 埋蔵	SK54	19世紀中葉以前
7	キンバエ	<i>Facilia conser</i> (Linnaeus)	腹気門	1.9	腐食性	腐外性	SK54	19世紀中葉以前
8	オオクワバエ	<i>Gallibloga vidua</i> Harold	腹縁片	2.1	肉食性	地棲性	SK54	19世紀中葉以前
9	アオムシ科	<i>Paralimnobia</i> sp. et sp. indet.	上腹片	1.2	肉食性	腐外性	SK54	19世紀中葉以前
10	アオムシ科	<i>Geopelia induta</i> (Wiedemann)	上腹片	0.8	肉食性	地棲性	SK54	19世紀中葉以前
11	エンマゴキ亜属	<i>Othobagusa</i> sp.	上腹片	1.4	肉食性	地棲性	SK54	19世紀中葉以前
12	オオクワバエ	<i>Leuciscia magnum</i> (Mitschulsky)	上腹片	2.6	肉食性	地棲性	SK54	19世紀中葉以前
13	アオムシ科	<i>Trichopha magnum</i> (Mitschulsky)	上腹片	1.8	肉食性	地棲性	SK54	19世紀中葉以前
14	アオムシ科	<i>Tomberlinidae</i> gen. et sp. indet.	上腹片	1.6	肉食性	地棲性	SK54	19世紀中葉以前
15	トビイロシロアリ	<i>Tetramorium ruginum</i> (Olivier)	腹蓋	0.7	雑食性	腐外性	SK54	19世紀中葉以前
16	ハエ目	<i>Blattaria</i> fam. gen. et sp. indet.	腹縁片	2.6	雑食性	腐外性	SK54	19世紀中葉以前
17	ハエ目	<i>Blattaria</i> fam. gen. et sp. indet.	腹縁片	1.8	雑食性	腐外性	SK54	19世紀中葉以前
18	ハエ目	<i>Blattaria</i> fam. gen. et sp. indet.	腹縁片	1.4	雑食性	腐外性	SK54	19世紀中葉以前
19	ハエ目	<i>Blattaria</i> fam. gen. et sp. indet.	腹縁片	1.3	雑食性	腐外性	SK54	19世紀中葉以前
20	ショウジョウバエ科	<i>Musca</i> sp.	上腹片	2.1	腐食性	腐内性	SK54	19世紀中葉以前
21	キンバエ科	<i>Caloptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	1.6	雑食性	地棲性	SK54	19世紀中葉以前
22	不明甲虫	<i>Coloptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.5	不明	不明	SK54	19世紀中葉以前

試料10・No. No.6-7	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	コクゾウムシ	<i>Sitona</i> sp. <i>zeomita</i> Mitsuhashi	右・上腹片	1.8	貯穀性	家屋害虫	SK1	18世紀後半～19世紀初期
2	コクゾウムシ	<i>Sitona</i> sp. <i>zeomita</i> Mitsuhashi	右・上腹片	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK1	18世紀後半～19世紀初期
3	コクゾウムシ	<i>Trichopha conser</i> (Linnaeus)	右・上腹片	2.3	貯穀性	家屋害虫	SK1	18世紀後半～19世紀初期
4	コクゾウムシ	<i>Trichopha conser</i> (Linnaeus)	右・上腹片	1.7	貯穀性	家屋害虫	SK1	18世紀後半～19世紀初期
5	アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	腹蓋	1.4	雑食性	地棲性	SK1	18世紀後半～19世紀初期
6	アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	腹蓋	0.6	雑食性	地棲性	SK1	18世紀後半～19世紀初期
7	不明甲虫	<i>Coloptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	1.4	不明	不明	SK1	18世紀後半～19世紀初期
8	不明甲虫	<i>Coloptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.0	不明	不明	SK1	18世紀後半～19世紀初期
9	不明甲虫	<i>Coloptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.5	不明	不明	SK1	18世紀後半～19世紀初期
10	ハエ目	<i>Blattaria</i> sp.	腹蓋	0.6	肉食性	腐内性	SK1	18世紀後半～19世紀初期
11	シラカバ	<i>Sitona</i> sp. <i>zeomita</i> Mitsuhashi	腹蓋	0.7	雑食性	地棲性	SK1	18世紀後半～19世紀初期

試料11・No. No.6-7	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	不明甲虫	<i>Coloptera</i> fam. gen. et sp. indet.	腹蓋	1.3	不明	不明	SK7	18世紀後半
2	オオクワバエ	<i>Gallibloga Jata</i> Cossinlett	腹縁片	4.8	汚物食	腐外性, 埋蔵	SK7	18世紀後半
3	オオクワバエ	<i>Gallibloga Jata</i> Cossinlett	腹縁片	3.7	汚物食	腐外性, 埋蔵	SK7	18世紀後半
4	オオクワバエ	<i>Gallibloga Jata</i> Cossinlett	腹縁片	3.0	汚物食	腐外性, 埋蔵	SK7	18世紀後半
5	オオクワバエ	<i>Gallibloga Jata</i> Cossinlett	腹縁片	2.0	汚物食	腐外性, 埋蔵	SK7	18世紀後半
6	オオクワバエ	<i>Gallibloga Jata</i> Cossinlett	腹縁片	3.3	汚物食	腐外性, 埋蔵	SK7	18世紀後半
7	オオクワバエ	<i>Gallibloga Jata</i> Cossinlett	腹気門	2.9	汚物食	腐外性, 埋蔵	SK7	18世紀後半
8	ハエ目	<i>Blattaria</i> fam. gen. et sp. indet.	腹縁片	2.4	雑食性	腐外性	SK7	18世紀後半
9	ハエ目	<i>Blattaria</i> fam. gen. et sp. indet.	腹縁片	2.4	雑食性	腐外性	SK7	18世紀後半
10	不明甲虫	<i>Coloptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	3.1	不明	不明	SK7	18世紀後半
11	不明甲虫	<i>Coloptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.8	不明	不明	SK7	18世紀後半

試料12・No. No.6-10	和名	学名	部位	長さ (幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	コクゾウムシ	<i>Sitona</i> sp. <i>zeomita</i> Mitsuhashi	右・上腹片	1.4	貯穀性	家屋害虫	SK15	18世紀後半
2	コクゾウムシ	<i>Sitona</i> sp. <i>zeomita</i> Mitsuhashi	腹蓋	0.7	貯穀性	家屋害虫	SK15	18世紀後半
3	コクゾウムシ	<i>Sitona</i> sp. <i>zeomita</i> Mitsuhashi	腹蓋	0.8	貯穀性	家屋害虫	SK15	18世紀後半
4	コクゾウムシ	<i>Sitona</i> sp. <i>zeomita</i> Mitsuhashi	腹蓋	1.2	貯穀性	腐外性	SK15	18世紀後半
5	アオムシ科	<i>Tomberlinidae</i> gen. et sp. indet.	腹蓋	1.5	肉食性	地棲性	SK15	18世紀後半
6	不明甲虫	<i>Coloptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	SK15	18世紀後半
7	ハエ目	<i>Blattaria</i> sp. <i>zeomita</i> Mitsuhashi	腹蓋	0.7	雑食性	地棲性	SK15	18世紀後半

けての平地に生息する(鈴木・緒方, 1968)。沖縄や北海道では分布が限られる。オオクワバエの幼虫やサナギの後方気門は末端節の陥凹部に位置していて、末端節周囲には6対の棘状突起がリング状に配置される(林・篠永, 1979)。こうした特徴は、便池内において酸素呼吸するのに適している。

オオクワバエは、奈良県平城京跡 440 次調査の SK19198 遺構からも多産した(芝ほか, 2013)。遺構は東方官衙地区に位置しており、その位置や形状および確認された昆虫組成より、平城京を訪問した客人用のトイレ(便池)であったとされている(芝ほか, 2013)。

試料 2 にはキンバエ属の囲蛹が計 19 点含まれていた。キンバエは動物の死体や塵芥など、動物質食物に対する嗜好性が強いが、便池にも発生する(安富・梅谷, 1983)。また、試料 2 からは貯穀性昆虫であるコクゾウムシやコクヌストモドキなどが確認された。これらは、ヒトが食した食べ物に混入し排泄物となって便池に粉れ込んだ昆虫と考えられる。こうした産出状況は、平城京のトイレ遺構でも確認されている。

オオクワバエの多産については、18 世紀後半の遺構と推定される SK53 から採取された試料 8 でも確認されている。試料 8 では、産出点数 137 点のうち 87 点 (63.5%) がオオクワバエで占められ、ほかに、イエバエやキンバエ、ショウジョウバエ属などのハエ類の囲蛹が多産した。試料 2 と同様、特別な環境下にあったと考えられ、便池であった可能性が指摘される。

表9 甲府城下町遺跡(中央1丁目)から出土した昆虫化石(試料43)

試料13, No. SK7-11

番号	和名	学名	部位	長さ (mm)	食性	生態	遺跡名	時代
1	コクヌストモドキ	<i>Tribiolus castaneus</i> Herbst	右上腹	2.1	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
2	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上腹	1.7	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
3	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	右上腹	1.6	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
4	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	1.2	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
5	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	1.3	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
6	ヒメマルカツムシ	<i>Evadictyon stibellae</i> (Walker)	右上面	3.4	食糞性	糞食性	SK17	17世紀末～18世紀前半
7	ノコギリヒラタムシ	<i>Abolobus pusillus</i> (Herbst)	右上腹	2.8	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
8	ノコギリヒラタムシ	<i>Abolobus ruscus</i> (Motschulsky)	右上腹	3.2	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
9	ノコギリヒラタムシ	<i>Abolobus pusillus</i> (Herbst)	前胸腹版	1.3	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
10	ノコギリヒラタムシ	<i>Abolobus pusillus</i> (Herbst)	前胸腹版	1.3	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
11	マダングゾウムシ	<i>Abolobus ruscus</i> (Motschulsky)	前胸腹版	2.2	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
12	マダングゾウムシ	<i>Abolobus pusillus</i> (Herbst)	前胸腹版	1.6	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
13	コクヌストモドキ	<i>Tribiolus castaneus</i> Herbst	前胸腹版	1.1	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
14	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	1.1	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
15	ハネカクシ	<i>Coccyzus induta</i> (Wiedemann)	上腹片	1.1	雑食性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
16	オビカタマシ	<i>Faenidia curvipes</i> (Walker)	右上腹	2.1	食糞性	糞食性	SK17	17世紀末～18世紀前半
17	マダングゾウムシ	<i>Abolobus pusillus</i> (Herbst)	左前脚関節	0.6	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
18	マダングゾウムシ	<i>Abolobus ruscus</i> (Motschulsky)	左前脚関節	0.6	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
19	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	1.1	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
20	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	0.8	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
21	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	1.7	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
22	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	1.0	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
23	ハネカクシ科	<i>Staphilinidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版片	2.3	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
24	ハネカクシ科	<i>Staphilinidae</i> sp.	上腹片	3.1	雑食性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
25	コクヌストモドキ	<i>Tribiolus castaneus</i> Herbst	右上腹	0.8	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
26	ヒメマルカツムシ	<i>Evadictyon stibellae</i> gen. et sp. indet.	右上腹上腹部	1.8	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
27	ヒメマルカツムシ	<i>Evadictyon stibellae</i> (Shanor)	前胸腹版片	2.0	食糞性	糞食性	SK17	17世紀末～18世紀前半
28	ヒメマルカツムシ	<i>Evadictyon stibellae</i> (Shanor)	前胸腹版片	1.5	食糞性	糞食性	SK17	17世紀末～18世紀前半
29	マダングゾウムシ	<i>Abolobus ruscus</i> (Motschulsky)	前胸腹版片	0.5	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
30	マダングゾウムシ	<i>Abolobus ruscus</i> (Motschulsky)	上腹片	2.2	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
31	ヒメマルカツムシ科	<i>Berie</i> sp.	右上腹	1.6	食糞性	糞食性	SK17	17世紀末～18世紀前半
32	ヒメマルカツムシ科	<i>Berie</i> sp.	右上腹	1.6	食糞性	糞食性	SK17	17世紀末～18世紀前半
33	ヒメマルカツムシ科	<i>Berie</i> sp.	右上腹	1.7	食糞性	糞食性	SK17	17世紀末～18世紀前半
34	ヒメマルカツムシ科	<i>Berie</i> sp.	右上腹	1.6	食糞性	糞食性	SK17	17世紀末～18世紀前半
35	コクヌストモドキ	<i>Cryptophagus villicus</i> Reitter	右上腹	1.7	食糞性	貯糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
36	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	0.6	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
37	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	0.5	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
38	ネズミムシ科	<i>Blattisulphidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版	0.8	食糞性	貯糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
39	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky	前胸腹版	2.0	貯穀性	家屋害虫	SK17	17世紀末～18世紀前半
40	アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	頭部	0.6	雑食性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
41	アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版	0.7	雑食性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
42	アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	頭部	0.5	雑食性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
43	ゾウムシ科	<i>Curculionidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版	0.6	食糞性	貯糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
44	ゾウムシ科	<i>Curculionidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版	0.5	食糞性	貯糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
45	ゾウムシ科	<i>Curculionidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版	1.0	食糞性	貯糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
46	不明害虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	2.1	不明	不明	SK17	17世紀末～18世紀前半
47	不明害虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5	不明	不明	SK17	17世紀末～18世紀前半
48	不明害虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	SK17	17世紀末～18世紀前半
49	不明害虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	前胸腹版片	1.8	不明	不明	SK17	17世紀末～18世紀前半
50	不明害虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	右上腹	2.8	不明	不明	SK17	17世紀末～18世紀前半
51	不明害虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	前胸腹版	1.6	不明	不明	SK17	17世紀末～18世紀前半
52	不明害虫	<i>Exsanguinidae</i> gen. et sp. indet.	頭部	1.2	食糞性	貯糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
53	不明害虫	<i>Exsanguinidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版片	1.4	食糞性	貯糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
54	シロカウゾウシ風	<i>Bruchidae</i> sp.	雄蛹片	1.3	発酵食性	室内性	SK17	17世紀末～18世紀前半
55	シロカウゾウシ	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版片	1.5	雑食性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
56	シロカウゾウシ	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版片	2.3	雑食性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
57	シロカウゾウシ	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	上腹片	2.3	雑食性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半
58	不明害虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5	不明	不明	SK17	17世紀末～18世紀前半
59	不明害虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6	不明	不明	SK17	17世紀末～18世紀前半
60	ハネカクシ科	<i>Staphilinidae</i> gen. et sp. indet.	前胸腹版片	2.5	食糞性	堆糞性	SK17	17世紀末～18世紀前半

② 17世紀末～18世紀前半のSK17(試料13)、19世紀以前のSK3(試料15)とSK40(試料16)

17世紀末～18世紀前半のSK17から得られた試料13と、19世紀以前のSK3から得られた試料15およびSK40から得られた試料16からは、貯穀性昆虫であるコクゾウムシやコクヌストモドキ、ノコギリヒラタムシ *Oryzaephilus surinamensis* が発見された。

コクゾウムシは、米や麦をはじめ、貯蔵された穀類を加害する貯穀性昆虫として知られる。コクヌストモドキはオーストラリア原産とされるが(安富・梅谷, 1983)、すでに戦国時代には愛知県清洲城下町遺跡から得られている(森, 2000)。ノコギリヒラタムシもまた、貯蔵された穀物を好み、主に穀粉を食べる貯穀性昆虫である(日本家屋害虫学会編, 1995)。

貯穀性昆虫のコクゾウムシやコクヌストモドキ、ノコギリヒラタムシは、自然状態では生息せず、人間が蓄えた穀類に依存して生活する家屋害虫(日本家屋害虫学会編, 1995)の代表種である。これらの昆虫は、戦国時代の清洲城下町遺跡のみならず、江戸時代の名古屋城三の丸遺跡(森・上田, 2005)や、同じく江戸時代の宮城県沼向遺跡(森, 2010)などにおいても、貯蔵に関わる施設とともに発見されており、甲府城下町遺跡におけるSK17、SK3、SK40についても、同様の施設が周辺に存在したことが考えられる。

表10 甲府城下町遺跡(中央4丁目1区)から出土した昆虫化石(試料14-15)

試料14: No. So7-14						
和名	学名	部位	長さ(幅), mm	食性	生態	遺構名 時代
1 コメツキムシ科	<i>Elateridae</i> gen. et sp. indet.	上腹片	1.3	食植物	好樹性	SK32 19世紀後葉
2 トビイロシロアリ	<i>Termitomyces formicivorus</i> (Sawyer)	頭部	0.6	雑食性	埋食性	SK32 19世紀後葉
3 ハムシ科	<i>Coleoptera</i> sp. indet.	大顎	4.0	食植物	埋食性	SK32 19世紀後葉
4 オサムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	腿節	2.8	雑食性	埋食性	SK32 19世紀後葉
5 ハムシ科	<i>Coleoptera</i> gen. et sp. indet.	腿節	1.0	食植物	好樹性	SK32 19世紀後葉
6 ヲサムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.6	食植物	好樹性	SK32 19世紀後葉
7 ヲサムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.5	食植物	好樹性	SK32 19世紀後葉
8 ヲサムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.5	雑食性	埋食性	SK32 19世紀後葉
9 ヲサムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	上腹片	2.5	雑食性	埋食性	SK32 19世紀後葉
10 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	1.4	不明	不明	SK32 19世紀後葉
11 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	3.1	不明	不明	SK32 19世紀後葉
12 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.8	不明	不明	SK32 19世紀後葉
13 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	1.3	不明	不明	SK32 19世紀後葉
14 ハムシ科	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.4	食植物	好樹性	SK32 19世紀後葉
15 ハムシ科	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.6	食植物	好樹性	SK32 19世紀後葉
16 ハムシ科	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	上腹片	1.5	食植物	好樹性	SK32 19世紀後葉
17 オサムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.1	雑食性	埋食性	SK32 19世紀後葉
18 オサムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	上腹片	0.7	雑食性	埋食性	SK32 19世紀後葉
19 ハムシ	<i>Diptera</i> fam. gen. et sp. indet.	頭部片	0.5	雑食性	埋食性	SK32 19世紀後葉
20 ハムシ	<i>Diptera</i> fam. gen. et sp. indet.	頭部片	1.1	雑食性	埋食性	SK32 19世紀後葉
21 オサムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	上腹片	2.0	雑食性	埋食性	SK32 19世紀後葉
22 不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.8	不明	不明	SK32 19世紀後葉

試料15: No. So7-15

試料15: No. So7-15						
和名	学名	部位	長さ(幅), mm	食性	生態	遺構名 時代
1 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	前胸背板	1.2	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
2 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	前胸背板	1.8	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
3 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	右土壁	2.2	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
4 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	左土壁	2.3	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
5 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	右土壁	2.2	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
6 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	右土壁	1.8	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
7 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	左土壁	1.6	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
8 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	左土壁	1.2	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
9 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	右土壁	2.3	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
10 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	右土壁	1.6	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
11 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	右土壁	1.5	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
12 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	右土壁	1.4	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
13 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	右土壁	1.5	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
14 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	右土壁	1.4	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
15 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	左土壁	1.5	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
16 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	左土壁	1.4	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
17 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	左土壁	1.3	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
18 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	左土壁	2.3	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
19 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	左土壁	2.2	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
20 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	前胸背板	1.1	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
21 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	右土壁	2.2	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
22 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	左土壁	1.9	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
23 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	左土壁	1.3	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
24 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	左土壁	1.3	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
25 ヲサムシ科	<i>Carabidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.6	食植物	好樹性	SK3 19世紀以前
26 コマダゴソガネ	<i>Aphodius nigilifer</i> (Herbst)	前胸背板	1.6	食糞性	埋食性	SK3 19世紀以前
27 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	左土壁	1.3	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
28 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	左土壁	2.2	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
29 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	左土壁	2.3	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
30 コタヌストキドネ	<i>Triboleptus castaneus</i> Herbst	前胸背板	1.1	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前
31 コタヌストキドネ	<i>Strophilus zeumia</i> Wotachiaky	左土壁	1.3	貯食性	家屋害虫	SK3 19世紀以前

③周辺環境の汚染を示す分析試料

トイレ遺構や、穀物貯蔵と直接関わらない19世紀中葉以前のSK4(試料1)、19世紀前葉以前と推定されるSK34(試料5)、18世紀後葉～19世紀前葉と推定されるSK52(試料7)、19世紀中葉以前のSK54(試料9)、19世紀後葉のSK23(試料17)、19世紀後葉のSK37(試料19)からは、エンマコガネ属やマルエンマコガネ *Onthophagus viduus*、マゴソコガネなどの食糞性昆虫が検出された。いずれもきわめて人為度の高い汚染環境に生息し、人糞や獣糞に依存して生活する都市型昆虫である。これらの昆虫の出現は、甲府城下町遺跡にヒトが多く生活し、地表環境が汚染されていた状況を示す現象として重要である。

このほかに、試料19および19世紀後葉のSK22から得られた試料20からは、ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus* が確認されている。本種は、日本その他の養蚕国において、繭・生糸・絹織物の害虫として知られる(日本家屋害虫学会編, 1995)。ほかに、鯉節や乾魚・羽毛製品・皮革なども食するため、SK37やSK22の周辺に、こうした動物質食品が存在したと考えられる。また、18世紀後葉～19世紀初頭のSK1(試料10)からは、食菌性の家屋害虫であるヒメマキムシの一種 *Cartodera* sp.が発見された。本種はカビを主食とし、食品や製薬工場などの倉庫から発見される場合が多いとされ(松崎・武衛, 1993)。したがって、18世紀後葉～19世紀初頭のSK1周辺に何らかの食品が貯蔵されていた可能性が考えられる。

表11 甲府城下町遺跡(中央4丁目1区)から出土した昆虫化石(試料16-17)

試料16: No. S67-17

和名	学名	部位	長さ (μm)	食性	生態	遺構名	時代
1)セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上腹縁部	3.2	食植物	水生	S80	19世紀以前
2)セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上腹上半部	2.0	食植物	水生	S80	19世紀以前
3)セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	右	3.1	食植物	水生	S80	19世紀以前
4)セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	上腹片	2.0	食植物	水生	S80	19世紀以前
5)ニコギリトウタムシ	<i>Orzomyia variansensis</i> (Inoue)	左上腹	1.8	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
6)コクヌストキドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上腹片	1.9	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
7)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片(前気門)	1.4	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
8)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片(前気門)	1.7	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
9)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片	2.3	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
10)シロウジヨウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	胸板片	2.1	発酵物食	屋内性	S80	19世紀以前
11)シロウジヨウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	胸板片	2.4	発酵物食	屋内性	S80	19世紀以前
12)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片	1.8	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
13)ハネカクシ科一種	<i>Stegomyia</i> sp.	胸板片	1.8	食植物	屋内性	S80	19世紀以前
14)シロウジヨウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	前気門	2.1	発酵物食	屋内性	S80	19世紀以前
15)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片	1.8	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
16)ハネカクシ科	<i>Stegomyia</i> sp. et sp. indet.	腹皮残片	0.6	食植物	地表性	S80	19世紀以前
17)コクヌストキドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板	2.1	食植物	地表性	S80	19世紀以前
18)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	右上腹	1.4	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
19)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	左上腹	1.3	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
20)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	左上腹	1.3	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
21)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	左上腹	1.4	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
22)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	前胸背板	1.1	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
23)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	右前胸背板	1.0	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
24)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	前胸背板	1.1	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
25)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	前胸背板	1.2	食植物	好植物	S80	19世紀以前
26)セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (Walker)	左上腹上半部	2.1	食植物	水生	S80	19世紀以前
27)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	前胸背板片	0.8	好殺性	屋内性	S80	19世紀以前
28)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	右前胸背板	0.9	食植物	地表性	S80	19世紀以前
29)ハネカクシ科	<i>Stegomyia</i> sp. et sp. indet.	腹皮残片	2.1	食植物	地表面	S80	19世紀以前
30)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片	1.4	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
31)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片	1.2	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
32)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片	2.3	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
33)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片	2.5	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
34)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片	3.0	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
35)コクヌストキドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	左上腹上半部	1.4	好殺性	家庭害虫	S80	19世紀以前
36)トビロシワアリ	<i>Pteromyia ruficornis</i> (Emery)	頭部	0.6	雑食性	地表面	S80	19世紀以前
37)シロウジヨウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	胸板片	2.4	発酵物食	屋内性	S80	19世紀以前
38)シロウジヨウバエ属	<i>Drosophila</i> sp.	胸板片	2.5	発酵物食	屋内性	S80	19世紀以前
39)ハネバエ	<i>Diptera</i> fam. gen. et sp. indet.	胸板片	2.6	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
40)ハネバエ	<i>Diptera</i> fam. gen. et sp. indet.	胸板片	2.4	雑食性	屋外性♀♂	S80	19世紀以前
41)不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	3.1	不明	不明	S80	19世紀以前
42)不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.8	不明	不明	S80	19世紀以前

試料17: No. S67-19

和名	学名	部位	長さ (μm)	食性	生態	遺構名	時代
1)コクゾウムシヨウバエ	<i>Drosophila suraria</i> Peng	胸板片	2.0	発酵物食	屋内性	S823	19世紀後半
2)コクゾウムシ	<i>Drosophila rector</i> (Motschulsky)	右前胸背板	3.1	食植物	地表面	S823	19世紀後半
3)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	左上腹	0.9	好殺性	家庭害虫	S823	19世紀後半
4)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	右前胸背板	1.3	好殺性	家庭害虫	S823	19世紀後半
5)キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	胸板片	2.1	雑食性	屋外性♀♂	S823	19世紀後半
6)キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	胸板片	2.5	雑食性	屋外性♀♂	S823	19世紀後半
7)コクヌストキドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst	前胸背板片	0.8	好殺性	家庭害虫	S823	19世紀後半
8)キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	胸板片	1.6	雑食性	屋外性♀♂	S823	19世紀後半
9)ハネバエ	<i>Diptera</i> fam. gen. et sp. indet.	胸板片	2.1	雑食性	屋外性♀♂	S823	19世紀後半
10)ハネバエ	<i>Diptera</i> fam. gen. et sp. indet.	胸板片	1.8	雑食性	屋外性♀♂	S823	19世紀後半
11)不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	S823	19世紀後半
12)ハネカクシ科	<i>Stegomyia</i> sp. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食植物	地表面	S823	19世紀後半
13)アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	頭部	0.6	雑食性	地表面	S823	19世紀後半
14)アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	頭部	0.7	雑食性	地表面	S823	19世紀後半
15)アリ科	<i>Formicidae</i> gen. et sp. indet.	頭部	0.6	雑食性	地表面	S823	19世紀後半
16)ハネカクシ科	<i>Stegomyia</i> sp. et sp. indet.	前胸背板片	1.0	食植物	地表面	S823	19世紀後半
17)ハネカクシ科	<i>Stegomyia</i> sp. et sp. indet.	部位不明	0.8	食植物	地表面	S823	19世紀後半
18)ハネカクシ科	<i>Stegomyia</i> sp. et sp. indet.	頭部	1.1	雑食性	地表面	S823	19世紀後半
19)コクゾウムシ	<i>Strophilus nemus</i> Motschulsky	前胸背板	0.9	好殺性	家庭害虫	S823	19世紀後半
20)ゾウムシ科	<i>Curculionidae</i> gen. et sp. indet.	前胸背板	1.3	食植物	好植物	S823	19世紀後半
21)イエバエ	<i>Musca domestica</i> Linnaeus	胸板片	1.2	雑食性	屋内性♀♂	S823	19世紀後半
22)不明甲虫	<i>Coleoptera</i> fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	S823	19世紀後半
23)ハネカクシ科	<i>Stegomyia</i> sp. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食植物	地表面	S823	19世紀後半

5. おわりに

甲府城下町遺跡からは、便池に特徴的に多く含まれるオオクロバエやキンバエが集中して検出されたため、城下町におけるトイレ施設の有無について指摘した。また、貯蔵した穀類を求めて集まるコクゾウムシやコクヌストキドキ、ニコギリヒラタムシなど好殺性昆虫の多産より、城下町内に穀物貯蔵庫が存在した可能性が考えられる。

一方で、同じ分析試料からは、キンバエヒラタムシ *Enochrus japonicus* やセマルガムシ *Coelostoma stultum*、チビヒラタムシ *Enochrus esuriens* など止水域に生息する水生昆虫が確認されている。こうした分析結果は、遺構の埋積過程を考える上で大変興味深い。

表18 甲府城下町遺跡(中央4丁目区)から出土した昆虫化石(試料18-20)

試料18 - No. So7-20	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	ヒメイロコエ	<i>Pempia canalicularis</i> (Linnaeus)	胸翅	2.1	葉捲り食	屋内性	38-2	19世紀以前
2	ヒメゾクムシの一種	<i>Baetis</i> sp.	右土腿	1.6	食植物	屋外性	38-2	19世紀以前
3	シオンハエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	胸翅片	2.1	雑食性	屋外性など	38-2	19世紀以前
4	シオンハエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	胸翅片	2.4	雑食性	屋外性など	38-2	19世紀以前
5	シオンハエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)	胸翅片	1.8	雑食性	屋外性など	38-2	19世紀以前
6	アヲ科	Formicidae gen. et sp. indet.	腹部	0.6	雑食性	地表性	38-2	19世紀以前
7	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.2	不明	不明	38-2	19世紀以前
8	ハネカクサ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.1	食植物	地表性	38-2	19世紀以前
9	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	土腿片	2.2	不明	不明	38-2	19世紀以前
10	ヒメギワゴキムシ属	<i>Bembidion</i> sp.	左土腿片	1.3	雑食性	地表性	38-2	19世紀以前

試料19 - No. So7-21	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	アブツコガネ	<i>Aphodius cinctus</i> (Motschulsky)	右前腿筋節	1.2	食腐性	地表性	38-2	19世紀以後
2	オオクロコエ	<i>Calliphora lata</i> Caviglietti	胸翅片	3.5	腐肉食	屋外性・俵造	38-2	19世紀以後
3	トドイロコウアブ	<i>Tetrorchium tsushimae</i> (Sawyer)	胸部	1.2	雑食性	地表性	38-2	19世紀以後
4	シオンハエ科	Baetidae gen. et sp. indet.	土腿	1.0	食植物	地表性	38-2	19世紀以後
5	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.8	不明	不明	38-2	19世紀以後
6	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	右土腿	1.4	不明	不明	38-2	19世紀以後
7	ヒメカクサオビシシ	<i>Attagenus unicolor</i> Brach	右土腿	2.1	食植物	家屋害虫	38-2	19世紀以後
8	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	0.8	不明	不明	38-2	19世紀以後
9	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	右土腿	1.1	不明	不明	38-2	19世紀以後
10	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.0	不明	不明	38-2	19世紀以後
11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	左土腿	3.0	不明	不明	38-2	19世紀以後
12	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片	2.2	不明	不明	38-2	19世紀以後
13	コクヌストキドネ	<i>Trichium octatum</i> Herbst	前胸背板片	1.3	貯食性	家屋害虫	38-2	19世紀以後

試料20 - No. So7-22	和名	学名	部位	長さ(幅) mm	食性	生態	遺構名	時代
1	ゴキムシ目	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	右土腿上半部	3.2	食植物	地表性	38-2	19世紀以後
2	オオムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	前腿筋節	1.7	雑食性	地表性	38-2	19世紀以後
3	オオクロコエ	<i>Calliphora lata</i> Caviglietti	胸翅片	2.8	腐肉食	屋外性・俵造	38-2	19世紀以後
4	オオクロコエ	<i>Calliphora lata</i> Caviglietti	胸翅片	3.0	腐肉食	屋外性・俵造	38-2	19世紀以後
5	オオクロコエ	<i>Calliphora lata</i> Caviglietti	胸翅片	1.4	腐肉食	屋外性・俵造	38-2	19世紀以後
6	オオクロコエ	<i>Calliphora lata</i> Caviglietti	前气门	2.4	腐肉食	屋外性・俵造	38-2	19世紀以後
7	ヒメカクサオビシシ	<i>Attagenus unicolor</i> (Sharp)	右土腿上半部	1.0	食植物	家屋害虫	38-2	19世紀以後
8	ヒメカクサオビシシ	<i>Attagenus unicolor</i> Brach	右土腿	1.8	食植物	家屋害虫	38-2	19世紀以後
9	シヨウジョウハエ属	<i>Drosophila</i> sp.	胸翅片	1.6	葉捲り食	屋内性	38-2	19世紀以後
10	シヨウジョウハエ属	<i>Drosophila</i> sp.	胸翅片	1.4	葉捲り食	屋内性	38-2	19世紀以後
11	ハニ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胸翅片	2.5	雑食性	屋外性など	38-2	19世紀以後
12	ハニ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	胸翅片	3.3	雑食性	屋外性など	38-2	19世紀以後
13	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5	不明	不明	38-2	19世紀以後
14	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.7	不明	不明	38-2	19世紀以後
15	ハネカクサ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片	1.6	食植物	地表性	38-2	19世紀以後

引用文献

林 晃史・篠永 哲 (1979) ハエ - 生態と防除 -, 228p, 文永堂.

松崎沙和子・武衛和雄 (1993) 都市害虫百科, 236p, 朝倉書店.

森 勇一 (1999) 昆虫化石よりみた先史～歴史時代の古環境変遷史, 歴博国際シンポジウム「過去1万年間の陸域環境の変遷と自然災害史」国立歴史民俗博物館研究報告, 81, 311-342.

森 勇一 (2000) 愛知県清洲城下町遺跡(中世)から産出した貯蔵性昆虫について, 家屋害虫, 22, 61-67.

森 勇一 (2001) 先史～歴史時代の地層中より産出した都市型昆虫について, 家屋害虫, 23, 23-40.

森 勇一 (2010) 仙台市沼向遺跡から産出した昆虫化石について, 仙台市教育委員会編「仙台市文化財調査報告書(第360集)沼向遺跡第4～34次調査-宮城県仙台港背後土地区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ(第9分冊)」:217-224, 仙台市教育委員会.

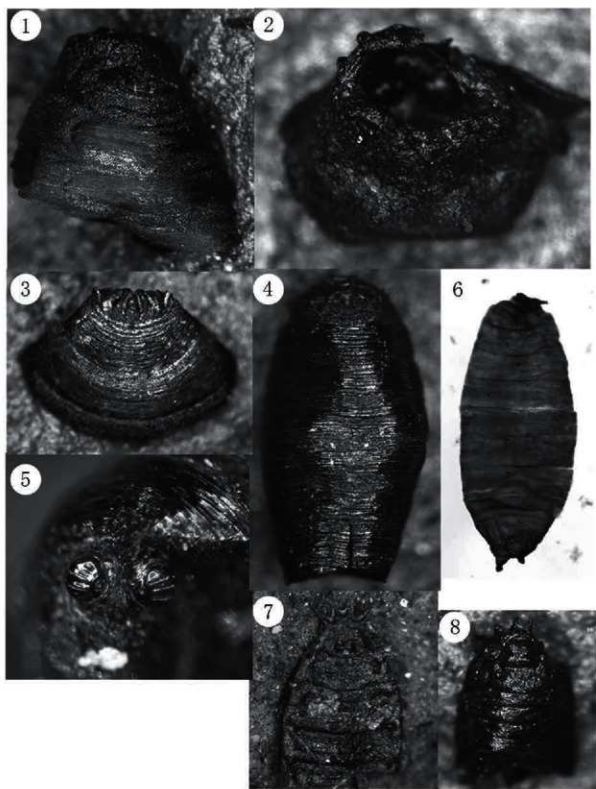
森 勇一・上田恭子 (2005) 三の丸遺跡の埋桶の埋土より産出した双翅目のサナギについて, 愛知県埋蔵文化財センター編「愛知県埋蔵文化財センター調査報告書(第127集)名古屋城三の丸遺跡(VII)」:242-246, 愛知県埋蔵文化財センター.

日本家屋害虫学会編 (1995) 家屋害虫事典, 468p, 井上書院.

芝 康次郎・佐々木由香・森 勇一 (2013) 平城宮東方官衛地区SK19198の自然科学分析-第440次, 奈良文化財研究所紀要, 2013, 209-215.

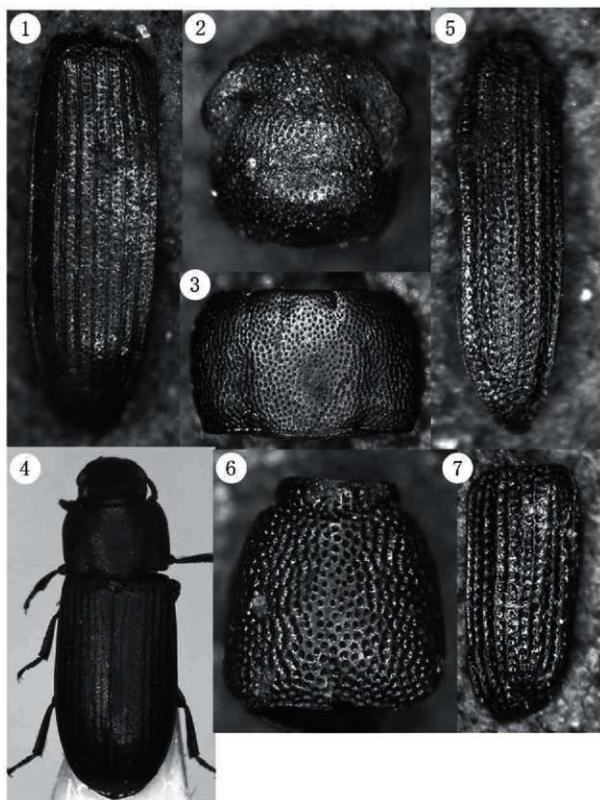
鈴木 猛・緒方一喜 (1968) 日本の衛生害虫-その生態と駆除-, 245p, 新思想社.

安富和男・梅谷敏二 (1983) 衛生害虫と衣食住の害虫, 310p, 全国農村教育協会.



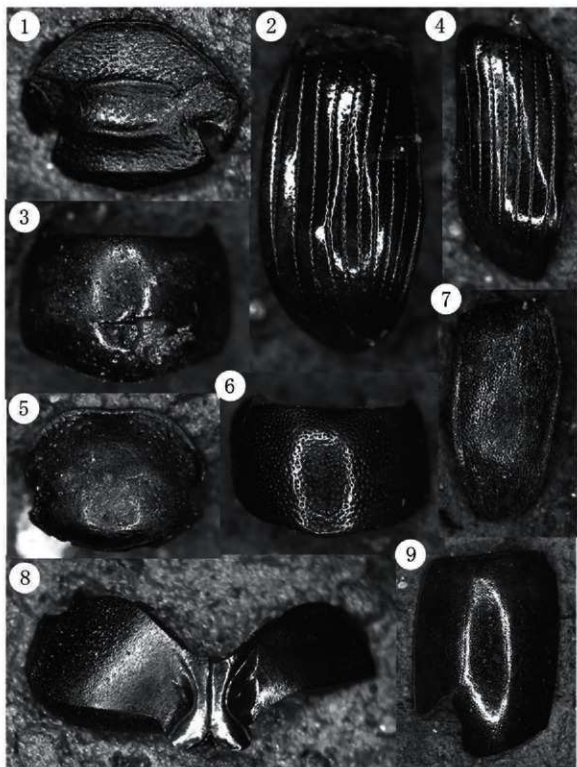
図版1 甲府城下町遺跡中央4丁目1区から産出した昆虫化石 (1)

1. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett 閉蛹片 長さ3.6mm (試料2、標本1)
2. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett 後気門付近 幅3.8mm (試料2、標本114)
3. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett 前気門付近 幅3.2mm (試料2、標本105)
4. キンバエ *Lucilia caesar* (Linnaeus) 閉蛹片 長さ4.2mm (試料2、標本66)
5. キンバエ *Lucilia caesar* (Linnaeus) 前気門 気門の直径0.15mm (試料2、標本66)
6. ショウジョウバエ属 *Drosophila* sp. 閉蛹 長さ2.6mm (試料2、標本187)
7. ヒメイエバエ *Fannia canicularis* (Linnaeus) 閉蛹片 長さ2.1mm (試料18、標本1)
8. ヒメイエバエ *Fannia canicularis* (Linnaeus) 閉蛹片 長さ2.2mm (試料2、標本188)



図版2 甲府城下町遺跡中央4丁目I区から産出した昆虫化石(2)

1. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 左上翅 長さ2.2mm (試料15、標本3)
2. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 頭部 幅0.6mm (試料13、標本25)
3. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 前胸背板 幅1.2mm (試料15、標本1)
4. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 現生標本 長さ3.5mm (愛知県一宮市にて採集)
5. ノコギリヒラタムシ *Oryzaephilus surinamensis* (Linne) 右上翅 幅2.6mm (試料15、標本5)
6. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 前胸背板 幅1.2mm (試料16、標本25)
7. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 右上翅 幅1.8mm (試料10、標本1)



図版3 甲府城下町遺跡中央4丁目I区から産出した昆虫化石 (3)

1. マルエンマコガネ *Onthophagus viduus* Harold 頭部 幅2.3mm (試料8、標本16)
2. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky) 右上翅 長さ3.2mm (試料13、標本8)
3. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky) 前胸背板 幅2.2mm (試料13、標本11)
4. コマグソコガネ *Aphodius pusilus* (Herbst) 左上翅 幅2.8mm (試料13、標本7)
5. コマグソコガネ *Aphodius pusilus* (Herbst) 頭部 幅1.3mm (試料13、標本10)
6. フチケマグソコガネ *Aphodius urostigma* Harold 前胸背板 幅2.1mm (試料16、標本17)
7. ヒメカツオブシムシ *Attagenus unicolor japonicus* Reitter 右上翅 長さ2.1mm (試料19、標本7)
8. ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (Stephens) 後胸腹板 幅4.0mm (試料4、標本1)
9. セマルガムシ *Coelostoma stultum* (Walker) 左上翅 長さ3.6mm (試料13、標本6)

第6節 甲府城下町遺跡（中央4丁目I工区）出土の動物遺体

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡（H29中央4丁目I区）の発掘調査では、貝類、魚類、鳥類、哺乳類といった動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、発掘調査現場で採集された動物遺体69袋である。動物遺体が出土した遺構の時期は近世～近代である。

肉眼および実体顕微鏡下で観察し、標本との比較により部位と分類群を同定し、穿孔などの特徴を記載した。また、脊椎動物の四肢骨については、ノギスを用いて最大長を計測した。最小個体数の算出は、遺構ごとではなく、今回同定した試料全てをひとまとめに行い、原足綱（巻貝）については殻軸の数、二枚貝綱については左右殻どちらか数の多い方あるいは左右不明の合計数の半数をもってカウントした。

3. 結果と考察

表1に、同定された分類群一覧を示す。腹足綱9分類群、二枚貝綱9分類群、硬骨魚綱1分類群、鳥綱1分類群、哺乳綱2分類群の、計22分類群が同定された。

表1 H29中央4丁目I区調査分出土の動物遺体分類群一覧

軟体動物門	Mollusca
腹足綱	Gastropoda
アワビ属	<i>Haliotis</i> sp.
メガイアワビ	<i>Haliotis gigantea</i>
クボガイ	<i>Chlorostoma lischkei</i>
ヘソアキクボガイ	<i>Chlorostoma turbinatum</i>
サザエ	<i>Turbo sazae</i>
カワニナ	<i>Semisulcospina libertina</i>
タニシ属	<i>Cipangopaludina</i> sp.
マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis</i>
アカニシ	<i>Rapana venosa</i>
二枚貝綱	Bivalvia
フネガイ科	Arcidae gen. et sp. indet.
アカガイ	<i>Scapharca broughtonii</i>
サトウガイ	<i>Scapharca satowi</i>
サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
ナミマガシワガイ	<i>Anomia chinensis</i>
イタヤガイ	<i>Pecten albicans</i>
イワガキ	<i>Crossostrea nippona</i>
シジミ属	<i>Corbicula</i> sp.
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
脊椎動物門	Vertebrata
硬骨魚綱	Osteichthyes
マグロ属	<i>Thunnus</i> sp.
鳥綱	Aves
ニワトリ	<i>Gallus gallus domesticus</i>
哺乳綱	Mammalia
哺乳綱の一種	Mammalia ord., fam., gen. et spp. indet.
ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>

表2に脊椎動物遺体（硬骨魚綱、鳥綱、哺乳綱）の同定結果、表3に貝類遺体（腹足綱、二枚貝綱）の同定結果を示す。

魚類では、SK22とSK29において、マグロ属の椎骨が計3点見られた。マグロ属にはクロマグロ、メバチマグロ、キハダマグロ、ビンナガマグロなどがあり、いずれも海産である。マグロ属は海岸部から甲府城下町に持ち込まれ、食用にされたと考えられる。なお、SK22から出土したマグロ属椎骨（B7-11）には、切断による可能性がある直線的な破断が見られた。

鳥類では、SK22、SK32、SK36、SS1 溝部においてニワトリが見られた。ニワトリの部位は、大腿骨、脛足根骨、足根中足骨が見られ、大腿骨の数に基づく少なくとも3個体に由来する。甲府城下町においてニワトリが家禽として飼育され、食用にされたと考えられる。

哺乳類では、IG255においてノウサギの下顎骨が見られた。ノウサギは、甲府城下町周辺で狩猟され、食用にされたと考えられる。

貝類で最も多かったのはシジミ属（最小個体数16）で、SK14、SK22、SK32、SK36、SK37、井戸2、IG140で見られた。シジミ属とした貝殻は、おそらく淡水産のマシジミと思われるが、他の海産貝類の存在から汽水産であるヤマトシジミの可能性も考え、シジミ属までの同定に留めた。

貝類で次に多かったのは淡水産のマルタニシ（最小個体数10）で、SK22とSK32で見られた。マルタニシの可能性があるが、破片のためタニシ属までの同定に留めた貝殻もSW1で1点あった。マルタニシは池沼、河川、水田などに生息し、甲府城下町周辺で採取されたと考えられる。他に、淡水産のカワニナ（最小個体数2）がSW1と井戸2で見られた。

海産の貝類としては、岩礁に生息するメガイアワビ（最小個体数3：SK22、SK32、SK37）、クボガイ（最小個体数1：SW1）、ヘソアキクボガイ（最小個体数1：SW1）、サザエ（最小個体数4：SK5、SK17、SK52、SS2）、イワガキ（最小個体数1：SK1）などと、砂泥底に生息するアカニシ（最小個体数1：SK22）、アカガイ（最小個体数1：胴木1）、サトウガイ（最小個体数1：SK32）、サルボウガイ（最小個体数1：SK22）、ハマグリ（最小個体数3：SK22、SK32、SK37）、ナミマガシワガイ（最小個体数2：井戸2）などが見られ、いずれも海岸部から持ち込まれたと考えられる。

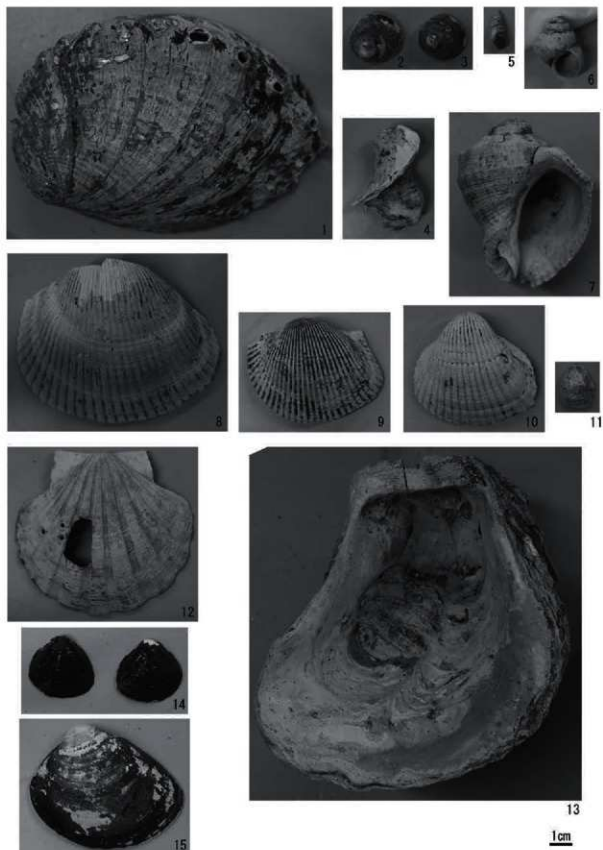
上に挙げた貝類の他に、食用以外の用途で利用されたと考えられるのが、イタヤガイである。イタヤガイ（最小個体数4）はSK22とSK37で2個体ずつ見られた。イタヤガイは、海の砂地に生息し、右殻が椀状に窪み、左殻が平坦である。椀状の右殻のみが4個体見られ、このうち2個体には穿孔が見られた。孔に紐を通して柄に固定し、柄杓として用いられたと考えられる。

表2 H29中央4丁目I区調査分の貝類遺体

番号	地区	遺構	時期	分類群	左右	部分・状態	数量	備考
Sn1-3		1 S81内一拵	近代	ヘンアキボゴイ	—	完存	1	
Sn1-4		1 S81内一拵	近代	カボガイ	—	完存	1	
Sn1-5		1 S81内一拵	近代	カワナ	—	破片	1	
Sn1-6		1 S81内一拵	近代	タニシ属	—	破片	1	
Sn0-1・2・5		3 井戸2一拵	近代(大正に属結)	シジミ属	左	完存	3	マシジミ?
Sn0-1・2・5		3 井戸2一拵	近代(大正に属結)	シジミ属	右	完存	1	マシジミ?
Sn0-3・4		3 井戸2一拵	近代(大正に属結)	ナミマガシロガイ	左	ほぼ完存	2	
Sn0-6		3 井戸2-No.2	近代(大正に属結)	カワナ	—	ほぼ完存	1	
Sn0-8		3 井戸1-No.12	近代(大正に属結)	アマガイ	左	破損が大きく	1	
Sn0-10		3 S81一拵	—	アワビ属	—	破片	1	穿孔
Sn0-11		3 井戸1-No.18	近代	アカガイ	左	ほぼ完存	1	
Sn0-1		4 S85-No.18	—	サザニ	—	破損	1	
Sn0-1		4 S85-No.7	19世紀の構築か	サザニ	—	破損	1	
Sn0-12		6 S81一拵	19世紀中葉以前か	フネガイ科	左	破損が大きく	1	
Sn0-13		6 S82	19世紀後半～19世紀前半	サザニ	—	破損	1	
Sn7-54		7 S81一拵	19世紀後半～19世紀初頭	イワナ	左	完存	1	
Sn7-8		7 S814一拵	—	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sn7-8		7 S814一拵	—	シジミ属	右	完存	1	マシジミ?
Sn7-56		7 S817	17世紀～18世紀前半	サザニ	—	破損	1	
Sn7-23		7 S822一拵	19世紀後半	シジミ属	左	完存	3	マシジミ?
Sn7-23		7 S822一拵	19世紀後半	シジミ属	右	完存	3	マシジミ?
Sn7-23		7 S822一拵	19世紀後半	シジミ属	不明	ほぼ完存、破片	6	マシジミ?
Sn7-35		7 S822-No.10	19世紀後半	サルボウガイ	左	完存	1	
Sn7-58		7 S822-No.32	19世紀後半	メガイアワビ	—	ほぼ完存	1	
Sn7-37		7 S822-No.41	19世紀後半	アカナシ	—	完存	1	
Sn7-20		7 S822上層一拵	19世紀後半	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sn7-20		7 S822上層一拵	19世紀後半	ハマグリ	右	完存	1	
Sn7-40		7 S822上層一拵	19世紀後半	マルタニシ	—	ほぼ完存	1	
Sn7-49		7 S822上層北側一拵	19世紀後半	イタヤガイ	右	ほぼ完存	1	穿孔
Sn7-50		7 S822上層北側一拵	19世紀後半	イタヤガイ	右	ほぼ完存	1	穿孔
Sn7-17・29・39		7 S822-No.5・11・23一拵	19世紀後半	アワビ属	—	破片	3	
Sn7-20		7 S822-No.5・11・23一拵	19世紀後半	メガイアワビ	—	完存	3	
Sn7-25		7 S832一拵	19世紀後半	シジミ属	左	完存	1	マシジミ? 左右各半
Sn7-25		7 S832一拵	19世紀後半	シジミ属	右	完存	1	マシジミ? 左右各半
Sn7-30		7 S832一拵	19世紀後半	サトウガイ	左	完存	1	
Sn7-31		7 S832一拵	19世紀後半	ハマグリ	右	完存	1	
Sn7-22		7 S832一拵	19世紀後半	マルタニシ	—	ほぼ完存	1	
Sn7-41		7 S832 2層目一拵	19世紀後半	メガイアワビ	—	破片	1	
Sn7-34		7 S836一拵	19世紀後半	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sn7-33		7 S837-No.37	19世紀後半	イタヤガイ	右	ほぼ完存	1	穿孔の痕?
Sn7-53		7 S837一拵	19世紀後半	ハマグリ	右	ほぼ完存	1	
Sn7-43		7 S837一拵	19世紀後半	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sn7-40		7 S837 1層目一拵	19世紀後半	イタヤガイ	右	破片	1	
Sn7-43		7 S837 1層目一拵	19世紀後半	ハマグリ	右	ほぼ完存	1	
Sn7-40		7 S837 2層目一拵	19世紀後半	メガイアワビ	—	完存	1	切断痕?
Sn7-43		7 S837 2層目一拵	19世紀後半	ハマグリ	右	完存	1	
Sn7-45		7 S837 2層目一拵	19世紀後半	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?
Sn7-45		7 S837 2層目一拵	19世紀後半	シジミ属	右	完存	1	マシジミ?
Sn7-55		7 15140一拵	—	シジミ属	右	完存	1	マシジミ?
Sn7-55		7 15140一拵	—	シジミ属	左	完存	1	マシジミ?

表3 H29中央4丁目I区調査分の脊椎動物遺体

番号	地区	遺構	時期	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
B5-2		5 S81溝部一拵	19世紀の構築か	ニワトリ	足根中足骨	左	完存	1	最大長96.4mm
B5-7		5 16255	—	ノウネギ	下顎骨	右	下顎体	1	
B6-1		6 SP17-No.1	—	哺乳類	頭骨	—	ほぼ完存	1	陸生
B7-4		7 S822-No.29	19世紀後半	ニワトリ	大腿骨	左	遠位端	1	
B7-5		7 S822-No.6	19世紀後半	ニワトリ	脛足骨	右	近位端～骨幹	1	最大長>124.2mm
B7-6		7 S822-No.2	19世紀後半	ニワトリ	大腿骨	右	ほぼ完存	1	最大長91.0mm
B7-12		7 S822一拵	19世紀後半	ニワトリ	大腿骨	右	遠位端	1	
B7-12		7 S822一拵	19世紀後半	ニワトリ	脛足骨	右	近位端～骨幹	1	最大長>104.2mm
B7-12		7 S822一拵	19世紀後半	哺乳類	大腿骨	右	近位端～骨幹	1	陸生、ネコ?、最大長>91.9mm
B7-15		7 S822一拵	19世紀後半	マダロ属	椎骨	—	椎体破片	1	切断痕?
B7-11		7 S822上層一拵	19世紀後半	マダロ属	椎骨	—	椎体破片	1	
B7-16		7 S822ベルト一拵	19世紀後半	ニワトリ	大腿骨	左	完存	1	最大長99.2mm
B7-8		7 S829一拵	19世紀後半	マダロ属	椎骨	—	椎体	1	
B7-7		7 S832一拵	19世紀後半	哺乳類	肋骨	右	背側端	1	陸生
B7-14		7 S832一拵	19世紀後半	ニワトリ	足根中足骨	右	ほぼ完存	1	最大長94.0mm
B7-9		7 S836-No.37	19世紀後半	ニワトリ	大腿骨	右	ほぼ完存	1	最大長95.1mm
B7-10		7 S836 2層目一拵	19世紀後半	ニワトリ	脛足骨	右	近位端～骨幹	1	最大長109.4mm
B7-10		7 S836 2層目一拵	19世紀後半	シカ?	角?	不明	角座?	1	1幼鹿?



図版1 H29中央4丁目I区調査分の貝類遺体

1. メガイアワビ(Sm7-28) 2. クボガイ(Sm1-4) 3. ヘソアキクボガイ(Sm1-3) 4. サザエ(Sm5-1)
5. カワニナ(Sm3-6) 6. マルトニシ(Sm7-32) 7. アカニシ(Sm7-37) 8. アカガイ左殻(Sm3-11)
9. サトウガイ左殻(Sm7-30) 10. サルボウガイ左殻(Sm7-35) 11. ナミマガシワガイ左殻(Sm3-3)
12. イタヤガイ右殻(Sm7-49) 13. イワガキ左殻(Sm7-54) 14. シジミ属左右殻(Sm3-1)
15. ハマガリ左殻(Sm7-31)



図版2 H29中央4丁目I区調査分の脊椎動物遺体

1. マグロ属腹椎 (B7-8) 2. マグロ属椎骨※切断? (B7-11) 3・4. ニワトリ左大腿骨 (B7-16, 4)
 5・6. ニワトリ右大腿骨 (B7-6, 9) 7・8. ニワトリ右脛足根骨 (B7-10, 5)
 9・10. ニワトリ左足根中足骨 (B7-2, 14) 11. ノウサギ右下顎骨 (B5-7)

第7節 甲府城下町遺跡(中央4丁目I工区)より出土した金属製品の蛍光X線分析

竹原弘展 (ハレオ・ラボ)

1. はじめに

甲府城下町遺跡の中央4丁目地点I区より出土した金属製品について、蛍光X線分析を行い、その材質を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、I区⑦区より出土した器種不明の金属製品の破片(No.12)である。緑青錆に覆われており、銅合金製品と考えられる。小破片を分析試料とした(図版1)。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000 μ Aのロジウム(Rh)ターゲット、X線照射径が8mmまたは1mm、X線検出器はSDD検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素は、ナトリウム(Na)～ウラン(U)である。測定条件は、管電圧50kV、一次フィルタPb測定用・Cd測定用の2条件、測定時間(s)が1000～1700s、管電流自動設定、照射径は8mm、試料室内雰囲気は大気に設定した。定量分析は、ノンスタンダードFP法による半定量分析を、装置付属ソフトで行った。得られた値は、合計が100%になるようノーマライズされている。

蛍光X線分析は、表面分析であり、均一とは限らない金属製品の正確な組成比を必ずしも示しているとはいえないが、おおよその組成や、含まれている微量元素を知る上では有効な手法である。今回の分析は、錆の上から非破壊で測定している。金属製品の腐食は均一には進行せず、化学組成も大きく変化し得るため、得られた結果は厳密な値の比較検討には適していない。したがって今回の測定結果は、おおまかな、定性的な結果としてとらえる必要がある。

3. 結果および考察

表1に、測定により得られたFP法による半定量分析結果を示す。アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、鉄(Fe)など測定面周辺の汚れに大きく影響される元素を除くと、銅(Cu)、亜鉛(Zn)、カドミウム(Cd)、スズ(Sn)、鉛(Pb)が検出された。

表1 半定量分析結果 (mass%)

Cu	Zn	Cd	Sn	Pb
80.78	18.73	0.02	0.03	0.44

主に検出されたのは銅(Cu)、亜鉛(Zn)であり、Cu-Znの真鍮製と考えられる。現状では、一般的な出土青銅(銅、スズの合金)製品と同様に緑青錆に覆われた外観であるが、当時は金色の製品であったと考えられる。

真鍮(別名黄銅、鍍石)の材料となる亜鉛は、14～15世紀初めになって、鉱石から単独での精錬が可能になったといわれ(村上, 2003a・2003b)、それ以前は鍍石と呼ばれる、元から亜鉛が含まれる銅鉱石より精錬されたのみみられる例は存在するものの、あまり一般的ではなかった。近世には、青銅とともに銅合金として広く利用されている。

4. おわりに

金属製品の蛍光X線分析の結果、主に銅、亜鉛からなる真鍮製品と判断された。

引用・参考文献

- 村上 隆(2003a) 金工技術。日本の美術。443, 98p. 至文堂。
村上 隆(2003b) 銅。馬淵久夫・杉下龍一郎・三輪嘉六・沢田正昭・三浦定俊編「文化財科学の事典」: 69-72, 朝倉書店。
中井 泉編(2005) 蛍光X線分析の実際。242p, 朝倉書店。



图版1 分析对象试样

第8節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹
Zaur Lomtadze・小林克也

1. はじめに

山梨県甲府市の甲府城下町遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。また、同一試料を用いて樹種同定も行われている (樹種同定の項参照)。

2. 試料と方法

試料は、C地点の SX2 から出土した柱材 3点 (試料 No.22、23、25) である。いずれもウィグルマッチング法を用いた放射性炭素年代測定を行なった。SX2 は近代の遺構であるが、柱は甲府城の建築材が転用された可能性が考えられている。測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。

試料 No.22 の樹種はケヤキで、年輪数は 75 年、最終形成年輪が残っていた。測定試料は、外側から 1-5 年輪目 (PLD-38957)、外側から 11-15 年輪目 (PLD-38958)、外側から 21-25 年輪目 (PLD-38959)、外側から 31-35 年輪目 (PLD-38960)、外側から 41-45 年輪目 (PLD-38961)、外側から 51-55 年輪目 (PLD-38962)、外側から 61-65 年輪目 (PLD-38963)、外側から 71-75 年輪目 (PLD-38964) の 8 か所から採取した。

試料 No.23 の樹種はクリで、年輪数は 81 年、最終形成年輪が残っていた。測定試料は、外側から 1-5 年輪目 (PLD-38965)、外側から 21-25 年輪目 (PLD-38966)、外側から 41-45 年輪目 (PLD-38967)、外側から 61-65 年輪目 (PLD-38968)、外側から 76-80 年輪目 (PLD-38969) の 5 か所から採取した。

試料 No.25 の樹種はクリで、年輪数は 37 年、最終形成年輪が残っていた。測定試料は、外側から 1-5 年輪目 (PLD-38970)、外側から 11-15 年輪目 (PLD-38971)、外側から 21-25 年輪目 (PLD-38972)、外側から 31-35 年輪目 (PLD-38973) の 4 か所から採取した。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表 2~4 に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、ウィグルマッチング結果を、図版 1~3 にウィグルマッチング結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正、ウィグルマッチング法の詳細は以下のとおりである。

[暦年較正]

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.3 (較正曲線データ: Post-bomb atmospheric NH2) を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

[ウィグルマッチング法]

ウィグルマッチング法とは、複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報を用いて試料の年代パターンと較正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって、高精度で年代値を求める方法である。測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1年毎或いは数年分をまとめた年輪を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の測定値から暦年較正を行い、得られた確率分布を最外試料と当該試料の中心値の差だけずらしてすべてを掛け合わせるにより最外試料の確率分布を算出し、年代範囲を求める。なお、得られた最外試料の年代範囲は、まとめた5年輪分の中心の年代を表している。したがって、試料となった木材の最外年輪年代を得るためには、最外試料の中心よりも外側にある年輪数（今回は2年分：2.5年を小数以下切り捨て）を考慮する必要がある。

4. 考察

以下、2の暦年代範囲（確率95.4%）に着目して結果を整理する。

年代測定の結果、試料 No.22 の最外試料年代は 1800-1825 cal AD (90.6%) および 1825-1831 cal AD (4.8%) であった。最終形成年輪の年代は、これに2年輪を加えた 1802-1827 cal AD (90.6%) および 1827-1833 cal AD (4.8%) で、19世紀初頭～前半である。これは、江戸時代後期に相当する。

試料 No.23 の最外試料年代は 1819-1837 cal AD (95.4%) であった。最終形成年輪の年代は 1821-1839 cal AD (95.4%) で、19世紀前半である。これは、江戸時代後期に相当する。

試料 No.25 の最外試料年代は 1712-1732 cal AD (13.0%) および 1834-1907 cal AD (82.4%) であった。最終形成年輪の年代は 1714-1734 cal AD (13.0%) および 1836-1909 cal AD (82.4%) で、18世紀前半および19世紀前半～20世紀初頭である。これは、江戸時代中期～明治時代に相当する。

SX2は近代の遺構であるが、柱は甲府城（安土・桃山時代～明治時代）の建築材が転用された可能性が考えられている。試料 No.22 および試料 No.23 の柱は江戸時代後期の暦年代を示したため、甲府城の建築材であった可能性が高い。一方、試料 No.25 は江戸時代中期～明治時代の暦年代を示したため、甲府城の建築材であった可能性と、明治時代に入ってから伐採された木材である可能性の両方が考えられる。

参考文献

- Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., and Weninger, B. (2001) 'Wiggle matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 43(2A), 381-389.
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫(2000)放射型炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」: 3-20, 日本第四紀学会。
- Hua, Q., Barbetti, M., Rakowski, A.Z. (2013) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950–2010. *Radiocarbon*, 55(4), 1-14.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

表1 ユィグルマッチング測定試料および処理

測定番号	遺跡・試料データ	採取データ	前処理
PLD-38957		採取位置：外側から1-5年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38958		採取位置：外側から11-15年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38959		採取位置：外側から21-25年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38960	試料No. 22 調査区：C地点 遺構：SX2 遺物No. 柱芯 種類：生材（ケヤキ）	採取位置：外側から31-35年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38961	試料の性状：最終形成年輪 年輪数：75年 器種：柱 状態：dry	採取位置：外側から41-45年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38962		採取位置：外側から51-55年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38963		採取位置：外側から61-65年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38964		採取位置：外側から71-75年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38965		採取位置：外側から1-5年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38966	試料No. 23 調査区：C地点 遺構：SX2	採取位置：外側から21-25年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38967	遺物No. 柱芯 種類：生材（クリ） 試料の性状：最終形成年輪 年輪数：81年 器種：柱 状態：dry	採取位置：外側から41-45年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38968		採取位置：外側から61-65年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38969		採取位置：外側から76-80年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38970		採取位置：外側から1-5年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38971	試料No. 25 調査区：C地点 遺構：SX2 遺物No. 柱芯 種類：生材（クリ）	採取位置：外側から11-15年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38972	試料の性状：最終形成年輪 年輪数：97年 器種：柱 状態：dry	採取位置：外側から21-25年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-38973		採取位置：外側から31-35年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

表2 試料No. 22の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグムマッチングの結果

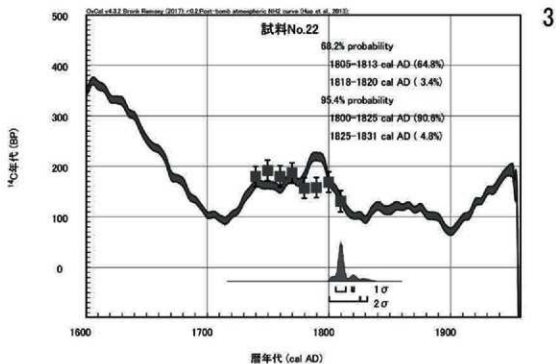
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yr BP ± 1σ)	^{14}C 年代 (yr BP ± 1σ)	^{13}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-38957 試料No. 22 外側から1-5年輪目	-28.56 ± 0.24	131 ± 21	130 ± 20	Post-bomb NIE 2013: 1682-1699 cal AD (10.6%) 1721-1736 cal AD (8.8%) 1758-1761 cal AD (1.1%) 1805-1817 cal AD (7.3%) 1833-1879 cal AD (27.9%) 1916-1936 cal AD (12.2%) 1951-1954 cal AD (0.3%)	Post-bomb NIE 2013: 1679-1714 cal AD (15.7%) 1715-1764 cal AD (18.2%) 1773-1776 cal AD (0.5%) 1800-1892 cal AD (44.7%) 1908-1940 cal AD (15.3%) 1952-1955 cal AD (1.1%)
PLD-38958 試料No. 22 外側から11-15年輪目	-28.16 ± 0.28	169 ± 20	170 ± 20	Post-bomb NIE 2013: 1669-1683 cal AD (12.2%) 1736-1780 cal AD (41.2%) 1798-1805 cal AD (6.2%) 1935-1944 cal AD (7.8%) 1951-1952 cal AD (0.9%)	Post-bomb NIE 2013: 1665-1693 cal AD (17.2%) 1728-1785 cal AD (46.7%) 1795-1812 cal AD (10.1%) 1919-1954 cal AD (21.4%)
PLD-38959 試料No. 22 外側から21-25年輪目	-27.82 ± 0.27	158 ± 20	160 ± 20	Post-bomb NIE 2013: 1675-1686 cal AD (8.4%) 1731-1778 cal AD (39.0%) 1799-1808 cal AD (7.6%) 1927-1941 cal AD (11.9%) 1951-1953 cal AD (0.9%) 1953-1954 cal AD (0.4%)	Post-bomb NIE 2013: 1667-1695 cal AD (15.9%) 1726-1783 cal AD (42.5%) 1797-1814 cal AD (10.4%) 1836-1844 cal AD (1.5%) 1851-1868 cal AD (3.3%) 1872-1877 cal AD (0.7%) 1917-1954 cal AD (21.1%)
PLD-38960 試料No. 22 外側から31-35年輪目	-28.22 ± 0.31	157 ± 20	155 ± 20	Post-bomb NIE 2013: 1675-1686 cal AD (8.6%) 1730-1778 cal AD (38.6%) 1799-1809 cal AD (7.7%) 1927-1941 cal AD (12.0%) 1951-1953 cal AD (0.9%) 1953-1954 cal AD (0.4%)	Post-bomb NIE 2013: 1667-1696 cal AD (15.8%) 1726-1782 cal AD (41.8%) 1797-1814 cal AD (10.4%) 1836-1845 cal AD (1.7%) 1850-1869 cal AD (3.7%) 1872-1877 cal AD (0.8%) 1917-1954 cal AD (21.1%)
PLD-38961 試料No. 22 外側から41-45年輪目	-28.66 ± 0.30	187 ± 20	185 ± 20	Post-bomb NIE 2013: 1666-1681 cal AD (16.8%) 1738-1745 cal AD (5.3%) 1749-1750 cal AD (0.3%) 1763-1784 cal AD (22.7%) 1795-1802 cal AD (6.8%) 1938-1952 cal AD (16.3%)	Post-bomb NIE 2013: 1663-1683 cal AD (19.2%) 1734-1806 cal AD (55.2%) 1929-1954 cal AD (21.1%)
PLD-38962 試料No. 22 外側から51-55年輪目	-29.25 ± 0.31	180 ± 21	180 ± 20	Post-bomb NIE 2013: 1667-1681 cal AD (14.3%) 1738-1754 cal AD (14.0%) 1762-1782 cal AD (20.5%) 1797-1802 cal AD (5.2%) 1937-1952 cal AD (14.2%)	Post-bomb NIE 2013: 1664-1686 cal AD (17.8%) 1730-1809 cal AD (56.7%) 1927-1954 cal AD (20.9%)
PLD-38963 試料No. 22 外側から61-65年輪目	-29.54 ± 0.23	192 ± 20	190 ± 20	Post-bomb NIE 2013: 1664-1680 cal AD (17.6%) 1740-1742 cal AD (1.9%) 1763-1786 cal AD (23.8%) 1793-1801 cal AD (8.4%) 1939-1952 cal AD (16.5%)	Post-bomb NIE 2013: 1661-1683 cal AD (20.5%) 1735-1805 cal AD (54.1%) 1931-1954 cal AD (20.7%)
PLD-38964 試料No. 22 外側から71-75年輪目	-30.06 ± 0.28	180 ± 20	180 ± 20	Post-bomb NIE 2013: 1667-1681 cal AD (14.7%) 1738-1753 cal AD (13.1%) 1762-1782 cal AD (20.9%) 1797-1802 cal AD (5.1%) 1938-1952 cal AD (14.4%)	Post-bomb NIE 2013: 1664-1685 cal AD (17.9%) 1731-1788 cal AD (45.7%) 1789-1808 cal AD (10.9%) 1927-1954 cal AD (21.0%)
最外試料年代				1805-1813 cal AD (64.8%) 1818-1820 cal AD (3.4%)	1800-1825 cal AD (90.6%) 1825-1831 cal AD (4.8%)
最終形成年輪の年代				1807-1815 cal AD (64.8%) 1820-1822 cal AD (3.4%)	1802-1827 cal AD (90.6%) 1827-1833 cal AD (4.8%)

表3 試料No. 23の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマンニングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP \pm 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP \pm 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
FLD-38965 試料No. 23 外側から1-5年輪目	-27.69 \pm 0.26	98 \pm 21	100 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1696-1726 cal AD (22.7%) 1814-1836 cal AD (16.6%) 1844-1851 cal AD (4.2%) 1869-1872 cal AD (1.7%) 1877-1894 cal AD (13.2%) 1904-1917 cal AD (9.7%)	Post-bomb NH2 2013: 1691-1729 cal AD (26.1%) 1810-1924 cal AD (69.1%) 1954-1955 cal AD (0.2%)
FLD-38966 試料No. 23 外側から21-25年輪目	-28.66 \pm 0.26	145 \pm 22	145 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1679-1695 cal AD (10.3%) 1726-1765 cal AD (23.4%) 1773-1777 cal AD (1.8%) 1800-1813 cal AD (8.3%) 1837-1842 cal AD (2.2%) 1853-1859 cal AD (2.9%) 1861-1867 cal AD (3.1%) 1874-1875 cal AD (0.2%) 1918-1940 cal AD (14.5%) 1952-1954 cal AD (1.4%)	Post-bomb NH2 2013: 1669-1707 cal AD (15.8%) 1719-1781 cal AD (31.0%) 1798-1820 cal AD (10.5%) 1822-1826 cal AD (0.6%) 1832-1886 cal AD (18.8%) 1914-1946 cal AD (16.9%) 1951-1954 cal AD (1.7%)
FLD-38967 試料No. 23 外側から41-45年輪目	-27.48 \pm 0.24	209 \pm 21	210 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1655-1671 cal AD (21.2%) 1779-1799 cal AD (34.8%) 1942-1951 cal AD (12.2%)	Post-bomb NH2 2013: 1649-1681 cal AD (30.8%) 1738-1753 cal AD (3.9%) 1762-1802 cal AD (45.1%) 1937-1954 cal AD (15.6%)
FLD-38968 試料No. 23 外側から61-65年輪目	-27.54 \pm 0.20	172 \pm 21	170 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1669-1682 cal AD (12.8%) 1736-1759 cal AD (20.3%) 1760-1781 cal AD (19.5%) 1798-1805 cal AD (6.0%) 1936-1945 cal AD (8.7%) 1951-1952 cal AD (1.0%)	Post-bomb NH2 2013: 1664-1692 cal AD (17.5%) 1728-1787 cal AD (46.1%) 1792-1811 cal AD (10.4%) 1919-1954 cal AD (21.4%)
FLD-38969 試料No. 23 外側から76-80年輪目	-28.30 \pm 0.23	202 \pm 21	200 \pm 20	Post-bomb NH2 2013: 1661-1677 cal AD (18.2%) 1766-1771 cal AD (4.7%) 1777-1799 cal AD (30.7%) 1941-1954 cal AD (14.6%)	Post-bomb NH2 2013: 1652-1682 cal AD (25.9%) 1737-1757 cal AD (7.7%) 1761-1804 cal AD (43.8%) 1936-1954 cal AD (17.9%)
			最外試料年代	1822-1830 cal AD (68.2%)	1819-1837 cal AD (95.4%)
			最終形成年輪の年代	1824-1832 cal AD (68.2%)	1821-1839 cal AD (95.4%)

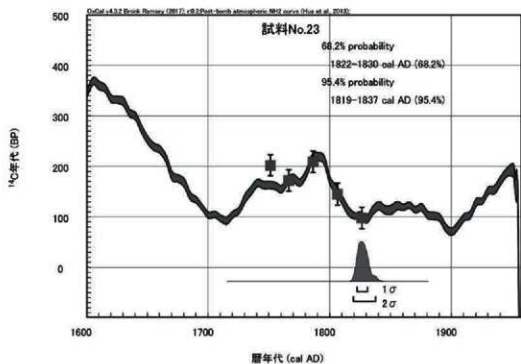
表4 試料No. 25の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{13}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-38970 試料No. 25 外側から1-5年輪目	-26.59 \pm 0.23	100 \pm 21	100 \pm 20	Post-bomb NIE 2013: 1695-1726 cal AD (22.7%) 1814-1836 cal AD (16.6%) 1844-1851 cal AD (4.8%) 1868-1872 cal AD (2.5%) 1876-1894 cal AD (12.7%) 1905-1918 cal AD (8.9%)	Post-bomb NIE 2013: 1690-1729 cal AD (26.1%) 1810-1925 cal AD (69.0%) 1954-1955 cal AD (0.3%)
PLD-38971 試料No. 25 外側から11-15年輪目	-28.62 \pm 0.21	123 \pm 22	125 \pm 20	Post-bomb NIE 2013: 1684-1707 cal AD (12.8%) 1719-1732 cal AD (7.5%) 1808-1820 cal AD (6.9%) 1823-1826 cal AD (1.4%) 1833-1882 cal AD (31.3%) 1915-1928 cal AD (8.1%) 1954-1954 cal AD (0.2%)	Post-bomb NIE 2013: 1681-1738 cal AD (27.4%) 1745-1763 cal AD (3.3%) 1802-1894 cal AD (49.7%) 1905-1938 cal AD (14.3%) 1952-1955 cal AD (0.8%)
PLD-38972 試料No. 25 外側から21-25年輪目	-25.87 \pm 0.20	109 \pm 21	110 \pm 20	Post-bomb NIE 2013: 1694-1711 cal AD (11.4%) 1717-1727 cal AD (6.9%) 1813-1828 cal AD (10.3%) 1831-1839 cal AD (5.1%) 1841-1854 cal AD (8.3%) 1857-1863 cal AD (3.8%) 1866-1891 cal AD (16.2%) 1909-1919 cal AD (6.2%)	Post-bomb NIE 2013: 1684-1733 cal AD (27.4%) 1807-1898 cal AD (54.8%) 1901-1928 cal AD (12.9%) 1954-1955 cal AD (0.3%)
PLD-38973 試料No. 25 外側から31-35年輪目	-27.09 \pm 0.20	113 \pm 21	115 \pm 20	Post-bomb NIE 2013: 1692-1708 cal AD (10.2%) 1718-1728 cal AD (6.3%) 1811-1827 cal AD (9.6%) 1832-1889 cal AD (36.9%) 1911-1919 cal AD (5.2%)	Post-bomb NIE 2013: 1683-1735 cal AD (27.6%) 1805-1897 cal AD (54.2%) 1902-1930 cal AD (12.9%) 1933-1934 cal AD (0.1%) 1952-1955 cal AD (0.5%)
最外試料年代				1842-1857 cal AD (19.2%) 1861-1894 cal AD (49.0%)	1712-1732 cal AD (13.0%) 1834-1907 cal AD (82.4%)
最終形成年輪の年代				1844-1859 cal AD (19.2%) 1863-1896 cal AD (49.0%)	1714-1734 cal AD (13.0%) 1836-1909 cal AD (82.4%)



図版1 ウィグルマッチングを行なった試料 (1) (ピンは5年間隔)

1. 試料No. 22 年輪計測結果 (PLD-38957~38964)
2. 試料No. 22 測定結果の採取位置 (PLD-38957~38964)
3. 試料No. 22 ウィグルマッチング結果

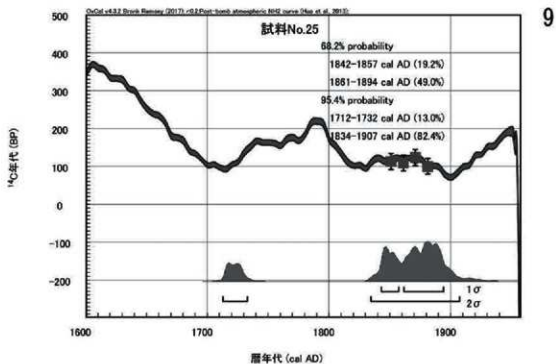


図版2 ウィグルマッチングを行なった試料 (2) (ピンは5年間隔)

4. 試料No. 23 年輪計測結果 (PLD-38965~38969)

5. 試料No. 23 測定結果の採取位置 (PLD-38965~38969)

6. 試料No. 23 ウィグルマッチング結果



図版3 ウィグルマッチングを行なった試料 (3) (ピンは5年間隔)

7. 試料No. 25 年輪計測結果 (PLD-38970~38973)

8. 試料No. 25 測定結果の採取位置 (PLD-38970~38973)

9. 試料No. 25 ウィグルマッチング結果

第9節 甲府城下町遺跡出土木製品の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市の甲府城下町遺跡から出土した木製品の樹種同定を行なった。なお、一部の試料については放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、B地点の溝跡であるSD2～4から出土した木製品6点と、C地点のSX2から出土した柱8点の、計14点である。発掘調査所見では、B地点の溝跡の時期は不明で、C地点のSX2は近世の遺構であるが、柱は甲府城の建築材が転用された可能性が考えられている。確認可能な試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹ではマツ属複雑管束亜属1分類群、広葉樹ではケヤキとクリの2分類群の、計3分類群がみられた。マツ属複雑管束亜属が6点で最も多く、ケヤキとクリは各4点であった。同定結果を表1に、一覧を付表1に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

表1 出土木製品の樹種同定結果

樹種	時期		時期不明		合計
	近代	柱	木桶	継手部	
マツ属複雑管束亜属		5	1		6
ケヤキ	4				4
クリ	4				4
	合計	8	5	1	14

(1) マツ属複雑管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon* マツ科 図版1 1a-1c(No.10)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射柔細胞および放射仮道管で構成される針葉樹である。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は鋸歯状であり、分野壁孔は窓状と認める。

マツ属複雑管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育しやすい。材質は類似し、重硬で切削等の加工は容易である。

(2) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版1 2a-2c(No.20)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では急に径を減じた道管が多数複合し、接線～斜線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が方形となる異性で、幅1～5列となる。放射組織の上下端には、結晶が認められる。

ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難ではない。

(3) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 3a-3c(No.24)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火災状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

4. 考察

同定の結果、C地点のSX2出土の柱はケヤキとクリであった。クリとケヤキはともに堅硬な樹種であり（伊東ほか、2011）、柱材に適した樹種を選択的に利用していたと考えられる。

東京都内の江戸時代の遺跡から出土した柱材をみると、クリの利用は確認できるが、ケヤキは確認できない（伊東・山田編，2012）。また、山梨県内の鎌倉時代～江戸時代初期頃の柱材でも、クリの利用は確認できるが、ケヤキは確認できない（伊東・山田編，2012）。

B地点から出土した時期不明の木樋および継手部は、いずれもマツ属複雑管束亜属であった。マツ属複雑管束亜属は油分を多く含み、耐水性が高い（伊東ほか，2011）。水を通す木樋に適した耐水性の高いマツ属複雑管束亜属が利用されたと考えられる。

東京都内の江戸時代の遺跡から出土した木樋等を含む導水施設の部材をみると、ヒノキ属の木材などとともにマツ属複雑管束亜属も多く確認されており（伊東・山田編，2012）、今回の甲府城下町遺跡の樹種にみられる傾向は一致する。

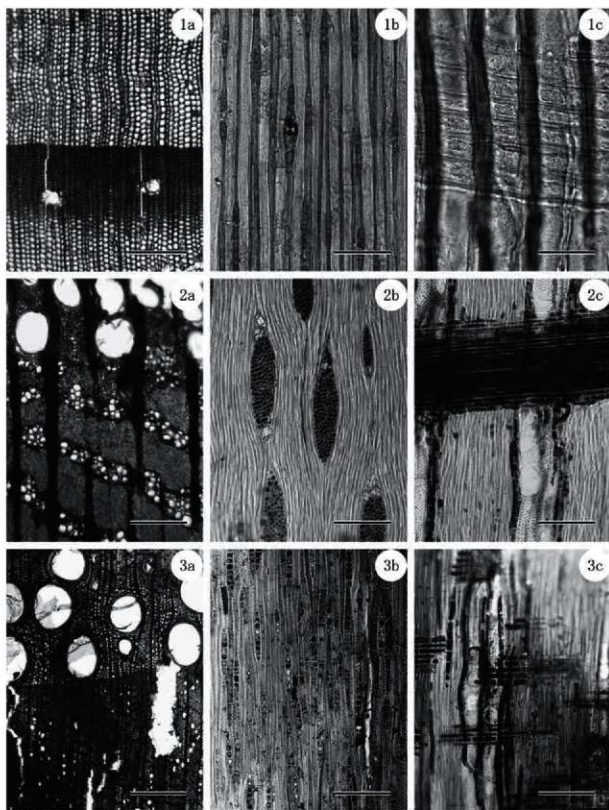
引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和徳（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社。

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—，449p，海青社。

付表1 甲府城下町遺跡出土木材の樹種同定結果一覧

試料No.	地点名	出土遺構	遺物No.	器種	樹種	木取り	時期	年代測定番号
9	B地点	SD2種サンプル		木樋	マツ属複雑管束亜属	板目	不明	
10	B地点	SD2 (E)		木樋	マツ属複雑管束亜属	板目	不明	
11	B地点	SD2 (W)		木樋	マツ属複雑管束亜属	芯持削出	不明	
12	B地点	SD3竹樋継手部		継手部	マツ属複雑管束亜属	芯持削出	不明	
13	B地点	SD3木樋		木樋	マツ属複雑管束亜属	板目	不明	
16	B地点	SD4種サンプル		木樋	マツ属複雑管束亜属	芯去削出	不明	
19	C地点	SX2	柱①	柱	ケヤキ	不明	近代	
20	C地点	SX2	柱②	柱	ケヤキ	不明	近代	
21	C地点	SX2	柱③	柱	ケヤキ	不明	近代	
22	C地点	SX2	柱④	柱	ケヤキ	不明	近代	PLD-38957～38964
23	C地点	SX2	柱⑤	柱	クリ	不明	近代	PLD-38965～38969
24	C地点	SX2	柱⑥	柱	クリ	不明	近代	
25	C地点	SX2	柱⑦	柱	クリ	不明	近代	PLD-38970～38973
26	C地点	SX2	柱⑧	柱	クリ	不明	近代	



図版1 甲府城下町遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真

1a-1c. マツ属液管束東亜属 (No. 10)、2a-2c. ケヤキ (No. 20)、3a-3c. クリ (No. 24)

a: 横断面 (スケール=500 μm)、b: 接線断面 (スケール=200 μm)、c: 放射断面 (スケール=1:50 μm ・2-3:200 μm)

第10節 甲府城下町遺跡（中央4丁目Ⅱ工区）出土の動物遺体

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡（H31中央4丁目Ⅱ区）の発掘調査では、貝類、魚類、鳥類、哺乳類といった動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、発掘調査現場で採集された動物遺体118試料と遺構覆土の水洗選別で回収された動物遺体14試料である。動物遺体が出土した遺構の時期は、江戸時代から明治時代の初め頃である。水洗選別は、試料300ccについて最小0.5mm目の篩を用いて行われた。

肉眼および実体顕微鏡下で観察し、標本との比較により部位と分類群を同定し、穿孔などの特徴を記載した。最小個体数の算出は、遺構ごとではなく、今回同定した試料全てをひとまとめにして行い、腹足綱（巻貝）については殻軸の数、二枚貝綱については左右殻どちらか数の多い方あるいは左右不明の合計数の半数をもってカウントした。

3. 結果と考察

表1に、同定された分類群一覧を示す。腹足綱6分類群、二枚貝綱9分類群、軟骨魚綱1分類群、硬骨魚綱4分類群、哺乳綱2分類群の、計22分類群が同定された。

表1 H31中央4丁目Ⅱ区調査分出土の動物遺体分類群一覧

軟体動物門	Mollusca
腹足綱	Gastropoda
アワビ属	<i>Haliotis</i> spp.
クロアワビ	<i>Haliotis discus discus</i>
メガイアワビ	<i>Haliotis gigantea</i>
サザエ	<i>Turbo sazae</i>
ミガキボラ	<i>Kelletia lischkei</i>
マイマイ類	Pulmonata
二枚貝綱	Bivalvia
フネガイ科	Arcidae
アカガイ	<i>Scapharca broughtonii</i>
サトウガイ	<i>Scapharca satowi</i>
サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
イタヤガイ	<i>Pecten albicans</i>
イワガキ	<i>Crossostrea nippona</i>
イシガイ科	Unionidae
シジミ属	<i>Corbicula</i> sp.
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
脊椎動物門	Vertebrata
軟骨魚綱	Chondrichthyes
サメ類	Selachii
硬骨魚綱	Osteichthyes
マトウダイ科	Zeidae
マダイ亜科	Pagrinae
マダイ	<i>Pagrus major</i>
マグロ・カツオ類	Thunnini
哺乳綱	Mammalia
ネズミ類	Rodentia
シカ	<i>Cervus nippon</i>

表2に貝類遺体（腹足綱、二枚貝綱）の同定結果、表3に脊椎動物遺体（軟骨魚綱、硬骨魚綱、哺乳綱）の同定結果を示す。

魚類では、サメ類、マトウダイ科、マダイ、マダイ亜科、マグロ・カツオ類が見られた。サメ類とマグロ・カツオ類はA地点SK15において、いずれも椎骨が見られた。マトウダイ科、マダイ、マダイ亜科は相生工区SK11で見られ、同定された部位はマトウダイ科が左歯骨、マダイが上後頭骨、マダイ亜科が左主鰓蓋骨である。同定された魚類はいずれも海産である。海岸部で獲られた海産魚類が甲府城下町に持ち込まれ、食用にされたと考えられる。

哺乳類では、シカとネズミ類が見られた。シカは相生工区SK6で左上腕骨、相生工区SK10で角が見られた。角にはおそらく鋸によると思われる直線的な切断痕が見られ、シカ角を材料とした製品の加工が行われたと考えられる。ネズミ類は、相生工区SK6、SK7、SK11で切歯が見られた。

貝類で最も多かったのはシジミ属（最小個体数31）で、A地点のSK1とSK15、C地点のSX-4、相生工区のSK6、SK7、SK10、SK11、SK12で見られた。シジミ属とした貝殻は、おそらく淡水産のマシジミと思われるが、他の海産貝類の存在から汽水産であるヤマトシジミの可能性も考え、シジミ属までの同定に留めた。

貝類で次に多かったのは海産のサザエ（最小個体数27）で、A地点SK60、C地点SX-4、相生工区SK6、SK7、SK10、SK11、SK12、SK15で見られた。サザエの殻は真珠光沢があり螺細工などの材料にもなりうるが、殻だけでなく蓋も15点確認されており、身が付いた状態で甲府城下町に持ち込まれたのは明らかで、サザエは食用にされたと考えられる。

同じ程度に多かったのは海産のハマグリ（最小個体数23）で、A地点SK15、SK43、SK60、C地点SX-4、相生工区SK7、SK10、SK11、SK12で見られた。ハマグリも海岸部から持ち込まれ、食用になったのであろう。

海産であるフネガイ科のアカガイ（最小個体数5）、サトウガイ（最小個体数3）、サルボウガイ（最小個体数6）もやや多く見られた。アカガイはA地点のSK43とSK60、相生工区のSK7とSK14、サトウガイはA地点SK60、相生工区SK7、SK10、SK15、サルボウガイはC地点SX-4、相生工区のSK6とSK12で見られた。

海産であるアワビ属のクロアワビ（最小個体数2）とメガイアワビ（最小個体数8）もやや多く見られた。クロアワビは相生工区SK12、メガイアワビはA地点のSK43とSK44、C地点SX-4、D地点SK6、相生工区のSK6とSK12で見られた。

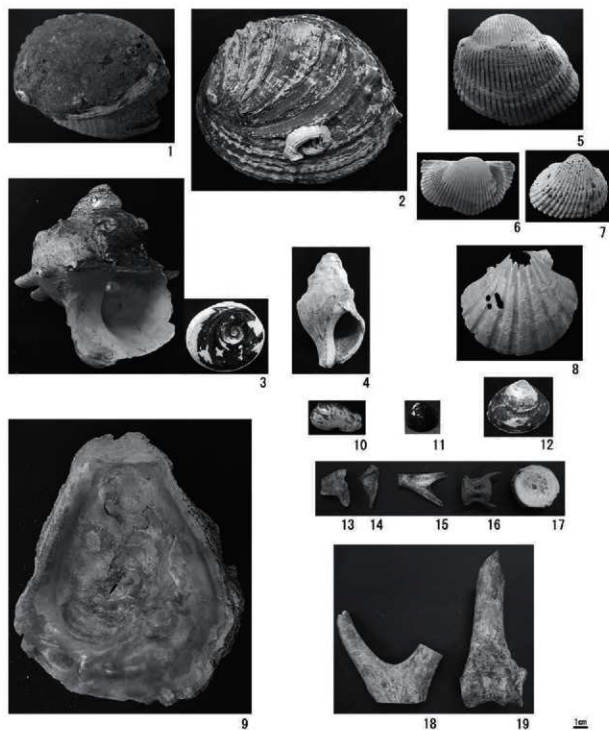
海産貝類ではその他に、相生工区SK10において、ミガキボラ（最小個体数1）とイワガキ（最小個体数1）が見られた。

食用以外の用途で利用されたと考えられる海産貝類がイタヤガイである。イタヤガイ（最小個体数4）はA地点SK60、C地点のSK33とSX-4、相生工区SK7で1個体ずつ見られた。イタヤガイは、海の砂地に生息し、右殻が椀状に窪み、左殻が平坦である。椀状の右殻のみが4個体見られ、このうち3個体には2つ以上並んだ穿孔が見られた。孔に紐を通して柄に固定し、柄杓として用いられたと考えられる。

その他に、淡水産のイシガイ科（最小個体数1）がC地点SX-4で、陸産のマイマイ類（最小個体数1）がA地点SK1で見られた。

表3 H31中央4丁目II区調査分の脊椎動物遺体

地区	地点	遺構	層位	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
②-2他	A地点	SK15	一括	マグロ・カツオ類	尾椎	—	完存	1	
②-2他	A地点	SK15	一括	サメ類	椎骨	—	ほぼ完存	2	
②-2他	相生工区	SK6	一括	シカ	上腕骨	左	遠位端	1	
②-2他	相生工区	SK6	3層	ネズミ類	切歯	不明	上下不明	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK7	6層	ネズミ類	切歯	不明	上下不明	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK7	6層	硬骨魚綱	椎骨	—	ほぼ完存	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK7	6層	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	水洗選別
②-2他	相生工区	SK10	一括	シカ	角	不明	分岐部	1	切断痕
②-2他	相生工区	SK10	一括	鳥綱?	四肢骨	不明	骨幹破片	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	ネズミ類	脛骨	右	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	マダイ	上後頭骨	—	破片	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	マダイ亜科	主鰓蓋骨	左	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	マトウダイ科	歯骨	左	ほぼ完存	1	
②-2他	相生工区	SK11	一括	硬骨魚綱	肋骨	不明	ほぼ完存	6	
②-2他	相生工区	SK11	一括	硬骨魚綱	鱗	不明	ほぼ完存	3	
②-2他	相生工区	SK11	一括	硬骨魚綱	不明	不明	破片	2	
②-2他	相生工区	SK11	3層	硬骨魚綱	椎骨	—	1/2残	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	3層	硬骨魚綱	鰓棘	不明	破片	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	3層	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	8層	ネズミ類	切歯	不明	上下不明	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	8層	硬骨魚綱	鰓棘	不明	ほぼ完存	2	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	8層	硬骨魚綱	鱗	不明	1/2以上残	1	水洗選別
②-2他	相生工区	SK11	8層	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	水洗選別
②-2他	相生工区	SK60	—	不明	不明	不明	破片	1	水洗選別



図版1 H31中央4丁目11区の動物遺体

1. クロアワビ (相生工区SK12)
2. メガイアワビ (C地点SX-4)
3. サザエ (殻: 相生工区SK15、蓋: 相生工区SK11)
4. ミガキボラ (相生工区SK10)
5. アカガイ左殻 (A地点SK43)
6. サトウガイ右殻 (相生工区SK15)
7. サルボウガイ右殻 (C地点SX-4)
8. イタヤガイ右殻 (C地点SX-4)
9. イワガキ左殻 (相生工区SK10)
10. イシガイ科左殻 (C地点SX-4)
11. シジミ属左殻 (C地点SX-4)
12. ハマグリ右殻 (A地点SK15)
13. マダイ上後頭骨 (相生工区SK11)
14. マダイ亜科左主髭蓋骨 (相生工区SK11)
15. マトウダイ科左歯骨 (相生工区SK11)
16. マグロ・カツオ類尾椎 (A地点SK15)
17. サメ類椎骨 (A地点SK15)
18. シカ角 (相生工区SK10)
19. シカ左上腕骨 (相生工区SK6)

第 11 節 甲府城下町遺跡 (中央 4 丁目Ⅱ・相生工区) から出土した大型植物遺体

パンドリ スタルジャン (パレオ・ラボ)

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、甲府盆地の北縁部、相川によって形成された扇状地上に立地する戦国期開創の城下町である。中央 4 丁目地点Ⅱ区は、18 世紀前葉から商人地であったと推定されており、周辺における古環境と植物利用について解明する目的で、試料が回収された。ここでは、大型植物遺体を同定し、当時利用された種実や周辺の植生について検討した。なお、堆積物試料については動物遺体同定と昆虫同定も行われている (別項参照)。

2. 試料と方法

試料は、昭和測量株式会社によって、肉眼で確認、取り上げられた試料が 26 試料と、堆積物試料が 6 試料である。現地取り上げ試料は、A 地点の SK1 と SK9、SK15、SK19、SK23、SK29、SK40、SK43、SK44、SK45、SK47、SK60、SK66 から 14 試料、D 地点の SK6 と SK11 から 2 試料、相生工区の SK10 と SK11、SK12、SK14、SK6、SK7 から 10 試料が採取された。堆積物試料は、A 地点の SK15 と SK60 から 2 試料、相生工区の SK11 と SK6、SK7 から 4 試料が採取された。土坑のほとんどは、廃棄土坑と推定されている。遺構の時期は、いずれも江戸時代～近代と考えられている。

堆積物試料の水洗は、パレオ・ラボで行った。試料 300cc について最小 0.5mm 目の篩を用いて水洗した。大型植物遺体の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。モモとクルミ属は形態を観察し、完形、動物食痕のある個体、一部焦痕、半割の個体、破片に分類した。計数が困難な分類群は、記号 (+) で示した。試料は、甲府市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のカヤ葉・種子とスギ種子、モミ葉、マツ属複雑管束亜属球果・葉の 4 分類群、広葉樹のイチヨウ種子とブドウ種子、モモ核、ウメ核、アンズ核、キイチゴ属核、クリ果実、ヒメグルミ核・炭化核、オニグルミ核・炭化核、トチノキ果実・種子、サンショウ種子、カキノキ種子・未熟種子の 12 分類群、草本植物ではツクサ種子とウキヤガラ果実・炭化果実、スゲ属アゼスゲ節果実、スゲ属 B 果実、カヤツリグサ属果実、ホタルイ属果実、メヒシバ属有ふ果、オヒシバ属種子 (穎果)、ヒエ有ふ果、ヒエ属有ふ果、イネ類・炭化粉・粉殻 (粉殻塊を含む)・炭化粉殻・炭化小穂軸・炭化種子 (穎果)、エノコログサ属有ふ果、コムギ炭化種子 (穎果)、キケマン属種子、アサ核、トウガン種子、スイカ種子、キュウリ属メロン仲間種子、ニホンカボチャ種子、ヒョウタン仲間種子、ヘチマ種子、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、ソバ果実、サナエタデ・オオイヌタデ果実、イヌタデ果実、ミチヤナギ属果実、ウシハコベ種子、アカザ属種子、スベリヒユ属種子、トウガラシ種子、ナス種子、ゴマ種子、メハジキ属果実、シソ属果実、タカサブロウ果実の 36 分類群の、計 52 分類群が得られた。この他に、科以上の詳細な同定ができない芽の一群を不明芽、同定の識別点を欠く種実の一群を同定不能炭化種実とした (表 1～3)。

以下に、大型植物遺体の産出状況を遺構別に示す (不明芽と同定不能炭化種実を除く)。

[現地取り上げ試料]

A 地点 SK1 : モモ (完形) とアンズ、トウガン、ヘチマがわずかに得られた。

A 地点 SK9 : モモ (完形) とオニグルミ (半割) がわずかに得られた。

A 地点 SK15 : モモ (完形) とアンズ、ヒメグルミ (動物食痕)、オニグルミ (半割) がわずかに得られた。

A 地点 SK19 : ニホンカボチャがやや多く、イネとトウガン、キュウリ属メロン仲間が少量、モモ (完形・半割・破片) とアンズ、キケマン属、スイカ、ヒョウタン仲間、スベリヒユ属がわずかに得られた。

表1 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅱ区の大塚植物遺体(1) (現地取上げ試料：紙箱内は破片数)

分類群	地点 採取位置	A地区											
		SK1	SK3	SK13	SK19	SK23	SK29	SK40	SK44	SK45	SK47	SK60	SK66
		19世紀前半 〜中葉	18世紀 〜19世紀初	幕末 〜明治初	19世紀初 年	明治	幕末 〜明治	幕末	明治前 半	19世紀 後半	幕末	18世紀 後半 〜中葉	不明
イチョウ	種子												
モモ	核(完形)	3	2	1	3		1	1	1	2		2	
	核(一部焦痕)				(1)		1	4	4				
	核(半割)				(1)						(1)		
アンズ	核(破片)		(1)	1	(1)		(16)						
ヒメグルミ	核							1				1	
	炭化核(定形)												
	核(半割)											(1)	
	核(動物焦痕)			(1)									
オニグルミ	核(半割)		(1)	(1)						(1)		(1)	
	核(破片)								(1)				
ヒエ属	草茎								2				
イネ	籾殻塊・籾殻								9857*82.8g				
	籾殻				11 (**)								
	種子				(1)								
キクマン属	種子				22 (1)			79 (83)					
トウガン	種子	1											
スイカ	種子				4 (1)								
キュウリ属メロン仲間	種子				44 (4)			2 (10)		4 (1)			
ニホンカボチャ	種子				50 (26)	18		12 (96)			2 (2)		
ヒョウタン仲間	種子				1					8			
ハチマ	種子	2 (2)											
スベリヒユ属	種子				7								
ヒエ	草茎											(**)	

*イネ籾殻50点の湿潤重量0.42gから完形個体に換算した数

**1-9, **10-49

表2 甲府城下町遺跡中央4丁目地点Ⅱ区の大塚植物遺体(2) (現地取上げ試料：紙箱内は破片数)

分類群	地点 採取位置	相生工区									
		SK5	SK11	SK10	SK11	SK12	SK14	SK6	SK7		
		幕末 〜明治初	18世紀 末頃	下層	ペルト区	下層	幕末 〜明治	幕末			
モモ	核(完形)			1	1			4	5	1	1
	核(一部焦痕)	1				1		5	4 (1)	2	(1)
	核(半割)										
	核(破片)		(1)				(1)				
ウメ	核			1				2			
アンズ	核				1						
オニグルミ	核(半割)								(1)		
	炭化核(半割)								(1)		
トウガン	種子		1	6						1	
ニホンカボチャ	種子			1							
ヒョウタン仲間	種子			1							

A 地点 SK23：少量のニホンカボチャが得られた。

A 地点 SK29：トウガンが多く、ニホンカボチャがやや多く、少量のモモ（一部焦痕・破片）とキュウリ属メロン仲間が得られた。

A 地点 SK40：イネが非常に多かった。完形の籾殻 50 点の湿潤重量とイネ籾殻全体の湿潤重量 82.8g から求めた完形換算個体数は約 9,857 点であった。また、ヒエ属がわずかに得られた。

A 地点 SK43：モモ（完形・一部焦痕）とアンズ、キュウリ属メロン仲間、ヒョウタン仲間がわずかに得られた。

A 地点 SK44：モモ（完形・一部焦痕）とオニグルミ（破片）、ニホンカボチャがわずかに得られた。

A 地点 SK45：オニグルミ（半割）がわずかに得られた。

A 地点 SK47：イチョウとモモ（完形・半割）がわずかに得られた。

A 地点 SK60：モモ（完形）とヒメグルミ（完形）、オニグルミ（半割）がわずかに得られた。

A 地点 SK66：ヒメグルミ（半割）がわずかに得られた。

D 地点 SK6：モモ（一部焦痕）がわずかに得られた。

D 地点 SK11：モモ（破片）がわずかに得られた。

相生工区 SK10：トウガンがわずかに得られた。

相生工区 SK11：モモ（完形・破片）とウメ、アンズ、トウガン、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間がわずかに得られた。

相生工区 SK12：モモ（一部焦痕）とウメ、オニグルミ（半割）がわずかに得られた。

相生工区 SK14：少量のモモ（完形・一部焦痕・破片）が得られた。

相生工区 SK6：モモ（完形・一部焦痕）とトウガンがわずかに得られた。

相生工区 SK7：モモ（完形・半割）がわずかに得られた。

[堆積物試料]

表3 甲府城下町遺跡中央4丁目地点II区から出土した大型植物遺体 (3) (水洗試料; 括弧内は破片数)

分類群	水洗量 (cc)	A地点					相生工区			
		SK15		SK60	SK11	SK6	SK7			
		遺構	層位	時期	層位	時期	層位	時期		
		-	幕末~明治初	18世紀前葉~中葉	3層	8層	③層	幕末~明治	⑥層	幕末
カヤ	葉			(1)						
	種子					(1)				
スギ	種子					(4)				(2)
モミ	葉					(1)				1
マツ	球果							1		
	葉			1 (+)						1 (2)
ブドウ	種子						1			1 (1)
ウメ	核						1 (4)			1 (1)
アンズ	核						2			
キイチゴ	核		1 (1)							
クリ	果実									(7)
トチノキ	果実									(1)
	種子									(1)
サンショウ	種子	21								
カキノキ	種子					(1)				(4)
	種子 (未熟)									1
ツクサ	種子					1				
ウキヤガラ	果実	2	3							
	炭化果実		1							
スグ	果実									1
スグ	果実					1				
カヤツリ	果実									1
ホタルイ	果実		2							
メヒシバ	有ふ果					1		2		
オヒシバ	種子							7		1
ヒエ	有ふ果		1							
ヒエ	有ふ果					2 (1)				(5)
イネ	籾									1
	炭化籾	3 (1)								
	籾殻	12 (+)	50 (+++)	(+)	234 (+++)	33 (++)	156 (++++)			
	炭化籾殻	15 (+)								
	炭化小穂軸									4
	炭化種子 (蒴果)	30 (16)								1 (1)
エノコロ	有ふ果							2		1 (13)
コムギ	炭化種子									(1)
キケマン	種子		1			9		13 (14)		23 (2)
アサ	核					1				(1)
トウガン	種子				1 (12)	6 (2)		(1)		1 (1)
キュウリ	種子	738* 6.64g	1 (1)			8 (13)		(6)		(2)
ニホンカボチャ	種子	13 (34)				1 (1)		2		1 (2)
カタバミ	種子	1						9 (1)		3
エノキ	種子							(1)		
ソバ	果実		(10)			2 (10)				
サナエタデ	果実							12 (3)		(1)
イヌタデ	果実									1
ミチヤナギ	果実									1
ウシハコベ	種子							21 (1)		7
アカザ	種子	1 (2)			1	(2)		30 (62)		
スベリヒユ	種子	1			1	2		39 (7)		10
トウガラシ	種子					1				
ナス	種子		1			7 (4)		1		(2)
ゴマ	種子					4 (3)				
メハジキ	果実							12		
シソ	果実	2				5 (1)				(1)
タカサブロウ	果実		1							
不明	芽							(+)		(++)
不明	昆虫遺体		(+)		(+)			(++)		(++)

*キュウリ属メロン仲間種子100点の湿潤重量6.64gから完形個体に換算した数

+1-9, ++:10-49, +++:50-99, ++++:100以上

A 地点 SK15: キュウリ属メロン仲間が非常に多いが、破片がほとんどであった。完形で状態の良いキュウリ属メロン仲間種子 100 点の湿潤重量と、キュウリ属メロン仲間全体の湿潤重量 6.64g から求めた完形換算個体数は、約 738 点であった。イネがやや多く、サンショウとニホンカボチャが少量、キイチゴ属とウキヤガラ、カタバミ属、アカザ属、スベリヒユ属、シソ属がわずかに得られた。

A 地点 SK60: イネが多く、ソバが少量、カヤとマツ属複雑管束亜属、ウキヤガラ、ホタルイ属、ヒエ、キケマン属、キュウリ属メロン仲間、ナス、タカサブロウがわずかに得られた。

相生工区 SK11: イネが多く、トウガンとキュウリ属メロン仲間、ソバ、ナスが少量、カヤとモミ、ブドウ、ウメ、アンズ、カキノキ、ツククサ、スゲ属 B、メヒシバ属、ヒエ属、キケマン属、アサ、ニホンカボチャ、アカザ属、スベリヒユ属、トウガラシ、ゴマ、シソ属がわずかに得られた。

相生工区 SK6: アカザ属がやや多く、イネとキケマン属、カタバミ属、サナエタデ・オオイヌタデ、ウシハコベ、スベリヒユ属、メハジキ属が少量、マツ属複雑管束亜属とメヒシバ属、オヒシバ属、エノコログサ属、トウガン、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、エノキグサ属、ナスがわずかに得られた。

相生工区 SK7: イネが多く、エノコログサ属とキケマン属、スベリヒユ属が少量、カヤとスギ、マツ属複雑管束亜属、ブドウ、ウメ、クリ、トチノキ、カキノキ、スゲ属アゼスゲ節、カヤツリグサ属、オヒシバ属、ヒエ属、コムギ、アサ、トウガン、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、カタバミ属、サナエタデ・オオイヌタデ、イヌタデ、ミチヤナギ属、ウシハコベ、ナス、シソ属がわずかに得られた。

次に、主な分類群について大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名や順番については米倉・植田 (2003-) に準拠し、APG IIIリストの順とした。

(1) カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. 葉・種子 イヌガヤ科

種子は赤褐色で、完形ならば上面観はほぼ円形、側面観は長卵形で両端がやや尖る。表面には縦方向でやや振じれる不規則な浅い隆起がある。種皮は厚く硬い。残存高 11.2mm、残存幅 9.5mm。

(2) イチョウ *Ginkgo biloba* L. 種子 イチョウ科

黄褐色で、やや扁平な楕円形。先端がわずかに突出する。表面は平滑で光沢がない。側方全周に角がある。高さ 22.9mm、残存幅 14.9mm、厚さ 12.5mm。

(3) ブドウ *Vitis vinifera* L. 種子 ブドウ科

赤茶色で、上面観は楕円形、側面観は基部が尖り、倒心形に近い倒卵形。基部は太く円柱状に突出し、先端が丸い。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には中央の鈍稜上に 1 本の縦筋が走り、その両側に細く深い溝孔が 2 つある。種皮は薄く硬い。長さ 7.2mm、幅 4.6mm、厚さ 3.0mm。基部が太く円柱状に突出しており、先端が丸いため、栽培種のブドウと同定した。

(4) モモ *Amygdalus persica* L. 核 バラ科

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。完形個体は、高さ 32.4mm、幅 22.3mm、厚さ 16.1mm (図版 1-4)、高さ 28.2mm、幅 17.9mm、厚さ 12.0mm (図版 1-5)。一部に焦痕をもつ個体は、高さ 33.1mm、残存幅 19.1mm、厚さ 16.0mm。

(5) ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 核 バラ科

茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面全体に、不規則で深い小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。高さ 17.6mm、幅 13.3mm、厚さ 10.2mm。

(6) アンズ *Armeniaca vulgaris* Lam. 核 バラ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は円形。一方の側面では縫合線が発達する。表面には網目状の模様がある。縫合線付近には不規則な縦皺がある。高さ 21.2mm、幅 20.4mm、厚さ 11.3mm。

(7) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 果実 ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。残

存高 20.2mm、残存幅 14.6mm。

(8) ヒメグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *cordiformis* (Makino) Kitam. 核・炭化核 クルミ科

茶褐色で、上面観は楕円形、側面観は先端が尖る広卵形。外面中央にやや深い溝が走るが、それ以外は表面が平滑な点でオニグルミとは異なる。明瞭な縫合線がある。完形個体の大きさは、高さ 28.1mm、幅 25.5mm、厚さ 19.1mm、動物食痕のある個体は、高さ 23.1mm、残存幅 20.0mm、残存厚 7.9mm。

(9) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核・炭化核 クルミ科

黄褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。内部は二室に分かれる。打撃痕のある個体は、頂部と上部が欠けている。半割の個体の大きさは、高さ 35.1mm、幅 27.2mm、残存厚 13.3mm。炭化した半割の個体は、高さ 26.2mm、幅 23.8mm、残存厚 11.8mm。

(10) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 果実・種子 ムクロジ科

種子は黒色で、完形ならば楕円形。下半部は光沢がなく、上半部にはやや光沢がある。上下の境目の下に少し突出した着点がある。種皮は薄く、やや硬い。種皮は3層からなり、各層で細胞の配列方向が異なる。種皮の表面には指紋状の微細模様が密にある。表面は上で覆われている。残存高 15.4mm、残存幅 7.7mm。

(11) サンショウ *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC. 種子 ミカン科

黒褐色で、上面観は卵形、側面観は楕円形ないし倒卵形。縦方向に中央部まで伸びる稜線があり、短い臍が斜め下を向く。網目状隆線は、低く細かい。種皮は厚く硬い。長さ 4.0mm、幅 3.5mm、厚さ 3.1mm。

(12) カキノキ *Diospyros kaki* Thunb. 種子・未熟種子 カキノキ科

黒褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと推定される種子をカキノキとした。残存高 11.7mm、残存幅 6.2mm。

(13) スゲ属 B *Carex* sp. B 果実 カヤツリゲサ科

淡黄色で、上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる狭倒卵形。三面はややくぼむ。表面には微細な網目状隆線がある。先端に円形の穴がある。長さ 1.5mm、幅 1.0mm。

(14) ヒエ *Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz 有ふ果 イネ科

黄褐色で、紡錘形。基部と先端はやや尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。内穎は膨らまず、外穎は中央部が最も膨らむ。長さ 2.2mm、幅 2.0mm。

(15) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 有ふ果 イネ科

赤褐色で、紡錘形。縦方向に細かい筋がある。内穎は膨らまず、外穎は中央部が最も膨らむ。那須 (2017) に示された現生種の長幅比と比較すると、栽培型のヒエよりも野生植物のタイヌビエやイヌビエの長幅比に近かった。長さ 4.1mm、幅 2.2mm。

(16) イネ *Oryza sativa* L. 籾・炭化籾・籾殻 (籾殻塊)・炭化籾殻・炭化小穂軸・炭化種子 (穎果) イネ科

籾は赤褐色で、本来の籾の形態は、上面観が楕円形で側面観が長楕円形。2条の稜があり、表面には四角形の網目状隆線と隆線上の顆粒状突起がある。長さ 6.2mm、幅 2.6mm。炭化籾は長さ 7.9mm、幅 3.4mm。籾殻塊は残存高 62.1mm、残存幅 89.7mm、残存厚 20.0mm。籾殻は長さ 8.1mm、残存幅 3.6mm。種子 (穎果) の上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形で、一端に胚が残る。両面に縦方向の2本の浅い溝がある。長さ 5.3mm、幅 2.9mm。

(17) エノコログサ属 *Setaria* spp. 有ふ果 イネ科

黄褐色で、上面観は楕円形、側面観は長楕円形で先端がやや突出する。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ 1.9mm、幅 1.1mm。

(18) アサ *Cannabis sativa* L. 核 アサ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点

がある。表面には脈状の様相がある。長さ 4.5mm、幅 4.0mm、残存厚 2.6mm。

(19) トウガン *Benincasa hispida* (Thunb.) Cogn. 種子 ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚があり、中央部は窪む。長さ 14.2mm、幅 7.8mm。

(20) スイカ *Citrullus lanatus* (Thunb.) Matsum. et Nakai 種子 ウリ科

赤褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚がわずかに見られる。長さ 13.5mm、幅 8.5mm。

(21) キュウリ属メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下 (1984) によれば、メロン仲間は種子の大きさからおおむねの 3 群に分けられるとしている。長さ 6.0mm 以下の雑草メロン型、長さ 6.1 ~ 8.0mm のマクワウリ・シロウリ型、長さ 8.1mm 以上のモモルディカメロン型である。今回、甲府城下町遺跡の A 地点 SK15 から出土した 10 点の大きさは、長さ 7.6 ~ 9.0 (平均 8.3 ± 0.5) mm、幅 3.2 ~ 4.2 (平均 3.8 ± 0.4) mm で、マクワウリ・シロウリ型 ~ モモルディカメロン型の大きさであった。(表 4)。

(22) ニホンカボチャ *Cucurbita moschata* (Duchesne ex Lam.) Duchesne ex Poir. 種子 ウリ科

褐色で、上面観は扁平、側面観は肩が張る長倒卵形。周縁を毛が取り囲む。長さ 13.9mm、幅 6.9mm。

(23) ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. 種子 ウリ科

やや淡黄褐色 ~ 褐色で、上面観は扁平、側面観は逆三角形。やや湾曲して左右は非対象、先端は W 字状で、基部から先端まで、浅く広い溝が 2 本走る。壁はややスポンジ質。長さ 16.6mm、幅 8.0mm。

(24) ヘチマ *Luffa aegyptica* Mill. 種子 ウリ科

淡茶色で、上面観は卵形で扁平、基部両側に 2 つの翼のような隆起点がある。周辺の周りが薄くなる。長さ 12.6mm、幅 9.1mm。

(25) ソバ *Fagopyrum esculentum* Moench 果実 タデ科

暗茶色で、側面観は頂部の尖った卵形、上面観は三角形。稜となる果実辺縁部はやや薄い。長さ 6.0mm、幅 4.5mm。

(26) トウガラシ *Capsicum annuum* L. 種子 ナス科

赤淡色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。着点はやや窪む。表面には細長い畝状突起をもつ網目状隆線がある。着点近くの下端に嚙状の突起がある。長さ 3.0mm、残存幅 3.8mm。

(27) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

黄褐色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ 2.8mm、幅 3.6mm。

(28) ゴマ *Sesamum orientale* L. 種子 ゴマ科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑。縁に沿って浅い溝がある。長さ 3.3mm、幅 2.4mm。

(29) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ 1.4mm、幅 1.2mm。

表4 キュウリ属メロン仲間種子の大きさ

遺構	長さ 幅	
	長さ	幅
A地点、SK15	8.7	4.1
	8.8	4.1
	9.0	4.2
	7.8	3.6
	8.5	4.1
	8.0	3.7
	8.2	3.6
	7.6	3.3
	8.3	3.9
	7.6	3.2
最小	7.6	3.2
最大	9.0	4.2
平均	8.3	3.8
標準偏差	0.5	0.4

(単位: mm)

4. 考察

甲府城下町遺跡の江戸時代～近代の遺構から出土した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物のイチヨウとブドウ、モモ、ウメ、アンズ、カキノキ、ヒエ、イネ、コムギ、アサ、トウガン、スイカ、キュウリ属メロン仲間（マウワウリ・シロウリ型～モモルディカメロン型）、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間、ヘチマ、ソバ、トウガラシ、ナス、ゴマ、野生植物で食用可能なカヤとキイチゴ属、クリ、ヒメグルミ、オニグルミ、トチノキ、サンショウ、アカザ属、シソ属が得られた。

山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集成した新津(1999)によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代には比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。江戸時代後期になると大型になり、平均で高さ26.9mm、最大で38.0mm程度の核がみられるとしている。今回の甲府城下町遺跡(中央4丁目地点Ⅱ区)から産出したモモ核は、高さ平均27.1±2.4mm、幅平均19.5±2.1mm、厚さ平均14.1±1.9mmで、縦長の個体が多かった(表5)。山梨県から出土している江戸時代後期のモモの平均値と比較すると、今回の甲府城下町遺跡のモモ核は平均値をやや上回る大きさであった。

18世紀前葉～中葉と推定されている土坑であるA地点SK60から出土した栽培植物で果樹のモモ、野生植物で食用可能な熊

げたヒメグルミとオニグルミには、動物食痕を有する個体や半割の個体も含まれ、内部の子葉を利用するために割られたと考えられる。また、A地点SK60からは、畑に生育するヒエやキュウリ属メロン仲間、ソバ、ナス、水田植物イネ、水田雑草でもある湿生～抽水植物のウキヤガラやホタルイ属が産出した。そのほかの草本植物では、メヒバ属やキケマン属など、乾いた草地や道端に生育する分類群が目立った。また、やや湿り気がある道端などには、タカサブドウが生えていた可能性がある。

18世紀末～19世紀初頭のD地点SK11と、相生工区のSK10～SK12とSK14からは、栽培植物で果樹のブドウやモモ、ウメ、アンズ、カキノキ、畑作物のアサ、トウガン、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間、ソバ、トウガラシ、ナス、ゴマが得られた。水田作物のイネと、湿生～抽水植物のスゲ属Bやヒエ属も産出した。周辺植生については、乾いた草地や荒地、畑などに生育するツクサやメヒバ属、キケマン属、アカザ属、スベリヒユ属、シソ属がしばしば得られており、周囲には草地が存在したと考えられる。また、食用可能な野生植物のカヤも得られた。

19世紀初頭のA地点SK19からは、果樹のモモやアンズ、水田作物のイネ、畑作物のトウガンやスイカ、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間が得られた。これらの栽培植物が周辺で栽培されていた可能性がある。

19世紀前葉～中葉のA地点のSK1からは、果樹のモモ、畑作物のトウガンとヘチマが得られており、小規模な庭が存在した可能性もある。

幕末～明治時代のA地点SK15やSK23、SK29、SK40、SK43～SK47、D地点SK6、相生工区SK6、SK7からは、果樹のブドウやモモ、ウメ、アンズ、畑に生育するコムギ、アサ、トウガン、キュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、ヒョウタン仲間、ナスが目立った。とりわけキュウリ属メロン仲間が突出して多量で、800点以上の種子が産出した。また、食用可能な野生植物のカヤやキイチゴ属、クリ、トチノキ、サンショウも得られた。水田作物のイネ、水田や畑にも生育するヒエ属やイヌタデ、ウシハコベ、湿生～抽水植物のウキヤガラやスゲ属アゼスガ節、カヤツリグサ属も産出した。周辺植生については、乾いた草地や荒地、畑などに生育するメヒバ属やオヒシバ属、エノコログサ属、キケマン属、カタバミ属、エノキグサ属、サナエタデ-オオイヌタデ、ミチヤナギ属、アカザ属、スベリヒ

表5 モモ核の大きさ(単位:mm)

遺構	高さ	幅	厚さ
A地点SK1	30.0	23.1	16.4
	25.1	16.1	13.2
	24.1	16.7	10.8
D地点SK6	29.2	22.3	14.8
相生工区SK7	30.6	20.1	14.5
A地点SK9	27.6	17.6	13.0
相生工区SK11ベルト一括	28.5	23.3	18.5
相生工区SK11(下層)	28.2	17.9	12.0
相生工区SK14	26.6	19.6	14.5
	26.6	20.3	14.3
	22.9	16.4	12.4
	24.6	18.6	13.8
相生工区SK14一括	23.4	18.8	14.4
	25.7	19.0	13.9
A地点SK15	29.3	20.7	14.0
A地点SK19	26.7	18.8	12.6
	26.1	19.5	12.7
	27.5	20.1	16.2
A地点SK43	32.2	22.3	16.1
A地点SK47	29.9	19.9	14.3
	25.3	16.3	11.0
A地点SK60	26.9	20.7	16.4
最小	22.9	16.1	10.8
最大	32.2	23.3	18.5
平均	27.1	19.5	14.1
標準偏差	2.4	2.1	1.9

ユ属、メハジキ属、シソ属がしばしば得られており、周囲には草地が存在したと考えられる。また、調査地が商人地である点を考慮すると、家庭菜園的な小規模な畑が存在した可能性もある。イネは、糶摺り後の籾殻がゴミとしてまとめて廃棄された可能性がある。イネ籾は、おおよその数を計数すると、約1万点に相当する量が含まれていた。

時期不明のA地点SK9やSK66からは、栽培のモモと野生植物で食用可能なヒメグミとオニグミが産出した。

土坑は、ほとんどが廃棄土坑と考えられており、以上のような食料残渣が堆積した可能性がある。また、堆積物試料では、ほぼすべての遺構からイネの籾殻やキュウリ属メロン仲間、ニホンカボチャ、トウガンなどが産出しており、籾殻や、ほかの食べられない種実が廃棄された可能性が考えられる。

調査地は、18世紀前葉から商人地として使用されているため、甲府城の築城以前に水田が存在していて、土坑の埋め戻しなどに水田土壌が使用され、水田雑草にもなる植物の種実が再堆積した可能性も考えられる。

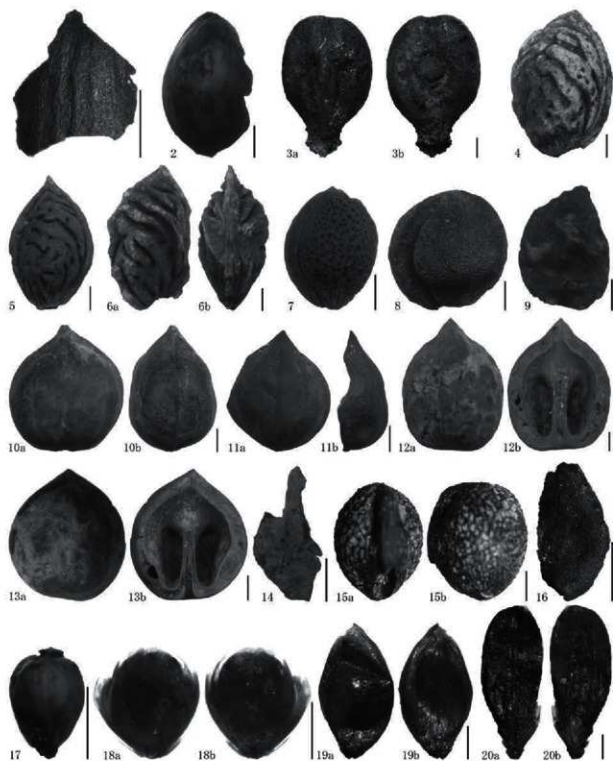
引用文献

藤下典之（1984）出土遺体よりみたりウリ科植物の種類と変遷とその利用法、渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」：638-654、同朋舎出版。

那須浩郎（2017）縄文時代にヒエは栽培化されたのか？ SEEDS CONTACT, 4, 27-29.

新津 健（1999）遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—、山梨考古学論集, IV, 361-374, 山梨県考古学協会。

米倉浩司・梶田 忠（2003-）BG Plants 和名—学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



スケール 1, 2, 4-14, 16:5mm, 3, 15, 17-20:1mm

図版1 甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区)から出土した大型植物遺体(1)

1. カヤ種子(相生工区SK11、8層)、2. イチョウ種子(A地点SK47)、3. ブドウ種子(相生工区SK11、8層)、4. モモ核(完形)(A地点SK43)、5. モモ核(完形)(相生工区SK11、下層)、6. モモ核(一部焦痕)(D地点SK6)、7. ウメ核(相生工区SK12、下層)、8. アズナギタ核(A地点SK15)、9. クリ果実(相生工区SK7、⑥層)、10. ヒメグルミ炭化核(完形)(A地点SK60)、11. ヒメグルミ核(動物食痕)(A地点SK15)、12. オニグルミ核(半割)(相生工区SK12)、13. オニグルミ炭化核(半割)(相生工区SK12)、14. トチノキ種子(相生工区SK7、⑥層)、15. サンショウ種子(A地点SK15)、16. カキノキ種子(相生工区SK11、8層)、17. スゲ属B果実(相生工区SK11、8層)、18. ヒエ有ふ果(A地点SK60)、19. ヒエ属有ふ果(A地点SK40)、20. イネ稈(相生工区SK7、⑥層)



スケール 21, 23-26, 33-37:1mm, 22:10mm, 27-32:5mm

図版2 甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区)から出土した大型植物遺体(2)

21. イネ炭化穂 (A地点SK15)、22. イネ初穀塊 (A地点SK40)、23. イネ初穀 (A地点SK40)、24. イネ炭化種子 (頤果) (A地点SK15)、25. エノコログサ属有ふ果 (相生工区SK6、③層)、26. アサ核 (相生工区SK11、8層)、27. トウガン種子 (A地点SK29)、28. スイカ種子 (A地点SK19)、29. キュウリ属メロン仲間種子 (A地点SK15)、30. ニホンカボチャ種子 (A地点SK19)、31. ヒョウタン仲間種子 (A地点SK43)、32. ヘチマ種子 (A地点SK1)、33. ソバ果実 (相生工区SK11、8層)、34. トウガラシ種子 (相生工区SK11、8層)、35. ナス種子 (相生工区SK11、8層)、36. ゴマ種子 (相生工区SK11、8層)、37. シソ属果実 (相生工区SK11、8層)

第12節 甲府城下町遺跡（中央4丁目Ⅱ・相生工区）から出土した昆虫化石

森 勇一（東海シニア自然大学）・山本 華（パレオ・ラボ）

1. はじめに

山梨県甲府市に所在する甲府城下町遺跡は、相川によって形成された扇状地上に立地する近世の城下町遺跡である。ここでは、中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区において、遺構内の堆積物から得られた昆虫化石を同定し、当時の古環境について検討した。なお、同じ堆積物を用いて大型植物遺体分析も行われている（別項参照）。

2. 試料と方法

試料は、昭和測量株式会社によって、遺構から回収された土壌6試料である。試料が採取された遺構は、A地点のSK15（試料5）とSK60（試料1）、相生工区のSK11の3層（試料2）と8層（試料3）、SK6の③層（試料6）、SK7の⑥層（試料4）で、いずれも土坑である。SK6とSK7は廃棄土坑と推定されている。遺構の時期は、江戸時代～近代と考えられている。

堆積物試料の水洗はパレオ・ラボにて行ない、最小0.5mm目の篩を用いて各試料につき300ccを水洗した。昆虫の抽出は、実体顕微鏡下で行った。

昆虫化石の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で1点ずつ比較のうえ実施した。昆虫化石は、いずれも断片に分離した状態で検出されており、本論に記した産出点数は、昆虫の個体数を示す数字ではない。

3. 結果

SK60（試料1）から計7点、SK11の3層（試料2）から7点、SK11の8層（試料3）から29点、SK7の⑥層（試料4）から18点、SK15（試料5）から19点、SK6の③層（試料6）から9点の、計89点の昆虫化石が検出された（表1、2）。産出した主な昆虫化石については、図版1、2に実体顕微鏡写真を掲げた。

分類群ごとにみると、目レベルまで同定したのは1目3点、科レベルは10科24点、属レベルは4属12点、種まで同定できたのは10種37点であった。これ以外に、不明甲虫とした昆虫が13点存在する。検出部位別では、上翅（Elytron）が最も多く、続いて前胸背板（Pronotum）、腿脛節（Legs）、腹部（Abdomen）などであった。

生態別では、地表性歩行虫が計23点（25.8%）、うち食糞性ないし食屍性昆虫は計11点（12.4%）である。陸生の食植性昆虫は計32点（40.0%）検出され、水生昆虫は、食植性および食肉性の両タイプを含め計2点（2.2%）確認されたのみであった。また、ハエ目が計17点（19.1%）出現している。

特徴的な種についてみると、最も多く発見された昆虫は、コメをはじめ貯蔵した穀類を加害するコクゾウムシ *Sitophilus zeamais*（11点）およびコクヌストモドキ *Tribolium castaneum*（9点）であった。次いで、発酵物食の小型のハエの仲間であるショウジョウバエ属の2タイプが出現している。ショウジョウバエ属1（*Drosophila* sp.1）としたハエは、長さ2.2～3.0mmの小型のショウジョウバエ、ショウジョウバエ属2（*Drosophila* sp.2）は、長さ3.0～4.0mmのやや大型のショウジョウバエである。前者が6点、後者が2点確認されている。このほかに、キンバエ *Lucilia caesar* が5点、オオクロバエ *Calliphora lata* が1点検出された。

食糞性甲虫では、獣糞や人糞に集まるエンマコガネ属 *Onthophagus* sp.（計3点）やマグソコガネ *Aphodius rectus*（4点）のほか、腐敗した植物質のみならず人畜の糞に集まるマグソガムシ *Pachysternum haemorrhoum* が計3点得られている。いずれも汚物集積の指標昆虫（森、1999）である。

周辺の植生を反映する食植性昆虫は、ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* とコアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* がそれぞれ1点ずつ検出された。両種ともに、ヒトが植栽した果樹や畑作物に依存する人里昆虫（森、1999）である。

表2 甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ区)における昆虫分析結果

	和名	学名	試料番号	試料	試料	試料	試料	試料	試料	合計
				1	2	3	4	5	6	
水生	植物	マメゲンゴロウ	<i>Agabus japonicus</i> Sharp			1				1
		ガムシ科	Hydrophilidae gen. et sp. indet.	1						1
地表性	食糞・食腐性	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	1	1	1				3
		マダソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (Motschulsky)			4				4
		マダソコガネ	<i>Pachytermus haemorrhous</i> Motschulsky			2	1			3
		エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.					1		1
	雑食性	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.					2	2	4
		マルガタガミムシ属	<i>Amara</i> sp.						1	1
		ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.			5	2			7
陸生	食植性	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.		2					2
		ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> Hope					1		1
		コアオハナムグリ	<i>Oxyctonia jucunda</i> (Faldermann)				1			1
		ハムシ科	Crysolimidae gen. et sp. indet.		2				1	3
		ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	1		2				3
		コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i> Motschulsky			5	2	2	2	11
		コクヌストモドキ	<i>Tribolium castaneum</i> Herbst			2	2	3	2	9
		コメツクムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.				1			1
		キスイムシ科	Cryptophagidae gen. et sp. indet.					1		1
		その他	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.					3	
オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i> Coquillett						1		1	
キンバエ	<i>Lucilia caesar</i> (Linnaeus)				2	2	1		5	
ショウジョウバエ属1	<i>Drosophila</i> sp.1		1	2	1	2			6	
ショウジョウバエ属2	<i>Drosophila</i> sp.2				2				2	
アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.		1						1	
トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i> (Emery)				1				1	
不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.		2	2	2	4	2	1	13	
				7	7	29	18	19	9	89

4. 考察

甲府城下町遺跡(中央4丁目Ⅱ区)②-2他相生工区)から得られた昆虫化石は、同遺跡中央4丁目Ⅰ区の調査試料と合わせてひとまとまりの試料である(別項参照)。今回の調査区においては、合計89点の昆虫化石が検出されたが、その数や中身ともに断片的であり、遺跡の正しい古環境復元には限界がある。ここでは、SK11とSK60(試料1~3:18世紀前葉から19世紀初め)と、SK6、SK7、SK15(試料4~6:幕末から明治)の2つの時期に分け、それぞれの時期の古環境について述べる。

① 18世紀前葉から19世紀初め(SK11、SK60:試料1~3)

いずれの試料からも、エンマコガネ属に同定される食糞性昆虫が確認された。なかでも、18世紀末~19世紀初めの遺構とされるSK11の8層(試料3)からは、エンマコガネ属に加えて汚物集積の指標昆虫と考えてよいマダソコガネ(4点)やマダソコガシ(2点)、生ゴミや腐敗物に集まるキンバエ(2点)、ショウジョウバエ属(4点)などが得られており、この時期のヒトの集中居住に伴って、地表環境が汚染されていた状況が容易に推定される。また、同じSK11の8層(試料3)からコメや麦など貯蔵された穀物を好むコクゾウムシ(5点)やコクヌストモドキ(2点)が検出されている。こうした貯蔵性昆虫の存在からは、遺跡内に穀類の貯蔵施設が存在した可能性が指摘される。ほぼ同じ時期の穀物貯蔵に関わる施設の使用の存在は、愛知県名古屋城三の丸遺跡(森・上田, 2005)、宮城県沼向遺跡(森, 2010)からも得られている。

② 幕末から明治 (SK6, SK7, SK15: 試料 4～6)

いずれの試料からも、貯穀性昆虫であるコクゾウムシとコクヌストモドキが検出された。18世紀前葉から19世紀初めの時期に引き続き、遺跡内に穀物貯蔵施設が存在した可能性がある。一方で、SK6, SK7, SK15 (試料 4～6) 産出の食糞性昆虫については、幕末のSK7の⑥層 (試料 4) から検出されたマグソガムシ (1点) のみであった。この結果から、時代が下るにつれてヒトの影響がやや減少していった可能性が考えられる。幕末のSK7 (試料 4) からはヒトが植栽した果樹や草本類の花粉を食するコアオハナムグリ、幕末から明治初めのSK15 (試料 5) からは同じくヒトが植栽した果樹のみならず、二次林の樹葉を加害するドウガネブイブイが認められるようになり、遺跡周辺に環境に変化があったと考えられる。

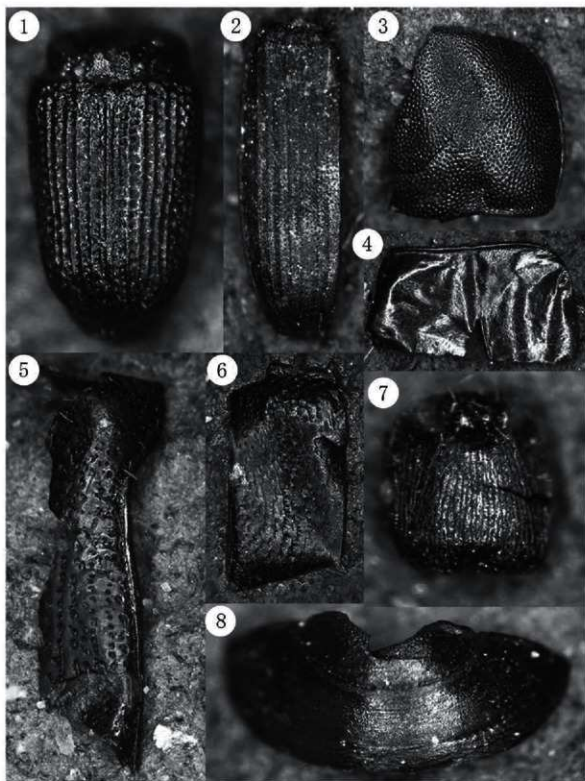
5. おわりに

甲府城下町遺跡 (中央 4丁目Ⅱ区②-2 他相生工区) からは、貯蔵した穀類に依存するコクゾウムシやコクヌストモドキが確認され、遺跡内において穀物貯蔵庫が存在した可能性が考えられる。

ヒトの集中居住に関わる昆虫は、とくに遺跡の前半期に顕著であり、マグソコガネやエンマコガネ属、マグソガムシに加え、キンバエやショウジョウバエなどが検出された。以上のように、甲府城下町が栄えていた様子を、出現昆虫を通じてうかがい知ることができる。

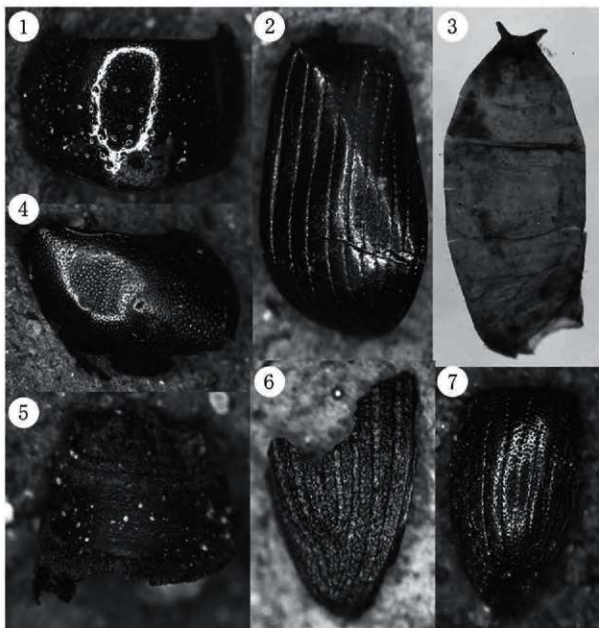
引用文献

- 森 勇一 (1999) 昆虫化石よりみた先史～歴史時代の古環境変遷史。歴博国際シンポジウム「過去 1 万年間の陸域環境の変遷と自然災害史」国立歴史民俗博物館研究報告, 81, 311-342.
- 森 勇一・上田恭子 (2005) 三の丸遺跡の埋桶の埋土より産出した双翅目のサナギについて。愛知県埋蔵文化財センター編「愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 127 集) 名古屋城三の丸遺跡 (Ⅶ)」: 242-246, 愛知県埋蔵文化財センター。
- 森 勇一 (2010) 仙台市沼向遺跡から産出した昆虫化石について。「仙台市文化財調査報告書 (第 360 集) 沼向遺跡第 4～34 次調査—宮城県仙台港背後土地区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ (第 9 分冊)」: 217-224, 仙台市教育委員会。



図版1 甲府城下町遺跡中央4丁目II区②-2他相生工区から産出した昆虫化石(1)

1. コクゾウムシ *Sitophilus zeamais* Motschulsky 左右上翅 長さ2.2mm (試料3、標本1)
2. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 左上翅 長さ2.4mm (試料5、標本1)
3. コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* Herbst 前胸背板右半部 幅1.8mm (試料3、標本12)
4. マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp 左上翅上半部 幅2.8mm (試料3、標本17)
5. ロアオハナムグリ *Oxyctenion jucunda* Faldernann 右上翅片 長さ6.5mm (試料4、標本1)
6. ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* Hope 腹部腹板 長さ3.1mm (試料5、標本6)
7. トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* (Emery) 頭部 長さ0.6mm (試料3、標本25)
8. キンバエ *Lucilia caesar* (Linnaeus) 囲蝸片 幅2.8mm (試料3、標本11)



図版2 甲府城下町遺跡中央4丁目Ⅱ区②-2他相生工区から産出した昆虫化石 (2)

1. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky) 前胸背板 幅2.2mm (試料3、標本3)
2. マグソコガネ *Aphodius rectus* (Motschulsky) 右上翅 長さ3.6mm (試料3、標本12)
3. ショウジョウバエ属 *Drosophila* sp. 閉鎖 長さ1.9mm (試料3、標本21)
4. エンマコガネ属 *Onthophagus* sp. 前胸背板片 幅3.8mm (試料3、標本19)
5. オオクロバエ *Calliphora lata* Coquillett 閉鎖片 幅1.8mm (試料5、標本10)
6. ソウムシ科 Curculionidae gen. et sp. Indet. 左上翅片 長さ2.0mm (試料4、標本12)
7. マグソコムシ *Pachysternum haemorrhoum* Motschulsky 右上翅 長さ1.4mm (試料4、標本6)

第7章 総括

第1節 遺構の変遷

今回の調査は、上連雀町と魚町が交差する北東の角から柳町四丁目に向かい南北方向に横断するⅠ工区及びⅡ工区と、柳町四丁目の西側の街区にあたる相生工区を対象にして行った。ここでは出土遺物から時期の判断ができる遺構を抽出し、各調査区の特徴的な遺構を時期毎に整理する。

〈17世紀～18世紀前葉〉

17世紀～18世紀前葉と考えられる遺構は少ない。Ⅰ工区では④-SK4、⑤-SK12、⑥-SK56がある。④-SK4からは肥前系京焼風陶器が出土している。高台内に印銘が押されており、17世紀後葉から18世紀前葉に比定されるものである。⑤-SK12からは志野の小皿が出土している。土坑内には桶の底板が残存しており、埋桶の土坑とみられる。北側に隣接する⑤-SK15も埋桶の土坑であり、2基が併存していた可能性がある。⑥-SK56からは肥前系京焼風陶器とともに漆器椀、連菌下駄、露卯下駄が出土している。露卯下駄はある時期に陰卯下駄と交代したといわれ、古泉弘氏（古泉 2001）によると、『我衣』や『守貞謄稿』では貞享年間（1684～1688）としているが、江戸の出土資料から見るかぎり、露卯から陰卯への変換は『我衣』や『守貞謄稿』の記述よりはるかに遅く、1800年前後に急速に進んだものとされている。

Ⅱ工区ではA-SK49、B-SK3、C-SK23がある。A-SK49からは志戸呂系の灯明受皿が出土している。17世紀末から18世紀前葉に比定される。受け内面下端がくびれずに立ち上がり、底部が平坦に削られている。長佐古真也氏の分類（長佐古 1993）でC1群c類とされるものである。B-SK3からは高台内に印銘が押された肥前系京焼風陶器や肥前系の磁器碗、泉州麻生系の焼壺壺など、17世紀後葉から18世紀前葉にかけての陶磁器、土器が出土している。大形の土坑で廃棄土坑と考えられる。C-SK23からは京・信楽系の陶器碗、肥前系の刷毛目碗が出土している。17世紀後葉から18世紀前葉に比定される。

〈18世紀中葉～後葉〉

18世紀中葉以降となると遺構の数は増加し、特にゴミ処理用の廃棄土坑が多くみられる。この時期の廃棄土坑と考えられる遺構は、Ⅰ工区では⑤-SK1、⑤-SK3、⑥-SK6、⑥-SK13、⑥-SK17、⑦-SK1、⑦-SK15、⑦-SK16、⑦-SK17、⑦-SK19があり、Ⅱ工区及び相生工区ではA-SK16、A-SK19、A-SK60、B-SK4、C-SK21、C-SK33、C-SX4、D-SK3、D-SK4、D-SK9、D-SK11、相生-SK10、相生-SK11、相生-SK12がある。

ゴミ処理用の廃棄土坑には堆積状況から、①遺物を含むほぼ単一の層が覆土の大半を占め、多くの場合開口部付近や坑底に遺物を含まない層が入るもの、②覆土が細かく分層され、そのそれぞれの層に陶磁器や土器、貝殻や魚骨、灰など各種の遺物が多量に含まれるもの、③これらが複合したもの、の三種が認められている。これらはそれぞれ①火災等の災害や儀礼的な宴会の後片付け、降下した火山灰の処理、屋敷替えといった非日常的な事象の結果生じた一括的な廃棄、②日常的な活動の結果生じた比較的少量の廃棄物の継続的な廃棄、③これらが複合した廃棄行為の反映、と考えられている（小川 2001）。

本調査で確認された廃棄土坑の中で、①に分類されるものは、⑤-SK1、⑤-SK2、⑥-SK17、⑦-SK15、⑦-SK17、C-SK33、D-SK3、D-SK9、D-SK11、②に分類されるものは、⑥-SK13、A-SK60、C-SK21、C-SX4、相生-SK10、相生-SK11、相生-SK12、③に分類されるものは、⑦-SK1、⑦-SK16、⑦-SK19、A-SK16、A-SK19、B-SK4、D-SK4と考えられる。

Ⅱ工区及び相生工区では上水遺構も確認されている。C-SE2の坑底から桶の底板が検出されており、北側に竹樋が埋設されたC-SD3が走り、C-SE2の埋桶に接続していたと考えられる。相生工区では相生-SK17に埋設された埋桶と、相生-SD2に埋設された竹樋が接続していたと考えられる。また相生-SD2の南端は相生-SD1と繋がり、小形の埋桶を拵として敷設して、流路を曲げていた痕跡がある。また相生-SD3に埋設された

竹樋は継手により流路を曲げている。相生-SK3は相生-SK17により切られており、この区画で何度か上水路の付け替えが行われた形跡がある。

〈19世紀前葉～中葉〉

19世紀初頭に瀬戸美濃系磁器が出現し、これ以後全国各地に急速に流通する。瀬戸美濃系磁器の存在がこの時期の指標となる。前代に引き続き、廃棄土坑や上水遺構が検出されている。この時期の廃棄土坑と考えられる遺構は、Ⅰ工区では⑦-SK22、⑦-SK23、⑦-SK32、⑦-SK36、⑦-SK37があり、Ⅱ工区及び相生工区ではA-SK1、A-SK15、A-SK19、A-SK40、A-SK43、A-SK67、B-SK2、C-SK19、C-SK29、C-SK31、相生-SK3、相生-SK4、相生-SK5、相生-SK6、相生-SK7がある。これら廃棄土坑の中で、前述の①に分類されるものは、⑦-SK22、⑦-SK23、⑦-SK36、⑦-SK37、A-SK1、C-SK19、C-SK29、C-SK31、相生-SK3、相生-SK4、相生-SK5、相生-SK6、②に分類されるものは、⑦-SK32、A-SK15、A-SK19、A-SK40、A-SK43、A-SK67、B-SK2、相生-SK7と考えられる。

上水遺構については、Ⅰ工区では③-SD3、③-SD4、⑤-SD4で竹樋が検出されている。切り合い関係などから、この頃のものと考えられるが、いずれも明確な時期は不明である。また石組の掘り抜き井戸である③-SE1が検出されている。井戸枠の石組に一部石臼の転用材が使用されていた。Ⅱ工区及び相生工区ではB-SD3、C-SD2、相生-SD1、相生-SK15がある。B-SD3には箱形の本樋が埋設されている。西隣には竹樋が本樋に並行して埋設されていた。C-SD2、相生-SD1には竹樋が埋設されている。相生-SK1の西端は相生-SK15の埋桶と接続する。前述した相生-SK2、相生-SK3、相生-SK17の中で一番新しく敷設されたものと考えられる。昭和38年の下水工事中に、現在の問屋街入り口の交差点の道路下で、石垣、石蓋による堰が発見されている(挿図1)(露木1966)。柳町三丁目から四丁目に向かって水が流れていたと記録されており、この堰からB-SD3及び相生工区内の各上水遺構に水を引き込んでいたと考えられる。

〈近代(19世紀後葉以降)〉

明治時代に入り、磁器の染付顔料に西洋コバルトやクロームを用いる製品が現れ、型紙摺や銅板転写などの技法を用いた製品が出現する。これ以降の時代を近代としてまとめた。廃棄土坑、上水遺構の他、各調査区で検出されている土地境の石列や礎石などは、ほぼこの時代に属するものと考えられる。

廃棄土坑としては、Ⅱ工区及び相生工区に位置するA-SK38、A-SK44、A-SE1、相生-SK1がある。この中で、A-SK38、A-SK44、A-SE1は遺物の組成が幕末期とほぼ変わりがなく、明治期でも早い段階の遺構であると考えられる。A-SK38、A-SE1の坑底からは埋桶が検出されており、埋桶の本来の目的が消失した後に、廃棄土坑として転用されたと考えられる。覆土の堆積状況からも、ある程度まで廃棄行動が行われた形跡がある。



挿図1 露木1966『江戸時代の甲府上水』より転載

A-SK44では土坑の内部に、丸太や角材を積んで、方形の囲いが構築されていた。長屋の一時的なごみ溜めの可能性がある。相生-SK1は大正～昭和期の火災等で発生したゴミを投棄した廃棄土坑と考えられる。高台内に染付で「柳四 奥むら」の文字が書かれた磁器碗が出土している。大正9年の『甲府市街明細地図』（挿図2）によると、相生工区の同地点には「奥村料理店」の記載がある。

上水道構としては、I工区③-SE2、③-SD1、II工区A-SK25、A-SD3、A-SD4、B-SD2、B-SD4がある。I工区③-SE2は土坑内に埋設された埋桶に、③-SD1に埋設された竹樋が接続されていたと考えられる。埋桶の北西側には竹樋が接続され、調査区外に延びている。埋桶に向かって斜めに挿入されており、周囲から集まって雨水などが、竹樋を通して現在も流れこんでいた。③-SD1の竹樋より低い位置に敷設されており、水量調整の枡として機能していた可能性がある。II工区A-SK25は土坑内に埋設された埋桶に、A-SD3に埋設された竹樋の北端が接続している。A-SD3の竹樋の南端は、A-SD4の木樋に接続されている。A-SD4の木樋から水を引き込んでいたと考えられる。B-SD2、B-SD4はともに木樋が敷設されている。樹皮の残る丸太を削り貫いたもので、上蓋は洋釘で留められていた。北から南に向かって傾斜しており、周囲から集まった雨水などが、木樋を通して現在も流れ続けていた。連雀町通りに敷設されていた堰から水を引き込んでいたものと考えられる。

土地境の石列である石積は、I工区では①-SS1、①-SS4、②-SS1、④-SS1、⑤-SS1、⑤-SS2、⑥-SS1、⑧-A-SS1があり、II工区及び相生工区ではA-SS1、B-SS1、B-SS2、B-SS3、B-SS4、C-SS10、D-SS1、相生-SS7、相生-SS10がある。いずれも胴木を敷設し、その上に間知石を積み、根石で固めるという基本構造を有しているが、同じ石列上であっても、間知石のサイズや胴木の並べ方に差異があり、作り替えや修繕をしながら使用されていたものと考えられる。そのため最終的な遺構の時期として、この時期に分類した。I工区⑥-SS1、⑤-SS1、⑤-SS2、II工区A-SS1を見ると、間知石が対面して並び、間に溝を形成していることが分かる。内部には砂が堆積し、水の流れがあったことが分かる。町々の下水を集め、甲府城の堀へと流す水路としての機能も持っている。軸方向をみると、南北方向に走るものはN-10～13°-Eを指し、やや東に振れており、



挿図2 『甲府市街明細地図』山梨県立博物館所蔵

東西方向に走るものは、W-10～15°-Nを指し、やや北に振れている。これは現在の街並みとも一致しており、調査地点周辺において、現在も石列が土地境として機能している場所もある。また調査区の東西方向に走るA-SS1、B-SS1、D-SS1は町割りの境と考えられる。

礎石や建物や構造物の基礎とした遺構についても、同様の配置がみられる。I工区の礎石列では、①区の①-SK15・①-SK17・①-SP1・①-SP2・①-SP3・①-SP5・①-SP8・①-SP12・①-SS3の礎石列、②区の②-SK10・②-SK11・②-SP2・②-SP3・②-SP4・②-SP5の礎石列、③区の③-SS1・③-SK9の礎石列、④区の④-SP1・④-SK1の礎石列、⑦区⑦-SK26・⑦-SK27・⑦-SK28・⑦-SK29・⑦-SK30の礎石列、⑧区の⑧-B-SK1・⑧-B-SK2・⑧-B-SK3・⑧-B-SK4・⑧-B-SK5・⑧-B-SK6の礎石列、⑧-C-SS2・⑧-C-SS3・⑧-C-SS4・⑧-C-SS6・⑧-C-SS7の礎石列がある。建物の基礎とした遺構では、⑤-SD1、⑥-SS2、⑥-SS10、⑦-SS1、⑦-SS2があり、いずれも石列とほぼ同軸方向を指している。⑤-SD1及び⑥-SS2に関しては、それぞれ隣接する石列と一体となって、建物の基礎としていた様相がうかがえる。

II工区及び相生工区では、A地点のA-SS2・A-SS5の礎石列、A-SS3・A-SS4の礎石列、A-SS11・A-SS12・A-SS13の礎石列、A-SS9・A-SS41・A-SS44の礎石列、A-SS45・A-SS46・A-SS47の礎石列、A-SS51・A-SS52の礎石列、C地点のC-SS1・C-SS2・C-SS3・C-SS4・C-SS5・C-SS9の礎石列、相生工区の相生-SS2・相生-SS3・相生-SS4・相生-SS5・相生-SS6の礎石列、相生-SS8・相生-SS11・相生-SS12・相生-SS13・相生-SS14・相生-SS15の礎石列がある。またB地点では3本1セットの捨杭が、1.3～1.4m間隔で打ちこまれており、J19・K19・I20・J20・K20グリッドに口の字状に分布している。これも礎石を置いた跡と考えられる。建物や構造物の基礎とした遺構は、A-SS6、A-SS7、A-SS10、A-SS19、A-SS20、A-SS23、A-SS25、A-SS29、A-SS30、A-SS31、A-SS32、A-SS42、A-SS50、C-SS6、C-SS7、C-SS12、相生-SS1、相生-SS9、相生-SS21、相生-SS23がある。これらもI工区と同様に、石列とほぼ同軸方向を指している。近世以降の甚盤目状の都市構造が現代まで変わらず、街並みとして残っていることが、これらの点からもうかがえる。

〈その他特徴的な遺構〉

その他特徴的な遺構として、木組み遺構が検出されている。木組み遺構はI工区②-SK12、⑤-SX1、II工区C-SX2の3基が検出されている。それぞれの所属時期は知る手掛かりは少なく、切り合い関係や検出面より、②-SK12、⑤-SX1は近世、C-SX2は近代に属するものと考えられる。それぞれの構造をみると、②-SK12及び⑤-SX1は同じ基本構造を共有している。芯柱の上下2ヶ所に直交する孔をあげ、そこに角材を挿入して十字に組む。この十字に組んだ材の上に角材を井桁状に敷き並べて固定したものを埋設する。一方、C-SX2は芯柱の両側面を方形に例り貫き、そこに角材をはめ込んでいる点で違いが見られる。また木組みに隣接して、口径100cmの鉄釜が据えられている。使用されている材については、どの木組み遺構にも家屋の梁などの転用材の使用がみられるが、C-SX2に関しては特に大形の材を使用しており、発掘当初から甲府城建物の材が転用された可能性が挙げられていた。いずれの遺構も上部構造は不明であるが、上部の荷重に耐える構造を有している点は共通している。C-SX2については甲府城内鍛冶曲輪で発掘された木組み遺構に類似しており、現段階では酒や醤油などを搾る梘子原理の施設の可能性を考えている。

〈まとめ〉

以上、各時期における特徴的な遺構を抽出した。ここで今回の調査区における土地利用の変遷を考えてみる。今回の調査地点において、17世紀～18世紀前葉と考えられる遺構は少なく、18世紀中葉以降に遺構数が増加する。特に大形の廃棄土坑が目を引き、火災等の災害の後片付けと考えられるものと、日常的な活動で発生した廃棄物を投棄したと考えられるものがある。これら廃棄土坑がつけられた背景には、今回の調査地点が、会所地と呼ばれる空閑地であったためであろう。文化3年(1806)の『甲州道中分間延絵図』(挿図3)をみると、上連雀町の南側街区の中央部は家屋が少なく、空き地となっていることがうかがえる。19世紀前葉～中

葉になると、廃棄土坑が作られる位置はやや南下し、町割りの境に近いⅡ工区A地点に集中して作られている。さらに19世紀後葉以降、これらの廃棄土坑を切り、礎石や建物の基礎構造が構築されている。この状況から街区の中で、生活スペースが徐々に中心に向かい延びていき、会所地が狭くなっていった可能性を考えたい。要因としては人口増加による屋敷地（裏長屋）の拡大が考えられる。江戸時代の甲府城下の町人人口は、18世紀初め頃までは、元禄期（1688～1704）の14,000人台をピークとして、柳沢家転封（1724）から18世紀後半以降は減少する。19世紀前半には1万人を割るが、幕末期には増加に向かい、明治初頭に12,000人台まで回復している（宮澤 2019）。今回の調査区でみられた土地利用の変遷過程が、幕末から明治の人口増加期にあたると思われるが、今後の資料増加に期待したい。



挿図3 『甲州道中分間延絵図』山梨県立図書館所蔵

〈参考文献〉

- 江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
 大橋康二 1989『考古学ライブラリー 55 肥前陶磁』ニュー・サイエンス社
 小川望 2001『廃棄遺構と廃棄』『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
 古泉弘 2001『履物2 下駄』『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
 こうふ開府500年記念誌編集委員会編 2019『こうふ開府500年記念誌 甲府歴史ものがたり』甲府市
 露木寛 1966『江戸時代の甲府上水』地方書院
 長佐古真也 1993『「受け灯明皿」にみる生産と流通—受皿の型式分類と量的把握を通して—』『東京都埋蔵文化財センター 研究論集Ⅻ』東京都埋蔵文化財センター
 宮澤富美恵 2019『町人の移りかわり』『こうふ開府500年記念誌 甲府歴史ものがたり』甲府市
 山梨県教育委員会編 1995『甲府城跡Ⅴ』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 98

第2節 甲府城下町遺跡：遺構・遺物における二三の所見

1 地割と建物

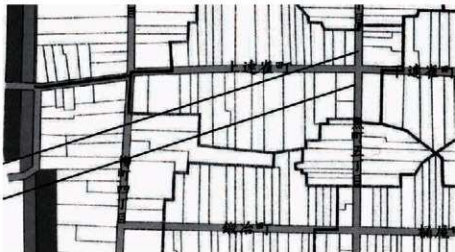
甲府城下東側に展開する商人地には、東西6本・南北4本の基幹街路により区画された碁盤目状の街区が形成されている。この一辺約120m四方の区画内はさらに間口4～10間、奥行き20～36間の短冊形地割となっており、各間口とも四方の通りに面するように街づくりが行われ、それぞれの通りに基づいた町名が付されている。今回の発掘調査はこの碁盤目状街区の魚町四丁目交差点から上連雀町を中心に柳町四丁目を含む地域に該当する(挿図1)。

『甲府買物独案内』(伊勢屋宗助:明治5年増補改訂版)によると、上連雀町には糸蓆綿や襪綿を扱う商店3軒、茶肆2軒がありほかに菓子や瀬戸物を扱う店舗も掲載されている。また、文政10年『諸国道中商人鑑』には連雀一丁目にて瀬戸物・諸紙類とともに茶を商う「河内屋長右工門」の店頭が描かれている。その後大正9年頃の「甲府市街明細地図」には、酒屋・お茶屋・糸蓆店・製糸店・足袋店・古物店・雑貨店などの店舗がみられ、やはり城下町以来の伝統として繊維物やお茶を扱う商店が残っている(531頁 挿図2)。一部が今回の調査範囲に含まれる柳町四丁目にはさらに多くの商店があり、『甲府買物独案内』には糸蓆綿に加え大物・唐物・足袋・小間物・古着など衣料に関わる店舗が多い。さらに伽羅油・紅・おしろいなどの化粧品から砂糖・味噌醬油まで各種の商店が賑わっている。この連雀・柳町四丁目から緑町にかけては昭和30年代までは衣料関係の問屋が多かったが、やはり甲府城下町から続く歴史が残されていたことになる。

調査範囲の南には鍛冶町街区が接しており、発掘区からは鞆羽子や鉄滓が出土している。「甲府市街明細地図」にも鍛冶町通り両側には、鉄工所・鍛冶場・農具店などが軒を連ねており、ここにも江戸時代からの伝統を見ることができる。しかし昭和16年「商都甲府市家居図」(挿図2)では、この甲府市明細地図に載る商店はほとんどなくなり、僅かに茶舗と豆腐屋の二軒が残るだけで店舗の入れ替えが激しい。通りを挟んだ上連雀町北街区及び柳町3丁目東街区では継続する商店が多い。地割についても江戸時代以来の短冊形が概ね残っており、分筆・合筆は激しいものの痕跡をたどることはできる。

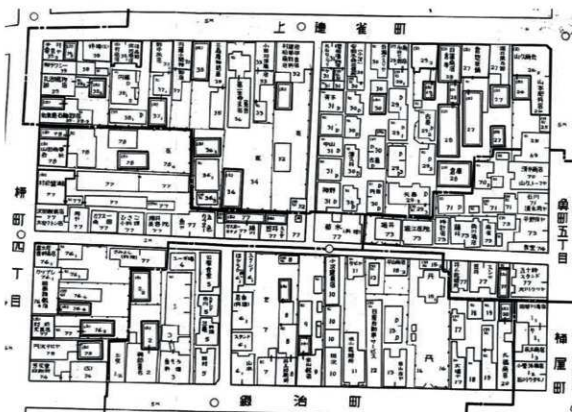
今回の発掘調査では、江戸時代以降の複数の建物礎石や水路等に多くの重なり合いが確認できた。それらの詳細な時代ごとの展開を把握することは難しく、今後さらなる建物構造の把握や出土遺物からの時期を検討する課題は残った。地割については、短冊形をはじめとした一部は確認することはできた。明治以降の間知石の下部に江戸期の石垣や水路が残されていた箇所も多く、発掘された数多い石垣や水路の検討により地割変更の変遷をたどることができると思われるが、これも今後の課題である。甲府上水に関わる水利施設も多く確認できた。これらが残る地割はその後の建物拡張や火災・地震等の被災により形を変えている場合も多い。

今回調査された多くの廃棄土坑には、それら災害からの復旧のために掘られたものも相当数あったのではないかとみられる。安政大地震、関東大震災、甲府空襲などによるとみられる焼土層が広がる箇所もあった。嘉永7年11月発生した安政地震では、柳町81軒、八日町48軒、三日町19軒、山田町32軒に加え、上連雀町11軒という潰れ家の記録が残る(『大地震之記』『甲州文庫』)。甲府城築城に際して流路が替えられた藤川の旧河



挿図1 地割と発掘区域 (『甲府歴史ものがたり』「江戸後期の城下」一部に改筆)

道が、この地域を南下していたことも地盤の弱さに繋がるとされる。甲州街道の南側に当たる相生工区の発掘調査では、北西から南東に流れる幅2～3m、深さ60cm程の旧河道が確認された。位置的には甲府城下北側を南下する藤川の延長上にあたる。城下建設の際に藤川の流れを東に変え、本来の河道を利用して甲府城二の堀を設けたことが伝えられる。今回確認した流路が藤川の一部であった可能性はある。また中央4丁目工区においても地下水位が高く地盤軟弱な場所であることが確認されており、特に建物礎石の下には何本もの杭が打たれ基盤対策がしっかり施されていた。碁盤目状に整然と区画された城下ではあるが、その基盤整備にあたっては埋め立てや造成などに相当の努力がはらわれたことになる。多くの建物や繁華街が息づく現在の甲府城下町の下には、400年の時を経た歴史が積み重なっていることが確認できた。



挿図2 昭和16年「高都甲府市家屋図」(甲府市教育委員会所蔵)

2 木組遺構について

発掘調査では特徴的な木組み遺構が検出されたが、ここではその機能について検討する。

(1) II工区C地点木組み遺構(SX2)(第160図、写真図版55)

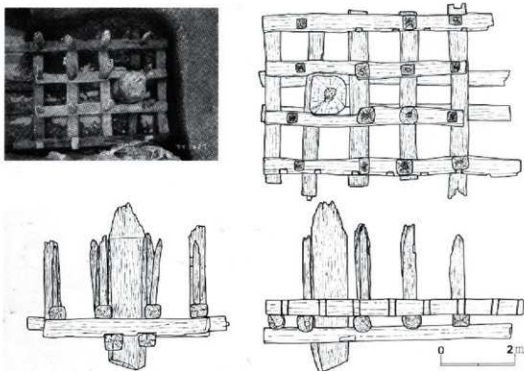
太さ50cm角の心柱(No.1675・1676)と井桁に組まれた地中梁から構成される木組みで、南北に少しずれながら二基が確認されたものである。柱の太さ及び地中梁の状況に違いはあるものの、甲府城内の鍛冶曲輪から発掘された木組み遺構に類似した構造である(挿図3)。甲府城例は太さ50cm長さ2.3mの心柱を複数の地中梁が井桁に支えるもので、隣接して発見された井戸、桶とともに葡萄酒醸造所で用いられた相互に関連する施設として、調査担当の八巻與志夫氏は報告している(山梨県教育委員会1995)。特に地中梁遺構は荷重に耐える構造であることから葡萄酒を搾る施設と考えられている。この地中梁を含めた木組み遺構について、

さらに宮久保真紀氏は酒船と男柱を伴った江戸時代の資料や、明治17年稲荷曲輪内に作られた官営葡萄酒醸造所の払い下げ資料中の「醸造所創立基本調査表」に掲載された諸設備の検討から、日本酒醸造器械の一部とみなした(宮久保真紀 2002)。明治初期の段階でのワイン醸造に日本酒製造器械が転用された可能性には注目したい。

今回の調査で発掘された木組み遺構も、地中梁でしっかりと固定された心柱(男柱)という構造であることから、発見当初より酒や醤油などを搾る梶原理の施設と考えてきたが、八巻・宮久保両氏の考察に接したことにより一層確かなものとなった。また日本酒醸造に関する搾り場遺構については、伊丹市の伊丹郷町遺跡からさまざまな形態が確認されており、先端に石をぶら下げた撥棒を男柱に差し込み、梶を利用して槽に圧力を加える「桿杆式」という設備の復元も示されている(赤松和佳 2019)

今回発見の遺構には、木組み施設が少しずつながら南北に二つ並ぶこと、南側男柱の延長に口径100cmの大型鉄釜が据えられていたことなどの特徴がある。酒船(槽)一つに男柱二本セットの搾り器も実際に存在するが、本遺跡例は二本のずれた男柱構造であることに注意したい。二基の搾り器でないとしたら、互い違いにセットされた二本の棒で一つの槽を南北両方向から搾る構造も考えられる。この場合二本の男柱の間に槽が設置されることになり、この長軸上に埋設された大釜に絞られた対象が溜まることになろう。しかし北側の木組み遺構の多くの部分が攪乱区域に延びていたことから全体の状況は不明であり、問題は残る。

いずれにしても今回発見の木組み遺構を搾り器の一部と考えることは可能かと思われる。ちなみに大正9年頃の「甲府市街明細地図」(531頁 挿図2)によると木組み遺構が発掘された区画付近(柳町4丁目)には「清水油店」の記載がある。植物油とした場合、その圧搾には搾り器が必要となる。但しこのような大掛かりな設備が必要であったかは不明であり、今後のデータ収集の必要がある。また甲府市内には複数の造り酒屋の記録があり、今回の発掘区域内からはワイン樽も出土している。近世・近代における資料からの検討も今後の課題である。なお昭和16年「商部甲府市家居図」(挿図3)では甲府市街明細図にある清水油店の場所が村松醤油店となっている。小売り店なのか醸造所なのかは不明であるが、醤油を搾るとしてもこのような設備は必要であったと思われる。



挿図3 甲府城の木組遺構(山梨県 1995より転載)

次に木組み遺構の材料についてふれておく。特に太さ 50cm いう心柱については、発掘当初から甲府城建物の材料の可能性を考えた。廃城後の建物撤去に関しては秋山敬氏による論考があり、この中で建物払い下げ入札に関する資料も扱われている(秋山敬 2002)。複数の櫓・門・番所建物など葺を除いた建物処分に関する明治 8～9 年頃の史料と考察されている。現在甲府城にて復元されている門柱の太さは、50cm～70cm(黒鉄門主柱、松陰門、稲荷門)であり今回発見の心柱もその範囲に入る。もちろん農家の主柱の可能性もあるが、地中梁の多くの木材も考えると甲府城廃材の可能性は捨てきれない。木組み遺構の時期については付近の出土陶磁器には幕末から明治・大正までのものが含まれる。また(株)パレオ・ラボ AMS 年代測定グループによる暦年較正・ウィグルマッチングの成果では、地中梁柱 3 点の年代の確率として 1802 - 1827 calAD、1821 - 1839 calAD、1714 - 1909 calAD という報告を戴いた。従って江戸時代後期あるいは幕末に伐採された材木が建物の柱や梁に用いられ、最終的に今回発見の木組み遺構に転用された可能性は高い。なお樹種についても主中の 2 本がケヤキ、地中梁はケヤキとクリとが同定されており、特にケヤキが用いられていることは建物の主柱としてふさわしい。

(2) I 工区②区木組み遺構 (SK12) (第 18 図、写真図版 8)、⑤区木組み遺構 (SX1) (第 31 図、写真図版 15)

②区 SK12 は先述した搾り機器とした木組みに比べ、細見の柱及び地中梁の構造である。中心柱 (№ 91) は 20cm 角、高さ 60cm が残っており、地中梁には丸太十数本があり何本かは心柱を貫通していた。5 点を樹種同定したが一本がヒノキの他はクリであった。搾り機器ほどの固定強度は無いと思われるが、上部構造は不明である。

⑤区 SX1 は 35cm 角の心柱 (№ 288) で、長さ 1.3m が残っていた。地中柱は②区 SK12 よりも密で二重・三重に組まれたしっかりしたものである。同定した 3 本はクリ材であった。搾り器の男柱でも良いかもしれないが、特に主柱は南に傾いていたことから調査区外にセットとなる木組みが埋まっている可能性はあり、構造物の特定は不明。

幕末の「甲府城下繁栄図」は八日町から一蓮寺方面を描いた図であるが、街並みの中に火の見櫓や亀谷座の高い建物が描かれている。火の見櫓は高い梯子としてみられるがこのような構造物の基礎も地中梁で支えられていたと思われる。今回発見の木組み遺構は屋敷内にあることからこのような火の見櫓ではないが、同様な高さを必要とした構造物の基礎の可能性はあろう。

3 科学分析での成果

各種土坑や溝などの発掘で得られた個体や土壌について、樹種同定・花粉分析・動植物遺体・昆虫・寄生虫などの分析を(株)パレオ・ラボに委託した。詳細は各報告のとおりであるが、ここではその成果に関して特に環境についてまとめてみる。

花粉分析により樹木ではスギ属・モミ属・コナラ属、草本ではイネ科、アカザ科が優勢であることから周囲の丘陵での温帯性針葉樹林や落葉広葉樹・照葉樹の分布が報告されるとともに、イネ科や水田雑草の検出から水田や湿地の状況も考えられている。江戸時代には燃料や肥料採取のため里山の利用は大変重要であり、杉林や落葉樹林の管理は十分であったと思われる。嘉永 2 年懷宝甲府絵図を見ると城下の南から東にかけての三の堀外側には水田や畑が広がっている。今回の調査区においても二の堀・三の堀が近いことや水路も多いことから、湿地性植物の花粉が加わることは不自然ではない。一方、城下建設以前この一帯には河川が流下するとともに湿地や水田が広がっていたことが考えられるため、分析報告ではその時の花粉が再堆積した可能性が指摘されている。

植物種子ではモモやブドウを含めた果実種子が確認されている。特にこの 2 種は甲斐国の産物でもあり、モモについては江戸時代には改良の進んだ大形も流通したようだ。またナス、ゴマ、キュウリ属、メロン仲間、ヒエ、

ソバ等の畑作物も多い。周囲の畑や屋敷内の家庭菜園的な栽培も考えられている。

昆虫の同定ではオオクロバエ等のトイレにかかわる昆虫、コクゾウムシ等の貯穀性昆虫が目目される。これらは森勇一氏が「都市型昆虫群集」と呼ぶもので、甲府城下の状況を物語る昆虫といえる。①区SK13号という土坑では特にオオクロバエが多く、トイレ遺構と考えられている。ここからはブドウ種子も出土しており排泄に伴ったものかもしれない。また⑦区SK3号土坑からは寄生虫卵が多く、これもトイレ遺構と考えられる。ここからは大量のゴマヤナス、それに少量ながらブドウやキハダ、サンショウも出土しており、やはり食用後の排泄に関わる可能性が報告されている。なおキハダは薬用や染料に用いられていることにも注意したい。コクゾウムシも多いが、トイレの可能性高いSK13でもコクゾウムシがみられ、森氏は人の食べ物の混入品が排泄された可能性を考えている。また、元来コクゾウムシは貯蔵された穀類につく昆虫であることから、この昆虫が多く出土した土坑周辺には貯蔵施設が存在したことを指摘する。

以上、家屋や蔵をはじめとした生活施設が密集しながらも空間には庭や菜園が設けられていた城下町の姿が浮かび上がる。同時に堀の外側には水田や畑が広がり周囲の里山にはスギやコナラの林が点在する景観が想定される。同時に絵図や文献資料からは甲州街道が走る規格的な町割に商家・店舗・民家が展開する甲府城下の賑わいも窺うことができる。

なお動物遺体の分析によると、魚類ではサメ・マグロ・マダイ・カツオなどが確認され、サザエ・アワビ・カキ・ハマグリなどもみられる。特にサザエは蓋も確認されることから身が付いた状態で甲府城下に持ち込まれたとされる。特に海産物は中道往還経由で搬入されたもので、まさに城下町の一つ「魚町」の名称にも関わっていると言える。

〈引用・参考文献〉

- こうふ開府500年記念誌編集委員会 2019 『甲府歴史ものがたり』甲府市
秋山敬 2002 「明治初年の甲府城」—文化財保護の立場から— 『山梨県史研究』10
赤松和佳 2019 「近世 酒造遺構の特徴—酒の町 伊丹郷町を事例に—」 『近世の酒と宴』 『近世考古学の提唱』
五〇周年記念研究大会実行委員会
山梨県教育委員会 1995 『甲府城跡V』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 98
宮久保真紀 2002 「甲府城内葡萄酒醸造所について」—国産ワインの発祥地甲府— 『研究紀要』18
山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター